

DUAL BAND TRANSCEIVER
ID-5100
ID-5100D

この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。
この取扱説明書は、詳細な機能について説明しています。
基本的な内容については、冊子の取扱説明書 [簡易版] をご覧ください。

レピータリストを更新したい場合は
こちらをクリック

はじめに (本書の使いかた)

1 各部の名称と機能

2 基本操作のしかた

3 メモリーチャンネルの使いかた

4 スキャンについて

5 プライオリティースキャン

6 D-STAR[®] 運用 <基本編>

7 D-STAR[®] 運用 <応用編>

8 GPS の操作

9 SDカードの使いかた

10 ボイスメモリーの使いかた

11 レピータ/デュプレックス運用について

12 MENU画面について

13 各種機能の使いかた

14 別売品について

15 Bluetooth[®]の使いかた

16 定格

17 免許申請について

困ったときは

さくいん

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、D-STAR®システムに準拠したDVモードをより簡単に運用できるDR機能に対応し、タッチパネルの採用により、さらに操作性を向上させたデュアルバンド(VHF/UHF)のトランシーバーです。

ご使用前に、取扱説明書[簡易版]とこの取扱説明書[完全版]をよくお読みいただき、本製品の性能を十分に発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

取り扱い上のご注意

◎使用できるのは、日本国内に限られています。

◎本製品は、厳重な品質管理のもとに、生産・出荷されていますが、万一ご不審な点、お気づきの点などがございましたら、お買い上げいただいた販売店、または弊社サポートセンターへお問い合わせください。

◎電源を接続する前に、必ずこの取扱説明書をよく読んで、電源電圧を確認してください。

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビーブは、アイコム株式会社の登録商標です。

D-STARは、一般社団法人 日本アマチュア無線連盟の登録商標です。

APRSは、Bob Bruninga氏WB4APRの登録商標です。

Adobe、Adobe Reader は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国、およびその他の国における登録商標です。

Bluetoothのワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG、Inc.が所有する登録商標であり、アイコム株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標、および登録商標です。

アイコム株式会社の著作物の全部、または一部を無断記載、複写、およびいかなる方法による複製を禁止します。

付属品について

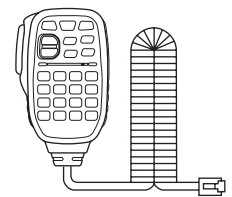
DC電源
ケーブル



コントローラー
ケーブル
(約3.5m)



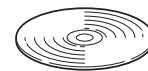
マイクロホン
(HM-207)



操作ガイド



CD
(取扱説明書[完全版])



※CS-5100(クローニングソフトウェア)も収録しています。

- 取扱説明書[簡易版]
- 愛用者カード
- 保証書
- 適合説明資料

取扱説明書の構成について

本書では、はじめて本製品をお使いになる前に、知っておいていただきたい機能や本製品の一般的な使用方法について説明しています。

◎取扱説明書[簡易版](冊子)

はじめて本製品をお使いになる場合や、D-STAR®やGPSをはじめる場合にお読みください。
安全上のご注意や、免許申請、本製品の基本的な運用方法などについて記載しています。

◎取扱説明書[完全版](CD収録)

本製品を使いこなしたいときにお読みください。
本製品の詳細な機能の使用方法について記載しています。

◎用語集(CD収録)

アマチュア無線用語の意味を知りたいときにお読みください。

◎同梱CDの対応OSは、Microsoft® Windows® 8.1/ Microsoft® Windows® 8/Microsoft® Windows® 7/Microsoft® Windows Vista®/Microsoft® Windows® XPです。

◎CDに収録されている各PDFファイルをご覧になる前に、最新版のAdobe® Reader®をお使いのパソコンにインストールすることをおすすめします。

本製品に同梱のCDについて

本製品に同梱のCDには、以下のものを収録しています。

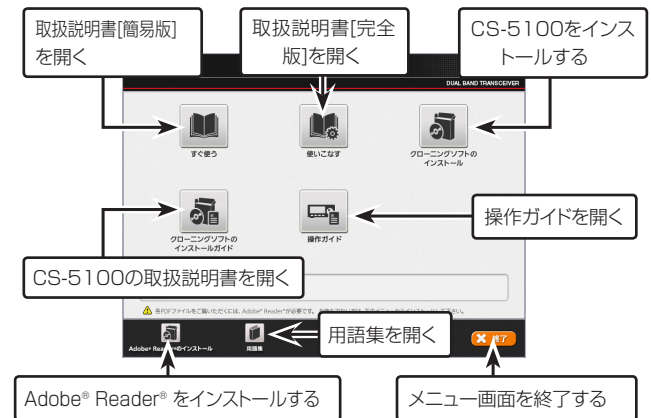
- ・取扱説明書[簡易版]
- ・操作ガイド
- ・取扱説明書[完全版]
- ・CS-5100取扱説明書
- ・Adobe® Reader®のインストーラー
- ・適合説明資料(※P17-6)
- ・用語集
- ・CS-5100

パソコンのCDドライブに挿入して、CDに収録されている「Menu.exe」をダブルクリックしてください。下図のメニュー画面が表示されたら、目的のボタンをクリックしてください。

※お使いのパソコンによっては、自動で表示されます。

※ご使用のパソコンで、拡張子が表示されないときは、フォルダーオプションから拡張子の表示設定を変更してください。

各ボタンをクリックすると、下記のように動作します。



タッチパネルについて

■ タッチパネル使用上のご注意

コントローラーのタッチパネルを指で軽く触れると動作するように設計されています。

- ◎ 液晶保護フィルムやシートを貼ると、タッチパネルが動作しないことがあります。
- ◎ 爪やペンなど先のとがったもので操作したり、必要以上の力で強く押ししたりしないでください。タッチパネルの傷や故障の原因になります。
- ◎ 抵抗膜方式のため、スマートフォンのようなフリック操作、ピンチイン、ピンチアウト操作はできません。

■ タッチパネルのお手入れについて

- ◎ タッチパネルに付いたホコリや汚れを清掃するときは、本製品の電源を切ってから、乾いたやわらかい布でふいてください。なお、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
- ◎ タッチパネルをふくときは、力を入れすぎたり、爪で引っかいたりしないように、ご注意ください。タッチパネルに傷がつくと、表示が見づらくなります。

■ タッチ操作について

短押→画面に軽く触れると、「ピッ」と音が鳴ります。

長押→画面に1秒以上触れて、「ピッ、ピー」と音が鳴ってから、指をはなします。

※操作音が鳴ると、操作が有効になります。

※取扱説明書内では、タッチ操作を下図のイラストで説明しています。



→画面に軽く触れると、「ピッ」と音が鳴ります。



→画面に1秒以上触れて、「ピッ、ピー」と音が鳴ってから、指をはなします。

■ タッチできる場所について

タッチできる場所は、下図のようになっています。

※次のページに記載している場所をタッチして切り替わる画面の操作は、該当する機能の操作説明をご覧ください。

接続中のBluetooth®機器を表示する：短押
※別売品のUT-133(Bluetooth®ユニット)取り付け時、Bluetooth®機器と接続しているときに表示します。

kHz 設定状態に切り替える：短押
チューニングステップを切り替える：長押

時刻を表示する：短押
録音を停止する：短押
※録音機能が動作中に表示します。

GPS を表示する：短押

右側をメインに切り替える：短押
シングル/デュアルを切り替える：長押
※シングル時は、[B]をタッチするとメインに切り替わります。

電波型式を切り替える：短押

右側をメインに切り替える：短押
※MENU画面にある「タッチ操作(サブバンド)」を変更すると、SUBバンドの操作も可能です。

シングル / デュアルを切り替える：長押
※SUBバンドは、受信のみのバンドで、MAINバンドのように送信はできません。

MHz 設定状態に切り替える：長押
運用バンドを切り替える：短押

各ファンクション機能进行操作
※下記は操作例です。

運用モードを切り替える：短押

MW
メモリー保存選択画面表示：短押
空き CH に書き込み：長押

SCAN
スキャン選択画面表示：短押
スキャンスタート：長押
※最後に選択したスキャンを開始します。

モニター機能を表示する：短押

DR 機能を表示する：短押
※DR機能とは、D-STAR®を簡単に設定できる機能です。

QUICK
QUICKメニューを表示する：短押
ミュート状態にする：長押
※[DIAL]、[VOL]、[SQL]を回したり、キー、タッチパネル、マイクロホン进行操作したりすると、ミュートを解除します。

送信出力を切り替える：短押

ファンクションメニューを切り替える：短押
ファンクションメニューを一覧表示する：長押

MENU
MENU画面を表示する：短押

HOME
DR
QUICK

ホーム CH を表示する：短押
※ホームCH登録画面で登録したCHを表示します。
ホーム CH 登録画面を表示する：長押

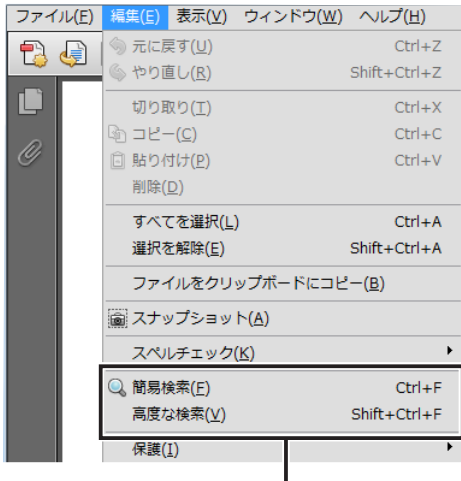
はじめに

Adobe® Reader®の機能について

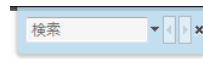
Adobe® Reader®を利用して、次の機能をお使いいただけます。

◎キーワード検索ができます

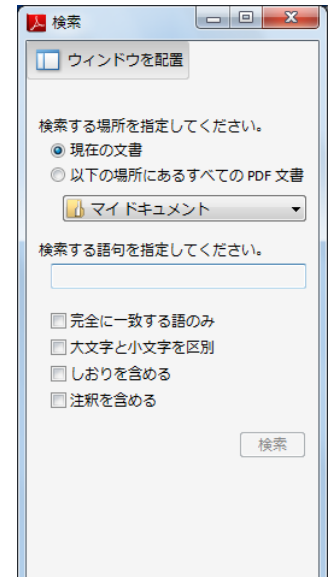
「編集(E)」メニューの中の「簡易検索(F)」,または「高度な検索(V)」をクリックすると、検索画面が表示されます。PDFファイル内で、キーワードを検索するときに便利な機能です。



◎簡易検索画面



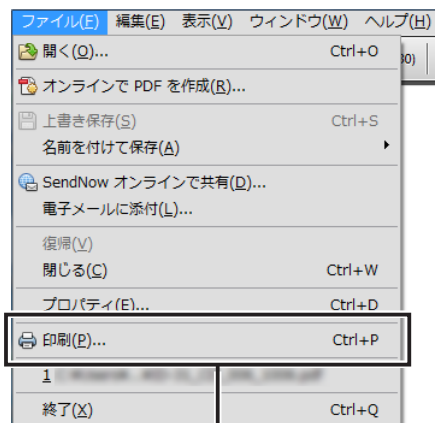
◎高度な検索画面



クリックすると、簡易検索画面、または高度な検索画面を表示します。(右図参照)

◎任意のページを印刷できます

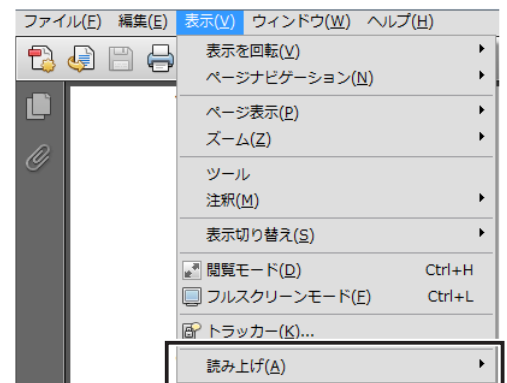
「ファイル(F)」メニューの中の「印刷(P)」をクリックして、印刷するページや用紙サイズを設定してください。
※設定はプリンターによって異なりますので、お使いのプリンターの取扱説明書をご覧ください。
※用紙サイズをA4に設定して印刷すると、等倍サイズで印刷できます。



クリックすると、印刷設定画面を表示します。

◎テキストの読み上げ機能を利用できます

「表示(V)」メニューの中の「読み上げ(A)」をクリックすると、読み上げ機能が起動します。
読み上げ機能の使いかたについては、Adobe® Reader®のヘルプをご覧ください。
※OSなど、お使いのパソコン環境によって、読み上げ機能を利用できない場合があります。



クリックすると、読み上げ機能が起動します。

※メニュー画面は、お使いの Adobe® Reader® のバージョンによって異なる場合があります。

CDに収録の取扱説明書について

本書では、電子文書の便利な機能をご利用いただけるよう、本製品の取扱説明書(本書)を本製品に付属のCDに収録しています。

◎前に表示していた画面(ページ)に移動できます

各ページ左上の「前の画面へ」をクリックすると、前に表示していたページに移動します。

前の画面へ

11 レビータ /

前の画面へ

11 レビータ / デュプレックス運用について

■ オートレビータ機能での交信

本製品は、オートレビータ機能を搭載しています。設定するレビータ周波数が、439MHz~440MHzである場合、自動的(コンエンコーダ(88.5Hz)とデュプレックス(DUP-)が設定され、レビータ運用ができます。

○初期設定では、オートレビータ機能が「ON」に設定されています。MENU画面内の「オートレビータ」項目で「OFF」に設定できます。(※P16-13)

(機能設定) > オートレビータ

○トーン周波数(初期値: 88.5Hz)とオフセット周波数(初期値: 5MHz)は、MENU画面内の「レビータトーン周波数」項目、「オフセット周波数」項目で変更できます。(※P16-14)

(DUP)トーン設定 > レビータトーン周波数
(DUP)トーン設定 > オフセット周波数

○430MHz帯では、各地域にレビータが設置されています。レビータ周波数は、運用初期にJARLのホームページや各都府県、インターネットなどで確認ください。

レビータ周波数
434.540MHzの電波を受信し、
439.540MHzに送信して返信

A 局 送信: 439.540MHz
受信: 434.540MHz

B 局 送信: 439.540MHz
受信: 434.540MHz

○ レビータ周波数の設定

① メモリー表示部をタッチする。
● 「運用モード選択」画面が表示されます。

② [VFO]をタッチする。

③ 周波数のMHz桁をタッチする。
● 「/C/D」画面が表示されます。

④ [430]をタッチする。

⑤ 受信モード表示部をタッチする。
● 受信モード一覧画面が表示されます。

⑥ [FM]をタッチする。

⑦ [DIAL]を回して、レビータ周波数から受ける電波の周波数を設定する。
● オートレビータ機能により、周波数を合わせるだけで、レビータ運用モードになります。
※ オートレビータ機能をOFFにして手動で任意の送受信周波数やオフセット周波数を設定することもできます。

● トーンエンコーダとデュプレックスが設定され、ディスプレイに「DUP-TONE」が表示されます。

ご参考

- レビータアクセス用トーン周波数(※P16-14)、オフセット周波数(※P16-14)を変更すると、オートレビータ機能のトーン周波数とオフセット周波数も変更されます。
- 設定されたオフセット周波数によっては、送信したとき、「オフ/リ」表示(※P16-15)になることがあります。
- D-STARレビータへのアクセスについては、「D-STAR運用/基本編」(※P6)をご覧ください。

11-2

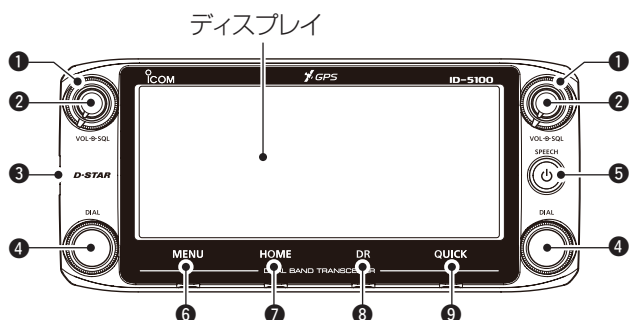
(P16-14)

◎クリックすると参照ページに移動します

■ 前面パネル(コントローラー)	1-2
■ ディスプレイ(タッチパネル)	1-3
◇ ファンクションメニューについて	1-5
■ 本体部	1-6
◇ マイクコネクタ結線図	1-6
■ HM-207(リモコンマイク)について	1-7
◇ 周波数とM-CH設定のしかた	1-8

1 各部の名称と機能

■ 前面パネル(コントローラー)



ツマミ操作について

デュアルワッチモード時は、左側に表示するバンドは左側のツマミ、右側に表示するバンドは右側のツマミが動作します。

シングルワッチモード時は、Aバンドは左側のツマミ、Bバンドは右側のツマミが動作します。

① [SQL] (スケルチ) ツマミ

スケルチレベルを調整するツマミです。(☞P2-2、P4-3)

通常は、雑音が消え「BUSY」表示が消灯する位置にセットします。

また、このツマミに信号レベルを指定してカットするSメータスケルチや、受信信号を減衰させるスケルチアッテネーター機能を設定させることもできます。(☞P2-12)

② [VOL] (音量) ツマミ

受信時の音量を調整するツマミです。(☞P2-2)

③ コントロールコネクター

付属のコントローラーケーブルを接続するコネクターです。(☞P1-6)

④ [DIAL] (ダイヤル) ツマミ

VFOモードでは周波数の設定(☞P2-9)、メモリーモードではメモリーチャンネル(M-CH)を呼び出します。(☞P3-4)

MENU画面、QUICK MENU画面表示中では、設定項目、設定値が切り替わります。(☞P12-2)

また、スキャン中に回すと、スキャンの方向が変わります。(☞P4-3)

⑤ [ON] (電源) キー

キーを押すと、スピーチ機能が動作します。(☞P2-16)
キーを長く(約1秒以上)押すごとに、電源をON/OFFします。(☞P2-2)

⑥ [MENU] (タッチパネル)

MENU画面を表示をします。(☞P12-2)

⑦ [HOME] (タッチパネル)

ホームCHを表示をします。(☞P2-15)

⑧ [DR] (タッチパネル)

DR画面を表示をします。(☞P2-9)

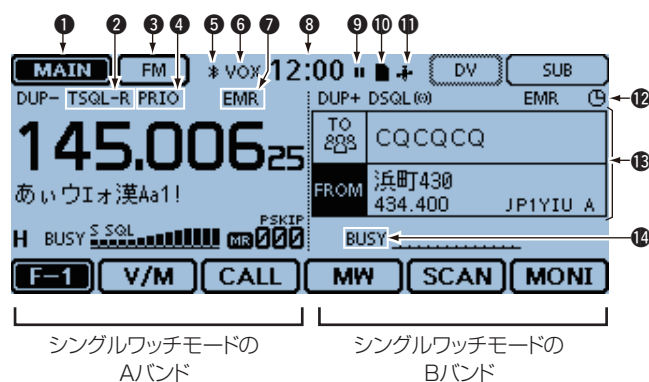
⑨ [QUICK] (タッチパネル)

QUICKメニュー画面を表示をします。
長く(ピッピと鳴るまで)押すと、ミュート状態になります。(☞P2-2)

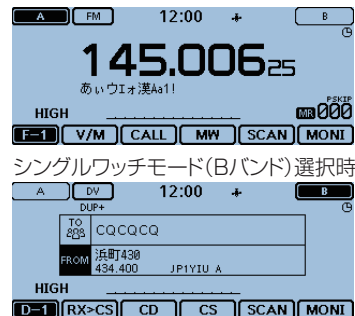
1 各部の名称と機能

■ ディスプレイ(タッチパネル)

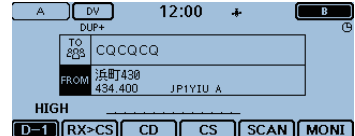
デュアルワッチモード選択時



シングルワッチモード(Aバンド)選択時



シングルワッチモード(Bバンド)選択時



① MAINバンド/SUBバンド表示部

デュアルワッチモード選択時、A、Bどちらのバンドがメインバンドになるかを表示します。
サブバンドには「SUB」を表示します。(P2-3)

② 各種トーン機能表示部

各種トーン機能を設定しているときに表示します。

[FM/FM Nモードのとき](P13-9、13-10)

- TONE :レピータトーン機能
- TSQL(●) :トーンスケルチによるポケットビーブ機能
- TSQL :トーンスケルチ機能
- DTCS(●) :DTCSコードスケルチによるポケットビーブ機能
- DTCS :DTCSコードスケルチ機能
- TSQL-R :逆トーンスケルチ機能
- DTCS-R :逆DTCSコードスケルチ機能

[DVモードのとき](P7-16、7-17)

- DSQL(●) :デジタルコールサインスケルチによるポケットビーブ機能
- DSQL :デジタルコールサインスケルチ機能
- CSQL(●) :デジタルコードスケルチによるポケットビーブ機能
- CSQL :デジタルコードスケルチ機能

③ モード表示部

運用しているモード(電波型式)を表示します。(P2-8)
※DVモードでGPS送信モードを設定している場合は、「DV」を表示します。

④ プライオリティー表示部

プライオリティースキャンの動作中に表示します。

⑤ Bluetooth®表示部

別売品のUT-133(Bluetooth®ユニット)を搭載した本製品がBluetooth®対応機器とBluetooth®接続されているときに表示します。(P15-6、15-14)

⑥ VOX表示部

本製品と別売品のVS-3(Bluetooth®対応ヘッドセット)がBluetooth®接続をしているとき、VOX機能をONにすると表示します。(P15-8)

⑦ EMR機能/BK機能/パケットロス/自動応答表示部

DVモード運用で、EMR機能(P7-9)を選択しているときに「EMR」を、BK(割り込み)機能(P7-8)を設定しているときに「BK」を表示します。
また、パケットロス(P6-15)を受信している場合は、「L」を表示し、自動応答設定時は、「M」を表示します。

⑧ 時計表示部

時刻を表示します。

⑨ 録音表示部

録音中は、「●」を表示し、録音待機中は「II」を表示します。(P10-2)

⑩ SDカード表示部

SDカードが挿入されているときに表示します。(P9-3)
データ書き込み中、またはデータ読み込み中などでSDカードにアクセス中は、「■」と「□」が交互に点滅します。

⑪ GPS/GPSアラーム表示部

GPSレシーバーの受信状態を表示します。(P8-2)
GPSアラームを設定しているときは、「●」を表示します。(P8-36)

⑫ オートパワーオフ表示部

オートパワーオフ機能を設定しているときに表示します。(P12-2)

⑬ DR機能表示部

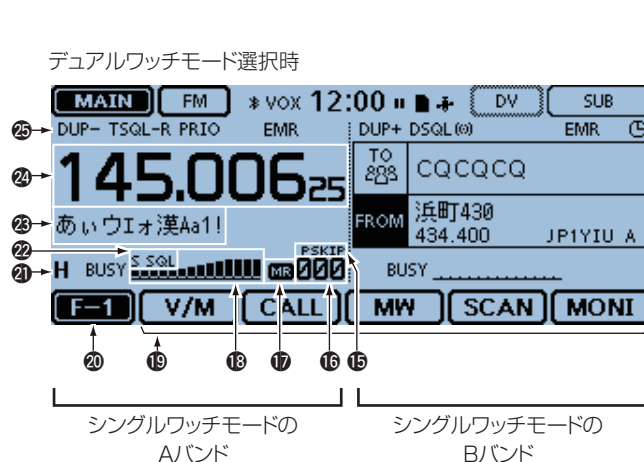
D-STAR®を簡単に設定できるDR機能を表示します。

⑭ BUSY/MUTE表示

受信状態でスケルチが開いているときに点灯します。
モニター機能動作中は点滅します。(P2-8)
ミュート機能動作中は「MUTE」を表示します。(P2-2)

1 各部の名称と機能

■ ディスプレイ(タッチパネル)(つづき)



シングルワッチモード(Aバンド)選択時



15 スキップ表示部

スキップ機能を表示します。(P4-7、P4-10)

- SKIP :メモリスキップ
- PSKIP :プログラムスキップ

16 メモリー表示部

メモリーチャンネル番号、メモリーバンクなどを表示します。(P3-4)

17 メモリーモード表示部

メモリーモードの状態を表示します。(P2-9)

18 S/RFメーター表示部

受信時は、受信した信号の強さを表示します。(P2-10)
送信時は、RFレベルメーターとして表示します。(P2-11)

19 各ファンクション表示部

運用状態に応じてファンクションキーを表示します。(P1-5)

20 ファンクショングループ表示部

ファンクショングループ(「F-1」～「F-4」、「D-1」～「D-3」)を表示します。(P1-5)

21 送信出力表示部

S/RFメーター表示部と合わせて、送信出力を3段階で表示します。(P2-11)
デュアルワッチモード時、LOWパワーは「L」、MIDパワーは「M」、HIGHパワーは「H」を表示します。

22 Sメータースケルチ/アッテネーター表示部

Sメータースケルチ機能の動作中は「S SQL」を表示し、アッテネーター機能の動作中は「ATT」を表示します。(P2-12)

23 メモリーネーム表示部

メモリーネームを表示します。(P3-14)

24 運用周波数表示部

運用周波数を表示します。(P2-5)

25 デュプレックス表示部

デュプレックス運用モード(DUP-/DUP+)を選択中に表示します。(P11-4)

1 各部の名称と機能

■ ディスプレイ(タッチパネル)(つづき)

◇ ファンクションメニューについて

本製品では、ディスプレイ下部の5つのキーを無線機の状態や操作の内容に合わせて変化させ、より多くの機能を簡単に操作できるようにしています。

なお、各ファンクションはMAINバンドに対して有効です。「F-1」～「F-4」メニューは、VFOモード/メモリーモード/CALL-CHモード時に表示します。

「D-1」～「D-3」メニューは、DR画面で表示します。ファンクショングループをタッチするごとに、ファンクションメニューが切り替わります。

ファンクショングループを長く(ピッピと鳴るまで)タッチすると、ファンクションメニュー一覧画面が表示されます。



1 [V/M]
タッチするごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。

2 [CALL]
タッチするごとに、CALL-CHモードをON/OFFします。

3 [MW]
タッチすると、メモリーに書き込むための選択画面を表示します。
VFOモード、またはDR画面で、長く(ピッピと鳴るまで)タッチすると、空きチャンネルに書き込みます。
メモリーモード、またはCALL-CHモードで、長く(ピッピと鳴るまで)タッチすると、編集画面を表示します。

4 [SCAN]
タッチすると、スキャン項目選択画面を表示します。
長く(ピッピと鳴るまで)タッチすると、前回選択したスキャンを開始します。

5 [MONI]
タッチするごとに、モニター機能をON/OFFします。



6 [SKIP]
メモリーモード時に表示します。
タッチすると、スキップ項目選択画面を表示します。

7 [DTMF]
タッチすると、DTMFの選択画面を表示します。

8 [VOICE]
SDカード挿入時に動作します。
タッチすると、音声送信画面を表示します。

9 [LOW]
タッチすると、送信出力選択画面を表示します。

10 [GPS]
タッチすると、GPS項目選択画面を表示します。



11 [DUP]
タッチすると、DUP選択画面を表示します。

12 [TONE]
電波型式がFM/FM-Nモードのときに表示します。
タッチすると、TONE項目選択画面を表示します。

13 [REC]
タッチすると、録音を開始します。タッチすると、録音を開始します。

14 [SCOPE]
タッチすると、スコープ選択画面を表示します。

15 [▶ □]
[SCOPE] 14でスコープを選択したときに表示します。
スイープ中にタッチすると、スイープを開始/停止します。



電波型式がDVモードのときに表示します。

16 [RX>CS]
タッチすると、応答先選択画面を表示します。
長く(ピッピと鳴るまで)タッチすると、直前に受信した局をワンタッチで送信用コールサインに設定します。

17 [CD]
タッチすると、受信履歴画面を表示します。

18 [CS]
タッチすると、送信用コールサイン設定画面を表示します。

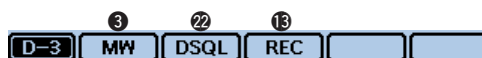


19 [SCAN]
タッチすると、FROMレピータスキャン用の選択画面を表示します。
長く(ピッピと鳴るまで)タッチすると、前回選択したスキャンを開始します。

20 [MONI]
タッチするごとに、デジタルモニターをON/OFFします。



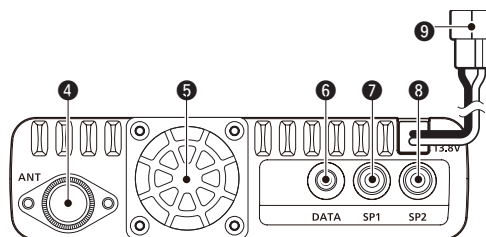
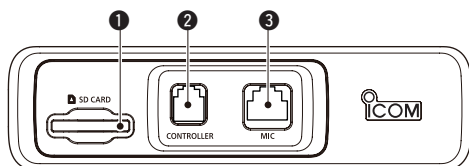
21 [SKIP]
タッチすると、FROMレピータのスキップ設定画面を表示します。
長く(ピッピと鳴るまで)タッチすると、ファンクション画面からスキップを設定できます。



22 [DSQL]
電波型式がDVモードのときに表示します。
タッチすると、デジタルスケルチ設定画面を表示します。
※VFOモードで電波型式をDVモードに設定すると、「F-3」メニューで[TONE]が表示されていた場所に[DSQL]が表示します。

1 各部の名称と機能

■ 本体部



① SDカードスロット

市販のSDカードを挿入できます。(P9-3)

② コントロールコネクタ

付属のコントローラーケーブルを接続するコネクタです。

③ マイクコネクタ

付属のマイクロホン(HM-207)、または別売品(HM-154)のマイクロホンを接続するコネクタです。

④ アンテナコネクタ

アンテナを接続するコネクタです。インピーダンスが50Ωのアンテナを、M型コネクタで接続します。本製品はデュプレクサーを内蔵していますので、市販のデュアルバンドアンテナ(144/430MHz帯)は、そのまま接続できます。

⑤ 空冷ファン

放熱用のファンです。

送信時自動的に動作させるオートと、電源ONと同時に動作する連続動作が、MENU画面で選択できます。

⑥ DATA(データ)ジャック

別売品のケーブルを使って本製品とパソコンを接続して、簡易データ通信(P7-15)やクローニング(P13-11)するときなどに使用するジャックです。

⑦ SP1(外部スピーカー)ジャック

⑧ SP2(外部スピーカー)ジャック

外部スピーカーを接続するジャックです。インピーダンスは8Ωです。

- 外部スピーカーをSP1とSP2に接続したときは、SP1からはAバンド、SP2からはBバンドの音声が出力されます。
- 外部スピーカーをSP1だけに接続したときは、接続したスピーカーからは両バンドの音声が出力され、内部スピーカーからは聞こえません。
- 外部スピーカーをSP2だけに接続したときは、外部スピーカーからはBバンド、内部スピーカーからはAバンドの音声が出力されます。

⑨ 電源コネクタ

DC 13.8Vの電源を接続するコネクタです。

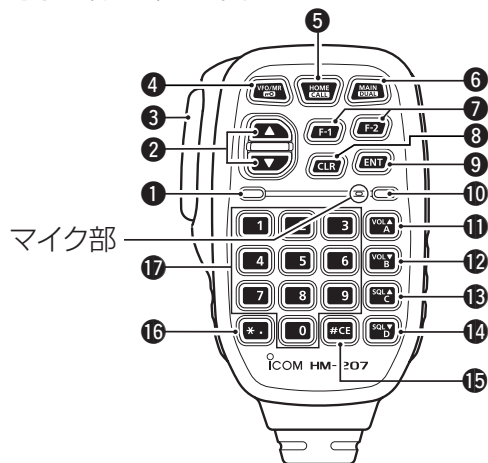
◇ マイクコネクタ結線図



1 各部の名称と機能

■ HM-207(リモコンマイク)について

HM-207は、手で周波数やメモリーチャンネル(M-CH)の設定ができ、音量やスケルチのUP/DNなども簡単に操作できるマイクロホンです。



① LED 1

マイクロホンの[PTT]で送信すると、赤色に点灯します。

② [▲]/[▼](UP/DN)キー

キーを押すと、周波数やM-CHが切り替わります。
キーを押しつづけると、連続で切り替わります。

③ [PTT] (送信)キー

キーを押しているあいだは送信状態、はなすと受信状態に戻ります。

④ [VFO/MR]キー

キーを押すごとに、VFOモードとMRモードが切り替わります。
キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すごとに、ロック機能がON/OFFします。

⑤ [HOME CALL]キー

キーを押すと、登録したHOMEチャンネルを表示します。
キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すごとに、CALL-CHモードがON/OFFします。

⑥ [MAIN DUAL]キー

シングル表示では、キーを押すごとに、AバンドとBバンドが切り替わります。
デュアル表示では、キーを押すと、SUBバンドがMAINバンドに切り替わります。
キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すごとに、シングル表示とデュアル表示が切り替わります。

⑦ [F-1]キー

[F-1]キーにメモリーしている内容呼び出します。
(初期設定値：受信待機中:BAND/BANK 送信中：T-CALL)

[F-2]キー

[F-2]キーにメモリーしている内容呼び出します。
(初期設定値：受信待機中:モニター 送信中：--)

※[F-1]/[F-2]キーは、MENU画面でほかの機能に設定できます。

⑧ [CLR]キー

MENU画面やQUICKメニュー画面を表示しているときは、キーを押すと、運用画面に戻ります。

⑨ [ENT]キー

VFOモードの周波数やメモリーモードのチャンネル入力を開始し、入力後は確定します。

⑩ LED 2

電源ON時、緑色に点灯します。

⑪ [VOL▲ A]キー

キーを押すと、受信時の音量が上がります。
DTMF入力時に、キーを押すと「A」が入力されます。

⑫ [VOL▼ B]キー

キーを押すと、受信時の音量が下がります。
DTMF入力時に、キーを押すと「B」が入力されます。

⑬ [SQL▲ C]キー

キーを押すと、スケルチレベルが上がります。
DTMF入力時に、キーを押すと「C」が入力されます。

⑭ [SQL▼ D]キー

キーを押すと、スケルチレベルが下がります。
DTMF入力時に、キーを押すと「D」が入力されます。

⑮ [# CE]キー

周波数入力画面でキーを押すと、入力している周波数が消去されます。
DTMF入力時に、キーを押すと「#」が入力されます。

⑯ [* .]キー

周波数入力画面でキーを押すと、デシマルポイントが入力されます。
DTMF入力時に、キーを押すと「*」が入力されます。

⑰ [0] ~ [9]キー


周波数入力画面、またはDTMF入力時に、キーを押すと「0」~「9」が入力されます。

1 各部の名称と機能

■ HM-207(リモコンマイク)について(つづき)

◇ 周波数とM-CH設定のしかた

〔周波数設定の入力例〕

[VFO/MR 

◎435.680MHzの設定

[4] [3] [5] [6] [8] [0] [ENT]と押す


◎439.680MHz→439.540MHzの設定

[.] [5] [4] [0] [ENT]と押す

◎433.000MHzの設定

[4] [3] [3] [ENT]と押す

〔M-CH設定の入力例〕

[VFO/MR 

◎5CH [5] [ENT]と押す

■ 電源のON/OFFと音量調整のしかた	2-2
◇ 電源を入れる	2-2
◇ 音量とスケルチを調整する	2-2
■ ワッチモードの選びかた	2-3
◇ MAINバンド/SUBバンドの選びかた	2-3
◇ Aバンド/Bバンドの選びかた	2-3
■ 運用バンドの切り替え	2-4
◇ 運用バンドを設定する	2-4
■ 直接周波数を入力する	2-5
■ チューニングステップ(TS)	2-6
◇ チューニングステップを変更する	2-6
■ 周波数を大きく動かすときは	2-7
■ スケルチ遅延時間の設定	2-7
■ 受信モード(電波型式)を設定する	2-8
■ モニターのしかた	2-8
■ 運用モード[VFO/メモリー/コールチャンネル]、 DR機能の切り替えかた	2-9
◇ VFOモード/メモリーモード/ ◇ DR機能にするには	2-9
■ 受信の基本操作	2-10
■ 送信のしかた	2-11
◇ アマチュアバンドの運用	2-11
◇ 周波数、送信出力を設定し送信する	2-11
◇ 送信出力とRFインジケータ表示について	2-11
■ ロック機能の使いかた	2-12
■ アッテネーター機能の使いかた	2-12
◇ アッテネーター機能を設定する	2-12
◇ アッテネーター機能を使用する	2-12
■ バンドスコープの使いかた	2-13
◇ スイープするときには	2-13
■ 同時受信(デュアルワッチ)機能	2-14
◇ デュアルでMAINバンドを入れ替える	2-14
■ マイクゲインの設定	2-14
■ ホームCH機能について	2-15
◇ ホームCHを設定する	2-15
◇ ホームCH機能の使いかた	2-15
■ スピーチ機能について	2-16

2 基本操作のしかた

■ 電源のON/OFFと音量調整のしかた

◇ 電源を入れる

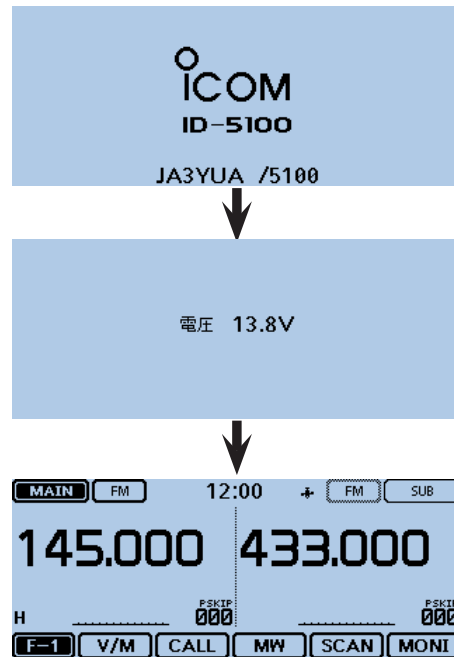
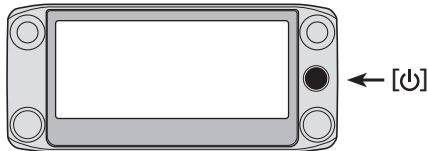
[ON]を長く押し、電源をONにする。

● ビープ音が鳴り、「ICOM ID-5100」と電源電圧を表示したあと、運用周波数が表示されます。

※電源を切るときも、同じ操作をします。

※MENU画面内の「オープニングメッセージ」画面でオープニング表示を省略できます。(P12-47)
(ディスプレイ設定 > オープニングメッセージ)

※MENU画面内の「電圧表示(パワーオン)」画面で電圧表示を省略できます。(P12-47)
(ディスプレイ設定 > 電圧表示(パワーオン))



自局コールサインに「JA3YUA/5100」を設定したときの表示例

◇ 音量とスケルチを調整する

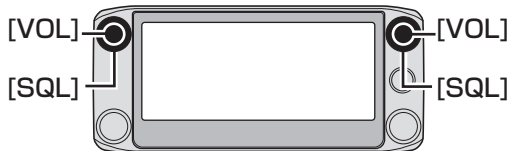
① [VOL]を回して、音量を調整する。

※BEEP(操作音)の音量を変更したいときは、MENU画面内の「ビープレベル」画面で変更できます。(P12-49)
サウンド設定 > ビープレベル

② 信号を受信していない状態で雑音(ザー)が消え、「BUSY」表示が消灯する位置に、[SQL]を回して調整する。

● [SQL]を右方向に回しすぎると、スケルチレベルが深くなり、弱い信号が受信できなくなります。

● [SQL]を12時の位置から右に回したときの動作をMENU画面の「スケルチ/アッテネーター」項目から変更できます。(P2-12)



ミュート状態にするには

[QUICK]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。

※[DIAL]、[VOL]、[SQL]を回したり、キー、タッチパネル、マイクロホンを操作をすると、ミュートを解除します。

2 基本操作のしかた

■ ワッチモードの選びかた

本製品には、デュアルワッチモードとシングルワッチモードの2つのワッチモードがあります。

デュアルワッチモードとは

MAINバンド(送信や操作が可能なバンド)とSUBバンドがあり、2つの異なった周波数を同時に受信できます。

デュアルワッチモードでは、左側と右側の2画面になり、MAINバンドとSUBバンドの両方を表示して運用します。

[MAIN]、または [SUB] を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチすると、シングルワッチモードになります。

シングルワッチモードとは

AバンドとBバンドがあり、どちらか1つの周波数だけを受信できます。

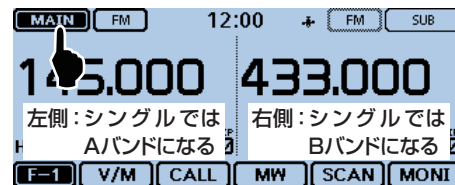
シングルワッチモードでは、AバンドとBバンドのうち、どちらか1つの周波数を表示して運用します。

[A]、または [B] を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチすると、デュアルワッチモードになります。

ご注意

デュアルワッチモードの左側にあるバンドは、シングルワッチモードにするとAバンドになり、右側にあるバンドはBバンドになります。

デュアルワッチモード



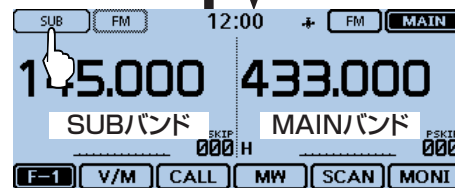
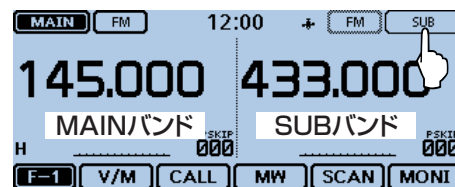
シングルワッチモード



◇ MAINバンド/SUBバンドの選びかた

[SUB] をタッチすることにより、MAINバンドが切り替わります。

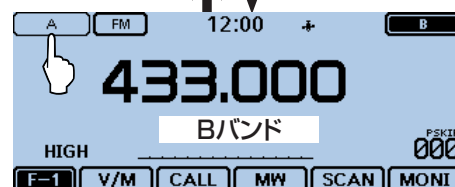
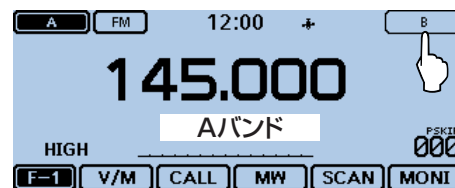
- MAINバンド側に「MAIN」が表示されます。



◇ Aバンド/Bバンドの選びかた

反転していない [A]、または [B] をタッチすることにより、A/Bバンドが切り替わります。

- 選択されているバンドは、「A」、または「B」が反転します。



2 基本操作のしかた

■ 運用バンドの切り替え

運用バンドを3バンドに分けています。

バンドごとの周波数範囲は、下記のとおりです。

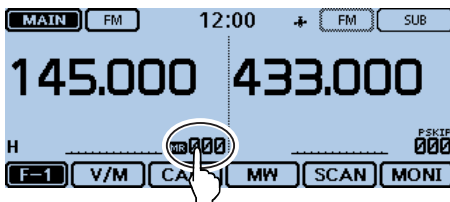
なお、本製品で送信できるバンドは、アマチュアバンドの「144Mバンド」「430Mバンド」となっています。

バンド	設定できる周波数範囲
AIR	118.000MHz~136.99166MHz
144	137.000MHz~174.000MHz
430	375.000MHz~550.000MHz

◇ 運用バンドを設定する

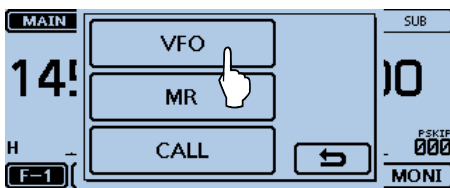
① メモリー表示部をタッチする。

●「運用モード選択」画面が表示されます。



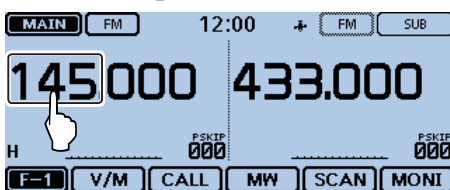
② [VFO]をタッチする。

●VFOモードが表示されます。



③ 周波数のMHz桁をタッチする。

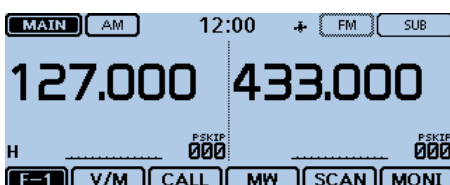
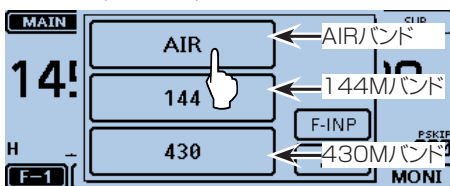
●「バンド一覧」画面が表示されます。



④ 運用したいバンドをタッチする。

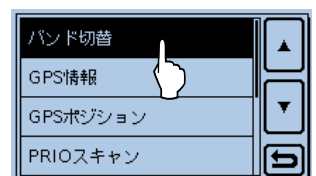
●「バンド一覧」画面を解除します。

●[F-INP]をタッチすると、「周波数入力」画面が表示されます。「周波数入力」画面では、周波数を直接設定できます。(P2-5)



ご参考

[QUICK]をタッチし、「バンド切替」項目をタッチしても運用バンドを設定できます。



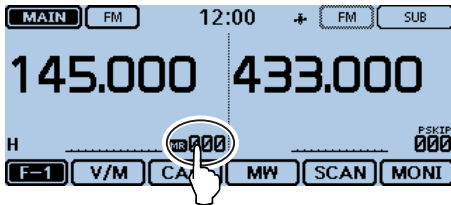
2 基本操作のしかた

■ 直接周波数を入力する

「周波数入力」画面で、周波数を直接設定できます。

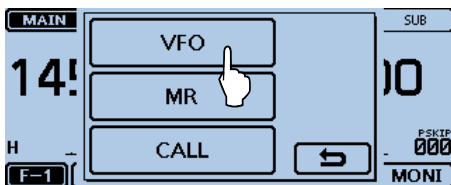
① メモリー表示部をタッチする。

- 「運用モード選択」画面が表示されます。



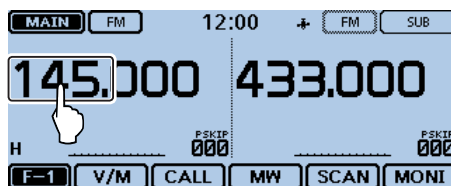
② [VFO]をタッチする。

- VFOモードが表示されます。



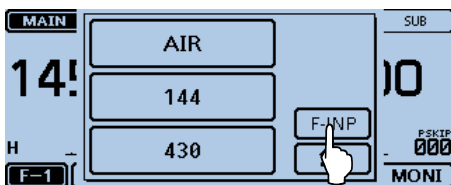
③ 周波数のMHz桁をタッチする。

- 「バンド一覧」画面が表示されます。



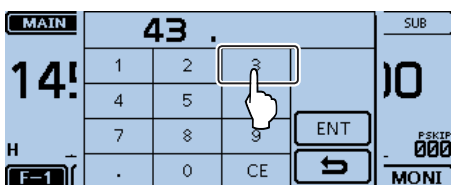
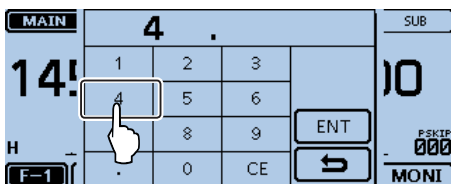
④ [F-INP]をタッチする。

- 「周波数入力」画面が表示されます。



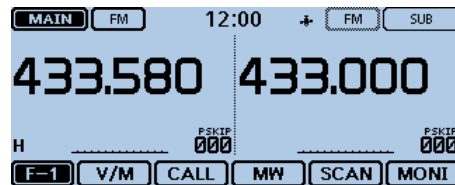
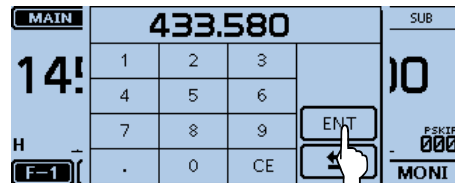
⑤ 設定したい周波数をタッチパネルで入力する。

- 100MHz桁から入力します。



⑥ 入力したあと、[ENT]をタッチする。

- 100kHz桁以下が未入力の際に [ENT] をタッチすると、未入力の桁がすべて「0」になります。
- 周波数を確定すると、「周波数入力」画面を解除します。
- 入力を取り消すときは、[CE]をタッチします。



運用画面に入力した周波数が表示される

2 基本操作のしかた

■ チューニングステップ(TS)

チューニングステップ(TS)とは、[DIAL]で周波数を設定するときに、変化する周波数の幅です。

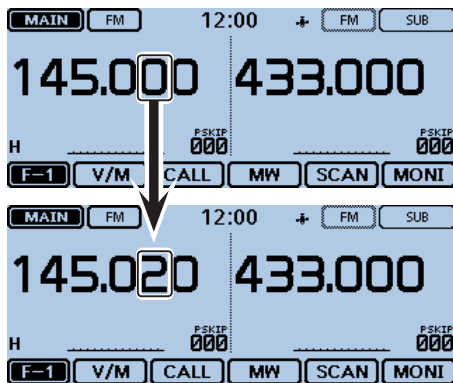
このチューニングステップは、周波数を自動的に切り替えるVFOスキャン(※P4-2)でも同じステップ幅になります。

チューニングステップ(kHz)

5	6.25	8.33*	10	12.5	15
20	25	30	50	Auto	

※[8.33]が選択できるのは、AIRバンドだけです。

AIRバンドでは、[8.33]、[25]、[Auto]だけ選択できます。



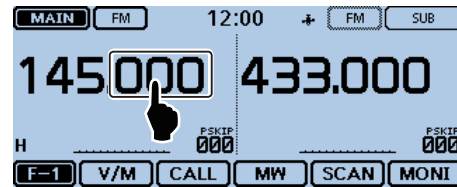
20kHzステップ選択時

設定したステップ幅で周波数に変化する

◇ チューニングステップを変更する

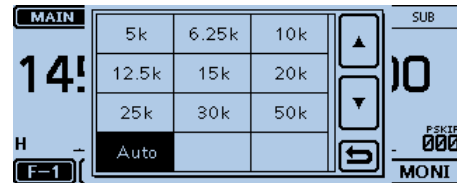
① 周波数のkHz桁を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。

- 「TS一覧」画面が表示されます。



② 設定したい周波数ステップをタッチする。

- 周波数ステップが設定され、前画面に戻ります。
※VFOモード、メモリーモードに関係なく設定できます。
- チューニングステップは、バンドごとに設定できます。
初期設定では、すべてのバンドが[Auto]に設定されています。
- 「TS一覧」画面表示中に[DIAL]を回しても、周波数ステップが選択できます。



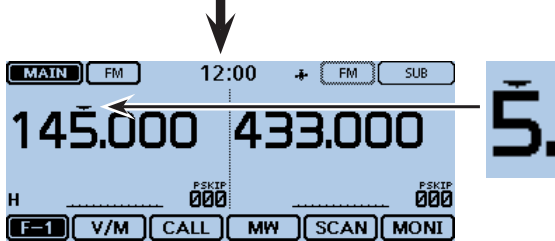
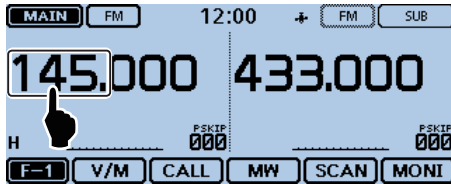
2 基本操作のしかた

■ 周波数を大きく動かすときは

周波数を大きく移動させるときに便利な機能です。

①周波数のMHz桁を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。

- 1MHzステップ表示に切り替えます。
- 「▼」表示が、MHz桁上に表示されます。



1MHzステップ選択時

- ②[DIAL]を回して、1MHzステップで周波数を設定する。
③周波数のkHz桁をタッチして、ステップ表示を解除する。

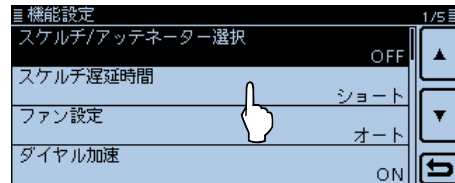
■ スケルチ遅延時間の設定

受信時のスケルチ遅延時間をMENU画面で選択できます。

①[MENU]をタッチする。

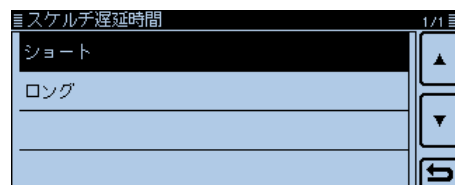
②「スケルチ遅延時間」項目をタッチする。
(機能設定 > スケルチ遅延時間)

- [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページに切り替えます。



③「ショート」、または「ロング」をタッチする。

- **ショート** : 信号が消えてからスケルチが閉じるまでの時間を短くします。
- **ロング** : 信号が消えてからスケルチが閉じるまでの時間を長くします。



④[MENU]をタッチする。

- MENU画面を解除します。

2 基本操作のしかた

■ 受信モード(電波型式)を設定する

本製品には、5つの受信モード(AM/AM-N/FM/FM-N/DV)があります。

受信モードは、初期設定で「FM」に設定されています。

① 受信モード表示部をタッチする。

- 「受信モード一覧」画面が表示されます。

② 設定したい受信モードをタッチする。

※AIRバンド(118.000MHz～136.99166MHz)では、AMモード、またはAM-Nモードに固定されています。

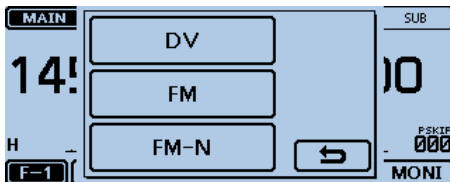
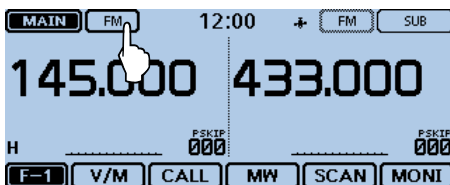
また、145Mバンド、430Mバンドでは、AMモード、AM-Nモードは選択できません。

※FM-Nモードは、アマチュアバンドの送信デビエーション(周波数偏移)をナロー対応の約2.5kHzに設定します。

※DVモードを設定しているときに、受信モード表示部を再度タッチすると、「受信モード一覧」画面でGPS送信モードを選択できます。

「GPS送信モード」を設定している場合は、受信モード表示部に「DV」が表示されます。(※P8-13)

受信モード表示部



「受信モード一覧」画面

■ モニターのしかた

受信信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくい場合に使用します。

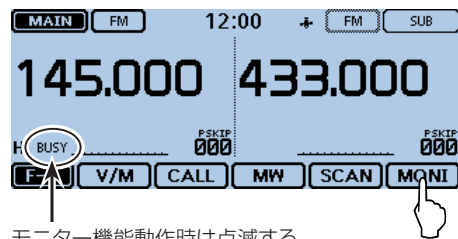
両方のバンドを個別に設定できます。

① ファンクショングループ表示部を数回タッチする。

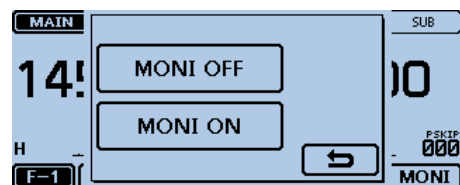
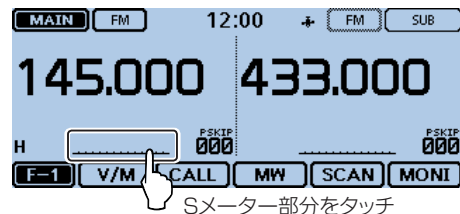
- 「F-1」画面を表示させます。

② [MONI]をタッチする。

- タッチするごとに、モニター機能をON/OFFします。
- モニターON時は、「BUSY」表示が点滅し、スケルチを開いて受信します。
- アッテネーター(減衰器)が動作している場合に、モニター機能を動作させても効果はありません。モニター機能を動作させても、アッテネーター(減衰器)は解除されません。
- モニター機能の動作中、周波数の変更はできません。



※モニター機能は、Sメーター部分をタッチしてもON/OFFできません。



2 基本操作のしかた

■ 運用モード[VFO/メモリー/コールチャンネル]、DR機能の切り替えかた

◇ VFOモード/メモリーモード/コールチャンネルモードにするには

VFOモードとは

[DIAL]で、周波数を設定するモードです。

メモリーモードとは

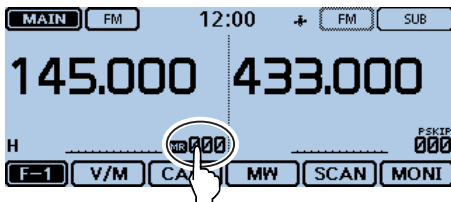
あらかじめ記憶させたメモリーチャンネル(M-CH)を呼び出して運用するモードです。

コールチャンネルモードとは

コールチャンネル(CALL-CH)とは、各バンドで決められた呼出周波数を意味し、メインチャンネルとも呼ばれています。

① メモリー表示部をタッチする。

- 「運用モード選択」画面が表示されます。



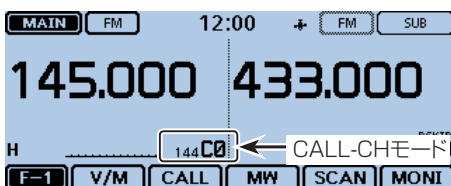
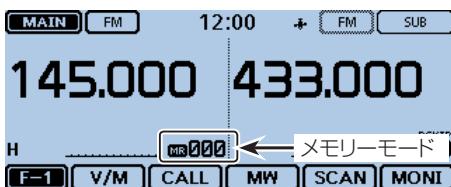
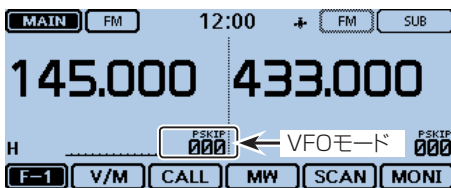
② 運用モードをタッチする。

- 運用モードの画面が表示されます。



③ [DIAL]を回すと、周波数、またはチャンネルを変更できます。

- メモリーモード選択時は「MR」表示とM-CH番号が点灯します。
- CALL-CHモード選択時は、「144 C0」、「144 C1」、「430 C0」、「430 C1」表示が点灯します。



◇ DR機能にするには

DR(D-STAR® REPEATER)機能とは、レピータなどを簡単に設定してお使いいただくための操作機能です。レピータ運用をはじめ、シンプレックス運用にも対応しています。

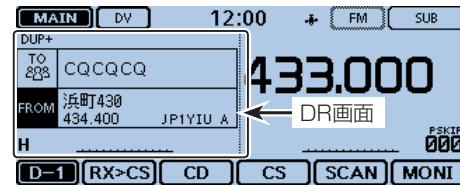
※DR機能を使ったD-STAR®運用(※P6-3)

① [DR]をタッチする。

- DR画面を表示させます。



② [DIAL]を回して、アクセスレピータ(FROM)を設定する。



③ [DR]をタッチする。

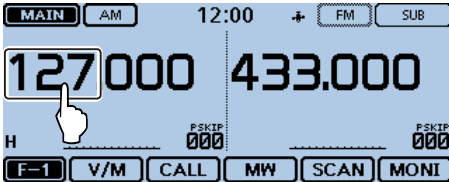
- DR画面を解除します。

2 基本操作のしかた

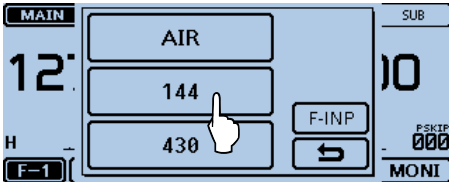
■ 受信の基本操作

《例》145.600MHzを受信する

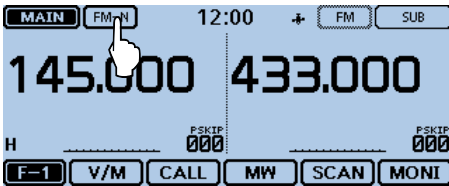
- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [VFO]をタッチする。
 - VFOモードが表示されます。
- ③ MHz桁をタッチする。
 - 「バンド一覧」画面が表示されます。



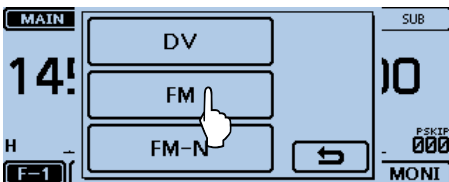
- ④ [144]をタッチする。



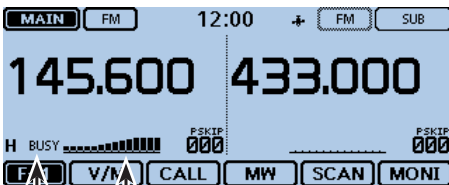
- ⑤ 受信モード表示部をタッチする。
 - 「受信モード一覧」画面が表示されます。



- ⑥ [FM]をタッチする。



- ⑦ [DIAL]を回して、145.600MHzを設定する。
 - 受信すると、「BUSY」が表示し、信号の強さに応じてSメーターが振れます。



BUSY Sメーター

2 基本操作のしかた

■ 送信のしかた

◇ アマチュアバンドの運用

送信する前に、その周波数を他局が使用していないか確認し、混信や妨害を与えないようにご注意ください。

また、バンドの使用区別(バンドプラン)を厳守のうえ、運用してください。(P17-6)

※法令上の呼出周波数(145.000MHz、433.000MHz)

は、FMモード、FM-Nモード以外で送信すると、電波法違反になります。(平成21年総務省告示第179号注22)の

※ 電源電圧は、定格範囲で使用してください。(P16-2)

送信時のご注意

- 周波数の相互関係(整数倍、または1/整数など)によって、VHF帯で送信した信号をUHF帯で受信することがあります。

(例：送信周波数：144.200MHz
受信周波数：432.600MHz)

- 送信中に、同時受信しているバンドの音声マイクロホンから入り、相手局が聞き取りにくくなる場合があります。この場合は、受信しているバンドの音量を下げてください。

◇ 周波数、送信出力を設定し送信する

① 「■受信の基本操作」(P2-10)と同じ操作をして、送信周波数を設定する。

② 送信出力表示部をタッチする。

- 「送信出力一覧」画面が表示されます。

③ 設定したい送信出力をタッチする。

※ 交信相手との距離に応じて、送信出力を切り替えます。

※ デュアルワッチモード時、送信出力は、「H」、「M」、「L」表示が点灯します。

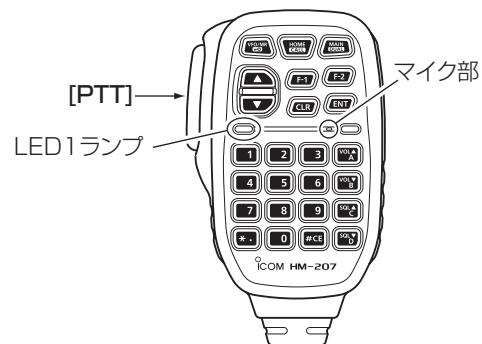
④ マイクロホンの [PTT] を押しながら、マイク部に向かって話します。

※ LED1ランプが赤色に点灯します。

※ 設定した送信出力をS/RFメーターに表示します。

⑤ [PTT] から指をはなす。

- 受信状態に戻ります。



マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。

マイクロホンに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。

◇ 送信出力とRFインジケータ表示について

送信出力とRFインジケータの表示を下記に示します。

設定	RF インジケータ (送信時の表示)	送信出力	
		ID-5100	ID-5100D
LOW	L TX [Bar Graph]	2W	5W
MID	M TX [Bar Graph]	10W	15W
HIGH	H TX [Bar Graph]	20W	50W

2 基本操作のしかた

■ ロック機能の使いかた

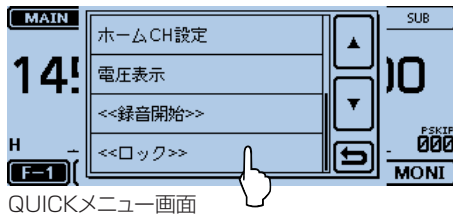
不用意に[DIAL]や、タッチパネルに触れても、周波数や運用状態が変わらないようにする機能です。

① [QUICK]をタッチする。



② 「<<ロック>>」項目をタッチする。

- [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページに切り替えます。
- ロック機能設定時に操作すると、「ロック中」ポップアップが表示されます。
- ロック機能を解除するときには、「ロック中」ポップアップで[解除]をタッチします。
- ロック機能を設定しても、[☺]/[PTT]/[SQL]/[VOL]と、付属マイクロホンの[MAIN DUAL]/[F-2] (モニター機能)は操作できます。



■ アッテネーター機能の使いかた

アッテネーター (減衰器)は、強い信号を受信したときに信号強度を減衰させ、受信音のひずみを低減します。また、高い利得のアンテナ (市販品)を使用した場合に、強い信号からの混変調や相互変調の影響を抑える効果もあります。アッテネーターの減衰量は、最大で約20dBです。

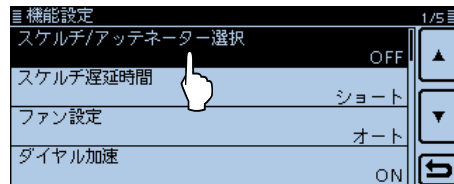
◇ アッテネーター機能を設定する

① [MENU]をタッチする。

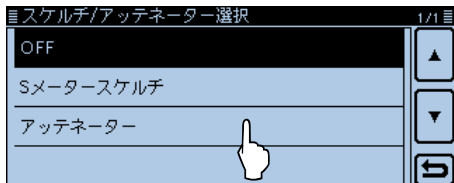
② 「スケルチ/アッテネーター選択」項目をタッチする。

(機能設定 > スケルチ/アッテネーター選択)

- [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページに切り替えます。



③ 「アッテネーター」をタッチする。



④ [MENU]をタッチする。

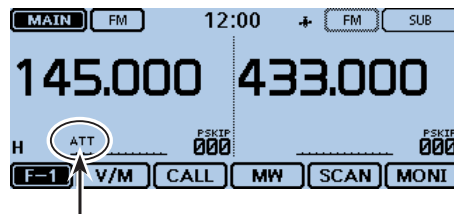
- MENU画面が解除されます。

◇ アッテネーター機能を使用する

[SQL]を12時の位置より右に回すと、アッテネーター機能が動作します。



- 「ATT」表示が点灯します。



2 基本操作のしかた

■ バンドスコープの使いかた

バンドスコープとは、一定の範囲内に出ている信号を、目で見えるようにした機能です。

信号を探すだけでなく、受信信号レベルも確認できます。バンドスコープのスイープには、次の2種類があります。

○単一スイープ：1回だけスイープします。

○連続スイープ：スイープを繰り返します。

表示されている周波数を中心に下記の周波数幅をスイープします。スイープする周波数幅は、設定しているチューニングステップで異なります。

シングルワッチモード：±38 × チューニングステップ

デュアルワッチモード：±18 × チューニングステップ

※上記±38と±18は決まった値です。

※デュアルワッチモードで表示されている周波数が145.000MHzの場合で、チューニングステップが20kHzの場合、スイープの上限と下限の周波数は下記のようになります。

$18 \times 20\text{kHz} = 360\text{kHz} (0.36\text{MHz})$

$-18 \times 20\text{kHz} = -360\text{kHz} (-0.36\text{MHz})$

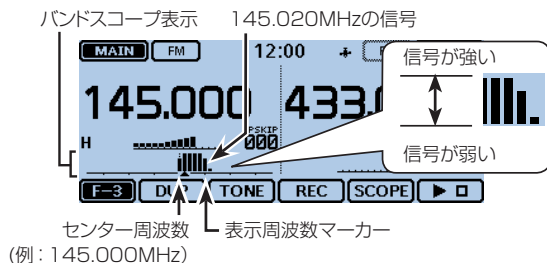
上限周波数：145.360 MHz

(145.000MHz+0.36MHz)

下限周波数：144.640MHz

(145.000MHz-0.36MHz)

《例》チューニングステップを20kHzに設定し、145.020MHzの強い信号を検出した状態



ご参考

- 本製品のバンドスコープは、設定されたチューニングステップごとに、信号の有無や強弱を表示します。このため極端にチューニングステップを大きく設定すると、実際には強い信号があっても表示されませんのでご注意ください。
チューニングステップは、20kHz以下でご使用になることをおすすめします。(チューニングステップP2-6)
- シングルワッチモードでスイープする場合は、スイープしながら表示周波数を受信できます。
- MENU画面内の「スコープAF出力」の設定で、スイープ先の受信音をOFFにできます。(P12-49) (サウンド設定 > スコープAF出力)

◇ スイープするときは

《例》センター周波数を145.000MHzにして連続スイープする

- ① [DIAL]を回して、145.000MHzを設定する。
- ② ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「F-3」画面を表示させます。
- ③ [SCOPE]をタッチする。

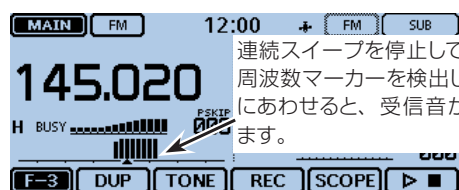


●「スコープ一覧」画面が表示されます。

- ④ 「連続スイープ」をタッチする。
 - 周波数画面に戻り、連続スイープを開始します。
 - ※スイープ中、ファンクションメニューの[▶ □]をタッチすると、単一スイープを停止/再開します。
 - [▶ ■]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチすると、連続スイープを再開します。

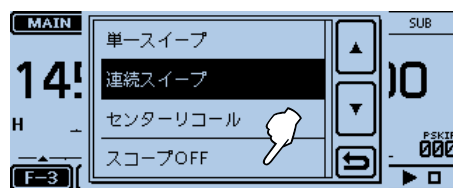


- ⑤ [DIAL]を回して、表示周波数マーカーを検出した信号に設定する。
 - 受信音が聞こえます。



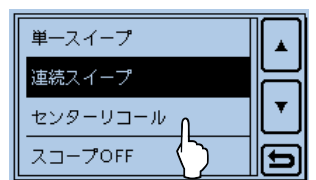
- ⑥ [SCOPE]をタッチする。
 - 「スコープ一覧」画面を表示する。

- ⑦ 「スコープOFF」をタッチする。
 - バンドスコープを解除します。



ご参考

「スコープ一覧」画面で「センターリコール」項目をタッチすると、表示周波数マーカーをセンター周波数に戻します。

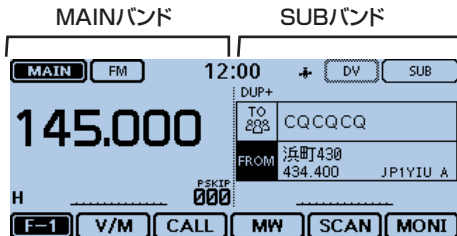


2 基本操作のしかた

■ 同時受信(デュアルワッチ)機能

デュアルワッチとは、MAINバンド/SUBバンドの両バンドにそれぞれ周波数を設定して、同時受信することです。デュアルワッチ中のスキャンなどで、周波数が切り替わったときは、音途切れが発生することがあります。

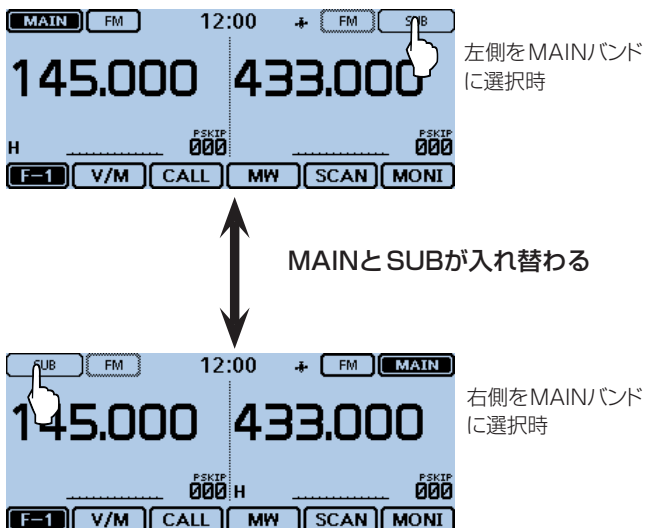
MAINバンド：FMモード、SUBバンド：DVモードの場合



◇ デュアルでMAINバンドを入れ替える

[SUB]をタッチすることで、MAINバンドが切り替わります。

- MAINバンド側に「MAIN」が表示され、SUBバンド側には「SUB」が表示されます。
- SUBバンド側は、[DIAL]による周波数変更、[VOL]による音量調整、[SQL]によるスケルチ調整ができます。
- MENU画面内の「タッチ操作(サブバンド)」の設定で、一部サブバンド側でも操作ができます。(P12-44)
(機能設定 > タッチ操作(サブバンド))



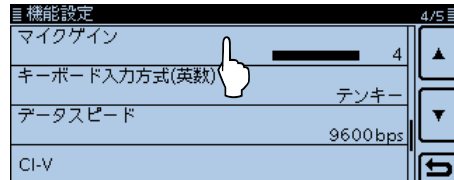
■ マイクゲインの設定

ご使用のマイクロホンにより、マイクゲインをMENU画面で選択できます。

- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「マイクゲイン」項目をタッチする。

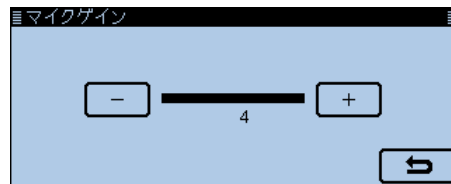
(機能設定 > マイクゲイン)

- [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページを切り替えます。



- ③ [+]/[-]をタッチして、マイクゲインを調整する。

- マイクゲインを上げる(数値を大きくすると、比較的小さな声でも送信できますが、まわりの音も送信しやすくなります。



- ④ [MENU]をタッチする。

- MENU画面を解除します。

2 基本操作のしかた

■ ホームCH機能について

[HOME]をタッチするだけで、あらかじめホームCHに登録した周波数をワンタッチで表示できる機能です。

頻繁に使用する周波数を登録しておけば、すぐに呼び出せるので便利です。

ホームCHは、VFOモード、メモリーモード、DR画面で、それぞれ登録できます。

◇ ホームCHを設定する

① 登録したい運用モード、またはDR画面を選択する。

② 登録したい周波数、またはM-CHを設定する。

※DR機能運用時は、「FROM」を選択している状態にしてください。



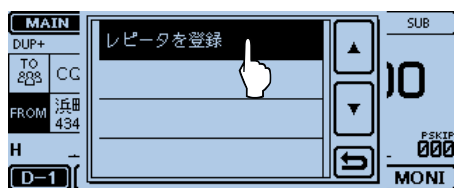
③ [HOME]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。



④ 登録項目をタッチする。

● ホームCHが設定されます。

※VFOモードの場合は、「周波数を登録」、メモリーモードの場合は、「チャンネルを登録」、DR機能の場合は、「レピータを登録」をタッチしてください。



◇ ホームCH機能の使いかた

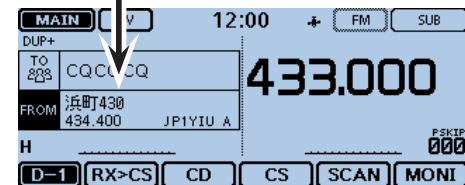
① ホームCHを呼び出したい運用モード、またはDR画面を設定する。

② [HOME]をタッチする。

● 運用画面に登録したホームCHが表示されます。

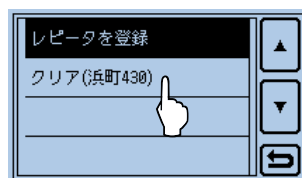


[HOME]



登録したホームCHを削除するときは

上記の手順④で、「クリア」をタッチすると削除します。



ご参考

出荷時には以下のものがホームCHに登録されています。

VFOモード : 145.000MHz
メモリーモード : MRO00(145.000MHz FM)
DR画面 : 秋葉原430

2 基本操作のしかた

■ スピーチ機能について

スピーチ機能とは、[SPEECH]を押すと、設定している周波数と受信モード(電波型式)、またはコールサインを読み上げる機能です。

また、[DIAL]を回して周波数を切り替えたときや、モードを切り替えたときに、周波数やモードを読み上げる機能があります。

これらの機能は、画面を見なくても、音声で確認できるので便利です。

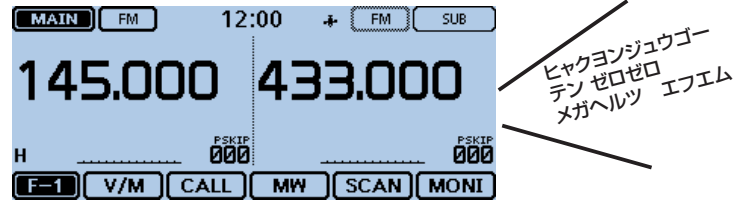
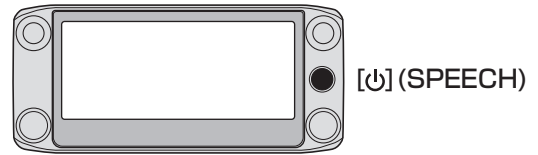
VFO/MR/CALL-CHモードの場合は、周波数とモード、DR機能の場合は、コールサインをスピーチします。

※DVモードで受信音を録音しているときに、[SPEECH]を押した場合、スピーチ中の受信音は録音されず無音になります。

(DVモード以外はスピーチ中でも録音します)

※MENU画面内の「スピーチ」設定グループで、スピーチ機能の詳細設定ができます。(P12-37)

- 下記の画面で[SPEECH]を押したときの動作



■	メモリーチャンネルについて	3-2
◇	本製品が搭載しているM-CH	3-2
◇	M-CHの詳細	3-2
◇	1つのM-CHが記憶できる内容	3-2
■	「メモリー管理」画面について	3-3
◇	「メモリー管理」画面の階層	3-3
◇	「メモリー管理」画面へのアクセス方法	3-3
■	メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた	3-4
■	コールチャンネル(CALL-CH)の呼び出しかた	3-4
■	メモリー(M-CH/CALL-CH)への書き込みかた	3-5
◇	M-CHを指定して書き込む	3-5
◇	M-CHを指定せずに書き込む	3-5
◇	選択されているM-CHに上書きする	3-6
◇	メモリー内容をVFOに転送して使う	3-7
◇	メモリー内容をほかのチャンネルへコピーする	3-7
■	メモリーチャンネル(M-CH)にバンクを割り当てる	3-9
◇	バンクの割り当てかた	3-9
◇	メモリーバンクにM-CHを直接書き込む	3-10
◇	メモリーバンクモードへの表示切り替え	3-11
■	メモリー/バンクネームの入力	3-12
◇	メモリーネームを入力する	3-12
◇	バンクネームを入力する	3-13
■	メモリーネームの表示について	3-14
◇	表示タイプの変更	3-14
■	メモリークリア(消去)のしかた	3-14
◇	メモリー内容を消去する	3-14

3 メモリーチャンネルの使いかた

■ メモリーチャンネルについて

よく使用する周波数や運用情報などを、あらかじめメモリーチャンネル(以下、M-CHと略記します)に記憶させておき、すばやく呼び出して運用できます。

◇ 本製品が搭載しているM-CH

チャンネルのタイプ	チャンネル数
通常のメモリーチャンネル(M-CH)	1000チャンネル(000~999)
コールチャンネル(CALL-CH)	4チャンネル (144: CO/C1、430: CO/C1)

◇ M-CHの詳細

チャンネル	おもな用途
0~999 (M-CH)	<ul style="list-style-type: none">● 通常のM-CHとして使用します。● 工場出荷時に記憶している内容 000 : 145.000MHz 001 : 433.000MHz
144: CO/C1、 430: CO/C1 (CALL-CH)	<ul style="list-style-type: none">● コールチャンネルの呼出周波数を記憶します。● 工場出荷時に記憶している内容 CO 144 : 145.000MHz (FM) C1 144 : 145.300MHz (DV) CO 430 : 433.000MHz (FM) C1 430 : 433.300MHz (DV)

◇ 1つのM-CHが記憶できる内容

すべてのM-CHには下記の内容が記憶されます。

- 運用周波数
- デュプレックスのON/OFF
- シフト方向(+/-)
- オフセット周波数
- メモリーネーム
- スキップチャンネル設定
- チューニングステップ(TS)
- 受信モード(電波型式)
- トーンスケルチ設定とトーン周波数
- レピータアクセス用トーン周波数
- DTCSのコードと極性
- 相手局コールサイン(DVモード設定時)
- R1/R2 コールサイン(DVモード設定時)
- メモリーバンク
- デジタルスケルチ設定のON/OFFとデジタルコード

ご注意

メモリーの内容は、静電気や電氣的雑音などで消失することがあります。

また、故障や修理の際にも消失する場合があります。

メモリーの内容をSDカード、またはパソコンに保存することをおすすめします。

※SDカードは、市販品を別途ご用意ください。

※パソコンに保存するときは、付属のCDに収録されているCS-5100もお使いいただけます。

なお、弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp> からでもCS-5100の最新版をダウンロードできます。

※本製品とパソコンの接続には、別売品のOPC-2218LU、OPC-1529、またはOPC-478UCが必要です。

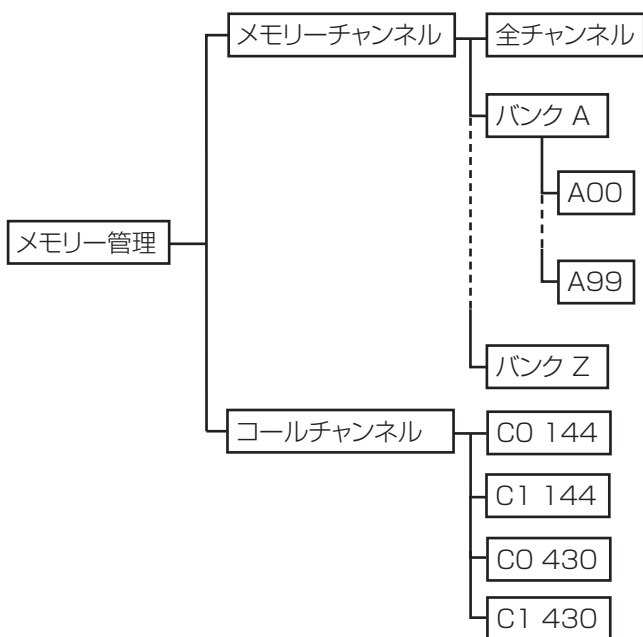
3 メモリーチャンネルの使いかた

■「メモリー管理」画面について

M-CHの登録やネーム編集、バンク割り当てなどが簡単にできます。

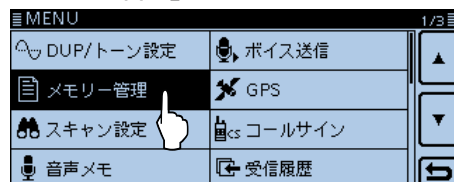
- ◎ M-CHやCALL-CHの一覧表示、登録内容が簡単に確認できる。
- ◎ バンク(グループ)分けしたM-CHの整理しやすく、どのバンクにどのM-CHが含まれているか確認しやすい。
- ◎ M-CHの追加や編集、コピーや消去ができる。

◇「メモリー管理」画面の階層

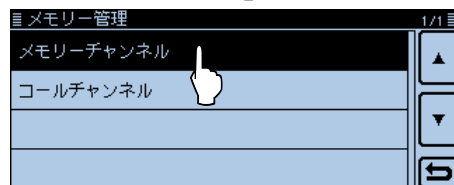


◇「メモリー管理」画面へのアクセス方法

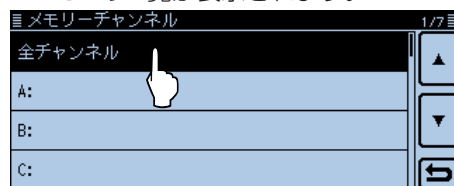
- ① [MENU]をタッチする。
 - 「MENU」画面が表示されます。
- ② 「メモリー管理」をタッチする。



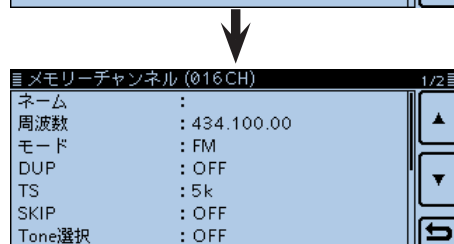
- ③ 「メモリーチャンネル」をタッチする。



- ④ 「全チャンネル」をタッチする。
 - M-CHの一覧が表示されます。

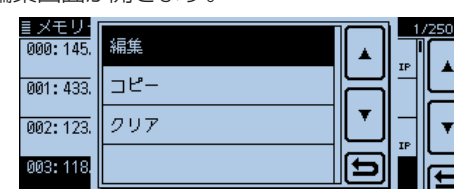


- ⑤ 内容を見たいチャンネルをタッチする。
 - 登録されている内容が表示されます。



【ご参考:M-CHの編集】

チャンネルを長く(ピッ、ピピと鳴るまで)タッチすると、編集画面が開きます。



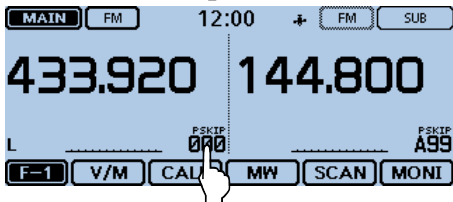
3 メモリーチャンネルの使いかた

■ メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた

メモリーチャンネルモードで[DIAL]を回して選択できます。

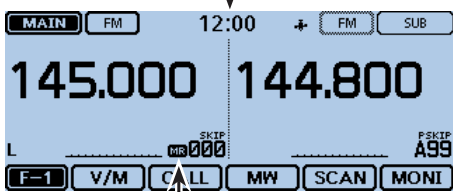
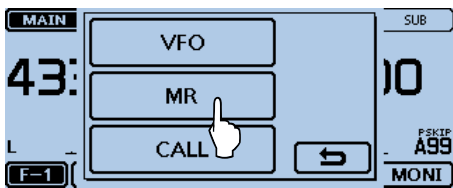
① メモリー表示部をタッチする。

●「運用モード選択」画面が表示されます。



② [MR]をタッチする。

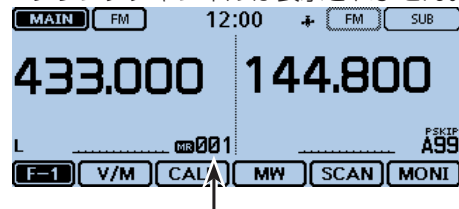
●メモリーチャンネルモードになります。



点灯

③ [DIAL]を回して、M-CHを選択する。

※ブランクチャンネルは表示されません。

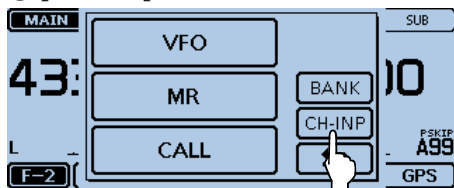


[DIAL]を回すと、M-CH番号が変わる

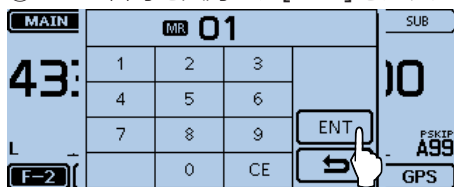
【ご参考: M-CH番号を指定して呼び出す】

① メモリーチャンネルモードに切り替え、メモリー表示部をタッチする。

② [CH-INP]をタッチする。



③ M-CH番号を入力し、[ENT]をタッチする。



■ コールチャンネル(CALL-CH)の呼び出しかた

コールチャンネルモードで[DIAL]を回して選択できます。

CALL-CHとは、呼出周波数を意味し、メインチャンネルとも呼ばれています。

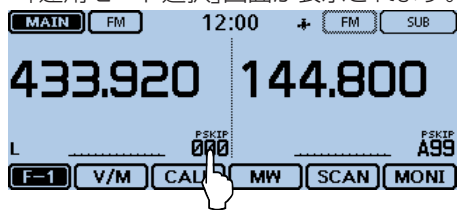
通常のM-CHと同様に、自由にメモリー内容を書き換え(※P3-5)できるので、使用頻度の高い運用情報を記憶させておく便利です。

初期設定値

- 144 C0:145.000MHz(FMモード)
- 144 C1:145.300MHz(DVモード)
- 430 C0:433.000MHz(FMモード)
- 430 C1:433.300MHz(DVモード)

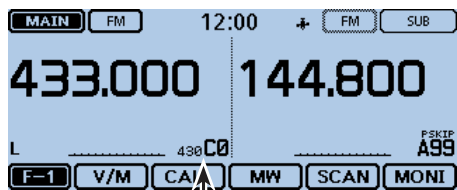
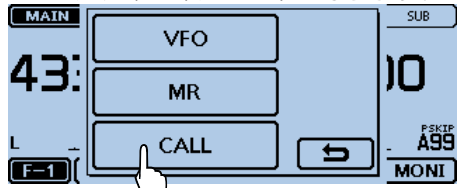
① メモリー表示部をタッチする。

●「運用モード選択」画面が表示されます。



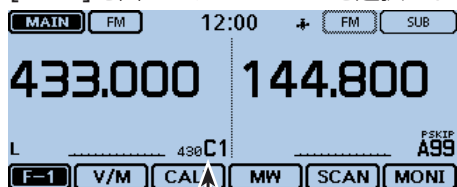
② [CALL]をタッチする。

●コールチャンネルモードになります。



CALL-CH番号を表示

③ [DIAL]を回して、CALL-CHを選択します。



[DIAL]を回すと、
CALL-CH番号が変わる

3 メモリーチャンネルの使いかた

■ メモリー(M-CH/CALL-CH)への書き込みかた

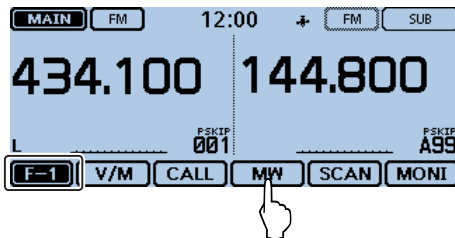
VFOモードで周波数を設定したあと、書き込み操作をします。工場出荷時は、チャンネル「2～999」がブランクです。

M-CHを指定して書き込む方法と、M-CHを指定せずに空いているチャンネルに自動で書き込む方法があります。

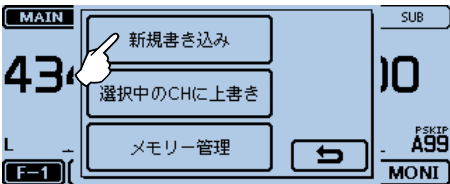
◇ M-CHを指定して書き込む

《例》「434.100MHz」をM-CH「18」に書き込む

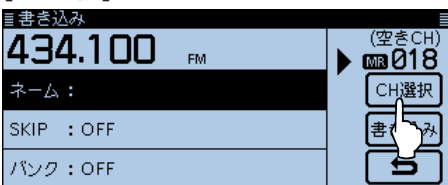
- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [VFO]をタッチする。
- ③ 周波数を「434.100MHz」にする。
- ④ ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「F-1」画面を表示させます。
- ⑤ [MW]をタッチする。



- ⑥ [新規書き込み]をタッチする。
 - 「メモリー書き込み」画面が表示されます。



- ⑦ [CH選択]をタッチする。



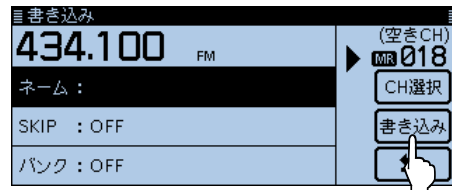
- ⑧ チャンネル「018」をタッチする。

ご注意
すでに内容が登録されているM-CHを選択した場合は上書きされます。



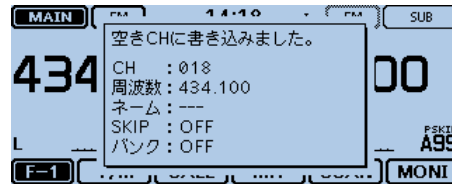
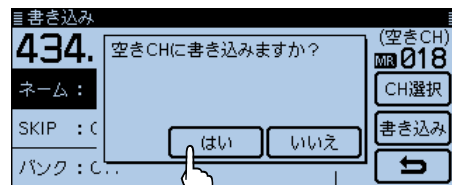
- 書き込み先のチャンネルとして、CALL-CHも選択できます。

- ⑨ [書き込み]をタッチする。



- ⑩ [はい]をタッチする

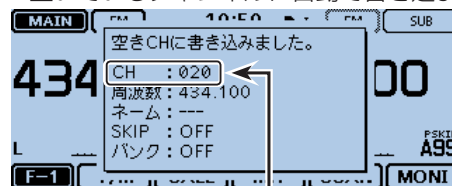
- ピピッと鳴ってメモリーが書き込まれ、VFOモードに戻ります。



◇ M-CHを指定せずに書き込む

《例》「434.100MHz」をブランクチャンネルに書き込む

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [VFO]をタッチする。
- ③ 周波数を「434.100MHz」にする。
- ④ ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「F-1」画面を表示させます。
- ⑤ [MW]を長く(ピツ、ピピと鳴るまで)タッチする。
 - 空いているチャンネルに自動で書き込まれます。



書き込まれたチャンネルが表示されます

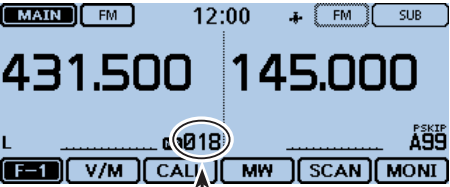
3 メモリーチャンネルの使いかた

■ メモリー(M-CH/CALL-CH)への書き込みかた

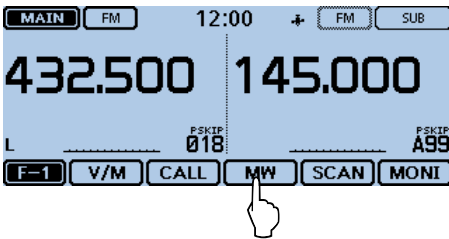
◇ 選択されているM-CHに上書きする

あらかじめ書き込み先のM-CHを選んでおき、それにVFO周波数を書き込むことができます。

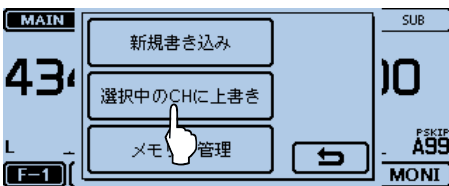
《例》「432.500MHz」をM-CH「18」に書き込む

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [MR]をタッチする。
- ③ [DIAL]を回して、上書き先のM-CHを選択する。


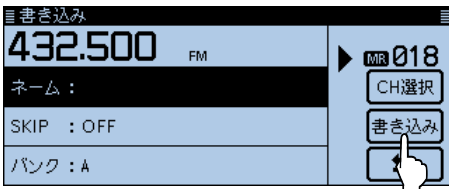
上書き先のM-CH
- ④ [VFO]をタッチする。
- ⑤ 周波数を「432.500MHz」にする。
- ⑥ ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「F-1」画面を表示させます。
- ⑦ [MW]をタッチする。



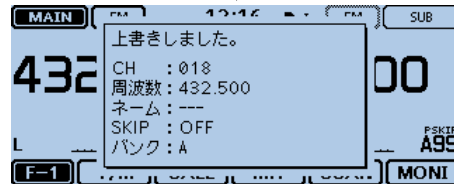
- ⑧ [選択中のCHに上書き]をタッチする。
 - 「メモリー書き込み」画面が表示されます。



- ⑨ [書き込み]をタッチする。



- ⑩ [はい]をタッチする。
 - ピピッと鳴ってメモリーが書き込まれ、VFOモードに戻ります。



3 メモリーチャンネルの使いかた

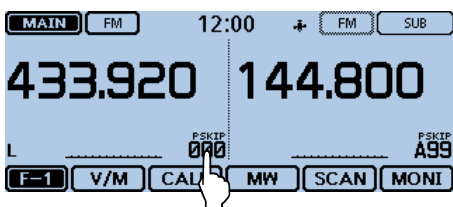
■ メモリー(M-CH/CALL-CH)への書き込みかた(つづき)

◇ メモリー内容をVFOに転送して使う

使用しているM-CH、またはCALL-CHの周辺に周波数を移して、交信する場合などに便利な機能です。

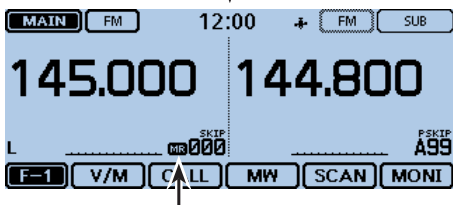
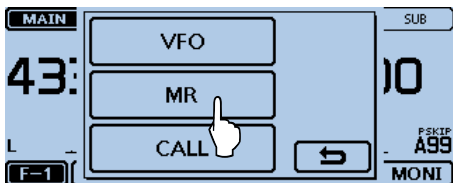
① メモリー表示部をタッチする。

- 「運用モード選択」画面が表示されます。



② [MR]をタッチする。

- メモリーチャンネルモードになります。



点灯

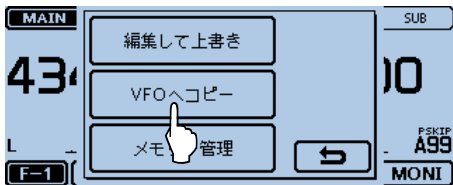
③ [DIAL]を回して、M-CHを選択する。

④ ファンクショングループ表示部を数回タッチする。

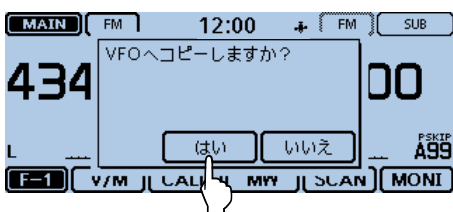
- 「F-1」画面を表示させます。

⑤ [MW]をタッチする。

⑥ [VFOへコピー]をタッチする。



⑦ [はい]をタッチする。



- ピピッと鳴り、M-CHの内容がVFOモードに転送され、VFOモードに戻ります。

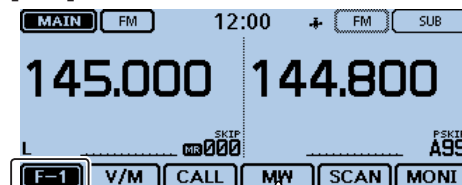
◇ メモリー内容をほかのチャンネルへコピーする

M-CHの内容をCALL-CHやプログラムスキャン用の周波数としてコピーできます。

① ファンクショングループ表示部を数回タッチする。

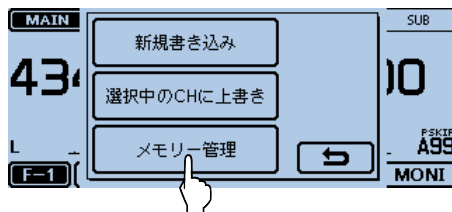
- 「F-1」画面を表示させます。

② [MW]をタッチする。

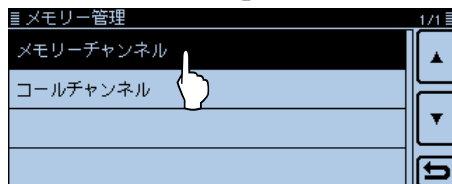


③ [メモリー管理]をタッチする。

- 「メモリー管理」画面が表示されます。



④ 「メモリーチャンネル」をタッチする。



⑤ 「全チャンネル」をタッチする。

- メモリーチャンネルの一覧が表示されます。



⑥ コピー元のM-CHを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。



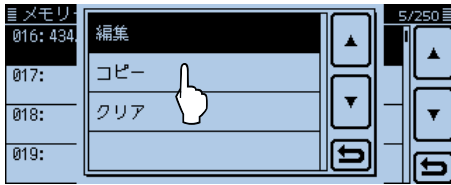
次ページにつづく

3 メモリーチャンネルの使いかた

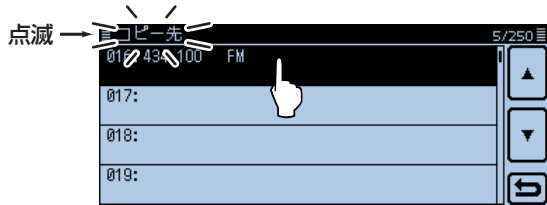
■ メモリー(M-CH/CALL-CH)への書き込みかた(つづき)

◇ メモリー内容をほかのチャンネルへコピーする

⑦ 「コピー」をタッチする。

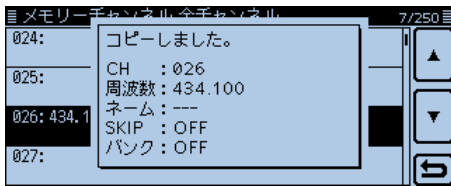


● コピー先を選択する状態になります。



⑧ コピー先のチャンネルをタッチする。

● ピッ、ピピと鳴ってメモリー内容がコピーされます。



● コピー先のチャンネルにメモリーが書き込まれている場合は、上書きされます。

3 メモリーチャンネルの使いかた

■ メモリーチャンネル(M-CH)にバンクを割り当てる

本製品に書き込んだM-CH(最大1000CH)を、26個のバンク(A~Z)に分けて管理できます。
各バンクには、最大100CHまで割り当てられます。

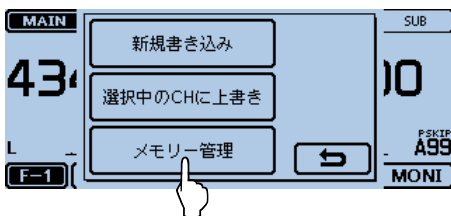
M-CHの種類や用途ごとにバンクで整理しておくとう便利です。また、指定したバンク内のM-CHだけをスキャンの対象とする、バンクスキャン(※P4-2)に使用できます。

ご注意

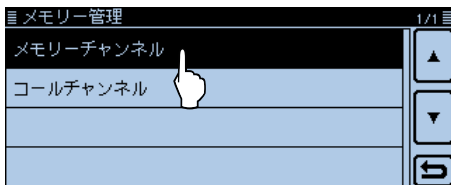
メモリーバンクは、M-CHを整理するために使用します。
編集元のM-CH自体を変更、または更新すると、メモリーバンクの内容に反映されます。

◇ バンクの割り当てかた

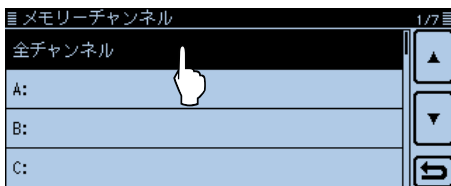
- ① ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「F-1」画面を表示させます。
- ② [MW]をタッチする。
- ③ [メモリー管理]をタッチする。
 - 「メモリー管理」画面が表示されます。



- ④ 「メモリーチャンネル」をタッチする。



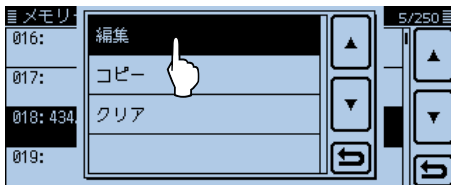
- ⑤ 「全チャンネル」をタッチする。
 - メモリーチャンネルの一覧が表示されます。



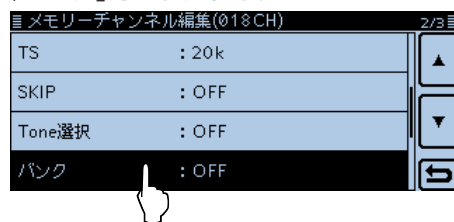
- ⑥ バンクを割り当てたいM-CHを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。



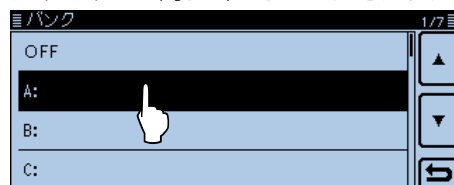
- ⑦ 「編集」をタッチする。
 - 「メモリーチャンネル編集」画面が開きます。



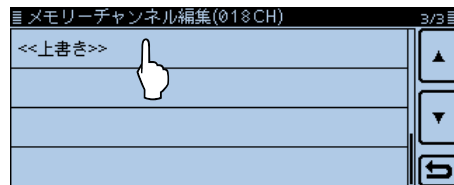
- ⑧ 「バンク」をタッチする。



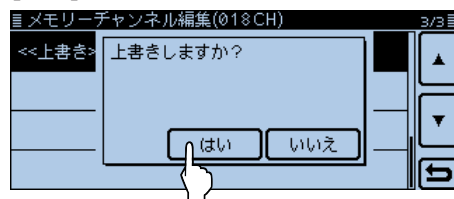
- ⑨ チャンネルに割り当てるバンクをタッチする。



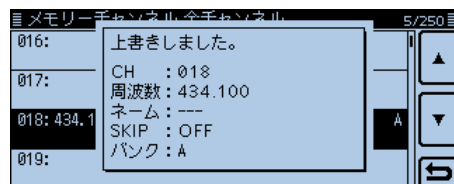
- ⑩ 「<<上書き>>」をタッチする。



- ⑪ 「はい」をタッチする。



- 「CH18」に「バンクA」が割り当てられました。



3 メモリーチャンネルの使いかた

■ メモリーチャンネル(M-CH)の内容をバンクで編集する(つづき)

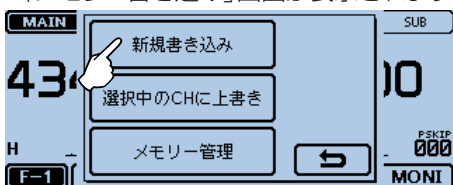
◇ メモリーバンクにM-CHを直接書き込む

メモリーバンクを選んでからM-CHを登録することもできます。この場合、登録したいバンクを選んでから周波数を入力します。

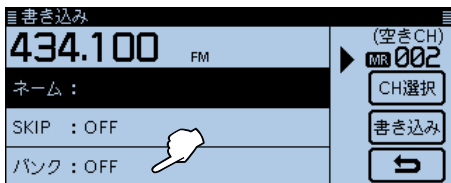
バンクに書き込むと同時に、M-CHの小さいブランクチャンネルを自動で割り当て、メモリーに書き込みます。

《例》バンクチャンネル「A00」に「434.100MHz」を書き込む

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [VFO]をタッチする。
- ③ 周波数を「434.100MHz」にする。
- ④ ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「F-1」画面を表示させます。
- ⑤ [MW]をタッチする。
- ⑥ [新規書き込み]をタッチする。



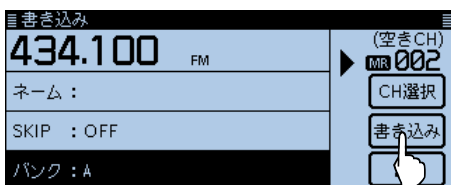
- ⑦ [バンク]をタッチする。



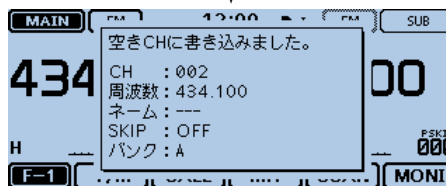
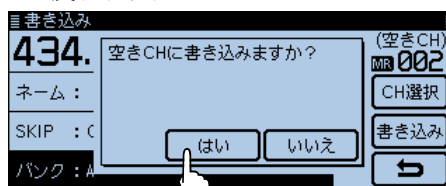
- ⑧ チャンネルを登録したいバンク「A」をタッチする。



- ⑨ [書き込み]をタッチする。

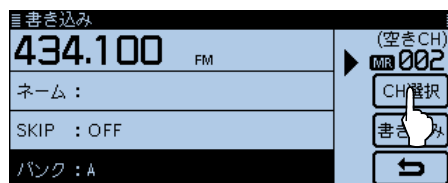


- ⑩ [はい]をタッチする。
 - ピピッと鳴ってメモリーが書き込まれ、VFOモードに戻ります。



ご参考

手順⑨で[CH選択]をタッチすると、書き込みたいCHを選択できます。
内容が登録されているM-CHを選択した場合は上書きされます。



3 メモリーチャンネルの使いかた

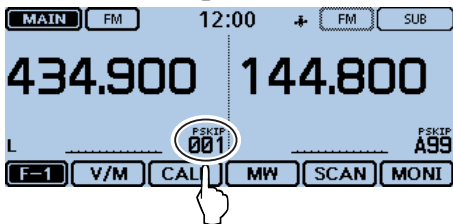
■ メモリーチャンネル(M-CH)の内容をバンクで編集する(つづき)

◇ メモリーバンクモードへの表示切り替え

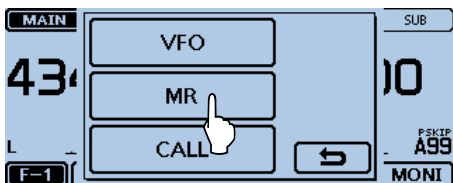
メモリーモードからメモリーバンクモードに表示を切り替えると、選択したバンク内のM-CHだけが選択できるようになります。

① メモリー表示部をタッチする。

●「運用モード選択」画面が表示されます。



② [MR]をタッチする。



③ メモリー表示部をタッチする。

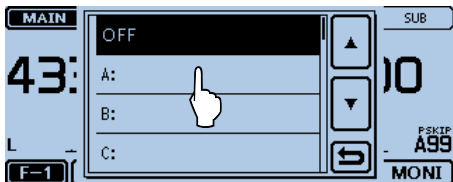
●「運用モード選択」画面が表示されます。

④ [BANK]をタッチする。

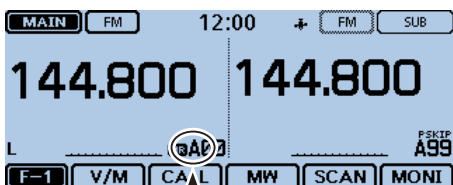
●バンクの一覧が表示されます。

⑤ バンクをタッチする。

●「OFF」をタッチすると、バンク表示を解除します。



⑥ [DIAL]を回して、バンクチャンネルを選択します。



選択されたバンク

※ ブランクチャンネルは選択できません。

※ メモリーバンクモードを解除したい場合は、手順⑤で「OFF」を選択してください。

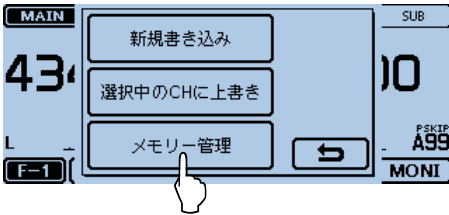
3 メモリーチャンネルの使いかた

■ メモリー/バンクネームの入力

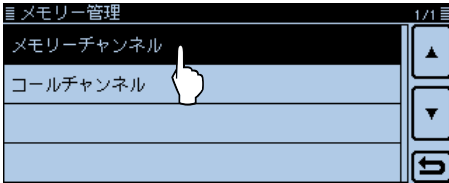
メモリーに書き込んでいる、すべてのチャンネルとバンクに、名前(ネーム)を入力できます。

◇ メモリーネームを入力する

- ① ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「F-1」画面を表示させます。
- ② [MW]をタッチする。
- ③ [メモリー管理]をタッチする。
 - 「メモリー管理」画面が表示されます。



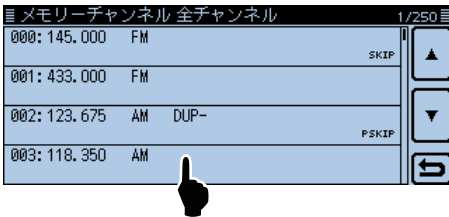
- ④ 「メモリーチャンネル」をタッチする。



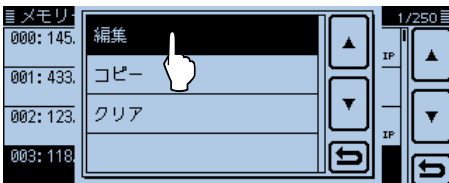
- ⑤ 「全チャンネル」をタッチする。
 - メモリーチャンネルの一覧が表示されます。



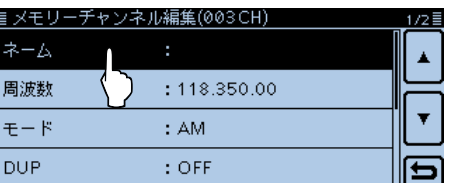
- ⑥ 編集したいM-CHを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。



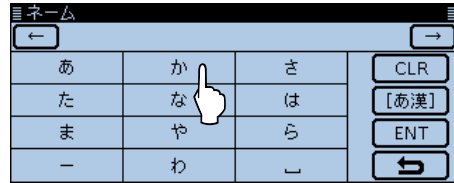
- ⑦ 「編集」をタッチする。
 - 編集画面が表示されます。



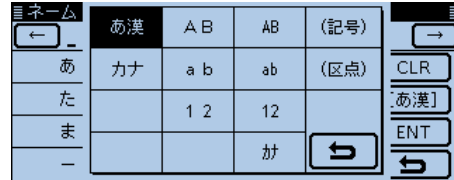
- ⑧ 「ネーム」をタッチする。
 - 「文字入力」画面が表示されます。



- ⑨ 入力したい文字がある枠を数回タッチして、1文字目の文字を選択する。(例 こ)

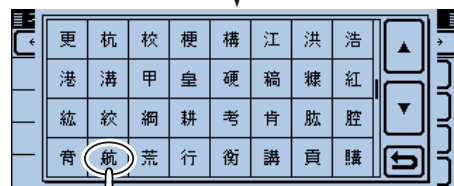
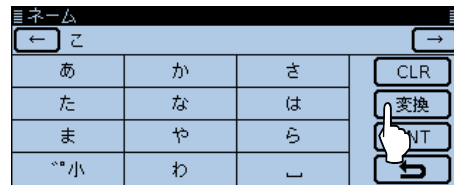


- 入力できる文字は、英数字とカタカナ、ひらがな、漢字、および記号です。
- 入力モードの切り替えは、現在の入力モード([あ漢]、[カナ]、[AB]、[ab]、[12])などをタッチする。



- ※[AB]、[ab]、[12]選択時は、[AB⇔12]、または[ab⇔12]が表示されます。タッチするとアルファベット入力と数字入力が切り替わります。
- ※アルファベット入力時は、[A/a]が表示されます。タッチすることにより、大文字/小文字が切り替わります。
- ※アルファベット入力時、[QUICK]をタッチすると、フルキーボード入力を選択できます。
- ※ひらがな、カタカナ入力時は、[° ° 小]が表示されます。タッチすることにより、(例「は」、「ば」と「ぱ」)、または(例「っ」と「っつ」)が切り替わります。濁音(ば)、半濁音(ぱ)、促音(っ)と拗音(あいうえおやゆよ)が入力できます。

- 漢字を選択したいときは、ひらがなを選択し、[変換]をタッチすると、文字一覧が表示されます。



- [CLR]をタッチすると、選択した文字が削除されます。
- []をタッチすると、スペースが挿入されます。

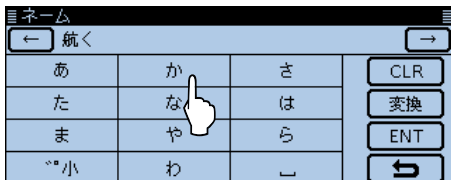
次ページにつづく

3 メモリーチャンネルの使いかた

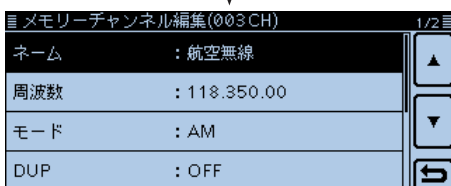
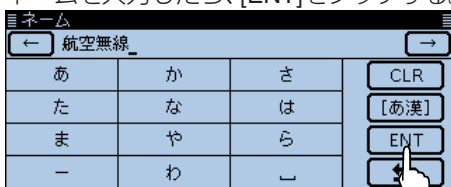
■ メモリーバンクネームの入力(つづき)

《メモリーネームの入力》(つづき)

- ⑩ [←]/[→]をタッチしてカーソルを移動させる。
 ●文字を入力する桁を選択します。
- ⑪ 手順⑨、⑩を繰り返し、全角8文字(半角16文字)以内(スペースを含む)でネームを入力します。(例 2桁:空)

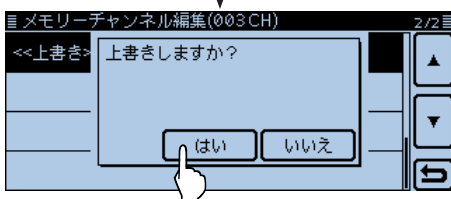
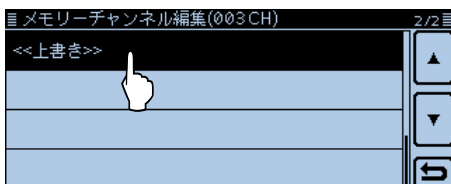


- ⑫ ネームを入力したら、[ENT]をタッチする。



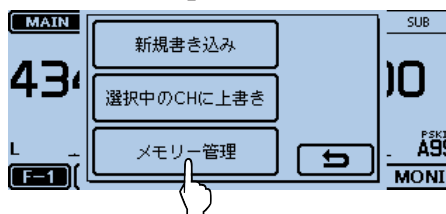
- ⑬ 「《上書き》」をタッチし、[はい]をタッチする。

●ネームが保存されます。



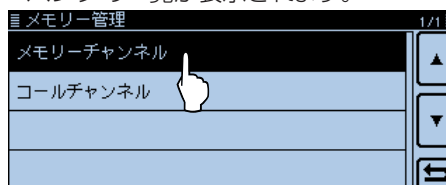
◇ バンクネームを入力する

- ① ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 ●「F-1」画面を表示させます。
- ② [MW]をタッチする。
- ③ [メモリー管理]をタッチする。
 ●「メモリー管理」画面が表示されます。



- ④ 「メモリーチャンネル」をタッチする。

●バンクの一覧が表示されます。

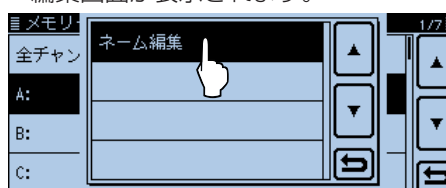


- ⑤ ネームを編集するバンク(A～Z)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。



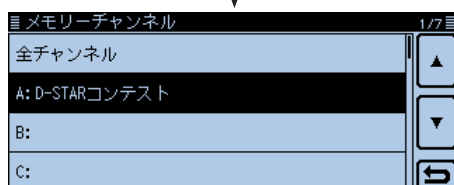
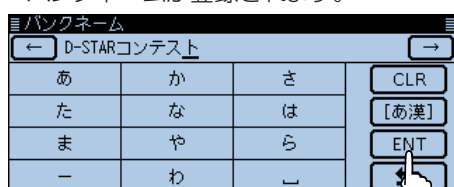
- ⑥ 「ネーム編集」をタッチする。

●編集画面が表示されます。



- ⑦ 前ページの「メモリーネーム」手順⑨と同様に文字を入力し、[ENT]をタッチする。

●バンクネームが登録されます。



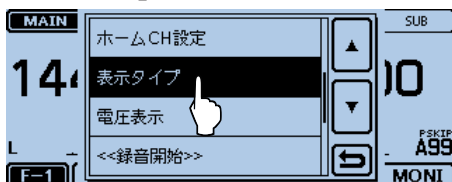
3 メモリーチャンネルの使いかた

■ メモリーネームの表示について

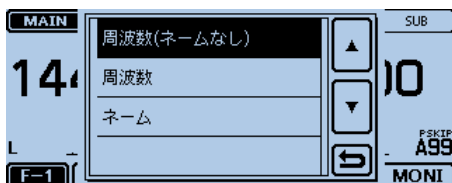
メモリーネームと周波数の表示タイプは3種類あります。

◇ 表示タイプの変更

- ① メモリーチャンネルモードにする。
- ② [QUICK]をタッチする。
- ③ 「表示タイプ」をタッチする。



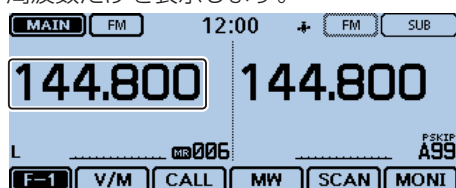
- ④ 設定したい表示タイプをタッチする。



《表示タイプ》

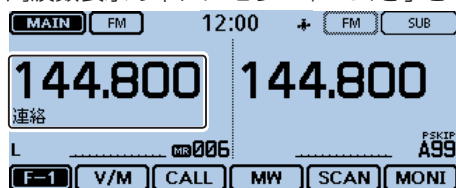
● 周波数(ネームなし)

周波数だけを表示します。



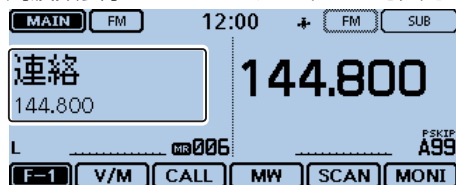
● 周波数

周波数表示の下にメモリーネームを小さく表示します。



● ネーム

周波数表示の上にメモリーネームを大きく表示します。



■ メモリークリア(消去)のしかた

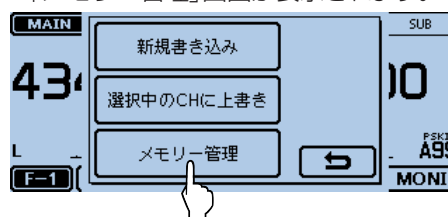
不要になったM-CHやCALL-CHは消去できます。

ご注意

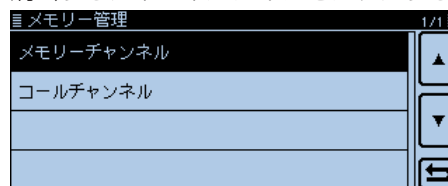
消去した内容は復活できません。

◇ メモリー内容を消去する

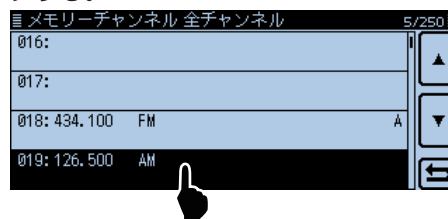
- ① ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「F-1」画面を表示させます。
- ② [MW]をタッチする。
- ③ 「メモリー管理」をタッチする。
 - 「メモリー管理」画面が表示されます。



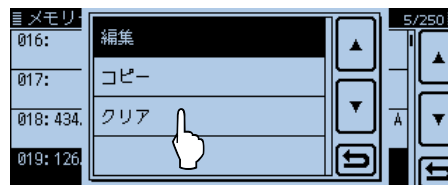
- ④ 消去するチャンネルタイプをタッチする。



- ⑤ 消去するチャンネルを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。

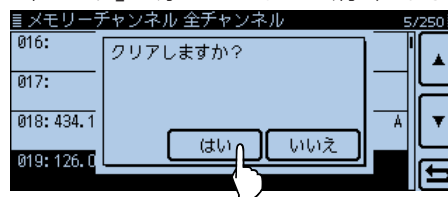


- ⑥ 「クリア」をタッチする。



- ⑦ 「はい」をタッチする。

● 「ピピッ」と鳴ってメモリーが消去されます。



■ スキャンについて	4-2
◇各モードのスキャンについて	4-2
◇VFOスキャン	4-2
◇メモリスキャン	4-2
◇メモリーバンクスキャン	4-2
◇スキャン中の[DIAL]操作について	4-3
◇スキャン中のスケルチ調整	4-3
◇チューニングステップについて(VFOスキャン)	4-3
◇スキップ機能について	4-3
◇一時スキップ機能について	4-3
◇受信モードについて	4-3
◇信号を受信すると	4-4
◇スキャンネームについて(VFOスキャン)	4-4
◇スキャンストップ時のビーブ音設定	4-4
◇デュアルワッチモードでのスキャンについて	4-4
■ VFOモードのスキャン	4-5
◇VFOスキャンの操作	4-5
■ スキップ周波数の登録と解除について	4-7
◇スキップ周波数の登録	4-7
◇スキップ周波数の解除	4-7
■ メモリーモードのスキャン	4-8
◇メモリスキャンの操作	4-8
◇メモリーバンクスキャンの操作	4-9
■ スキップチャンネルの指定と解除のしかた	4-10
■ 一時スキップの指定のしかた	4-10
■ プログラムスキャンエッジの新規登録	4-11

4 スキャンについて

■ スキャンについて

スキャンとは、周波数やメモリーチャンネル(M-CH)を自動で切り替えて、信号の出ているところを探し出す機能です。

◇ 各モードのスキャンについて

● VFOモードのとき

「PSKIP」(☞P4-10、P12-11)に指定された周波数は、スキャン範囲から除外されます。

※ プログラムスキャンを動作させるには、MANU画面のスキャン設定にある「プログラムスキャンエッジ」から周波数を登録してください。(☞P4-11)

● メモリーモードのとき

「PSKIP」、または「SKIP」が指定されたM-CHは、スキャン対象から除外されます。(☞P4-7)

※ メモリースキャンを動作させるには、2つ以上のM-CHに、周波数を書き込んでください。

【デュプレックス(DUP)スキャン】

VFOモード、またはメモリーモードで、デュプレックス運用(☞P11-4)のとき、その周波数(送信/受信の2波)をスキャンできます。

※「DUP-」、または「DUP+」表示の点灯をご確認ください。

※オフセット周波数が「0.000.00MHz」のときは動作しません。

【トーンスキャン】

トーンスケルチ機能を使用して交信している局が、どのトーン周波数、またはDTCSコードを使用しているかを検出するスキャンです。

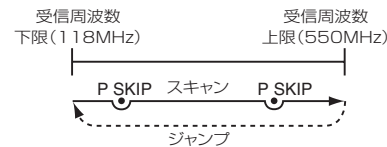
- VFO/メモリー/CALL-CHモードに関係なく動作します。
- スキャン中に[DIAL]を時計回りに回すと、アップスキャンに、反時計回りに回すと、ダウンスキャンに切り替えます。

トーン機能については、「トーンスケルチ機能/DTCSコードスケルチ機能」(☞P13-9、P13-10)を参照してください。

◇ VFOスキャン

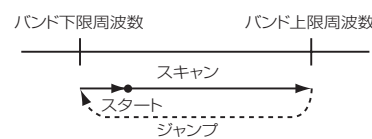
● ALL(フルスキャン) ☞P4-5

本製品の受信可能周波数範囲をすべてスキャンします。



● BAND(バンドスキャン) ☞P4-5

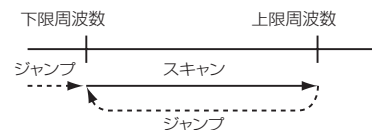
表示している運用バンドの周波数範囲をスキャンします。



● PROG 0~24(プログラムスキャン) ☞P4-5

プログラムスキャンエッジに書き込んだ周波数範囲をスキャンします。

(スキャン設定 > プログラムスキャンエッジ)



● P-LINK0~9(プログラムリンクスキャン) ☞P4-5

MENU画面の「プログラムリンク」項目(☞P12-12)で指定したプログラムスキャンを、連続してスキャンします。

(スキャン設定 > プログラムリンク)

◇ メモリースキャン

● ALL(メモリーフルスキャン) ☞P4-8

すべてのM-CHをスキャンします。

● BAND(バンドメモリースキャン) ☞P4-8

表示している運用バンドのM-CHをスキャンします。

● MODE(モードメモリースキャン) ☞P4-8

表示している受信モードを書き込んでいるM-CHをスキャンします。

◇ メモリーバンクスキャン

● ALL(フルバンクスキャン) ☞P4-9

すべてのバンクをスキャンします。

● BANK-LINK(バンクリンクスキャン) ☞P4-9

MENU画面の「バンクリンク」項目(☞P12-11)で指定したバンクを連続してスキャンします。

(スキャン設定 > バンクリンク)

● BANK-A~Z(バンクスキャン) ☞P4-9

指定したバンクのM-CHをスキャンします。

4 スキャンについて

■ スキャンについて(つづき)

◇ スキャン中の[DIAL]操作について

- スキャンをスタートするとアップスキャンを開始します。
- スキャン中に[DIAL]を回すと、回す方向によってアップスキャンとダウンスキャンを切り替えられます。
- 信号を受信してスキャンを一時停止しているときに[DIAL]を回すと、即時再スタートします。

◇ スキャン中のスケルチ調整

受信信号の強さに応じてスキャンが一時停止するように調整します。

- スキャン動作中に[SQL]を回してスケルチレベルを調整できます。

◇ チューニングステップについて(VFOスキャン)

スキャン中に周波数が切り替わるステップ幅は、設定されているチューニングステップです。

プログラムスキャン、プログラムリンクスキャンの場合は、プログラムスキャンエッジで設定したチューニングステップにしたがいます。

◇ スキップ機能について

必要のない周波数、またはM-CHをスキャンから除外する「スキップ」の指定ができます。一度、「スキップ」を指定すると、指定を解除するまでスキャンの対象からはずれます。

※設定についてはP4-9、P4-10を参照してください。

VFOスキャン時に、「スキップ」を指定した周波数も含めてスキャンする場合は、MENU画面内の「プログラムスキップ」画面の設定を「OFF」にします。この設定を「OFF」にすると、スキップ機能は動作しません。(スキャン設定 > プログラムスキップ) (P12-11)

◇ 一時スキップ機能について

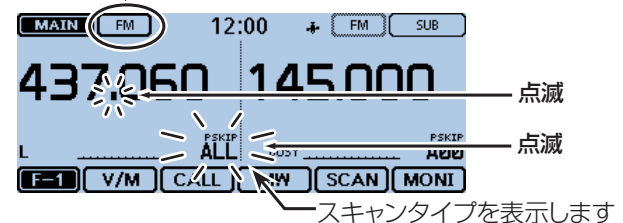
スキャン中に一時停止した周波数、またはM-CHを、設定した時間、スキャンから除外する「一時スキップ」の指定ができます。設定した時間を経過するかスキャンを解除すると、一時スキップ指定は解除されます。

※設定についてはP4-10を参照してください。

◇ 受信モードについて

- VFOスキャン時は、VFOモードで設定している電波型式で動作します。
- メモリー/バンクスキャン時は、メモリーされている電波型式で動作します。

FMモードでスキャン中



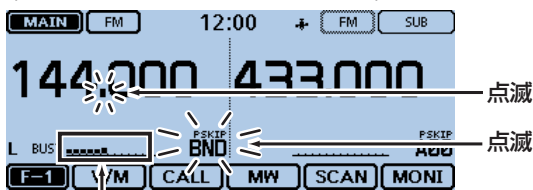
4 スキャンについて

■ スキャンについて(つづき)

◇ 信号を受信すると

約10秒(初期値)経過すると、自動的に再スタートします。
また、途中で信号がなくなると、約2秒(初期設定)後に再スタートします。

- 上記のタイマーは、MENU画面にある、「停止時間」(一時停止タイマーの設定)項目と、「再スタート時間」(再スタートタイマーの設定)項目で変更できます。(P12-11)
(スキャン設定 > 停止時間)
(スキャン設定 > 再スタート時間)

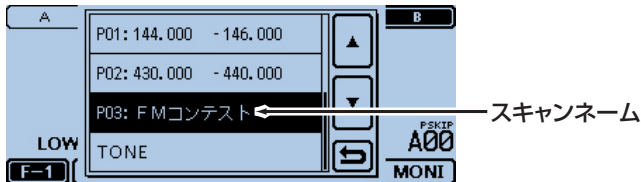


信号強度に応じてSメーターが振れる

◇ スキャンネームについて(VFOスキャン)

プログラムスキャンエッジごとに、スキャンネームを登録できます。(P4-11)

登録すると、スキャンネームを選択するだけで、スキャン周波数範囲が設定されます。



スキャンネーム

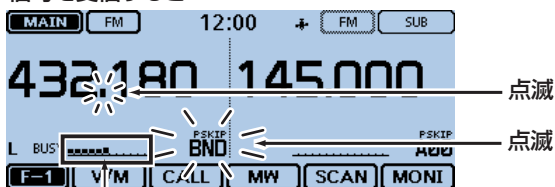
◇ スキャンストップ時のビープ音設定

信号を受信してスキャンが一時停止したとき、ビープ音を鳴らせます。

MENU画面にある、「スキャンストップビープ」(スキャン停止時のビープ音設定)項目で設定できます。(P12-49)

(サウンド設定 > スキャンストップビープ)

信号を受信すると



信号強度に応じてSメーターが振れる

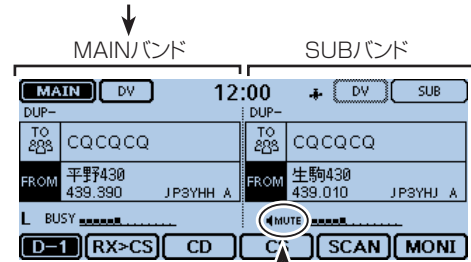
ピーツ

◇ デュアルワッチモードでのスキャンについて

MAIN、SUB両バンドで同時にDVモードの電波を受信した場合、MAINバンド側の音声だけが聞こえます。

MAINバンドでD-STARレピータの信号を受信中に、SUBバンドで別のD-STARレピータの信号を受信した場合:

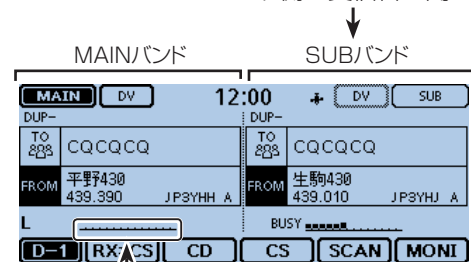
MAINバンド側の受信音だけが聞こえます



SUBバンドはミュートされます

MAINバンドでD-STARレピータの信号を待ち受け中に、SUBバンドで別のD-STARレピータの信号を受信した場合:

SUBバンド側の受信音が聞こえます



信号を受信していない

4 スキャンについて

■ VFOモードのスキャン

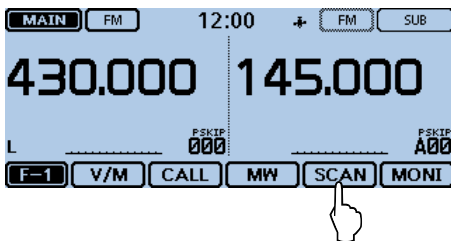
VFOモードのスキャンには、フルスキャン、バンドスキャン、プログラムスキャン、プログラムリンクスキャン、デュプレックススキャン、トーンスキャンがあります。

※「PSKIP」(P4-7)に指定された周波数は、スキャンから除外されます。

※MENU画面内の「プログラムスキップ」画面の設定を「OFF」にすると、「PSKIP」に指定された周波数もスキャンします。(P12-11)
(スキャン設定 > プログラムスキップ)

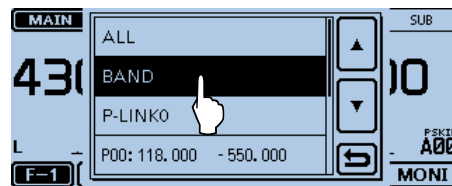
◇ VFOスキャンの操作

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [VFO]をタッチする。
- ③ 周波数のMHz桁をタッチする。
 - 「バンド一覧」画面が表示されます。
- ④ [430]をタッチする。
- ⑤ 受信モード表示部をタッチする。
 - 「受信モード一覧」画面が表示されます。
- ⑥ [FM]をタッチする。
- ⑦ ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「F-1」画面を表示させます。
- ⑧ [SCAN]をタッチする。



- ⑨ スキャンタイプをタッチすると、スキャンがスタートします。

- ALL : フルスキャン
- BAND : バンドスキャン
- P-LINK0~9 : プログラムリンクスキャン
- P00~24 : プログラムスキャン
- DUP : デュプレックススキャン(P4-2)
(デュプレックス設定時のみ)
- TONE : トーンスキャン(トーン設定時のみ)

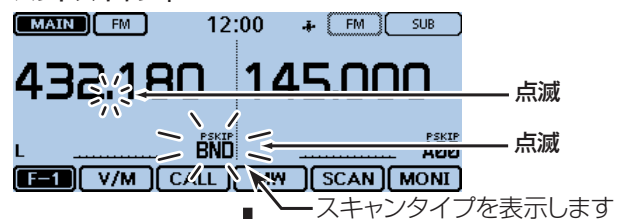


※ スキャン中に[DIAL]を回すと、アップスキャン/ダウン
スキャンを切り替えられます。

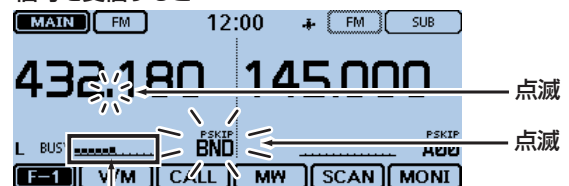
※ スキャン中に受信モード表示部をタッチして、電波型
式を再選択できます。

※ スキャン中に[MENU]や[QUICK]をタッチして
MENU画面を表示しているあいだも、スキャンは継続し
ます。

バンドスキャン中



信号を受信すると



プログラムスキャンについて

プログラムスキャンでは、スキャン中のチューニングス
テップや、受信モードを設定できます。
詳細については、4-11ページをご参照ください。

- ⑩ [SCAN]をタッチすると、スキャン動作が解除されます。
※周波数表示部をタッチしても解除されません。

4 スキャンについて

◇ VFOスキャンの操作(つづき)

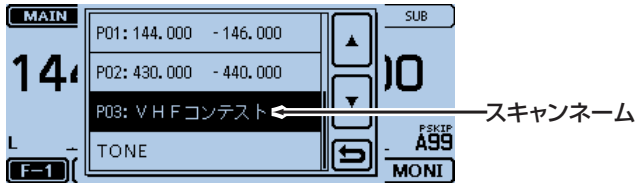
スキャン名称が登録されている場合

スキャン名称が登録されている場合、スキャンタイプの選択時(前ページの手順⑨)、スキャン名称が表示されます。

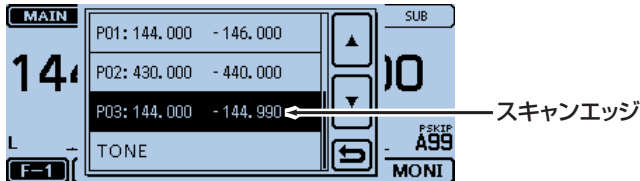
※ スキャン名称の登録についてはP4-11を参照してください。

- ① ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「F-1」画面を表示させます。
- ② [SCAN]をタッチする。
- ③ スキャン名称をタッチすると、スキャンがスタートします。
 - ※ スキャン中は、スキャン名称は表示されません。

●スキャン名称が登録されているとき



●スキャン名称が登録されていないとき



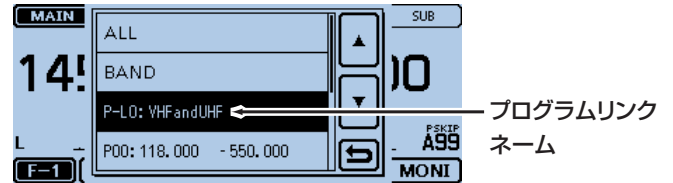
プログラムリンク名称が登録されている場合

プログラムリンク名称が登録されている場合、スキャンタイプの選択時(前ページの手順⑨)、プログラムリンク名称が表示されます。

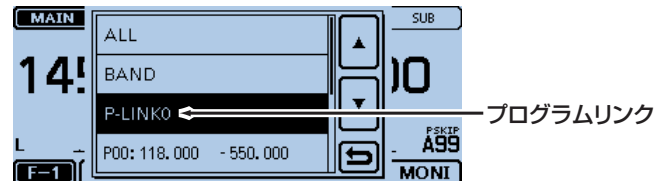
※プログラムリンク名称の登録についてはP12-13を参照してください。

- ① ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「F-1」画面を表示させます。
- ② [SCAN]をタッチする。
- ③ プログラムリンク名称をタッチすると、スキャンがスタートします。
 - ※ スキャン中は、プログラムリンク名称は表示されません。

●プログラムリンク名称が登録されているとき



●プログラムリンク名称が登録されていないとき



4 スキャンについて

■ スキップ周波数の登録と解除について

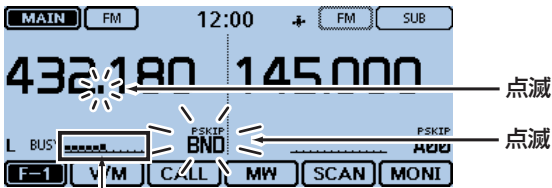
◇ スキップ周波数の登録

VFOスキャン中に一時停止した周波数を、スキップする(スキャンの対象からはずれる)ようにM-CHに登録する機能です。

例：FMモードでバンドスキャン中

① VFOスキャン(※P4-5)を開始します。

- 信号を受信すると、スキャンが一時停止します。



信号強度に応じてSメーターが振れる

② ファンクショングループ表示部を数回タッチする。

- 「F-2」画面を表示させます。

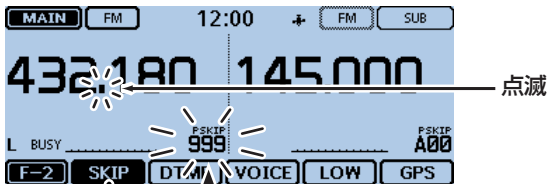
③ [SKIP]を長く(ピッ、ピピッと鳴るまで)タッチする。

- 一時停止した周波数を、スキップ周波数としてM-CHの末尾チャンネル「999」から順に書き込みます。

※ 書き込み先のチャンネル番号が点滅します。

※ すでにM-CHの末尾にチャンネルが登録されている場合は、自動的にブランクチャンネルを探してそこに書き込みます。

ブランクチャンネルがない場合はエラービープが鳴り、書き込まれません。



スキップ周波数が
書き込まれるM-CHが点滅

④ 書き込みが完了すると、スキャンが再スタートします。

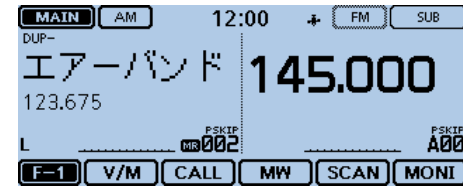
◇ スキップ周波数の解除

① メモリー表示部をタッチする。

- 「運用モード選択」画面が表示されます。

② [MR]をタッチする。

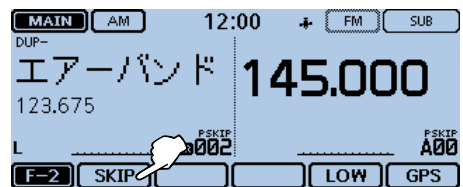
③ [DIAL]を回して、スキップを解除するM-CHを選択する。



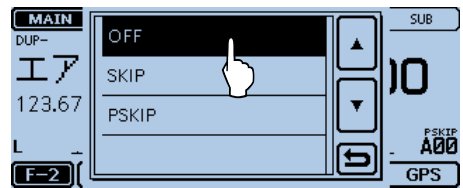
④ ファンクショングループ表示部を数回タッチする。

- 「F-2」画面を表示させます。

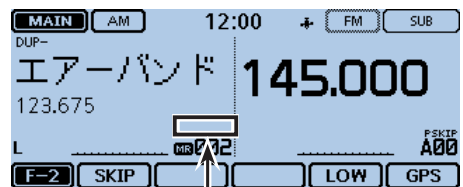
⑤ [SKIP]をタッチする。



⑥ [OFF]をタッチする。



- スキップ設定が解除されます。



「PSKIP」が消えた

ご参考

スキップ周波数が書き込まれたM-CH自体を消去することで、スキップ設定を解除することもできます。詳細については、3-14ページをご参照ください。

4 スキャンについて

■ メモリーモードのスキャン

メモリーモードのスキャンは大きく分けて、「メモリースキャン」と「メモリーバンクスキャン」があります。

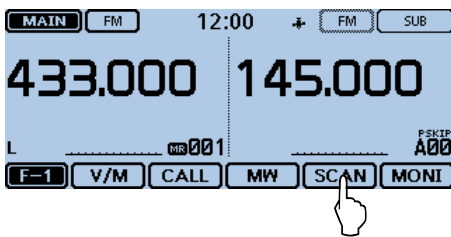
※「PSKIP」、または「SKIP」が指定されたM-CHは、スキャン対象から除外されます。(※P4-10)

※メモリースキャンを動作させるには、スキップ設定されていないM-CHを2つ以上書き込んでください。

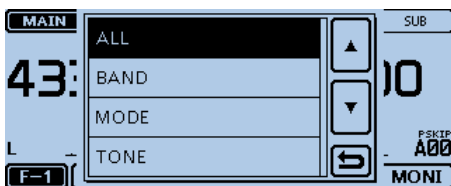
◇ メモリースキャンの操作

メモリースキャンは、周波数を記憶しているM-CHを順次切り替えて、信号を探し出す機能です。

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [MR]をタッチする。
- ③ ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「F-1」画面を表示させます。
- ④ [SCAN]をタッチする。

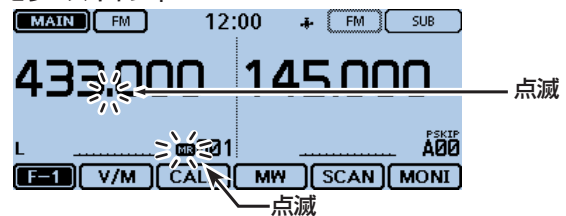


- ⑤ スキャンタイプをタッチする。
 - ALL : フルスキャン
 - BAND : バンドメモリースキャン
 - MODE : モードメモリースキャン
 - DUP : デュプレックススキャン (※P4-2)
(デュプレックス設定時のみ)
 - TONE : トーンスキャン(トーン設定時のみ)

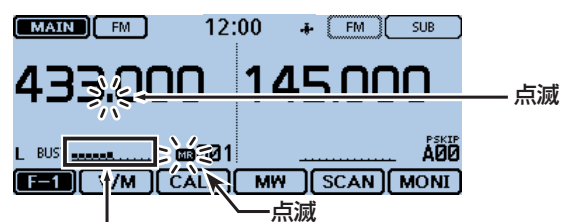


- ⑥ スキャンがスタートします。

メモリースキャン中



信号を受信すると



※ スキャン中に[DIAL]を回すとアップスキャン/ダウンスキャンが切り替えられます。

※ スキャン中に[MENU]や[QUICK]をタッチしてMENU画面を表示しているあいだも、スキャンは継続します。

- ⑦ [SCAN]をタッチする。
 - スキャン動作が解除されます。
 - ※周波数表示部をタッチしても解除されません。

4 スキャンについて

■ メモリーモードのスキャン(つづき)

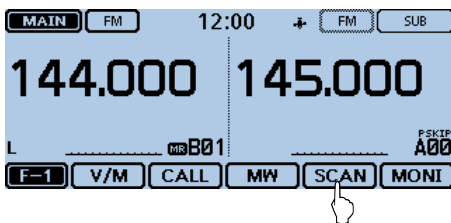
◇ メモリーバンクスキャンの操作

メモリーバンクスキャンは、メモリーバンクに登録しているM-CHを順次切り替えて、信号を探し出す機能です。

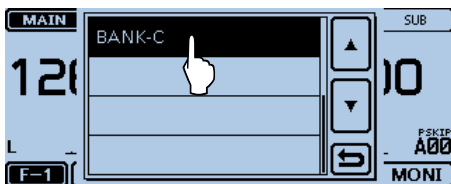
※ バンクスキャンを動作させるには、バンクにM-CHが2つ以上登録されている必要があります。

※ バンクスキャンを動作させるには、QUICK MENU画面にある「バンク切替」画面で、バンク選択を「ON」に設定してください。

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [MR]をタッチする。
- ③ ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「F-1」画面を表示させます。
- ④ [SCAN]をタッチする。

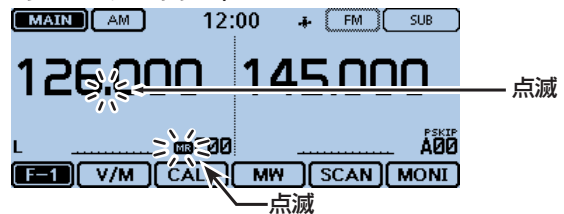


- ⑤ スキャンタイプをタッチする。
 - ALL : フルバンクスキャン
 - BANK-LINK : バンクリンクスキャン
 - BANK-A~Z : バンクスキャン
(M-CHが登録されているバンクだけが表示されます)
 - DUP : デュプレックススキャン(☎P4-2)
(デュプレックス設定時のみ)
 - TONE : トーンスキャン(トーン設定時のみ)

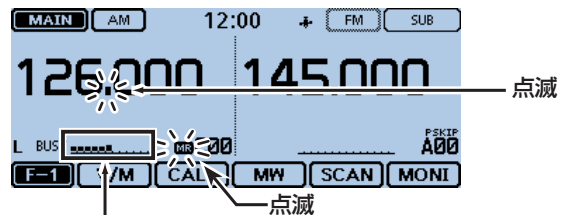


- ⑥ スキャンがスタートします。

メモリーバンクスキャン中



信号を受信すると



信号強度に応じてSメーターが振れる

※ スキャン中に[DIAL]を回すとアップスキャン/ダウンスキャンが切り替えられます。

※ スキャン中に[MENU]や[QUICK]をタッチしてMENU画面を表示しているあいだも、スキャンは続きます。

- ⑦ [SCAN]をタッチすると、スキャン動作が解除されます。
 - ※ 周波数表示部をタッチしても解除されません。

ご注意

- すべてのチャンネルに「SKIP」、または「PSKIP」が指定されているバンクは、スキップされます。
- 指定したバンクのすべてのチャンネルに「SKIP」、または「PSKIP」が指定されている場合は、最初のチャンネルでスキャンは停止します。

ご参考: バンク名が登録されている場合

バンク名が登録されている場合は、スキャンタイプを選択すると、バンク名が表示されます。

※ スキャン中は、バンク名は表示されません。



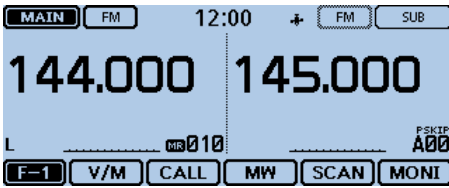
4 スキャンについて

■ スキップチャンネルの指定と解除のしかた

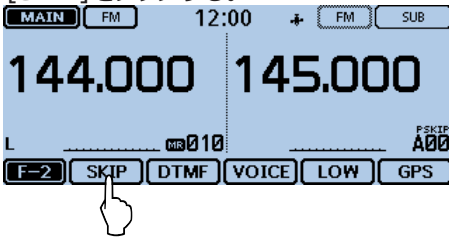
任意のチャンネルにスキップを設定することで、スキャンの対象から除外できます。

例：チャンネル「010」に「SKIP」を設定する

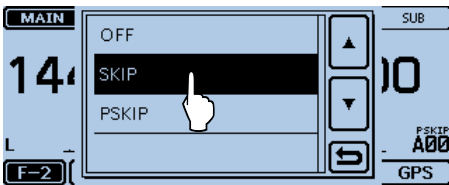
- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [MR]をタッチする。
- ③ スキップを指定、または解除するM-CHを選択します。



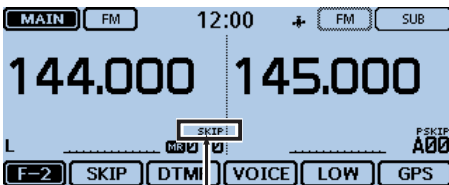
- ④ ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「F-2」画面を表示させます。
- ⑤ [SKIP]をタッチする。



- ⑥ 設定したい項目をタッチする。
 - OFF : スキップ設定を解除します。
 - SKIP : メモリーモード時のスキャン範囲から除外されます。
 - PSKIP : VFOモード時とメモリーモード時の両方のスキャン範囲から除外されます。



- スキップが設定されます。



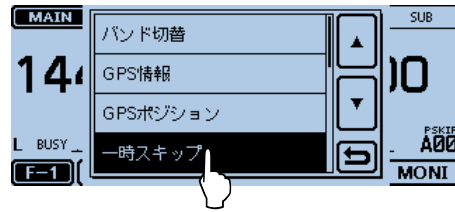
「SKIP」が設定された

■ 一時スキップの指定のしかた

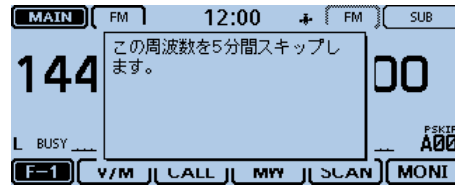
スキャン中に一時停止した周波数を、設定した時間スキップする(スキャンの対象からはずれる)ように指定する機能です。

スキップ周波数の登録はしたくないが、一時的にスキャン対象からはずらしたいときに便利です。

- ① VFOスキャン(※P4-5)を開始します。
 - 信号を受信すると、スキャンが一時停止します。
- ② [QUICK]をタッチする。
- ③ 「一時スキップ」をタッチする。



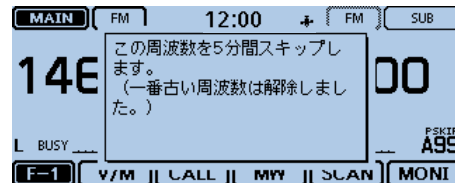
- 一時スキップが設定されます。



- ④ 設定が完了すると、スキャンが再スタートします。
 - 設定時間を経過するか、スキャンを解除すると一時スキップ指定が解除されます。

ご参考

- 一時スキップは最大5件設定できます。5件以上設定しようとした場合、この画面が表示されて古い周波数を解除します。



- メモリスキャンや、DRスキャン中に、上の手順②～③の操作をすると、一時停止したM-CH、またはレピータを、設定した時間(初期値：5分)スキップできます。
- 初期設定では、一時スキップ時間が「5分」に設定されています。MENU画面内の「一時スキップ時間」項目で「10分」、「15分」に変更できます。(※P12-11)(スキャン設定 > 一時スキップ時間)

4 スキャンについて

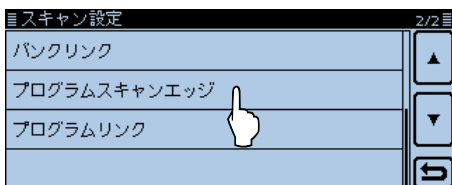
■ プログラムスキャンエッジの新規登録

プログラムスキャンのスキャン範囲を登録できます。登録するプログラムスキャンエッジごとにチューニングステップや、受信モードやスキャンネームを設定できます。出荷時の状態では、下記のプログラムスキャンエッジが登録されています。プログラムスキャンエッジは、00～24の25件登録できます。

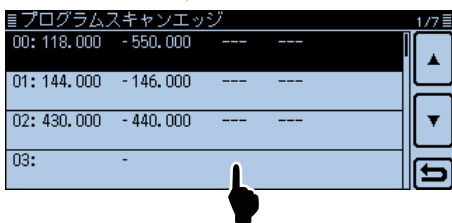
工場出荷時に記憶している内容

- 00: 118.000～550.000
- 01: 144.000～146.000
- 02: 430.000～440.000

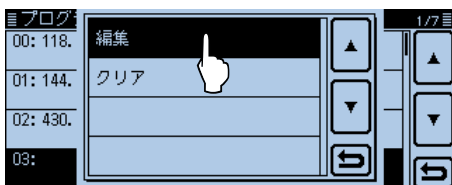
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「プログラムスキャンエッジ」をタッチする。
(スキャン設定 > プログラムスキャンエッジ)



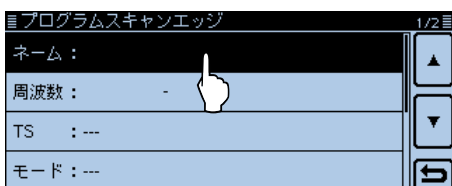
- ③ [▲]/[▼]をタッチする。
 - 登録したいプログラムスキャンエッジ画面を表示させます。
- ④ 登録したいプログラムスキャンエッジを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。



- ⑤ [編集]をタッチする。
 - 編集画面が表示されます。

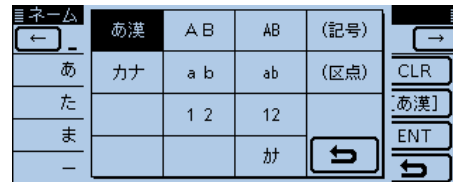


- ⑥ 「ネーム」をタッチする。



- ⑦ 入力したい文字がある枠を数回タッチして、1文字目の文字を選択する。(例 こ)

- 入力できる文字は、英数字とカタカナ、ひらがな、漢字、および記号です。
- 入力モードの切り替えは、現在の入力モード([あ漢]、[カナ]、[AB]、[ab]、[12])などをタッチします。



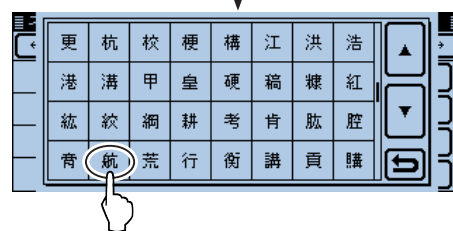
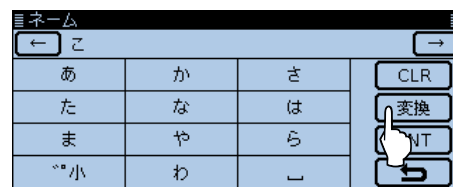
- ※[AB]、[ab]、[12]選択時は、[AB⇔12]、または[ab⇔12]が表示されます。タッチするとアルファベット入力と数字入力が切り替わります。

- ※アルファベット入力時は、[A/a]が表示されます。タッチすることにより、大文字/小文字が切り替わります。

- ※アルファベット入力時、[QUICK]をタッチすると、フルキーボード入力を選択できます。

- ※ひらがな、カタカナ入力時は、[ゝ ° 小]が表示されます。タッチすることにより、(例「は」、「ば」と「ば」)、または(例「っ」と「つ」)が切り替わります。濁音(ば)、半濁音(ば)、促音(っ)と拗音(あいうえおやゆよ)が入力できます。

- 漢字を選択したいときは、ひらがなを選択し、[変換]をタッチすると、文字一覧が表示されます。

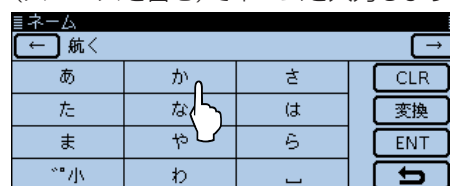


- [CLR]をタッチすると、選択した文字が削除されます。
- 「_」をタッチすると、スペースが挿入されます。

- ⑧ [←]/[→]をタッチしてカーソルを移動させる。

- 文字を入力する桁を選択します。

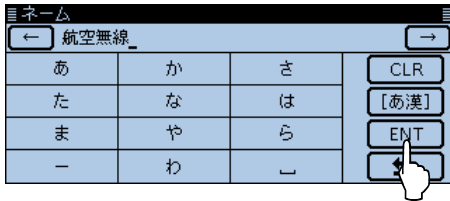
- ⑨ 手順⑦、⑧を繰り返し、全角8文字(半角16文字)以内(スペースを含む)でネームを入力します。(例 2桁: 空)



4 スキャンについて

■ プログラムスキャンエッジの新規登録(つづき)

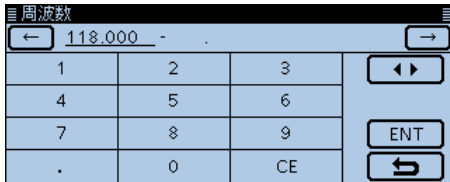
⑩ ネームを入力したら、[ENT]をタッチする。



⑪ 「周波数」をタッチする。



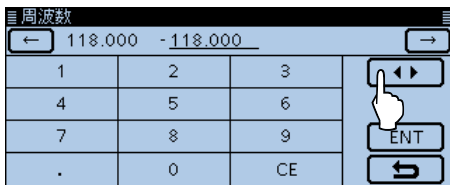
⑫ スキャンの下限周波数を入力する。
(例 118000)



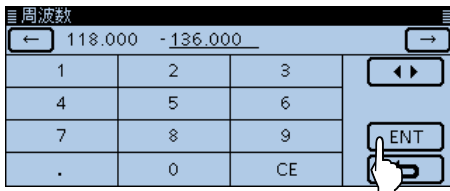
- [←]/[→]をタッチして入力する桁を選択します。
- [CE]をタッチすると、入力を取り消せます。
- MHzの桁を入力して[◀ ▶]をタッチすると、kHzの桁に「000」が自動的に入力されます。
※入力できない周波数があります。

⑬ [◀ ▶]をタッチする。

- 入力エリアが切り替わります。



⑭ スキャンの上限周波数を入力し、[ENT]をタッチする。
(例 136000)

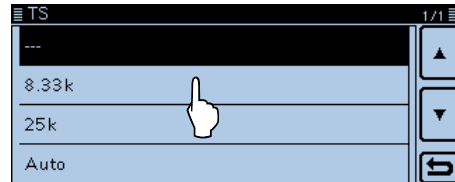


⑮ [TS]をタッチする。

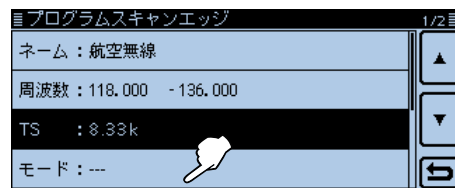


⑯ スキャンするチューニングステップをタッチする。

- 入力できるチューニングステップが表示されます。
- 「---」を選択すると、VFOモードで設定しているチューニングステップにしたがいます。

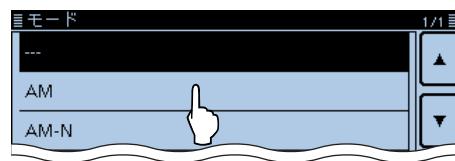


⑰ 「モード」をタッチする。

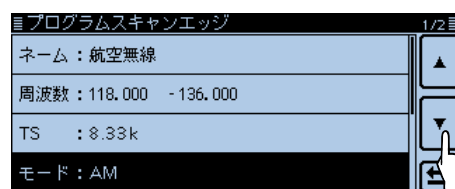


⑱ スキャンする受信モードをタッチする。

- 入力できる受信モードが表示されます。
- 「---」を選択すると、VFOモードで設定している受信モードにしたがいます。



⑲ [▼]をタッチする。

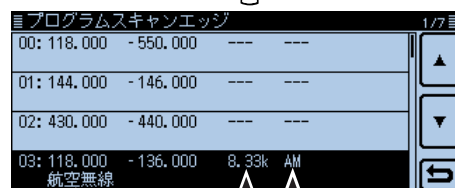
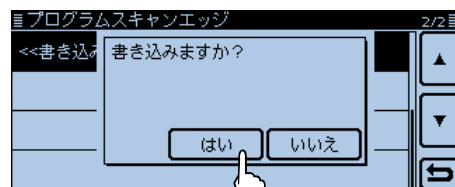


⑳ 「<<書き込み>>」をタッチする。



㉑ [はい]をタッチする。

- スキャンエッジが保存され、登録内容が表示されます。



↑ スキャン名称 ↑ チューニングステップ ↑ 受信モード

- プライオリティースキャンについて 5-2
 - ◇ VFO周波数とプライオリティチャンネル 5-2
 - ◇ VFO周波数とメモリー/バンクスキャン 5-2
 - ◇ VFOスキャンとプライオリティチャンネル 5-2
 - ◇ VFOスキャンとメモリー/バンクスキャン 5-2
 - ◇ DR機能のアクセスレピータ「FROM」と
プライオリティチャンネル 5-3
 - ◇ DRスキャンとプライオリティチャンネル 5-3
- VFO周波数とプライオリティチャンネル 5-4
- VFO周波数とメモリー/バンクスキャン 5-6
- VFOスキャンとプライオリティチャンネル 5-8
- VFOスキャンとメモリー/バンクスキャン 5-11
- DR機能とプライオリティチャンネル 5-13
- DRスキャンとプライオリティチャンネル 5-17

5 プライオリティースキャン

■ プライオリティースキャンについて

プライオリティースキャンは、受信やスキャンをしながら指定のプライオリティーチャンネル(M-CH/バンクCH/CALL-CH)を一定間隔でワッチ(信号の有無を確認)する機能です。

デュアルワッチ中、MAINバンドとSUBバンドで個別にプライオリティースキャンができます。

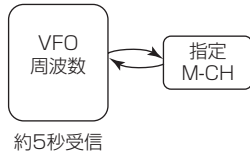
※ MAINバンドと、SUBバンド同時にDVモードの電波を受信した場合、MAINバンド側の音声だけが出力されます。

◇ VFO周波数とプライオリティーチャンネル

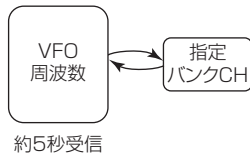
(☞P5-4)

VFO周波数を受信しながら、指定したプライオリティーチャンネルをワッチ(信号の有無を確認)します。ワッチするチャンネルは、M-CH、バンクCH、CALL-CHから指定できます。

●M-CHを指定



●バンクチャンネルを指定



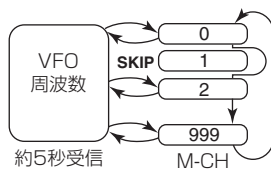
●コールチャンネルを指定



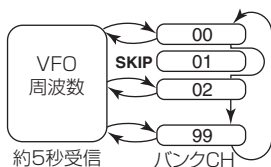
◇ VFO周波数とメモリー/バンクスキャン (☞P5-6)

VFO周波数を受信しながら、M-CH/バンクCHを順番にワッチ(信号の有無を確認)します。メモリースキャンとバンクスキャンが指定できます。

●メモリースキャンを指定



●バンクスキャンを指定

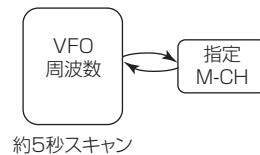


◇ VFOスキャンとプライオリティーチャンネル

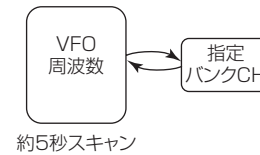
(☞P5-8)

VFOスキャンしながら、指定したプライオリティーチャンネルをワッチ(信号の有無を確認)します。ワッチするチャンネルは、M-CH、バンクCH、CALL-CHから指定できます。

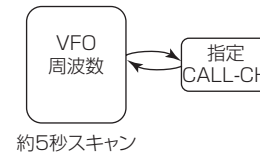
●M-CHを指定



●バンクチャンネルを指定



●コールチャンネルを指定

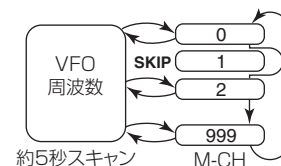


◇ VFOスキャンとメモリー/バンクスキャン

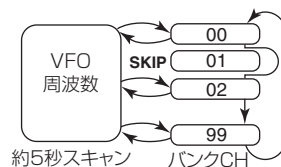
(☞P5-11)

VFOスキャンしながら、M-CH/バンクCHを順番にワッチ(信号の有無を確認)します。メモリースキャンとバンクスキャンが指定できます。

●メモリースキャンを指定



●バンクスキャンを指定



5 プライオリティースキャン

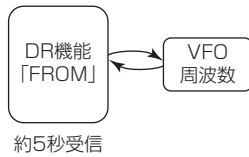
■ プライオリティースキャンについて(つづき)

◇ DR機能のアクセスレピータ[FROM]とプライオリティチャンネル

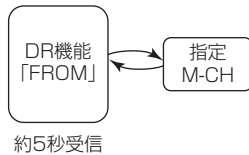
(P5-13)

DR機能使用時、「FROM」に設定したレピータ、またはシンプレックスの周波数を受信しながら、指定したプライオリティチャンネルを一定間隔でワッチ(信号の有無を確認)します。ワッチするチャンネル(周波数)は、VFO周波数、M-CH、バンクCH、CALL-CHから指定できます。

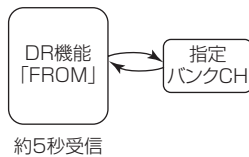
●VFO周波数を指定



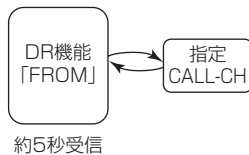
●M-CHを指定



●バンクチャンネルを指定



●コールチャンネルを指定

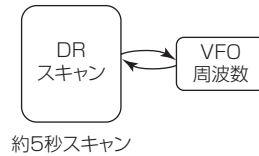


◇ DRスキャンとプライオリティチャンネル

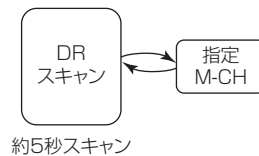
(P5-17)

DR機能使用時、DRスキャンをしながら、指定したプライオリティチャンネルを一定間隔でワッチ(信号の有無を確認)します。ワッチするチャンネル(周波数)は、VFO周波数、M-CH、バンクCH、CALL-CHから指定できます。

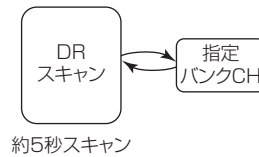
●VFO周波数を指定



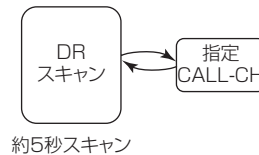
●M-CHを指定



●バンクチャンネルを指定



●コールチャンネルを指定



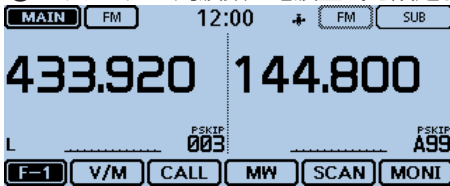
5 プライオリティースキャン

■ VFO周波数とプライオリティチャンネル

VFO周波数を受信しながら、指定したプライオリティチャンネルを約5秒に1回、自動的にワッチ(信号の有無を確認)します。

1. VFO周波数を設定する

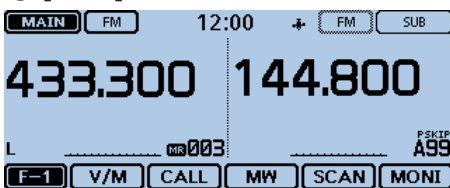
- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [VFO]をタッチする。
- ③ ワッチしたい周波数と電波型式を設定する。



2. プライオリティチャンネルを指定する

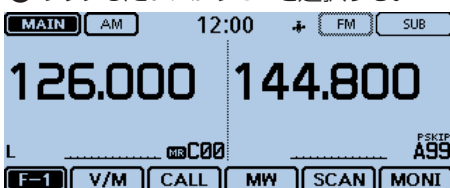
●M-CHを指定する場合

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [MR]をタッチする。
- ③ [DIAL]を回して、ワッチしたいM-CHを選択する。



●バンクCHを指定する場合

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [BANK]をタッチする。
- ③ ワッチしたいバンクCHを選択する。

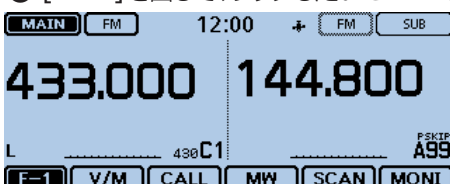


【ご参考：メモリー/バンクを切り替える】

- ① メモリーモードで、[QUICK]をタッチする。
- ② 「バンク切替」をタッチする。
 - 選択できるバンクの一覧が表示されます。
- ③ バンクを選択します。
 - [OFF]を選択すると、バンク表示を解除します。

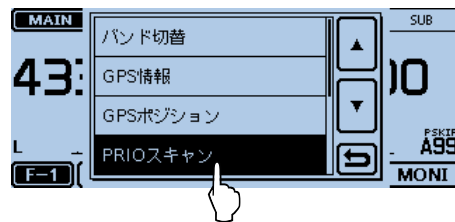
●CALL-CHを指定する場合

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [CALL]をタッチする。
- ③ [DIAL]を回して、ワッチしたいCALL-CHを選択する。

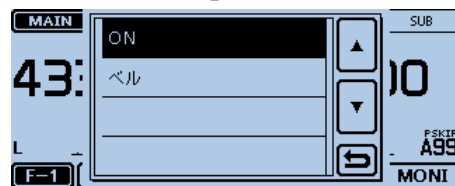


3. プライオリティースキャンをスタートさせる

- ① [QUICK]をタッチする。
- ② 「PRIOスキャン」をタッチする。



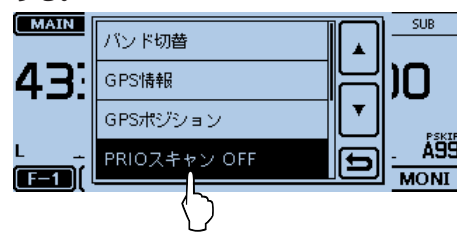
- ③ 「ON」、または「ベル」をタッチする。
 - ON : プライオリティチャンネルで信号を受信すると、指定のチャンネルに切り替わります。
 - ベル : プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク「(・)」が点滅します。



- 「PRIO」表示が点灯して、プライオリティースキャンがスタートします。



プライオリティースキャンを解除するには [QUICK]をタッチして、「PRIOスキャン OFF」をタッチする。



(次のページへ)

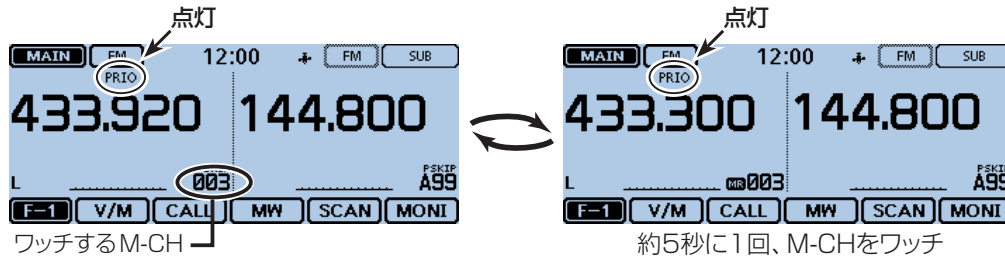
5 プライオリティースキャン

■ VFO周波数とプライオリティチャンネル(つづき)

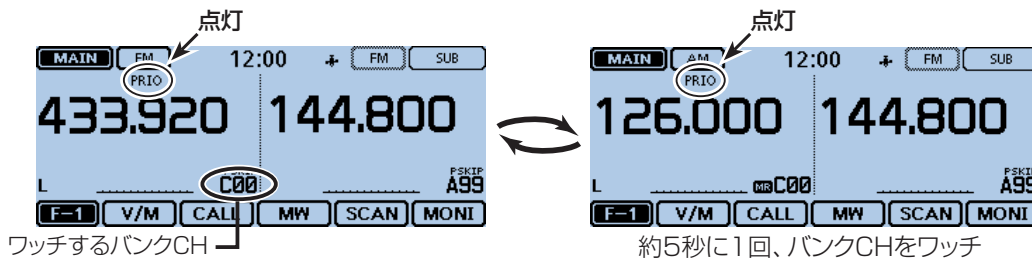
4. プライオリティースキャン中の動作

- VFO周波数を受信しながら、指定したプライオリティチャンネルを約5秒に1回、自動的にワッチします。

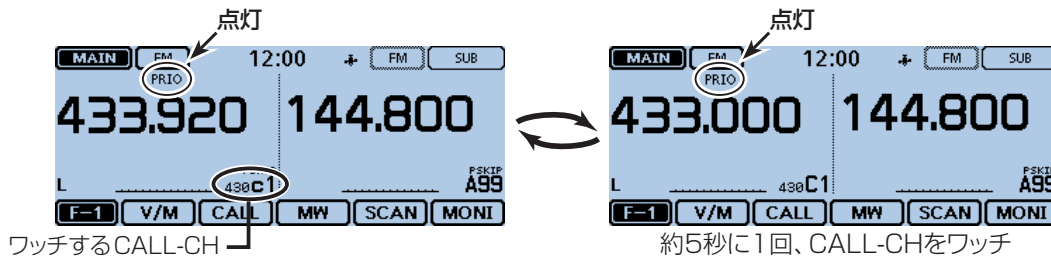
例：VFOモード433.920MHzとプライオリティチャンネルに指定したM-CH「3」をワッチする時の表示



例：VFOモード433.920MHzとプライオリティチャンネルに指定したバンクCH「C00」をワッチする時の表示



例：VFOモード433.920MHzとプライオリティチャンネルに指定したCALL-CH「C1(430)」をワッチする時の表示



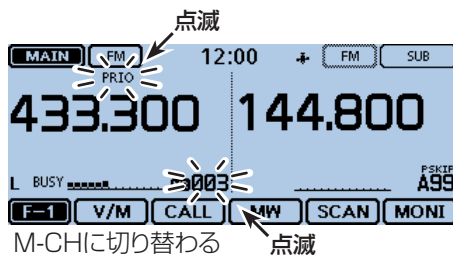
5. 信号を受信すると

●「ON」選択時

指定したプライオリティチャンネルで信号を受信すると、その指定したプライオリティチャンネルの表示に切り替わります。

※ 一時停止の時間、および再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(P12-11)

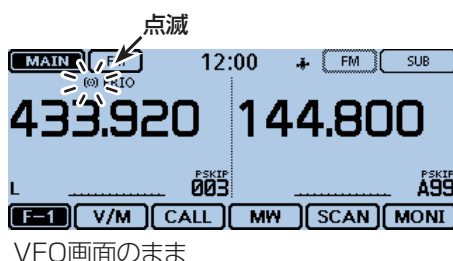
(例：M-CH「3」をプライオリティチャンネルにした場合)



●「ベル」選択時

プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク「(●)」が点滅します。

※ プライオリティチャンネルの表示には切り替わりません。



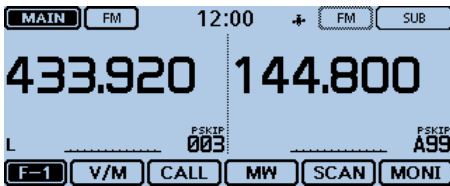
5 プライオリティースキャン

■ VFO周波数とメモリー/バンクスキャン

VFO周波数を受信しながら、メモリーチャンネル/バンクチャンネルを約5秒に1回、順番にワッチ(信号の有無を確認)します。

1. VFO周波数を設定する

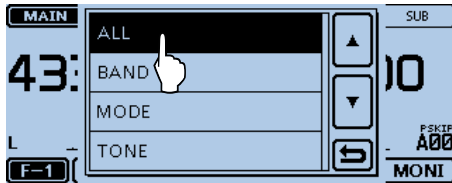
- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [VFO]をタッチする。
- ③ ワッチしたい周波数と電波型式を設定する。



2. メモリー/バンクスキャンをスタートさせる

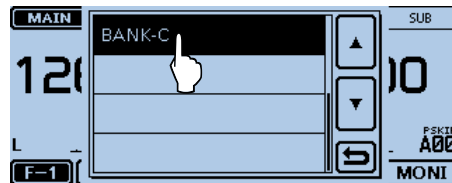
●メモリースキャンを指定する場合

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [MR]をタッチする。
- ③ [SCAN]をタッチする。
 - 「スキャンタイプ選択」画面が表示されます。
- ④ スキャンしたいタイプをタッチする。
 - メモリースキャンがスタートします。



●バンクスキャンを指定する場合

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [MR]をタッチする。
- ③ [SCAN]をタッチする。
 - 「スキャンタイプ選択」画面が表示されます。
- ④ スキャンしたいバンクをタッチする。
 - メモリーバンクスキャンがスタートします。

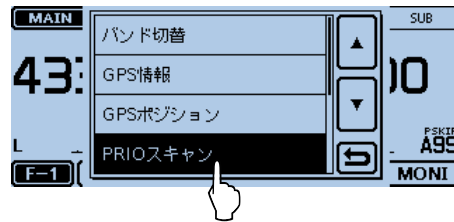


【ご参考：メモリー/バンクを切り替える】

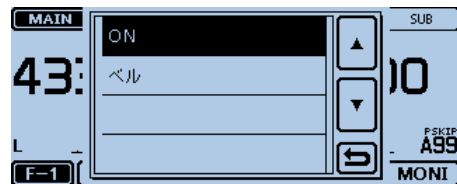
- ① メモリーモードで、[QUICK]をタッチする。
- ② 「バンク切替」をタッチする。
 - 選択できるバンクの一覧が表示されます。
- ③ バンクを選択します。
 - [OFF]を選択すると、バンク表示を解除します。

3. プライオリティースキャンをスタートさせる

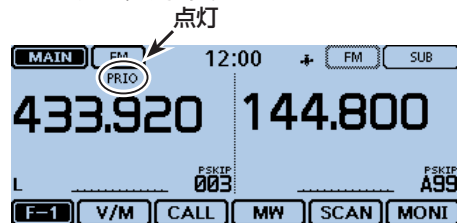
- ① [QUICK]をタッチする。
- ② 「PRIOスキャン」をタッチする。



- ③ 「ON」、または「ベル」をタッチする。
 - ON : プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、指定のチャンネルに切り替わります。
 - ベル : プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク「(⊙)」が点滅します。



- 「PRIO」表示が点灯して、プライオリティースキャンがスタートします。



プライオリティースキャンを解除するには [QUICK]をタッチして、「PRIOスキャン OFF」をタッチする。

- メモリー/バンクスキャンも解除されます。



(次のページへ)

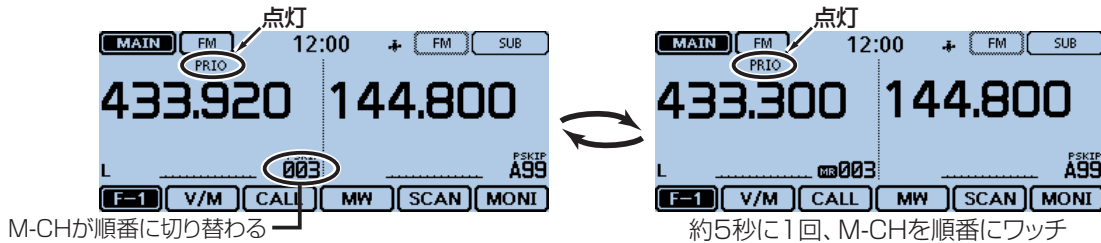
5 プライオリティースキャン

■ VFO周波数とメモリー/バンクスキャン(つづき)

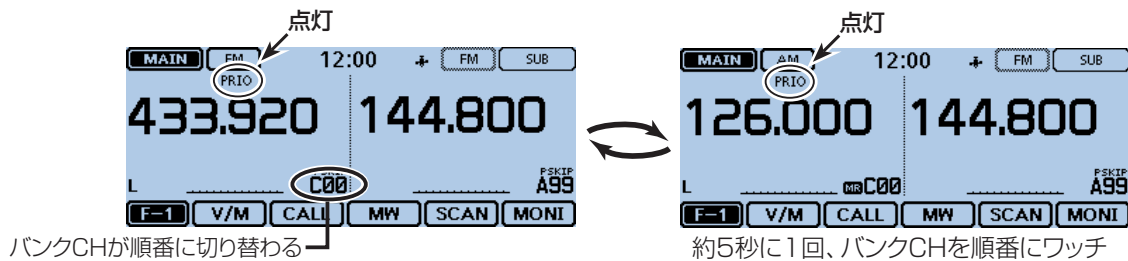
4. プライオリティースキャン中の動作

- VFO周波数を受信しながら、メモリーチャンネル/バンクチャンネルを約5秒に1回、順番にワッチします。

例：VFOモード433.920MHzとM-CHを順番にワッチする時の表示



例：VFOモード433.920MHzとバンクCHを順番にワッチする時の表示



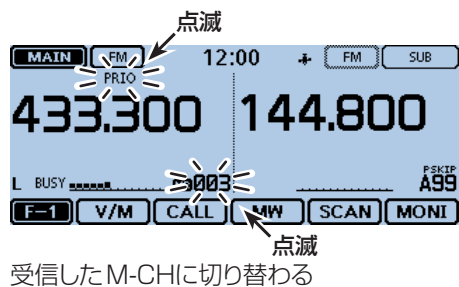
5. 信号を受信すると

●「ON」選択時

指定したプライオリティーチャンネルで信号を受信すると、その指定したプライオリティーチャンネルの表示に切り替わります。

※ 一時停止の時間、および再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(P12-11)

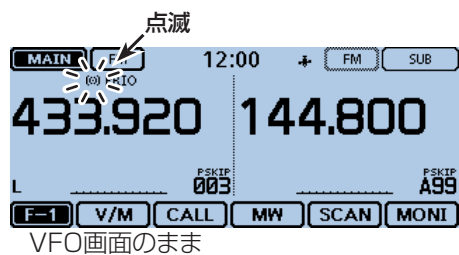
(例：メモリースキャンの場合)



●「ベル」選択時

プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク「(・)」が点滅します。

※プライオリティーチャンネルの表示には切り替わりません。



5 プライオリティースキャン

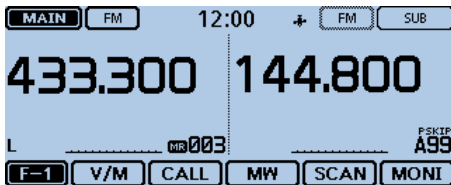
■ VFOスキャンとプライオリティチャンネル

VFOスキャンしながら、指定したプライオリティチャンネルを約5秒に1回、ワッチ(信号の有無を確認)します。

1. ワッチするチャンネルを指定する

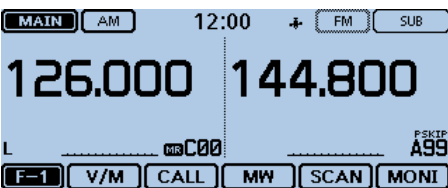
●M-CHを指定する場合

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [MR]をタッチする。
- ③ [DIAL]を回して、ワッチしたいM-CHを選択する。



●バンクCHを指定する場合

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [BANK]をタッチする。
- ③ ワッチしたいバンクCHを選択する。

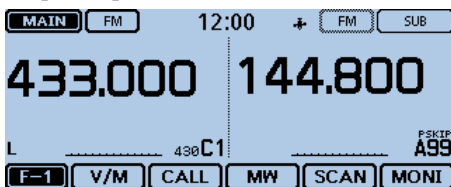


【ご参考：メモリー/バンクを切り替える】

- ① メモリーモードで、[QUICK]をタッチする。
- ② 「バンク切替」をタッチする。
 - 選択できるバンクの一覧が表示されます。
- ③ バンクを選択します。
 - 「OFF」を選択すると、バンク表示を解除します。

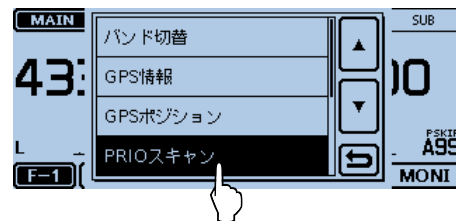
●CALL-CHを指定する場合

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [CALL]をタッチする。
- ③ [DIAL]を回して、ワッチしたいCALL-CHを選択する。

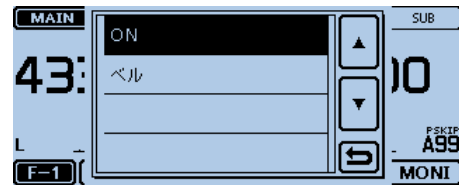


2. プライオリティースキャンをスタートさせる

- ① [QUICK]をタッチする。
- ② 「PRIOスキャン」をタッチする。



- ③ 「ON」、または「ベル」をタッチする。
 - ON : プライオリティチャンネルで信号を受信すると、指定のチャンネルに切り替わります。
 - ベル : プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク「(••)」が点滅します。



- 「PRIO」表示が点灯して、プライオリティースキャンがスタートします。



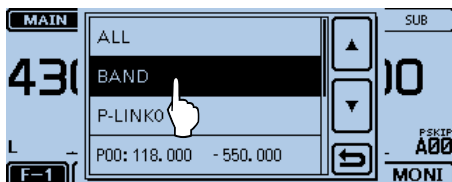
(次のページへ)

5 プライオリティースキャン

■ VFOスキャンとプライオリティチャンネル

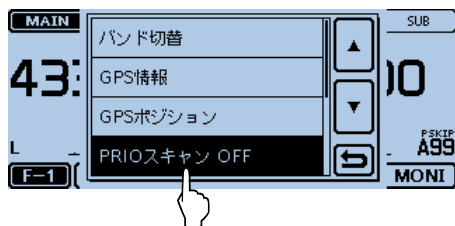
3. VFOスキャンをスタートさせる

- ① [SCAN]をタッチする。
 - 「スキャンタイプ選択」画面が表示されます。
- ② スキャンするタイプをタッチする。
 - VFOスキャンがスタートします。



プライオリティースキャンを解除するには
[QUICK]をタッチして、「PRIOスキャン OFF」をタッチ
する。

- プライオリティースキャンは解除されますが、VFOス
キャンは継続します。



- [SCAN]をタッチすると、VFOスキャンも解除されま
す。

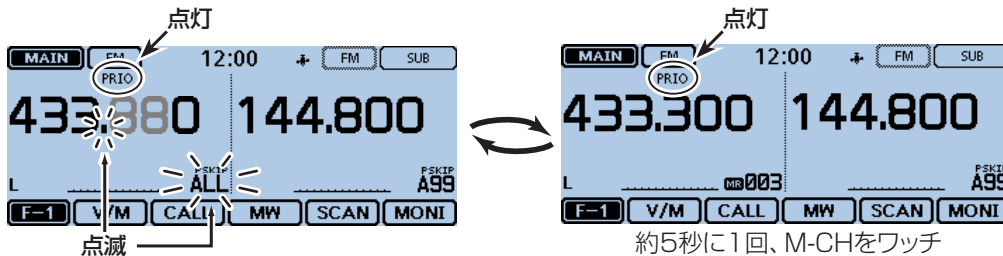
5 プライオリティースキャン

■ VFOスキャンとプライオリティチャンネル(つづき)

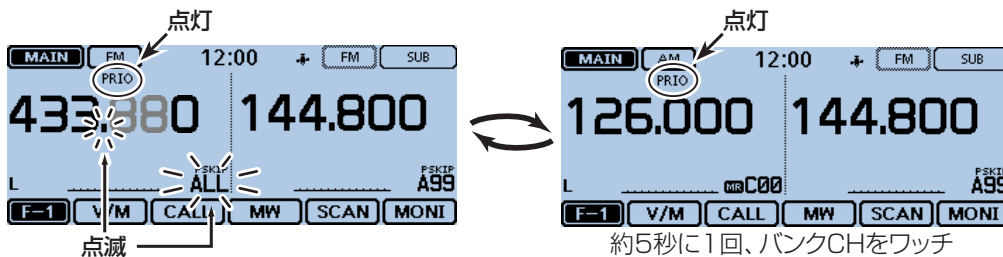
4. プライオリティースキャン中の動作

- VFO周波数を受信しながら、指定したプライオリティチャンネルを約5秒に1回、ワッチします。

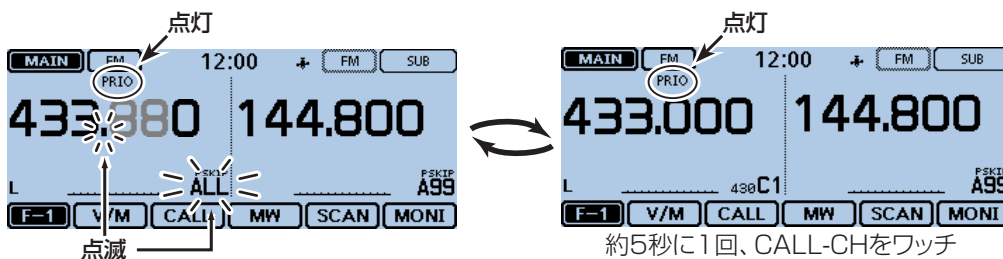
例：VFOフルスキャンしながらプライオリティチャンネルに指定したM-CH「3」をワッチする時の表示



例：VFOスキャンしながらプライオリティチャンネルに指定したバンクCH「C00」をワッチする時の表示



例：VFOスキャンしながらプライオリティチャンネルに指定したCALL-CH「C1(430)」をワッチする時の表示



5. 信号を受信すると

●「ON」選択時

指定したプライオリティチャンネルで信号を受信すると、その指定したプライオリティチャンネルの表示に切り替わります。

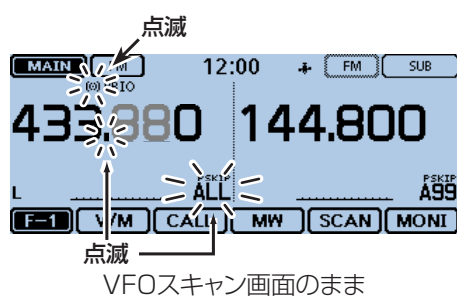
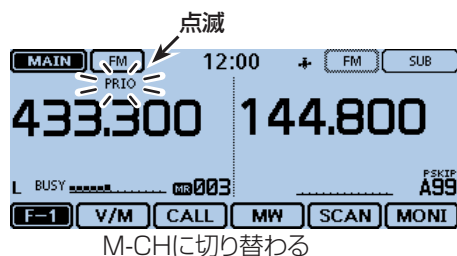
※一時停止の時間、および再スタートの条件は、ほかのスクリーンと同じです。(P12-11)

●「ベル」選択時

プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFOスキャン画面でベルマーク「(●)」が点滅します。

※プライオリティチャンネルの表示には切り替わりません。

(例：M-CHの場合)



5 プライオリティースキャン

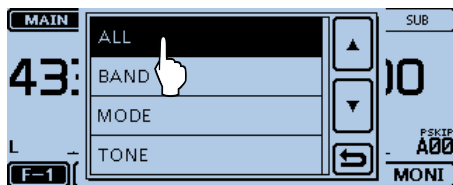
■ VFOスキャンとメモリー/バンクスキャン

VFOスキャンしながら、メモリーチャンネル/バンクチャンネルを約5秒1回、順番にワッチ(信号の有無を確認)します。

1. メモリー/バンクスキャンをスタートさせる

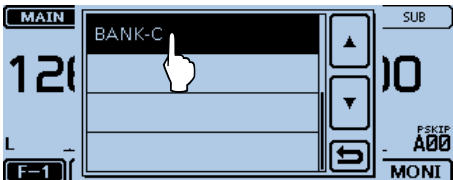
●メモリースキャンを指定する場合

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [MR]をタッチする。
- ③ [SCAN]をタッチする。
 - 「スキャンタイプ選択」画面が表示されます。
- ④ スキャンしたいタイプをタッチする。
 - メモリースキャンがスタートします。



●バンクスキャンを指定する場合

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [MR]をタッチする。
- ③ [SCAN]をタッチする。
 - 「スキャンタイプ選択」画面が表示されます。
- ④ スキャンしたいバンクをタッチする。
 - メモリーバンクスキャンがスタートします。



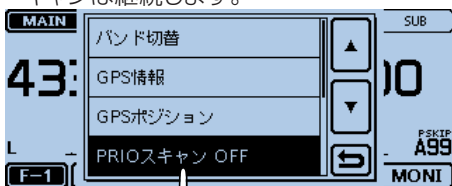
【ご参考：メモリー/バンクを切り替える】

- ① メモリーモードで、[QUICK]をタッチする。
- ② 「バンク切替」をタッチする。
 - 選択できるバンクの一覧が表示されます。
- ③ バンクを選択します。
 - [OFF]を選択すると、バンク表示を解除します。

プライオリティースキャンを解除するには

[QUICK]をタッチして、「PRIOスキャン OFF」をタッチする。

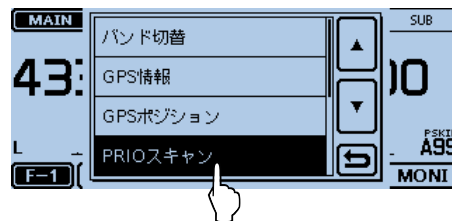
●プライオリティースキャンは解除されますが、VFOスキャンは継続します。



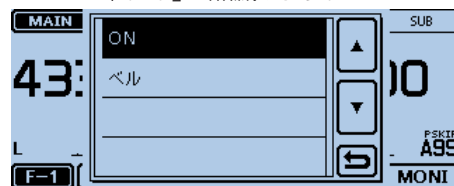
●[SCAN]をタッチすると、VFOスキャンも解除されます。

2. プライオリティースキャンをスタートさせる

- ① [QUICK]をタッチする。
- ② 「PRIOスキャン」をタッチする。



- ③ 「ON」、または「ベル」をタッチする。
 - ON : プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、指定のチャンネルに切り替わります。
 - ベル : プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク「(••)」が点滅します。

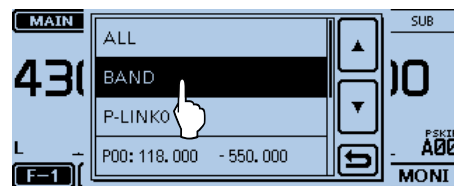


- 「PRIO」表示が点灯して、プライオリティースキャンがスタートします。



3. VFOスキャンをスタートさせる

- ① [SCAN]をタッチする。
 - 「スキャンタイプ選択」画面が表示されます。
- ② スキャンするタイプをタッチする。
 - VFOスキャンがスタートします。



(次のページへ)

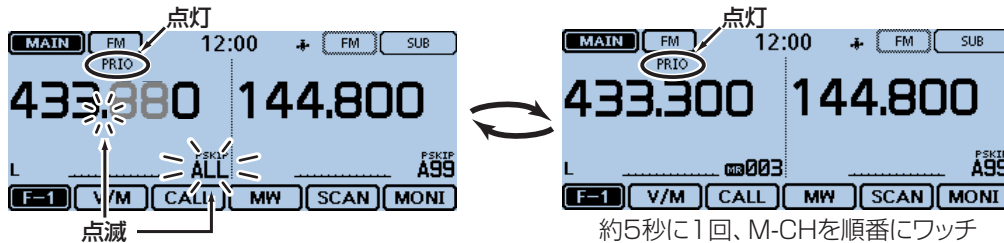
5 プライオリティースキャン

■ VFOスキャンとメモリー/バンクスキャン(つづき)

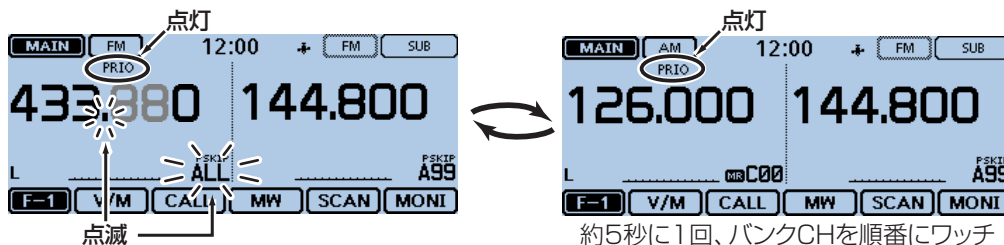
4. プライオリティースキャン中の動作

- VFOスキャンしながら、メモリーチャンネル/バンクチャンネルを約5秒1回、順番にワッチします。

例：VFOスキャンしながら、プライオリティーチャンネルに指定したM-CHを順番にワッチする時の表示



例：VFOスキャンしながら、プライオリティーチャンネルに指定したバンクCHを順番にワッチする時の表示



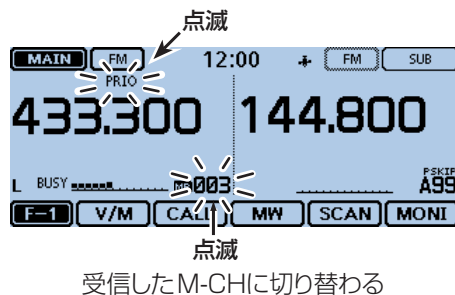
5. 信号を受信すると

●「ON」選択時

指定したプライオリティーチャンネルで信号を受信すると、その指定したプライオリティーチャンネルの表示に切り替わります。

※一時停止の時間、および再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(P12-11)

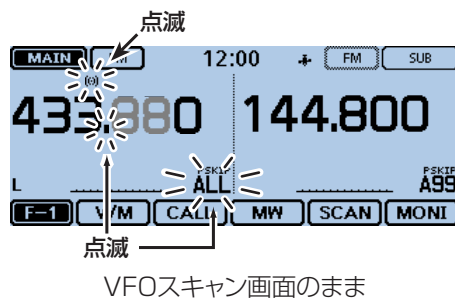
(例：メモリースキャンの場合)



●「ベル」選択時

プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFOスキャン画面でベルマーク「(●)」が点滅します。

※プライオリティーチャンネルの表示には切り替わりません。



5 プライオリティースキャン

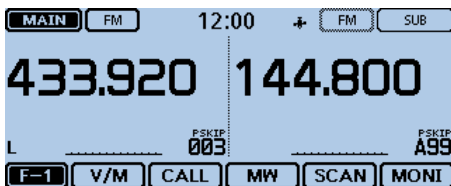
■ DR機能とプライオリティチャンネル

DR機能で「FROM」に設定したレピータ、またはシンプレックス周波数を受信しながら、指定したプライオリティチャンネルを約5秒に1回、ワッチ(信号の有無を確認)します。DR画面に切り替える前の状態が、プライオリティチャンネルになります。

1. ワッチする周波数、またはチャンネルを指定する

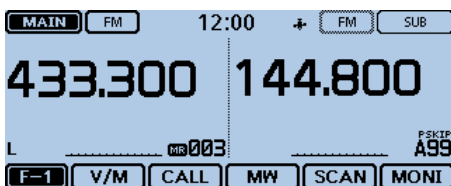
●VFO周波数を設定する場合

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [VFO]をタッチする。
- ③ ワッチしたい周波数と電波型式を設定する。



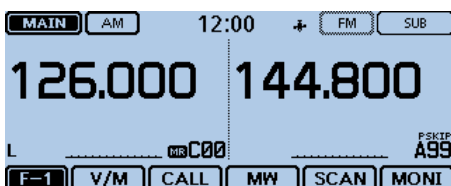
●M-CHを指定する場合

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [MR]をタッチする。
- ③ [DIAL]を回して、ワッチしたいM-CHを選択する。



●バンクCHを指定する場合

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [BANK]をタッチする。
- ③ ワッチしたいバンクCHを選択する。

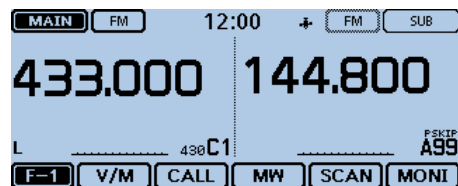


【ご参考：メモリー/バンクを切り替える】

- ① メモリーモードで、[QUICK]をタッチする。
- ② 「バンク切替」をタッチする。
 - 選択できるバンクの一覧が表示されます。
- ③ バンクを選択します。
 - [OFF]を選択すると、バンク表示を解除します。

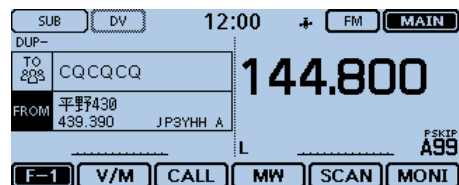
●CALL-CHを指定する場合

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [CALL]をタッチする。
- ③ [DIAL]を回して、ワッチしたいCALL-CHを選択する。



2. DR機能で受信したいレピータ、またはシンプレックス周波数を指定する

- ① [DR]をタッチする。
 - DR画面に切り替わります。
- ② 「FROM」(アクセスレピータ)をタッチする。
- ③ [DIAL]を回して、受信したいレピータ、またはシンプレックス周波数を選択します。



プライオリティースキャンを解除するには [QUICK]をタッチして、「PRIOスキャン OFF」をタッチする。



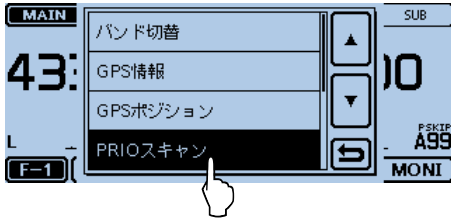
(次のページへ)

5 プライオリティースキャン

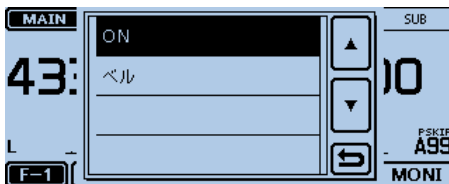
■ DR機能とプライオリティチャンネル(つづく)

3. プライオリティースキャンをスタートさせる

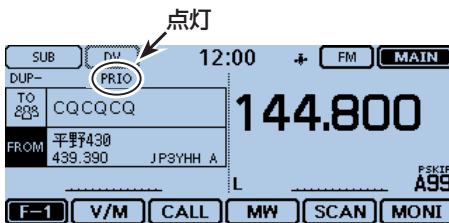
- ① [QUICK]をタッチする。
- ② 「PRIOスキャン」をタッチする。



- ③ 「ON」、または「ベル」をタッチする。
 - ON : プライオリティチャンネルで信号を受信すると、指定のチャンネルに切り替わります。
 - ベル : プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク「(・)」が点滅します。



- 「PRIO」表示が点灯して、プライオリティースキャンがスタートします。



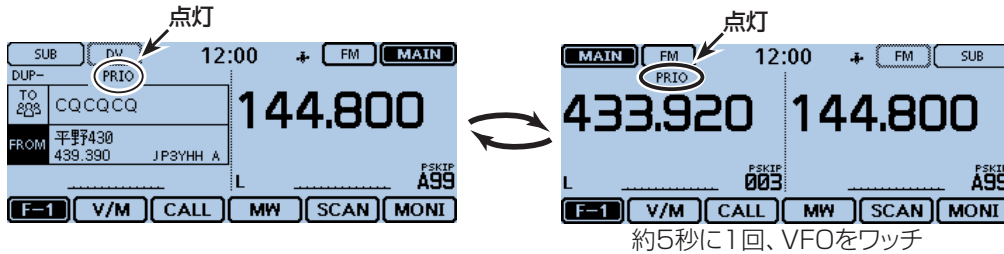
5 プライオリティースキャン

■ DR機能とプライオリティチャンネル(つづく)

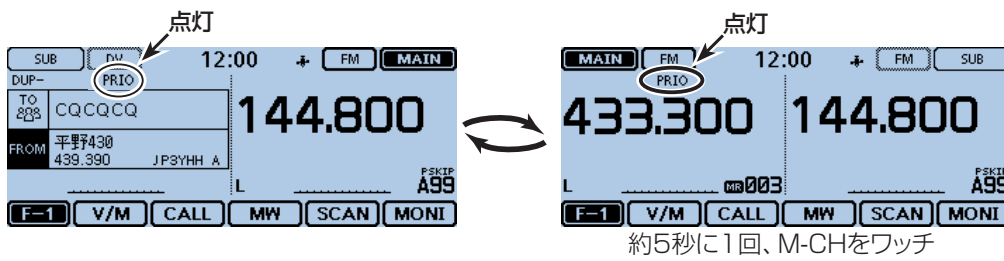
4. プライオリティースキャン中の動作

- DR機能で「FROM」に設定したレピータ、またはシンプレックス周波数を受信しながら、指定したプライオリティチャンネル(周波数)を約5秒に1回、ワッチします。

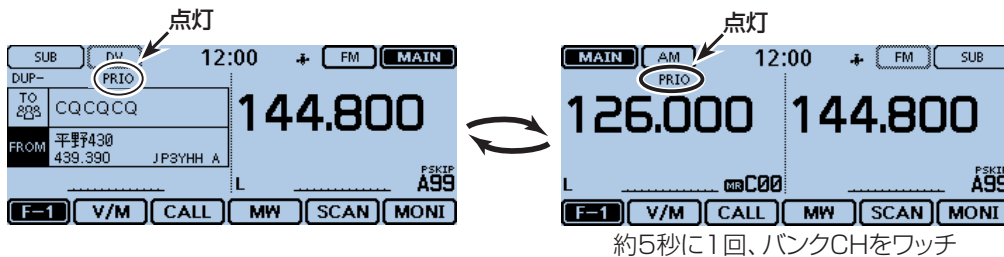
例：DR機能でレピータ、またはシンプレックス周波数を受信しながら、プライオリティチャンネルに指定したVFO周波数をワッチする時の表示



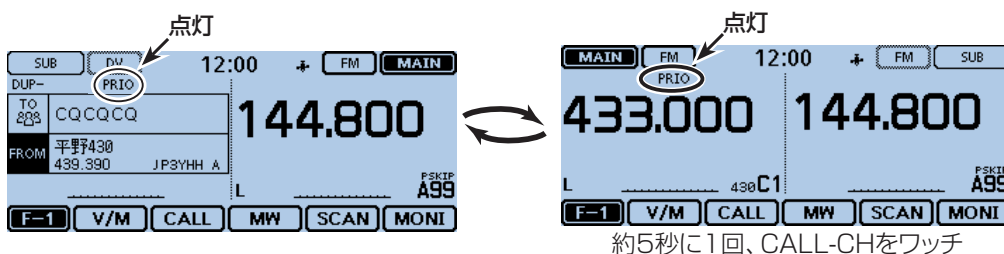
例：DR機能でレピータ、またはシンプレックス周波数を受信しながら、プライオリティチャンネルに指定したM-CH「3」をワッチする時の表示



例：DR機能でレピータ、またはシンプレックス周波数を受信しながら、プライオリティチャンネルに指定したバンクCH「C00」をワッチする時の表示



例：DR機能でレピータ、またはシンプレックス周波数を受信しながら、プライオリティチャンネルに指定したCALL-CH「C1(430)」をワッチする時の表示



(次のページへ)

5 プライオリティースキャン

■ DR機能とプライオリティチャンネル(つづく)

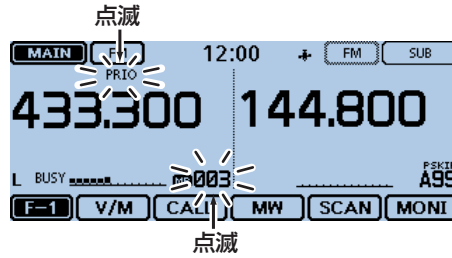
5. 信号を受信すると

●「ON」選択時

指定したプライオリティチャンネルで信号を受信すると、その指定したプライオリティチャンネルの表示に切り替わります。

※ 一時停止の時間、および再スタートの条件は、ほかのスキキャンと同じです。(P12-11)

(例 : M-CHの場合)

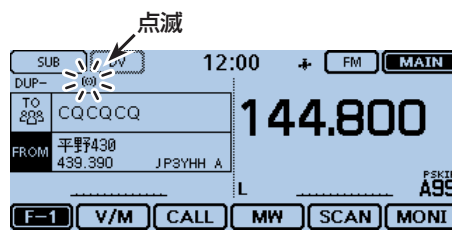


受信したM-CHに切り替わる

●「ベル」選択時

プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、DR画面でベルマーク「(●)」が点滅します。

※ プライオリティチャンネルの表示には切り替わりません。



DR画面のまま

5 プライオリティースキャン

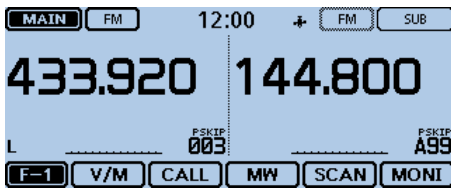
■ DRスキャンとプライオリティーチャンネル

DRスキャンをしながら、指定したプライオリティーチャンネルを約5秒に1回、ワッチ(信号の有無を確認)します。DR機能に切り替える前の状態が、プライオリティーチャンネルになります。

1. ワッチする周波数、またはチャンネルを指定する

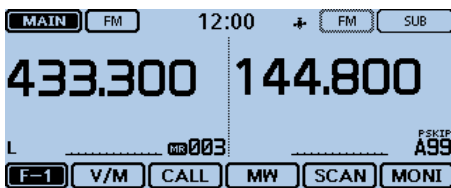
●VFO周波数を設定する場合

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [VFO]をタッチする。
- ③ ワッチしたい周波数と電波型式を設定する。



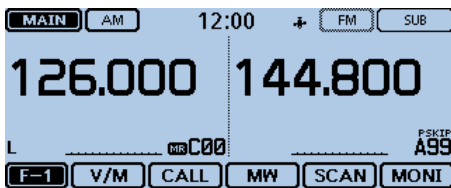
●M-CHを指定する場合

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [MR]をタッチする。
- ③ [DIAL]を回して、ワッチしたいM-CHを選択する。



●バンクCHを指定する場合

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [BANK]をタッチする。
- ③ ワッチしたいバンクCHを選択する。

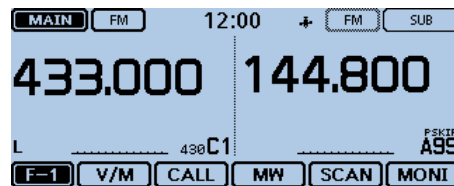


ご参考：メモリー/バンクを切り替える

- ① メモリーモードで、[QUICK]をタッチする。
- ② 「バンク切替」をタッチする。
 - 選択できるバンクの一覧が表示されます。
- ③ バンクを選択します。
 - [OFF]を選択すると、バンク表示を解除します。

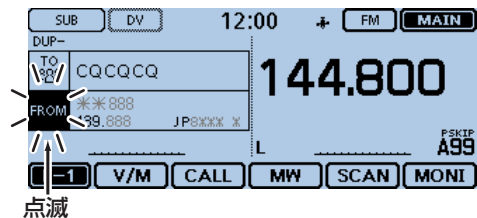
●CALL-CHを指定する場合

- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [CALL]をタッチする。
- ③ [DIAL]を回して、ワッチしたいCALL-CHを選択する。



2. DRスキャンをスタートさせる

- ① [DR]をタッチする。
 - DR画面に切り替わります。
- ② [SCAN]をタッチする。
 - 「スキャンタイプ選択」画面が表示されます。
- ③ スキャンするタイプをタッチする。
 - DRスキャンがスタートします。



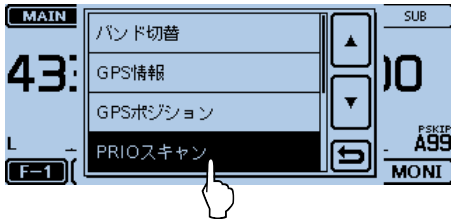
(次のページへ)

5 プライオリティースキャン

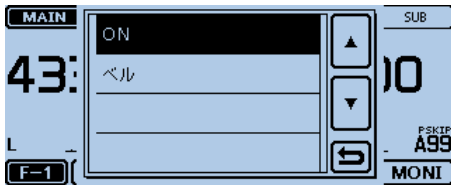
■ DRスキャンとプライオリティチャンネル(つづく)

3. プライオリティースキャンをスタートさせる

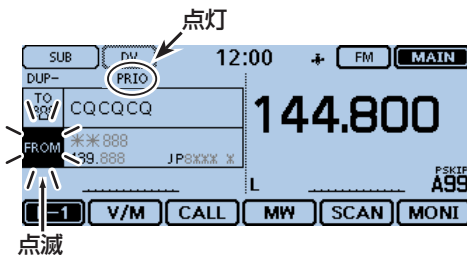
- ① [QUICK]をタッチする。
- ② 「PRIOスキャン」をタッチする。



- ③ 「ON」、または「ベル」をタッチする。
 - ON : プライオリティチャンネルで信号を受信すると、指定のチャンネルに切り替わります。
 - ベル : プライオリティチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、VFO画面でベルマーク「(・)」が点滅します。

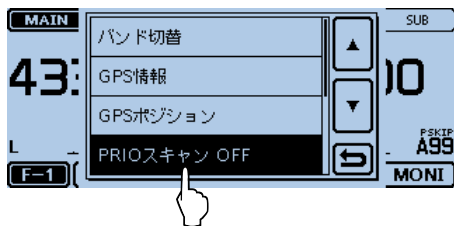


- 「PRIO」表示が点灯して、プライオリティースキャンがスタートします。



プライオリティースキャンを解除するには [QUICK]をタッチして、「PRIOスキャン OFF」をタッチする。

- プライオリティースキャンは解除されますが、DRスキャンは継続します。



- [SCAN]をタッチすると、DRスキャンも解除されます。

(次のページへ)

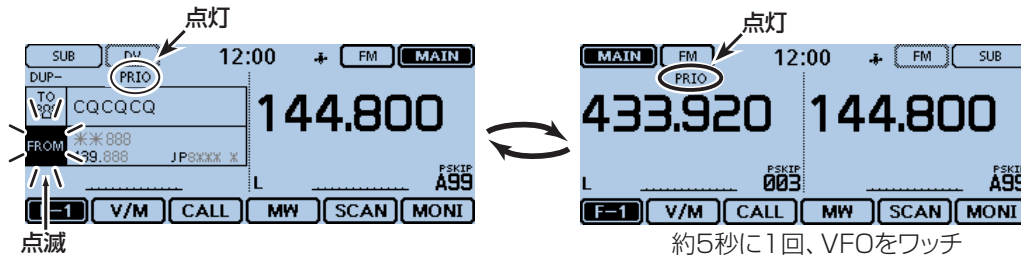
5 プライオリティースキャン

■ DRスキャンとプライオリティチャンネル(つづき)

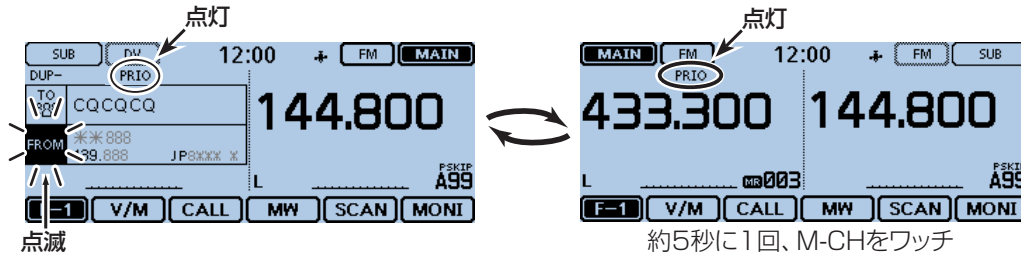
4. プライオリティースキャン中の動作

- DRスキャンをしながら、指定したプライオリティチャンネル(周波数)を約5秒に1回、ワッチします。

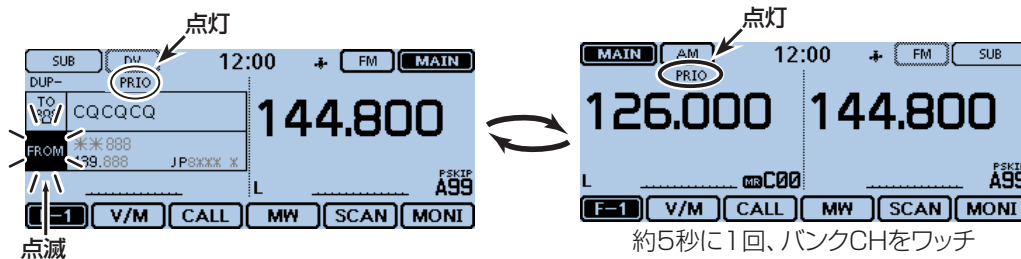
例：DRスキャンをしながら、プライオリティチャンネルに指定したVFO周波数をワッチする時の表示



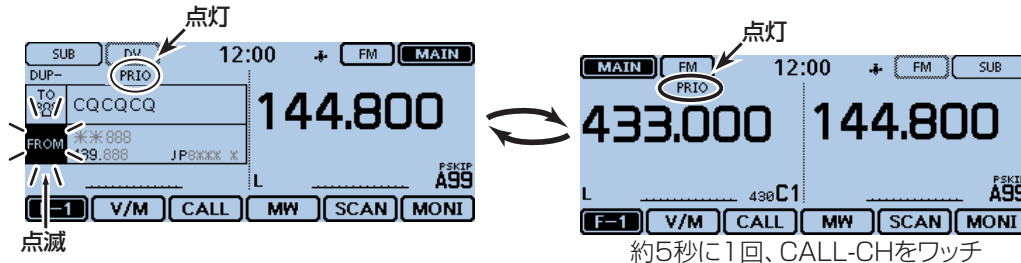
例：DRスキャンをしながら、プライオリティチャンネルに指定したM-CH「490」をワッチする時の表示



例：DRスキャンをしながら、プライオリティチャンネルに指定したバンクCH「D06」をワッチする時の表示



例：DRスキャンをしながら、プライオリティチャンネルに指定したCALL-CH「C1(430)」をワッチする時の表示



(次のページへ)

5 プライオリティースキャン

■ DRスキャンとプライオリティーチャンネル(つづき)

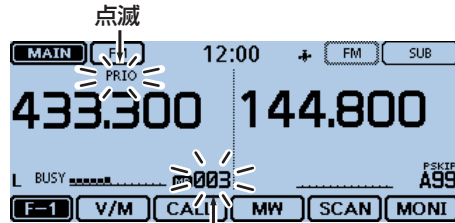
5. 信号を受信すると

●「ON」選択時

指定したプライオリティーチャンネルで信号を受信すると、その指定したプライオリティーチャンネルの表示に切り替わります。

※ 一時停止の時間、および再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(P12-11)

(例：M-CHの場合)

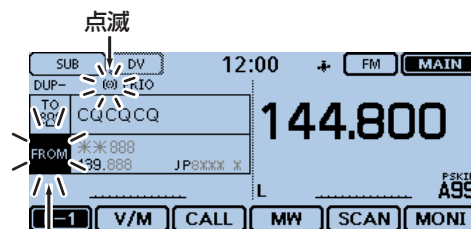


M-CHに切り替わる

●「ベル」選択時

プライオリティーチャンネルで信号を受信するとベル音が鳴り、DRスキャン画面でベルマーク「(●)」が点滅します。

※プライオリティーチャンネルの表示には切り替わりません。



DRスキャン画面のまま

■ D-STAR [®] の楽しみかた	6-2
■ D-STAR [®] とは	6-3
■ DR機能とは	6-3
■ DR機能でできること	6-3
■ 自局のコールサインを無線機に登録する	6-4
■ 自局のコールサインをD-STAR管理サーバーに登録する	6-6
■ レピータを使わずに通信しよう	6-8
■ レピータに電波が届くか確認してみよう	6-9
■ 受信履歴の使いかた	6-10
■ いますぐ応答したい	6-11
■ 山かけCQを出そう	6-12
■ ゲート越えCQを出そう	6-13
■ 特定局を呼び出そう	6-14
■ 応答がないとき	6-15
■ 「FROM」の各種設定方法	6-16
◇レピータリストから選択する	6-17
◇DRスキャンでレピータを探す	6-18
◇最寄レピータから設定する	6-19
◇送信履歴から設定する	6-20
■ 「TO」の各種設定方法	6-21
◇山かけCQを出したいとき	6-22
◇ゲート越えCQを出したいとき	6-22
◇「個人局」から設定する	6-23
◇「受信履歴」から設定する	6-24
◇「送信履歴」から設定する	6-25
◇「ダイレクト入力(UR)」から設定する	6-26
◇「ダイレクト入力(RPT)」から設定する	6-27
■ リフレクターを運用するには	6-28
◇リフレクターとは？	6-28
◇リフレクターを使う	6-28
◇リフレクターにリンクする	6-29
◇リフレクターへのリンクを解除(アンリンク)する	6-30
◇アクセスレピータに信号が届いているか確認する	6-31
◇レピータの情報を取得する	6-31
■ レピータリストを更新するには	6-32
■ 設定をメモリーに書き込むには	6-34

DR機能を使用せずにデジタル通信をするには

デジタル通信をするには、VFOモードやメモリーモード、コールチャンネルモードでも運用することができます。ID-5100の取扱説明書では、簡単に設定できるDR機能での運用を中心に説明していますので、各運用モードでデジタル通信をする場合は、右記の手順で設定してください。

レピータ運用時の設定のしかた

- ① アクセスレピータの周波数を設定する (☞P11-2)
- ② オフセット周波数を設定する (☞P11-4)
- ③ デュプレックスを設定する (☞P11-4)
- ④ コールサインを設定する (☞P12-30)

シンプレックス運用時の設定のしかた

- ① 周波数を設定する (☞P2-5)
- ② コールサインを設定する (☞P12-30)

6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

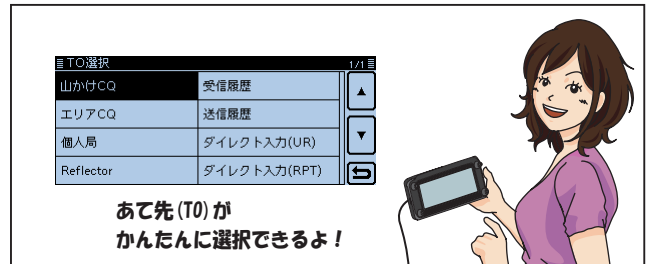
■ D-STAR® の楽しみかた

- 430MHz、1200MHzの異なるバンドでも相互に交信ができる!

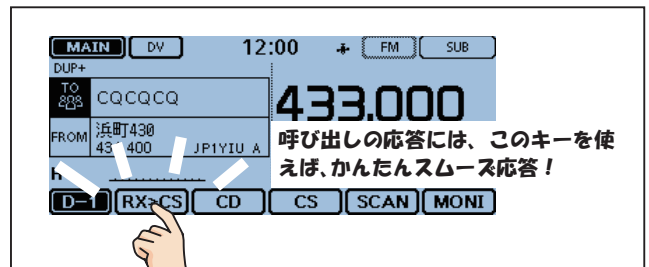
※直接通信ではなく、レピータを経由した交信になります。



- レピータリストや送受信履歴から、かんたん呼び出し!



- ワンタッチ応答[RX>CS]キーの操作で応答がスムーズ!



6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

《重要》

インターネット回線を経由した通信(ゲートウェイ通信)を運用するには、自局のコールサインを一般社団法人日本アマチュア無線連盟(JARL)の「D-STAR管理サーバー」に登録していただく必要があります。登録方法については、6-6ページをご覧ください。

■ D-STAR®とは

- D-STAR®とは、JARL(一般社団法人日本アマチュア無線連盟)が開発した、デジタル技術を使ったアマチュア無線の「音声」と「データ」の通信方式です。
- インターネット回線を経由した通信(ゲートウェイ通信)ができるので、遠くはなれた局とも交信できます。

- D-STAR®システムは、音声を符号化し4.8kbpsの速度で音声と同時に自局のコールサインやメッセージ、GPSの位置データなども送ることができます。

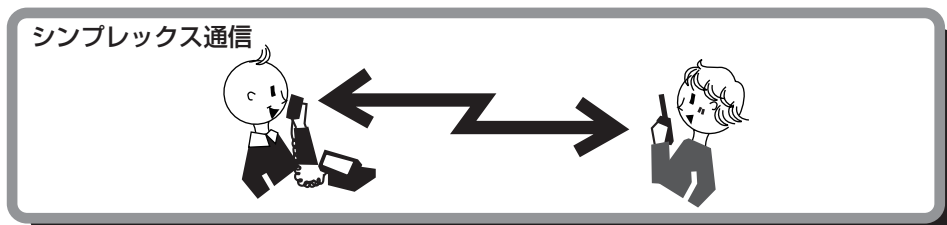
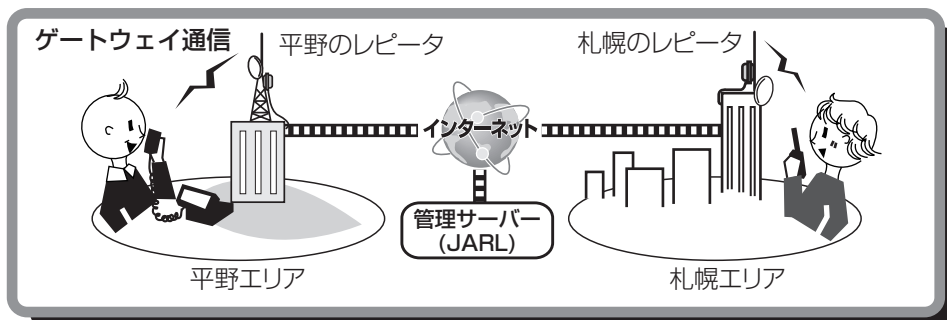
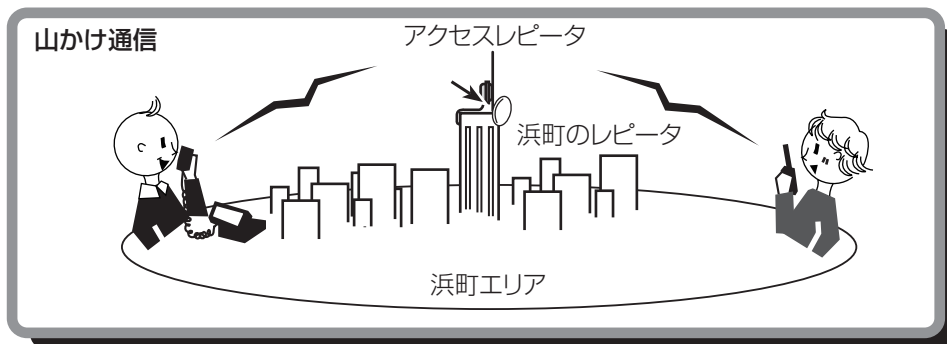
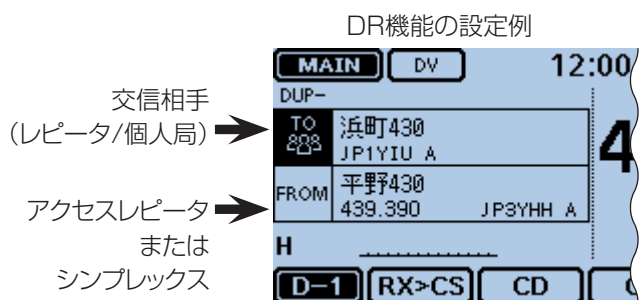
■ DR機能とは

D-STAR®を簡単に運用する機能を、DR(D-STAR® REPEATER)機能といいます。DR機能では、右図のように「FROM」(アクセスレピータ、またはシンプレックス)と「TO」(交信相手)を設定して送信するだけで、簡単に運用できます。

■ DR機能でできること

DR機能では、下記3つの通信が簡単に設定できます。

- **山かけ通信** : 1つのレピータを経由した中継通信のこと
- **ゲートウェイ通信** : 2つのレピータとインターネット回線(ゲートウェイ)を経由して、遠くの人と交信すること
- **シンプレックス通信** : レピータを使用せず直接交信すること



レピータ使用時のご注意

DV(デジタル音声)モードでレピータを運用するときは、レピータからの電波が停止してから、送信するようにしてください。レピータが受信状態に戻る前に送信すると、正常に通信できないことがあります。

デジタルレピータへの連続送信は10分に制限されています。制限時間になると、送信を停止し、受信に切り替わります。

6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

《重要》

インターネット回線を経由した通信(ゲートウェイ通信)を運用するには、自局コールサインを一般社団法人日本アマチュア無線連盟(JARL)の「D-STAR管理サーバー」に登録していただく必要があります。登録方法については、6-6ページをご覧ください。

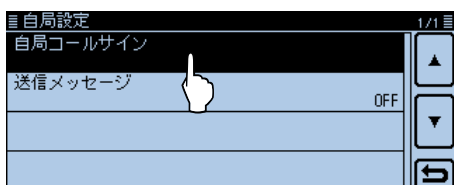
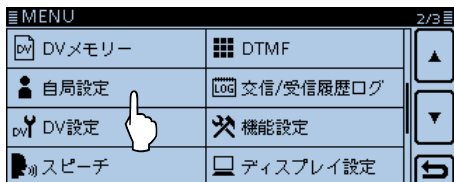
■ 自局のコールサインを無線機に登録する

自局のコールサインは「MY1」～「MY6」の6件まで登録できます。

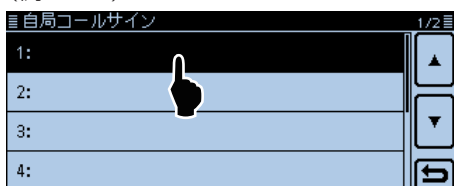
《例》「MY1」にJA3YUAを登録する

1. 自局コールサインの編集画面を表示します。

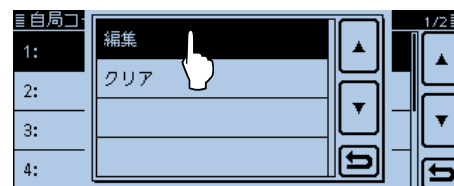
- ① [MENU] をタッチする。
- ② 「自局コールサイン」項目をタッチする。
(自局設定 > 自局コールサイン)
 - [▲]/[▼] をタッチすると、ページが切り替わります。



- ③ 登録番号を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) タッチする。
(例：1：)

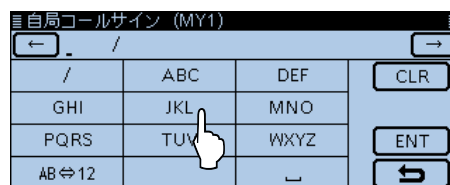


- ④ 「編集」項目をタッチする。
 - 「自局コールサイン(MY○※)」画面が表示されます。
※手順③で選択した登録番号、1～6のいずれかが入ります。(例：MY1)

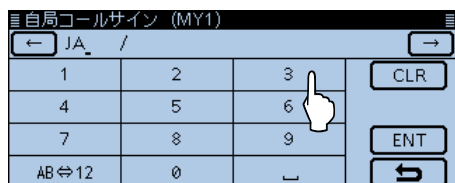


2. コールサインを入力します。《例》MY1にJA3YUA

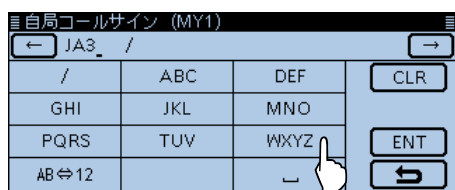
- ⑤ 入力したい文字がある枠を数回タッチして、自局コールサインの1文字目の文字を選択する。(例：J)
 - 入力できる文字は、英数字(A～Z、0～9)と「/」です。
※数字は、「AB⇄12」をタッチして数字一覧に切り替えてから入力します。
もう一度タッチすると、アルファベット入力に戻ります。
 - [CLR] をタッチすると、選択した文字を削除できます。
 - 「 」 をタッチすると、スペースが入力できます。



- ⑥ [←]/[→] をタッチしてカーソルを移動し、文字を入力する位置を選択する。
- ⑦ 手順⑤、⑥を繰り返し、8文字以内(スペースを含む)で自局のコールサインを入力する。(例 2文字目：A、3文字目：3、4文字目：Y、5文字目：U、6文字目：A)

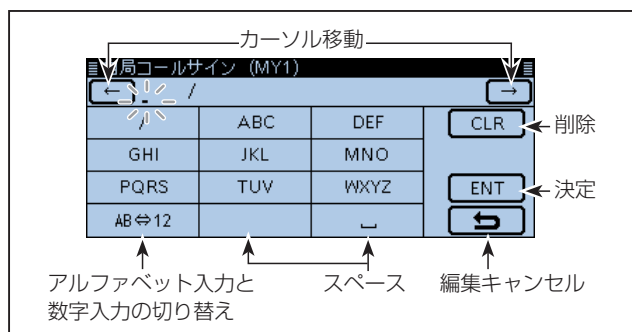


3文字目(3)を入力する場合



4文字目(Y)を入力する場合

編集画面の操作

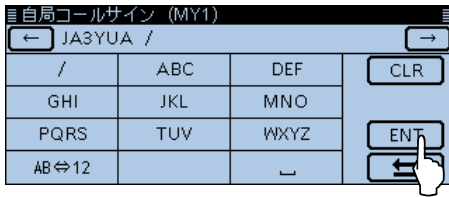


6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

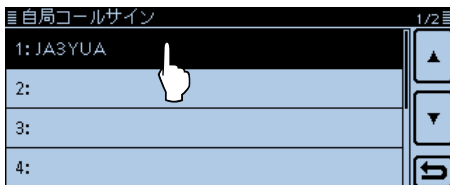
■ 自局のコールサインを無線機に登録する(つづき)

⑧ [ENT]をタッチする。

- 「自局コールサイン」画面に戻ります。

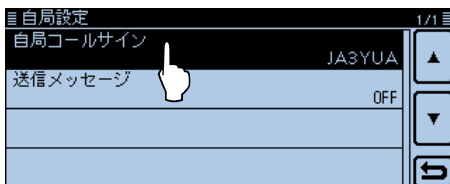


⑨ 登録したコールサインをタッチする。



⑩ [MENU]をタッチする。

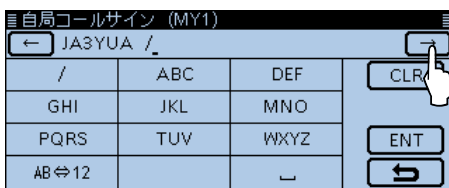
- MENU画面を解除します。



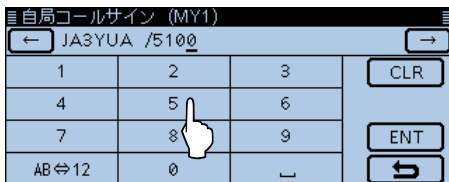
ご参考

「自局コールサイン」項目では、コールサインと、「/」(スラッシュ)のうしろに4文字以内で、任意のメモ(名前やリグ名、移動運用先など)が登録できます。

① コールサインを入力したあと、[→]を数回タッチしてカーソルを「/」の右側に移動させます。



② 6-4ページの手順⑤、⑥の操作で、4文字以内(スペースを含む)で、メモを入力します。(例: 5100)



6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ 自局のコールサインをD-STAR管理サーバーに登録する

JARLのD-STAR®管理サーバーに登録すると、インターネットを経由した交信(ゲートウェイ通信)が可能になり、遠くはなれたハム仲間と交信できます。

- コールサインをお持ちのかたは、JARL会員/JARL非会員に関わらず、どなたでも無料で登録できます。
- D-STAR®運用ガイドラインについては、下記のURLをご覧ください。
http://jarl.or.jp/Japanese/7_Technical/d-star/guideline.htm
- D-STAR管理サーバーは、JARLが管理運営しています。管理サーバーに関するご質問は、JARLにお問い合わせください。

登録は、インターネット、または郵送でできます。郵送による登録については、6-7ページをご覧ください。



- ① D-STAR管理サーバー登録サイトにアクセスし、[D-STAR利用申込み画面へ]をクリックします。
※https://www.d-star.info/



- ② D-STAR利用規約を確認し、[同意します]をクリックします。



- ③ 画面にしたがって必要事項を入力します。



[申込み]をクリックすると、入力したメールアドレスに「登録完了のお知らせメール」が届きます。



- ④ 「登録完了のお知らせメール」が届いたら、48時間以内(※)にメールで指定されたURLにアクセスし、手順③で登録したコールサインとパスワードを入力し、[ログイン]をクリックします。



※48時間以内にログインしなかった場合、手順①から再登録が必要になります。

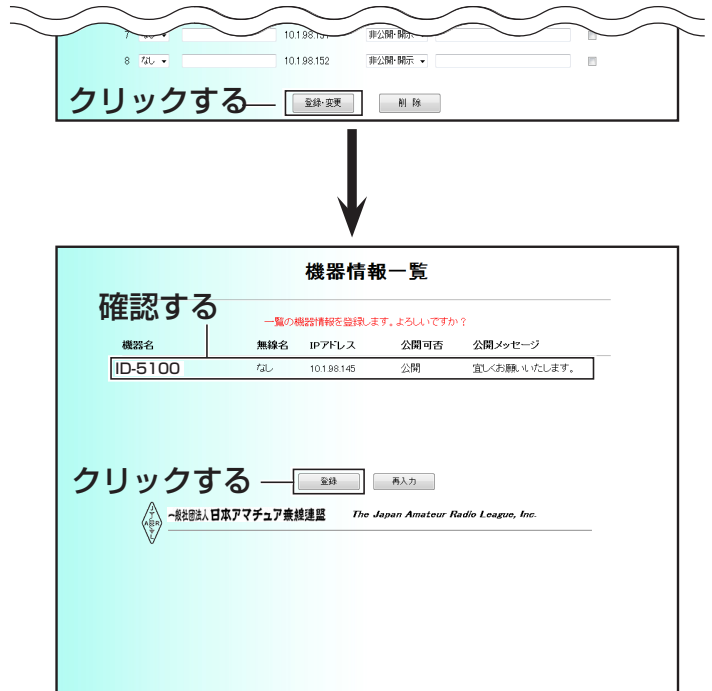
6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

⑤ [機器情報の登録変更]をクリックします。

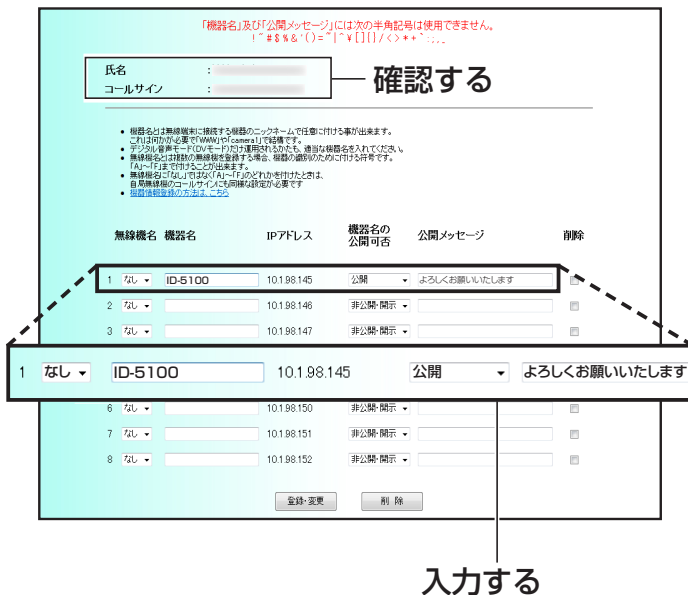


※登録情報の修正・削除についても、[機器情報の登録変更]からできます。

⑦ [登録・変更]をクリックし、機器情報一覧画面で登録内容を確認します。内容に間違いがなければ[登録]をクリックします。

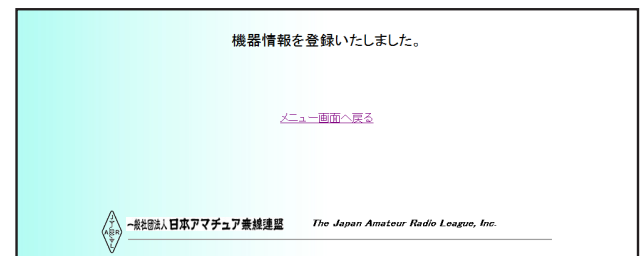


⑥ 氏名とコールサインを確認し、機器情報を1行だけ入力します。



⑧ これで登録は完了です。

2時間以内に管理サーバーが使えるようになり、インターネットを経由した交信ができます。



登録完了

郵送で登録する場合

封書返信用切手を同封のうえ、下の必要事項を記入し、下記の宛先に郵送してください。後日、登録完了通知が郵送されます。

〒170-8073 住所：東京都豊島区南大塚 3-43-1 大塚HTビル6F
宛先：JARL業務課 D-STAR登録係

[記載必要事項]

[D-STAR]登録希望

- ① コールサイン
- ② 氏名(社団局の場合はクラブ名と代表者氏名)※氏名にはフリガナを付けてください。
- ③ 連絡先の郵便番号、住所、電話番号※社団局の場合は、連絡者の氏名も記入してください。

6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ レピータを使わずに通信しよう

本製品は、レピータを使わずに無線機同士で直接交信するシンプルレックス通信ができます。

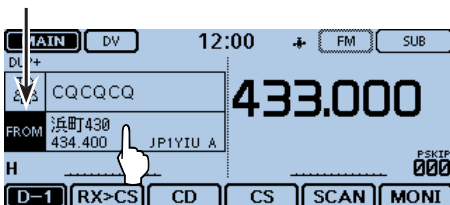
シンプルレックス通信でCQを出すまでの設定を説明します。

《例》「433.300」でCQを出す

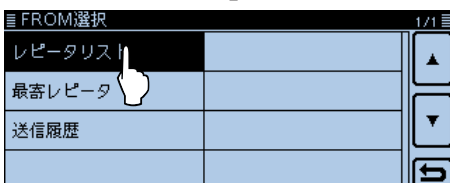
1. シンプルレックスチャンネルを設定(FROM)

- ① [DR]をタッチする。
- ② 「FROM」を選択した状態になっていることを確認する。
 - 選択した状態になっていない場合は、「FROM」をタッチします。
- ③ 「FROM」をタッチする。
 - 「FROM選択」画面が表示されます。

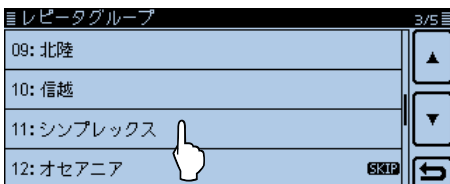
「FROM」を選択した状態



- ④ 「レピータリスト」項目をタッチする。
 - 「レピータグループ」画面が表示されます。

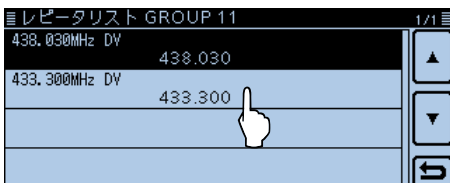


- ⑤ 「シンプルレックス」項目をタッチする。



- ⑥ 送信したい周波数をタッチする。(例：433.300MHz)
 - DR画面に戻り、選択した周波数が「FROM」に表示されます。

- 「TO」には「CQCQCQ」が設定されます。
- ※ 「TO」に個人局を設定している場合は、「TO選択」画面で「山かけCQ」をタッチして「CQCQCQ」を設定してください。

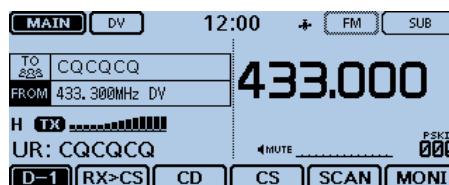


シンプルレックスとは？

単信方式ともいい、送受信で同じ周波数を使用して、相手と送受信を切り替えて通信する方式のこと。

2. マイクロホンの [PTT] を押して送信する

- 送信状態になり、マイクロホンのLED1ランプが赤点灯します。

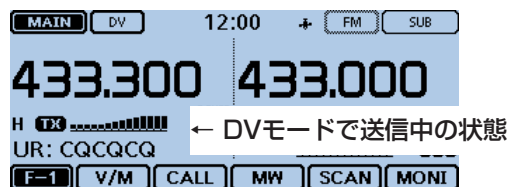


ご参考

シンプルレックスは、レピータリストから設定できます。
(DVメモリー>レピータリスト>レピータグループ>11: シンプルレックス)

ご参考

VFOモードで、シンプルレックス通信をした場合は、下記のような画面になります。



6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

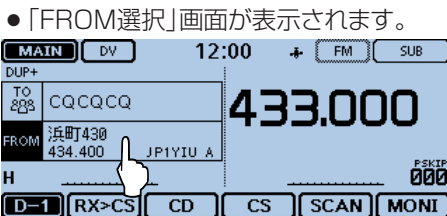
■ レピータに電波が届くか確認してみよう

自分が使うレピータ(アクセスレピータ)に電波が届き、あて先のレピータ(エリアレピータ)から正常に電波が出るかを確認しましょう。

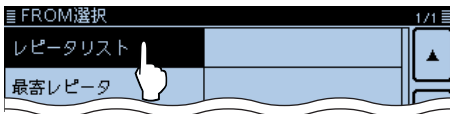
※自局コールサインの登録と、D-STAR管理サーバーへの登録が必要です。まだのかたは、P6-4~P6-7をご覧ください。

1. アクセスレピータを探す(FROM)

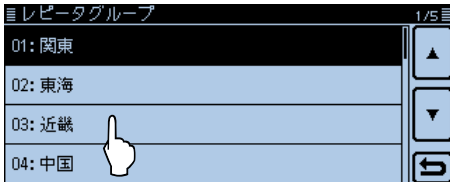
- ① [DR] をタッチする。
- ② 「FROM」を選択した状態になっていることを確認します。
 - 選択した状態になっていない場合は、「FROM」をタッチします。
- ③ 「FROM」をタッチする。



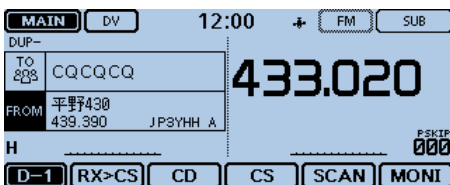
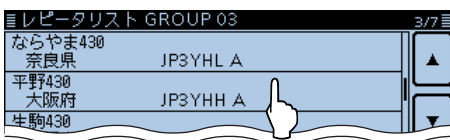
- ④ 「レピータリスト」項目をタッチする。
 - 「レピータグループ」画面が表示されます。



- ⑤ 自分がいる地域をタッチする。(例: 03: 近畿)



- ⑥ レピータの名前や都道府県名から最寄りのレピータを選び、タッチする。(例: 平野430)
 - DR画面に戻り、選択したレピータが「FROM」に表示されます。

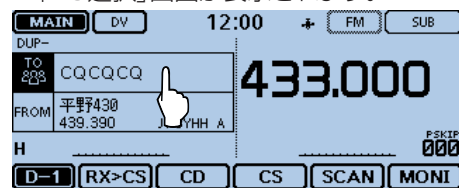


ご注意

応答表示については、6-15ページの「応答がないとき」をご覧ください。

2. あて先を設定する(TO)

- ⑦ 「TO」をタッチする。
 - 「TO」を選択した状態になっていることを確認します。
- ⑧ もう一度「TO」をタッチする。
 - 「TO選択」画面が表示されます。

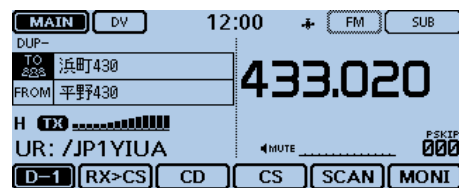


- ⑨ 「エリアCQ」項目をタッチする。
 - 「レピータグループ」画面が表示されます。
- ⑩ 電波を出したい地域をタッチする。(例: 01: 関東)
- ⑪ レピータの名前や都道府県名から電波を出したいレピータを選び、タッチする。(例: 浜町430)
 - DR画面に戻り、選択したレピータが「TO」に表示されます。

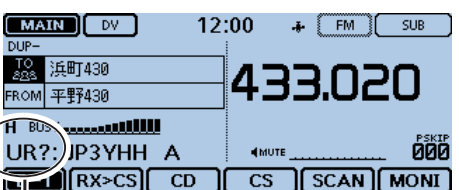


3. レピータに電波が届くか確認する

- ⑫ マイクロホンの [PTT] を押して送信する。



- ⑬ 応答を受信する、または3秒以内に「UR?」が表示された場合は、自分が使うレピータに電波が届き、あて先のレピータ(エリアレピータ)から正常に電波が出ているということです。



動作確認OK!

UR?:

6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ 受信履歴の使いかた

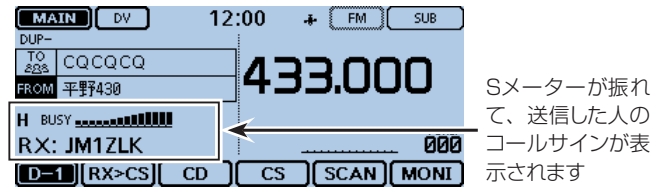
信号を受信した場合、その信号を送信した局や使用されたレピータのコールサインなどの受信内容は履歴として残り、以下の手順で確認できます。

最大50件の受信履歴を記憶できます。

※電源をOFFしても履歴は消去されません。

受信履歴の確認方法と、受信履歴に表示された人のコールサインを登録する方法を説明します。

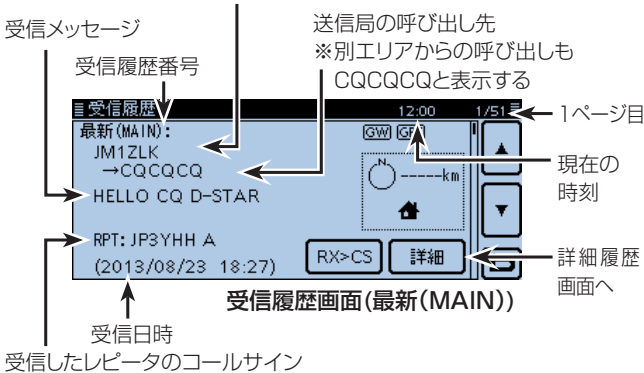
「JM1ZLK」からの呼び出しを受信した場合



1. 受信したコールサインを確認する

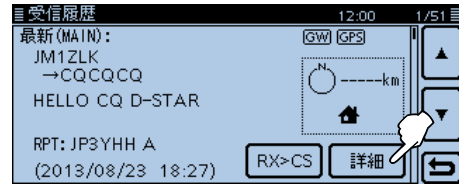
- ① ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「D-1」画面を表示させます。
- ② [CD]をタッチする。
 - 「受信履歴」画面が表示されます。
 - [▲]/[▼]をタッチするごとに、別の受信履歴が確認できます。
 - 「受信履歴」画面は、1ページ目にMAINバンドの最新の履歴が表示されます。2ページ目以降は、MAINバンド/SUBバンドに関係なく、受信した順に履歴が並びます。

送信局のコールサイン(「/」のうしろはメモ)



2. 受信履歴から相手局コールサインを登録する

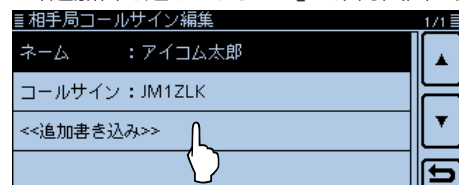
- ③ [▲]/[▼]をタッチして、登録したい相手局コールサインが表示された履歴画面を選択する。
- ④ [詳細]をタッチする。
- ⑤ [QUICK]をタッチする。
- ⑥ 「相手局メモリーに登録」をタッチする。



- ⑦ 登録したいコールサインをタッチする。(例：JM1ZLK)
 - 「受信履歴」画面から、「相手局コールサイン編集」画面に変わり、相手局のコールサインが自動的に設定された状態になります。
- ⑧ 「ネーム」をタッチする。
 - 「ネーム編集」画面が表示されます。
 - ※登録したいネームを入力します。

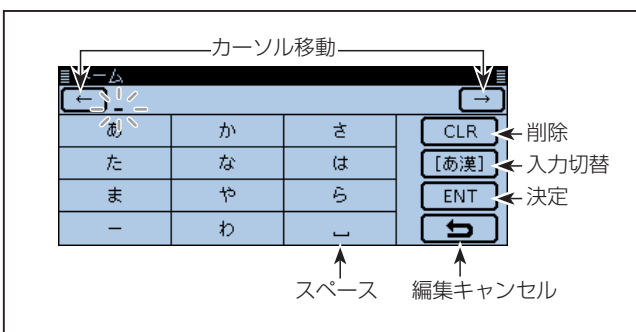


- ⑨ [ENT]をタッチする。
 - 「相手局コールサイン編集」画面に戻ります。(例 アイコム太郎)
- ⑩ 「追加書き込み」をタッチする。
 - 「追加書き込みしますか?」の確認画面が表示されます。



- ⑪ [はい]をタッチする。
 - 「受信履歴詳細」画面に戻ります。

編集画面の操作



6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ いますぐ応答したい

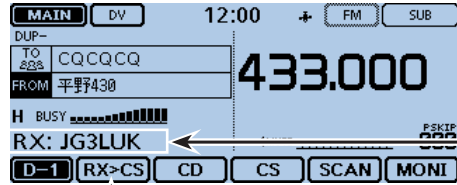
レピータの信号を受信していて、CQや自分宛の呼び出しにいますぐ応答したい場合、[RX>CS]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチします。

すると、自動的にあて先が設定され、そのまま [PTT] を押して応答できます。

ワンタッチ応答キーとは？

最後に受信したコールサインを一時的にあて先へ設定して、すぐに応答できるキーのこと。

受信中の表示



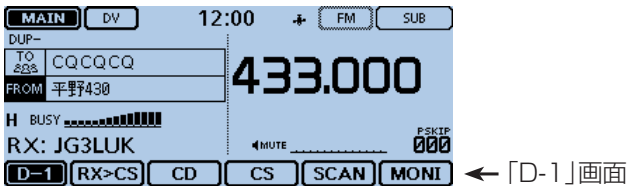
「JG3LUK」の呼び出しを受信した場合

ワンタッチ応答キー

1. 聞こえている局をあて先に設定する

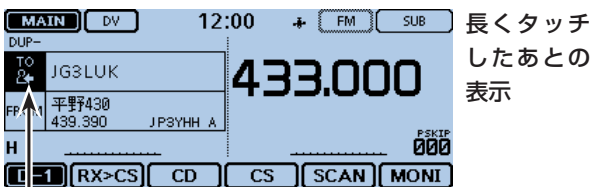
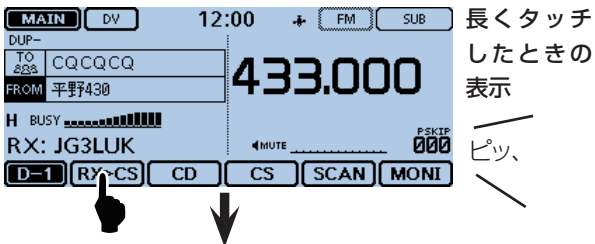
① ファンクショングループ表示部を数回タッチする。

- 「D-1」画面を表示させます。



② [RX>CS]を長く(ピッ、ピッピと鳴るまで)タッチする。

- 「ピッピ」と鳴ったあと、相手局のコールサインが読み上げられます。



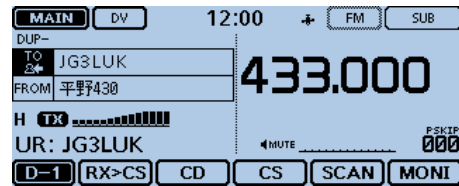
応答したい相手を選択すると、矢印マークが点滅します

ピッピッ
ジェー ジー スリー エル ユー ケー

※ 受信電波が弱い、DRスキャン中に受信などの条件で、コールサインが受信できないことがあります。これらの場合、ワンタッチ応答はできません。(「プッ」とエラー音が鳴ります)

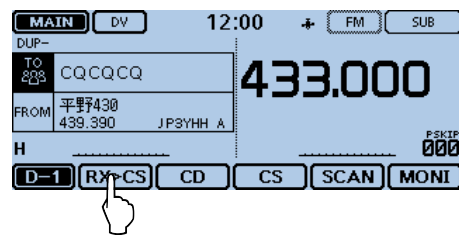
2. マイクロホンの [PTT] を押して送信する

- 送信状態になり、マイクロホンのLEDランプが赤点灯します。



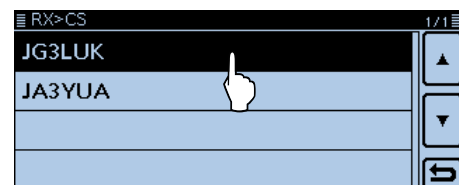
③ [RX>CS]をタッチする。

- ワンタッチ応答設定を解除します。



ご参考

[RX>CS]をタッチすると、直近に受信した局の一覧から応答したい相手局を選択できます。



6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

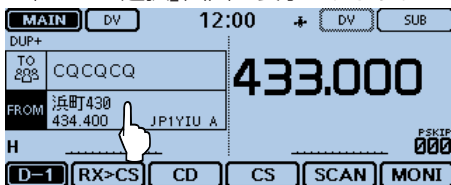
■ 山かけCQを出そう

「TO」に「山かけCQ」を設定し、そのまま [PTT] を押し、呼び出しができます。

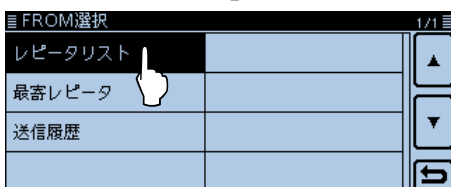
1. アクセスレピータを設定する (FROM)

- ① [DR] をタッチする。
- ② 「FROM」を選択した状態になっていることを確認する。
 - 選択した状態になっていない場合は、「FROM」をタッチします。
- ③ 「FROM」をタッチする。

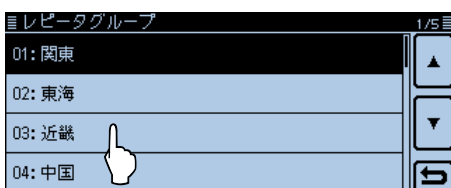
● 「FROM選択」画面が表示されます。



- ④ 「レピータリスト」項目をタッチする。
 - 「レピータグループ」画面が表示されます。

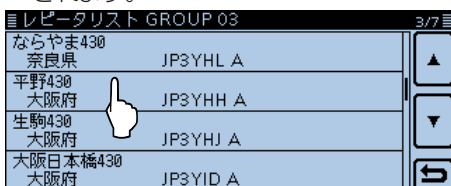


- ⑤ 自分がいる地域をタッチする。(例: 03:近畿)



- ⑥ レピータの名前や都道府県名から最寄りのレピータをタッチする。(例: 平野430)

● DR画面に戻り、選択したレピータが「FROM」に表示されます。

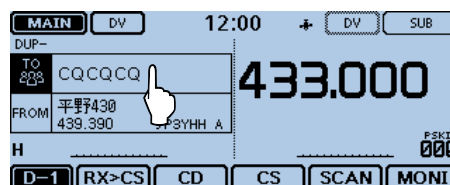


山かけCQとは？

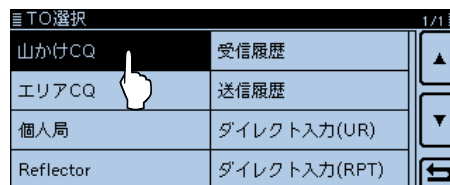
1つのレピータだけを經由してCQを出すこと。

2. あて先を設定する (TO)

- ⑦ 「TO」をタッチする。
 - 「TO」を選択した状態になっていることを確認します。
- ⑧ もう一度「TO」をタッチする。
 - 「TO選択」画面が表示されます。

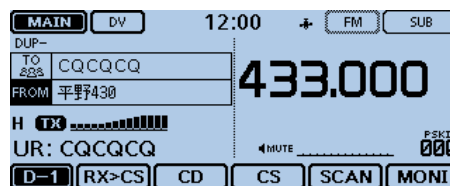


- ⑨ 「山かけCQ」項目をタッチする。
 - DR画面に戻り、「CQCQCQ」が「TO」に表示されます。



3. マイクロホンの [PTT] を押して送信する

- 送信状態になり、マイクロホンのLED1ランプが赤点灯します。



ご参考

CQは不特定多数の相手を呼ぶときに使用しますが、CQ呼び出し設定のまま、特定の相手局を口頭で呼び出し、交信を楽しむこともできます。

6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

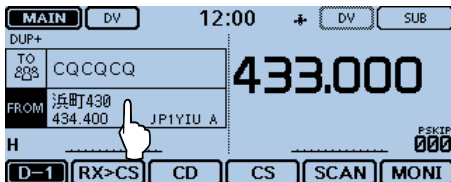
■ ゲート越えCQを出そう

CQを出したいエリアレピータを「TO」に設定し、そのまま【PTT】を押すと、呼び出しできます。

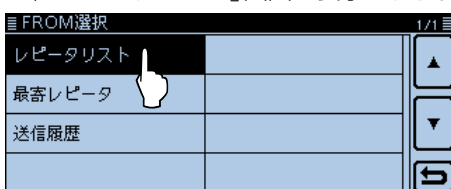
※ゲートウェイに接続していないレピータは「XGW」を表示します。

1. アクセスレピータを設定する(FROM)

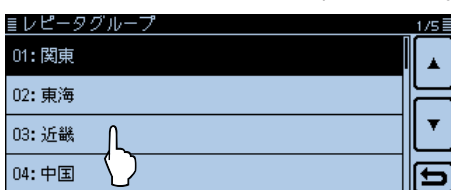
- ①【DR】をタッチする。
- ②【FROM】を選択した状態になっていることを確認する。
 - 選択した状態になっていない場合は、「FROM」をタッチします。
- ③【FROM】をタッチする。
 - 「FROM選択」画面が表示されます。



- ④「レピータリスト」項目をタッチする。
 - 「レピータグループ」画面が表示されます。

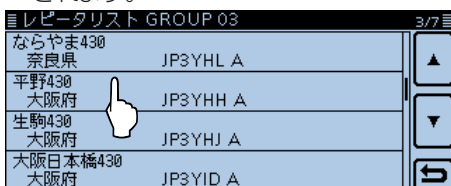


- ⑤自分がいる地域をタッチする。(例：03: 近畿)



- ⑥レピータの名前や都道府県名から最寄りのレピータをタッチする。(例：平野430)

- DR画面に戻り、選択したレピータが「FROM」に表示されます。



ご参考

CQは不特定多数の相手を呼ぶときに使用しますが、CQ呼び出し設定のままで、特定の相手局を口頭で呼び出し、特定の相手局と交信を楽しむこともできます。

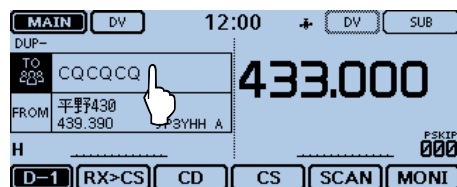
ゲート越えCQとは？

インターネットに接続されているレピータを経由して自局と異なるエリアにCQを出すこと。インターネットと接続されているため、電波が直接届かないエリアにも、呼び出しができる。

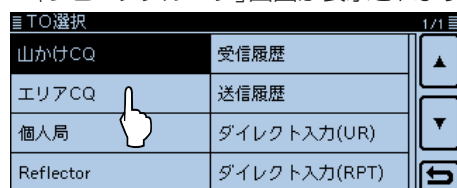
TO選択画面の「エリアCQ」項目と同意。

2. あて先を設定する(TO)

- ⑦【TO】をタッチする。
 - 「TO」を選択した状態になっていることを確認します。
- ⑧もう一度【TO】をタッチする。
 - 「TO選択」画面が表示されます。



- ⑨「エリアCQ」項目をタッチする。
 - 「レピータグループ」画面が表示されます。

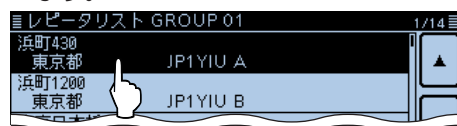


- ⑩電波を出したい地域をタッチする。(例：01: 関東)



- ⑪レピータの名前や都道府県名から電波を出したいレピータをタッチする。(例：浜町430)

- DR画面に戻り、選択したレピータが「TO」に表示されます。



3. マイクロホンの【PTT】を押して送信する

- 送信状態になり、マイクロホンのLED1ランプが赤点灯します。



6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

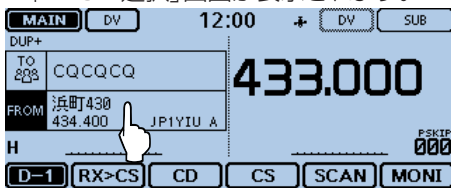
■ 特定局を呼び出そう

呼び出したい相手のコールサインを「TO」に設定し、そのまま [PTT] を押すと、呼び出しができます。

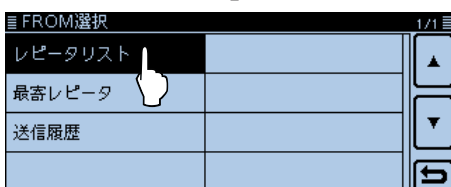
特定局の呼び出しは、その局が最後にアクセスしたレピータに自動で中継されますので、相手局がどこのエリアにいるかわからなくても呼び出しができます。

1. アクセスレピータを設定する (FROM)

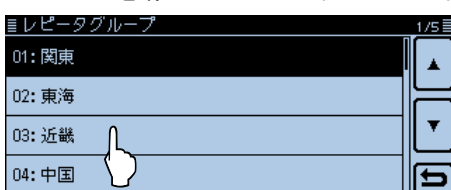
- ① [DR] をタッチする。
- ② 「FROM」を選択した状態になっていることを確認する。
 - 選択した状態になっていない場合は、「FROM」をタッチします。
- ③ 「FROM」をタッチする。
 - 「FROM選択」画面が表示されます。



- ④ 「レピータリスト」項目をタッチする。
 - 「レピータグループ」画面が表示されます。

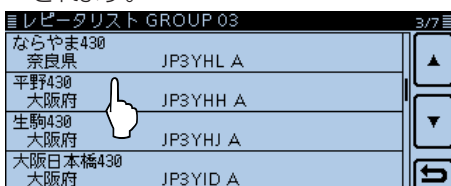


- ⑤ 自分がいる地域をタッチする。(例: 03: 近畿)



- ⑥ レピータの名前や都道府県名から最寄りのレピータをタッチする。(例: 平野430)

- DR画面に戻り、選択したレピータが「FROM」に表示されます。

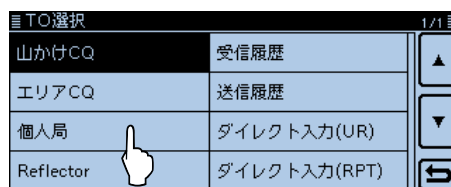


2. あて先を設定する (TO)

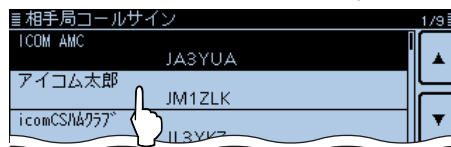
- ⑦ 「TO」をタッチする。
 - 「TO」を選択した状態になっていることを確認します。
- ⑧ もう一度「TO」をタッチする。
 - 「TO選択」画面が表示されます。



- ⑨ 「個人局」項目をタッチする。
 - 「相手局コールサイン」画面が表示されます。

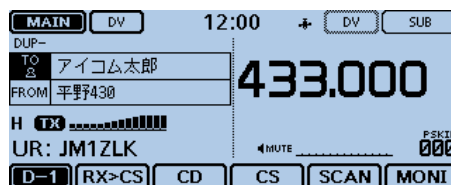


- ⑩ 電波を出したい人をタッチする。(例: アイコム太郎)



3. マイクロホンの [PTT] を押して送信する

- 送信状態になり、マイクロホンのLED1ランプが赤点灯します。



6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ 応答がないとき

レピータを経由して通信するには、自局の電波が自分が使うレピータ(アクセスレピータ)に届くことが前提です。下記の現象は、故障ではありませんので、よくご確認ください。

現 象	原 因	処 置	参 照
●送信後、レピータから何もメッセージが返ってこない(Sメーターも振らない)	◎自分が使うレピータ(アクセスレピータ)の選択が間違っている ◎手動で入力したレピータの周波数が間違っている(またはデュプレックスの設定が間違っている) ◎レピータのエリアからはずれている(または電波がレピータに届いていない)	●正しいアクセスレピータを「FROM」に設定する ●レピータの周波数(またはデュプレックス設定)を正しく設定する ●レピータに電波が届く場所まで移動するか、電波の届く別のレピータにアクセスする	P6-9 — —
●送信後、「UR?」とアクセスレピータのコールサインを表示する 	◎正常に電波がレピータに届いています。ただし、3秒以内に相手局から応答がなかったので「UR ?」を表示しています。	●聞いていた相手局が応答のタイミングを逃している場合もありますので、少し時間を空けてから再度呼び出してみてください。	—
●送信後、「RX」、または「RPT?」とアクセスレピータのコールサインを表示する 	◎自局のコールサインが未設定 ◎自局のコールサインがD-STAR管理サーバーに未登録、または登録内容が異なる ◎相手局のコールサインがD-STAR管理サーバーに未登録、または登録内容が異なる	●自局のコールサインを設定する ●自局のコールサインをD-STAR管理サーバーに登録する、または登録内容を確認する ●相手局のコールサインの登録状況をD-STAR管理サーバーで確認する(相手局が公開している場合に限り)	P6-4 P6-6 —
●送信後、「RPT?」と呼び出し先レピータコールサインを表示する	◎呼び出し先のレピータにつながらない、または使用中	●少し時間を空けてから再度呼び出す	—
●送信後、「RPT?」とアクセスレピータのコールサインを表示する	◎呼び出し先のレピータコールサインの設定が間違っている	●呼び出し先のレピータコールサインを正しく設定する	—
●[DR]をタッチしても、DR画面に切り替わらない	◎レピータの情報がなくなっている	●SDカードでレピータの情報を入れる ●無線機に直接レピータの情報を登録する	P6-32 P7-20
●受信中の相手の音声で「ケロケロ」「キュロキュロ」音になったり、途切れたりする	◎電波の伝搬状態が悪くなっている	●電波の伝搬状態のよい場所に移動する ※それでも改善されない場合は、相手局と相手局のアクセスレピータとのあいだで伝搬状態が悪い可能性があります。相手局にその趣旨を伝えて出力を調整してもらるか、伝搬状態のよい場所に移動してもらってください。	—
●[RX>CS]をタッチして、応答しようとしたら、「-----」が表示され、「プツ」とエラー音が鳴り、応答できない	◎受信電波が弱い、DRスキャン中に受信などの条件で、コールサインが受信できないことがあります。	●再度相手が送信するのを待つ	—
●山かけでQSOはできるが、ゲート越えや特定局とのQSOができない	◎自局のコールサインがD-STAR管理サーバーに登録されていない	●コールサインをD-STAR管理サーバーに登録する	P6-6
●画面の上側に「L」表示が点灯、または点滅する 	◎インターネット回線網を経由した通信時、データの一部を失ったことを知らせる、パケットロスを受信している	●少し時間を空けてから再度呼び出す ※データが化けてパケットロスを受信したと誤認する場合があります。その場合は山かけ通信であっても、ディスプレイに「L」表示が点灯します。	—
●[DV]と[FM]が交互に点滅する	◎DVモードで運用中、FMモードの信号を受信している	●少し時間を空けてから再度呼び出す	P7-11

6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ 「FROM」の各種設定方法

レピータにアクセスするには、そのレピータを「FROM」に設定します。

その設定方法は、下記の5とおりです。

ダイヤルを回して選択する

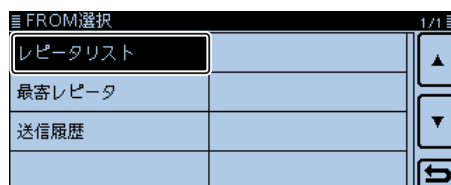
DR画面で、[DIAL]を回すと、あらかじめプリセットされたレピータを選択できます。



どのレピータを使えばいいのか、わかっているとき

レピータリストから選択する (P6-17)

アクセスしたいレピータが、あらかじめ登録されている場合は、レピータの一覧から、地域やレピータ名をもとに選択できます。



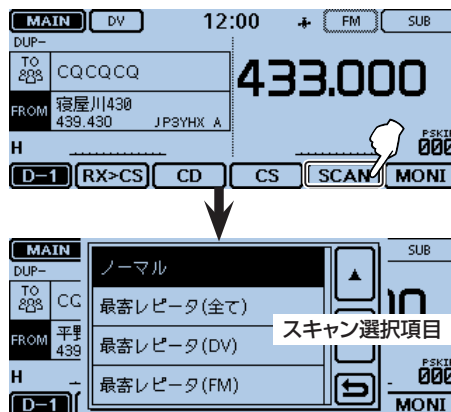
アクセスできるレピータがわからないとき

スキャンしてレピータを探す (P6-18)

交信中のレピータやシンプルレックス周波数の信号をスキャンしてアクセスできる周波数を見つけます。

最寄レピータスキャンを使うと、自局の位置情報と、レピータの位置情報をもとに最寄レピータを20件検索し、その中から交信中のレピータを探すことができます。

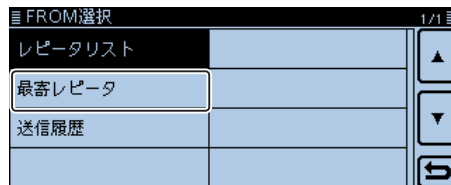
また、交信中の最寄FMレピータだけを探すこともできます。



「最寄レピータ」から設定する (P6-19)

自局の位置情報と、レピータの位置情報をもとに、最寄のレピータを検索します。

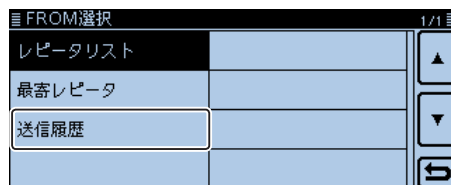
あらかじめ登録されているレピータリストから、自局の近くに位置するレピータが選択候補として表示されます。



アクセスしたことがあるレピータの中から選択したいとき

送信履歴から設定する (P6-20)

以前アクセスしたレピータの中から選択します。



6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ 「FROM」の各種設定方法(つづき)

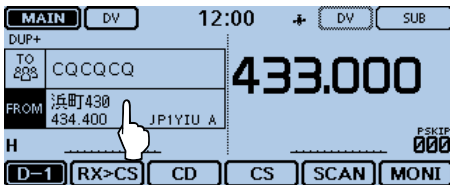
◇ レピータリストから選択する

アクセスしたいレピータが、あらかじめ登録されている場合は、レピータリストから選択できます。

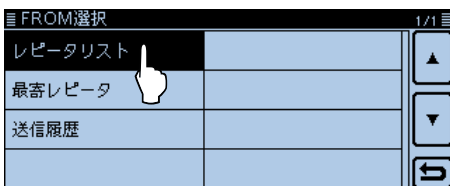
リストから選択するだけで、そのレピータのコールサイン、周波数、デュプレックス、オフセット周波数が自動で設定されます。

《例》レピータリストから「平野430」レピータを選択する

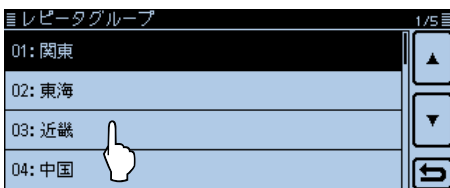
- ① [DR]をタッチする。
 - DR画面が表示されます。
- ② 「FROM」を選択した状態になっていることを確認します。
 - 選択した状態になっていない場合は、「FROM」をタッチします。
- ③ 「FROM」をタッチする。
 - 「FROM選択」画面が表示されます。



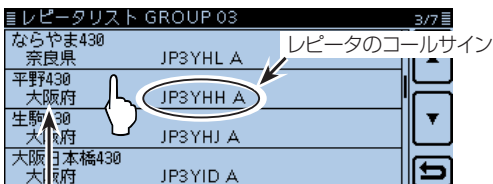
- ④ 「レピータリスト」項目をタッチする。
 - 「レピータグループ」画面が表示されます。



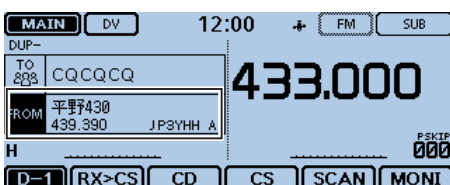
- ⑤ 自分がいる地域をタッチする。(例：03:近畿)



- ⑥ レピータの名前や都道府県名から最寄りのレピータをタッチする。(例：平野430)
 - DR画面に戻り、選択したレピータが「FROM」に表示されます。



レピータが設置されている
都道府県名(サブネーム)

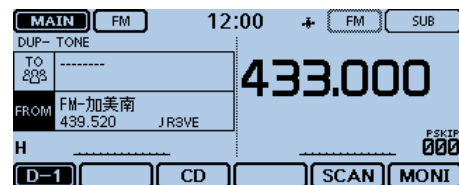


※ 説明に使用しているレピータリストは、お客様の無線機にプリセットされた内容と異なる場合があります。ご了承ください。

FMLレピータを選択したときは

あらかじめFMLレピータが登録されている場合は、レピータリストから選択できます。

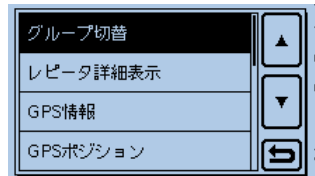
FMLレピータを選択すると、「TO」の設定が不要になるため、「---」が表示されます。



FMLレピータを選択したときの表示

ご参考

DR画面で、[QUICK]をタッチし、「グループ切替」項目を選択すると、レピータグループの切り替えができます。



6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ 「FROM」の各種設定方法(つづき)

◇ DRスキャンでレピータを探す

レピータの周波数をスキャンして、電波が出ているレピータを探します。

DRスキャンとは、交信中の電波を探す機能です。

DRスキャンには、ノーマルスキャンと最寄レピータスキャンの2種類あります。

ノーマルスキャン

レピータリストの「USE (FROM)」を「YES」(SKIPをOFF)に設定したレピータだけをスキャンします。

出荷時に登録されている国内の430MHz帯の全レピータと、全シンプルックスの周波数は、「USE (FROM)」が「YES」に設定されています。

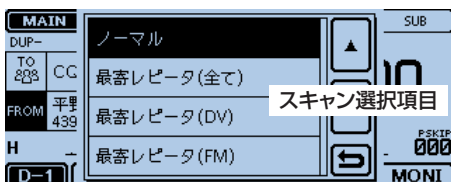
最寄レピータスキャン

自局の位置情報と、レピータの位置情報をもとに最寄レピータを20件検索し、その中から交信中のレピータを探します。

- ① [DR]をタッチする。
 - DR画面が表示されます。
- ② ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「D-1」画面を表示させます。
- ③ [SCAN]をタッチします。
 - 「DRスキャン一覧」画面が表示されます。



- ④ 一覧からスキャンをタッチします。
 - ノーマル： SKIP選択していないレピータの中から交信中のレピータを探します。
 - 最寄レピータ(全て)： DVレピータとFMレピータを合わせたすべてのレピータから最寄レピータを20件検索し、交信中のレピータを探します。
 - 最寄レピータ(DV)： DVレピータから最寄レピータを20件検索し、交信中のレピータを探します。
 - 最寄レピータ(FM)： FMレピータから最寄レピータを20件検索し、交信中のレピータを探します。

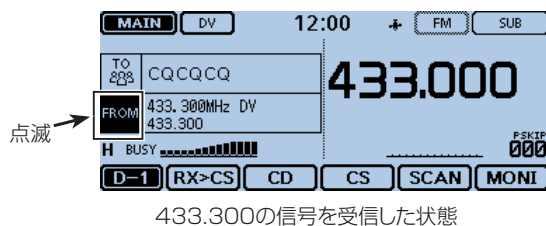


ご注意

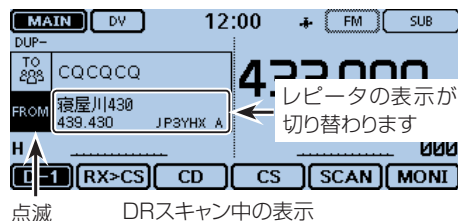
使用するアンテナや運用する環境により、レピータの電波が受信できても、本製品の送信電波がレピータに届かない場合があります。

ご参考

- [SCAN]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチすると、前回選択したスキャンを開始します。
- DRスキャンは、レピータリストに登録されているシンプルックス周波数の信号もスキャンします。

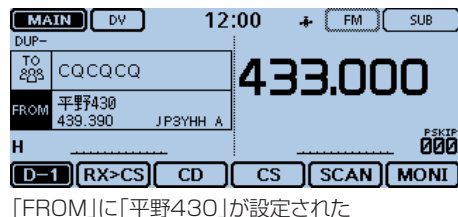
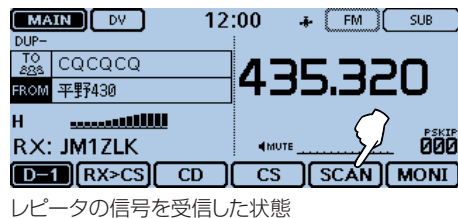


- DRスキャンがスタートします。
- スキャン中は、レピータの表示が順次切り替わり、「FROM」と周波数のデシマルポイントが点滅します。



※再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。
(※P12-11)

- ⑤ 電波を出しているレピータの信号を受信するとスキャンが停止するので、もう一度、[SCAN]をタッチします。
 - DRスキャンが解除されます。



6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ 「FROM」の各種設定方法(つづき)

◇ 最寄レピータから設定する

自局の位置情報と、レピータの位置情報をもとに、最寄のレピータを検索します。

あらかじめ登録されているレピータのうち、自局の近くに位置するレピータが選択候補として表示されます。

1. GPSを使って自局の位置情報を取得します

※屋内の窓際などでも受信しにくい場合は、屋外に出て受信してください。

① 位置情報が取得できているか確認する。

- 測位中はGPS表示がこのように点滅します。



- 測位が完了すると点滅から点灯に変わります。



※通常は、数十秒で測位しますが、使用環境によっては、数分かかることがあります。

2. 「最寄レピータ」一覧からアクセスレピータを選ぶ

② [DR] をタッチする。

③ 「FROM」を選択した状態になっていることを確認する。

- 選択した状態になっていない場合は、「FROM」をタッチします。

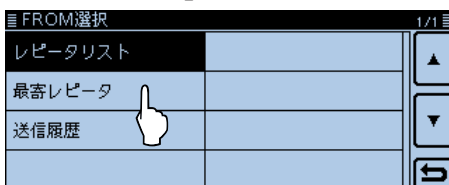
④ 「FROM」をタッチする。

- 「FROM選択」画面が表示されます。



⑤ 「最寄レピータ」項目をタッチする。

- 「最寄レピータ」画面が表示されます。



ご注意

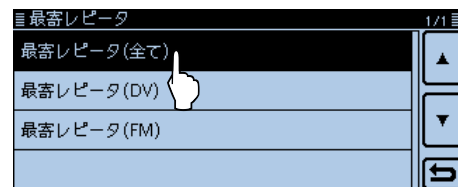
最寄レピータ機能を使うときは、「GPS選択」を「内蔵GPS」に設定して、あらかじめ自局の位置情報を取得する、または「マニュアル」に設定して、位置情報を入力する必要があります。

使用可能なレピータが自局の160km圏内にない場合は、「該当なし」が表示されます。

前回、受信した位置情報が有効な場合は、「GPSが未測位です。最後に測位した位置で検索します。」が表示されます。

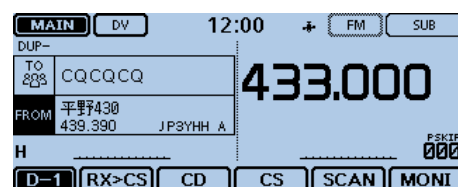
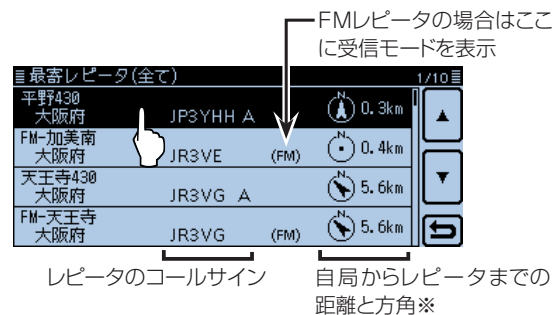
⑥ 最寄レピータの種類をタッチする。

- **最寄レピータ(全て)** : DVレピータとFMレピータを合わせたすべてのレピータから自局周辺のレピータを近い順に最大20件まで表示します。
- **最寄レピータ(DV)** : DVレピータの中から自局周辺のレピータを近い順に最大20件まで表示します。
- **最寄レピータ(FM)** : FMレピータの中から自局周辺のレピータを近い順に最大20件まで表示します。



⑦ 「平野430」をタッチする。

- 「FROM」に「平野430」が表示されます。



「FROM」に「平野430」が設定される

※位置情報(P7-23)が「だいたい」に設定されているとき、レピータまでの距離が5km以内になると、方角が表示されません。

6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

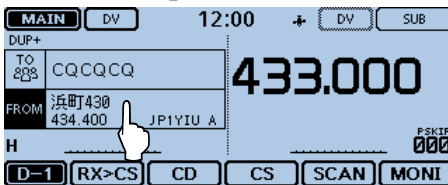
■ 「FROM」の各種設定方法(つづき)

◇ 送信履歴から設定する

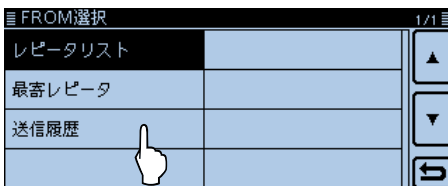
以前アクセスしたレピータの中から設定します。
送信履歴画面(過去の送信情報)からレピータを選択します。
送信履歴には最新10件が表示されます。

《例》送信履歴から「平野430」レピータを選択する

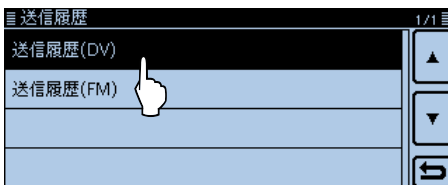
- ① [DR]をタッチする。
- ② 「FROM」を選択した状態になっていることを確認する。
 - 選択した状態になっていない場合は、「FROM」をタッチします。
- ③ 「FROM」をタッチする。
 - 「FROM選択」画面が表示されます。



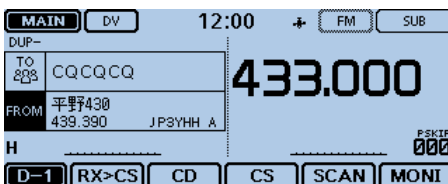
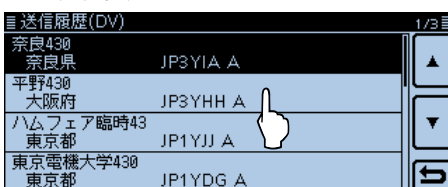
- ④ 「送信履歴」項目をタッチする。
 - 「送信履歴」画面が表示されます。



- ⑤ 選択したい送信履歴をタッチする。
 - 送信履歴(DV) : DVレピータの送信履歴が表示されます。
 - 送信履歴(FM) : FMレピータの送信履歴が表示されます。

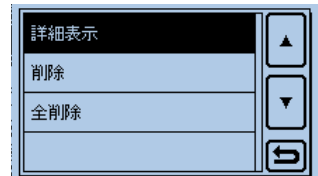


- ⑥ 送信したいレピータをタッチする。(例 : 平野430)
 - DR画面に戻り、選択したレピータが「FROM」に表示されます。



ご参考

上記⑤の送信履歴画面で[QUICK]をタッチすると、レピータの情報を表示したり履歴を削除したりできます。



6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ 「TO」の各種設定方法

CQを出したいレピータ(エリアレピータ)や、呼びたい相手局のコールサインを「TO」に設定します。設定方法は、下記の8とおりです。

ダイヤルを回して選択する

あらかじめプリセットされたレピータ、または個人局は、[DIAL]を回して選択します。(CQCQCQ設定時は無効です)

山かけCQを出したいとき

「山かけCQ」を選択(☞P6-12)

CQCQCQ(不特定呼び出し)が「TO」に設定されます。

ゲート越えCQを出したいとき

エリアCQから設定(☞P6-13)

ゲート越えCQを出したいレピータがある場合は、あらかじめ登録されているレピータのリストから選択できます。

特定局を呼び出したいとき

個人局リストから設定(☞P6-23)

コールサインメモリーに登録した一覧から、相手局を選択します。

※2014年2月現在、日本国内ではD-STARレピータは、リフレクターに対応していません。

ご参考

「D-1」画面の[RX>CS]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチすると、受信中、または最後に受信した信号のコールサインが「TO」に設定されます。

過去の受信履歴から設定したいとき

受信履歴から設定(☞P6-24)

受信したレピータ、または個人局のコールサインの履歴から選択します。

過去の送信履歴から設定したいとき

送信履歴から設定(☞P6-25)

送信したレピータ、または個人局のコールサインの履歴から選択します。

相手局のコールサインを直接入力したいとき

ダイレクト入力(UR)から設定(☞P6-26)

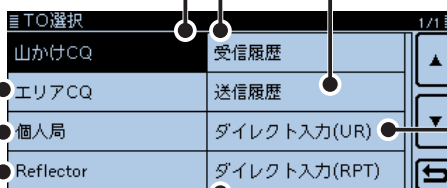
相手局のコールサインを1文字ずつ入力して設定します。

レピータのコールサインを直接入力して設定したいとき

ダイレクト入力(RPT)から設定(☞P6-27)

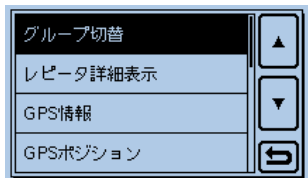
レピータのコールサインを1文字ずつ入力して設定します。

「TO選択」画面



グループの切り替えについて

「山かけCQ」項目や、「エリアCQ」項目から「TO」を選択した場合、DR画面で、[QUICK]をタッチし、「グループ切替」項目を選択すると、レピータグループの切り替えができます。



6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ 「TO」の各種設定方法(つづき)

◇ 山かけCQを出したいとき

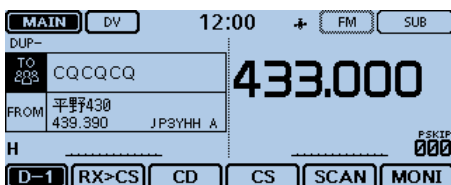
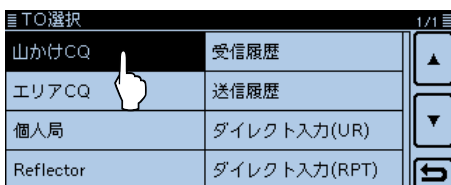
「TO」選択画面にて「山かけCQ」項目を選択すると、CQCQCQ(不特定呼び出し)が「TO」に設定されます。

《例》「平野430」から山かけでCQを出す場合

- ① [DR]をタッチする。
- ② 「TO」を選択した状態になっていることを確認する。
 - 選択した状態になっていない場合は、「TO」をタッチします。
- ③ 「TO」をタッチする。
 - 「TO選択」画面が表示されます。



- ④ 「山かけCQ」項目をタッチする。
 - DR画面に戻り、「CQCQCQ」が「TO」に表示されます。

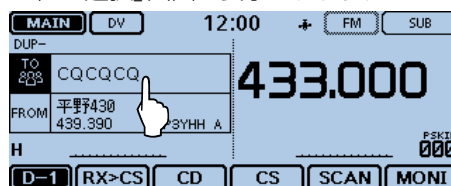


◇ ゲート越えCQを出したいとき

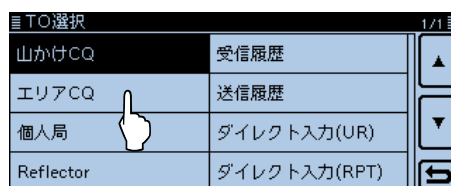
「TO」選択画面にて「エリアCQ」項目を選択すると、CQを出したいレピータをレピータリストから選択できます。

《例》「平野430」レピータから「浜町430」レピータへ、ゲート越えCQを出す場合

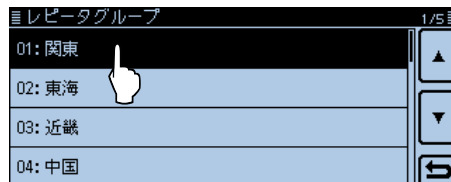
- ① [DR]をタッチする。
- ② 「TO」を選択した状態になっていることを確認する。
 - 選択した状態になっていない場合は、「TO」をタッチします。
- ③ 「TO」をタッチする。
 - 「TO選択」画面が表示されます。



- ④ 「エリアCQ」項目をタッチする。
 - 「レピータグループ」画面が表示されます。

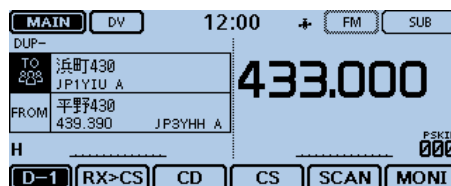
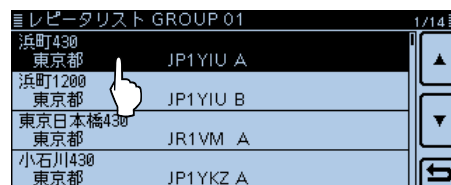


- ⑤ 電波を出したい地域をタッチする。(例：01: 関東)



- ⑥ レピータの名前や都道府県名から電波を出したいレピータを選び、タッチする。(例：浜町430)

- DR画面に戻り、選択したレピータが「TO」に表示されます。



6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ 「TO」の各種設定方法(つづき)

◇ 「個人局」から設定する

個人局リストから呼び出したい相手のコールサインを選択して「TO」に設定できます。

「個人局」から設定すると、ゲートウェイ通信になります。

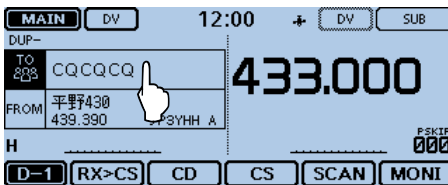
特定局の呼び出しは、相手局が最後にアクセスしたレピータに自動で中継されますので、相手局がどこのエリアにいるかわからなくても呼び出せます。

ご注意

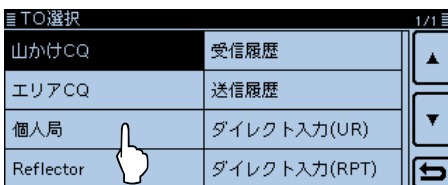
「FROM」に設定したレピータにGWコールサインの情報が登録されていないと、ゲートウェイ通信にはなりませんので、ご注意ください。

《例》個人局リストから「アイコム太郎」を設定する

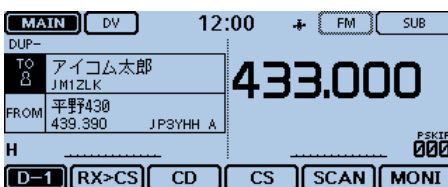
- ① [DR] をタッチする。
- ② 「TO」を選択した状態になっていることを確認する。
 - 選択した状態になっていない場合は、「TO」をタッチします。
- ③ 「TO」をタッチする。
 - 「TO選択」画面が表示されます。



- ④ 「個人局」項目をタッチする。
 - 「相手局コールサイン」画面が表示されます。



- ⑤ 登録されている相手局の名前やコールサインから呼び出したい相手を選び、タッチする。(例：アイコム太郎)
 - DR画面に戻り、選択した相手局が「TO」に表示されます。



ご参考

個人局を選択したあと [DIAL] を回すと、登録しているほかの個人局を選択できます。



6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

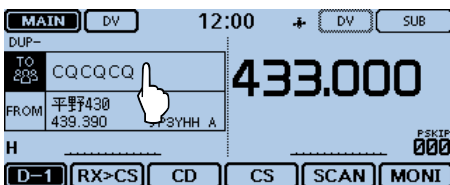
■ 「TO」の各種設定方法(つづき)

◇ 「受信履歴」から設定する

受信履歴画面(過去の受信情報)から「TO」を設定します。
受信した局のコールサインを受信履歴画面から選択し、送信先として設定できます。
受信履歴にはCALLERを最大50件、CALLEDを最新1件の合計最大51件が表示されます。

《例》受信履歴から「アイコム太郎」を設定する

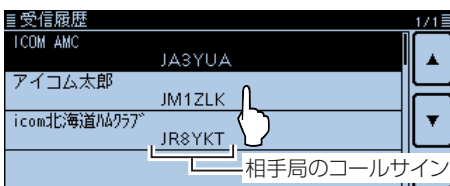
- ① [DR]をタッチする。
- ② 「TO」を選択した状態になっていることを確認する。
 - 選択した状態になっていない場合は、「TO」をタッチします。
- ③ 「TO」をタッチする。
 - 「TO選択」画面が表示されます。



- ④ 「受信履歴」項目をタッチする。
 - 「受信履歴」画面が表示されます。

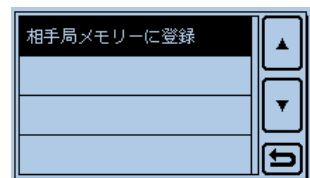


- ⑤ 表示されている相手局の名前やコールサインから呼び出したい相手を選び、タッチします。(例: アイコム太郎)
 - 履歴が4件以上ある場合は、[▲]/[▼]でページを変更します。
 - DR画面に戻り、選択した相手局が「TO」に表示されます。



ご参考

受信履歴画面で、登録したい相手を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチすると、メモリーに登録できます。



6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ 「TO」の各種設定方法(つづき)

◇ 「送信履歴」から設定する

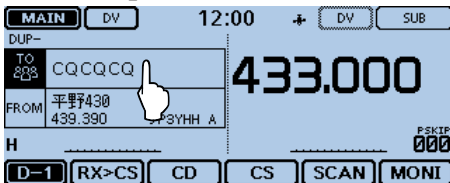
送信履歴画面(過去の送信情報)から「TO」を設定します。
送信履歴には最新20件が表示されます。

ご注意

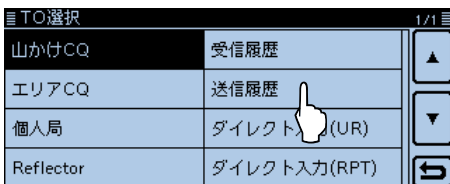
まだ一度も送信していない場合は、送信履歴から選択できません。

《例》送信履歴から「ならやま430」のレピータを設定する

- ① [DR]をタッチする。
- ② 「TO」を選択した状態になっていることを確認する。
 - 選択した状態になっていない場合は、「TO」をタッチします。
- ③ 「TO」をタッチする。
 - 「TO選択」画面が表示されます。

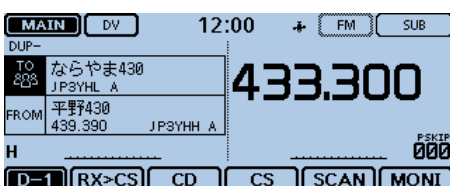
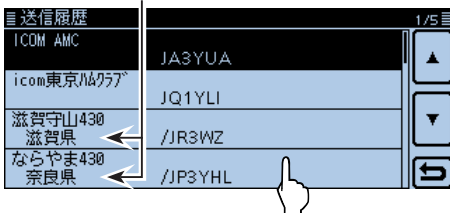


- ④ 「送信履歴」項目をタッチする。
 - 「送信履歴」画面が表示されます。



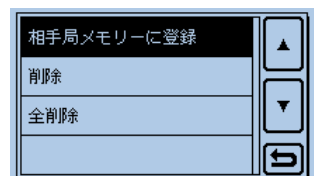
- ⑤ 表示されている送信履歴から電波を出したいレピータや呼び出したい相手局を選び、タッチする。(例: 堺430)
 - 履歴が4件以上ある場合は、[▲]/[▼]でページを変更します。
 - DR画面に戻り、選択したレピータや相手局が「TO」に表示されます。

レピータを選択した場合は、都道府県が表示されます(サブネーム)



ご参考

送信履歴画面で、表示されているレピータや相手局を選び、[QUICK]をタッチすると、そのレピータや個人局をメモリーに登録したり履歴を削除したりできます。



6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ 「TO」の各種設定方法(つづき)

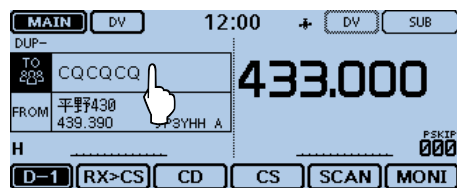
◇ 「ダイレクト入力(UR)」から設定する

呼び出したい相手局のコールサインがまだ登録されていない場合、コールサインを1文字ずつ入力して設定できます。

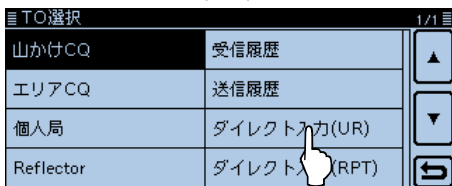
《例》ダイレクト入力(UR)から「JM1ZLK」を設定する

- ① [DR]をタッチする。
- ② 「TO」を選択した状態になっていることを確認する。
 - 選択した状態になっていない場合は、「TO」をタッチします。

- ③ 「TO」をタッチする。
 - 「TO選択」画面が表示されます。



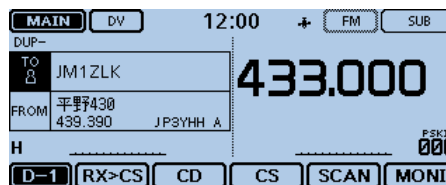
- ④ 「ダイレクト入力(UR)」項目をタッチする。
 - 「ダイレクト入力(UR)」画面が表示されます。



- ⑤ 入力したい文字がある枠を数回タッチする。
 - 1文字目の文字を選択します。(例：J)
 - 入力できる文字は、英数字(A～Z, 0～9)と「/」です。
 - ※数字は、「AB⇔12」をタッチして数字一覧に切り替えてから入力します。
 - [CLR]をタッチすると、選択した文字を削除できます。
 - 「_」をタッチすると、スペースを入力できます。
- ⑥ [←]/[→]をタッチする。
 - カーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。

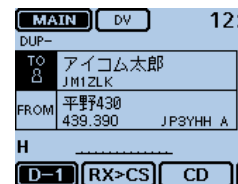
- ⑦ 手順⑤、⑥を繰り返し、8文字以内(スペースを含む)で相手局のコールサインを入力し、[ENT]をタッチする。(例 2文字目：M、3文字目：1、4文字目：Z、5文字目：L、6文字目：K)

- DR画面に戻り、入力した相手局が「TO」に表示されます。
- 設定後に、コールサインを修正したい場合は、再度ダイレクト入力画面で編集できます。
- 設定したコールサインは、変更するまで、ダイレクト入力画面にそのまま残ります。



ご参考

ダイレクト入力したコールサインが、すでに登録されている場合は、名前が表示されます。(名前を登録していた場合にかぎります)



6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ 「TO」の各種設定方法(つづき)

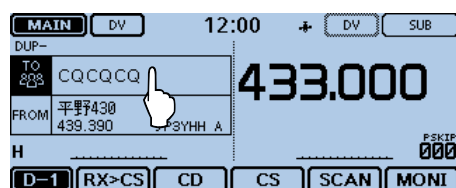
◇ 「ダイレクト入力(RPT)」から設定する

CQを出したいエリアレピータのコールサインがまだ登録されていない場合、コールサインを1文字ずつ入力して設定できます。

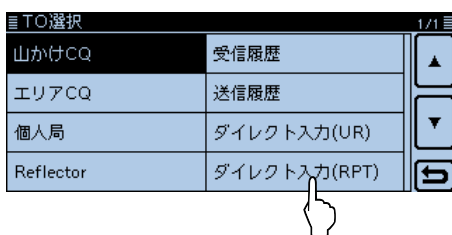
《例》ダイレクト入力(RPT)から「JP3YDH」(池田430レピータ)を設定する

- ① [DR]をタッチする。
- ② 「TO」を選択した状態になっていることを確認する。
 - 選択した状態になっていない場合は、「TO」をタッチします。

- ③ 「TO」をタッチする。
 - 「TO選択」画面が表示されます。



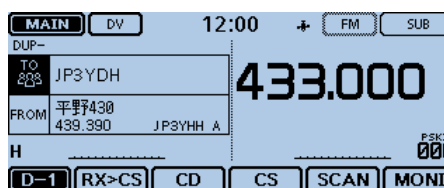
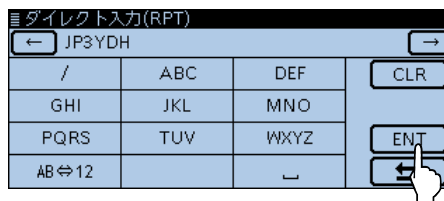
- ④ 「ダイレクト入力(RPT)」項目をタッチする。
 - 「ダイレクト入力(RPT)」画面が表示されます。



- ⑤ 入力したい文字がある枠を数回タッチする。
 - 1文字目の文字を選択します。(例：J)
 - 入力できる文字は、英数字(A～Z、0～9)と「/」です。
※数字は、「AB⇄12」をタッチして数字一覧に切り替えてから入力します。
 - [CLR]をタッチすると、選択した文字を削除できます。
 - 「_」をタッチすると、スペースを入力できます。
- ⑥ [←]/[→]をタッチする。
 - カーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。

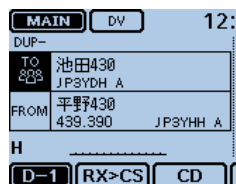
- ⑦ 手順⑤、⑥を繰り返し、8文字以内(スペースを含む)で相手局のコールサインを入力し、[ENT]をタッチする。(例 2文字目：P、3文字目：3、4文字目：Y、5文字目：D、6文字目：H)

- DR画面に戻り、入力したレピータが「TO」に表示されます。
- 設定後に、コールサインを修正したい場合は、再度ダイレクト入力画面で編集できます。
- 設定したコールサインは、変更しないかぎりダイレクト入力画面にそのまま残ります。



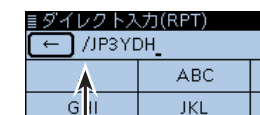
ご参考

「ダイレクト入力したコールサインが、すでに登録されている場合は、名前が表示されます。(名前を登録していた場合にかぎり)



ご参考

ダイレクト入力する場合でも、エリアレピータを示す「/」は入力不要ですが、右図のように入力しても正しく設定されます



エリアCQ時にレピータを示す「/」を入力した場合

6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ リフレクターを運用するには

◇リフレクターとは？

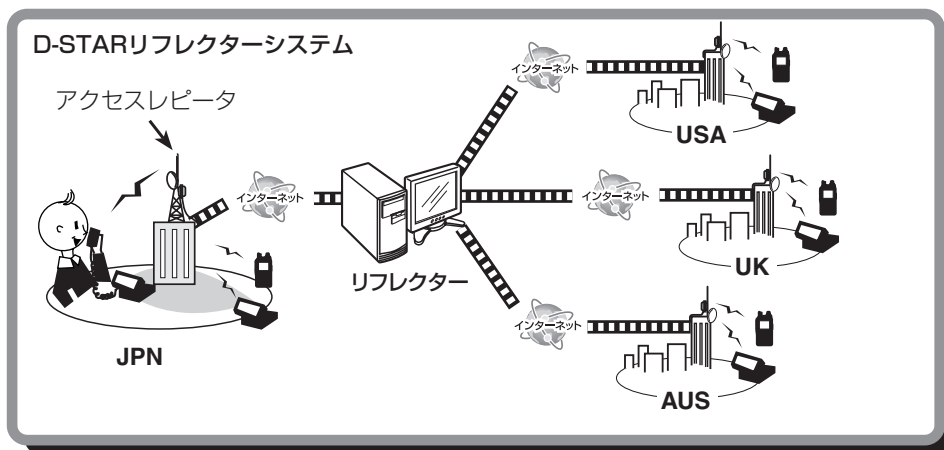
リフレクターとは、インターネットに接続したサーバーのことで、dplus(ソフトウェア)を経由して遠隔地と交信することができます。

アクセスレピータにdplusがインストールされていると、インターネット回線を経由して、リフレクターの機能を使用できるようになります。これをD-STARリフレクターシステムといいます。

D-STARリフレクターシステムでは、世界中の多くのD-STARレピータがリフレクターにリンクしているため、リフレクターを通して世界中の局で自局の送信音声を聞くことができます。また、遠隔地から送られた音声を聞くこともできます。

ご注意

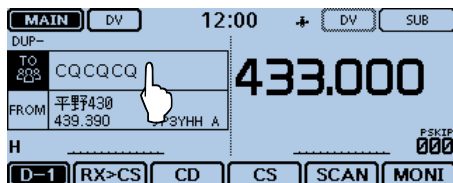
2014年2月現在、日本国内ではD-STARレピータは、リフレクターに対応していません。



◇リフレクターを使う

リフレクターを使って交信するには、アクセスレピータがリフレクターにリンクしている必要があります。(※P6-29)

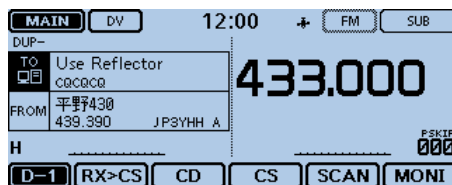
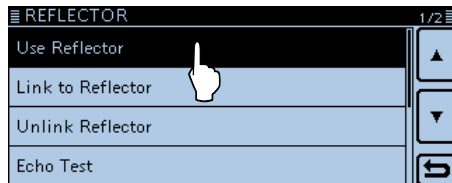
- ① [DR] をタッチする。
- ② 「TO」を選択した状態になっていることを確認する。
 - 選択した状態になっていない場合は、「TO」をタッチします。
- ③ 「TO」をタッチする。
 - 「TO選択」画面が表示されます。



- ④ 「Reflector」をタッチする。
 - 「Reflector」画面が表示されます。



- ⑤ 「Use Reflector」をタッチする。
 - DR画面に戻ります。
 - 「Use Reflector」と「CQCQCQ」が「TO」に表示されます。



- ⑥ マイクロホンの [PTT] を押して送信する。
 - 送信状態になり、マイクロホンのLED1ランプが赤点灯します。

6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ リフレクターを運用するには(つづき)

◇リフレクターにリンクする

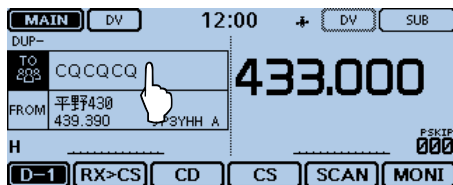
アクセスレピータがリフレクターにリンクしていないとき、または別のリフレクターにリンクしたいときは、次の手順にしたがって設定します。

別のリフレクターにリンクする前には必ず現在リンクしているリフレクターを解除(Unlink)してください。(※P6-30)

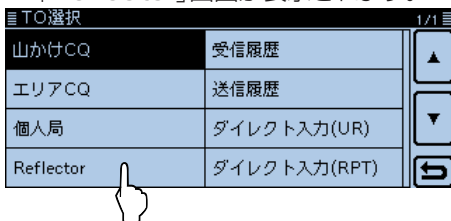
直接入力するとき

《例》「REF010BL」を直接入力する。

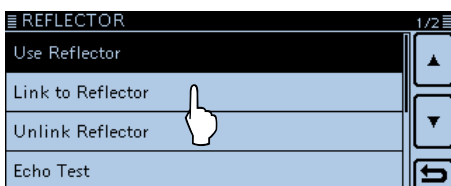
- ① [DR] をタッチする。
- ② [TO] を選択した状態になっていることを確認する。
 - 選択した状態になっていない場合は、「TO」をタッチします。
- ③ 「TO」をタッチする。
 - 「TO選択」画面が表示されます。



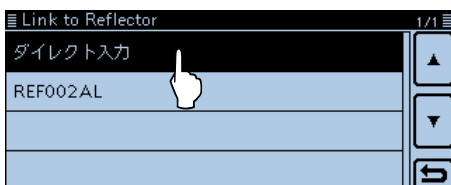
- ④ 「Reflector」をタッチする。
 - 「Reflector」画面が表示されます。



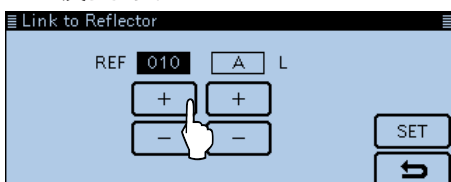
- ⑤ 「Link to Reflector」をタッチする。



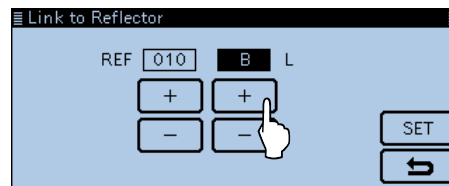
- ⑥ 「ダイレクト 入力」をタッチする。



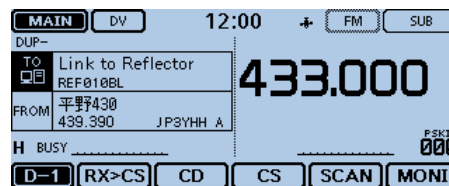
- ⑦ 左側の [+]/[-] をタッチする。
 - リフレクター番号を選択します。(《例》010)
 - [↵] にタッチすると、入力をキャンセルして前の画面に戻ります。



- ⑧ 右側の [+]/[-] をタッチする。
 - モジュール文字を選択します。(《例》B)



- ⑨ [SET] をタッチする。
 - DR画面に戻ります。
 - 「Link to Reflector」と「REF010BL」が「TO」に表示されます。



- ⑩ マイクロホンの [PTT] を押してリフレクターにリンクする。
 - 送信状態になり、マイクロホンのLED1ランプが赤点灯します。

6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ リフレクターを運用するには

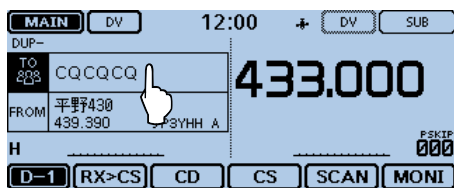
◇ リフレクターにリンクする(つづき)

送信履歴から選択するとき

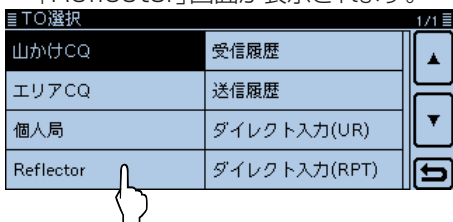
送信履歴には、アクセスレピータがリンクした最新5件までのリフレクターが表示されます。

《例》「REF002AL」を送信履歴から選択する。

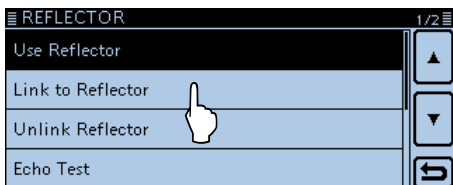
- ① [DR] をタッチする。
- ② 「TO」を選択した状態になっていることを確認する。
 - 選択した状態になっていない場合は、「TO」をタッチします。
- ③ 「TO」をタッチする。
 - 「TO選択」画面が表示されます。



- ④ 「Reflector」をタッチする。
 - 「Reflector」画面が表示されます。

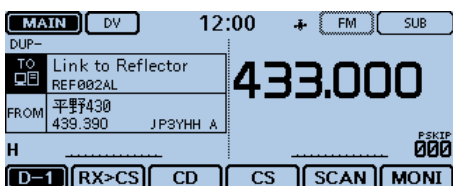
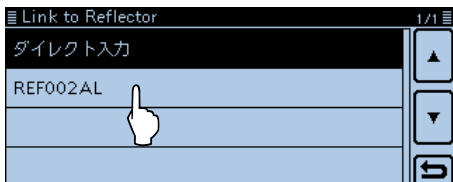


- ⑤ 「Link to Reflector」をタッチする。



- ⑥ リンクしたいリフレクターにタッチする。
(《例》「REF002AL」)

- DR画面に戻ります。
- 「Link to Reflector」と「REF002AL」が「TO」に表示されます。

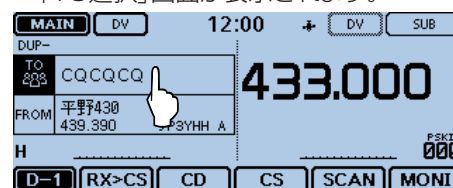


- ⑦ マイクロホンの [PTT] を押してリフレクターにリンクする。
 - 送信状態になり、マイクロホンのLED1ランプが赤点灯します。

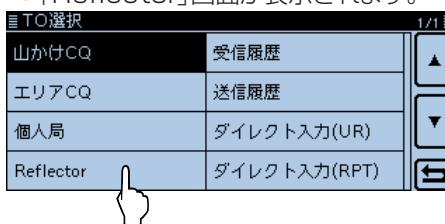
◇ リフレクターへのリンクを解除(アンリンク)する

別のリフレクターにリンクする前にかならず現在リンクしているリフレクターを解除(Unlink)してください。

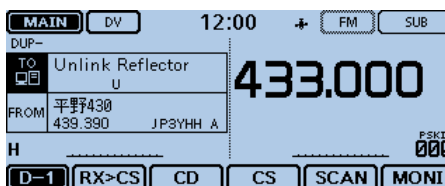
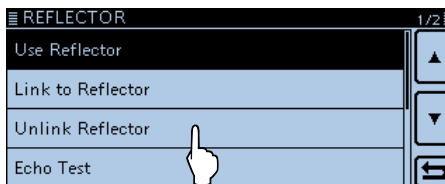
- ① [DR] をタッチする。
- ② 「TO」を選択した状態になっていることを確認する。
 - 選択した状態になっていない場合は、「TO」をタッチします。
- ③ 「TO」をタッチする。
 - 「TO選択」画面が表示されます。



- ④ 「Reflector」をタッチする。
 - 「Reflector」画面が表示されます。



- ⑤ 「Unlink Reflector」をタッチする。
 - DR画面に戻ります。
 - 「Unlink Reflector」と「U」が「TO」に表示されます。



- ⑥ マイクロホンの [PTT] を押してリフレクターへのリンクを解除する。
 - 送信状態になり、マイクロホンのLED1ランプが赤点灯します。

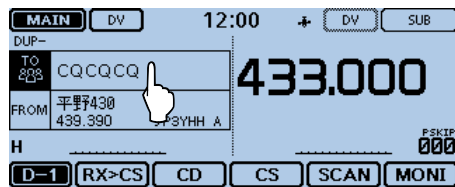
6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ リフレクターを運用するには(つづき)

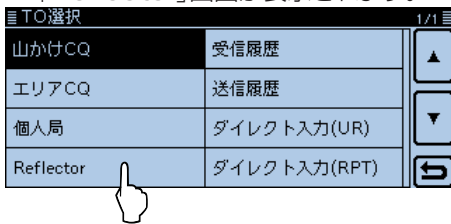
◇ アクセスレピータに信号が届いているか確認する

再生音声の明瞭度で、自局の信号がどの程度レピータに届いているか確認できます。また、アクセスレピータが正常に動作しているかどうかを確認できます。

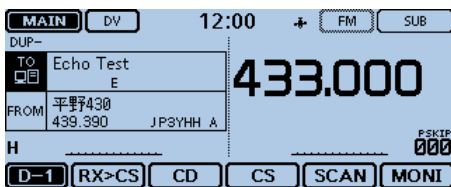
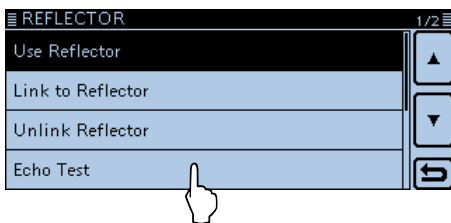
- ① [DR] をタッチする。
- ② 「TO」を選択した状態になっていることを確認する。
 - 選択した状態になっていない場合は、「TO」をタッチします。
- ③ 「TO」をタッチする。
 - 「TO選択」画面が表示されます。



- ④ 「Reflector」をタッチする。
 - 「Reflector」画面が表示されます。



- ⑤ 「Echo Test」をタッチする。
 - DR画面に戻ります。
 - 「Echo Test」と「E」が「TO」に表示されます。

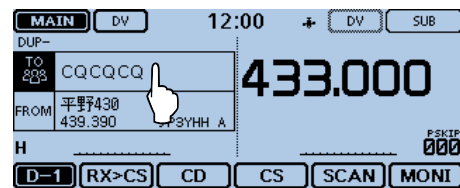


- ⑥ マイクロホンの [PTT] を押して、通常の音量で話します。
 - 送信状態になり、マイクロホンのLED1ランプが赤点灯します。
- ⑦ [PTT] を離すと、話した音声を再生します。

◇ レピータの情報を取得する

レピータ情報リクエストコマンドを送出すると、IDメッセージが送り返されます。

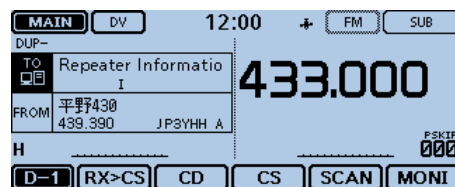
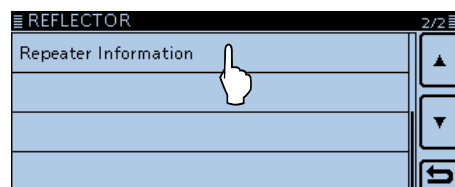
- ① [DR] をタッチする。
- ② 「TO」を選択した状態になっていることを確認する。
 - 選択した状態になっていない場合は、「TO」をタッチします。
- ③ 「TO」をタッチする。
 - 「TO選択」画面が表示されます。



- ④ 「Reflector」をタッチする。
 - 「Reflector」画面が表示されます。



- ⑤ [▼] をタッチする。
- ⑥ 「Repeater Information」をタッチする。
 - DR画面に戻ります。
 - 「Repeater Information」と「I」が「TO」に表示されます。



- ⑦ マイクロホンの [PTT] を押して、レピータ情報リクエストコマンドを送出します。
 - 送信状態になり、マイクロホンのLED1ランプが赤点灯します。
- ⑧ [PTT] を離すと、IDメッセージが聞こえます。

6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ レピータリストを更新するには

本製品には、D-STAR®がすぐにはじめられるように、使用できる各レピータのコールサインが登録されています。レピータが開設されると、最新のレピータリストが弊社ホームページに公開されます。

ここでは、SDカードを使用して、更新する手順を説明します。

お使いになるパソコンにあわせて、SDカードを読み込むためのメモリーカードリーダー(市販品)などを別途ご用意ください。

1. 最新のレピータリストを入手する

① 弊社ホームページから、「CS-5100 専用レピータリスト」と書かれた最新の設定ファイル(ICFファイル)とレピータリスト(CSVファイル)が圧縮されたファイルをパソコンにダウンロードします。

弊社ホームページ(D-STAR®サイト→サポート情報)
<http://www.icom.co.jp/d-starsite/support/download/index.html>

●ダウンロード先に指定した場所(例: デスクトップ)に圧縮ファイル(例: 5100_JPN_140220.zip)が保存されます。

更新日により異なります。

弊社D-STAR®サイトのサポート情報のダウンロード画面

※ここにID-5100用のレピータリストがアップされます。

※表示方法は、変更することがあります。

種類	製品名	更新日
レピータリスト	CS-51 専用レピータリスト	2012/12/26
クロニングソフト	CS-31	2011/11/25
レピータリスト	CS-91 専用レピータリスト	2012/12/26
クロニングソフト	CS-80/880	2011/07/04
レピータリスト	CS-90/990 専用レピータリスト	2012/12/25
レピータリスト	CS-9100 専用レピータリスト	2012/12/25
アプリメモリー	ID-92 (工場出荷時の金データ)	2008/02/21
メモリーデータ	ES-92 専用メモリーデータ	2012/12/25
アプリメモリー	IC-2820G (DG (工場出荷時の金データ))	2011/10/26

レピータリスト | CS-5100 専用レピータリスト | 2014/xx/xx

② 保存された圧縮ファイルを右クリックします。

③ 「すべて展開(T)...」をクリックします。

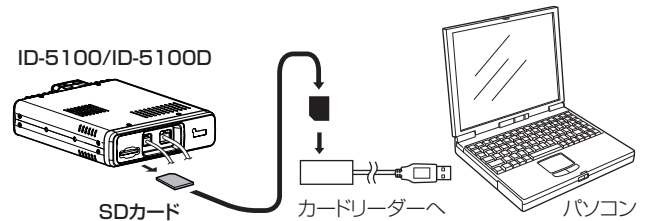
●ファイルが自己解凍され、ダウンロードした圧縮ファイルと同じ場所(例: デスクトップ)に、フォルダー(例: 5100_JPN_140220)が生成されます。このフォルダーを開くと、設定ファイル(ICFファイル)とレピータリスト(CSVファイル)が収録されています。

2. SDカードをパソコンに接続する

④ SDカードを、パソコンと接続されたSDカードスロット、またはカードリーダーに装着します。

※本製品に一度も装着していないSDカードを使用する場合は、あらかじめ、本製品でSDカードを初期化(フォーマット)してください。(P9-3)

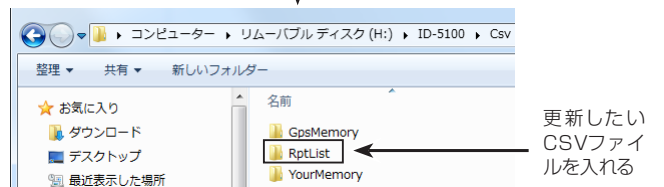
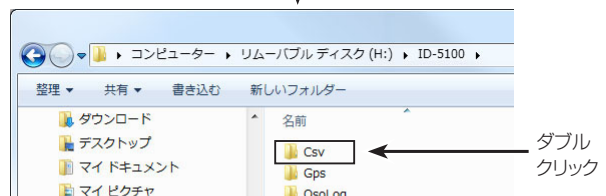
SDカードの取り付け、取りはずし方法については、9-3ページをご覧ください。



3. 最新のレピータリストをフォルダーにコピーする

⑤ パソコン(例: デスクトップ)上に生成されたフォルダー(例: 5100_JPN_140220)をダブルクリックします。

⑥ フォルダーの中にあるCSVファイル(例: 5100_JPN_Rpt_140220.csv)だけを、SDカード内の下記のフォルダーにコピーします。
([ID-5100] > [Csv] > [RptList])



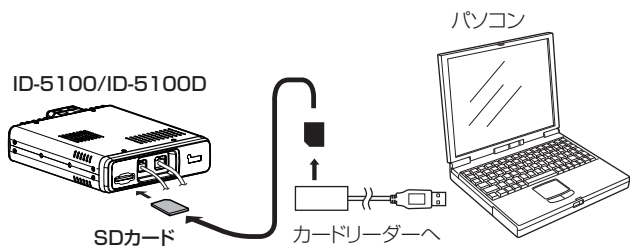
6 D-STAR® 運用 < 基本編 >

■ レピータリストを更新するには(つづき)

4. SDカードを本製品に取り付ける

⑦ SDカードをパソコンから取りはずし、ID-5100に取り付けます。

SDカードの取り付け方法については、9-3ページをご覧ください。



設定データを本製品に読み込ませる前に、現在の設定データをSDカードに保存しておくことをおすすめします。

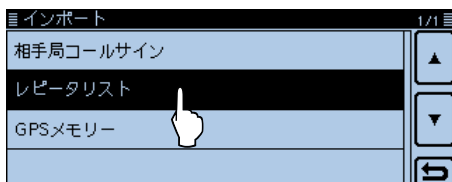
5. レピータリストを本製品に入れて更新する

⑧ [MENU]をタッチする。

⑨ 「レピータリスト」項目をタッチする。

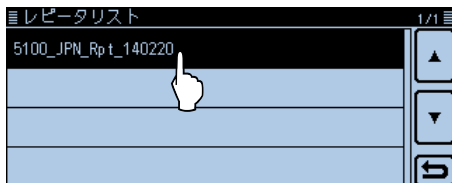
(SDカード > インポート / エクスポート > インポート > レピータリスト)

● [▲]/[▼]をタッチすると、ページを切り替えます。



⑩ 本製品に読み込むCSVファイル(例: 5100_JPN_Rpt_140220)をタッチする。

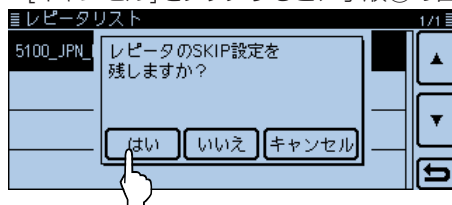
● 「レピータのSKIP設定を残しますか?」画面が表示されます。



⑪ [[はい]、または[[いいえ]をタッチする。

● [[はい]を選択すると、レピータリストのスキップ設定(☞P7-28)を保持します。

● [[キャンセル]をタッチすると、手順⑨の画面に戻ります。

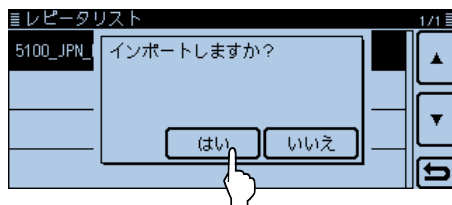


⑫ 「インポートしますか?」画面を表示したら、[[はい]をタッチする。

● 設定データの読み込みを開始します。

● 読み込み中、「インポート中」画面を表示し、進行状況が表示されます。

● 読み込みが完了すると、「インポート完了」画面が表示されます。



⑬ 読み込んだデータを有効にするため、電源を入れなおしてください。

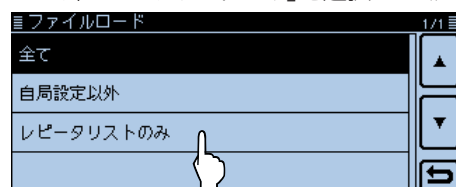
ご参考

SDカード内の[Setting]フォルダにICFファイルをコピーしていれば、同様の手順でレピータリストを更新できます。

その場合は、本製品のMENU画面にある「設定ロード」項目からICFファイルを選択してください。

(SDカード > 設定ロード)

※ICFファイル選択後に表示される「ファイルロード」画面では、「レピータリストのみ」を選択してください。



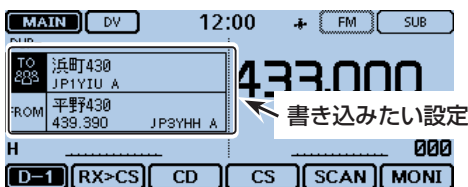
6 D-STAR 運用 < 基本編 >

■ 設定をメモリーに書き込むには

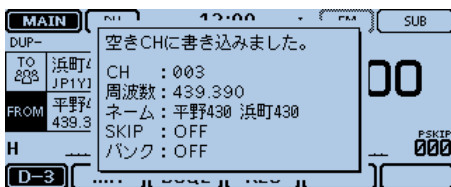
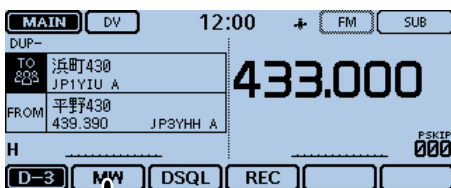
アクセスレピータ(FROM)とあて先(TO)の設定をメモリーチャンネル(M-CH)に書き込んでおくと、[DIAL]を回すだけで設定が呼び出せます。

1. M-CHに設定内容を書き込む

書き込みたい設定をDR画面に表示させます。

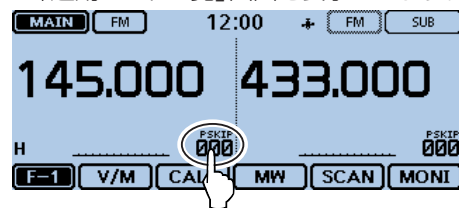


- ① ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「D-3」画面を表示させます。
- ② [MW]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。
 - 一瞬だけメモリー内容を表示し、空きCHに書き込まれます。
 - DR画面で設定した「FROM」と「TO」のネームが自動的にメモリーネームへ登録されます。
全角で8文字、半角で16文字までが登録されます。

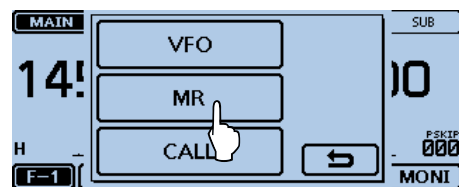


2. 書き込んだ設定内容をメモリーモードで確認する

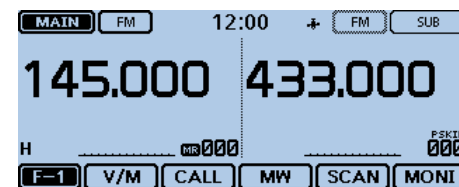
- ③ [DR]をタッチする。
 - DR画面を解除します。
- ④ メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード一覧」画面を表示させます。



- ⑤ [MR]をタッチする。
 - メモリーモードが表示されます。



- ⑥ [DIAL]を回して、書き込んだM-CHを選択する。
 - 書き込んだM-CHが表示されます。(例 010)



■	メッセージ機能の使いかた	7-2
◇	送信するメッセージを登録する	7-2
◇	送信メッセージを選択する	7-4
◇	登録したメッセージを削除する	7-5
■	受信したコールサインを確認する	7-6
◇	受信履歴を呼び出して確認する	7-6
■	BK(割り込み)機能の運用	7-8
■	EMR機能の運用	7-9
◇	EMR信号受信時の音量を調整する	7-9
■	表示タイプについて	7-10
■	DV自動検出機能について	7-11
■	自動応答機能の使いかた	7-12
◇	自動応答用の音声を録音する	7-13
◇	位置情報の自動応答について	7-14
■	簡易データ通信について	7-15
◇	パソコンの接続について	7-15
◇	簡易データ通信の操作	7-15
◇	通信ソフトウェアの設定について	7-15
■	デジタルコールサインスケルチ/デジタルコードスケルチ機能	7-16
◇	デジタルコールサインスケルチを設定する	7-16
◇	デジタルコールサインスケルチをポケットビープで 待ち受け受信しているとき	7-16
◇	デジタルコードスケルチを設定する	7-17
◇	デジタルコードスケルチをポケットビープで 待ち受け受信しているとき	7-17
■	コールサインの設定を確認する	7-18
■	DV同時待ち受けについて	7-18
■	レピータリストについて	7-19
◇	レピータリストに登録できる設定項目一覧	7-19
■	レピータリストにレピータ情報を登録する	7-20
◇	目的別 新規登録に最低限必要な項目	7-20
◇	レピータリストに新規情報を登録する	7-21
■	レピータリストのレピータ情報を編集する	7-25
■	レピータリストのレピータ情報を削除する	7-25
■	レピータが表示される順番を並べ替える	7-26
■	受信履歴からレピータ情報を登録する	7-27
■	DRスキャン時のスキップ設定	7-28
◇	個別にレピータをスキップ設定する	7-28
■	レピータのグループネームを登録するには	7-29
■	レピータ詳細表示について	7-30
■	相手局コールサインの新規登録	7-31
■	相手局コールサインを削除する	7-33
■	相手局が表示される順番を並べ替える	7-33
■	出荷時のレピータリストについて	7-34
■	複数のD-STAR®機を同時に運用するとき	7-35
◇	D-STAR管理サーバーで識別登録をする	7-35
■	迷惑な設定していませんか?	7-36

7 D-STAR®運用<応用編>

■ メッセージ機能の使いかた

DVモードで音声通信しながら、同時に最大20文字のメッセージを送信できます。

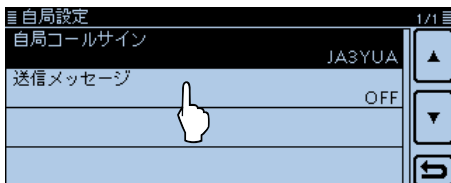
◇ 送信するメッセージを登録する

最大20文字のメッセージを5個登録できます。

《例》登録番号1に「OSAKA スズキ」を登録する

1. 送信メッセージの編集画面を表示します。

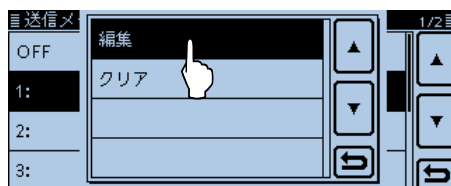
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「送信メッセージ」項目をタッチする。
(自局設定 > 送信メッセージ)
 - [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページに切り替えます。



- ③ 登録番号を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) タッチする。
(例 1 :)

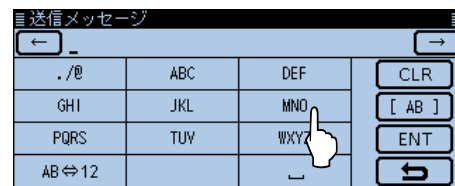


- ④ 「編集」をタッチする。
 - 「送信メッセージ」(編集)画面が表示されます。



2. 送信メッセージの編集画面を表示します。

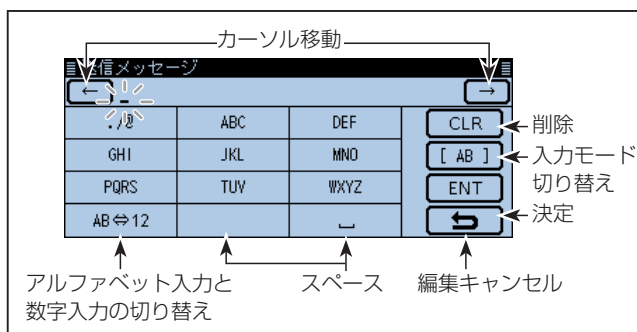
- ⑤ 入力したい文字がある枠を数回タッチして、1文字目の文字を選択する。(例 O)
 - 入力できる文字は、英数字とカタカナ、および記号です。
 - 入力モードの切り替えは、現在の入力モード([[AB]], [[ab]], [[12]], [[カナ]])をタッチします。
 - ※[AB]、[ab]、[12]選択時は、「AB⇄12」または「ab⇄12」を表示しますので、タッチするとアルファベット入力と数字入力切り替わります。
 - ※アルファベット入力時は、「A/a」が表示されますので、タッチするごとに、大文字/小文字が切り替わります。
 - ※カナ入力時は、「小」が表示されますので、タッチするごとに、(例「ッ」と「ツ」)を切り替えます。促音(ッ)と拗音(アイウエオヤユヨ)が入力できます。
 - ※カナ入力後、右にカーソルを移動すると、「°ー」を表示しますので、タッチするごとに、濁音(バ)、半濁音(パ)、長音(ハー)が入力できます。
 - [CLR]をタッチすると、選択した文字を削除できます。
 - 「_」をタッチすると、スペースを入力できます。



- ⑥ [←]/[→]をタッチしてカーソルを移動させる。
 - 文字を入力する枠を選択します。

次のページへ

編集画面の操作

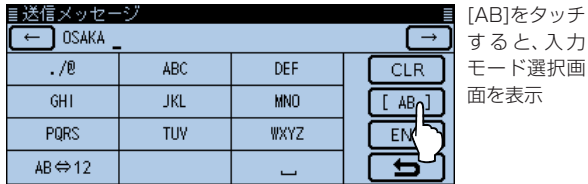


7 D-STAR®運用<応用編>

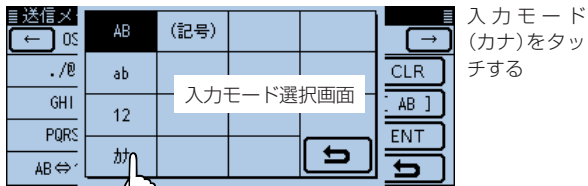
■メッセージ機能の使いかた(つづき)

- ⑦手順⑤、⑥を繰り返して、20文字以内(スペースを含む)で送信メッセージを入力する。(例 2文字～9文字目: SAKA スズキ)

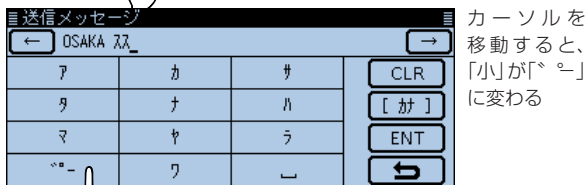
「OSAKA」とスペースまで入力した状態



[AB]をタッチすると、入力モード選択画面を表示



入力モード(カナ)をタッチする



カーソルを移動すると、「小」が「°」に変わる

- ⑧ [ENT]をタッチします。

- 「送信メッセージ」(選択)画面に戻ります。



- ⑨ [MENU]をタッチする。

- MENU画面を解除します。

入力モード切り替えで選択できる文字一覧

入力モード	入力文字一覧
AB	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
ab	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
12	1234567890
カナ	アイウエオカキクケコサシスセソタチツテトナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨラリルレロワラン°ー
記号	「!」#\$%&'()*+,-./:;<=?@[¥] ^_`{ } ~。「」・°

※「」はスペースです ※漢字は入力できません

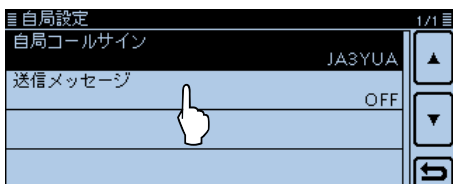
7 D-STAR®運用<応用編>

■メッセージ機能の使いかた(つづき)

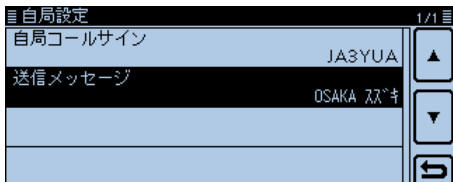
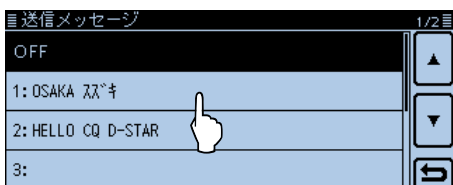
◇送信メッセージを選択する

登録したメッセージを選択して送信します。

- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「送信メッセージ」項目をタッチする。
(自局設定 > 送信メッセージ)
 - [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページに切り替えます。
 - 「送信メッセージ」(選択)画面を表示します。



- ③ 登録番号(「1:」～「5:」)をタッチする。
※メッセージを送信しないときは、「OFF」をタッチします。
(例 1: OSAKA スズキ)



- ④ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面を解除します。
 - 会話しながらメッセージを送信できます。
 - [PTT]を押すごとに、メッセージを送信します。
また、連続送信中は30秒に1回、自動的にメッセージを送信します。

コールサイン/メッセージのスクロール表示について
初期設定では、コールサインとメッセージを受信すると、その内容を順番にスクロール表示するように設定されています。
非表示に設定したい場合は、MENU画面内の「受信コールサイン表示」項目を「OFF」に設定してください。
(ディスプレイ設定 > 受信コールサイン表示)

「OSAKA スズキ」というメッセージを受信した状態



スクロールします



7 D-STAR®運用<応用編>

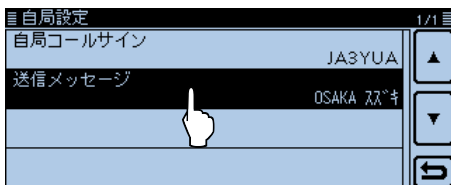
■ メッセージ機能の使いかた(つづき)

◇ 登録したメッセージを削除する

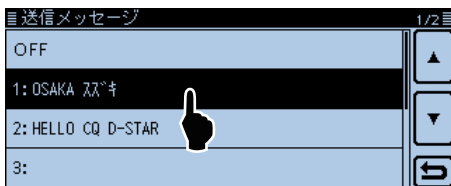
登録したメッセージを削除するときは、以下の要領で操作してください。

《例》登録番号1の「OSAKA スズキ」を削除する

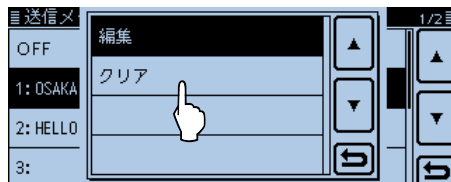
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「送信メッセージ」項目をタッチする。
(自局設定 > 送信メッセージ)
 - [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページに切り替えます。
 - 「送信メッセージ」(選択)画面を表示します。



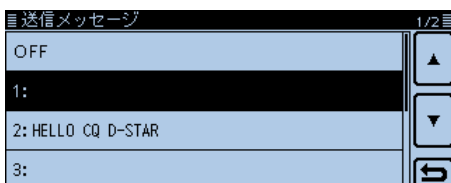
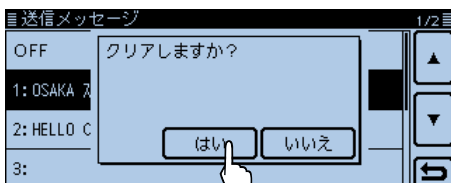
- ③ 削除したい登録番号を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。
(例 1 : OSAKA スズキ)



- ④ 「クリア」をタッチする。
 - 「クリアしますか?」の確認画面を表示します。



- ⑤ [はい]をタッチします。



- ⑥ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面を解除します。

■ 受信したコールサインを確認する

DVモードの信号を受信した場合、その信号を送信した局や使用されたレピータのコールサインを、以下の手順で確認できます。

最大50件の受信履歴を記憶できます。

50件を超えると古い履歴から削除されます。

※電源をOFFしても履歴は消去されません。

◇ 受信履歴を呼び出して確認する

① ファンクショングループ表示部を数回タッチする。

- 「D-1」画面を表示させます。

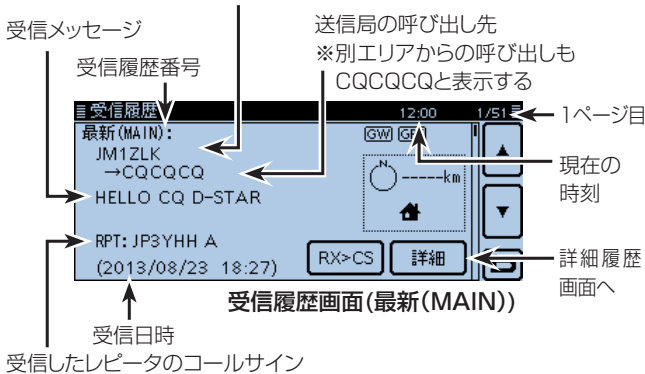
② [CD]をタッチする。

- 「受信履歴」画面が表示されます。

③ [▲]/[▼]をタッチする。

- 受信履歴(RX01～RX50)を選択します。
- 「受信履歴」画面は、1ページ目にMAIN/バンドの最新の履歴が表示されます。2ページ目以降は、MAIN/バンド/SUB/バンドに関係なく、受信した順に履歴が並びます。
- 受信履歴番号のほか、送信者のコールサイン/呼び出し先/メッセージ/受信日時/受信したレピータのコールサイン/GW/GPS情報/RX>CS/詳細が表示されます。
- GW表示は、インターネットに接続されたレピータを経由して受信した場合に表示されます。
- GPS表示とその下の破線内の表示は、受信情報に位置情報が含まれる場合に表示されます。
- UP表示は、レピータのアップリンク信号を受信した場合に表示されます。
- [RX>CS]をタッチすると、受信情報に含まれるコールサインを応答相手として一時的に宛先へ設定できます。

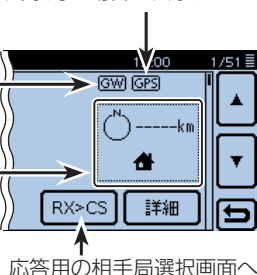
送信局のコールサイン(「/」のうしろはメモ)



D-PRSの送信フォーマット種別表示
GPS : 位置情報が含まれている場合、表示する
OBJ : オブジェクト局の場合、表示する
ITEM : アイテム局の場合、表示する
WX : 気象局の場合、表示する

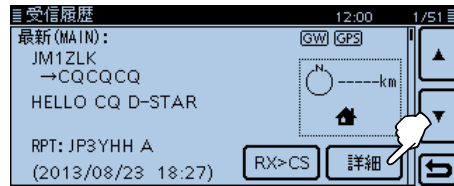
ゲート越えCQ、または特定局を呼び出した信号を受信した表示

D-PRS情報
・進行方向(コンパス)
・送信した局との距離(km)
・D-PRSシンボル



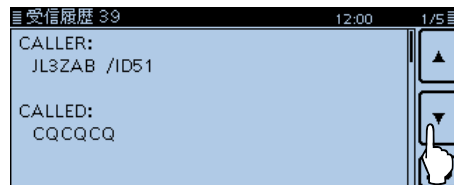
④ [詳細]をタッチする。

- 受信履歴の詳細情報が表示されます。



⑤ [▲]/[▼]をタッチする。

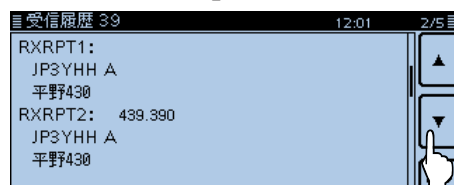
- タッチするごとに、受信履歴ページが切り替わります。
[1ページ目]
- CALLER : 送信局のコールサインとメモを表示します。
※DVメモリーに登録している場合は、送信局のネームを表示します。
- CALLED : 送信局に呼び出された局のコールサインを表示します。
※山かけCQやゲート越えCQの場合は「CQCQCQ」が表示されます。
※DVメモリーに登録している場合は、呼び出された局のネームを表示します。



[2ページ目]

- RXRPT1 : 送信局からみたアクセスレピータのコールサインを表示します。
ゲートウェイ通信で呼び出された場合は、自局が直接受信したレピータのゲートウェイ局を表示します。
※DVメモリーに登録している場合は、レピータネームを表示します。
- RXRPT2 : 自局が直接受信したレピータのコールサインを表示します。
※DVメモリーに登録している場合は、レピータネームを表示します。

※シンプレックス通信の履歴は、RXRPT1/RXRPT2の代わりに「周波数」項目が表示されます。

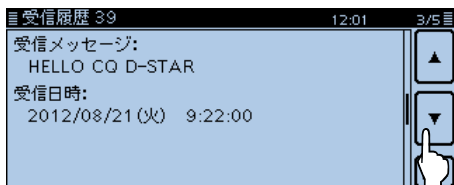


7 D-STAR®運用<応用編>

■ 受信したコールサインを確認する(つづき)

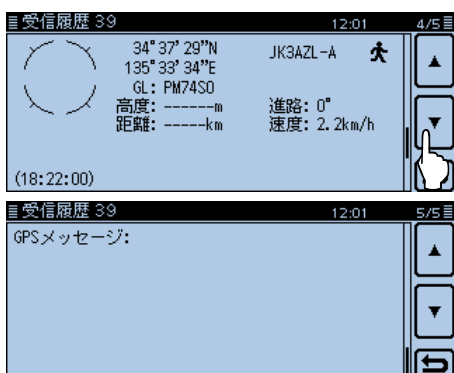
[3ページ目]

- **受信メッセージ**: 受信したメッセージを表示します。
- **受信日時**: 受信した日付/曜日/時刻を表示します。



[4ページ目]、[5ページ目]

相手局のGPS情報を表示します。
GPS情報を受信していないときは表示されません。

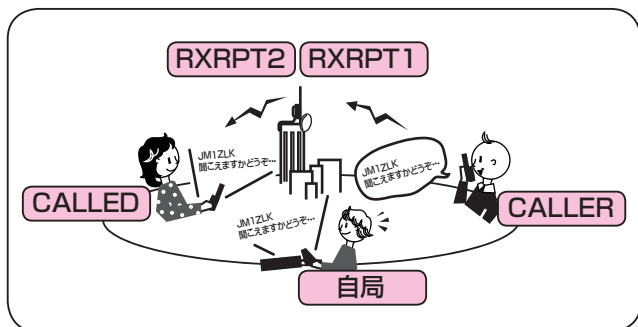


- ⑥ [MENU]をタッチする。
- MENU画面を解除します。

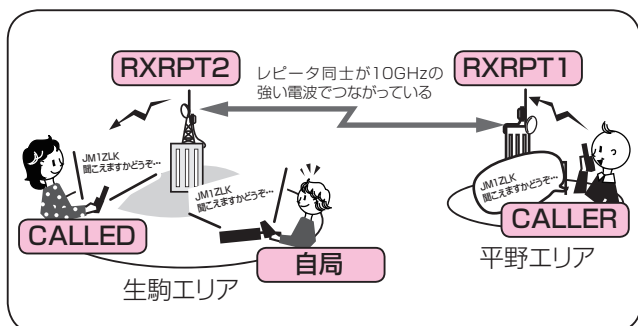
ご参考

通信形態によって、RXRPT1が変わります。

(例 山かけ通信で受信した場合)

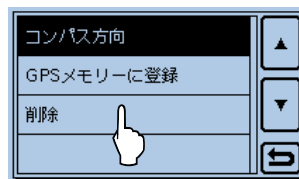


(例 アシストで受信した場合)※生駒-平野間など

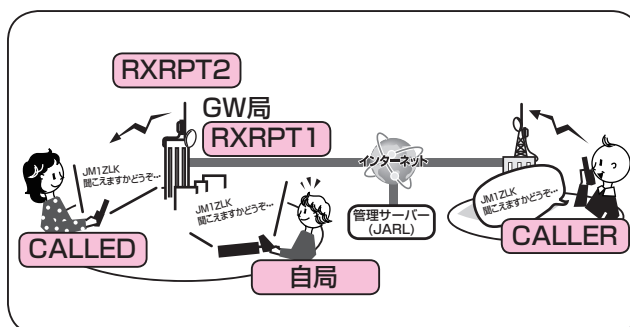


受信履歴を削除するには

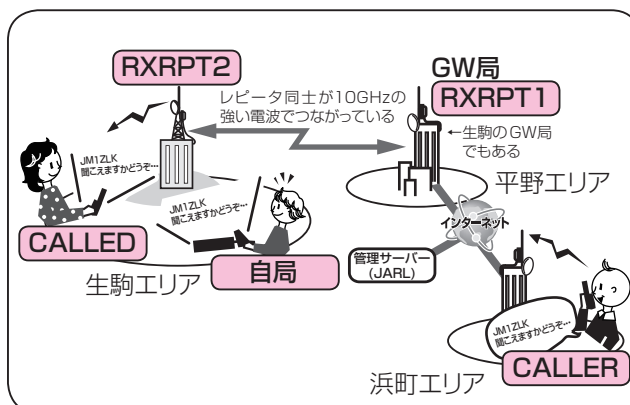
受信履歴を削除したい場合は、受信履歴画面、または受信履歴内容画面を長く(約1秒)タッチするか、[QUICK]をタッチすると、「削除」項目から削除できます。



(例 ゲートウェイ通信で受信した場合)



(例 ゲートウェイ通信+アシストで受信した場合)



7 D-STAR®運用<応用編>

■ BK(割り込み)機能の運用

BK(割り込み)機能は、DVモードのデジタルコールサインスケルチ(DSQL)で通信している2局に対して、同時に呼びかける場合に使用します。

※一度電源をOFFにすると、設定は解除されます。

- ① 信号を受信したあと、ファンクションメニューの[RX>CS]を長く(ピッ、ピピッと鳴るまで)押します。(ダイヤルの操作は不要です。
 - 受信した相手局のコールサインが「TO」(あて先)に設定されます。
 - 相手局のコールサインが読み上げられます。
 - 相手局のコールサイン、および使用されているレピータのコールサインが自動的に設定されます。※コールサインが正しく受信されなかったときは、エラーピープ音が鳴り、コールサインは設定されません。

- ② [MENU]をタッチする。

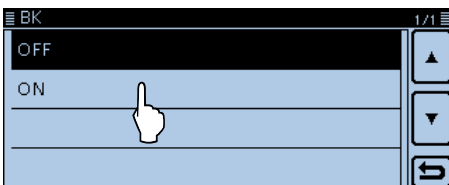
- ③ 「BK」項目をタッチする。

(DV設定 > BK)

- [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページに切り替えます。

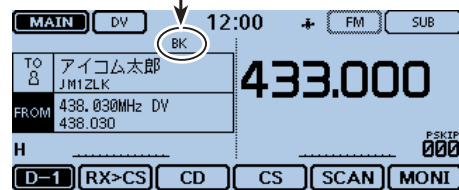


- ④ 「ON」をタッチする。



- ⑤ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面を解除します。
 - 「BK」表示が点灯します。

「BK」表示



- ⑥ 両局が受信状態のときに、[PTT]を押します。

- 送信状態になり、LED1ランプが赤点灯します。
- ※割り込み通信を受信した局は、「BK」表示が点滅します。
- ※BK(割り込み)機能を解除するときは、手順④で「OFF」を選択するか、本製品の電源を切ります。

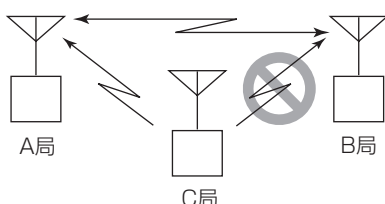
BK機能の使いかた

デジタルコールサインスケルチを使用しているときは、自局宛でない信号を受信してもスケルチは開きません。

※BK機能を「ON」に設定した信号を受信した場合は、自分が通信している相手局宛の信号であってもスケルチは開きます。

C局が「BK OFF」でA局を呼び出す場合

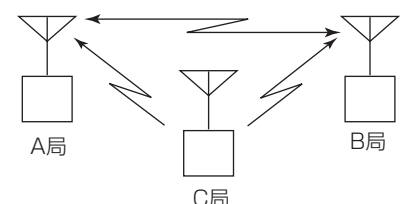
A-B局がデジタルコールサインスケルチを使って通信



C局がA局を呼び出しても、B局にはその呼び出しは聞こえない

C局が「BK ON」でA局を呼び出す場合

A-B局がデジタルコールサインスケルチを使って通信



C局がA局を呼び出すと、B局にもその呼び出しが聞こえる

7 D-STAR®運用<応用編>

■ EMR機能の運用

EMR(Enhanced Monitor Request)機能は、DVモードで至急に連絡を取るときなどに使用します。

※EMR信号を受信したすべての無線機のスケルチを強制的に開き、信号を受信する状態にします。

安易にEMR信号を送信すると、他局に迷惑を与える原因になりますのでご注意ください。

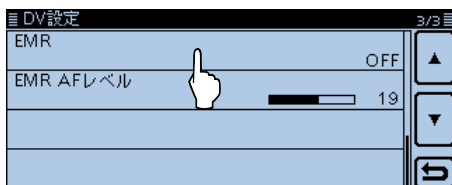
※EMR AFレベル機能が搭載されていない機種では、音量が最小レベルになっていても、一定の音量で通話が聞こえます。

※相手局のコールサインやCQの設定は不要です。

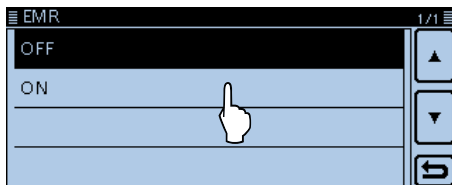
※一度電源をOFFにすると、設定は解除されます。

《例》EMR機能で浜町430から送信する

- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「EMR」項目をタッチする。
(DV設定 > EMR)
 - [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページに切り替えます。

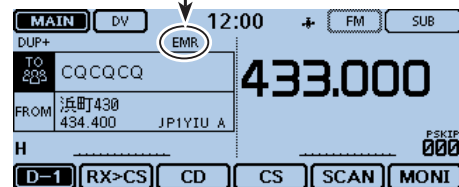


- ③ 「ON」をタッチする。



- ④ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面を解除します。
 - 「EMR」表示が点灯します。

「EMR」表示



- ⑤ [PTT]を押します。
 - 送信状態になり、送受信表示LEDが赤点灯します。
 - ※EMR信号を受信した局は、「EMR」表示が点滅し、EMR AFレベルで設定された音量に切り替わります。ただし、「VOL」で設定している音量のほうが大きい場合は、その音量で受信します。
 - ※EMR機能を解除するときは、手順③で「OFF」を選択するか、本製品の電源を切ります。

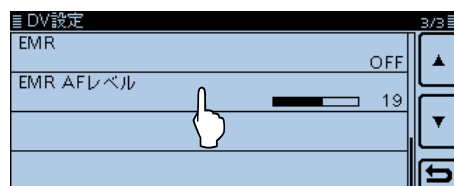
◇ EMR信号受信時の音量を調整する

EMR信号を受信したときの音量レベルを「0～32」の範囲で設定します。

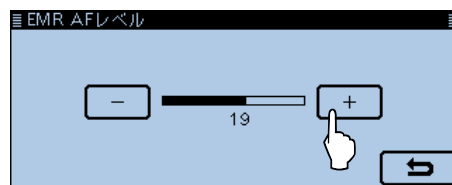
ただし、「VOL」で設定している音量のほうが大きい場合は、その音量で受信します。

「0」を設定すると、この機能は動作しません。

- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「EMR AF レベル」項目をタッチする。
(DV設定 > EMR AF レベル)



- ③ EMR信号受信時の音量を調整します。
 - 0(最小音量)～32(最大音量)の範囲(1ステップ)で設定します。(初期設定値:19)



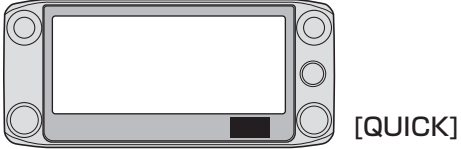
- ④ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面を解除します。

7 D-STAR®運用<応用編>

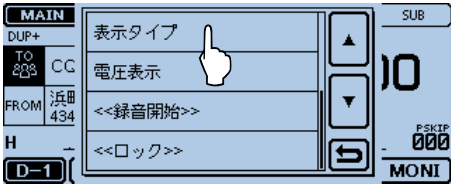
■ 表示タイプについて

DR機能で表示するレピータネームなどの文字を大きくできます。

- ① [QUICK]をタッチする。

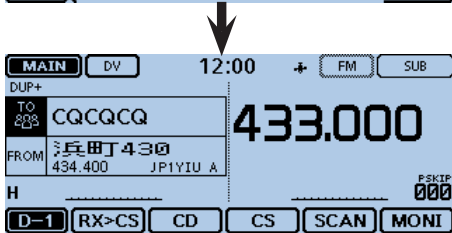
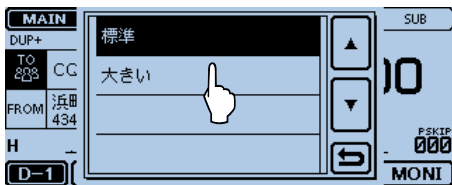


- ② 「表示タイプ」をタッチする。



- ③ 「大きい」をタッチする。

- 「FROM」と「TO」に設定したレピータネームなどの文字を大きく表示します。



7 D-STAR®運用<応用編>

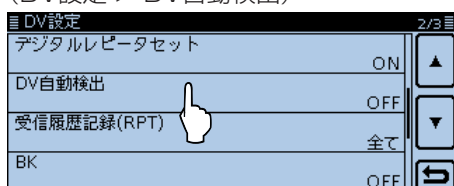
■ DV自動検出機能について

本製品は、DVモードで運用中、FMモードの信号を受信すると、DV表示とFM表示が交互に点滅して、DVモードの信号でないことを示します。

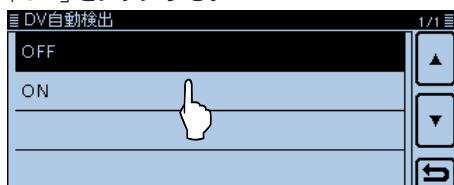
DV自動検出機能を設定すると、FMモードの信号を受信したときに、自動的にFMモードに切り替えて受信します。

※DV自動検出機能の設定に関わらず、FMモードの信号を受信すると、DV表示とFM表示は交互に点滅します。

- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「DV自動検出」項目をタッチする。
(DV設定 > DV自動検出)



- ③ 「ON」をタッチする。



- ④ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面を解除します。
 - FMモードの信号を受信すると、「DV」表示と「FM」表示が交互に点滅して、FMモードで受信します。

< FM妨害波受信時、DV自動検出機能ONとOFFの違い >

DV自動検出機能 OFF
点滅するが、FMモードの音声は受信しない

DV自動検出機能 ON
点滅し、FMモードの音声を受信する

[FM]と「DV」が交互に点滅

[FM]と「DV」が交互に点滅

FMモードの受信音声は聞こえない

FMモードの受信音声が聞こえる

ご参考

デジタルコールサインスケルチ(DSQL)、デジタルコードスケルチ(CSQL)が設定されている場合は、DV自動検出機能が「ON」であっても、静かな待ち受けを優先するため、FMモードを受信しません。

■ 自動応答機能の使いかた

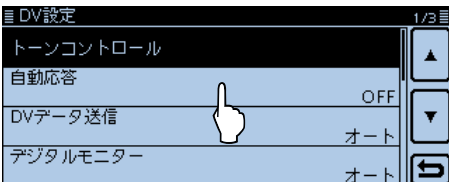
本製品では、自局宛の信号を受信すると、呼び出してきた相手局のコールサインを自動的に設定して、応答する自動応答機能を装備しています。

① [MENU]をタッチする。

② 「自動応答」項目をタッチする。

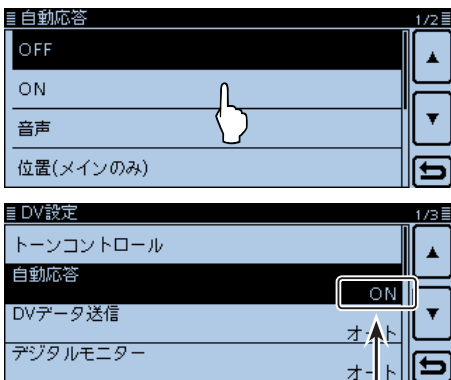
(DV設定 > 自動応答)

● [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページに切り替えます。



③ 下記から応答したい内容をタッチする。

- **ON** : 自局宛での信号を受信すると、自局のコールサインを送信して、自動で応答します。
- **音声** : 自局宛での信号を受信すると、自局のコールサインとSDカードに録音された自動応答用の音声(最大10秒)を自動で送信します。
※送信される内容は、モニターできます。
※SDカードを本製品に取り付けていないときや自動応答用のファイルがないときは、ONに設定されている場合と同じ動作になります。
- **位置(メインのみ)**
: 自局宛での信号を受信すると、内蔵GPSを使って、自局のコールサインと自局の位置情報を送信します。デュアルワッチ中は、MAINバンドで信号を受信したときだけ、自動で応答します。
※「GPS選択」の設定が「OFF」、または「マニュアル」に設定されている場合は一時的に内蔵GPSをONにします。
- **位置(メイン/サブ)**
: 自局宛での信号を受信すると、内蔵GPSを使用して、自局のコールサインと自局の位置情報を送信します。デュアルワッチ中は、MAINバンドとSUBバンドのどちらで信号を受信しても、自動で応答します。
※「GPS選択」の設定が「OFF」、または「マニュアル」に設定されている場合は一時的に内蔵GPSをONにします。



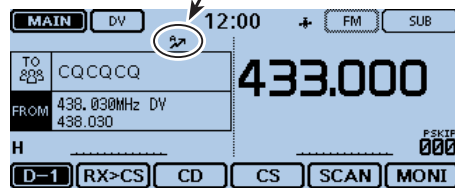
選択内容を表示します

④ [MENU]をタッチする。

● MENU画面を解除します。

● 設定すると、画面の上側に「」を表示します。(「ON」、「音声」、「位置(メインのみ)」、「位置(メイン/サブ)」どれを設定しても同じ表示です)

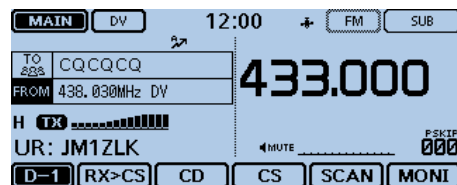
自動応答機能を設定すると表示します



※ 「ON」、または「音声」を設定しているときは、[PTT]を押すと本製品の設定が自動で「OFF」に変更されます。また、「位置(メインのみ)」、または「位置(メイン/サブ)」を設定しているときは、[PTT]を押しても「OFF」に変更されません。

● 自動応答設定時の送信画面

例:JM1ZLKから呼び出しを受けたので、自動でJM1ZLKに送信している状態



「TO」のあと先表示は、変わりませんが、呼び出された相手に送信します。

送信したときに表示されるインジケータに、「UR:相手局のコールサイン」が表示されます。

ご注意

自動応答機能は、一時的にコールサインを書き換えて応答します。

音声を録音したいときは

※MENU画面内の「DV自動応答」画面で自動応答用の音声を録音できます。(P12-15)
(音声メモ > DV自動応答)

7 D-STAR®運用<応用編>

■ 自動応答機能の使いかた(つづき)

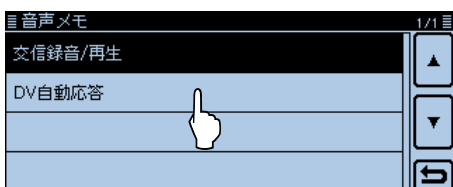
◇ 自動応答用の音声を録音する

自局宛の信号を受信したときに、自動で応答するときの応答音声を録音できます。

ご注意

自動応答用の音声を録音する場合は、市販のSDカードを取り付けている必要があります。

- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「DV自動応答」項目をタッチする。
(音声メモ > DV自動応答)
 - [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページに切り替えます。



- ③ [●]をタッチする。
 - 録音を開始します。



録音中の画面

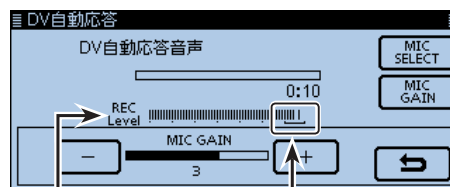
- [■]をタッチすると、録音を終了します。
- [▶]をタッチすると、録音した内容を再生します。



再生中の時間 録音した時間

- 録音時間は最大10秒間です。
- マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で録音してください。
- 録音できるのは1件だけです。
再度録音すると、録音内容が上書きされます。

- [MIC GAIN]をタッチすると、音声入力レベル調整画面を表示します。

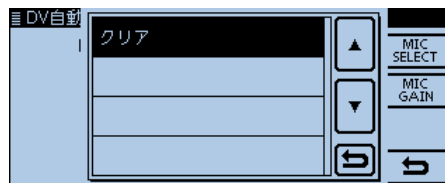


マイクロホンからの音声レベルを表示
この範囲に入らないように REC Levelの指示を見ながら調整します

- ④ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面を解除します。

録音内容を削除したい場合は

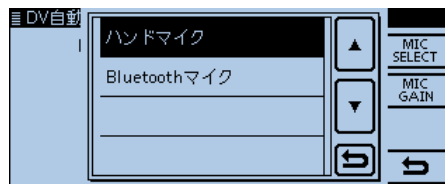
録音内容を削除したい場合は、DV自動応答画面で [QUICK]をタッチすると、選択できます。



別売品のヘッドセットから録音したい場合は

別売品のVS-3(Bluetooth®ヘッドセット)からも録音できます。

DV自動応答画面で [MIC SELECT]をタッチすると、選択できます。



7 D-STAR®運用<応用編>

■ 自動応答機能の使いかた(つづき)

◇ 位置情報の自動応答について

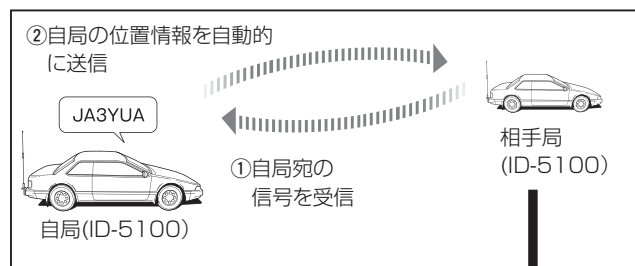
この機能は、自局宛の信号を受信したときに、自局の位置情報を知らせる機能です。

両手が自由に使えないときなど、無線機を操作できない状況でも、自動で位置情報を送信します。

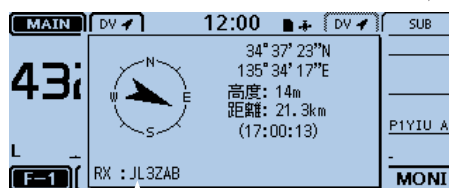
位置情報自動応答機能を受信した相手側では、右図のようにポップアップ画面が表示されます。

※ID-51以前に発売されたD-STAR機(ID-31、IC-9100、ID-880、ID-80、ID-92、IC-2820G/DG、ID-800/D、ID-91、IC-U1、IC-V1)の場合、位置情報は受信しますが、ポップアップ画面は表示されません。

※MENU画面内の「自動応答位置表示」画面でポップアップ画面を非表示にできます。(P12-47)
(ディスプレイ設定 > 自動応答位置表示)



③位置情報が送られてくると自動で表示します



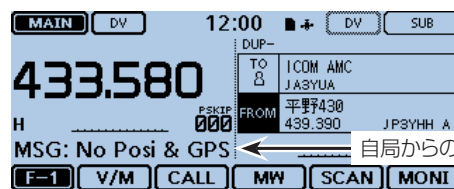
自局のコールサインや、送信メッセージがスクロール表示されます。
※自局の送信状況がメッセージ表示される場合もあります。

相手局が、位置情報自動応答を受信すると、相手局の無線機(ID-5100)にポップアップ画面で自局の位置情報が表示される

● 自局の位置情報が測位できていないときに受信した場合

「GPS選択」の設定が「OFF」、または「マニュアル」の場合でも自局宛の信号を受信したときは、約5分間、内蔵GPSを一時的にONにし、位置情報を測位しはじめたことをメッセージで自動応答します。(右図参照)

※一時的に内蔵GPSがONで、位置情報が測位できているあいだに再び自局宛の信号を受信すると、位置情報を自動で応答します。



例：メッセージを受信した相手局の画面

位置情報が測位できていないときの応答メッセージ一覧

メッセージ	状況
No Position	位置情報が測位できていないとき
Old Position	応答した位置情報が測位から2分以上経過した位置情報のとき
No Posi & GPS Start	一時的に内蔵GPSをONにした直後で、位置情報がまだ測位できていないとき
Old Posi & GPS Start	一時的に内蔵GPSをONにした直後で、応答した位置情報が測位から2分以上経過した位置情報のとき

ご参考

- 位置情報の送信は「GPS送信モード」の設定に従います。(P12-16)
- GPS送信モードの設定で位置自動応答に必要な情報が送信されない設定になっている場合、自動的に必要な情報を補正して送信します。
- 「GPS送信モード」の設定が「OFF」に設定されている場合は自動的にD-PRSで送信します。

7 D-STAR®運用<応用編>

■ 簡易データ通信について

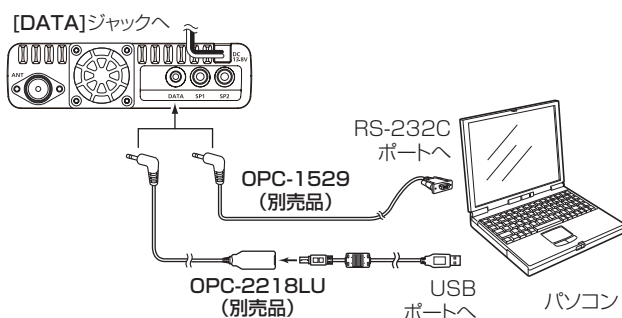
DVモード運用時、音声とデータを同時に送信する簡易データ通信ができます。

簡易データ通信をするには、別売品のデータ通信ケーブルと通信ソフトウェア(市販品など)が必要です。

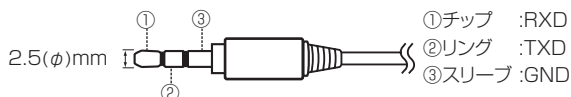
また、データ通信ケーブル以外にCI-V(SP2端子)や、Bluetooth®を経由したパソコンとの接続でも簡易データ通信ができます。

◇ パソコンの接続について

本製品の[DATA]ジャックからパソコンに接続します。接続するデータ通信ケーブルには、下図の2種類あります。



● 自作用端子図



ご注意

簡易データ通信をするときは、MENU画面内の「GPS出力」が「OFF」に設定されているかご確認ください。

(GPS > GPS設定 > GPS出力(DATA端子))(※P12-16)

◇ 簡易データ通信の操作

簡易データ通信を操作するときは、使用する通信ソフトウェアの取扱説明書をよくお読みください。

- ① 自局、相手局、レピータのコールサインを設定します。
- ② 使用する通信ソフトウェアの取扱説明書などにしたがって操作します。
- ③ 通信ソフトウェア画面に文字を入力すると、その内容を自動送信します。

※MENU画面内の「DVデータ送信」画面で「PTT」に設定されているときは、通信ソフトウェア画面に文字を入力して「PTT」を押すと、送信状態になり、音声と同時にその内容を送信します。

(DV設定 > DVデータ送信) (※P12-35)

※自動送信時は、送信開始前に約500msのキャリアセンスが動作します。

簡易データ通信をする前に必ずお読みください

本製品では、「DVデータ送信」の初期値が「オート」に設定されています。

そのため、お使いの通信ソフトウェアによっては、接続して通信ソフトウェア画面に文字を入力するだけで、意図せずに電波を送出することがありますのでご注意ください。

◇ 通信ソフトウェアの設定について

下記を参照して、通信速度などを設定してください。

- Port : 本製品が使用しているCOMポート番号を選択※1
- Baud rate : 4800/9600bps※2
- Data : 8bit
- Parity : none
- Stop : 1bit
- Flow control : Xon/Xoff

※1 パソコンの環境によっては、本製品が使用するCOMポート番号が5以上になる場合があります。このときは、COMポート番号を5以上に設定できる通信ソフトウェアをご使用ください。

※2 本製品が使用するBaud rateは、MENU画面内の「データスピード」画面で設定できます。(※P12-45) (機能設定 > データスピード)

ご注意

- 簡易データ通信で使用できる文字は、ASCIIコードだけです。
- 本製品の標準機能として、20文字(半角英数字、記号)までのメッセージが送れるメッセージ機能も装備しています。(※P7-2、P7-3)
- 本製品で使用する通信ソフトウェアとパソコンの組みあわせによっては、一部のデータが正しく送受信できない場合があります。
- インターネット回線網を経由したゲートウェイ通信では、パケットロスによって、データの一部を失うことがあります。また、パケットロス発生時は、ディスプレイに「L」表示が点灯します。

7 D-STAR®運用<応用編>

■ デジタルコールサインスケルチ/デジタルコードスケルチ機能

特定の相手局と交信するときに便利な機能です。

自局が設定したデジタルコード、または自局のコールサインを受信したときだけ、スケルチが開いて通話できるので、快適な待ち受け受信ができます。

※運用モードごとに設定できます。

◇ デジタルコールサインスケルチを設定する

① [DR]をタッチする。

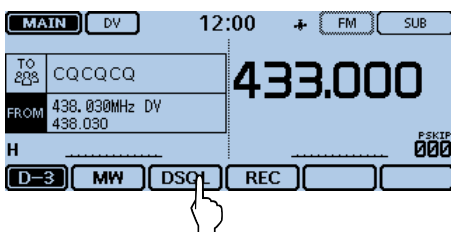
- DR画面が表示されます。

※DR画面以外の運用画面で使用したい場合は、DR画面を解除し、MR-CH表示部をタッチしてVFO/Mメモリー/CALL-CHモードを選択してください。

② ファンクショングループ表示部を数回タッチする。

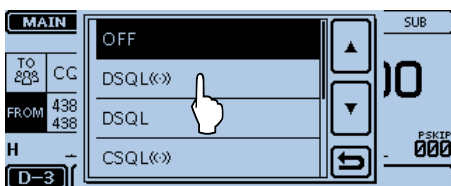
- 「D-3」画面を表示させます。

③ [DSQL]をタッチする。

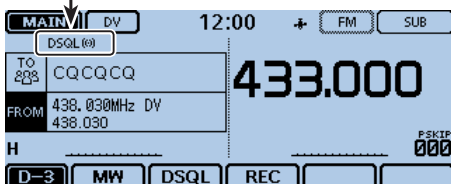


④ 「DSQL (⊙)」,または「DSQL」をタッチする。

- DSQL (⊙) : デジタルコールサインスケルチ機能のポケットビープをONにします。
- DSQL : デジタルコールサインスケルチ機能をONにします。
- 設定すると、「DSQL (⊙)」,または「DSQL」表示が点灯します。



点灯します



※CQ呼び出しや他局宛の信号を受信した場合、ディスプレイにSメーターが表示されますが、音声は聞こえません。

⑤ [MENU]をタッチする。

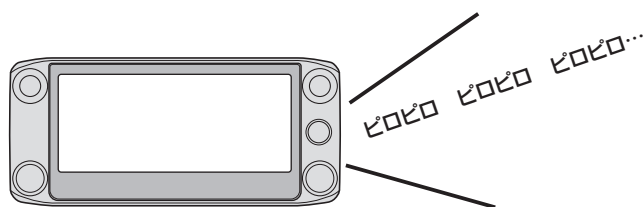
- MENU画面を解除します。

◇ デジタルコールサインスケルチをポケットビープで待ち受け受信しているとき

呼び出しを受けると、ビープ音と「(⊙)」を点滅して呼び出されたことを知らせます。

ビープ音は約30秒後に自動で停止しますが、「(⊙)」表示は[PTT]を押して通話するか、画面をタッチするまで点滅します。

- 「DSQL (⊙)」に設定して、呼び出しを受けたときの動作



ご注意

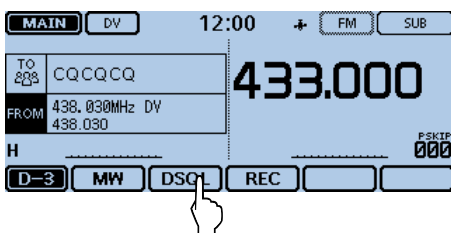
- DSQL(デジタルコールサインスケルチ)は、自局のコールサインを判断して動作しているため、3局以上の複数局で運用するときは、CSQL(デジタルコードスケルチ)で運用してください。
- 簡易データ通信時は、他局宛の信号(異なるコールサイン)であっても、データ信号を受信します。

7 D-STAR®運用<応用編>

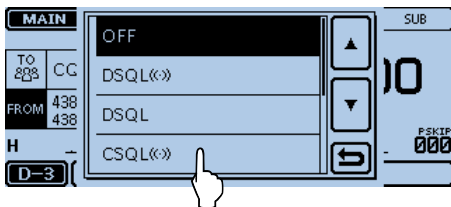
■ デジタルコールサインスケルチ/デジタルコードスケルチ機能(つづき)

◇ デジタルコードスケルチを設定する

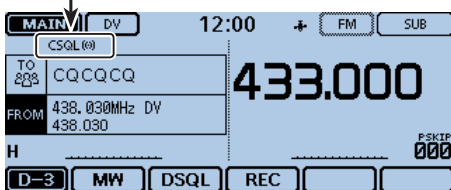
- ① [DR]をタッチする。
 - DR画面が表示されます。
 - ※DR画面以外の運用画面で使用したい場合は、DR画面を解除し、MR-CH表示部をタッチしてVFO/メモリー/CALL-CHモードを選択してください。
- ② ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「D-3」画面を表示させます。
- ③ [DSQL]をタッチする。



- ④ 「CSQL (⊙)」,または「CSQL」をタッチする。
 - CSQL (⊙) : デジタルコードスケルチ機能のポケットビープをONにします。
 - CSQL : デジタルコードスケルチ機能をONにします。
 - 設定すると、「CSQL (⊙)」,または「CSQL」表示が点灯します。



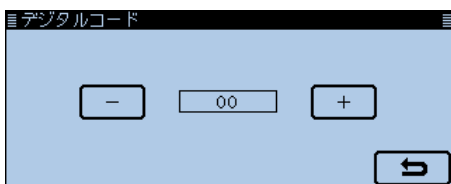
点灯します



- ⑤ [MENU]をタッチする。
- ⑥ 「デジタルコード」項目をタッチする。
(DUP/トーン設定 > デジタルコード)



- ⑦ [+]/[-]をタッチして、デジタルコードを選択する。



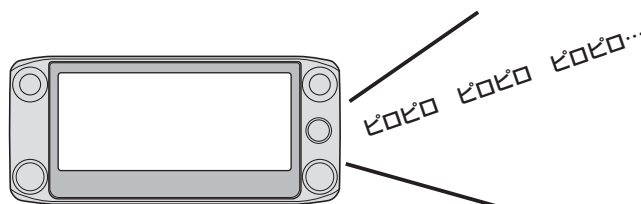
- ⑧ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面を解除します。

◇ デジタルコードスケルチをポケットビープで待ち受け受信しているとき

呼び出しを受けると、ビープ音と「(⊙)」を点滅して呼び出されたことを知らせます。

ビープ音は約30秒後に自動で停止しますが、「(⊙)」表示は[PTT]を押して通話するか、画面をタッチするまで点滅します。

- 「CSQL (⊙)」に設定して、呼び出しを受けたときの動作



ご注意

簡易データ通信時は、他局宛の信号(異なるデジタルコード)であっても、データ信号を受信します。

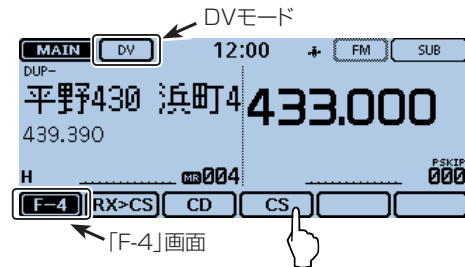
7 D-STAR®運用<応用編>

■ コールサインの設定を確認する

コールサインの設定は、DVモードであれば確認できます。

- ① 受信モード表示部をタッチする。
 - 「受信モード一覧」画面が表示されます。
- ② [DV]をタッチする。
 - DVモードが設定されます。
- ③ ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「F-4」画面を表示させます。
 - ※DR画面で確認したい場合は、ファンクショングループ表示部を数回タッチして「D-1」画面を表示させてください。
- ④ [CS]をタッチする。
 - コールサイン設定画面が表示されます。
- ⑤ [↵]をタッチする。
 - 確認画面を解除します。

メモリーモードでD-STAR運用中の場合



相手局またはエリアCQで設定したレピータのコールサイン	コールサイン	
UR: /JP1YIUA	浜町430	
アクセスレピータのコールサイン	R1: JP3YHH A	平野430
ゲートウェイ局のコールサイン	R2: JP3YHH G	平野430 G
自局のコールサイン	MY: JA3YUA	

■ DV同時待ち受けについて

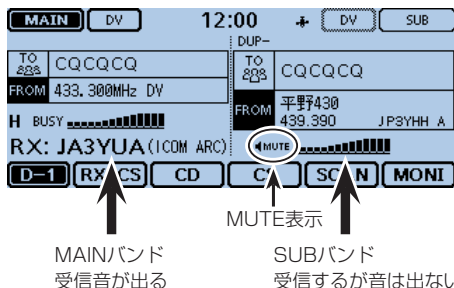
DVモードで2波同時待ち受けができます。MAINバンドでDVモードのシンプレックス運用をしながら、SUBバンドでD-STAR®レピータをワッチすることもできます。※MAINバンドでDVモードの信号を受信、または送信しているときは、SUBバンドでDVモードの信号は聞こえません。

- MAINバンドが受信していない場合は、SUBバンド側で受信します。
- MAINバンド/SUBバンド同時にDVモードの信号を受信している場合は以下のように動作します。

MAIN側 →受信音が出る

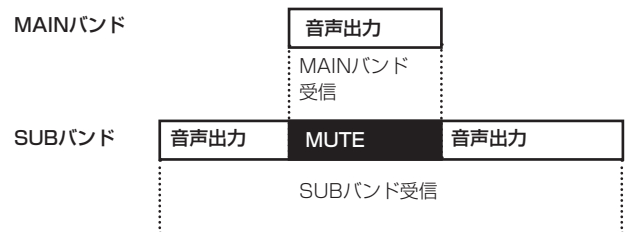
SUB側 →受信音が出ない

※ただし、SUB側は受信音が出ないだけでDVモードを受信しているため、「MUTE」を表示しますが、Sメーターや、コールサインを表示します。



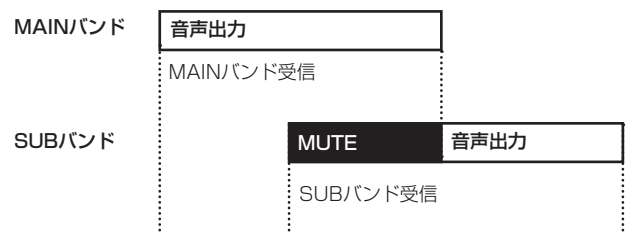
- MAINバンド/SUBバンドに関係なく、受信した信号は受信履歴に記憶されます。

● SUBバンド受信中にMAINバンドが受信した場合



SUBバンド受信中に、MAINバンドを受信すると、MAINバンドを受信している間は、MAINバンドで音声聞こえます。MAINバンドが待ち受けに変わると、SUBバンドから再び音声聞こえます。

● MAINバンド受信中にSUBバンドを受信した場合



MAINバンド受信中に、SUBバンドを受信しても、MAINバンドを受信している間は、MAINバンドで音声聞こえますが、MAINバンドが待ち受けに変わると、SUBバンドから音声聞こえます。

■ レピータリストについて

レピータの情報をレピータリストに登録しておくことで、
 発信するときの設定が簡単になります。

最大1200件のレピータ情報を30グループに分けて登録
 できます。

レピータリストでは、下記の4つのタイプの周波数が登録
 できます。

- DVレピータ
- DVシンプレックス
- FMレピータ
- FMシンプレックス

ご注意

本製品は、お客様が快適に運用していただくために、レ
 ピータリストをプリセットして出荷しています。
 オールリセットすると、プリセットの内容をすべて消去
 しますが、付属のCDに収録しているレピータリスト
 をSDカードにコピーするか、クローニングソフトウェ
 ア(CS-5100)を使うと復元できます。

ご参考

- レピータのコールサインや周波数などの情報につい
 ては、一般社団法人日本アマチュア無線連盟(JARL)の
 ホームページで閲覧できます。
 JARLホームページ <http://www.jarl.or.jp/>
- レピータリストや各種コールサイン、メモリーなど
 が簡単に入力できるクローニングソフトウェア(CS-
 5100：付属のCDに収録)もご利用ください。
- プリセットの内容については弊社ホームページから
 ダウンロードできます。
 アイコムホームページ
<http://www.icom.co.jp/d-starsite/>

◇ レピータリストに登録できる設定項目一覧

- タイプ :登録の内容の種類(☞P7-21)
- ネーム :レピータネームの入力(☞P7-21)
- サブネーム :レピータのサブネームの入力
 (☞P7-22)
 ※プリセット時は、都道府県名が入力
 されています。
- コールサイン :レピータコールサインの入力
 (☞P7-22)
- GWコールサイン :ゲートウェイコールサインの編集
 (☞P7-22)
- グループ :レピータグループの設定(☞P7-22)
- USE(FROM) :アクセスレピータの使用を設定
 (☞P7-22)
- 周波数 :周波数の入力(☞P7-22)
- DUP :デュプレックスの設定(☞P7-22)
- オフセット周波数 :オフセット周波数の設定(☞P7-23)
- モード :電波型式の設定(☞P7-23)
- Tone選択 :Toneの設定(☞P7-23)
- レピータトーン :レピータトーン周波数の設定
 (☞P7-23)
- 位置情報 :位置情報の精度の設定(☞P7-23)
- 緯度 :レピータの緯度の入力(☞P7-23)
- 経度 :レピータの経度の入力(☞P7-23)
- UTCオフセット :協定世界時との時差の入力
 (☞P7-24)

例：浜町430のレピータに登録されている情報

レピータリスト (DVレピータ)		1/2
タイプ	: DVレピータ	▲
ネーム	: 浜町430	▼
サブネーム	: 東京都	↻
コールサイン	: JP1YIU A	
GWコールサイン	: JP1YIU G	
グループ	: 01 関東	
USE(FROM)	: YES	

レピータリスト (DVレピータ)		2/2
周波数	: 434.400.00	▲
DUP	: DUP+	▼
オフセット周波数	: 5.000.00	↻
位置情報	: 正確	
緯度	: 35°41'12"N	
経度	: 139°47'28"E	
UTCオフセット	: +9:00	

7 D-STAR®運用<応用編>

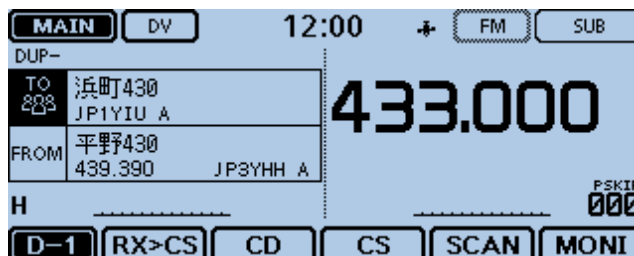
■ レピータリストにレピータ情報を登録する

新たに設置されたD-STAR®レピータを登録したいときなど、レピータリストに新規登録する方法を説明します。

アクセスレピータとして登録する場合と、エリアCQをするために呼び出し先レピータとして登録する場合、DVシンプレックス通信用として登録する場合、FMLレピータとして登録する場合、FMシンプレックス通信用として登録する場合で、最低限必要な設定項目が変わりますので、下記の一覧でご確認ください。

ご注意

レピータリストにレピータ情報を登録するには、レピータコールサインの入力が必要です。



参考：DR機能の「FROM」と「TO」

◇ 目的別 新規登録に最低限必要な項目

●：新規登録に最低限必要 ○：登録可能 ー：非表示

レピータリスト の設定項目	アクセスレピータ (FROM/TO) として登録	呼び出し先レピータ (TO) として登録	DVシンプレックス (FROM)として登録	FMLレピータ (FROM)として登録	FMシンプレックス (FROM)として登録
タイプ	DVレピータ	DVレピータ	DVシンプレックス	FMLレピータ	FMシンプレックス
ネーム	○	○	○	○	○
サブネーム	○	○	○	○	○
コールサイン	●	●	ー	○	ー
GWコールサイン	● (GW通信する場合)	●	ー	ー	ー
グループ	○	○	○	○	○
USE(FROM)	●	○	●	○	○
周波数	●	○	●	●	●
DUP	●	○	ー	○	ー
オフセット周波数	●	○	ー	○	ー
モード	ー	ー	ー	○	○
Tone選択	ー	ー	ー	○	○
レピータトーン	ー	ー	ー	○	○
位置情報	○	○	○	○	○
緯度	○	○	○	○	○
経度	○	○	○	○	○
UTCオフセット	○	○	○	○	○

7 D-STAR®運用<応用編>

■ レピータリストにレピータ情報を登録する(つづき)

◇ レピータリストに新規情報を登録する

1. 登録したいレピータグループを選択する

- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「レピータリスト」項目をタッチする。
(DVメモリー > レピータリスト)
● プリセットされた地域グループが表示されます。
- ③ 登録したいレピータの地域グループをタッチする。
● 選択したグループのレピータリストが表示されます。
- ④ いずれかのレピータを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。
- ⑤ 「追加」をタッチする。
● 「レピータリスト編集(DVレピータ)」画面を表示します。

2. タイプを選択する

- ⑥ 「タイプ」をタッチする。
- ⑦ 登録する情報のタイプをタッチする。
 - DVレピータ : DVモードのレピータ
 - DVシンプレックス : DVモードのシンプレックス用周波数
 - FMレピータ : FMモードのレピータ
 - FMシンプレックス : FMモードのシンプレックス用周波数

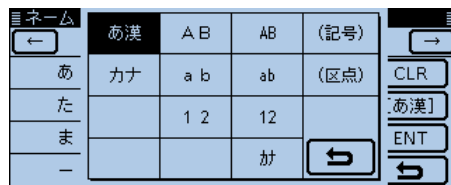
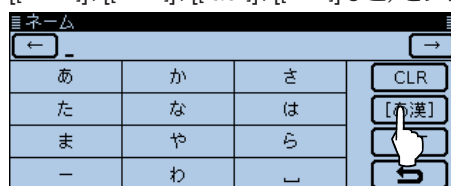
入力モード切り替えで選択できる文字一覧

入力モード	入力文字一覧
AB(全角/半角)	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ■
ab(全角/半角)	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz■
12(全角/半角)	1234567890■
カナ(全角/半角)	アイウエオカキクケコサシスセソタチツテト ナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨラリ ルレロワワンー■
あ漢	あいうえおかきくけこさしすせそたちつととな にぬねのはひふへほまみむめもやゆよりる れるわをんー■ (ひらがな1文字選択後、[変換]で漢字変換)
記号	パソコンのキーボードから入力できる記号は、 すべて入力できます。
区点	JIS区点コードを利用して、文字や記号を 入力できます。

※ ■ はスペースです

3. レピータ名前を編集する

- ⑧ 「ネーム」をタッチする。
 - ネームの編集モードに入ります。
- ⑨ 入力したい文字がある枠を数回タッチする。
 - 1桁目の文字を選択します。
 - 入力できる文字は、英数字とカタカナ、ひらがな、漢字、および記号です。
 - 入力モードの切り替えは、現在の入力モード([あ漢]、[カナ]、[AB]、[ab]、[12]など)をタッチします。



入力モード切り替え画面

- ※ [AB]、[ab]、[12]選択時は、[AB⇔12]、または[ab⇔12]が表示されます。タッチするとアルファベット入力と数字入力が切り替わります。
 - ※ アルファベット入力時は、[A/a]が表示されます。タッチするごとに、大文字/小文字が切り替わります。
 - ※ アルファベット入力時、[QUICK]をタッチすると、フルキーボード入力を選択できます。
 - ※ ひらがな、カタカナ入力時は、[` ` 小]が表示されます。タッチするごとに、(例「は」、「ば」と「ば」)、または(例「っ」と「つ」)が切り替わります。濁音(ば)、半濁音(ぱ)、促音(っ)と拗音(あいうえおやゆよ)が入力できます。
 - 漢字を選択したいときは、ひらがなを選択し、[変換]をタッチすると、文字一覧が表示されます。
 - [CLR]をタッチすると、選択した文字が削除されます。
 - 「_」をタッチすると、スペースが挿入されます。
- ⑩ [←][→]をタッチしてカーソルを移動させる。
 - 文字を入力する枠を選択します。
 - ⑪ 手順⑨～⑩を繰り返して、全角8文字(半角16文字)以内(スペースを含む)でレピータ名前を入力します。
 - ⑫ [ENT]をタッチする。

(次のページへ)

7 D-STAR®運用<応用編>

■ レピータリストにレピータ情報を登録する(つづき)

4. サブネームを編集する

- ⑬ 「サブネーム」をタッチする。
- サブネームの編集モードに入ります。
 - 全角4文字(半角8文字)以内(スペースを含む)で入力できます。
 - 編集のしかたは7-21ページを参照してください。
- ⑭ [ENT]をタッチする。

5. コールサインを編集する

※DVシンプレックスとして使用する場合は、「8.DR機能で使用するアクセスレピータを設定する」に進んでください。

- ⑮ 「コールサイン」をタッチする。
- コールサインの編集モードに入ります。
- ⑯ 入力したい文字がある枠を数回タッチして、1文字目の文字を選択する。
- 入力できる文字は、英数字(A~Z,0~9)と「/」です。
※数字は、「AB⇄12」をタッチして数字一覧に切り替えてから入力します。
もう一度タッチすると、アルファベット入力に戻ります。
 - [CLR]をタッチすると、選択した文字を削除できます。
 - 「_」をタッチすると、スペースが入力できます。
- ⑰ [←]/[→]をタッチしてカーソルを移動させる。
- 文字を入力する位置を選択します。
- ⑱ 手順⑯、⑰を繰り返し、8文字以内(スペースを含む)でレピータのコールサインを入力する。
- ⑲ [ENT]をタッチする。
- ⑳ [▼]をタッチする。

6. ゲートウェイコールサインを編集する

※DVレピータを追加する場合だけ設定できます。

※「5.コールサインを編集する」で入力したコールサインの8桁目に「G」を入力したコールサインが自動的に設定されます。

- ㉑ 「GWコールサイン」をタッチする。
- ゲートウェイコールサインの編集モードに入ります。
 - 8文字以内(スペースを含む)で入力できます。
 - 編集のしかたは、「5.コールサインを編集する」を参照してください。
 - 8桁目はG、または(スペース)だけ入力できます。
- ㉒ [ENT]をタッチする。

7. グループを設定する

- ㉓ 「グループ」をタッチする。
- グループ選択モードに入ります。
- ㉔ 変更したいレピータのグループ番号(「01」~「30」)をタッチする。

8. DR機能で使用するアクセスレピータを設定する

※ DR機能でアクセスレピータ、またはシンプレックスとして使用しない場合は、「NO」を選択して、「15. 位置情報の精度を設定する」へ進んでください。

- ㉕ 「USE(FROM)」をタッチする。
- ㉖ DR機能でアクセスレピータに設定する場合は、「YES」をタッチする。

9. アクセスレピータの周波数を入力する

- ㉗ 「周波数」をタッチする。
- 周波数の編集モードに入ります。
- ㉘ レピータの周波数を入力します。
- [CE]をタッチすると、入力した数字をキャンセルします。
 - [←]/[→]をタッチしてカーソルを移動します。
 - 周波数を長く(約1秒)タッチして表示される「周波数クリア」をタッチすると周波数がクリアされます。
- ㉙ [ENT]をタッチする。
- ㉚ [▼]をタッチする。

10. デュプレックスを設定する

※「8.DR機能で使用するアクセスレピータを設定する」を「YES」に設定すると表示します。

※「9.アクセスレピータの周波数を入力する」で周波数を入力すると、「DUP-」が自動的に設定されます。

※DR機能で、DVシンプレックス、FMシンプレックスを設定する場合は、表示しません。

※デュプレックスを変更するとき、下記の手順にしたがって変更してください。

- ㉛ 「DUP」をタッチする。
- ㉜ 設定したいデュプレックスの方向をタッチする。
- OFF :デュプレックスを設定しない
 - DUP- :送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数分だけ低くなる
 - DUP+ :送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数分だけ高くなる

(次のページへ)

7 D-STAR®運用<応用編>

■ レピータリストにレピータ情報を登録する(つづき)

11. オフセット周波数を設定する

※「8.DR機能で使用するアクセスレピータを設定する」を「YES」に設定すると表示します。

※ DR機能で、DVシンプルックス、FMシンプルックスを設定する場合は、表示しません。

※「9.アクセスレピータの周波数を入力する」で周波数を入力すると、「5.000.00」が自動的に設定されます。

※オフセット周波数を変更するときは、下記の手順にしたがって変更してください。

③③ 「オフセット周波数」をタッチする。

- オフセット周波数の編集モードに入ります。

③④ オフセット周波数を入力します。

- 設定範囲は、0.000.00MHz～59.995.00MHzです。
- [CE]をタッチすると、入力した数字をキャンセルします。
- [←]/[→]をタッチしてカーソルを移動します。
- 周波数を長く(約1秒)タッチして表示される「周波数クリア」をタッチすると周波数がクリアされます。

③⑤ [ENT]をタッチする。

12. モードを設定する

※ DR機能で、DVレピータやDVシンプルックスを設定する場合は、表示しません。FMLレピータ、またはFMシンプルックスを追加する場合に設定できます。

③⑥ 「モード」をタッチする。

③⑦ 「FM」、または「FM-N」をタッチする。

13. Tone選択を設定する

※ DR機能で、DVレピータやDVシンプルックスを設定する場合は、表示しません。

③⑧ 「Tone選択」をタッチする。

③⑨ 「TONE」をタッチする。

14. レピータトーンを設定する

※ DR機能で、DVレピータやDVシンプルックスを設定する場合は、表示しません。

※「13.Tone選択を設定する」で「TONE」に設定したとき、そのレピータトーン周波数を設定します。

④① 「レピータトーン」をタッチする。

④② [+]/[-]をタッチして、レピータトーン周波数を設定する。

④③ [↵]をタッチする。

15. 位置情報の精度を設定する

※ DR機能で、位置情報からアクセスレピータを検索する最寄レピータ機能を使用しない場合や、自局と登録したレピータとの距離を表示させない場合、「なし」を選択し、「18. UTCオフセット(協定世界時差)を設定する」へ進んでください。

④③ 「位置情報」をタッチする。

④④ 精度をタッチする。

- なし : 位置情報なし
- だいたい : 位置情報はあるが、正確でない場合
- 正確 : 位置情報が正確な場合

16. 緯度を設定する

※「15.位置情報の精度を設定する」で、「だいたい」、または「正確」を選択したときに表示します。

④⑤ 「緯度」をタッチする。

- 緯度の編集モードに入ります。

④⑥ レピータの緯度を入力します。

- [CE]をタッチすると、入力した数字をキャンセルします。
- [N/S]をタッチするごとに、北緯/南緯を切り替えます。
- [←]/[→]をタッチしてカーソルを移動します。

④⑦ [ENT]をタッチする。

④⑧ [▼]をタッチする。

17. 経度を設定する

※「15.位置情報の精度を設定する」で、「だいたい」、または「正確」を選択したときに表示します。

④⑨ 「経度」をタッチする。

- 経度の編集モードに入ります。

④⑩ レピータの経度を入力します。

- [CE]をタッチすると、入力した数字をキャンセルします。
- [E/W]をタッチするごとに、東経/西経を切り替えます。
- [←]/[→]をタッチしてカーソルを移動します。

④⑪ [ENT]をタッチする。

(次のページへ)

7 D-STAR®運用<応用編>

■ レピータリストにレピータ情報を登録する(つづき)

18. UTCオフセット(協定世界時差)を設定する

※ UTCオフセット(協定世界時差)を設定することで、エリアCQを出すときにそのレピータの時間を確認できます。(P12-50)

海外のレピータと交信する場合に便利です。

※ 日本のレピータを登録する場合は、「+9:00」(日本標準時刻)に設定してください。

⑤② 「UTCオフセット」をタッチする。

- 協定世界時差の編集モードに入ります。

⑤③ [+] / [-] をタッチして、協定世界時差を入力する。

※ 時間表示を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチして表示される「クリア」をタッチすると時差設定がクリアされます。

⑤④ [↵] をタッチする。

19. レピータ情報を書き込む

⑤⑤ 「《追加書き込み》」をタッチする。

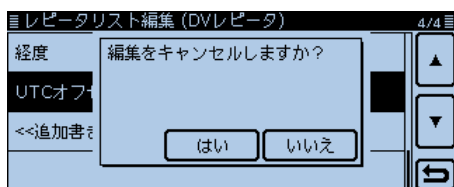
⑤⑥ 「はい」をタッチする。

- レピータリストに追加登録され、レピータリスト画面に戻ります。

編集を取り消したいときは

編集を取り消したい場合は、[↵] をタッチするとキャンセル確認画面が表示します。

「はい」をタッチすると、入力した内容を削除してレピータリスト画面に戻ります。

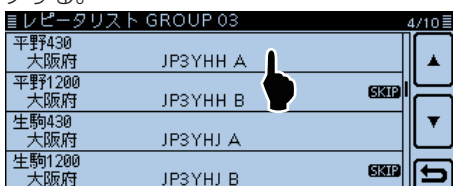


7 D-STAR®運用<応用編>

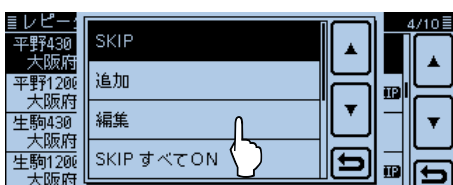
■ レピータリストのレピータ情報を編集する

すでに登録されているレピータ情報を編集して上書きできます。

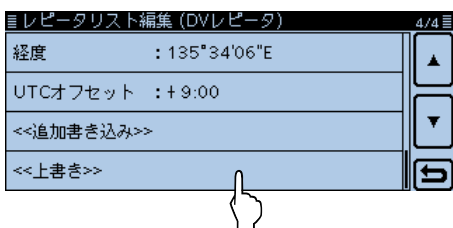
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「レピータグループ」項目をタッチする。
(DVメモリー > レピータリスト > レピータグループ)
 - プリセットされた地域グループが表示されます。
- ③ 編集したいレピータが入っているグループをタッチする。
- ④ 編集したいレピータを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。



- ⑤ 「編集」をタッチする。



- ⑥ 編集したい項目をタッチして編集します。
 - 編集のしかた (P7-2、P7-3)
- ⑦ 編集が完了すると、「《上書き》」をタッチする。

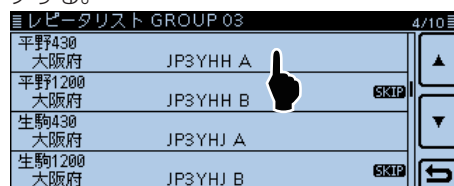


- ⑧ [はい]をタッチする。
 - レピータリストに上書き登録され、レピータリスト画面に戻ります。

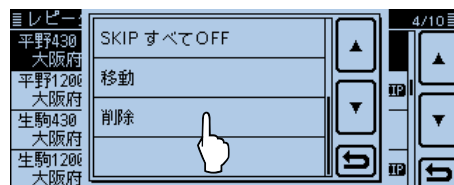
■ レピータリストのレピータ情報を削除する

不要になったレピータ情報を削除します。
いったん削除したレピータ情報は、復活できませんのでご注意ください。

- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「レピータグループ」項目をタッチする。
(DVメモリー > レピータリスト > レピータグループ)
 - プリセットされた地域グループが表示されます。
- ③ 削除したいレピータが入っているグループをタッチする。
- ④ 削除したいレピータを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。



- ⑤ 「削除」をタッチする。



- ⑥ [はい]をタッチする。
 - レピータリストから選択したレピータが削除され、レピータリスト画面に戻ります。

7 D-STAR®運用<応用編>

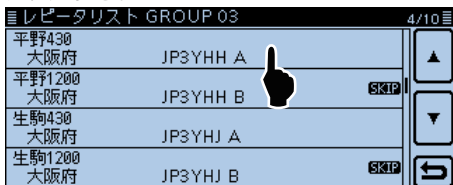
■ レピータが表示される順番を並べ替える

レピータリストの中でレピータが表示される順番を並べ替え
できます。

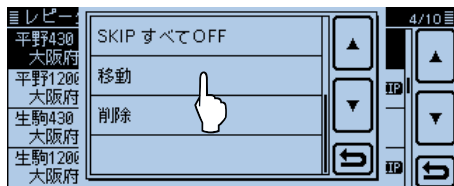
※レピータグループの中だけにかぎります。

※レピータグループを越えてレピータを移動させることは
できません。

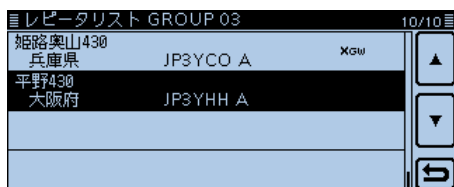
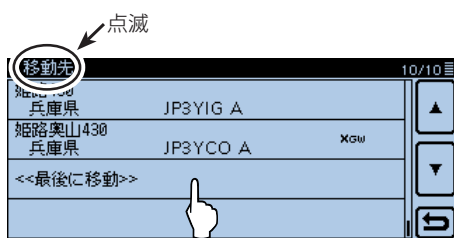
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「レピータグループ」項目をタッチする。
(DVメモリー > レピータリスト > レピータグループ)
 - プリセットされた地域グループが表示されます。
- ③ 移動させたいレピータが入っているグループをタッチする。
- ④ 移動させたいレピータを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。



- ⑤ 「移動」をタッチする。
 - 画面左上で、「移動先」が点滅します。



- ⑥ 移動先を指定し、タッチする。
 - 選択したレピータネームの1つ上に移動します。
 - 「<<最後に移動>>」を選択すると、そのグループの中で一番下に移動します。



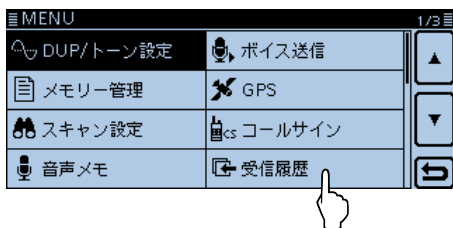
レピータが一番下に移動した状態

7 D-STAR®運用<応用編>

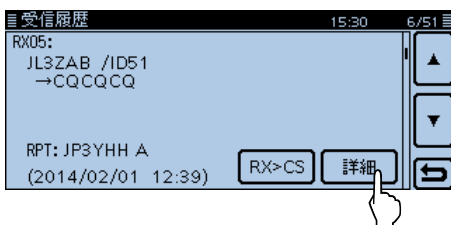
■ 受信履歴からレピータ情報を登録する

コピーして新規登録する方法以外に、受信履歴からレピータ情報を新規登録する方法があります。

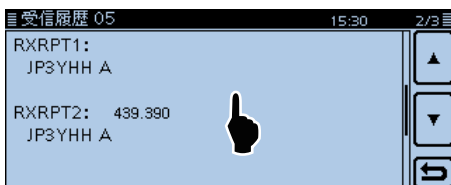
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「受信履歴」項目をタッチする。



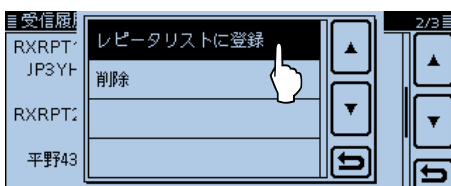
- ③ [▲]/[▼]をタッチして追加したいレピータがある履歴番号を表示させます。
- ④ [詳細]をタッチする。
 - 受信履歴の詳細画面を表示します。



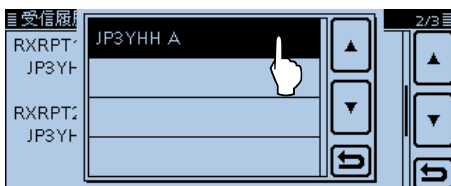
- ⑤ [▼]をタッチする。
 - 「RXRPT1 : 」と「RXRPT2 : 」が表示された画面を選択します。
- ⑥ ディスプレイを長く(ピッピーと鳴るまで)タッチする。



- ⑦ 「レピータリストに登録」をタッチする。



- ⑧ 登録したいレピータコールサインをタッチする。



- 「受信履歴」画面から、MENU画面内にある、「DVメモリー」の「レピータリスト」編集画面に変わり、レピータのコールサインが自動的に登録された状態になります。
- 編集のしかた (P7-21 ~ P7-24)

- ⑨ 「《追加書き込み》」をタッチする。

- ⑩ [はい]をタッチする。

- レピータリストに新規登録され、「受信履歴」画面に戻ります。

7 D-STAR®運用<応用編>

■ DRスキャン時のスキップ設定

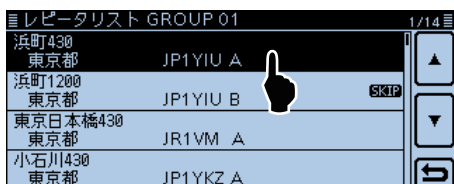
DRスキャンする必要のないレピータにスキップを設定すると、DRスキャンの対象からはずせます。

スキップは、個別、またはグループごとに一括で設定できます。

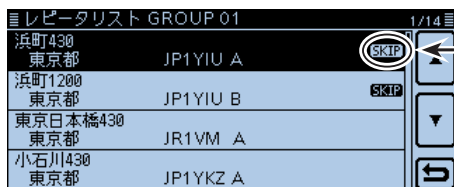
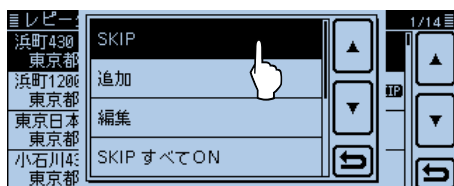
※スキップを設定したレピータは、自動的にレピータリストの「USE (FROM)」を「NO」に設定し、DR画面の「FROM」選択対象からはずれます。

◇ 個別にレピータをスキップ設定する

- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「レピータグループ」項目をタッチする。
(DVメモリー > レピータリスト > レピータグループ)
 - プリセットされた地域グループが表示されます。
- ③ スキップさせたいレピータが入っているグループをタッチする。
- ④ スキップさせたいレピータを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。

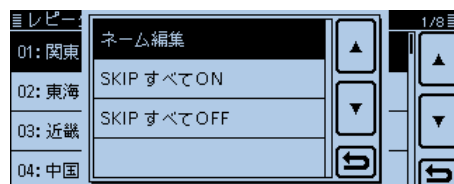


- ⑤ 「SKIP」をタッチする。
 - 選択したレピータに、「SKIP」が表示されます。
 - 再度レピータを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチして「SKIP」をタッチすると、スキップ設定を解除します。
 - 「SKIP すべてON」をタッチすると、そのグループに入っているすべてのレピータに、「SKIP」が設定されます。



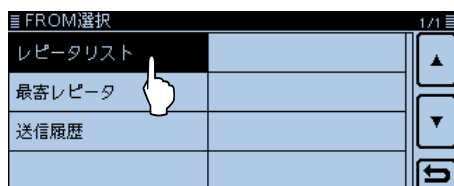
レピータ名の横にSKIPが表示される

グループごとにレピータをスキップ設定するには
下図のようにグループを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチし、「SKIPすべてON」をタッチすると、選択したレピータグループをスキップ設定できます。



ご参考

DR機能の「FROM選択」画面で「レピータリスト」をタッチすると、左記と同様の操作でSKIP設定できます。



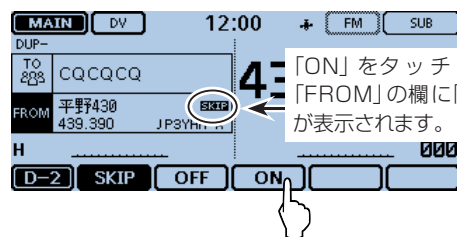
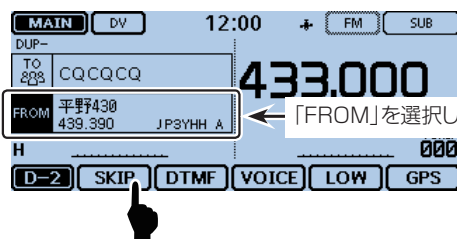
ご参考

DR画面の「FROM」を選択した状態で、ファンクショングループ「D-2」画面の[SKIP]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチすると、スキップの設定ができます。

「SKIP」をタッチすると、もとの表示に戻ります。

※設定時は「FROM」に「SKIP」が表示します。

[DIAL]を回すと、つづけて設定できます。



「ON」をタッチすると、「FROM」の欄に「SKIP」が表示されます。

7 D-STAR®運用<応用編>

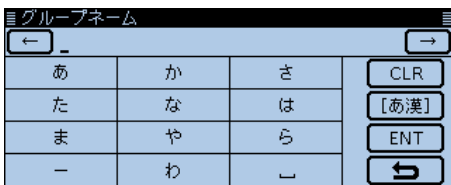
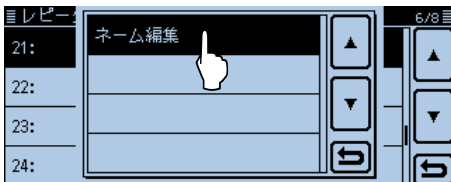
■ レピータのグループ名を登録するには

レピータリストのグループ名を登録できます。

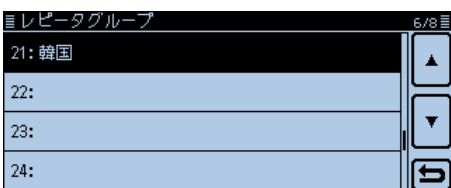
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「レピータグループ」項目をタッチする。
(DVメモリー > レピータリスト > レピータグループ)
 - プリセットされた地域グループが表示されます。
- ③ 編集したいグループを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。



- ④ 「名前編集」をタッチする。
 - グループ名編集モードに入ります。
 - 全角8文字(半角16文字) (スペースを含む)で入力できます。
 - 編集のしかたは7-21ページを参照してください。



- ⑤ [ENT]をタッチする。



(例)グループ21に韓国を登録した場合

7 D-STAR®運用<応用編>

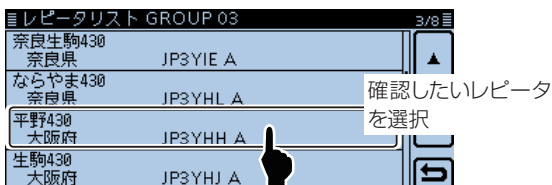
■ レピータ詳細表示について

レピータリストに登録されている位置情報やUTCオフセット設定によって、自局からレピータまでの距離や、レピータの時刻などレピータの詳細情報を確認できます。

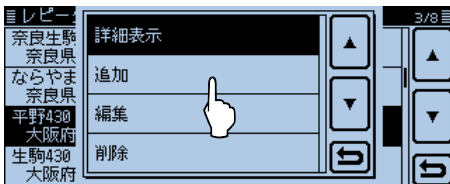
DR機能であれば、どのレピータ選択状態からでもレピータの詳細情報を確認できます。

《例》平野430のレピータ詳細表示を見る

- ① [DR]をタッチする。
 - DR機能を表示します。
- ② [TO]をタッチする。
- ③ [エリアCQ]をタッチする。
- ④ [03:近畿]をタッチする。
- ⑤ 「平野430」を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。

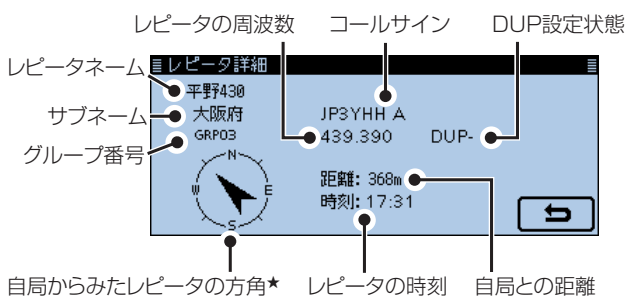


- ⑥ 「詳細表示」をタッチする。
 - 「レピータ詳細」画面が表示されます。



※自局からレピータまでの距離と、自局からみたレピータの方角を確認するには、自局の位置情報が取得されている必要があります。

(位置情報の取得方法：P8-2)



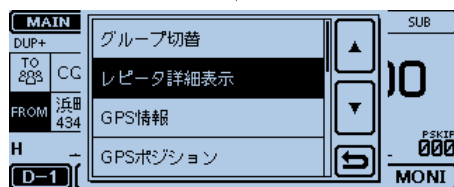
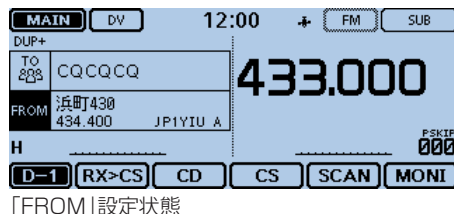
★位置情報(P7-23)が「だいたい」に設定されているとき、レピータまでの距離が5km以内になると、方角が表示されません。

- ⑦ [↵]をタッチする。
 - レピータ選択時の画面に戻ります。

ご参考

DR機能画面からもレピータ詳細情報が確認できます。下図のようにレピータを設定した状態で、[QUICK]をタッチします。

「レピータ詳細表示」をタッチすると、レピータ詳細画面を表示します。



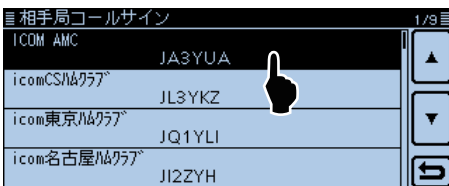
■ 相手局コールサインの新規登録

相手局のコールサインを登録できます。
登録した相手局のコールサインを「TO」に設定して呼び出すと、相手局がどこのエリアにいるかわからなくても呼び出しができます。

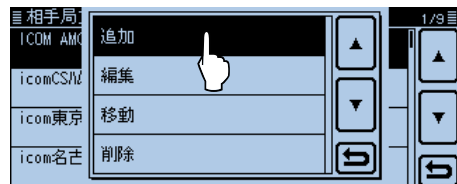
相手局のコールサインは200件まで登録できます。

《例》相手局コールサインメモリーに「アイコム太郎」と「JM1ZLK」を登録する

- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「相手局コールサイン」をタッチする。
(DVメモリー > 相手局コールサイン)
- ③ いずれかのコールサインを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。

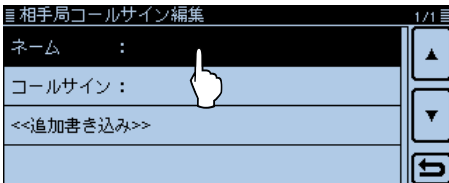


- ④ 「追加」をタッチする。
 - 相手局コールサイン編集モードに入ります。

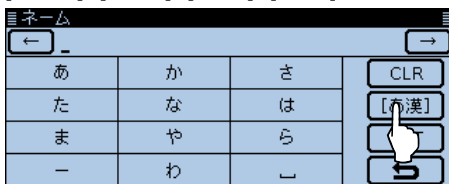


※編集をタッチすると、選択した相手局の情報を編集します

- ⑤ 「ネーム」をタッチする。



- ⑥ 入力したい文字がある枠を数回タッチする。
 - 1文字目の文字を選択します。
 - 入力できる文字は、英数字とカタカナ、ひらがな、漢字、および記号です。
 - 入力モードの切り替えは、現在の入力モード([あ漢]、[カナ]、[AB]、[ab]、[12])などをタッチします。



入力モード切り替え画面

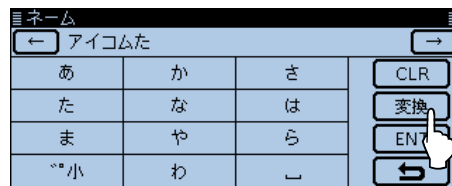
※[AB]、[ab]、[12]選択時は、[AB⇄12]、または[ab⇄12]が表示されます。タッチするとアルファベット入力と数字入力が切り替わります。

※アルファベット入力時は、[A/a]が表示されます。タッチするごとに、大文字/小文字が切り替わります。

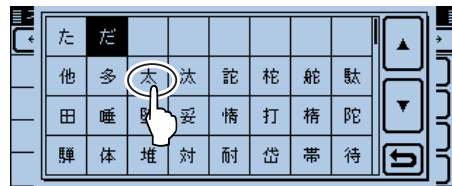
※アルファベット入力時、[QUICK]をタッチすると、フルキーボード入力を選択できます。

※ひらがな、カタカナ入力時は、[゛゚゚小]が表示されます。タッチするごとに、(例「は」、「ば」と「ぱ」)、または(例「っ」と「つ」)が切り替わります。濁音(ば)、半濁音(ぱ)、促音(っ)と拗音(あいうえおやゆよ)が入力できます。

- 漢字を選択したいときは、ひらがなを選択し、[変換]をタッチすると、文字一覧が表示されます。
- [CLR]をタッチすると、選択した文字が削除されます。
- 「_」をタッチすると、スペースが挿入されます。

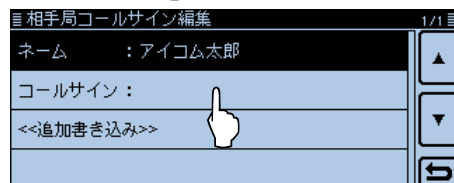


漢字の「太」を選択するには、ひらがなの「た」を選択し、[変換]をタッチします



漢字一覧の中から「太」を選択します。

- ⑦ [←][→]をタッチしてカーソルを移動させる。
 - 文字を入力する桁を選択します。
- ⑧ 手順⑥～⑦を繰り返し、全角8文字(半角16文字)以内(スペースを含む)でネームを入力します。
(例 2文字目:イ、3文字目:コ、4文字目:ム、5文字目:太、6文字目:郎)
- ⑨ [ENT]をタッチする。
- ⑩ 「コールサイン」をタッチする。

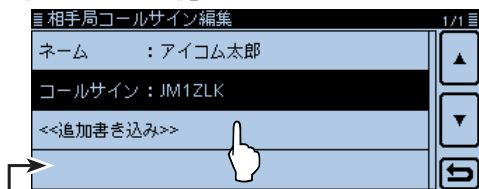


(次のページへ)

7 D-STAR®運用<応用編>

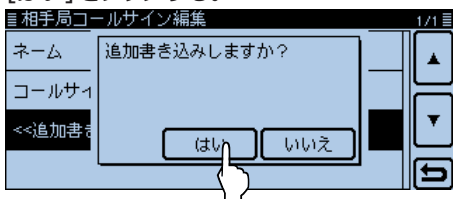
■ 相手局コールサインの新規登録(つづき)

- ⑪ 入力したい文字がある枠を数回タッチする。
 - 1文字目の文字を選択します。(例 J)
 - 入力できる文字は、英数字(A～Z,0～9)と「/」です。
 - [CLR]をタッチすると、選択した文字を削除できます。
 - 「_」をタッチすると、スペースが挿入されます。
- ⑫ [←][→]をタッチしてカーソルを移動させる。
 - 文字を入力する桁を選択します。
- ⑬ 手順⑪～⑫を繰り返し、全角8文字(半角16文字)(スペースを含む)で相手局のコールサインを入力します。
(例 2文字目:M、3文字目:l、4文字目:Z、5文字目:L、6文字目:K)
- ⑭ [ENT]をタッチする。
- ⑮ 「《追加書き込み》」をタッチする。



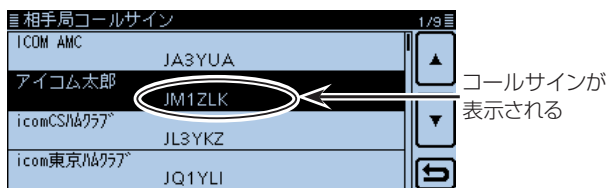
※ 編集時は、ここに《上書き》が表示されます。
※ 《上書き》を選択すると、編集中の相手局コールサインが上書きされます。

- ⑯ [はい]をタッチする。



- ⑰ [MENU]をタッチする。

- MENU画面を解除します。

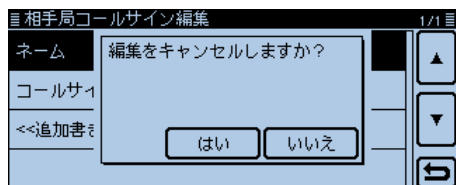


「アイコム太郎」の入力が完了

編集を取り消したいときは

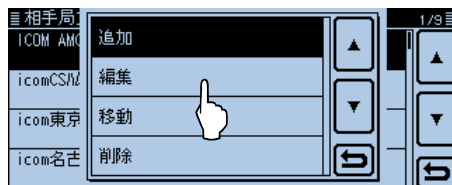
編集を取り消したい場合は、[↵]をタッチするとキャンセル確認画面が表示します。

[はい]をタッチすると、入力した内容を削除して相手局コールサイン画面に戻ります。



登録した相手局のコールサインを編集したいときは

登録した相手局のコールサインを編集したい場合は、手順①で「編集」をタッチすると、選択した相手局の情報を編集できます。



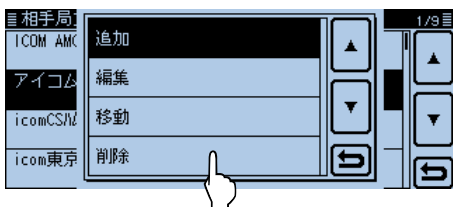
■ 相手局コールサインを削除する

不要になった相手局コールサイン情報を削除します。
いったん削除した相手局は、復活できませんのでご注意ください。

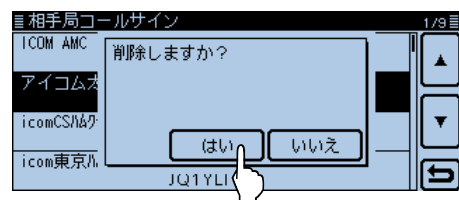
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「相手局コールサイン」項目をタッチする。
(DVメモリー > 相手局コールサイン)
- ③ 削除したい相手局を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。



- ④ 「削除」をタッチする。



- ⑤ [はい]をタッチする。
 - 選択した相手局が削除され、「相手局コールサイン」画面に戻ります。



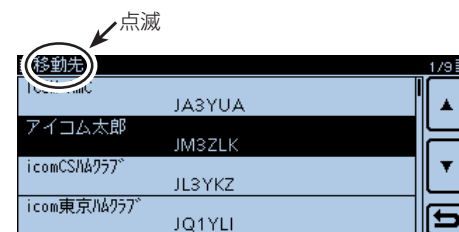
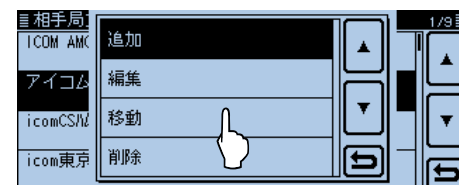
■ 相手局が表示される順番を並べ替える

相手局コールサインリストの中で相手局が表示される順番を並べ替えられます。
よく交信する相手局をリストの一番上に並べ替えると選択しやすくなるので便利です。

- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「相手局コールサイン」項目をタッチする。
(DVメモリー > 相手局コールサイン)
- ③ 移動させたい相手局を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。



- ④ 「移動」をタッチする。
 - 画面左上で、「移動先」が点滅します。



- ⑤ 移動先を指定し、タッチする。
 - 選択した相手局の1つ上に移動します。
 - 「《最後に移動》」をタッチすると、一番下に移動します。

7 D-STAR®運用<応用編>

■ 出荷時のレピータリストについて

出荷時のレピータリストの内容を、CS-5100(付属のCDに収録)を使って確認できます。

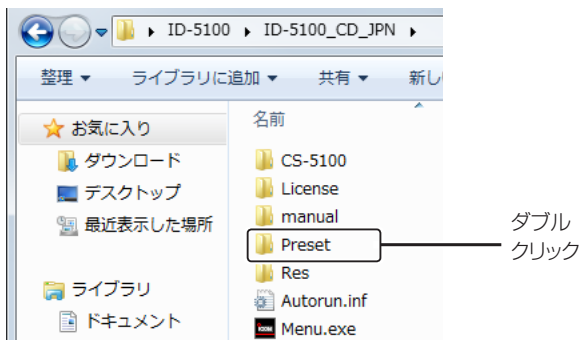
付属CD内の「Preset」フォルダを開き、レピータリストを収録している「ICFファイル」を任意の場所にコピーしてください。そのファイルをCS-5100で開くと、出荷時のレピータリストがご覧いただけます。

出荷時のレピータリストに戻りたいときは、CS-5100*1をご使用になるか、「ICFファイル」をSDカード*2にコピーして出荷時の状態に戻せます。

※1 :CS-5100を使った操作のしかたは、CS-5100取扱説明書(付属のCDに収録)をご覧ください。

※2 :SDカードを使った操作のしかたは、9章をご覧ください。

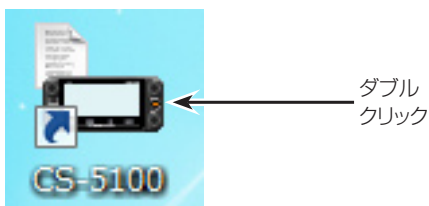
① 付属CD内の「Preset」フォルダを開きます。



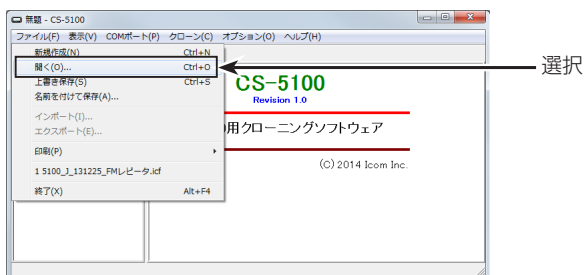
② 任意の場所にコピーします。

③ CS-5100を起動させます。

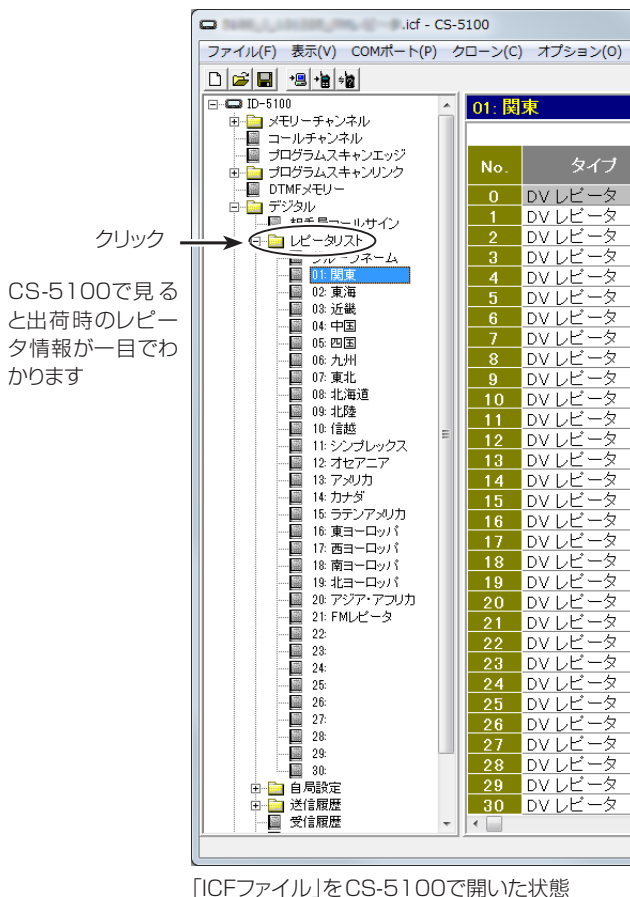
- CS-5100のインストールについては、CS-5100取扱説明書(付属のCDに収録)をご覧ください。



④ 「ファイル(F)」→「開く」を選択し、手順②で保存した「ICFファイル」を開きます。



⑤ 「レピータリスト」フォルダをクリックすると、出荷時にプリセットされたレピータリストが表示されます。



ご参考

最新のレピータリストについては弊社ホームページからダウンロードできます。

アイコムホームページ

<http://www.icom.co.jp/d-starsite/>

7 D-STAR®運用<応用編>

■ 複数のD-STAR®機を同時に運用するときは

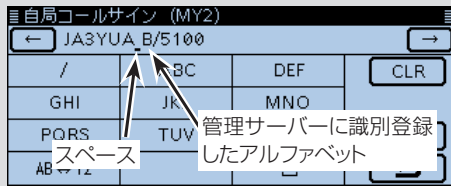
複数のD-STAR®機を同時に運用するときは、同じコールサインでも識別する必要があります。

また、機種ごとにIPアドレスを取得するため、D-STAR管理サーバーに機種登録をする必要があります。

自局コールサイン登録時のご注意

本製品に自局のコールサインを登録するときは、自局コールサインのうしろにスペースと、管理サーバーに登録した識別符号(Bなど)を付けて登録してください。

自局コールサインの登録(※P6-4～P6-7)



◇ D-STAR管理サーバーで識別登録をする

《例》インターネットでD-STAR管理サーバーにID-5100(2台目)を追加登録する

① パソコンのWWWブラウザ(※)を使って、下記のURLにアクセスします。

<http://www.d-star.info/>

※Microsoft® Internet Explorer® 5.5以降をご用意ください。

② [ログイン画面へ]をクリックします。



③ 自局のコールサインとパスワードを入力します。



④ [機器情報の登録変更]をクリックして、登録画面に進みます。



⑤ すでに登録している機種欄の「無線機名」にある[▼]をクリックして、「A」を選択します。

● 1台目の機種は「A」として識別登録します。



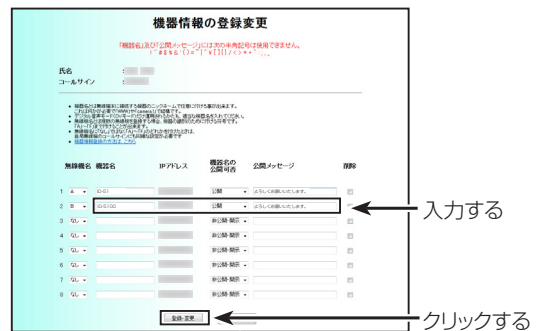
⑥ その下の欄で「無線機名」にある[▼]をクリックして、「B」を選択します。

● 2台目の機種は「B」として識別登録します。



⑦ 下記のように入力し、[登録・変更]をクリックします。

- 機器名 : ID-5100
- 公開可否 : 公開
- 公開メッセージ : 挨拶など



⑧ 機器情報一覧画面で登録内容を確認し、内容に間違いがなければ[登録]をクリックします。

● これで登録は完了です。2時間以内に管理サーバーが使えるようになり、インターネットを経由した通信ができます。



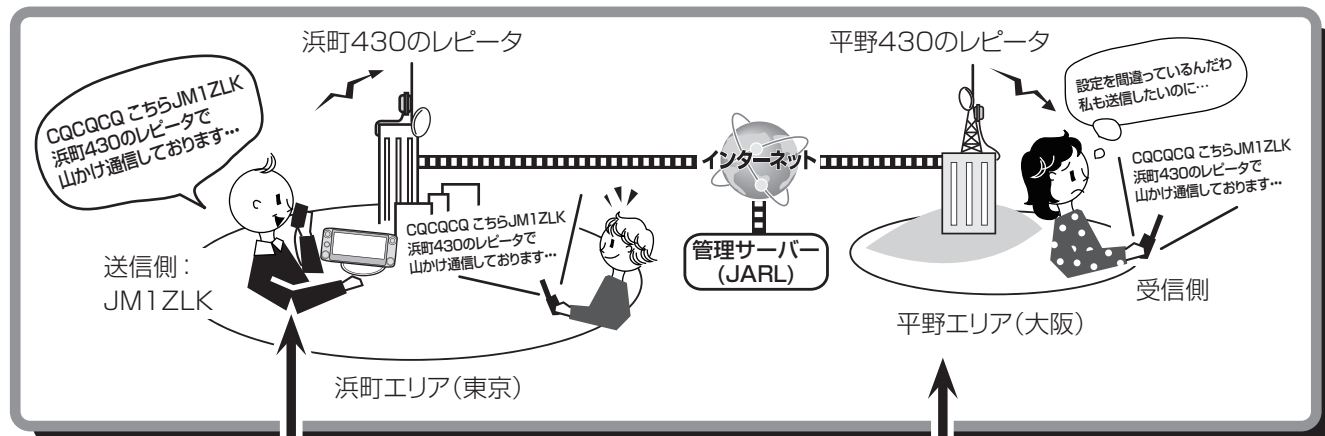
7 D-STAR®運用<応用編>

■ 迷惑な設定していませんか？

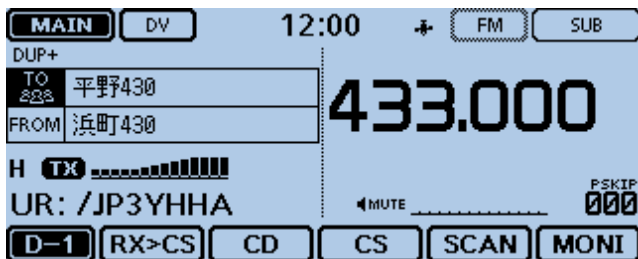
下記のようなゲートウェイ通信の設定で、山かけ通信をすると、あて先(TO)に設定しているレピータをアクセスレピータとして使いたい人に迷惑をかけてしまいます。

正しく設定して、みんなが気持ちよく使えるように運用しましょう。

例：山かけCQがしたいJM1ZLKの場合



JM1ZLKの間違った設定

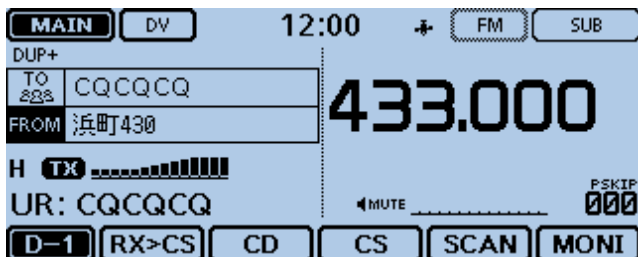


山かけCQがしたいのに、あて先(TO)が平野430に設定されている

ご注意

このような設定で送信すると、山かけCQはできませんが、あて先(TO)に設定したレピータをアクセスレピータとして使いたい人の迷惑になります。

正しい設定



山かけCQがしたい場合は、あて先(TO)を、「CQCQCQ」に設定してください。

設定のしかた (P6-12)

■ GPSの運用について	8-2
◇GPSが受信できているか確認する	8-2
■ 位置情報付きの信号を受信したときは	8-2
■ 位置情報を確認する	8-3
◇位置情報の表示	8-3
◇相手局情報の種類	8-4
◇位置情報の対応表	8-5
◇ポジション局(移動局)の場合	8-6
◇ポジション局(固定局)の場合	8-6
◇オブジェクト局の場合	8-7
◇アイテム局の場合	8-7
◇気象局の場合	8-8
◇NMEAの場合	8-8
◇MAINバンドとSUBバンドの表示切替	8-9
◇GPSメモリーやGPSアラームを変更する	8-9
◇グリッド・ロケーターについて	8-10
◇コンパス方向を変更する	8-10
◇自局または受信した局の位置情報を保存する	8-11
■ GPS情報(天空図)を確認する	8-12
■ GPSの送信(D-PRSとNMEA)	8-13
◇位置情報の種類	8-13
◇GPS送信モードに切り替えるには	8-13
■ D-PRSの送信	8-14
◇D-PRSとは	8-14
◇D-PRSの使用手順	8-14
◇送信設定項目一覧	8-15
◇D-PRS—ポジション局(移動局/固定局)の設定	8-16
◇D-PRS—オブジェクト局/アイテム局の設定	8-19
◇D-PRS—気象局の設定	8-23
◇気象局の送信について	8-25
◇通信ソフトウェアの設定について	8-25
◇気象データが正しく入力されているか確認するには	8-25
◇気象データについて	8-25
◇地図ソフトウェアで自局の位置を確認する	8-26
■ NMEAデータの送信	8-27
◇GPSセンテンスの設定	8-27
◇GPSメッセージの設定	8-28
■ GPSの機能を活用する	8-29
◇GPSメモリーについて	8-29
◇GPSデータをGPSメモリーに新規登録する	8-29
◇グループネームを登録するには	8-33
◇GPSメモリーを削除する	8-34
◇GPSメモリーを移動する	8-35
◇GPSアラームを設定する	8-36
■ GPSロガー機能の使いかた	8-38
◇GPSロガーの使用手順	8-38
◇GPSロガーをONに設定する	8-38
◇記録間隔を設定する	8-38
◇ログ情報をパソコンで確認する	8-39
■ GPS自動送信	8-41
◇GPS自動送信の設定	8-41

8 GPS の操作

■ GPSの運用について

本製品は、GPS受信機を内蔵していますので、そのまま自局の位置情報を表示したり、DVモードで自局の位置情報(GPSデータ)を送信したりできます。

◇ GPSが受信できているか確認する

GPS表示を見て受信(測位)できているか確認します。

測位中は下図のように点滅します。



測位が完了すると点滅から点灯に変わります。



※通常は、数十秒で測位しますが、使用環境によっては、数分かかることもあります。

※屋内でご使用になる場合、本製品が設置されている場所や建物の周辺環境によって、GPS衛星からの信号を受信できない場合があります。

※「GPS選択」項目を「マニュアル」に設定している場合、GPSインジケータは表示しません。

(GPS > GPS設定 > GPS選択)

■ 位置情報付きの信号を受信したときは

送られてきた相手局の信号に位置情報が含まれている場合、相手局の位置情報ポップアップ画面が表示されます。

※詳細な位置情報を確認したい場合は、8-3ページを参照してください。

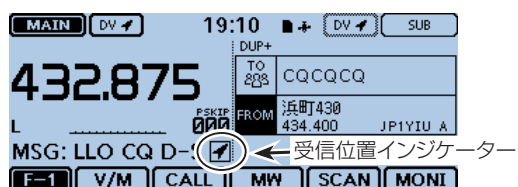
《例》432.875MHzでJM1ZLKが送信した位置情報付きの信号を受信した場合



JM1ZLKの信号を受信したときの画面
位置情報が含まれているため、位置情報ポップアップ画面が表示されます。

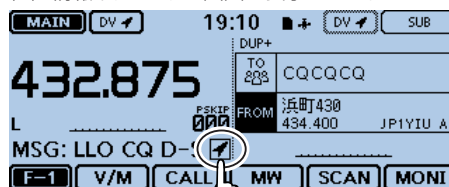


しばらくすると、ポップアップ画面が消えます。



メッセージがスクロールしている右端に位置情報が含まれていることを示す「受信位置インジケータ」が表示されます。

「受信位置インジケータ」をタッチすると、再び位置情報ポップアップ画面が表示されます。



※MENU画面内の「受信位置表示」画面でポップアップ画面を省略できます。(P12-47)
(ディスプレイ設定 > 受信位置表示)

※MENU画面内の「受信位置インジケータ」画面で受信位置インジケータの表示を省略できます。(P12-46)
(ディスプレイ設定 > 受信位置インジケータ)

8 GPS の操作

■ 位置情報を確認する

自分がいる場所などが確認できます。
受信した画像をもとに説明します。※右の画面は一例です。

◇ 位置情報の表示

① GPS表示をタッチする。



② [GPSポジション]をタッチする。



③ [▲]/[▼]をタッチして、ページを切り替えます。

タッチすることにより、自局の位置情報表示(MY)、受信した局の位置情報表示(RX)、GPSメモリーチャンネルの位置情報表示(MEM)、GPSアラームチャンネルの位置情報表示(ALM)が切り替わります。

- **MY画面** : 自局の緯度、経度、グリッドロケーター、高度、速度★、時刻、自局の進行方向★、自局の進路★を表示する
★MENU画面内の「GPS選択」の設定が「マニュアル」のときは表示しません。(P12-16)
- **RX画面** : 受信した相手局の緯度、経度、グリッドロケーター、高度、自局から相手局までの距離、自局からみた相手局がいる方向、相手局のSSID、進路、速度、出力、地上高、ゲイン、指向性、気温、雨量、風向、風速、気圧、湿度、測位時間、D-PRSシンボル、コールサインを表示する
※相手局の送信データによっては、表示しない場合があります。(P8-5)
- **MEM画面** : 特定のGPSメモリーチャンネルの緯度、経度、グリッドロケーター、自局から特定チャンネルまでの距離と方向を表示する
- **ALM画面** : GPSアラームを設定した特定のGPSメモリーチャンネルの緯度、経度、グリッドロケーター、自局から特定チャンネルまでの距離と方向を表示する

④ [⌂]をタッチする。

- 「GPSポジション」画面を解除します。

ご参考

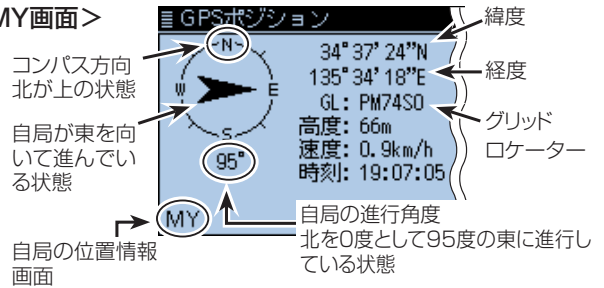
GPSポジション画面を表示したまま送信すると、GPSポジション画面を解除しますが、その状態で送信しながら、GPS表示をタッチすると、GPSポジション画面が表示されるので送信しながら自局や相手局の位置情報などが確認できます。

ご注意

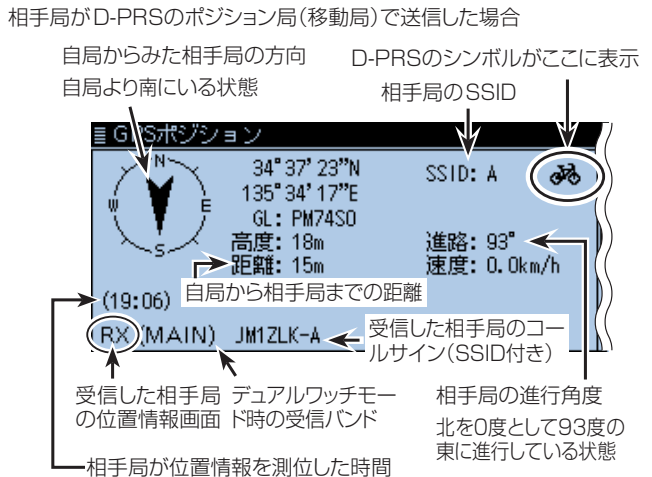
緯度/経度/高度は、電波の受信状態などによって異なります。

【各ポジション画面とその意味】

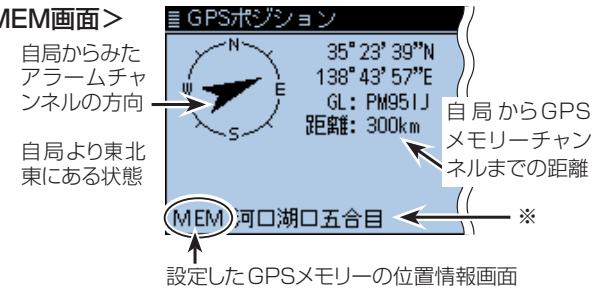
< MY画面 >



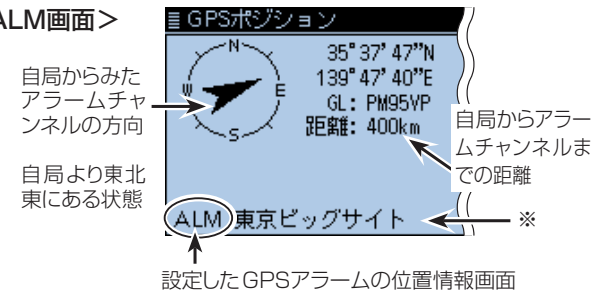
< RX画面 >



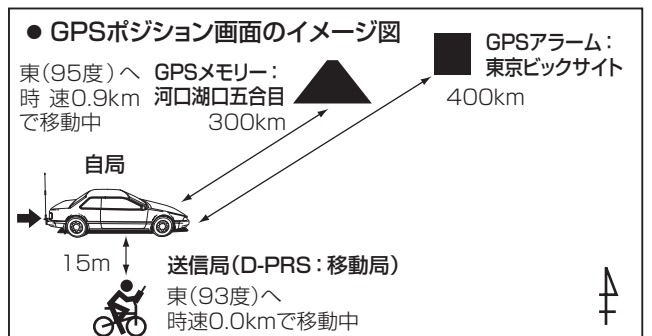
< MEM画面 >



< ALM画面 >



※GPSメモリーチャンネル、またはアラームチャンネルに名前が登録されていない場合は、日時を表示します。



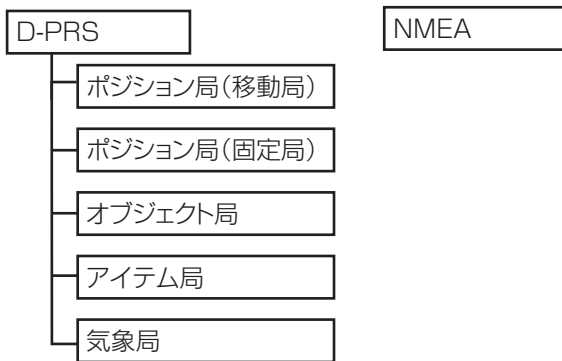
8 GPS の操作

■ 位置情報を確認する(つづき)

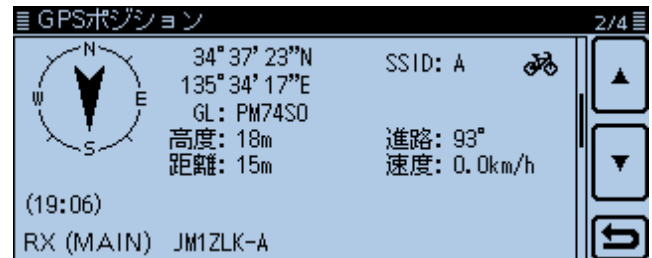
◇ 相手局情報の種類

自局が受信した相手局の位置情報は、大きく分けると、D-PRSとNMEAの2つに分けられます。

さらに、D-PRSでは、ポジション局(移動局/固定局)、オブジェクト局、アイテム局、気象局の5つの位置情報を確認できます。



- D-PRS : DVモードで音声と同時に送受信する低速データ部分を利用し、無線機に内蔵、または外部接続したGPSレシーバーにより測位した情報を、APRSサーバーへ引き渡すしくみのこと。
- 移動局 : モービル運用やハンディー運用などで移動しながら運用している局のこと。
- 固定局 : 自宅や施設などに設置して運用している局のこと。
- オブジェクト局 : 特定の場所に何か伝えたい情報があることを知らせる局のこと。
イベント案内や地震情報、衛星軌道の情報などがオブジェクト局として送信される。
※オブジェクト局には、タイムスタンプ(時間情報)が含まれます。
- アイテム局 : 特定の場所に何か伝えたい情報があることを知らせる局のこと。
がけ崩れなどによる道路寸断や、灯台やアンテナなどの情報、DVアクセスポイントなどの時間情報を持たない情報がアイテム局として送信される。
※オブジェクト局とは異なり、アイテム局には、タイムスタンプ(時間情報)が含まれません。
- 気象局 : 気象装置から得られた気象情報を送信する局のこと。
- NMEA : 無線機に内蔵、または外部接続したGPSレシーバーにより測位したNMEA 0183の生データのこと。



《例》相手局がD-PRSのポジション局(移動局)で送信した場合

従来のD-STAR機をお持ちのかたへ

本製品では、従来のD-STAR機で記載していたGPS (DV-G)をNMEA、GPS-A (DV-A)をD-PRSと記載しています。

- GPS (DV-G) →NMEA
- GPS-A (DV-A) →D-PRS

8 GPS の操作

■ 位置情報を確認する(つづき)

◇ 位置情報の対応表

受信した位置情報によって表示される項目がこととなります。

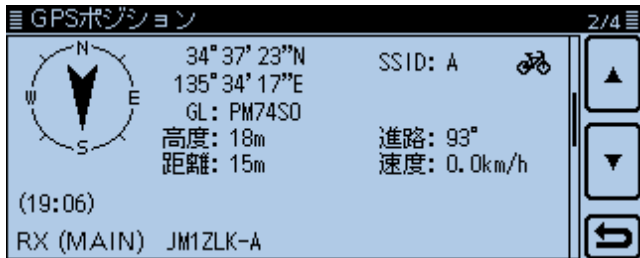
	NMEA	D-PRS								
		ポジション局		オブジェクト局			アイテム局			気象局
		移動局	固定局	データ拡張なし	データ拡張(進路/速度)	データ拡張(出力/地上高/ゲイン/指向性)	データ拡張なし	データ拡張(進路/速度)	データ拡張(出力/地上高/ゲイン/指向性)	
コンパス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
緯度	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
経度	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
グリッドロケータ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
高度	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
距離	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
進路	●	●			●			●		
速度	●	●			●			●		
出力			●			●			●	
地上高			●			●			●	
ゲイン			●			●			●	
指向性			●			●			●	
気温										●
雨量										●
風向										●
風速										●
気圧										●
湿度										●
シンボル		●	●	●	●	●	●	●	●	●
SSID		●	●	●	●	●	●	●	●	●
測位時刻/タイムスタンプ	●	●	●	●	●	●				●
GPSコールサイン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

8 GPS の操作

■ 位置情報を確認する(つづき)

◇ ポジション局(移動局)の場合

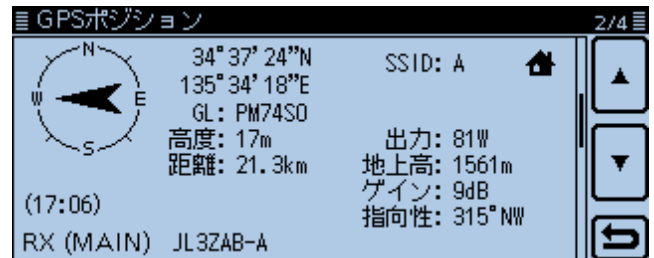
移動局を受信した場合は、下図の表示になります。



コンパス	自局から見た相手局の方向
緯度	相手局の緯度
経度	相手局の経度
GL	相手局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
	相手局の高度
距離	相手局との距離
進路	相手局の進行方向(角度)
速度	相手局の移動速度
シンボル	相手局のシンボル
SSID	相手局のSSID
測位時間	相手局が位置情報を測位した時間
コールサイン	相手局のコールサイン(SSID付き)

◇ ポジション局(固定局)の場合

固定局を受信した場合は、下図の表示になります。



コンパス	自局から見た相手局の方向
緯度	相手局の緯度
経度	相手局の経度
GL	相手局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
高度	相手局の高度
距離	相手局との距離
出力	相手局の送信出力情報
地上高	相手局のアンテナの地上高情報
ゲイン	相手局のアンテナのゲイン情報
指向性	相手局のアンテナの指向性情報
シンボル	相手局のシンボル
SSID	相手局のSSID
測位時間	相手局が位置情報を測位した時間
コールサイン	相手局のコールサイン(SSID付き)

8 GPS の操作

■ 位置情報を確認する(つづき)

◇ オブジェクト局の場合

オブジェクト局を受信した場合は、下図の表示になります。

GPSポジション		2/4
コンパス	HAM'14	SSID: A
	34° 48' 20"N	
緯度	135° 26' 17"E	
	GL: PM74RT	
経度	高度: 13m	進路: 275°
	距離: 39.2km	速度: 31.4km/h
GL		
高度		
距離		
進路		
速度		
出力		
地上高		
ゲイン		
指向性		
シンボル		
SSID		
タイムスタンプ		
コールサイン		

コンパス	自局から見たオブジェクト局の方向
緯度	オブジェクト局の緯度
経度	オブジェクト局の経度
GL	オブジェクト局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
高度	オブジェクト局の高度
距離	オブジェクト局との距離
進路	オブジェクト局の進行方向(角度)
速度	オブジェクト局の移動速度
出力	オブジェクト局の送信出力情報
地上高	オブジェクト局のアンテナの地上高情報
ゲイン	オブジェクト局のアンテナのゲイン情報
指向性	オブジェクト局のアンテナの指向性情報
シンボル	オブジェクト局のシンボル
SSID	相手局のSSID
タイムスタンプ	相手局がオブジェクト局の情報を送信した時間
コールサイン	相手局のコールサイン(SSID付き)

※オブジェクト局が無効であれば、「(KILLED)」を表示します。

◇ アイテム局の場合

アイテム局を受信した場合は、下図の表示になります。

GPSポジション		2/4
コンパス	REPEATER	SSID: A (KILLED)
	34° 37' 34"N	
緯度	135° 34' 09"E	
	GL: PM74SP	
経度	高度: 23m	出力: 81W
	距離: 21.6km	地上高: 1561m
GL		ゲイン: 9dB
高度		指向性: 無指向性
距離		
進路		
速度		
出力		
地上高		
ゲイン		
指向性		
シンボル		
SSID		
タイムスタンプ		
コールサイン		

コンパス	自局から見たアイテム局の方向
緯度	アイテム局の緯度
経度	アイテム局の経度
GL	アイテム局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
高度	アイテム局の高度
距離	アイテム局との距離
進路	アイテム局の進行方向(角度)
速度	アイテム局の移動速度
出力	アイテム局の送信出力情報
地上高	アイテム局のアンテナの地上高情報
ゲイン	アイテム局のアンテナのゲイン情報
指向性	アイテム局のアンテナの指向性情報
シンボル	アイテム局のシンボル
SSID	相手局のSSID
コールサイン	相手局のコールサイン(SSID付き)

※アイテム局が無効であれば、「(KILLED)」を表示します。

8 GPS の操作

■ 位置情報を確認する(つづき)

◇ 気象局の場合

気象局を受信した場合は、下図の表示になります。

The screenshot shows the 'GPS Position' screen with a compass icon on the left. The data displayed is as follows:

緯度	34° 37' 34"N	SSID: W
経度	135° 34' 09"E	気温: 25.0°C
GL	PM74SP	雨量: 0.5mm/h
距離	7km	風向: 220°
時間	(10:14:09)	風速: 1.8m/s
RX (MAIN)	JL3ZAB-W	気圧: 990hPa
		湿度: 50%

コンパス	自局から見た相手局の方向
緯度	相手局の緯度
経度	相手局の経度
GL	相手局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
気温	相手局から受けた気温情報
雨量	相手局から受けた直近1時間の降雨量
風向	相手局から受けた風向情報
風速	相手局から受けた風速情報
気圧	相手局から受けた気圧情報
湿度	相手局から受けた湿度情報
シンボル	相手局のシンボル
SSID	相手局のSSID
タイムスタンプ	相手局が気象情報を取得した時間
コールサイン	相手局のコールサイン(SSID付き)

◇ NMEAの場合

NMEAを受信した場合は、下図の表示になります。

The screenshot shows the 'GPS Position' screen with a compass icon on the left. The data displayed is as follows:

緯度	34° 37' 24"N	SSID: --
経度	135° 34' 18"E	高度: 14m
GL	PM74S0	距離: 21.3km
進路	345°	速度: 0.9km/h
時間	(17:00:13)	
RX (MAIN)	JL3ZAB	

コンパス	自局から見た相手局の方向
緯度	相手局の緯度
経度	相手局の経度
GL	相手局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
高度	相手局の高度
距離	相手局との距離
進路	相手局の進行方向(角度)
速度	相手局の移動速度
測位時間	相手局が位置情報を測位した時間
コールサイン	相手局のコールサイン

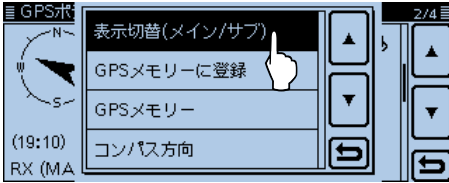
8 GPS の操作

■ 位置情報を確認する(つづき)

◇ MAINバンドとSUBバンドの表示切替

RX画面の表示状態を切り替えることができます。

- ① RX画面を選択中に[QUICK]をタッチする。
- ② 「表示切替(メイン/サブ)」項目をタッチする。



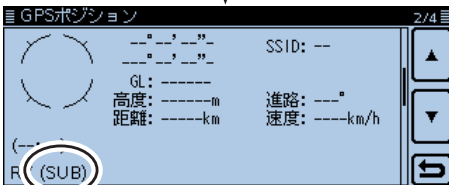
- ③ 表示させたい項目をタッチする。

● 最新(メイン/サブ)

：MAINバンド、SUBバンドに関わらず、最新の相手局の位置情報を表示する

● メイン ：MAINバンドで受信した相手局の位置情報だけ表示する

● サブ ：SUBバンドで受信した相手局の位置情報だけ表示する



「サブ」を選択すると、RXの隣に「SUB」が表示される

◇ GPSメモリーやGPSアラームを変更する

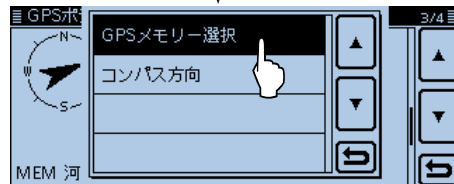
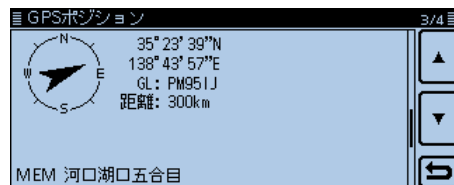
GPSポジション画面で、GPSメモリーやGPSアラームの対象を変更できます。

- ① MEM画面、またはALM画面を選択中に[QUICK]をタッチする。
- ② MEM画面選択時は「GPSメモリー選択」項目をタッチ、ALM画面選択時は、「アラーム選択」項目をタッチする。
- ③ [▲]/[▼]をタッチして、GPSメモリー、またはGPSアラームの対象を変更する。

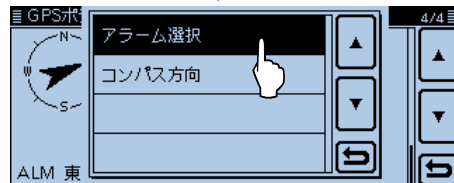
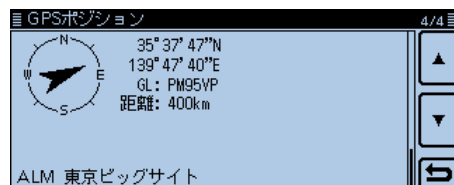
※GPSメモリーの編集のしかた(☞P8-29)

※GPSアラームの設定のしかた(☞P8-36)

MEM画面



ALM画面



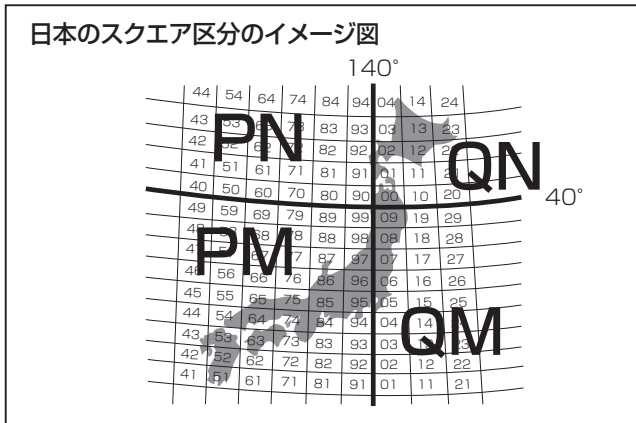
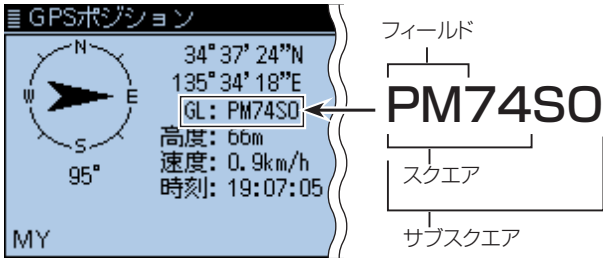
8 GPS の操作

■ 位置情報を確認する(つづき)

◇ グリッド・ロケータについて

ポジション画面に表示される、グリッド・ロケータ(GL)とは、緯度・経度より算出する6桁の文字列のことです。グリッド・ロケータは、地球を格子状に細分してその位置を示したものです。

無線通信で無線局の位置を示す目的などに使われます。



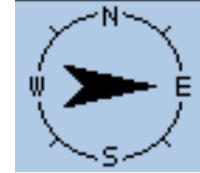
◇ コンパス方向を変更する

コンパス表示の上方向を進行方向、北、南から設定します。

ヘディングアップ

ノースアップ

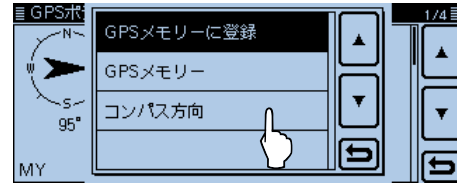
サウスアップ



① [QUICK]をタッチする。

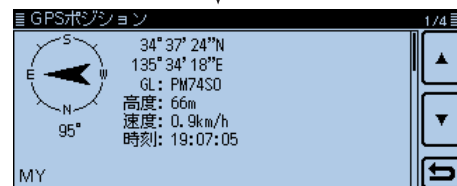


② 「コンパス方向」項目をタッチする。



③ 設定したいコンパス方向をタッチする。

- ヘディングアップ：常に進行方向を上に表示する
- ノースアップ：常に方位の北を上に表示する
- サウスアップ：常に方位の南を上に表示する



サウスアップに変更したときの表示

8 GPS の操作

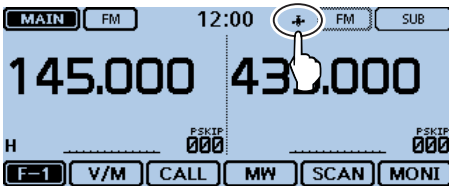
■ 位置情報を確認する(つづき)

◇ 自局または受信した局の位置情報を保存する

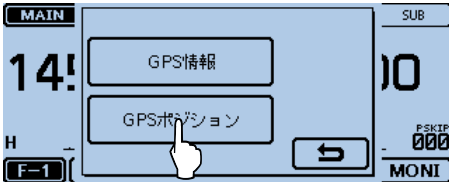
旅行先などで、自局がいる場所の位置情報を保存したり、受信した相手局がいる場所の位置情報を保存したりできます。

GPSメモリーは最大200CH登録でき、(グループなし)と、A～Zのグループで、合計27個のグループに分けて整理できます。

① GPS表示をタッチする。

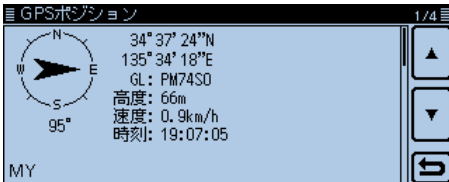


② 「GPSポジション」をタッチする。

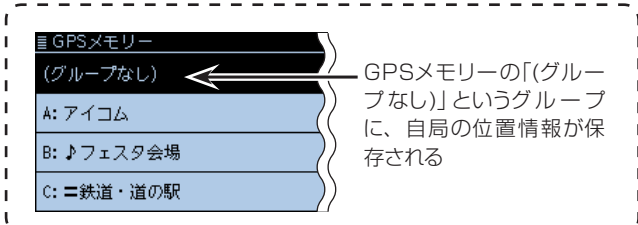


③ [▲]/[▼]をタッチして、保存したい位置情報画面を選択する。

- 自局の位置情報を保存したい → MY画面を選択
- 受信した相手局の位置情報を保存したい → RX画面を選択

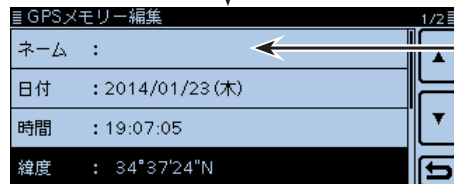
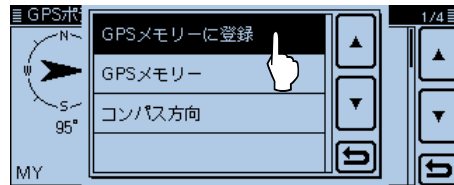


④ [QUICK]をタッチする。



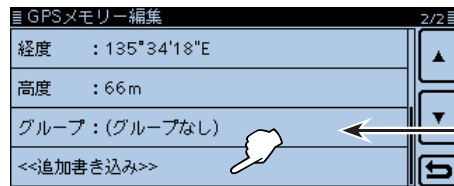
⑤ 「GPSメモリーに登録」項目をタッチする。

- 「GPSメモリー編集」画面を表示します。
- 編集のしかた (P8-29～ P8-32)



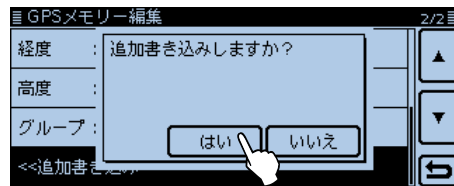
⑥ 「<<追加書き込み>>」をタッチする。

- 「追加書き込みしますか?」画面を表示します。
- 「GPSポジション」画面から、MENU画面の「GPS」項目内にある「GPSメモリー」の「GPSメモリー編集」画面に変わり、位置情報(緯度/経度)が自動的に登録された状態になります。
- 「GPSメモリー編集」画面で指定したグループに保存されます。



⑦ [はい]をタッチする。

- GPSメモリーに新規登録され、「GPSポジション」画面に戻ります。



⑧ [5]をタッチする。

- 「GPSポジション」画面を解除します。

8 GPS の操作

■ GPS情報(天空図)を確認する

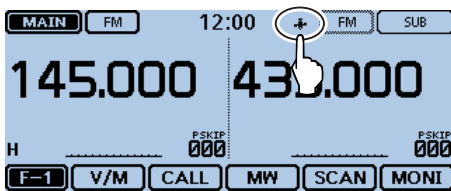
GPSがなかなか測位できないときなど、測位状態がどのような状況にあるかを見たいときに使用します。

GPS情報では、GPS衛星の数や、信号強度、位置を天空図にマッピングして視覚化しています。

天空図とは、GPS衛星が天空のどの位置に存在するのかを図で表示したものです。

この図より、GPS衛星の存在する方位・仰角、および衛星番号、受信状態がわかります。

① GPS表示をタッチする。



② 「GPS情報」をタッチする。



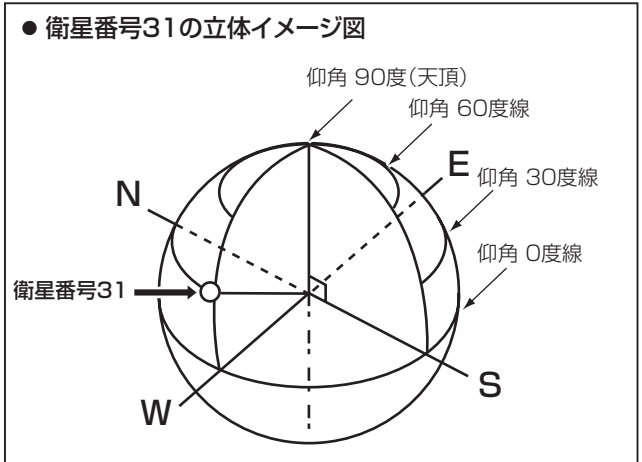
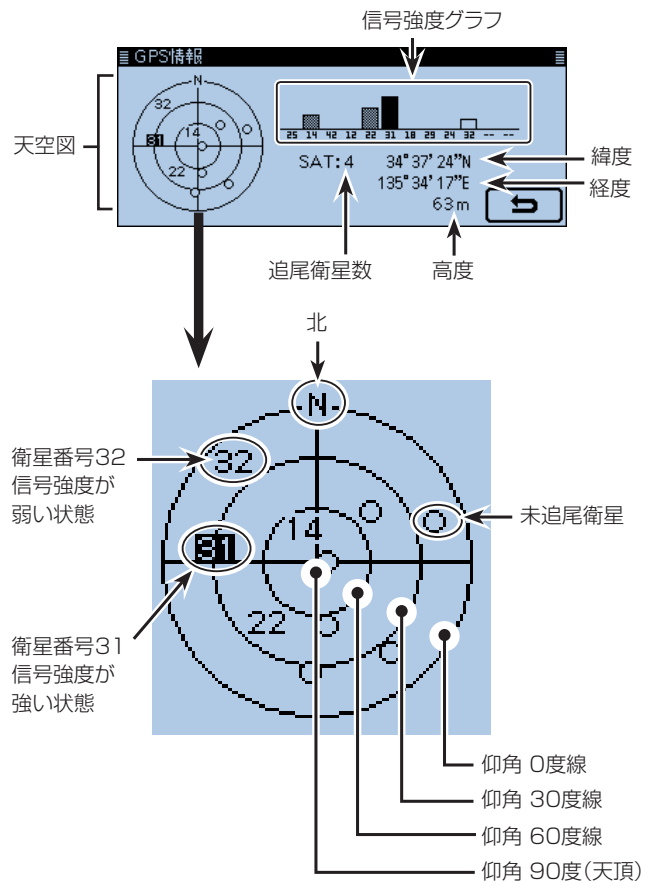
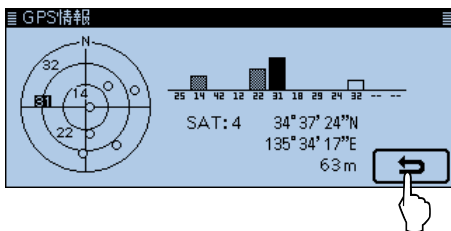
【天空図の表示の意味】

- 白丸(O) : 未追尾衛星を表示する
- 通常文字(O1) : 追尾衛星で信号強度が弱いものを衛星番号で表示する
- 反転文字(O1) : 追尾衛星で信号強度が強いものを衛星番号で表示する
- SAT : 追尾衛星の数
- 高度 : 自局の高度を表示する
※追尾衛星数が4個以上で高度を表示し、追尾衛星数が3個以下は未測位状態(「-----m」)を表示する
- 緯度/経度 : 自局の緯度、経度を表示する
- 信号強度グラフ : 追尾衛星の信号強度を表示する

- : 追尾衛星(信号強)
- ▨ : 追尾衛星(信号弱)
- : 未追尾衛星

③ [↵]をタッチする。

- 「GPS情報」画面を解除します。



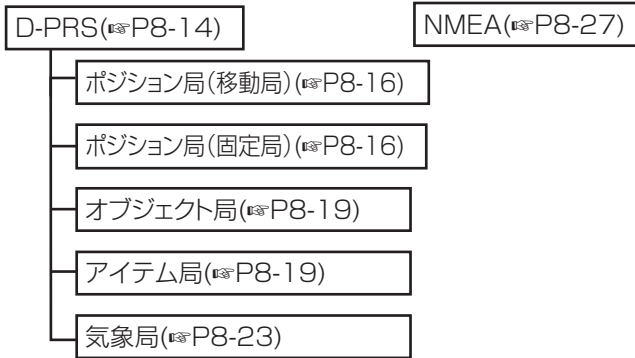
8 GPS の操作

■ GPSの送信(D-PRSとNMEA)

◇ 位置情報の種類

GPSの送信には、D-PRSとNMEAの2種類があります。さらに、D-PRSでは、ポジション局(移動局/固定局)、オブジェクト局、アイテム局、気象局として送信できます。

【送信できる位置情報の種類】



- D-PRS : DVモードで音声と同時に送受信する低速データ部分を利用し、無線機に内蔵、または外部接続したGPSレシーバーにより測位した情報を、APRSサーバーへ引き渡すしくみのこと。
- 移動局 : モービル運用やハンディー運用などで移動しながら運用している局のこと。移動しているため、進路や速度情報も送信できる。
- 固定局 : 自宅や施設などに設置して運用している局のこと。使用しているアンテナの出力や、地上高、ゲイン、指向性情報も送信できる。
- オブジェクト局 : 特定の場所に何か伝えたい情報があることを知らせる局のこと。イベント案内や地震情報、衛星軌道の情報などがオブジェクト局として送信できる。
※オブジェクト局には、タイムスタンプ(時間情報)が含まれます。
- アイテム局 : 特定の場所に何か伝えたい情報があることを知らせる局のこと。がけ崩れなどによる道路寸断や、灯台やアンテナなどの情報、DVアクセスポイントなどの時間情報を持たない情報がアイテム局として送信できる。
※オブジェクト局とは異なり、アイテム局には、タイムスタンプ(時間情報)が含まれません。
- 気象局 : 気象装置から得られた気象情報を送信する局のこと。
- NMEA : 無線機に内蔵しているGPSレシーバーで測位したNMEA 0183フォーマットデータのこと。

◇ GPS送信モードに切り替えるには

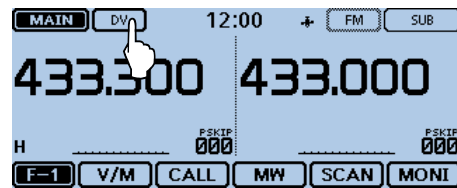
D-PRS、またはNMEAで送信するには、GPS送信モードを設定する必要があります。

すでにD-PRSやNMEAの送信情報の設定が完了していれば、送信設定(ON/OFF)を下記の画面で簡単に切り替えられます。

※D-PRS、NMEAの送信情報の設定については、左記の図に記載している参照ページから設定のしかたをご確認ください。

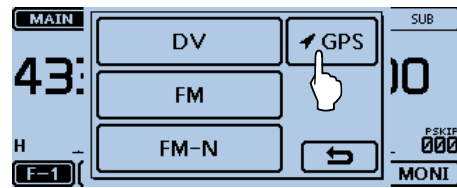
①受信モード表示部をタッチする。

- 「受信モード一覧」画面が表示されます。



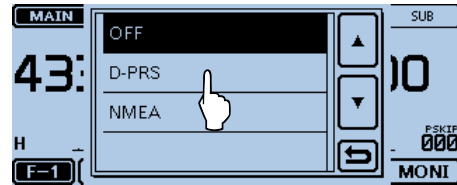
② [GPS]をタッチする。

- 「GPS送信モード」画面が表示されます。



③ [D-PRS]をタッチする。

- 運用画面に戻り、受信モード表示部に「DV」が表示されます。



従来のD-STAR機をお持ちのかたへ

本製品では、従来のD-STAR機で記載していたGPS (DV-G)をNMEA、GPS-A (DV-A)をD-PRSと記載しています。

- GPS (DV-G) →NMEA
- GPS-A (DV-A) →D-PRS

また、従来機(ID-800、ID-91、IC-U1、IC-V1、IC-7100、ID-51、ID-31、IC-9100/M、ID-80、ID-880/D、ID-92、IC-2820G)では、ポジション(固定局)、オブジェクト局、アイテム局、気象局の情報を受信しても表示されません。

8 GPS の操作

■ D-PRSの送信

D-PRSでは、D-PRSに対応する形式で位置情報を含むデータを送出できます。

本製品とパソコンを接続して、D-PRSの信号を受信すると、下記のD-PRSをパソコンに出力します。

D-PRSデータは、APRS®コードに準拠しています。

APRS® : Automatic Packet Reporting System

◇ D-PRSとは

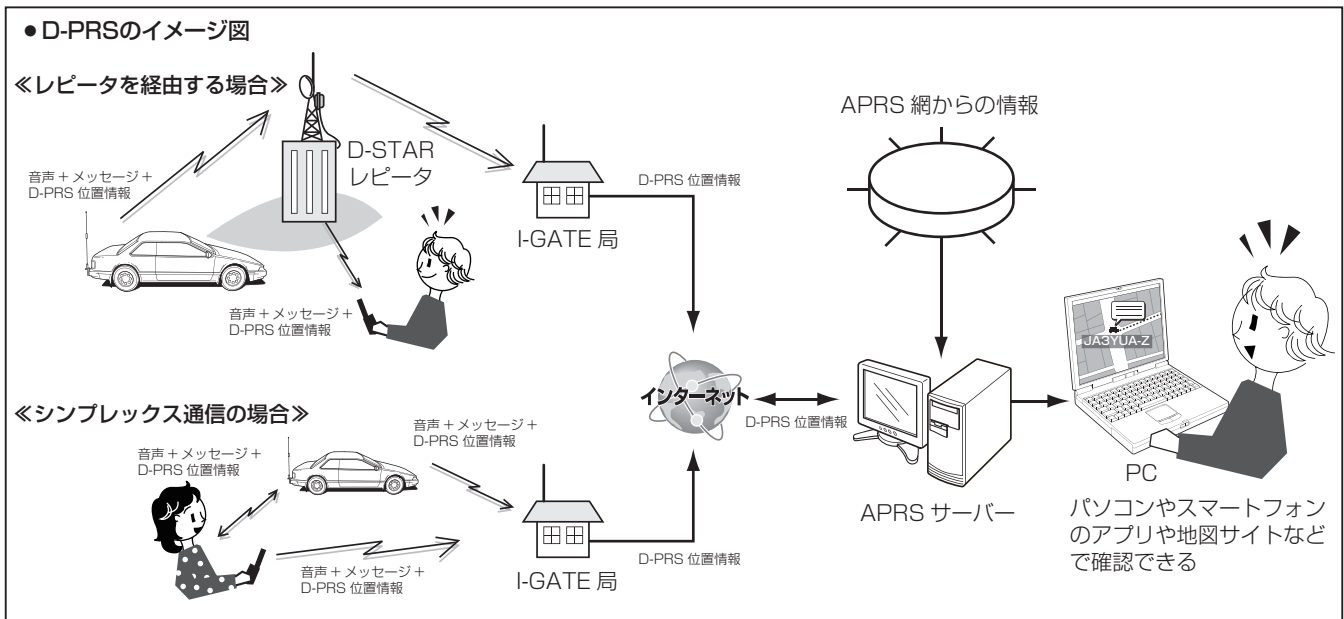
D-PRSは、**D-STAR Packet Reporting System**の略で、DVモードで音声と同時に送受信する低速データ部分を利用し、無線機に内蔵、または外部接続したGPSレシーバーにより測位した情報を、APRSサーバーへ引き渡すしくみのことです。

1つの周波数で音声、またはデータのどちらかしか送受信できないアナログ方式に対し、音声と同時にGPS位置情報やメッセージなどのデータも送受信できるので、効率のよい通信ができます。

※位置情報をAPRSサーバーに引き渡すには、電波の届くエリア内にI-GATE局が必要です。

ご注意

- GPS選択を「**マニュアル**」に選択したときは、MENU画面内の「**マニュアル位置**」画面で入力した位置情報により、D-PRS形式に加工して送信します。(P12-16) (GPS > GPS設定 > マニュアル位置)
- GPS自動送信(P8-41)を「**OFF**」以外に設定している場合は、設定した時間ごとに自動送信しますのでご注意ください。(GPS > GPS自動送信)



◇ D-PRSの使用手順

D-PRSで送信するには、下記の手順で設定してください。詳細な設定方法については、参照ページをご覧ください。

1. 自局のコールサインを登録する (P6-4)
2. GPSを受信できる状態に設定する (P8-2)
3. GPS送信モードをD-PRSに設定する (P8-16)
※従来機種では「GPS-A (DV-A)」と表示しています。
4. 送信情報を設定する (P8-16 ~ P8-24)
※SSIDとシンボルは必ず設定してください。
(GPS > GPS送信モード > 送信フォーマット > ポジション/オブジェクト/アイテム/気象の各項目内)
↓
設定完了(D-PRSで送信できます)

ご参考

D-PRSでは、位置情報以外に、その場所の地震情報や、気象情報などが送出手続きできるフォーマットに対応しています。(GPS > GPS送信モード > 送信フォーマット)

【D-PRSの送信フォーマット】

- ポジション(移動局/固定局)
: 位置情報を送出手続きするためのフォーマット
- オブジェクト局: その場所でのイベント情報や、地震情報などを送出手続きするためのフォーマット
- アイテム局 : 時間に関係のないその場所の情報(アンテナの設置情報など)を送出手続きするためのフォーマット
- 気象局 : 気象情報を送出手続きするためのフォーマット

8 GPS の操作

■ GPSの送信(D-PRSとNMEA)(つづき)

◇ 送信設定項目一覧

送信するフォーマットによって設定項目が異なります。
フォーマットごとの設定項目は下表のとおりです。

(●：設定可能項目)

	D-PRS								
	ポジション局		オブジェクト局			アイテム局			気象局
	移動局	固定局	データ拡張なし	データ拡張(進路/速度)	データ拡張(出力/地上高/ゲイン/指向性)	データ拡張なし	データ拡張(進路/速度)	データ拡張(出力/地上高/ゲイン/指向性)	
アンプロトアドレス	●	●	●	●	●	●	●	●	●
コメント	●	●	●	●	●	●	●	●	●
高度	●	●							
オブジェクト名/アイテム名			●	●	●	●	●	●	
データタイプ			●	●	●	●	●	●	
位置情報(緯度/経度/高度)			●	●	●	●	●	●	
データ拡張	●	●	●	●	●	●	●	●	
進路				●			●		
速度				●			●		
出力		●			●			●	
地上高		●			●			●	
ゲイン		●			●			●	
指向性		●			●			●	
シンボル	●	●	●	●	●	●	●	●	●
SSID	●	●	●	●	●	●	●	●	●
タイムスタンプ	●	●	●	●	●				●

※設定項目の表示する順番に関しては、送信フォーマットによって異なります。

8 GPS の操作

■ D-PRSの送信(つづき)

◇ D-PRS—ポジション局(移動局/固定局)の設定

D-PRSでポジション局として送信するための設定を説明します。

1. GPS送信モードをD-PRSに設定する

- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「GPS送信モード」項目をタッチする。
(GPS > GPS送信モード)
 - [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページに切り替えます。
- ③ 「D-PRS」をタッチする。

2. アンプロトアドレスを確認する

アンプロトアドレスは初期設定値のまま、ご使用になります。

- ④ 「アンプロトアドレス」をタッチする。
 - 初期設定値は、「API510,DSTAR*」です。
- ⑤ [↵]をタッチする。
 - 1つ上の階層に戻ります。

3. 送信フォーマットを「ポジション」に設定する

送信フォーマットを選択します。

- ⑥ 「ポジション」をタッチする。

4. シンボルを設定する

自局の運用形態を伝えるためのアイコンです。
選択したシンボルチャンネル(1～4)に設定されたシンボルが、D-PRSで位置情報とともに送られます。

- ⑦ 「シンボル」をタッチする。
 - ⑧ 設定したシンボルをタッチする。
 - 初期設定では、「1：車」、「2：バン」、「3：トラック」、「4：自宅」が登録されています。
- ※ 任意のシンボル(2文字)を使用する場合や登録済みのシンボルを使用する場合は、12-16ページをご覧ください。

5. SSIDを設定する

自局の運用形態を他局に伝えるために、コールサインのあとに付加するAPRS®に準拠したSSIDを選択します。

※ コールサインの文字列にスペースを含むかどうかによって、SSIDの付加方法は異なります。

- ⑨ 「SSID」をタッチする。
- ⑩ 付加させたいSSIDをタッチする。
 - [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページに切り替えます。
 - --- : コールサインの文字列に含まれるスペースを「-」に置換する
※ スペース以降に文字がない場合は、「-」に置換せず、スペースを削除する
例：JA3YUA A → JA3YUA-A
 - (-0) : SSIDを付加しない
※ コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除する
例：JA3YUA A → JA3YUA
 - -1～-15 : 「-1」から「-15」のSSIDを付加する
※ コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除して、選択したSSID (例：-9)を付加する
例：JA3YUA A → JA3YUA-9
 - -A～-Z : 「-A」から「-Z」のSSIDを付加する
※ コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除して、選択したSSID (例：-Z)を付加する
例：JA3YUA A → JA3YUA-Z

(次のページへ)

SSIDについて

SSIDは、D-PRS(APRS®)を使った通信において、運用形態をあらわすために使用されており、一般的にはガイドラインに沿って運用されています。

ガイドラインは、機器やネットワークなどインフラ環境の変化にともない、運用方法が変わる場合があります。

D-PRSやAPRS®の関連のウェブサイトで最新のガイドラインを確認し、適切に設定してください。

8 GPS の操作

■ D-PRSの送信(つづき)

6. コメントを入力する

自局の運用形態を他局に伝えるために、位置情報とともに送出するコメント(半角カタカナ、英数字、記号)を設定します。

データ拡張(☞P8-17)と高度(☞P8-17)の設定により、コメントに入力できる文字数は異なります。

データ拡張	高度	入力できる文字数
OFF	OFF	43 文字以内 (初期値)
OFF	ON	35 文字以内
進路/速度	OFF	36 文字以内
進路/速度	ON	28 文字以内
出力/地上高/ゲイン/指向性	OFF	36 文字以内
出力/地上高/ゲイン/指向性	ON	28 文字以内

- ① 「コメント」をタッチする。
- ② 「1」～「4」から編集したい番号を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。
- ③ 「編集」項目をタッチする。
 - コメント編集モードに入ります。
- ④ 入力したい文字がある枠を数回タッチする。
 - 1文字目の文字を選択します。
 - 入力できる文字は、英数字とカタカナおよび記号です。
 - 入力モードの切り替えは、現在の入力モード(「[カナ]」、「[AB]」、「[ab]」、「[12]」など)をタッチします。
 - ※[AB]、[ab]、[12]選択時は、[AB⇔12]、または[ab⇔12]が表示されます。タッチするとアルファベット入力と数字入力が切り替わります。
 - ※アルファベット入力時は、[A/a]が表示されます。タッチするごとに、大文字/小文字が切り替わります。
 - ※アルファベット入力時、[QUICK]をタッチすると、フルキーボード入力を選択できます。
 - ※カタカナ入力時は、[` ° -]が表示されます。タッチするごとに、「 ` 」、「 ° 」と「 - 」が入力できます。
 - [CLR]をタッチすると、選択した文字が削除されます。
 - 「_」をタッチすると、スペースが挿入されます。
 - ※右図のように、「 」（有効範囲表示）が画面に表示された場合は、「 」（以下）以降の文字列を送出しません。
- ⑤ [←]/[→]をタッチしてカーソルを移動させる。
 - 文字を入力する桁を選択します。
- ⑥ 手順④、⑤を繰り返し入力します。
- ⑦ コメントを入力したら、[ENT]をタッチする。
- ⑧ 入力した「コメント」の番号をタッチする。

7. タイムスタンプを設定する

GPSより取得した時間情報(UTC表示)を送出するタイムスタンプ機能を設定します。

- ⑨ 「タイムスタンプ」をタッチする。
- ⑩ 送出したいタイムスタンプをタッチする。
 - OFF : 時間情報を送出しない
 - 日時分 : 日、時間、分の情報を送出する
 - 時分秒 : 時間、分、秒の情報を送出する
- ⑪ [▼]をタッチして、次のページに切り替えます。

8. 高度を設定する

GPSより取得した高度情報の送出を設定します。

- ⑫ 「高度」をタッチする。
- ⑬ 「ON」をタッチする。

ご注意

本製品で高度設定をONにして送信すると、高度表示非対応の機種(IC-9100/M、ID-80、ID-880/D、ID-92、ID-800、ID-91、IC-U1、IC-V1)ではコメント中に文字列として表示されます。

9. データ拡張を設定する

自局の情報を送出するデータ拡張機能を設定します。

- ⑭ 「データ拡張」をタッチする。
- ⑮ 送信させたいデータをタッチする。
 - ※移動局として送信したい場合は、「進路/速度」を選択し、固定局として送信したい場合は、「出力/地上高/ゲイン/指向性」を選択します。
 - OFF : データ拡張機能を送出しない
 - 進路/速度 : 進路方向と速度情報を送出する
 - 出力/地上高/ゲイン/指向性 : 出力、地上高、ゲイン、指向性情報を送出する

10. 出力を設定する

※「9.データ拡張を設定する」を「出力/地上高/ゲイン/指向性」に設定すると表示します。

固定局として送信するため、アンテナの出力情報を設定します。

- ⑯ 「出力」をタッチする。
- ⑰ 送出する出力をタッチする。
 - 0W/1W/4W/9W/16W/25W/36W/49W/64W/81Wから選択する

(次のページへ)

8 GPS の操作

■ D-PRSの送信(つづき)

11. 地上高を設定する

※「9.データ拡張を設定する」を「出力/地上高/ゲイン/指向性」に設定すると表示します。

固定局で使用するアンテナの地上高情報を設定します。

- ⑳ 「地上高」をタッチする。
- ㉑ 一覧から地上高をタッチする。
 - 3m/6m/12m/24m/49m/98m/195m/390m/780m/1561mから選択する
- ※表示単位をフィートに変更できます。(P12-47)
- ㉒ [▼]をタッチして、次のページに切り替えます。

12. ゲインを設定する

※「9.データ拡張を設定する」を「出力/地上高/ゲイン/指向性」に設定すると表示します。

固定局で使用するアンテナのゲイン情報を設定します。

- ㉓ 「ゲイン」をタッチする。
- ㉔ 一覧からゲインをタッチする。
 - 0dB～9dBの中から選択する

13. 指向性を設定する

※「9.データ拡張を設定する」を「出力/地上高/ゲイン/指向性」に設定すると表示します。

固定局で使用するアンテナの指向性情報を設定します。

- ㉕ 「指向性」をタッチする。
- ㉖ 一覧から指向性をタッチする。
 - 無指向性/45° NE/90° E/135° SE/180° S/225° SW/270° W/315° NW/360° Nの中から選択する
- ㉗ [MENU]をタッチする。
 - 「MENU」画面を解除します。

8 GPS の操作

■ D-PRSの送信(つづき)

◇ D-PRS—オブジェクト局/アイテム局の設定

D-PRSでオブジェクト局/アイテム局として送信するための設定を説明します。

1. GPS送信モードをD-PRSに設定する

- ① [MENU] をタッチする。
- ② 「GPS送信モード」項目をタッチする。
(GPS > GPS送信モード)
 - [▲]/[▼] をタッチして、表示しているページに切り替えます。
- ③ 「D-PRS」をタッチする。

2. アンプロトアドレスを確認する

アンプロトアドレスは初期設定値のまま、ご使用になります。

- ④ 「アンプロトアドレス」をタッチする。
 - 初期設定値は、「API510,DSTAR*」です。
- ⑤ [↶] をタッチする。
 - 1つ上の階層に戻ります。

3. 送信フォーマットを「オブジェクト」、または「アイテム」に設定する

送信フォーマットを選択します。

- ⑥ 「オブジェクト」、または「アイテム」をタッチする。

4. オブジェクト名、またはアイテム名を設定する

オブジェクト局、またはアイテム局として送信するときの名称を設定します。

イベント情報や場所など、伝えたいものの名称を設定します。

- ⑦ 「オブジェクト名」、または「アイテム名」をタッチする。
 - 名称編集モードに入ります。
- ⑧ 入力したい文字がある枠を数回タッチする。
 - 1文字目の文字を選択します。
 - 入力できる文字は、英数字と記号です。
 - 入力モードの切り替えは、現在の入力モード([AB], [ab], [12])などをタッチします。
 - ※ [AB]、[ab]、[12] 選択時は、[AB⇄12]、または [ab⇄12] が表示されます。タッチするとアルファベット入力と数字入力が切り替わります。
 - ※ アルファベット入力時は、[A/a] が表示されます。タッチするごとに、大文字/小文字が切り替わります。
 - ※ アルファベット入力時、[QUICK] をタッチすると、フルキーボード入力を選択できます。

- [CLR] をタッチすると、選択した文字が削除されます。
- [] をタッチすると、スペースが挿入されます。

- ⑨ [←]/[→] をタッチしてカーソルを移動させる。
 - 文字を入力する桁を選択します。
- ⑩ 手順⑧、⑨を繰り返し、9文字以内(スペースを含む)で名称を入力します。
- ⑪ 名称を入力したら、[ENT] をタッチする。

5. データタイプを設定する

オブジェクト情報や、アイテム情報が、送信時に有効か、無効かを知らせるための設定です。

※例えば、終了したイベント情報をオブジェクト局として送信する場合は、「無効」を意味する「Killed Object」を選択します。

- ⑫ 「データタイプ」をタッチする。
- ⑬ 送信したい情報の状態をタッチする。
(オブジェクト局の場合)
 - Live Object : 有効なオブジェクト
 - Killed Object : 無効なオブジェクト(アイテム局の場合)
 - Live Item : 有効なアイテム
 - Killed Item : 無効なアイテム

6. シンボルを設定する

オブジェクト局、またはアイテム局として、伝えたい場所にある物のアイコンを設定します。

- ⑭ 「シンボル」をタッチする。
- ⑮ シンボルリストの中からアイコンをタッチする。
 - ※ 直接入力する場合は、12-19ページをご覧ください。
 - ※ オブジェクト局/アイテム局の初期設定値は、「[¥Y]無線機」です。

(次のページへ)

8 GPS の操作

■ D-PRSの送信(つづき)

7. コメントを入力する

オブジェクト局、またはアイテム局の詳細情報を送出するコメント(半角カタカナ、英数字、記号)を設定します。データ拡張(☞P8-21)と位置情報の高度(☞右)の設定により、コメントに入力できる文字数は異なります。

データ拡張	高度	入力できる文字数
OFF	なし	43 文字以内 (初期値)
OFF	あり	35 文字以内
進路/速度	なし	36 文字以内
進路/速度	あり	28 文字以内
出力/地上高/ゲイン/指向性	なし	36 文字以内
出力/地上高/ゲイン/指向性	あり	28 文字以内

- ⑯ 「コメント」をタッチする。
- ⑰ [QUICK]をタッチする。
- ⑱ 「編集」項目をタッチする。
 - コメント編集モードに入ります。
- ⑲ 入力したい文字がある枠を数回タッチする。
 - 1文字目の文字を選択します。
 - 入力できる文字は、英数字とカタカナおよび記号です。
 - 入力モードの切り替えは、現在の入力モード([カナ]、[AB]、[ab]、[12]など)をタッチします。
 - ※[AB]、[ab]、[12]選択時は、[AB⇄12]、または[ab⇄12]が表示されます。タッチするとアルファベット入力と数字入力が切り替わります。
 - ※アルファベット入力時は、[A/a]が表示されます。タッチするごとに、大文字/小文字が切り替わります。
 - ※アルファベット入力時、[QUICK]をタッチすると、フルキーボード入力をすることができます。
 - ※カタカナ入力時は、[` ° -]が表示されます。タッチするごとに、「 ` 」、「 ° 」と「 - 」が入力できます。
 - [CLR]をタッチすると、選択した文字が削除されます。
 - 「_」をタッチすると、スペースが挿入されます。
 - ※右図のように、「 J 」(有効範囲表示)が画面に表示された場合は、「 J 」以降の文字列を送出しません。
- ⑳ [←]/[→]をタッチしてカーソルを移動させる。
 - 文字を入力する桁を選択します。
- ㉑ 手順⑲、⑳を繰り返し、コメントを入力します。
- ㉒ [ENT]をタッチする。
 - 入力したコメントを確認できます。
- ㉓ [↵]をタッチする。
- ㉔ [▼]をタッチして、次のページに切り替えます。

8. 位置情報を設定する

送信局がオブジェクト局、またはアイテム局として伝えたい場所の位置情報を設定します。

※送信局の位置情報とは限りません。

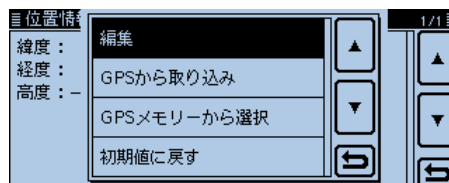
※例えば、東京ビックサイトのハムフェア情報をオブジェクト局として送信したい場合は、自局(送信局)がいる場所ではなく、東京ビックサイトの位置情報を入力します。すでにGPSメモリーに位置情報が登録されている場合は、「GPSメモリーから選択」することもできます。

- ㉕ 「位置情報」をタッチする。
- ㉖ [QUICK]をタッチする。
- ㉗ 「編集」項目をタッチする。
 - 位置情報編集モードに入ります。
- ㉘ 「緯度」をタッチする。
 - 「緯度」(編集)画面を表示します。
 - [CE]をタッチすると、入力した数字をキャンセルします。
 - [N/S]をタッチするごとに、北緯/南緯を切り替えます。
 - [←]/[→]をタッチしてカーソルを移動します。
- ㉙ [ENT]をタッチする。
- ㉚ 「経度」をタッチする。
 - 「経度」(編集)画面を表示します。
 - [CE]をタッチすると、入力した数字をキャンセルします。
 - [E/W]をタッチするごとに、東経/西経を切り替えます。
 - [←]/[→]をタッチしてカーソルを移動します。
- ㉛ [ENT]をタッチする。
- ㉜ 「高度」をタッチする。
 - 「高度」(編集)画面を表示します。
 - [CE]をタッチすると、入力した数字をキャンセルします。
 - [+/-]をタッチするごとに、+/-を切り替えます。
 - [←]/[→]をタッチしてカーソルを移動します。
- ㉝ [ENT]をタッチする。
- ㉞ 「《書き込み》」をタッチする。
 - 「書き込みますか?」の確認画面を表示します。
- ㉟ [はい]をタッチする。
 - 位置情報が書き込まれた確認画面を表示します。
- ㊱ [↵]をタッチする。

(次のページへ)

位置情報の取り込みについて

手順㉞で「GPSから取り込み」、または「GPSメモリーから選択」をタッチして、自局の位置情報や、GPSメモリーの登録情報を設定することができます。



8 GPS の操作

■ D-PRSの送信(つづき)

9. データ拡張を設定する

オブジェクト局、またはアイテム局の情報を送出するデータ拡張機能を設定します。

- ⑳ 「データ拡張」をタッチする。
- ㉑ 送信させたいデータをタッチする。
- **OFF** : データ拡張機能を送出しない
 - **進路/速度** : 進路方向と速度情報を送出する
 - **出力/地上高/ゲイン/指向性**
: 出力、地上高、ゲイン、指向性情報を送出する

10. 進路を設定する

※「9.データ拡張を設定する」を「進路/速度」に設定すると表示します。

オブジェクト局、またはアイテム局が移動している場合は、その進路方向を設定します。

- ㉒ 「進路」をタッチする。
- ㉓ 進路方向をタッチする。
- 000° ~ 360° の範囲から選択する

11. 速度を設定する

※「9.データ拡張を設定する」を「進路/速度」に設定すると表示します。

オブジェクト局、またはアイテム局が移動している場合は、その進行速度を設定します。

- ㉔ 「速度」をタッチする。
- ㉕ 進行する速度をタッチする。
- 0km/h ~ 1850km/hから選択する

12. 出力を設定する

※「9.データ拡張を設定する」を「出力/地上高/ゲイン/指向性」に設定すると表示します。

オブジェクト局、またはアイテム局がレピータやノード局、アクセスポイントなどの場合は、アンテナの出力情報を設定します。

- ㉖ 「出力」をタッチする。
- ㉗ 送出する出力をタッチする。
- 0W/1W/4W/9W/16W/25W/36W/49W/64W/81Wから選択する

13. 地上高を設定する

※「9.データ拡張を設定する」を「出力/地上高/ゲイン/指向性」に設定すると表示します。

オブジェクト局、またはアイテム局がレピータやノード局、アクセスポイントなどの場合は、アンテナの地上高情報を設定します。

- ㉘ 「地上高」をタッチする。
- ㉙ 一覧から地上高をタッチする。
- 3m/6m/12m/24m/49m/98m/195m/390m/780m/1561mから選択する
- ※表示単位をフィートに変更できます。(P12-47)

㉚ [▼]をタッチして、次のページに切り替えます。

14. ゲインを設定する

※「9.データ拡張を設定する」を「出力/地上高/ゲイン/指向性」に設定すると表示します。

オブジェクト局、またはアイテム局がレピータやノード局、アクセスポイントなどの場合は、アンテナのゲイン情報を設定します。

- ㉛ 「ゲイン」をタッチする。
- ㉜ 一覧からゲインをタッチする。
- 0dB ~ 9dBの中から選択する

15. 指向性を設定する

※「9.データ拡張を設定する」を「出力/地上高/ゲイン/指向性」に設定すると表示します。

オブジェクト局、またはアイテム局がレピータやノード局、アクセスポイントなどの場合は、アンテナの指向性情報を設定します。

- ㉝ 「指向性」をタッチする。
- ㉞ 一覧から指向性をタッチする。
- 無指向性/45° NE/90° E/135° SE/180° S/225° SW/270° W/315° NW/360° Nの中から選択する
- (次のページへ)

8 GPS の操作

■ D-PRSの送信(つづき)

16. SSIDを設定する

自局の運用形態を他局に伝えるために、コールサインのあとに付加するAPRS®に準拠したSSIDを選択します。

※コールサインの文字列にスペースを含むかどうかによって、SSIDの付加方法は異なります。

⑤② 「SSID」をタッチする。

⑤③ 付加させたいSSIDをタッチする。

- [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページに切り替えます。

- --- : コールサインの文字列に含まれるスペースを「-」に置換する
※スペース以降に文字がない場合は、「-」に置換せず、スペースを削除する
例：JA3YUA A → JA3YUA-A

- (-0) : SSIDを付加しない
※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除する
例：JA3YUA A → JA3YUA

- -1 ~ -15 : 「-1」から「-15」のSSIDを付加する
※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除して、選択したSSID (例：-9)を付加する
例：JA3YUA A → JA3YUA-9

- -A ~ -Z : 「-A」から「-Z」のSSIDを付加する
※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除して、選択したSSID (例：-Z)を付加する
例：JA3YUA A → JA3YUA-Z

(次のページへ)

17. タイムスタンプを設定する

オブジェクト局の時間情報を送るときの時間表示形式を設定します。

⑤④ 「タイムスタンプ」をタッチする。

⑤⑤ 送りたいタイムスタンプをタッチする。

- 日時分 : 日、時間、分の情報を送出する
- 時分秒 : 時間、分、秒の情報を送出する

⑤⑥ [MENU]をタッチする。

- 「MENU」画面を解除します。

SSIDについて

SSIDは、D-PRS (APRS®)を使った通信において、運用形態をあらわすために使用されており、一般的にはガイドラインに沿って運用されています。

ガイドラインは、機器やネットワークなどインフラ環境の変化にともない、運用方法が変わる場合があります。

D-PRSやAPRS®の関連のウェブサイトで最新のガイドラインを確認し、適切に設定してください。

8 GPS の操作

■ D-PRSの送信(つづき)

◇ D-PRS—気象局の設定

D-PRSで気象局として送信するための設定を説明します。

1. GPS送信モードをD-PRSに設定する

- ① [MENU] をタッチする。
- ② 「GPS送信モード」項目をタッチする。
(GPS > GPS送信モード)
 - [▲]/[▼] をタッチして、表示しているページに切り替えます。
- ③ 「D-PRS」をタッチする。

2. アンプロトアドレスを確認する

アンプロトアドレスは初期設定値のまま、ご使用になります。

- ④ 「アンプロトアドレス」をタッチする。
 - 初期設定値は、「API510,DSTAR*」です。
- ⑤ [↵] をタッチする。
 - 1つ上の階層に戻ります。

3. 送信フォーマットを「気象」に設定する

送信フォーマットを選択します。

- ⑥ 「気象」をタッチする。

4. シンボルを設定する

気象局として、気象のアイコンを設定します。

- ⑦ 「シンボル」をタッチする。
- ⑧ シンボルリストの中からアイコンをタッチする。
 - ※ 直接入力する場合は、12-19ページをご覧ください。
 - ※ 気象局の初期設定値は、「[/_]ウェザーステーション」です。

5. SSIDを設定する

自局の運用形態を他局に伝えるために、コールサインのあとに付加するAPRS®に準拠したSSIDを選択します。

※ コールサインの文字列にスペースを含むかどうかによって、SSIDの付加方法は異なります。

- ⑨ 「SSID」をタッチする。
- ⑩ 付加させたいSSIDをタッチする。
 - [▲]/[▼] をタッチして、表示しているページに切り替えます。
 - --- : コールサインの文字列に含まれるスペースを「-」に置換する
※ スペース以降に文字がない場合は、「-」に置換せず、スペースを削除する
例：JA3YUA A → JA3YUA-A
 - (-0) : SSIDを付加しない
※ コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除する
例：JA3YUA A → JA3YUA
 - -1 ~ -15 : 「-1」から「-15」のSSIDを付加する
※ コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除して、選択したSSID (例：-9) を付加する
例：JA3YUA A → JA3YUA-9
 - -A ~ -Z : 「-A」から「-Z」のSSIDを付加する
※ コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除して、選択したSSID (例：-Z) を付加する
例：JA3YUA A → JA3YUA-Z

(次のページへ)

SSIDについて

SSIDは、D-PRS (APRS®) を使った通信において、運用形態をあらわすために使用されており、一般的にはガイドラインに沿って運用されています。

ガイドラインは、機器やネットワークなどインフラ環境の変化にともない、運用方法が変わる場合があります。

D-PRSやAPRS®の関連のウェブサイトで最新のガイドラインを確認し、適切に設定してください。

8 GPS の操作

■ D-PRSの送信(つづき)

6. コメントを入力する

気象局の詳細情報を送出するコメント(半角カタカナ、英数字、記号)を設定します。

- ⑪ 「コメント」をタッチする。
- ⑫ **[QUICK]**をタッチする。
- ⑬ 「編集」項目をタッチする。
 - コメント編集モードに入ります。
- ⑭ 入力したい文字がある枠を数回タッチする。
 - 1文字目の文字を選択します。
 - 入力できる文字は、英数字とカタカナおよび記号です。
 - 入力モードの切り替えは、現在の入力モード([**カナ**]、[**AB**]、[**ab**]、[**12**]など)をタッチします。
 - ※**[AB]**、**[ab]**、**[12]**選択時は、**[AB⇄12]**、または**[ab⇄12]**が表示されます。タッチするとアルファベット入力と数字入力が切り替わります。
 - ※アルファベット入力時は、**[A/a]**が表示されます。タッチするごとに、大文字/小文字が切り替わります。
 - ※アルファベット入力時、**[QUICK]**をタッチすると、フルキーボード入力を選択できます。
 - ※カタカナ入力時は、**[` ° -]**が表示されます。タッチするごとに、**[`]**、**[°]**と**[-]**が入力できます。
 - **[CLR]**をタッチすると、選択した文字が削除されます。
 - **[]**をタッチすると、スペースが挿入されます。
 - ※右図のように、**[]**(有効範囲表示)が画面に表示された場合は、**[]**以降の文字列を送出しません。
- ⑮ **[←]**/**[→]**をタッチしてカーソルを移動させる。
 - 文字を入力する桁を選択します。
- ⑯ 手順⑭、⑮を繰り返し、コメントを入力します。
- ⑰ **[ENT]**をタッチする。
 - 入力したコメントを確認できます。
- ⑱ **[↵]**をタッチする。
- ⑲ **[MENU]**をタッチする。
 - 「MENU」画面を解除します。

7. タイムスタンプを設定する

気象局の時間情報を送るときの時間表示形式を設定します。

- ⑳ 「タイムスタンプ」をタッチする。
- ㉑ 送出したいタイムスタンプをタッチする。
 - **OFF** : 時間情報を送出しない
 - **日時分** : 日、時間、分の情報を送出する
 - **時分秒** : 時間、分、秒の情報を送出する
- ㉒ **[MENU]**をタッチする。
 - 「MENU」画面を解除します。

8 GPS の操作

■ D-PRSの送信(つづき)

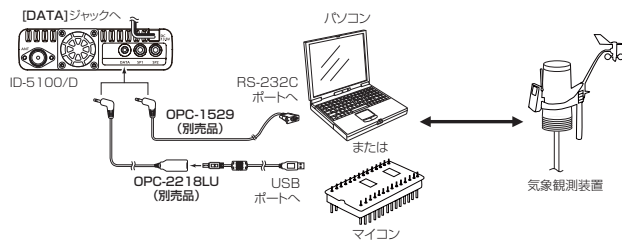
◇ 気象局の送信について

気象局として送信する場合は、本製品で設定する気象局用の設定のほか、DATA端子への気象データの入力が必要です。気象データは、市販の気象装置から取得した気象情報をパソコンやマイコンなどでAPRS気象局用フォーマットに変換することで、本製品に取り込むことができます。

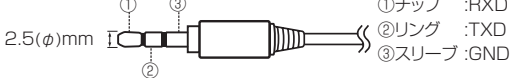
本製品で設定した気象局用の設定と、取り込んだ気象データの2つが揃うことで、はじめて気象局として送信できます。

ご注意

気象データがDATA端子から入力されていない場合、気象局として気象情報を送信しません。



●自作用端子図

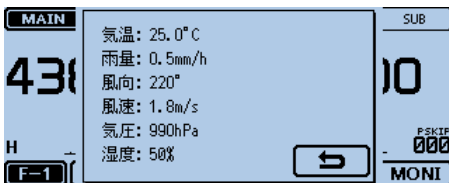


◇ 気象データが正しく入力されているか確認するには

気象局用のフォーマットに変換して本製品に取り込んだ時、正しく取り込まれているかを確認できます。

①GPS送信モードを「D-PRS」、送信フォーマットを「気象」に設定する。(※P8-23、P8-24)

②運用画面(VFO、DR画面など)で、[QUICK]メニューから「気象情報」を選択し、気象情報画面を表示する。気象情報が正しく入力されていれば、下図のような気象情報画面を表示します。気象情報画面を確認できれば、気象データを送信できます。各項目がそれぞれ「-」(ハイフン)で表示されている場合は気象情報が正しく入力されていないので、入力データの設定をご確認ください。



◇ 通信ソフトウェアの設定について

下記を参照して、通信速度などを設定してください。

- Port : 本製品が使用しているCOMポート番号を選択※1
- Baud rate : 4800/9600bps※2
- Data : 8bit
- Parity : none
- Start : 1bit
- Stop : 1bit
- Flow control : none

※1 パソコンの環境によっては、本製品が使用するCOMポート番号が5以上になる場合があります。このときは、COMポート番号を5以上に設定できる通信ソフトウェアをご使用ください。

※2 本製品が使用するBaud rateは、MENU画面内の「データスピード」画面で設定できます。(※P12-45) (機能設定 > データスピード)

◇ 気象データについて

気象データは以下のフォーマット(APRS® Weather Dataに準拠)で入力してください。

(例) 220/004g005t077r000p000P000h50b09900 改行コード
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

	入力値	単位
① 風向	000 ~ 360	°
② 風速	000 ~ 999	mph
③ 最大風速(直近5分間)	g000 ~ g999	mph
④ 気温	t-99 ~ t-01, t000 ~ t999	°F
⑤ 雨量(1時間)	r000 ~ r999*1	inch
⑥ 雨量(24時間)	p000 ~ p999*1	inch
⑦ 雨量(真夜中から)	P000 ~ P999*1	inch
⑧ 湿度	h00, h01 ~ h99 (h00は100%を示す)	%
⑨ 気圧	b00000 ~ b99999*2	hPa, mb

★1 下2桁は小数点以下第1位と第2位を示す

★2 下1桁は小数点以下第1位を示す

※該当の項目のデータがない場合は、数字の代わりにスペースか「.」(ピリオド)を入力してください。

(例: .../...g...t077r000p...P...h50b....)

※改行コードは、<CR>、<LF>、<CR><LF>のいずれかを入力してください。

8 GPS の操作

■ D-PRSの送信(つづき)

◇ 地図ソフトウェアで自局の位置を確認する

D-PRSの送信設定が完了したら、送信してみましょう。

I-GATE局に対して送信した場合、インターネットの地図サイトにコールサインなどの情報を入力すると、地図上に設定したアイコン(シンボル)で自局が表示されます。



パソコンやスマートフォンのアプリや地図サイトなどで確認できる

ご参考

D-PRSデータについて

D-PRSのデータ構造は、下記のようになっています。

◇ポジション(移動)

(例) JA3YUA-A>API510.DSTAR*:/002338h3437.38N\13534.29E>090/002/A=000012ID-5100 OP.SATOH
 ① ② ③ ④ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑨ ⑪ ⑬ ⑭

◇ポジション(固定)

(例) JA3YUA-A>API510.DSTAR*:/002338h3437.38N\13534.29E-PHG5132ID-5100 OP.SATOH
 ① ② ③ ④ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑨ ⑫ ⑭

◇オブジェクト

(例) JA3YUA-A>API510.DSTAR*:HAM FESTA*012345z3437.38N\13534.29Eh2014.2.28 am10-pm4
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑨ ⑭

◇アイテム

(例) JA3YUA-A>API510.DSTAR*:REPEATER!3454.00N\13536.00E rPHG5132439.39MHz DV RPT JP3YHH A
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑧ ⑨ ⑩ ⑨ ⑫ ⑭

◇気象

(例) JA3YUA-A>API510.DSTAR*:/012345z3454.00N\13536.00E _220/004g005t077r000p000P000h50b09900
 ① ② ③ ④ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑨ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒

①コールサイン

②SSID

③アンプロトアドレス

④データ種別

/ タイムスタンプを持つ位置情報

! タイムスタンプ無し的位置情報

; オブジェクト局

) アイテム局

⑤オブジェクト/アイテム名

⑥オブジェクト/アイテム状態

* 有効なオブジェクト

! 有効なアイテム

_ 無効なオブジェクト/アイテム

⑦タイムスタンプ(UTC)

h 時間 分 秒

z 日 時間 分

⑧緯度

⑨シンボル

⑩経度

⑪データ拡張進路速度(進路/速度)

進路:0~360°

速度:0~999 knots

⑫データ拡張(PHGコード)

PHG:固定文字

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1桁目 出力	0	1	4	9	16	25	36	49	64	81	(W)
2桁目 地上高	10	20	40	80	160	320	640	1280	2560	5120	(feet)
3桁目 ゲイン	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	(dB)
4桁目 指向性	無指向	45 NE	90 E	135 SE	180 S	225SW	270 W	315 NW	360 N	-	(')

⑬高度

-99999~999999 feet

⑭コメント

⑮風向/風速

風向:0~360°

風速:0~999 mph

⑯直近5分間の最大風速

0~999 mph

⑰気温

-99~999 °F

⑱直近1時間の雨量

0.00~9.99 inch

⑲直近24時間の雨量

0.00~9.99 inch

⑳真夜中からの雨量

0.00~9.99 inch

㉑湿度

1~99%, 00=100%

㉒気圧

0.0~9999.9 hPa

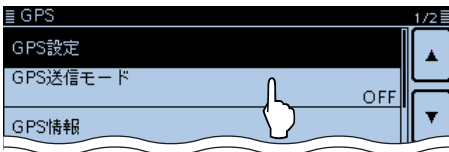
8 GPS の操作

■ NMEAデータの送信

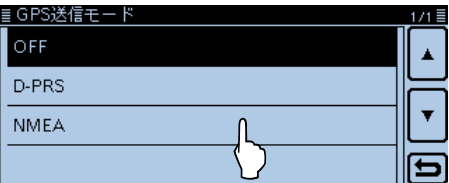
DVモードで、GPS情報をデータ送信するために、GPSセンテンス(GPSの出力内容)を設定します。

◇ GPSセンテンスの設定

- ① [MENU] をタッチする。
- ② 「GPS送信モード」項目をタッチする。
(GPS > GPS送信モード)
 - [▲]/[▼] をタッチして、表示しているページに切り替えます。

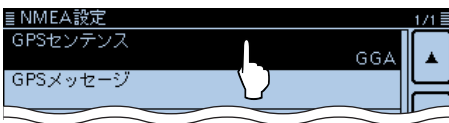


- ③ 「NMEA」をタッチする。



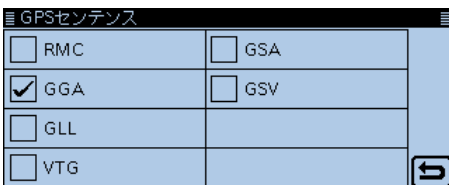
- ④ 「GPSセンテンス」をタッチする。

- 「GPSセンテンス」画面を表示します。



- ⑤ 設定するGPSセンテンスをタッチする。

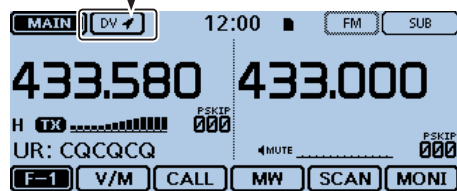
- [✓] を表示しているGPSセンテンスをタッチすると、設定を解除します。
- 本製品で設定できるGPSセンテンスはRMC、GGA、GLL、VTG、GSA、GSVの6種類です。初期設定では、GGAだけ「ON」に設定しています。
- [QUICK] をタッチして、「初期値に戻す」をタッチすると、初期設定値に戻ります。



- ⑥ 手順⑤を繰り返し、GPSセンテンスを設定します。
 - 同時に設定できるGPSセンテンスは4種類までです。
- ⑦ [MENU] をタッチする。
 - 「MENU」画面を解除します。

● GPS (DV-G)送信中の画面

DVモードでNMEAを選択したときの表示



送信すると、設定したGPSセンテンスを出力します

ご注意

- 本製品でGSVセンテンスをONにしてGPSメッセージを送信すると、GSVセンテンス非対応の機種(IC-2820G/DG、ID-800/D、ID-91、IC-U1、IC-V1)ではGPSメッセージを正しく表示できません。この場合は、GSVセンテンスをOFFにしてください。
- GPS選択を「マニュアル」に選択したときは、MENU画面内の「マニュアル位置」画面で入力した位置情報により、疑似的に選択したGPSセンテンスを送信します。(GPS > GPS設定 > マニュアル位置)(P12-16)
- GPS自動送信を「OFF」以外に設定している場合は、設定した時間ごとに自動送信しますのでご注意ください。(GPS > GPS自動送信)(P12-29)

各センテンスで送出される情報について

センテンス	緯度/経度	高度	測位時間(UTC)	年月日	測位状態	2D/3D	進路(真北)	速度(ノット)	左記以外の情報
RMC	○		○	○	○		○	○	磁気偏差、測位モード
GGA	○	○	○		○				使用衛星数、HDOP、ジオイド高、DGPS補正情報エイジ、DGPS基準局ID
GLL	○		○		○				測位モード
VTG							○	○	進路(磁北)、速度(km/h)、測位モード
GSA					○	○			受信衛星PRN番号、PDOP、HDOP、VDOP
GSV									メッセージ総数、メッセージ番号、可視衛星数、衛星情報(衛星番号、仰角、方位角、S/N比)

8 GPS の操作

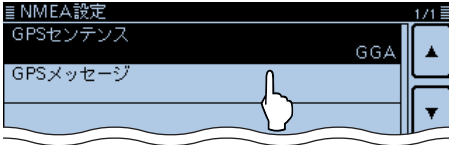
■ GPSデータの送信(つづき)

◇ GPSメッセージの設定

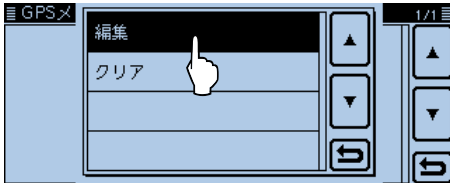
GPSモードで送信するメッセージを最大20文字まで登録できます。

《例》「OSAKA スズキ」を登録する

- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「GPSメッセージ」項目をタッチする。
(GPS > GPS送信モード > NMEA > GPSメッセージ)

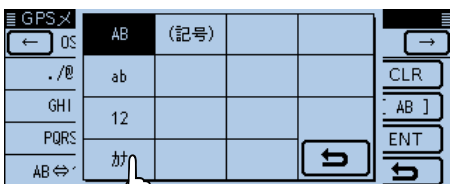
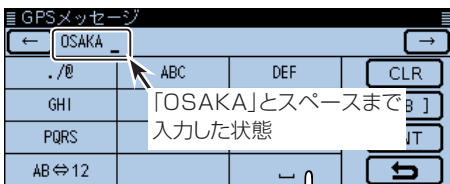


- ③ [QUICK]をタッチする。
- ④ 「編集」をタッチする。
 - 入力編集モードに入ります。



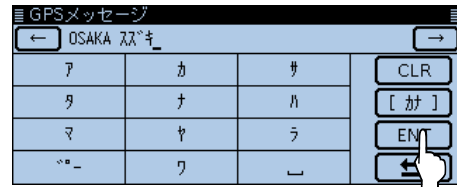
- ⑤ 入力したい文字がある枠を数回タッチする。(例 O)

- 1文字目の文字を選択します。
- 入力できる文字は、英数字とカタカナおよび記号です。
- 入力モードの切り替えは、現在の入力モード([カナ]、[AB]、[ab]、[12])などをタッチします。
 - ※[AB]、[ab]、[12]選択時は、[AB⇄12]、または[ab⇄12]が表示されます。タッチするとアルファベット入力と数字入力が切り替わります。
 - ※アルファベット入力時は、[A/a]が表示されます。タッチするごとに、大文字/小文字が切り替わります。
 - ※アルファベット入力時、[QUICK]をタッチすると、フルキーボード入力を選択できます。
 - ※カタカナ入力時は、[` ` ° ° -]が表示されます。タッチするごとに、「 ` `」、「 ° °」と「-」が入力できます。
- [CLR]をタッチすると、選択した文字が削除されます。
- 「_」をタッチすると、スペースが挿入されます。



入力モード選択画面

- ⑥ [←]/[→]をタッチしてカーソルを移動させる。
 - 文字を入力する枠を選択します。
- ⑦ 手順⑤、⑥を繰り返し、20文字以内(スペースを含む)でメッセージを入力します。
(例 2桁～9桁目: SAKA スズキ)
- ⑧ [ENT]をタッチする。
 - 入力したコメントを確認できます。



- ⑨ [MENU]をタッチする。
 - 「MENU」画面を解除します。

入力モード切り替えで選択できる文字一覧

入力モード	入力文字一覧
AB	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
ab	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
12	1234567890
カナ	アイウエオカクケコサシスセソタチツテトナニヌネノハヒフヘホママムメモヤユヨラリルレロワワン ` ° -
記号	! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { } ~ 。 「 」 ・ - ` °

※ ■ はスペースです

8 GPS の操作

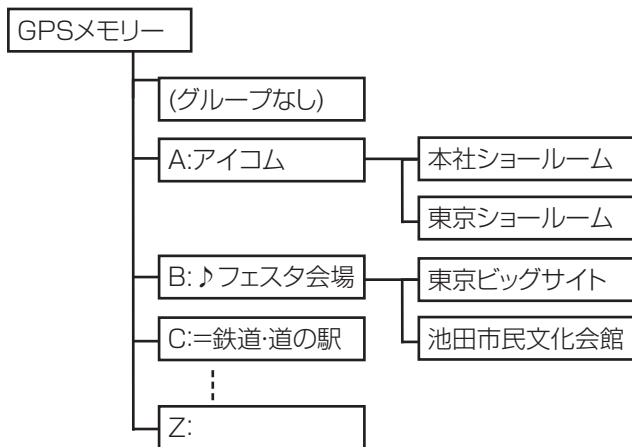
■ GPSの機能を活用する

◇ GPSメモリーについて

GPSデータをGPSメモリーに追加できます。
位置情報を手動で入力して登録したり、GPSで受信した自局や相手局の位置情報をGPSメモリーに登録したりできます。

GPSメモリーは最大200CH登録でき、(グループなし)と、A～Zのグループで、合計27個のグループに分けて整理できます。

● GPSメモリーのプリセットイメージ図

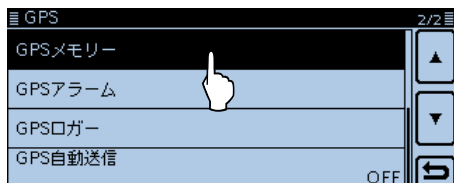


◇ GPSデータをGPSメモリーに新規登録する

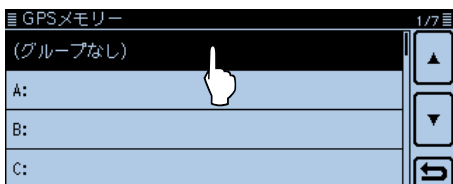
GPSデータをGPSメモリーに追加できます。

1. GPSメモリーを追加し、編集画面に入る

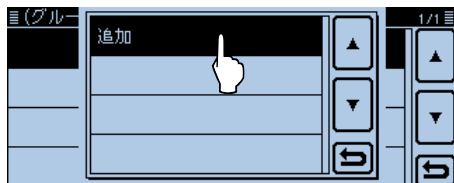
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「GPSメモリー」項目をタッチする。
(GPS > GPSメモリー)
 - グループごとにGPSメモリーがあらかじめプリセットされています。



- ③ 「(グループなし)」をタッチする。



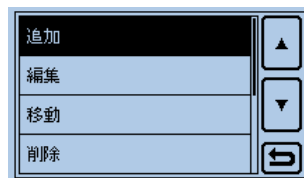
- ④ [QUICK]をタッチする。
- ⑤ 「追加」をタッチする。
 - 「GPSメモリー編集」画面を表示します。



(次のページへ)

登録したGPSメモリーを編集したいときは

すでに登録しているGPSメモリーを編集したい場合は、「編集」をタッチします。
入力のしかたは追加する場合と同じです。



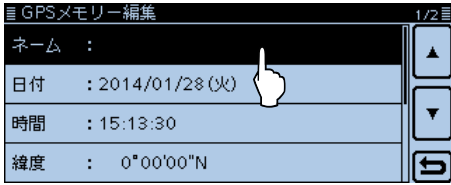
8 GPS の操作

■ GPSの機能を活用する(つづき)

2. GPSメモリー名前を入力する

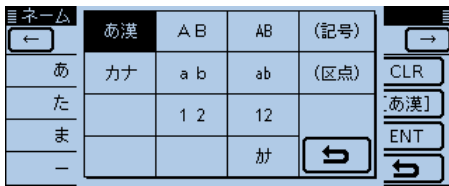
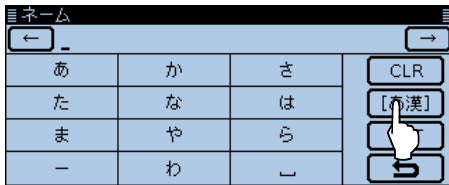
⑥ 「名前」をタッチする。

- 名前の編集モードに入ります。



⑦ 入力したい文字がある枠を数回タッチする。

- 1桁目の文字を選択します。
- 入力できる文字は、英数字とカタカナ、ひらがな、漢字、および記号です。
- 入力モードの切り替えは、現在の入力モード([あ漢]、[カナ]、[AB]、[ab]、[12])などをタッチします。



入力モード切り替え画面

※[AB]、[ab]、[12]選択時は、[AB⇄12]、または[ab⇄12]が表示されます。タッチするとアルファベット入力と数字入力が切り替わります。

※アルファベット入力時は、[A/a]が表示されます。タッチするごとに、大文字/小文字が切り替わります。

※アルファベット入力時、[QUICK]をタッチすると、フルキーボード入力を選択できます。

※ひらがな、カタカナ入力時は、[ゝ ° 小]が表示されます。タッチするごとに、(例「は」、「ば」と「ば」)、または(例「っ」と「つ」)が切り替わります。濁音(ば)、半濁音(ぱ)、促音(っ)と拗音(あいうえおやゆよ)が入力できます。

● 漢字を選択したいときは、ひらがなを選択し、[変換]をタッチすると、文字一覧が表示されます。

● [CLR]をタッチすると、選択した文字が削除されます。

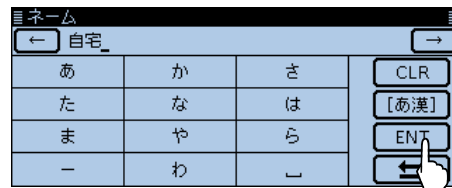
● 「」をタッチすると、スペースが挿入されます。

⑧ [←][→]をタッチしてカーソルを移動させる。

- 文字を入力する枠を選択します。

⑨ 手順⑦～⑧を繰り返し、全角8文字(半角16文字)以内(スペースを含む)でGPSメモリー名前を入力します。

⑩ [ENT]をタッチする。



(例)「自宅」を入力した場合

入力モード切り替えで選択できる文字一覧

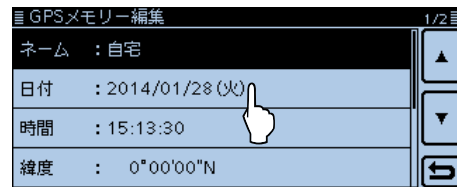
入力モード	入力文字一覧
AB(全角/半角)	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
ab(全角/半角)	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
12(全角/半角)	1234567890
カナ(全角/半角)	アイウエオカクケコサシスセソタチツテト ナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨラリ ルレロワランー
あ漢	あいうえおかきくけこさしすせそたちつてとな にぬねのはひふへほまみむめもやゆよらりる れるわをんー (ひらがな1文字選択後、[変換]で漢字変換)
記号	パソコンのキーボードから入力できる記号は、 すべて入力できます。
区点	JIS区点コードを利用して、文字や記号を 入力できます。

※ ー はスペースです

3. 日付を編集する

⑪ 「日付」をタッチする。

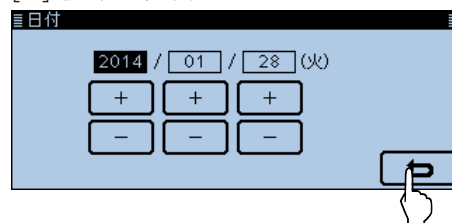
- 編集した日を表示します。



⑫ 変更する数字(年/月/日)の下にある[+]/[-]を繰り返しタッチする。

- 2000/01/02～2099/12/30までを設定できます。

⑬ [⏏]をタッチする。



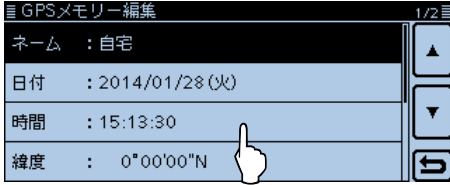
(次のページへ)

8 GPS の操作

■ GPSの機能を活用する(つづき)

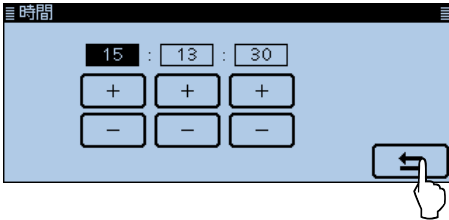
4. 時間を編集する

- ⑭ 「時間」をタッチする。
● 編集した時間を表示します。



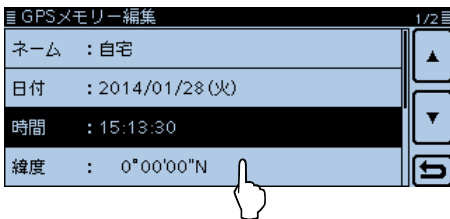
- ⑮ 変更する数字(時/分/秒)の下にある[+]/[-]を繰り返しタッチする。
● 00:00:00～23:59:59までを設定できます。

- ⑯ [↵]をタッチする。



5. 緯度を入力する

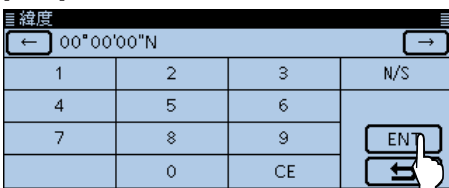
- ⑰ 「緯度」をタッチする。
● 緯度の編集モードに入ります。



- ⑱ 設定したい緯度(度/分/秒)をタッチする。
● 0°00' 00"～90°00' 00"までを設定できます。
※MENU画面内の「表示単位」画面で、「緯度/経度」の単位を「ddd°mm.mm'」(度、分(少数点))に選択した場合は、0°00.00'～90°00.00'までを設定できます。
(ディスプレイ設定 > 表示単位 > 緯度/経度)
- ⑲ [←]/[→]をタッチして、編集する項目(度、分、秒)を選択します。
※[N/S]をタッチするごとに、N(北緯)/S(南緯)を選択できます。

- ⑳ 手順⑱、⑲を繰り返し、緯度を入力します。

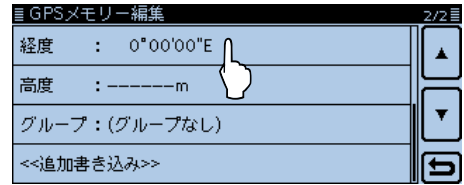
- ㉑ [ENT]をタッチする。



- ㉒ [▼]をタッチして、次のページに切り替えます。

6. 経度を入力する

- ㉓ 「経度」をタッチする。
● 経度の編集モードに入ります。

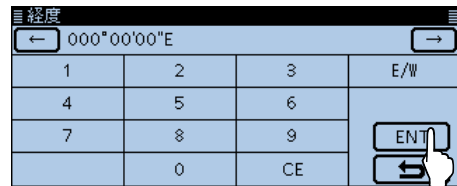


- ㉔ 設定したい経度(度/分/秒)をタッチする。
● 0°00' 00"～180°00' 00"までを設定できます。
※MENU画面内の「表示単位」画面で、「緯度/経度」の単位を「ddd°mm.mm'」(度、分(少数点))に選択した場合は、0°00.00'～180°00.00'までを設定できます。
(ディスプレイ設定 > 表示単位 > 緯度/経度)

- ㉕ [←]/[→]をタッチして、カーソルを移動し、編集する項目(度、分、秒)を選択します。
※[E/W]をタッチするごとに、E(東経)/W(西経)を選択できます。

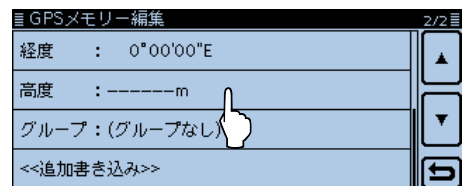
- ㉖ 手順㉔、㉕を繰り返し、経度を入力します。

- ㉗ [ENT]をタッチする。



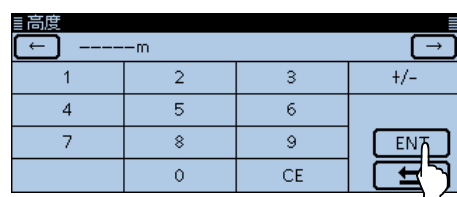
7. 高度を設定する

- ㉘ 「高度」をタッチする。
● 高度の編集モードに入ります。



- ㉙ 高度をタッチする。
● -10,000m～+10,000mまで設定できます。
※[+/-]をタッチするごとに、+/-を選択できます。

- ㉚ [ENT]をタッチする。



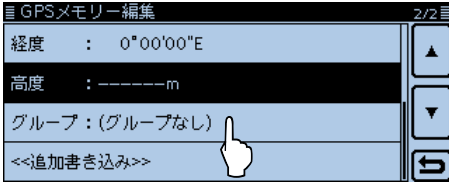
(次のページへ)

8 GPS の操作

■ GPSの機能を活用する(つづき)

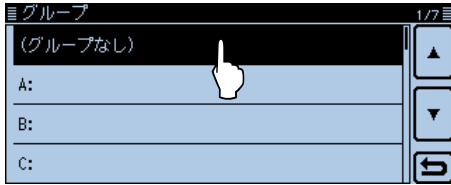
8. グループを設定する

① 「グループ」をタッチする。



② 登録したいグループ(A～Z)、または(グループなし)をタッチする。

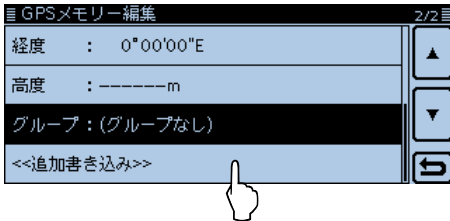
- 1つのグループに最大200件まで割り当てできます。



9. GPSメモリー内容を書き込む

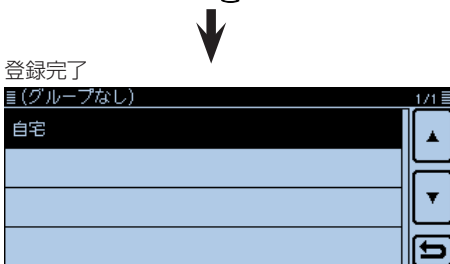
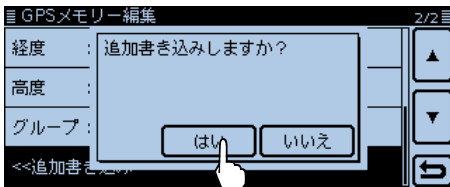
③ 「<<追加書き込み>>」をタッチする。

※すでに登録されたGPSメモリーを編集した場合は、「<<上書き>>」をタッチします。



④ [はい]をタッチする。

- GPSメモリーに追加登録され、選択したグループの画面を表示します。



(例)
自宅を(グループなし)に登録した場合

登録内容を確認したいときは
登録内容を確認したい場合は、確認したいGPSメモリーをタッチすると登録内容が確認できます。

編集を取り消したいときは
編集を取り消したい場合は、[↵]をタッチするとキャンセル確認画面が表示します。
[はい]をタッチすると入力した内容を削除して、編集前のグループの画面に戻ります。

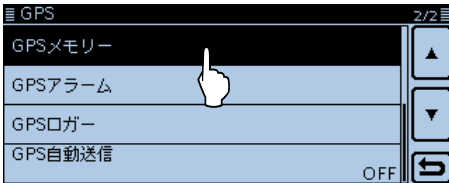
8 GPS の操作

■ GPSの機能を活用する(つづき)

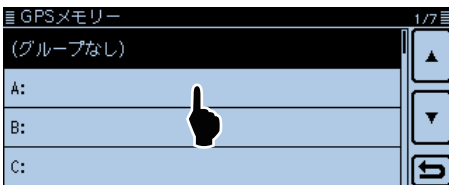
◇ グループ名を登録するには

GPSメモリーを整理するグループの名前を登録できます。

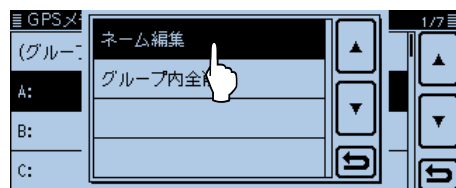
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「GPSメモリー」項目をタッチする。
(GPS > GPSメモリー)



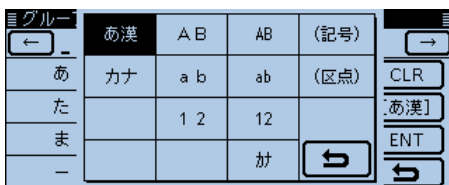
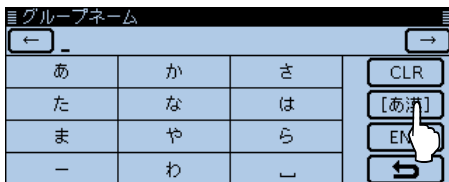
- ③ ネーム登録したいグループを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。



- ④ 「ネーム編集」をタッチする。
 - グループ名の編集モードに入ります。



- ⑤ 入力したい文字がある枠を数回タッチする。
 - 1桁目の文字を選択します。
 - 入力できる文字は、英数字とカタカナ、ひらがな、漢字、および記号です。
 - 入力モードの切り替えは、現在の入力モード ([あ漢]、[[カナ]、[[AB]、[[ab]、[[12]など)をタッチします。



入力モード切り替え画面

※[AB]、[ab]、[12]選択時は、[AB⇔12]、または[ab⇔12]が表示されます。タッチするとアルファベット入力と数字入力が切り替わります。

※アルファベット入力時は、[A/a]が表示されます。タッチするごとに、大文字/小文字が切り替わります。

※アルファベット入力時、[QUICK]をタッチすると、フルキーボード入力を選択できます。

※ひらがな、カタカナ入力時は、[ゝ ° 小]が表示されます。タッチするごとに、(例「は」、「ば」と「ば」)、または(例「っ」と「つ」)が切り替わります。濁音(ば)、半濁音(ぱ)、促音(っ)と拗音(あいうえおやゆよ)が入力できます。

- 漢字を選択したいときは、ひらがなを選択し、[変換]をタッチすると、文字一覧が表示されます。
- [CLR]をタッチすると、選択した文字が削除されます。
- 「_」をタッチすると、スペースが挿入されます。

- ⑥ [←]/[→]をタッチしてカーソルを移動させる。
 - 文字を入力する桁を選択します。
- ⑦ 手順⑤、⑥を繰り返し、全角8文字(半角16文字)以内(スペースを含む)でグループ名を入力します。

- ⑧ [ENT]をタッチする。



(例)自宅周辺を登録した場合

入力モード切り替えで選択できる文字一覧

入力モード	入力文字一覧
AB(全角/半角)	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
ab(全角/半角)	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
12(全角/半角)	1234567890
カナ(全角/半角)	アイウエオカキクケコサシスセソタチツテト ナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨラリ ルレロワラン
あ漢	あいうえおかきくけこさしすせそたちつととな にぬねのはひふへほまみむめもやゆよりる れるわをん (ひらがな1文字選択後、[変換]で漢字変換)
記号	パソコンのキーボードから入力できる記号は、すべて入力できます。
区点	JIS区点コードを利用して、文字や記号を入力できます。

※ | はスペースです

8 GPS の操作

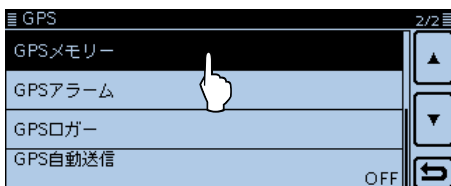
■ GPSの機能を活用する(つづき)

◇ GPSメモリーを削除する

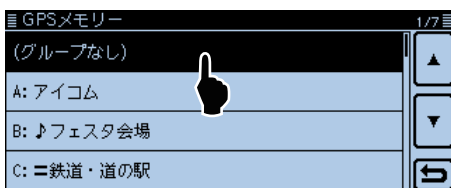
不要になったGPSメモリーを削除します。
いったん削除したGPSメモリーは、復活できませんのでご注意ください。
削除方法は、グループ内の全メモリー、または特定のチャンネルと2とおりあります。

《例》特定グループ内のGPSメモリーをすべて削除する

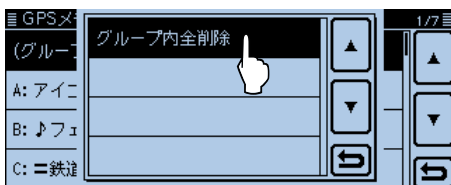
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「GPSメモリー」項目をタッチする。
(GPS > GPSメモリー)



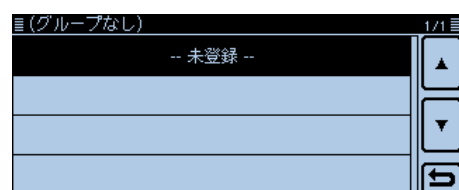
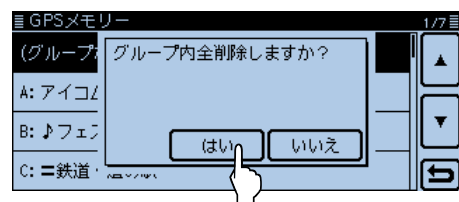
- ③ 削除したいグループを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。



- ④ 「グループ内全削除」をタッチする。



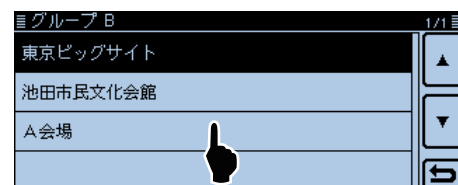
- ⑤ [はい]をタッチする。
 - 選択したグループ内のGPSメモリーがすべて削除され、「GPSメモリー」画面に戻ります。



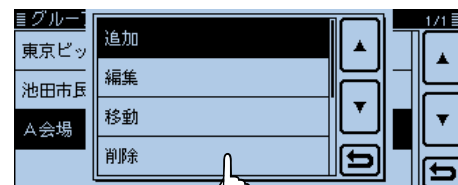
グループ内のチャンネルをすべて削除し、削除したグループをタッチすると、「--未登録--」が表示されます

特定のGPSメモリーチャンネルを削除する

特定のGPSメモリーチャンネルを削除できます。
下図のように特定のチャンネルを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチ、「削除」をタッチすると、選択したGPSメモリーチャンネルを削除します。



特定のGPSメモリーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチ



「削除」をタッチ

8 GPS の操作

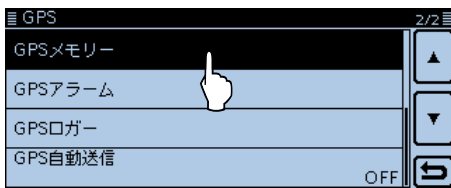
■ GPSの機能を活用する(つづき)

◇ GPSメモリーを移動する

グループの中でGPSメモリーが表示される順番を並べ替え
できます。

※グループを越えて移動させたい場合は、編集して、移動さ
せたいグループを選択し、上書き保存してください。

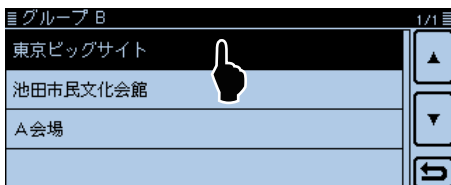
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「GPSメモリー」項目をタッチする。
(GPS > GPSメモリー)



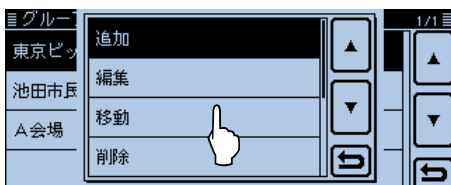
- ③ 移動したいGPSメモリーが入っているグループをタ
ッチする。



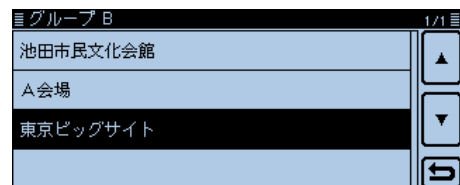
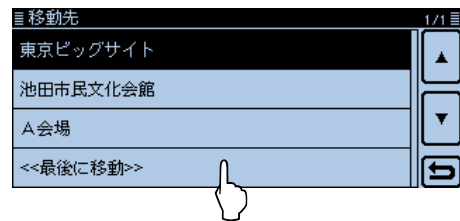
- ④ 移動させたいGPSメモリーを長く(ピッピと鳴るま
で)タッチする。



- ⑤ 「移動」をタッチする。
 - 画面左上で、「移動先」が点滅します。



- ⑥ 移動先をタッチする。
 - 選択したGPSメモリーの1つ上に移動します。
 - 「<<最後に移動>>」をタッチすると、そのグループの一
番下に移動します。



移動完了

8 GPS の操作

■ GPSの機能を活用する(つづき)

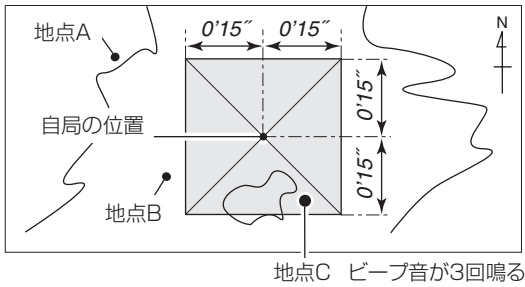
◇ GPSアラームを設定する

GPSアラームは、GPSアラームの対象にした局が設定した範囲に入ったときにアラームを鳴らす機能です。

GPSアラーム機能を設定できるのは、**受信**(受信した相手局)、**全メモリー**、**グループ**、または**特定のGPSメモリーチャンネル**のいずれか1つです。

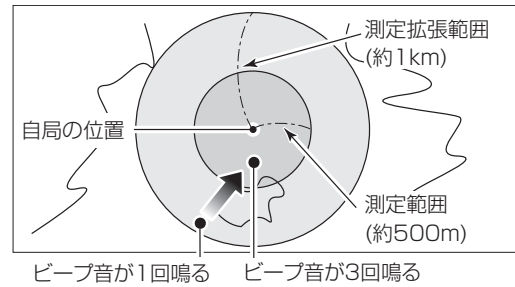
アラームエリア(グループ) (複数の局をアラームに設定)

全メモリーまたはグループを選択した場合



アラームエリア(受信/メモリー) (特定の局をアラームに設定)

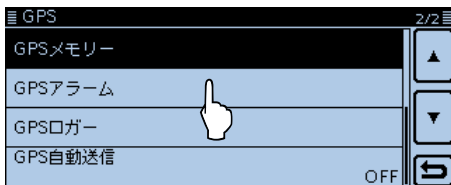
受信または特定のメモリーを選択した場合



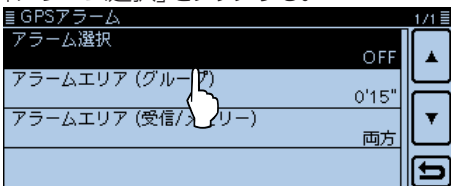
《例:アラームエリア(グループ)》

すべてのGPSメモリーにアラームを設定する

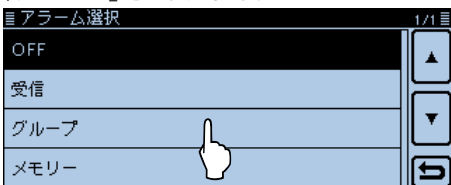
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「GPSアラーム」項目をタッチする。
(GPS > GPSアラーム)



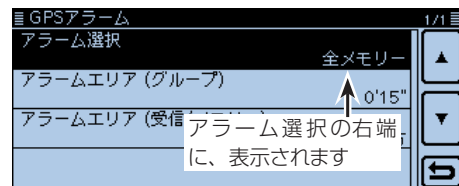
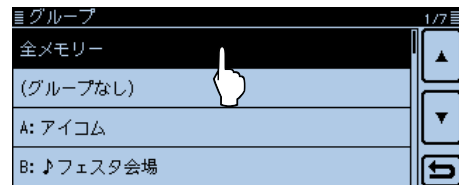
- ③ 「アラーム選択」をタッチする。



- ④ 「グループ」をタッチする。

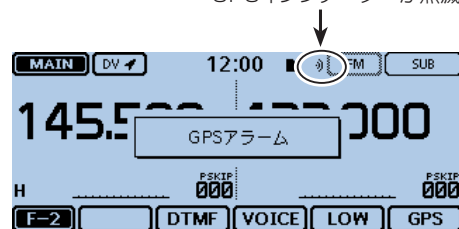


- ⑤ 「全メモリー」をタッチする。
● GPSメモリーグループにアラームを設定したい場合は、「(グループなし)」,または「A」~「Z」から選択します。



- ⑥ [MENU]をタッチする。
● MENU画面を解除し、画面上に「(・)」表示が点灯します。
● 指定したグループの中にあるいずれかの局が設定した範囲内に入ると、ビープ音が3回鳴ります。
● GPSアラームを解除するには、再度手順④の操作で「OFF」を選択します。
● GPSアラームが鳴ると、画面に「GPSアラーム」のポップアップが表示され、「(・)」表示が点滅します。

GPSインジケータが点滅



ポップアップが表示して
ビープ音が3回鳴ります

ご参考

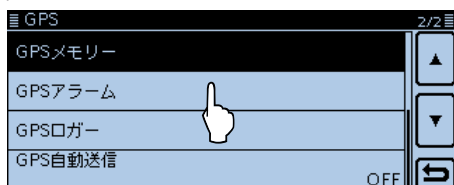
全メモリー、(グループなし)、またはA~Z(メモリーグループ)を選択した場合は、MENU画面内の「アラームエリア(グループ)」画面の設定(☞P12-28)により、GPSアラームが機能します。
(GPS > GPSアラーム > アラームエリア(グループ))

8 GPS の操作

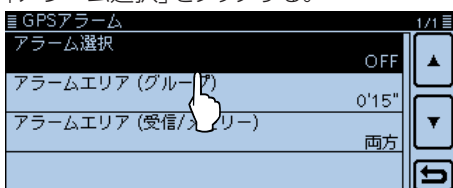
■ GPSの機能を活用する(つづき)

《例:アラームエリア(受信/メモリー)》 受信した相手局にアラームを設定する

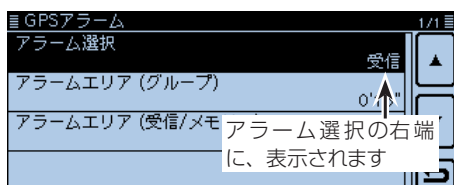
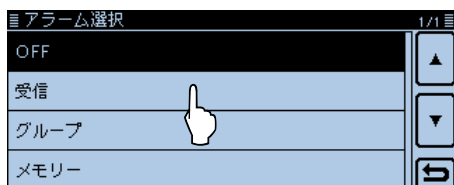
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「GPSアラーム」項目をタッチする。
(GPS > GPSアラーム)



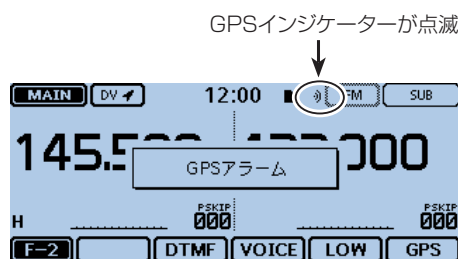
- ③ 「アラーム選択」をタッチする。



- ④ 「受信」をタッチする。
 - 特定のGPSメモリーチャンネルにアラームを設定したい場合は、「メモリー」をタッチして、「(グループなし)」,または「A～Z」のグループの中から特定のチャンネルを選択します。



- ⑥ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面を解除し、画面上に「(·)」表示が点灯します。
 - GPSアラームを解除するには、再度手順④の操作で「OFF」を選択します。
 - GPSアラームを設定した局が半径約1km圏内に入るとビーブ音を1回鳴らし、半径約500m圏内に入るとビーブ音を3回鳴らします。(初期設定「両方」の動作)
 - GPSアラームが鳴ると、画面に「GPSアラーム」のポップアップが表示され、「(·)」表示が点滅します。
 - GPSアラームを解除するには、再度手順④の操作で「OFF」を選択します。



ポップアップが表示
設定範囲によってビーブ音が鳴ります

ご参考

「受信」(相手局)、または特定のGPSメモリーチャンネルを選択した場合は、MENU画面内の「アラームエリア(受信/メモリー)」画面の設定(※P12-29)により、GPSアラームが機能します。
(GPS > GPSアラーム > アラームエリア(受信/メモリー))

ご注意

「受信」設定時、受信した相手局に位置情報が含まれているときだけ、GPSアラームが動作します。

8 GPS の操作

■ GPSロガー機能の使いかた

GPSロガー機能とは、GPSで受信した位置情報をログとして記録する機能です。

緯度/経度/高度/測位状態/進行方向/速度/日時を記録できます。

ドライブ時など、ログ情報をパソコンに取り込み、市販の地図ソフトウェアを使って移動したルートを確認することもできます。

◇ GPSロガーの使用手順

GPSロガーを使用するには、下記の手順で設定してご使用ください。詳細な設定方法については、以降の項目をご覧ください。

1. 市販のSDカードを取り付ける
2. GPSが受信できているか確認する (P8-2)
3. GPSロガーをONに設定する

↓
設定完了(GPSロガーを開始します)

◇ GPSロガーをONに設定する

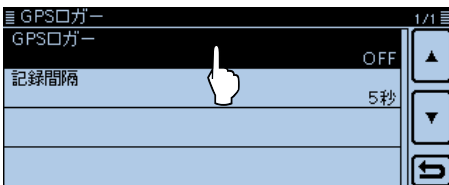
GPSから受信した情報を記録するかしないかを設定します。**[ON]**に設定すると、記録間隔ごとにGPSで受信した情報を、SDカードに記録します。

※記録するGPSセンテンスは、GGA、RMC、GSA、VTGの4種類です。

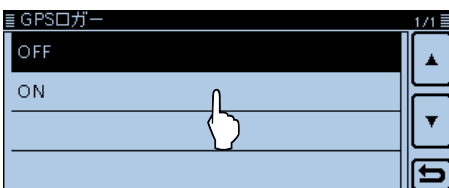
- ① **[MENU]**をタッチする。
- ② 「GPSロガー」項目をタッチする。
(GPS > GPSロガー)



- ② 「GPSロガー」(GPSロガー機能のON/OFF)項目をタッチする。



- ③ **[ON]**をタッチする。



- ④ **[MENU]**をタッチする。
 - MENU画面を解除します。
 - GPSロガーを開始します。

ご注意

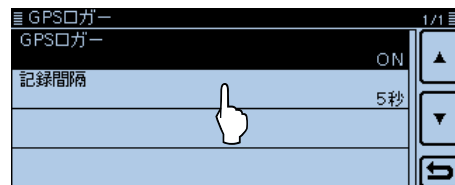
- GPSロガーを使用する場合は、市販のSDカードを取り付けている必要があります。
- 一度GPSロガー機能をONにすると、GPSロガー機能をOFFにしないかぎり、電源を入れなおしてもログを取りつづけます。
電源をOFFするとログファイルを閉じ、電源を入れなおしてGPSを受信すると新しいファイルを作成します。
- SDカードの空き容量がなくなった場合は、自動的にGPSロガー機能を一時停止します。

◇ 記録間隔を設定する

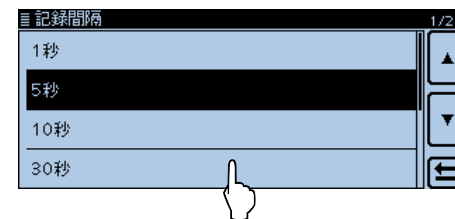
GPSロガーの記録間隔を設定します。

記録間隔を短く設定すると、徒歩の場合など、同じような位置を記録することになるので、移動手段にあわせて記録間隔を設定してください。

- ① **[MENU]**をタッチする。
- ② 「記録間隔」項目をタッチする。
(GPS > GPSロガー > 記録間隔)



- ③ 設定したい記録間隔をタッチする。(初期設定値:5秒)
 - 1秒/5秒/10秒/30秒/60秒の中から選択します。



- ④ **[MENU]**をタッチする。
 - MENU画面を解除します。

8 GPS の操作

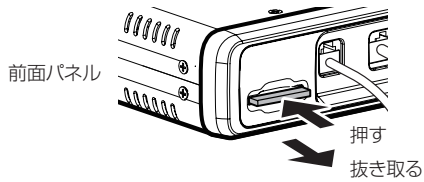
■ GPSロガー機能の使いかた(つづき)

◇ ログ情報をパソコンで確認する

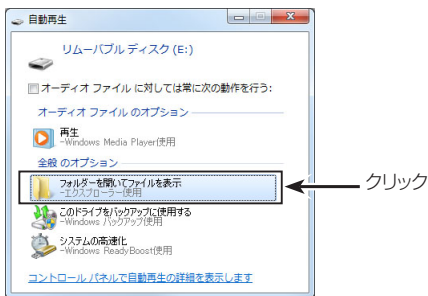
ログ情報をパソコンに取り込んで確認できます。

※Window 7を例に説明します。

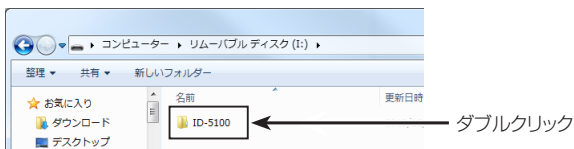
- ① [C]を長く押して、本製品の電源を「OFF」にします。
- ② SDカードを「カチッ」とロックが解除されるまで押し込んでから、SDカードを引き抜いてください。
※このとき、SDカードの端子面に触れないでください。
※本製品の電源を入れた状態でSDカードを取りはずすときは、アンマウント処理をしてください。(P9-4)



- ③ SDカードをパソコンに接続します。
 - お使いのパソコンにあわせて、SDカードを読み込むために市販のメモリーカードリーダーを別途ご用意ください。
- ④ パソコンに接続すると、下のような画面が表示され、「フォルダーを開いてファイルを表示」をクリックします。
 - 保存したID-5100のフォルダーが表示されます。

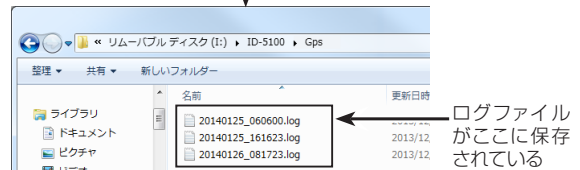
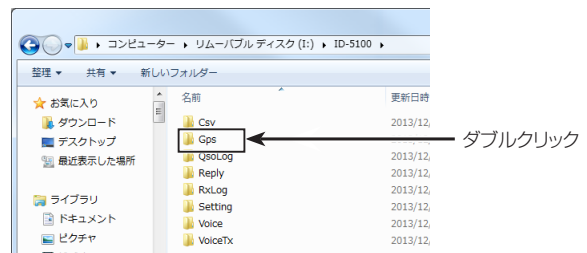


- ⑤ [ID-5100]をクリックします。
 - 用途ごとにわかれて保存されたフォルダーが表示されます。



- ⑥ 「Gps」をクリックします。

- 保存したログ情報がファイルごとに表示されます。
- ファイル名は、ログを開始した年(y)、月(m)、日(d)、時(h)、分(m)、秒(s)の順に「yyyymmdd_hhmmss.log」となります。
- 選択したログ情報を市販の地図ソフトウェアにインポートすると、ログ情報を地図上で確認できます。
※一部対応していない地図ソフトウェアがあります。



8 GPS の操作

■ GPSロガー機能の使いかた(つづき)

ご参考

GPSロガーに記録されるNMEAセンテンスについて

本製品のGPSロガーに記録される各センテンスは、NMEA規格に対応した以下のようなフォーマットになっています。

◇GGAセンテンス

(例) \$GPGGA,161229.487,3723.2475,N,12158.3416,W,1.07,1.0,9.0,M,25.5,M,3.0000*18<CR><LF>

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫

- | | |
|---|--------------------------------------|
| ① GGAプロトコルヘッダー (\$GPGGA) | ⑦ 水平精度低下率 (1.0) 表示範囲=0.0~50.0 |
| ② 測位時のUTC時刻 (16時12分29.487秒) | ⑧ 平均海面高度 (9.0M) |
| ③ 緯度 (北緯 37度23.2475分) N=北緯、S=南緯 | ⑨ ジオイド差 (25.5M) |
| ④ 経度 (西経 121度58.3416分) E=東経、W=西経 | ⑩ DGPS補正暦 (3秒) |
| ⑤ GPSクオリティ (1) 0=測位不能、1=SPSポジション、
2=DGPS (SPS)、6=推測 (DR) | ⑪ チェックサム (*18) *から始まる誤り検出用データ (16進数) |
| ⑥ 追尾衛星数 (7個) 表示範囲=00~12 | ⑫ センテンスの終了コード
※空白は、測位不能時を示す。 |

◇RMCセンテンス

(例) \$GPRMC,161229.487,A,3723.2475,N,12158.3416,W,0.13,309.62,120511,..,D*10<CR><LF>

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪

- | | |
|---|---|
| ① RMCプロトコルヘッダー (\$GPRMC) | ⑧ 測位時のUTC日付 (11年5月12日) |
| ② 測位時のUTC時刻 (16時12分29.487秒) | ⑨ ナビゲーションモード (D)
A=単独測位、D=DGPS、E=推測 (DR)、
N=無効/測位不能、R=概略位置 (アルマナック データ) |
| ③ 測位状態 (A) A=有効、V=無効/測位不能 | ⑩ チェックサム (*10) *から始まる誤り検出用データ (16進数) |
| ④ 緯度 (北緯 37度23.2475分) N=北緯、S=南緯 | ⑪ センテンスの終了コード
※空白は、測位不能時を示す。 |
| ⑤ 経度 (西経 121度58.3416分) E=東経、W=西経 | |
| ⑥ 対地速度 (0.13ノット) | |
| ⑦ 進行方位 (真北を基準に、309.62度)
表示範囲=0.00度~359.99度 | |

◇GSAセンテンス

(例) \$GPGSA,A,3,07.02,26.27.09.04,.....,15,1.8,1.0,1.5*33<CR><LF>

① ②③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- | | |
|--|--------------------------------------|
| ① GSAプロトコルヘッダー (\$GPGSA) | ⑤ 位置精度低下率 (1.8) 表示範囲=0.0~50.0 |
| ② 測位モード1 (A) A=オート (2D/3Dを自動切り替え)、
M=マニュアル (2Dまたは3Dに固定) | ⑥ 水平精度低下率 (1.0) 表示範囲=0.0~50.0 |
| ③ 測位モード2 (3) 1=測位不能、
2=2D測位 (追尾衛星数 3衛星以下)
3=3D測位 (追尾衛星数 4衛星以上) | ⑦ 垂直精度低下率 (1.5) 表示範囲=0.0~50.0 |
| ④ 追尾衛星番号1~12 (07,02,26,27,09,04,.....,15)
範囲=01~32
※チャンネル1~チャンネル12の衛星番号は、左から順に、
07,02,26,27,09,04,.....,15で、13衛星以上の場合
も12番目までの衛星番号が出力されます。 | ⑧ チェックサム (*33) *から始まる誤り検出用データ (16進数) |
| | ⑨ センテンスの終了コード
※空白は、測位不能時を示す。 |

◇VTGセンテンス

(例) \$GPVTG,309.62,T,M,0.13,N,0.2,K,A*03<CR><LF>

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

- | | |
|---|---|
| ① VTGプロトコルヘッダー (\$GPVTG) | ⑥ ナビゲーションモード (A)
A=単独測位、D=DGPS、E=推測 (DR)、
N=無効/測位不能、R=概略位置 (アルマナック データ) |
| ② 進行方位 (真北を基準に、309.62度)
表示範囲=0.00度~359.99度 | ⑦ チェックサム (*03) *から始まる誤り検出用データ (16進数) |
| ③ 方位基準 (M) M=磁北 | ⑧ センテンスの終了コード
※空白は、測位不能時を示す。 |
| ④ 対地速度 (0.13ノット) | |
| ⑤ 対地速度 (0.2km/hr) | |

8 GPS の操作

■ GPS自動送信

GPS自動送信を設定すると、設定した時間ごとに、GPSからの位置情報やD-PRSのデータを送信します。

※自局のコールサインを設定していない場合は、GPS自動送信は機能しませんのでご注意ください。

※GPS送信モードを「NMEA」に設定して送信する場合は、必ず「GPS選択」(P12-16)を「内蔵GPS」に設定してください。

「OFF」、または「マニュアル」に設定すると、GPS自動送信は無効になります。

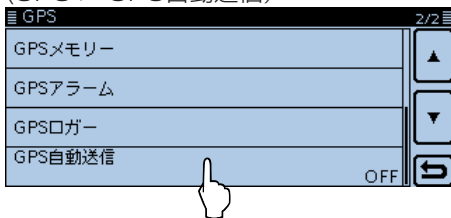
(GPS > GPS設定 > GPS選択)

◇ GPS自動送信の設定

① [MENU]をタッチする。

② 「GPS自動送信」項目をタッチする。

(GPS > GPS自動送信)

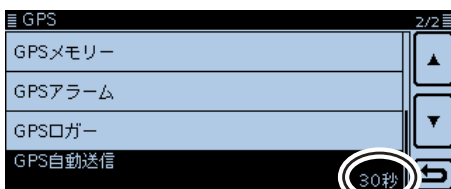
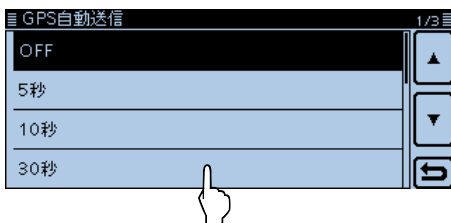


③自動的に送出するGPS自動送信時間をタッチする。

- 本製品で設定できるGPS自動送信時間は、OFF/5秒/10秒/30秒/1分/3分/5分/10分/30分です。

※OFFに設定した場合は、自動送出しません。

※GPSセンテンスを4種類選択した場合は、「5秒」を選択できません。



設定した時間が表示

④ [MENU]をタッチする。

- MENU画面を解除します。

ご注意

GPS自動送信をする場合は、シンプレックスでご使用ください。

レピータを経由して送信すると、他局の交信の妨げになることがあります。他局に混信や妨害を与えないようご注意ください。

■ SDカードについて	9-2
■ SDカードに保存できるデータについて	9-2
■ SDカードの取り付けについて	9-3
◇SDカードを取り付けるとき	9-3
◇新しいSDカードを取り付けるとき	9-3
■ SDカードの取りはずしについて	9-4
◇SDカードを取りはずすとき	9-4
◇電源を入れた状態でSDカードを取りはずすとき	9-4
■ 設定データをSDカードに保存するには	9-5
■ 設定ファイル名を変更して保存するには	9-6
■ SDカードに保存した設定データを本製品に読み込ませるには	9-7
■ SDカードのデータをパソコンにバックアップする	9-8
◇SDカードの階層について	9-8
◇パソコンにデータをバックアップする	9-9
■ CSVファイルをインポート/エクスポートするには	9-10
◇インポートのしかた	9-10
◇エクスポートのしかた	9-11

9 SDカードの使いかた

■ SDカードについて

SDカード、SDHCカードは本製品に付属されていません。
市販品をお買い求めください。

本製品では、2GBまでのSDカード、および32GBまでのSDHCカードをお使いいただけます。

当社の基準で動作を確認しているSDカード、SDHCカードは、下表のとおりです。

(2014年2月現在)

メーカー名	カードの種類	容量
SanDisk®	SD	2GB
	SDHC	4GB
		8GB
		16GB
		32GB

※上の表は、すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

※以降、SDカード、SDHCカードは、SDカードと記載します。

※SDカードの性能を発揮させるために、本製品で初期化してご使用いただくことをおすすめします。(※P9-3)

ご参考

ご購入時の設定状態をSDカードに保存しておくことをおすすめします。

保存するときは、SDカードを本製品に装着し、[MENU]をタッチして、「SDカード」項目→「設定セーブ」項目の順にタッチしてください。

ご注意

- ◎ SDカードをお使いの前に、SDカードの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- ◎ 下記の操作をすると、SDカードのデータ破損や消失の原因になります。
 - データの書き込み中、読み込み中、音声の録音中、再生中に、SDカードを取りはずしたとき
 - データの書き込み中、読み込み中、音声の録音中、再生中に、外部電源の電圧を変動させたとき
 - モバイル運用時、データの書き込み中、読み込み中、音声の録音中、再生中に、エンジンを始動させたとき
 - SDカードを落下させたり、振動や衝撃を与えたりしたとき
- ◎ 取り扱うときは、SDカードの端子面に触れないようにしてください。
- ◎ 使用するSDカードの容量が大きくなるほど、認識する時間が長くなります。
- ◎ 本製品を長時間お使いになると、SDカードが温くなる場合がありますが、故障ではありません。
- ◎ SDカードには寿命があり、長期間使用すると書き込みや消去などができなくなる場合があります。書き込みや消去などができなくなったときは寿命ですので、新しいSDカードをご購入ください。重要なデータなどは、パソコンなどにバックアップすることをおすすめします。
- ◎ SDカードのデータ破損による損害については、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■ SDカードに保存できるデータについて

保存できるデータは次のとおりです。

◎ メモリーなどの設定データ

本製品に登録したメモリーデータ、レピータリストなどを保存できます。

◎ 交信内容

相手局との交信内容(音声)を保存できます。

◎ 交信受信履歴ログ

交信や受信履歴情報をログファイルに保存できます。

◎ DVモードでの自動応答用音声

DVモードでの、自動応答用音声を保存できます。

◎ ボイス送信用の音声

コンテストなどに使用するボイス送信用に録音した音声を保存できます。

◎ GPSで受信した位置情報

GPSで受信した位置情報を軌跡として、ログファイルに保存できます。

9 SDカードの使いかた

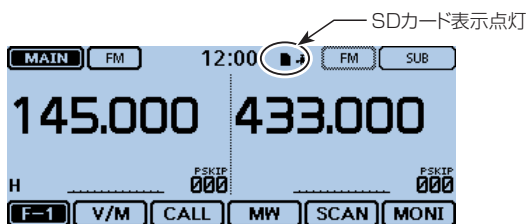
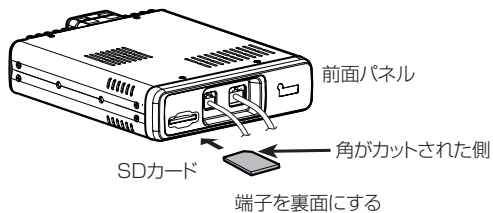
■ SDカードの取り付けについて

◇ SDカードを取り付けるとき

- ① 本製品の電源をOFFにする。
- ② SDカードをSDカードスロットに「カチッ」と音が鳴るまで押し込む。
 - 挿入すると、SDカード表示が点灯します。
※データの読み込みや書き込み中は、「■」と「□」が交互に点滅します。

ご注意

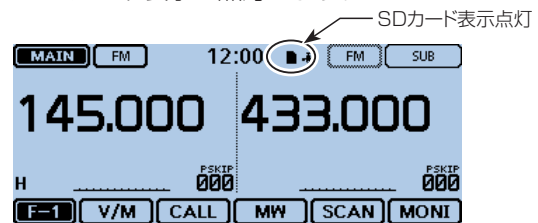
SDカードを取り付ける前に正しい挿入方向を確認してください。
間違った挿入方向で無理やり挿入すると、SDカードやカードスロットが破損する原因になることがあります。



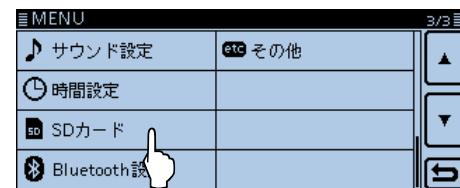
◇ 新しいSDカードを取り付けるとき

新しいSDカードをお使いになるときや、ほかの機器で使用したSDカードを本製品で使用する場合は、下記の手順でSDカードを初期化(フォーマット)してください。
※初期化すると、SDカード内のすべてのデータが消去されます。

- ① 本製品の電源を切り、SDカードを取り付ける。
- ② 本製品の電源を入れる。
 - SDカード表示が点灯します。



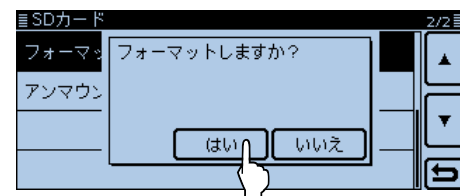
- ③ [MENU]をタッチする。
- ④ 「SDカード」項目をタッチする。
 - [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページに切り替えます。



- ⑤ 「フォーマット」項目をタッチする。
 - 「フォーマットしますか?」画面が表示されます。



- ⑥ [はい]をタッチする。
 - フォーマットを開始し、フォーマットの進行状況が表示されます。
 - フォーマット完了後は、[はい]をタッチする前の画面に戻ります。

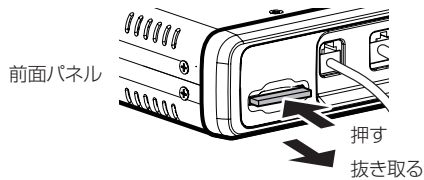


9 SDカードの使いかた

■ SDカードの取りはずしについて

◇ SDカードを取りはずすとき

- ① 本製品の電源をOFFにする。
- ② SDカードを押し込むと、「カチッ」と音が鳴り、ロックが解除されますので、SDカードが抜き取れます。

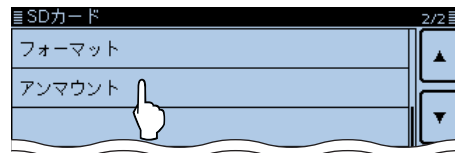


◇ 電源を入れた状態でSDカードを取りはずすとき

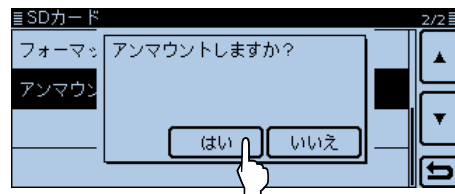
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「SDカード」項目をタッチする。
 - [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページに切り替えます。



- ③ 「アンマウント」項目をタッチする。
 - 「アンマウントしますか?」画面が表示されます。



- ④ [はい]をタッチする。
 - アンマウント完了後は、「アンマウントが完了しました。」の画面が表示されてからタッチする前の画面に戻ります。



- ⑤ SDカードを「カチッ」とロックが解除されるまで押し込んでから、SDカードを引き抜いてください。

9 SDカードの使いかた

■ 設定データをSDカードに保存するには

本製品に設定したメモリーチャンネル、MEMU画面内の各設定項目、レピータリストなどをSDカードに保存できます。

設定データをSDカードに保存しておく、本製品をリセットして設定を初期化したときなどに、もとの運用状態に戻せるので便利です。

ご参考

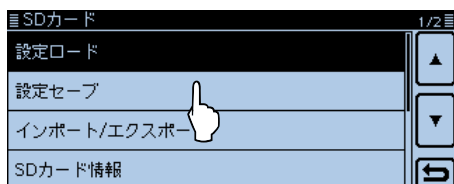
設定データは、クローニングソフトウェア(CS-5100)で使用しているファイル形式(ICFファイル)でSDカードに保存されます。

SDカードに保存した設定データをパソコンに取り込んで、クローニングソフトウェアで編集することもできます。

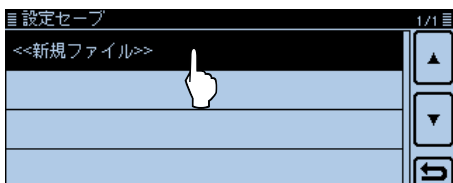
設定データは、新規ファイルに保存するか、すでに作成したファイルに上書き保存ができます。

【新規ファイルに保存する場合】

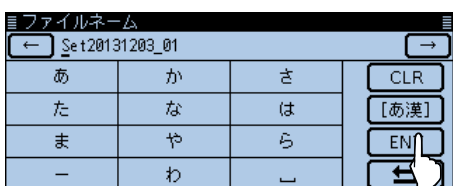
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「設定セーブ」項目をタッチする。
(SDカード > 設定セーブ)
 - 「設定セーブ」画面が表示されます。
 - [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページに切り替えます。



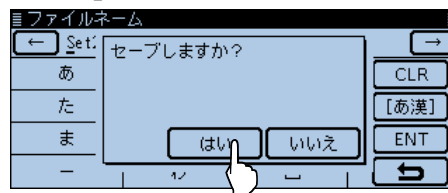
- ③ 「<<新規ファイル>>」項目をタッチする。
 - 「ファイルネーム」画面が表示されます。
 - ファイル名は、Setにつづいて、作成する年(y)、月(m)、日(d)、作成番号の順に「Setyyyyymmdd_作成番号」となります。
 - ファイル名を変更する場合は、「設定ファイル名を変更して保存するには」をご覧ください。(P9-6)



- ④ [ENT]をタッチする。
 - 「セーブしますか?」画面が表示されます。



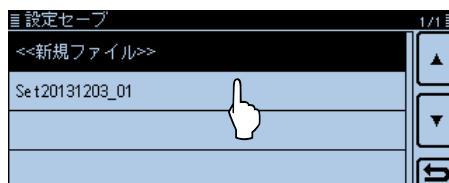
- ⑤ [はい]をタッチする。
 - 設定データを保存します。
 - 保存中、進行状況が表示され、保存が完了すると、「SDカード」画面が表示されます。



- ⑥ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面を解除します。

【上書き保存する場合】

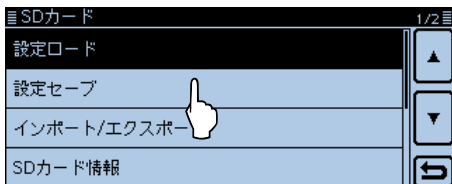
すでに作成したファイルに設定データを上書き保存する場合は、上記の手順③で、上書きしたいファイルを選択します。



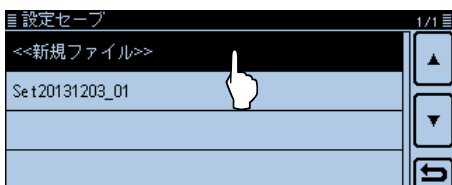
9 SDカードの使いかた

■ 設定ファイル名を変更して保存するには

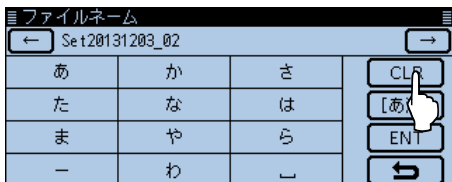
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「設定セーブ」項目をタッチする。
(SDカード > 設定セーブ)
 - 「設定セーブ」画面が表示されます。
 - [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページに切り替えます。



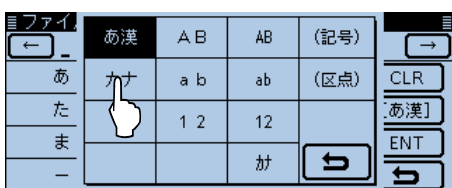
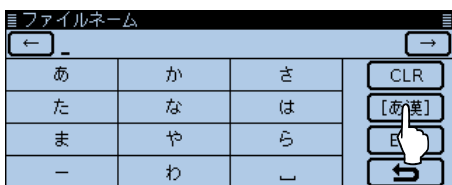
- ③ 「<新規ファイル>」項目をタッチする。
 - 「ファイルネーム」画面が表示されます。



- ④ [CLR]をタッチする。
 - 選択した文字を削除します。
カーソルが行端(右端)にあるときは、左隣りの文字を削除します。
また、[CLR]をタッチしつづけると、連続して削除できます。



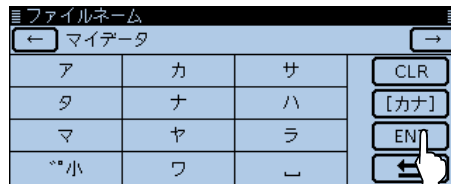
- ⑤ 入力したい文字がある枠を数回タッチする。
 - 1桁目の文字を選択します。
 - 入力できる文字は、英数字とカタカナ、ひらがな、漢字、および記号です。
 - 入力モードの切り替えは、現在の入力モード([あ漢]、[カナ]、[AB]、[ab]、[12]など)をタッチします。



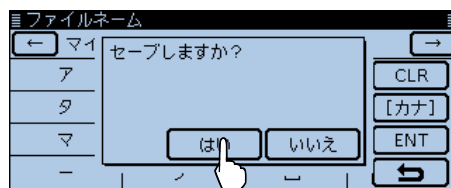
カタカナ入力を選択する場合「カナ」をタッチする

※[AB]、[ab]、[12]選択時は、[AB⇄12]、または[ab⇄12]が表示されます。タッチするとアルファベット入力と数字入力が切り替わります。
※アルファベット入力時は、[A/a]が表示されます。タッチするごとに、大文字/小文字が切り替わります。
※アルファベット入力時、[QUICK]をタッチすると、フルキーボード入力を選択できます。
※ひらがな、カタカナ入力時は、[` ° 小]が表示されます。タッチするごとに、(例「は」、「ば」と「ぱ」)、または(例「っ」と「つ」)が切り替わります。濁音(ば)、半濁音(ぱ)、促音(っ)と拗音(あいうえおやゆよ)が入力できます。

- 漢字を選択したいときは、ひらがなを選択し、[変換]をタッチすると、文字一覧が表示されます。
 - [CLR]をタッチすると、選択した文字が削除されます。
 - []をタッチすると、スペースが挿入されます。
- ⑥ [←]/[→]をタッチしてカーソルを移動させる。
 - 文字を入力する桁を選択します。
 - ⑦ 手順⑤、⑥を繰り返し、全角10文字(半角20文字)以内(スペースを含む)で設定ファイル名を入力します。(入力例：マイデータ)
 - ⑧ 設定ファイル名を入力したら、[ENT]をタッチする。
 - ファイル名を決定し、「セーブしますか?」画面が表示されます。



- ⑨ [はい]をタッチする。
 - 設定データを保存します。
 - 保存中、進行状況が表示され、保存が完了すると、「SDカード」画面が表示されます。



- ⑩ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面を解除します。

9 SDカードの使いかた

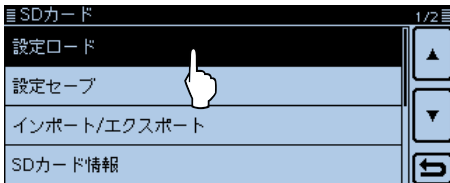
■ SDカードに保存した設定データを本製品に読み込ませるには

SDカードに保存したメモリーチャンネル、MENU画面内の各設定項目、レピータリストなどを本製品に設定できます。メモリーチャンネルやレピータリストなどを、ほかのID-5100にコピーして運用するときなどに便利な機能です。

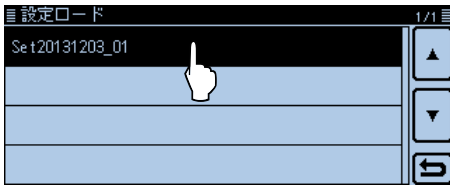
設定データを本製品に読み込ませる前に、現在の設定データをSDカードに保存しておくことをおすすめします。

(例：Set20131203_01のすべての設定データを読み込む場合)

- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「設定ロード」項目をタッチする。
(SDカード > 設定ロード)
 - 「設定ロード」画面が表示されます。
 - [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページに切り替えます。

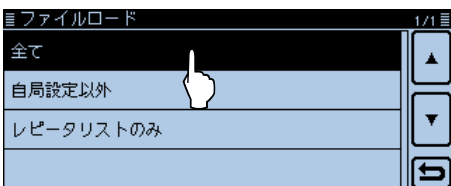


- ③ 本製品に読み込む設定データをタッチする。
 - 「ファイルロード」画面が表示されます。



- ④ 読み込む内容を、下記からタッチして選択する。

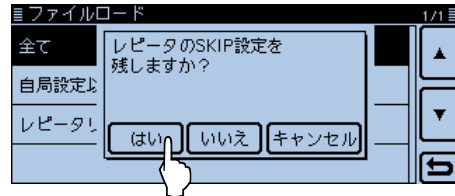
- **全て：**
メモリーチャンネル、MENU画面内の各設定項目、レピータリストを本製品に読み込ませます。
- **自局設定以外：**
「自局設定」項目の自局コールサインと送信メッセージ以外の内容を、本製品に読み込みます。
友人などからデータをもらうときに、自局の設定はそのままにしておきたいときに選択します。
- **レピータリストのみ：**
レピータリストだけを本製品に読み込ませます。



レピータリストを更新したい場合は、こちらをクリック

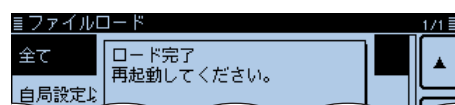
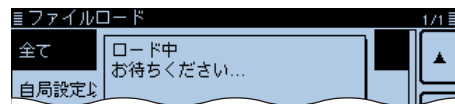
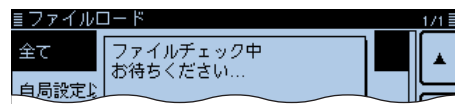
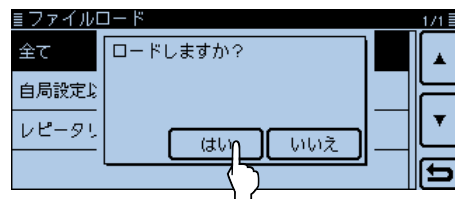
- ⑤ 「レピータのSKIP設定を残しますか?」画面を表示したら、[はい]、[いいえ]、または[キャンセル]をタッチする。

- [はい]を選択すると、レピータリストのスキップ設定(※P7-28)が保持されます。
- [キャンセル]を選択すると、手順③の画面に戻ります。
- [はい]、または [いいえ] を選択すると、「ロードしますか?」画面が表示されます。



- ⑥ [はい]をタッチする。

- ファイルチェックを開始します。
- ファイルチェック中、「ファイルチェック中」画面を表示し、進行状況が表示されます。
- ファイルチェック後、設定データの読み込みを開始します。
- 読み込み中、「ロード中」画面で、進行状況が表示されます。
- 読み込みが完了すると、「ロード完了」画面が表示されます。



- ⑦ 電源を入れなおす。

- 読み込んだデータを有効にするため、電源を入れなおしてください。

9 SDカードの使いかた

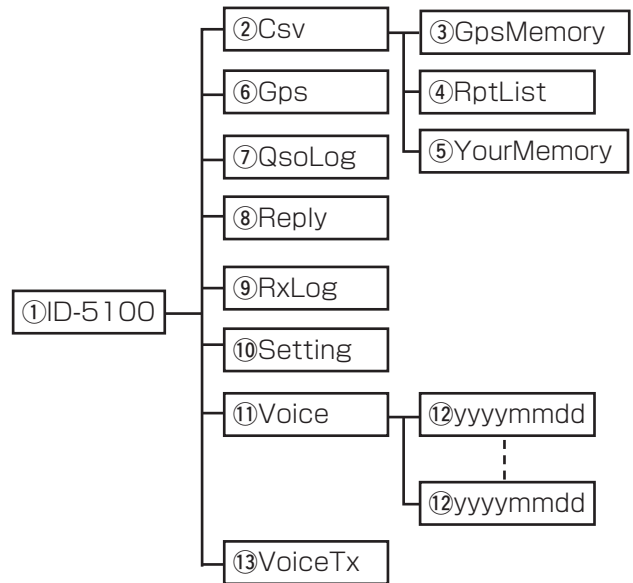
■ SDカードのデータをパソコンにバックアップする

SDカードに保存したデータを、パソコンにバックアップしておく、誤ってSDカード内のデータを削除したときでもデータを復元できます。

お使いになるパソコンにあわせて、SDカードを読み込むためのメモリーカードリーダー(市販品)などを別途ご用意ください。

◇ SDカードの階層について

SDカードの階層は右図のようになっています。



①ID-5100フォルダー

本製品で作成されるフォルダーは、すべてID-5100フォルダー内に作成されます。

②Csvフォルダー

レピータリストと、相手局コールサインとGPSメモリーのインポートデータフォルダが格納されます。

③GpsMemoryフォルダー

GPSメモリーのインポート用データ(csvファイル)を格納するためのフォルダです。

④RptListフォルダー

レピータリストのインポート用データ(csvファイル)を格納するためのフォルダです。

⑤YourMemoryフォルダー

相手局コールサインとネームのインポート用データ(csvファイル)を格納するためのフォルダです。

⑥Gpsフォルダー

GPSロガーデータ(logファイル)が格納されます。

⑦QsoLogフォルダー

交信ログデータ(csvファイル)が格納されます。

⑧Replyフォルダー

DV自動応答データ(wavファイル)が格納されます。

⑨RxLogフォルダー

受信履歴ログデータ(csvファイル)が格納されます。

⑩Settingフォルダー

本製品の設定データ(icfファイル)が格納されます。

⑪Voiceフォルダー

録音した交信内容が格納されます。
Voiceフォルダー内に録音した年月日フォルダーが作成されます。

⑫yyyyymmddフォルダー

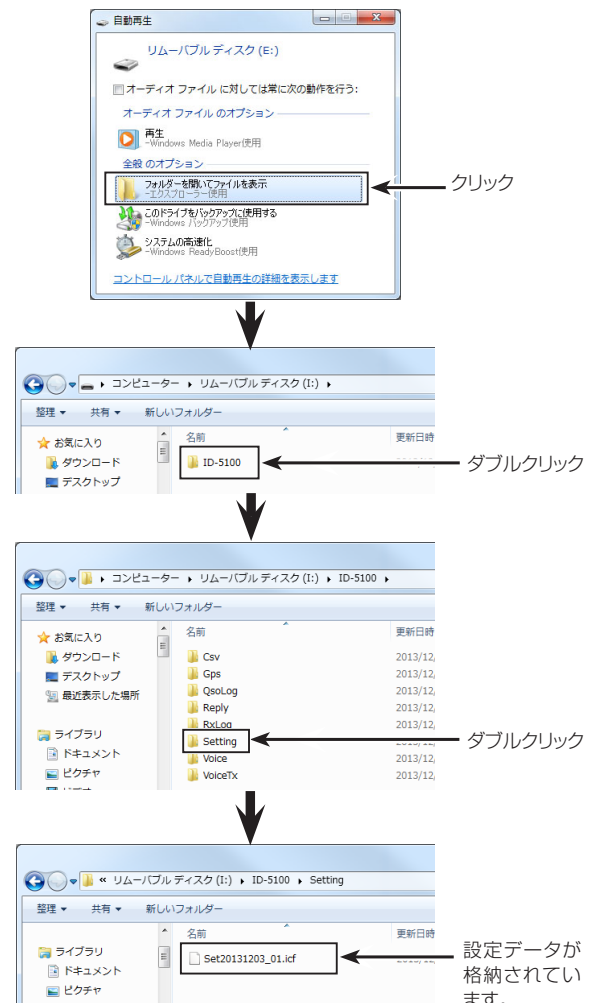
録音した交信の内容(wavファイル)が格納されます。
●フォルダー名は、作成された年(y)、月(m)、日(d)の順に「yyyyymmdd」となります。

⑬VoiceTxフォルダー

録音したボイス送信用の内容(wavファイル)が格納されます。

(例： 設定データを確認する場合)

SDカードをパソコンに読み込むと下の画面が表示されます。



9 SDカードの使いかた

■ SDカードのデータをパソコンにバックアップする(つづき)

◇ パソコンにデータをバックアップする

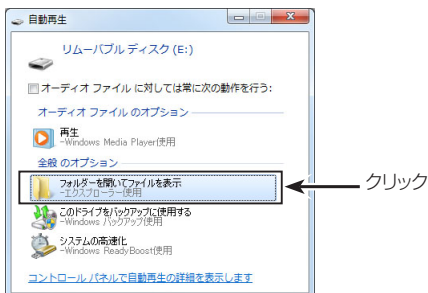
※Windows 7を例に説明します。

① パソコンにSDカードドライブが搭載されている場合は、ドライブにSDカードを挿入する。

※パソコンにSDカードドライブが搭載されていない場合は、SDカードを読み込むためのメモリーカードリーダー(市販品)をパソコンに接続し、メモリーカードリーダーにSDカードを挿入します。

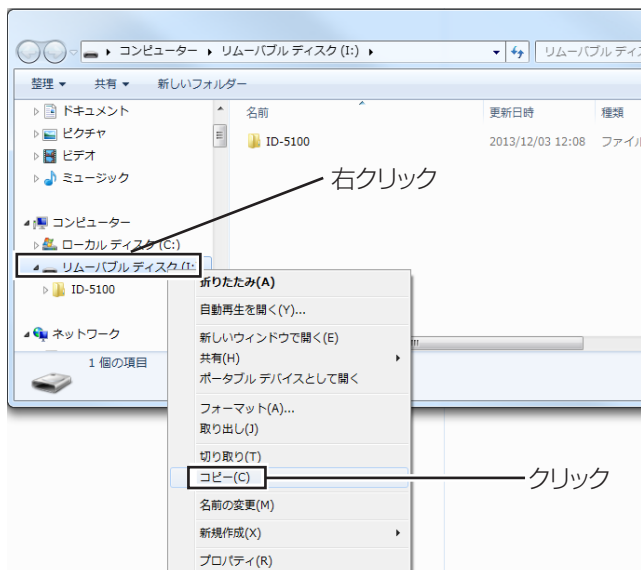
② パソコンに接続すると、下のような画面が表示され、「フォルダーを開いてファイルを表示」をクリックする。

●保存したID-5100のフォルダーが表示されます。



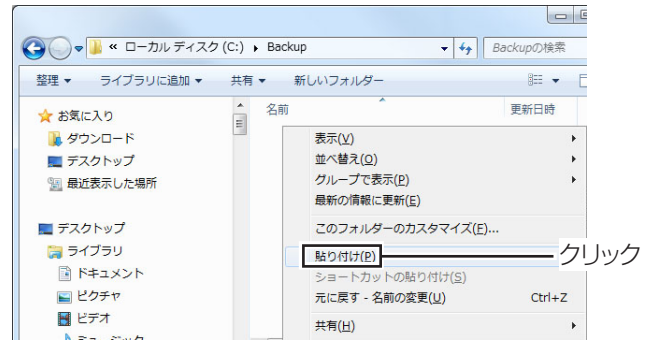
③ [リムーバブル ディスク]にマウスポインターをあわせて、右クリックする。


④ [コピー (C)]をクリックする。



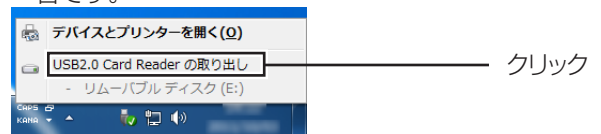
⑤ データの保存先フォルダー内で右クリックし、[貼り付け (P)]をクリックする。

●SDカード内のデータが、ハードディスクにコピーされます。
(例：Cドライブ内の「Backup」フォルダーにコピーする場合)



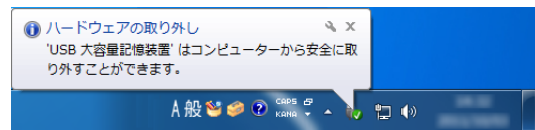
⑥ SDカードをパソコンから取りはずすときは、タスクトレイのSDカードに該当するアイコン(下の画面では「」アイコン)をクリックする。

※画面は、メモリーカードリーダーを取り付けたときの場合です。



⑦ 「ハードウェアの取り外し」が表示されてから、SDカードをパソコンから取りはずす。

※画面は、メモリーカードリーダーを取り付けたときの場合です。



9 SDカードの使いかた

■ CSVファイルをインポート/エクスポートするには

CSVファイルをSDカードから読み込ませたり(インポート)、SDカードに保存したり(エクスポート)できます。対象のデータは、下記の3つです。

- 相手局コールサイン
- レピータリスト
- GPSメモリー

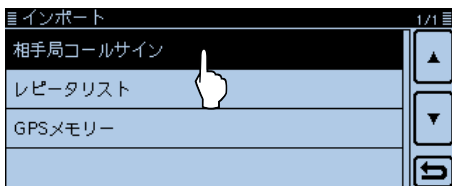
これらは個別にインポートとエクスポートができます。

◇ インポートのしかた

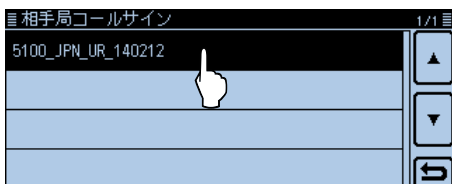
CSVファイルを本製品に読み込ませる前に、現在の内容をSDカードに保存しておくことをおすすめします。

《例》相手局コールサインをインポートする

- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「相手局コールサイン」項目をタッチする。
(SDカード > インポート/エクスポート > インポート > 相手局コールサイン)
 - 「相手局コールサイン」画面が表示されます。
 - [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページに切り替えます。



- ③ 本製品に読み込むCSVファイルをタッチする。
 - 「インポートしますか?」画面が表示されます。



ご注意

ファイル名が半角20文字(全角10文字)以上のものは表示されません。

インポートしたいファイルが表示されない場合は、ファイル名を半角20文字(全角10文字)以内に変更してからインポートしてください。

※付属のCDに同梱しているCS-5100で、本製品にインポートするためのCSVファイルを書き出す場合も半角20文字(全角10文字)以内になるようにファイル名を設定してください。

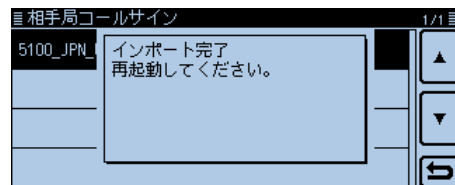
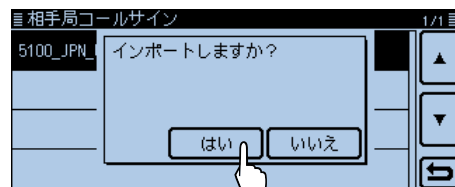
ご参考

CSVファイルは、本製品に登録されている一部の設定データを読み込んだり、書き込んだりするとき使用するファイルです。

本製品からエクスポートしたCSVファイルをSDカードに保存すれば、SDカードに保存したCSVファイルをパソコンに取り込んで、クローニングソフトウェアで編集することもできます。

- ④ [はい]をタッチする。

- インポートを開始します。
- 読み込みが完了すると、「インポート完了」画面が表示されます。



- ⑤ 電源を入れなおす。

- 読み込んだCSVファイルを有効にするため、電源を入れなおしてください。

※レピータリストをインポートする場合は、9-7ページの手順⑤項目を参考にしながら画面の指示にしたがってインポートしてください。

9 SDカードの使いかた

■ CSVファイルをインポート/エクスポートするには(つづき)

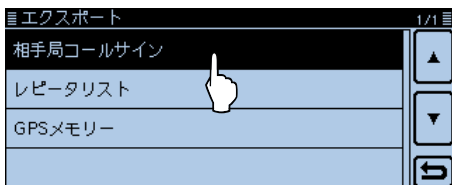
◇ エクスポートのしかた

相手局コールサイン、レピータリスト、GPSメモリーをエクスポートできます。

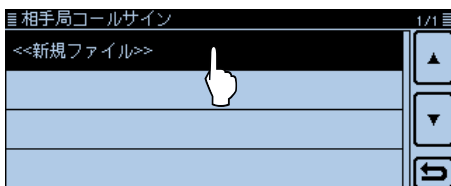
【新規ファイルに保存する場合】

《例》相手局コールサインをエクスポートする

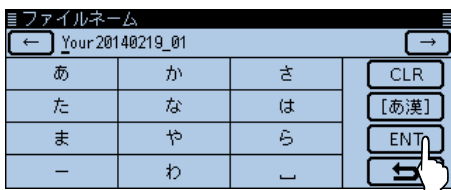
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「相手局コールサイン」項目をタッチする。
(SDカード > インポート/エクスポート > エクスポート > 相手局コールサイン)
 - 「相手局コールサイン」画面が表示されます。
 - [▲]/[▼]をタッチして、表示しているページに切り替えます。



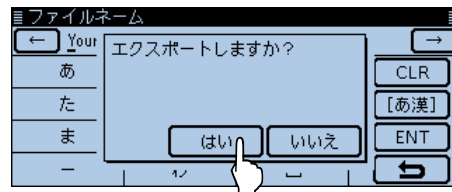
- ③ 「<<新規ファイル>>」項目をタッチする。
 - 「ファイル名」画面が表示されます。
 - ファイル名は、Your*につづいて、作成する年(y)、月(m)、日(d)、作成番号の順に「Youryyyyymmdd_作成番号」となります。
 - ★レピータリストの場合は「Rpt」、GPSメモリーの場合は「Gps」になります。
 - ファイル名を変更する場合は、「設定ファイル名を変更して保存する」の手順④～⑧をご参照ください。(※P9-6)



- ④ [ENT]をタッチする。
 - 「エクスポートしますか?」画面が表示されます。



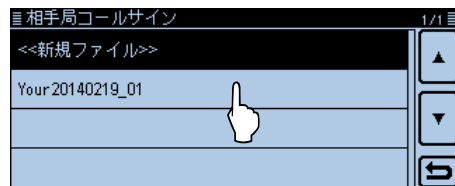
- ⑤ [はい]をタッチする。
 - CSVファイルを保存します。
 - 保存中、進行状況が表示され、保存が完了すると、「エクスポート」画面が表示されます。



- ⑥ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面を解除します。

【上書き保存する場合】

すでに作成したファイルに設定データを上書き保存する場合は、上記の手順③で、上書きしたいファイルを選択します。



■ 交信内容を録音する	10-2
■ 交信内容を再生する	10-3
■ 録音/再生設定を変更する	10-4
■ 音声フォルダ/ファイルを消去する	10-5
◇ 音声フォルダを消去する	10-5
◇ 音声ファイルを消去する	10-6
■ ファイル情報を確認する	10-7
■ SDカードの空き容量、録音時間を確認する	10-8
■ 録音した内容をパソコンで再生する	10-9

10 ボイスメモリーの使いかた

■ 交信内容を録音する

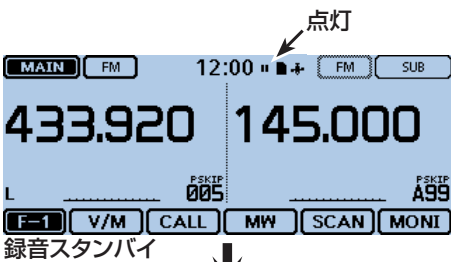
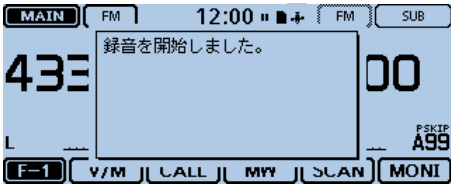
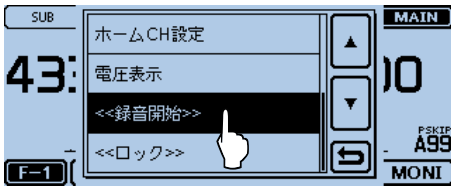
MAINバンドの交信内容を録音します。

ご注意

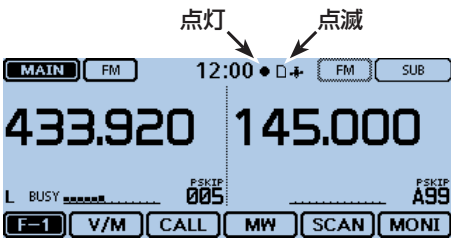
音声を録音するには、市販のSDカードを取り付けておく必要があります。

録音を開始する

- ① [QUICK]をタッチする。
- ② 「<<録音開始>>」をタッチする。
 - 録音スタンバイ状態になります。



スケルチが開くか送信すると録音を開始します。



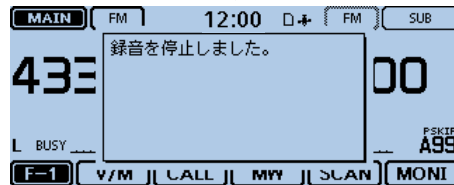
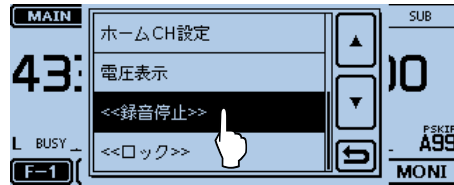
- 録音中
- 信号を受信しないあいだは録音を一時停止し、再び信号が入ると再開します。
- 録音を停止するか、SDカードの空き容量がなくなるまで、録音されつづけます。
- 録音しているファイルの容量が2GBに達すると、つづきを新しいファイルに録音します。

ご参考：常に録音状態にするには

「<<録音開始>>」をタッチしたとき、すぐに録音を開始させることができます(信号を受信していなくても、無音状態が録音されます)。「受信録音条件」(P10-4)で変更できます。

録音を停止する

- ① [QUICK]をタッチする。
- ② 「<<録音停止>>」をタッチします。
 - 「録音を停止しました。」画面を表示したあと、録音を停止します。



ご注意

一度録音を開始すると、録音停止操作をするまでは電源を入れなおしても録音スタンバイ状態は保持されます。電源を投入してから電源を切るまで、運用中の音声すべて録音されます。

10 ボイスメモリーの使いかた

■ 交信内容を再生する

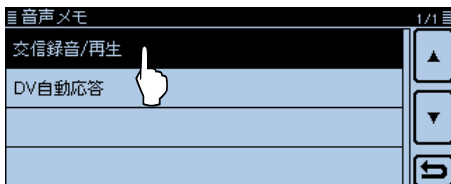
ご注意

録音された交信内容が保存されているSDカードを取り付けておく必要があります。

- ① [MENU]をタッチする。
 - MENU画面が表示されます。
- ② 「音声メモ」をタッチする。



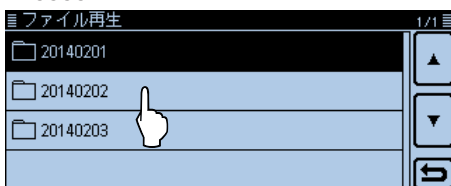
- ③ 「交信録音/再生」をタッチする。



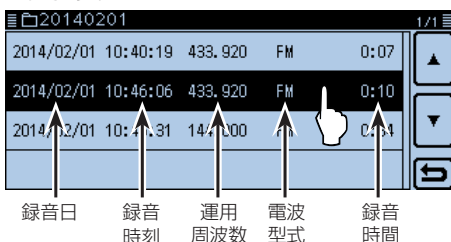
- ④ 「ファイル再生」をタッチする。
 - 録音ファイルが入っているフォルダが表示されます。



- ⑤ 再生したいファイルが格納されているフォルダをタッチする。
 - フォルダ名は、作成された年(y)、月(m)、日(d)の順に「yyyymmdd」となります。



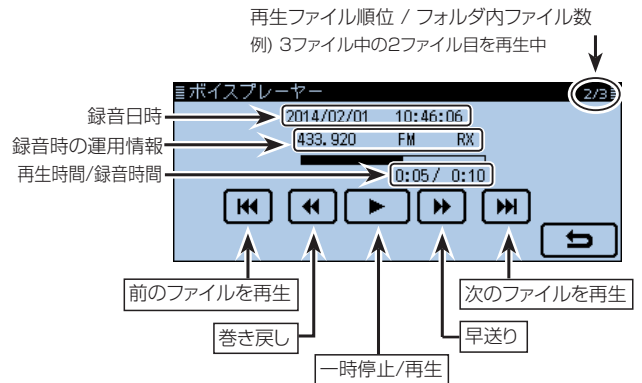
- ⑥ 再生したいファイルをタッチする。
 - 「ボイスプレーヤー」画面が表示され、ファイルが再生されます。



- ファイル名は、録音を開始した年(y)、月(m)、日(d)、時(h)、分(m)、秒(s)の順に「yyyy/mm/dd hh:mm:ss」となります。

- ⑦ 再生音声を聴く。

- 「ボイスプレーヤー」画面の操作



ご参考

- 「巻き戻し」(⏮️) / 「早送り」(⏭️)について

- タッチしつづけると、再生位置が連続で移動します。
- 1回のタッチで再生位置が移動する時間の初期値は10秒です。
「スキップ時間」(※P10-4)で変更できます。
- [DIAL]でファイルの再生位置を変更できます。
この場合、スキップ時間の設定に関係なく、再生位置は録音時間の1/20ずつ移動します。

- 「巻き戻し」(⏮️)について

再生開始から1秒以内に巻き戻しをすると、1つ前のファイルの最後に巻き戻されます。

- 「前のファイルを再生」(⏮️)について

- 再生中のファイルがフォルダの中で最も古い場合、そのファイルがもう一度再生されます。
- 一時停止中に押すと、再生開始位置がそのファイルのはじめに戻ります(ファイルの頭出し)。
「再生」(▶️)を押すと、再生が開始されます。

- 「次のファイルを再生」(⏭️)について

再生中のファイルがフォルダの中で最も新しい場合、そのファイルがもう一度再生されます。

- 録音時の運用情報について

録音したときの運用周波数、電波型式、受信音声(RX)/送信音声(TX)が表示されます。

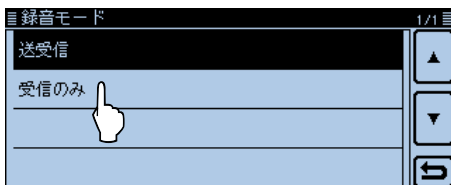
10 ボイスメモリーの使いかた

■ 録音/再生設定を変更する

MENU画面の「交信録音/再生設定」項目では、録音や再生に関する下記の設定を変更できます。

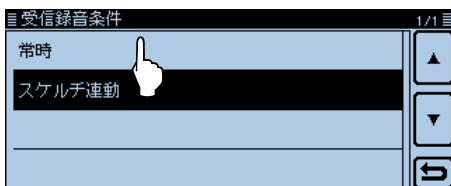
詳しくは、本書「MENU画面について」の「音声メモ(録音/再生機能)について」(P12-14)をご覧ください。

- ◎ 相手局からの受信音声だけを録音する。(「録音モード」)
(音声メモ > 交信録音/再生 > 録音設定)



※初期設定では、相手局からの受信信号と自局の送信信号の両方を録音します。

- ◎ 信号を受信していないあいだ(スケルチが閉じているあいだ)も録音する。(「受信録音条件」)
(音声メモ > 交信録音/再生 > 録音設定)



※初期設定では、信号を受信している(スケルチが開いている)あいだだけ録音されます。

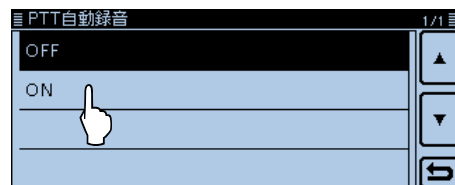
- ◎ 交信内容を送信、受信ファイルに分けずに、1つのファイルに録音する。(「ファイル分割」)
(音声メモ > 交信録音/再生 > 録音設定)



※初期設定では、送信、受信ごとに録音ファイルが新規作成されます。

※MENU画面内の「受信録音条件」が「スケルチ連動」のときは、受信信号が途切れるたびに新しい録音ファイルが作成されます。

- ◎ 録音を[PTT]と連動させる。(「PTT自動録音」)
自局が送信すると同時に録音を開始し、送信終了後10秒以内に受信した相手局の信号も録音されます。これにより、一連の交信内容をすべて録音できます。
(音声メモ > 交信録音/再生 > 録音設定)

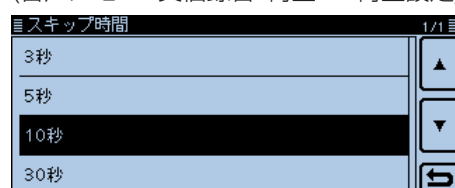


※初期設定では、[PTT]と録音は連動しません。

ご参考：PTT自動録音を「ON」に設定したとき

- ◎ マイクロホンの[PTT]だけでなく、VOX機能、CI-Vによるリモート操作で送信したときでも、録音を開始します。
- ◎ 「録音モード」の設定で「受信のみ」を設定した場合は、送信信号は録音しません。
- ◎ 受信終了後、さらに10秒以内に信号を受信すると、その受信した信号も録音します。

- ◎ 再生中に早送り、巻き戻ししたときのスキップ時間(移動する時間)を変更する。(「スキップ時間」)
(音声メモ > 交信録音/再生 > 再生設定)



※初期設定では、10秒単位で巻き戻し/早送りされます。

10 ボイスメモリーの使いかた

■ 音声フォルダ/ファイルを消去する

ご注意

消去されたファイルやフォルダは復活できません。

◇ 音声フォルダを消去する

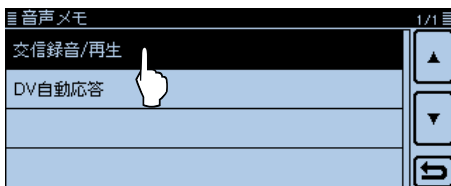
ご注意

フォルダ内のすべてのファイルが消去されます。

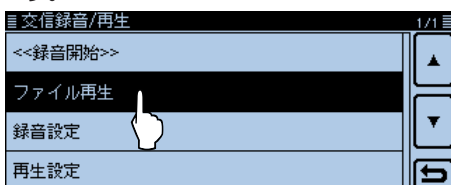
- ① [MENU]をタッチする。
●MENU画面が表示されます。
- ② 「音声メモ」をタッチする。



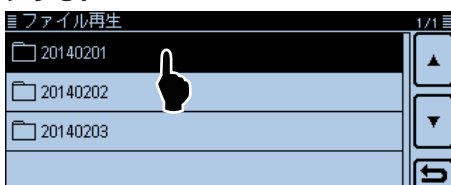
- ③ 「交信録音/再生」をタッチする。



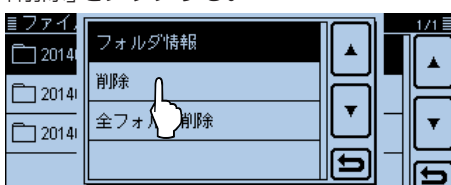
- ④ 「ファイル再生」をタッチする。
●録音ファイルが保存されているフォルダが表示されます。



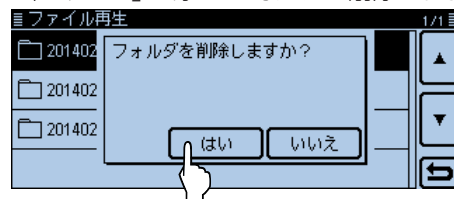
- ⑤ 消去したいフォルダを長く(ピッピと鳴るまで)タッチする。



- ⑥ 「削除」をタッチする。

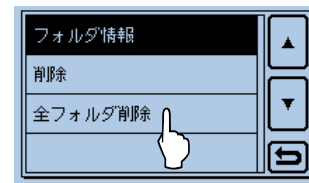


- ⑦ [[はい]]をタッチする。
●「ピッピ」と鳴ってフォルダが削除されます。



- ⑧ [MENU]をタッチする。
●MENU画面を解除します。

ご参考：フォルダを一括削除するには



手順⑥で「全フォルダ削除」をタッチすると、すべてのフォルダを一括削除できます。

10 ボイスメモリーの使いかた

■ 音声フォルダ/ファイルを消去する(つづき)

◇ 音声ファイルを消去する

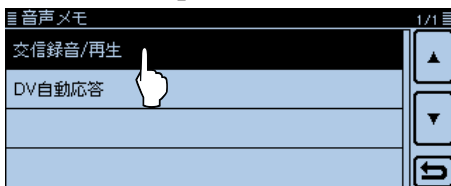
① [MENU]をタッチする。

●MENU画面が表示されます。

② 「音声メモ」をタッチする。

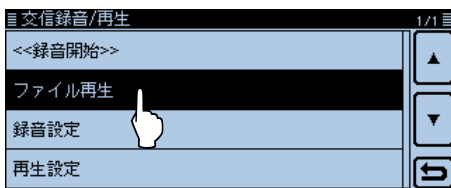


③ 「交信録音/再生」をタッチする。

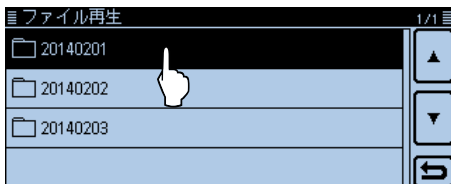


④ 「ファイル再生」をタッチする。

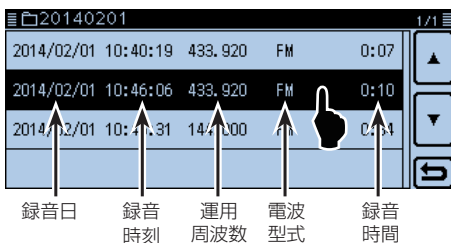
●録音ファイルが保存されているフォルダが表示されます。



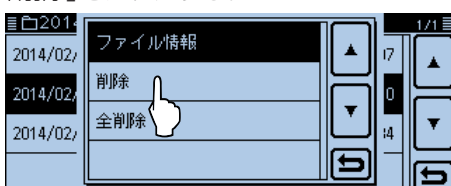
⑤ 消去したいファイルがあるフォルダをタッチする。



⑥ 消去したいファイルを長く(ピッピーと鳴るまで)タッチする。

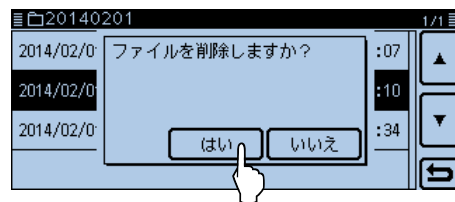


⑦ 「削除」をタッチする。



⑧ 「はい」をタッチする。

●「ピッピー」と鳴ってファイルが削除されます。

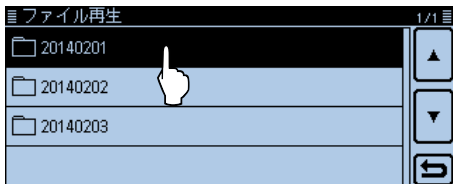


10 ボイスメモリーの使いかた

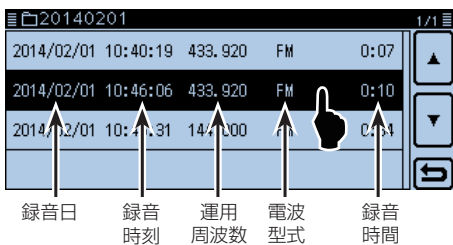
■ ファイル情報を確認する

音声ファイルには、録音時の運用周波数、電波型式、録音開始日時などの運用情報が記録されています。

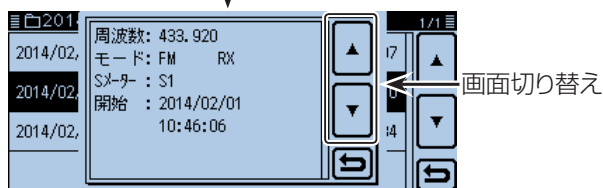
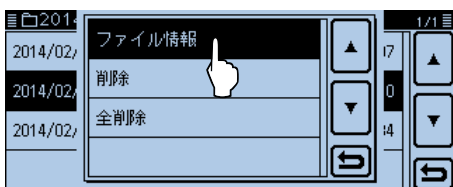
- ① 音声フォルダの一覧を表示させる。
(音声メモ > 交信録音/再生 > ファイル再生)
- ② 情報を確認したいファイルが保存されているフォルダをタッチする。



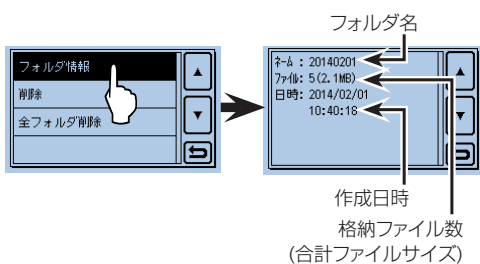
- ③ 情報を確認したいファイルを長く(ピッピーと鳴るまで)タッチする。



- ④ 「ファイル情報」をタッチする。
●「ファイル情報」画面が表示されます。



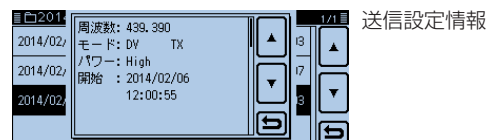
ご参考: 音声フォルダの情報を確認するには
上記の手順②で[QUICK]をタッチして、「フォルダ情報」をタッチすると、そのフォルダの情報を確認できます。



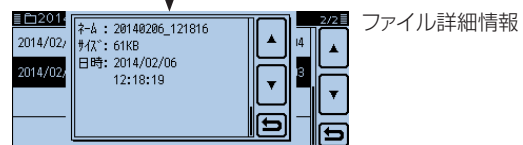
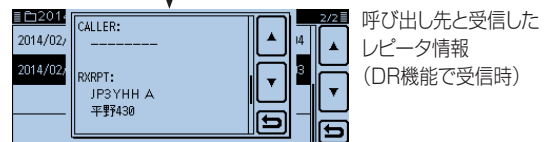
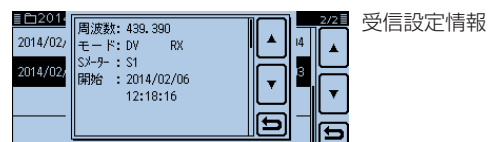
ご参考: ファイル情報画面の例

※録音した時の運用状態によっては、表示されない情報もあります。

●送信時のファイル情報



●受信時のファイル情報

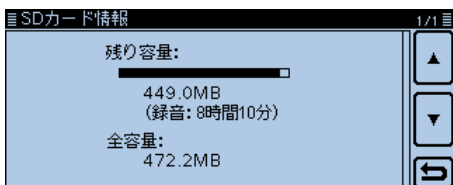
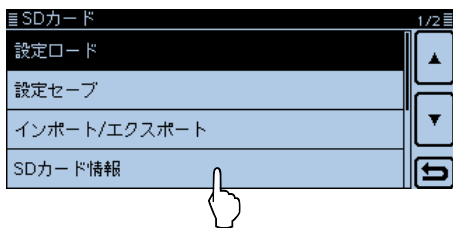


10 ボイスメモリーの使いかた

■ SDカードの空き容量、録音時間を確認する

音声ファイルには、録音時の運用周波数、電波型式、録音開始日時などの運用情報が記録されています。

- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「SDカード情報」をタッチする。
(SDカード > SDカード情報)
●SDカードの空き容量と録音時間を表示します。



- ③ [MENU]をタッチする。
●「MENU」画面を解除します。

10 ボイスメモリーの使いかた

■ 録音した内容をパソコンで再生する

本製品で録音した内容をパソコンでも再生できます。
ただし、録音した周波数や時間などの情報は表示されません。

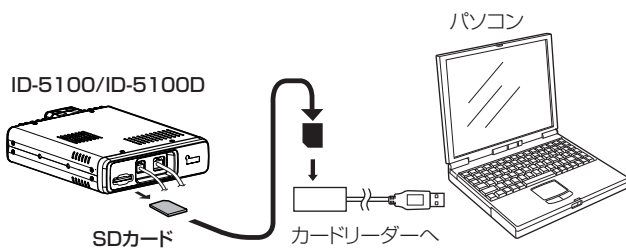
※Windows 7を例に説明します。

例:カードリーダー(市販品)にSDカードを挿入して、接続したパソコンで再生する場合

※ハードディスクにSDカードのデータをコピーした場合も、操作方法は同じです。

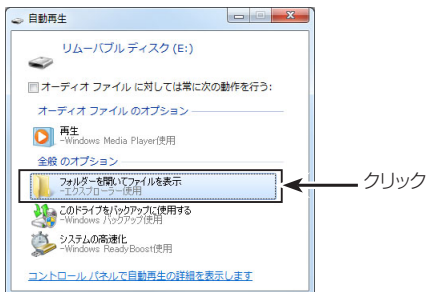
① メモリーカードリーダー(市販品)をパソコンに接続し、メモリーカードリーダーにSDカードを挿入します。

※パソコンにSDカードドライブが搭載されている場合は、ドライブにSDカードを挿入します。

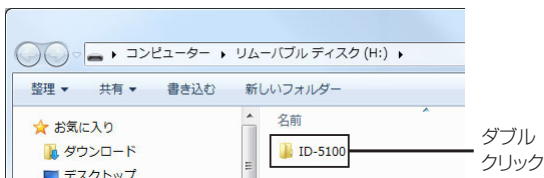


② パソコンに接続すると、右のような画面が表示され、「フォルダを開いてファイルを表示」をクリックします。

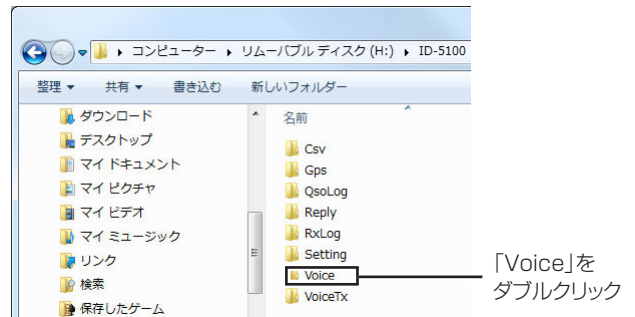
● 保存したID-5100のフォルダが表示されます。



③ ID-5100フォルダをダブルクリックします。

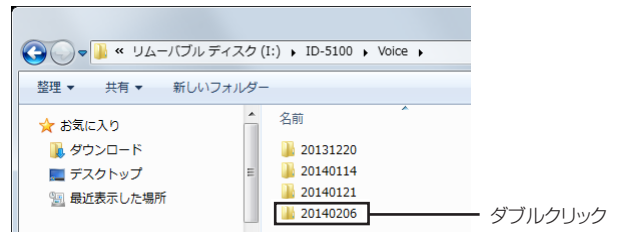


④ 「Voice」フォルダをクリックします。



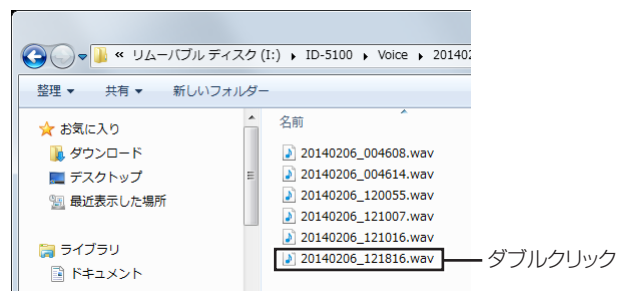
⑤ 再生したいファイルが格納されているフォルダをダブルクリックします。

(例: Voice 「20140206」フォルダ)



⑥ 再生したいファイルをダブルクリックすると、再生します。

(例: Voice 「20140206_121816.wav」)



ご注意

◎再生中の操作はお使いのソフトウェアにより異なりますので、詳しくはお使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

◎録音した内容が再生されない場合、再生用ソフトウェア (Windows Media® Playerなど)をダウンロードしてください。

■ オートレピータ機能での交信	11-2
◇レピータ周波数の設定	11-2
◇レピータ局を経由して交信する	11-3
◇レピータ局の中継が必要かどうかを確認する	11-3
■ デュプレックス運用について	11-4
◇オフセット周波数の設定	11-4
◇デュプレックスモードの設定	11-4
◇デュプレックスモードで交信する	11-4
■ 送信時のオフバンド表示について	11-5

11 レピータ / デュプレックス運用について

■ オートレピータ機能での交信

本製品は、オートレピータ機能を搭載しています。
設定するレピータ周波数が、**439MHz～440MHz**である場合、自動的にトーンエンコーダー(88.5Hz)とデュプレックス(DUP-)が設定され、レピータ運用ができます。

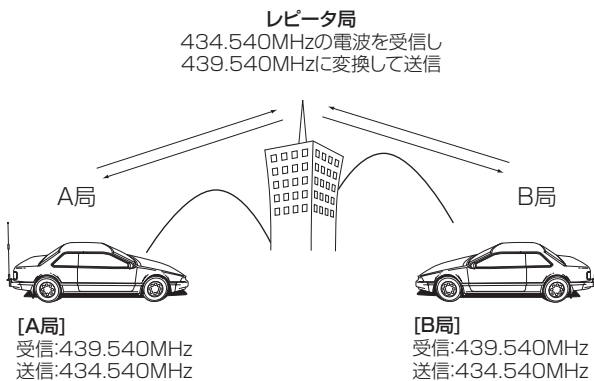
◎初期設定では、オートレピータ機能が「ON」に設定されています。MENU画面内の「オートレピータ」項目で「OFF」に設定できます。(P12-41)
(機能設定 > オートレピータ)

◎トーン周波数(初期値：88.5Hz)とオフセット周波数(初期値：5MHz)は、MENU画面内の「レピータトーン周波数」項目、「オフセット周波数」項目で変更できます。
(P12-10)

(DUP/トーン設定 > レピータトーン周波数)

(DUP/トーン設定 > オフセット周波数)

◎430MHz帯では、各地域にレピータが設置されています。レピータ局の周波数は、運用の前にJARLのホームページや各専門誌、インターネットなどでご確認ください。



◇ レピータ周波数の設定

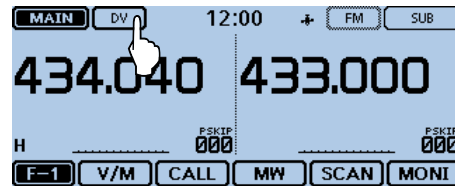
①メモリー表示部をタッチする。
●「運用モード選択」画面が表示されます。

② [VFO]をタッチする。

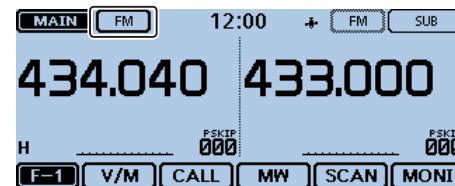
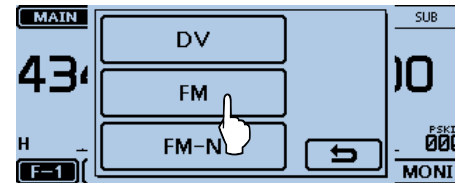
③周波数のMHz桁をタッチする。
●「バンド一覧」画面が表示されます。

④ [430]をタッチする。

⑤受信モード表示部をタッチする。
●「受信モード一覧」画面が表示されます。



⑥ [FM]をタッチする。

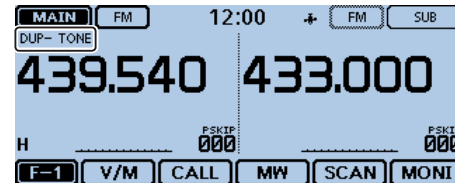


⑦ [DIAL]を回して、レピータ局から受ける電波の周波数を設定する。

●オートレピータ機能により、周波数を合わせるだけで、レピータ運用モードになります。

※オートレピータ機能をOFFにして手動で任意の送受信周波数やオフセット周波数を設定することもできます。

●トーンエンコーダーとデュプレックスが設定され、ディスプレイに「DUP- TONE」が表示されます。



ご参考

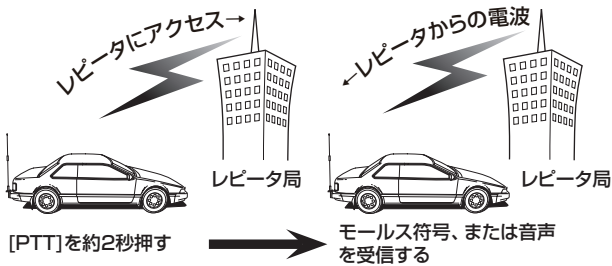
- レピータアクセス用トーン周波数(P12-10)とオフセット周波数(P12-10)を変更すると、オートレピータ機能のトーン周波数とオフセット周波数も変更されます。
設定されたオフセット周波数によっては、送信したとき、「オフバンド表示」(P11-4)になることがあります。
- D-STAR®レピータへのアクセスについては、(P6-3)をご覧ください。

11 レピータ / デュプレックス運用について

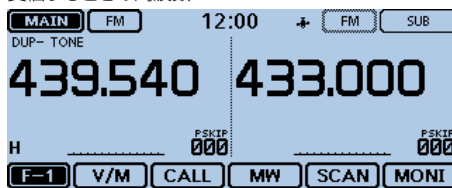
■ オートレピータ機能での交信(つづき)

◇ レピータ局を経由して交信する

- ① 約2秒だけマイクロホンの [PTT] を押す。
 - 発射した電波がレピータ局に届いていれば、[PTT] をはなした直後に、自動的にレピータのコールサイン(ID信号)がモールス符号、または音声で受信できます。
 - ※ [PTT] をはなすタイミングが遅いと、レピータから送信されたID信号を受信できない場合があります。
- ② シンプレックス運用と同じように、送信と受信を交互に繰り返しながら交信します。

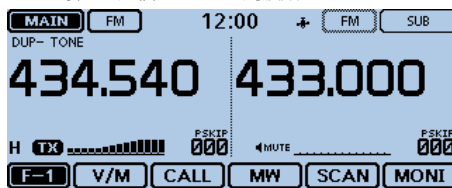


受信するときの周波数



-5MHzシフトする

PTTを押して送信したときの周波数



◇ レピータ局の中継が必要かどうかを確認する

レピータ局の運用中に、レピータを中継しなくても交信できるかどうか確認できます。

ファンクションメニューの [MONI] をタッチして、交信相手の信号が受信できれば、レピータ局を使用しなくても交信できます。

このとき、相手局の送信電波をレピータ局を中継せず、直接受信していることになります。

※ モニター動作中は、「BUSY」表示が点滅します。

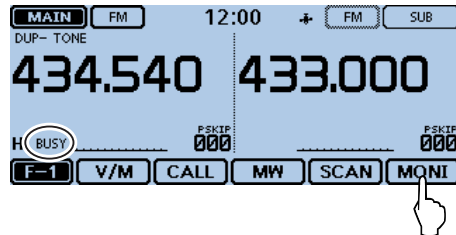
※ モニターしているあいだも、周波数表示がオフセット周波数分だけシフトします。

※ 交信相手の信号が受信できるときは、439.000MHz以下の周波数に移ってシンプレックスで交信してください。

※ アッテネーター(減衰器)が動作している場合に、モニター機能を動作させても正しくチェックできません。

事前にアッテネーター(減衰器)機能を解除してください。

モニター中の画面



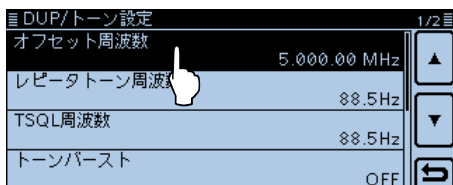
11 レピータ / デュプレックス運用について

■ デュプレックス運用について

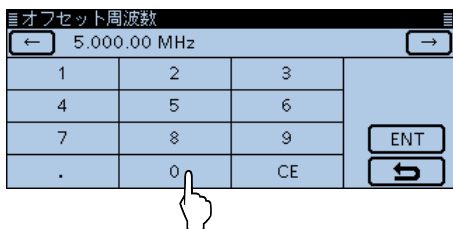
デュプレックス運用とは、通常の交信(シンプレックス)とは異なり、同一バンド内で送信と受信の周波数をオフセット周波数分ずらして交信することで、レピータでの運用に使われます。

◇ オフセット周波数の設定

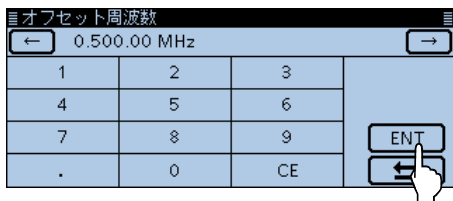
- ① メモリー表示部をタッチする。
 - 「運用モード選択」画面が表示されます。
- ② [VFO]をタッチする。
- ③ [MENU]をタッチする。
- ④ 「オフセット周波数」項目をタッチする。
(DUP/トーン設定 > オフセット周波数)
 - 設定されているオフセット周波数が表示されます。



- ⑤ 設定したいオフセット周波数を入力する。
(設定例: 5.000.00MHz)
 - 0.000.00MHz ~ 59.995.00MHzの範囲で設定します。
 - 設定しているチューニングステップ(TS)で切り替わります。
 - 入力を取り消すときは、「CE」をタッチする。



- ⑥ 入力したあと、「ENT」をタッチする。
 - オフセット周波数が設定されます。



- ⑦ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面を解除します。

ご注意

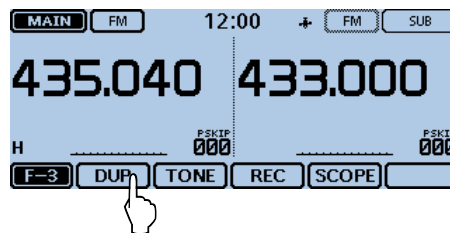
DR機能を使用中は、オフセット周波数は変更できません。

ご参考

オフセット周波数を変更すると、オートレピータ機能(※P11-2)のオフセット周波数も変更されます。設定されたオフセット周波数によっては、送信したときに「オフバンド表示」(※P11-5)になることがあります。

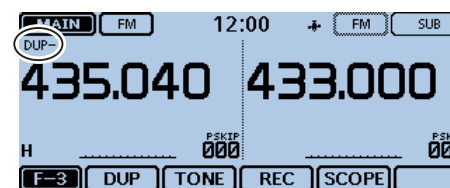
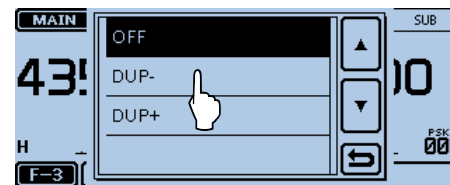
◇ デュプレックスモードの設定

- ① ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「F-3」画面を表示させます。
- ② [DUP]をタッチする。
 - 「DUP選択」画面を表示させます。



- ③ 設定したい項目をタッチする。
 - OFF : シンプレックス運用をします。
 - DUP-(マイナス) : 送信周波数が、受信周波数よりオフセット周波数分低くなります。
 - DUP+(プラス) : 送信周波数が、受信周波数よりオフセット周波数分高くなります。

※設定すると、ディスプレイに「DUP-」、または「DUP+」が表示されます。



◇ デュプレックスモードで交信する

- ① 交信の前にファンクションメニューの[MONI]をタッチして、他局が送信周波数を使用していないか確認します。
 - 設定しているオフセット周波数分、受信周波数がシフトします。
- ② 送信と受信を交互に繰り返しながら交信します。

ご注意

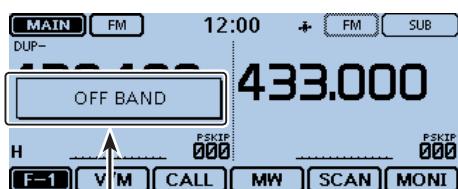
オートレピータ機能(※P11-2)が、「ON」に設定されている場合、439.000MHz~440.000MHz以外の周波数に変更すると、デュプレックスモードは解除されます。

11 レピータ / デュプレックス運用について

■ 送信時のオフバンド表示について

レピータ局にアクセスしたときや、デュプレックスモードで送信したとき、右のような表示になる場合は、オフセット周波数(☞P11-4)を設定しなおしてください。

※アマチュアバンドからはずれるようなオフセット周波数(シフト幅)に設定されているため、送信できないことを知らせる表示です。



オフバンド表示

■ 設定項目の選択方法	12-2
◇ 設定内容を変更する	12-2
■ 各設定項目と初期値について	12-3
■ DUP/トーン設定について	12-10
■ メモリー管理について	12-11
■ スキャン設定について	12-11
■ 音声メモ(録音/再生機能)について	12-14
■ ボイス送信について	12-15
■ GPSについて	12-16
■ コールサインについて	12-30
■ 受信履歴について	12-31
■ DVメモリーについて	12-33
■ 自局設定について	12-34
■ DV設定について	12-35
■ スピーチについて	12-37
■ DTMFについて	12-38
■ 交信/受信履歴ログについて	12-38
■ 機能設定について	12-41
■ ディスプレイ設定について	12-46
■ サウンド設定について	12-49
■ 時間設定について	12-50
■ SDカードについて	12-50
■ Bluetooth設定について	12-51
■ その他について	12-54

12 MENU画面について

■ 設定項目の選択方法

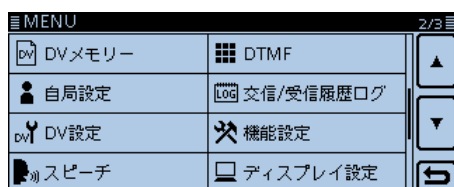
MENU画面では、初期設定されている運用条件を運用する状況やお好みの使いかたに応じて変更できます。
このページと併せて、各設定項目と初期値一覧(※P12-3～P12-9)をご覧ください。

【ご参考】

各設定項目内に、さらに設定項目が配置されています。これを「階層」といいます。

各設定項目からその下の設定項目移動することを、「1つ下の階層に進む」、その逆を「1つ上の階層に戻る」といいます。

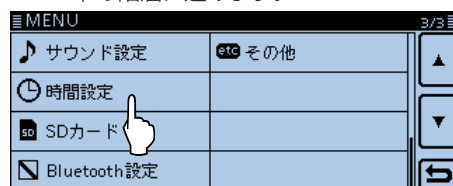
MENU画面の各設定項目



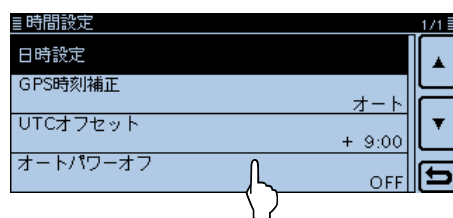
◇ 設定内容を変更する

《例》オートパワーオフ機能を30分に設定する

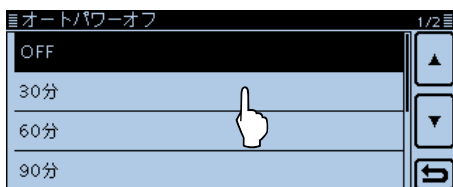
- ① [MENU]をタッチする。
 - MENU画面が表示されます。
- ② [▲]/[▼]をタッチして、ページを切り替える。
 - 押しつづけると、ページが連続で切り替わります。
 - [DIAL]を回しても切り替わります。
- ③ 「時間設定」グループをタッチする。
 - 1つ下の階層に進みます。



- ④ 「オートパワーオフ」項目をタッチする。
 - 1つ上の階層に戻るには、[◀]をタッチします。



- ⑤ 「30分」をタッチする。



- ⑥ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面を解除します。

【初期値に戻す場合】

手順⑤で[QUICK]をタッチして、「初期値に戻す」をタッチすると、初期値に戻ります。

12 MENU 画面について

■ 各設定項目と初期値について

各項目の名称をクリックすると、詳細な説明ページに移ります。

※太字は、工場出荷時の状態で表示される各項目の初期値です。
※右端の説明は、各設定の目的を記載しています。

DUP/トーン設定		レピータ運用、デュプレックス運用や各種トーン機能を運用するときに設定します
オフセット周波数	0.000.00MHz (VHF) ~ 59.995.00MHz ※430MHz帯では、5.000.00MHzが初期値になります	送信周波数と受信周波数の差(シフト幅)を設定するとき
レピータトーン周波数	67.0Hz ~ 88.5Hz ~ 254.1Hz	レピータアクセスに必要なトーン信号の周波数(トーンエンコーダー)を設定するとき
TSQL周波数	67.0Hz ~ 88.5Hz ~ 254.1Hz	FMモードで、特定の相手とだけ通信したいときに使うトーンスケルチ機能で使用するトーンエンコーダー/デコーダーの周波数を設定するとき
トーンバースト	OFF , ON	トーンスケルチ機能を使った交信で、[PTT]をはなしたとき、相手のスピーカから一瞬出る「ザツ」というノイズ(雑音)を抑えたいとき
DTCSコード	023 ~ 754	FMモードで、特定の相手とだけ通信したいときに使うDTCSスケルチ機能で、使用するDTCSエンコーダー/デコーダーのコードを設定するとき
DTCS極性	Both N , TN-RR, TR-RN, Both R	DTCSエンコーダー/デコーダーで使うDTCSコードの極性を設定するとき
デジタルコード	00 ~ 99	DVモードで、特定の相手とだけ通信したいときに使うデジタルコードスケルチ機能で、使用するデジタルコードを設定するとき
メモリー管理		メモリーチャンネルの整理や管理をするときに設定します
メモリーチャンネル	全チャンネル, A ~ Z	メモリーチャンネルを管理するとき
コールチャンネル	C0(144) :145.000 FM C1(144) :145.300 DV C0(430) :433.000 FM C1(430) :433.300 DV	コールチャンネルを管理するとき
スキャン設定		スキャンをするときに設定します
停止時間	2秒 ~ 10秒 ~ 20秒、ホールド	信号を受信したとき、スキャンを一時停止させる時間
再スタート時間	0秒 ~ 2秒 ~ 5秒、ホールド	スキャン一時停止後、受信していた信号が消えてから再スタートする条件(時間)
一時スキップ時間	5分 , 10分, 15分	スキャン中に停止した周波数を、一時的にスキップさせる時間を設定するとき
プログラムスキップ	OFF, ON	VFOスキャン時、特定の周波数を飛び越す(スキップする)機能
バンクリンク	A: <input checked="" type="checkbox"/> ~ Z: <input checked="" type="checkbox"/>	複数のバンクを連続してスキャンさせたいとき(バンクリンクスキャン時)
プログラムスキャンエッジ	00 ~ 24	プログラムスキャン範囲を設定したいとき
プログラムリンク	プリセットされた内容は、P12-2をご覧ください。	複数のプログラムスキャン範囲を連続してスキャンさせたいとき(プログラムリンクスキャン時)
音声メモ		送受信の音声を録音するときに設定します
交信録音/再生		
<<録音開始>>★		録音を開始するとき
ファイル再生★		録音したファイルを再生、削除したいとき
録音設定		
録音モード	送受信 、受信のみ	送信内容を録音しないで、受信内容だけ録音したいとき
受信録音条件	常時、 スケルチ連動	受信時の録音条件を決めたいとき
ファイル分割	OFF, ON	送受信が切り替わるときに、録音ファイルを新たに作りた いとき (「受信録音条件」が「スケルチ連動」に設定されているときは、 スケルチが閉じたときにも、ファイル分割を実行します)
PTT自動録音	OFF , ON	送信すると、自動的に交信内容を録音したいとき
再生設定		
スキップ時間	3秒, 5秒, 10秒 , 30秒	再生中に早送り/巻き戻しを操作したときに移動する時間を変 更したいとき
DV自動応答★		DVモードで使う自動応答用の音声を録音したいとき

★ あらかじめ本製品にSDカードを取り付けておいてください。

12 MENU 画面について

■ 各設定項目と初期値について(つづき)

※太字は、工場出荷時の状態に表示される各項目の初期値です。

ボイス送信		録音した音声を送信するときに設定します
録音★	T1、T2、T3、T4	送信用の音声を録音するとき
送信設定		
リポート時間	1秒～ 5秒 ～15秒	リポート送信時の送信間隔を設定するとき
送信モニター	OFF、 ON	ボイス送信中に送信音声を本製品のスピーカーから出したいとき
〈送信〉★	T1、T2、T3、T4、リポート送信	録音した音声を送信するとき
GPS		GPS運用をするときに設定します
GPS設定		
GPS選択	OFF、 内蔵GPS 、マニュアル	使用するGPSユニットを変更したいとき
マニュアル位置		自局の位置情報と高度を手入力したいとき
GPS出力(DATA端子)	OFF、 ON	内蔵GPSで取得したNMEAデータを[DATA]ジャックから出力したいとき
GPS送信モード		
OFF		DVモードで位置情報を送信しないとき
D-PRS		
アンプロトアドレス	API510,DSTAR*	アンプロトアドレスを設定したいとき
送信フォーマット		
ポジション		
シンボル	1:車、2:バン、3:トラック、4:自宅	自局の移動手段を伝えるためのアイコンを設定したいとき
SSID	--- 、(-0)、-1～-15、-A～-Z	自局のSSIDを設定したいとき
コメント		送信するコメントを作成したいとき
タイムスタンプ	OFF、日時分、時分秒	時刻を送信したいとき
高度	OFF、 ON	高度情報を送信したいとき
データ拡張	OFF、進路/速度、出力/地上高/ゲイン/ 指向性	進路/速度、または出力/地上高/ゲイン/指向性を送信したいとき
出力	0W 、1W、4W、9W、16W、25W、 36W、49W、64W、81W	固定局の送信出力情報を送信したいとき
地上高	3m 、6m、12m、24m、49m、98m、 195m、390m、780m、1561m	地上高を送信したいとき
ゲイン	0dB ～9dB	アンテナゲインを送信したいとき
指向性	無指向性 、45° NE、90° E、135° SE、180° S、225° SW、270° W、 315° NW、360° N	指向性情報を送信したいとき
オブジェクト		
オブジェクト名		オブジェクト名を入力したいとき
データタイプ	Live Object 、Killed Object	オブジェクトの状態を設定したいとき
シンボル	無線機	オブジェクトのアイコンを設定したいとき
コメント		オブジェクトのコメントを設定したいとき
位置情報		オブジェクトの位置情報を送信したいとき
データ拡張	OFF、進路/速度、出力/地上高/ゲイン/ 指向性	進路/速度、または出力/地上高/ゲイン/指向性を送信したいとき
進路	0° ～360°	オブジェクトの進路方向を送信したいとき
速度	0km/h ～1850km/h	オブジェクトの進行速度を送信したいとき
出力	ポジションの出力と同じ内容です	オブジェクトの送信出力情報を送信したいとき
地上高	ポジションの地上高と同じ内容です	オブジェクトの地上高を送信したいとき
ゲイン	ポジションのゲインと同じ内容です	オブジェクトのアンテナゲインを送信したいとき
指向性	ポジションの指向性と同じ内容です	オブジェクトの指向性情報を送信したいとき
SSID	ポジションのSSIDと同じ内容です	自局のSSIDを設定したいとき
タイムスタンプ	日時分 、時分秒	オブジェクトの時刻表示形式を変更したいとき
アイテム		
アイテム名		アイテム名を入力したいとき
データタイプ	Live Item 、Killed Item	アイテムの状態を設定したいとき
シンボル	無線機	アイテムのアイコンを設定したいとき
コメント		アイテムのコメントを設定したいとき
位置情報		アイテムの位置情報を送信したいとき
データ拡張	OFF、進路/速度、出力/地上高/ゲイン/ 指向性	進路/速度、または出力/地上高/ゲイン/指向性を送信したいとき
進路	0° ～360°	アイテムの進路方向を送信したいとき
速度	0km/h ～1850km/h	アイテムの進行速度を送信したいとき

★ あらかじめ本製品にSDカードを取り付けておいてください。

12 MENU 画面について

■ 各設定項目と初期値について(つづき)

※太字は、工場出荷時の状態に表示される各項目の初期値です。

出力	ポジションの出力と同じ内容です	アイテムの送信出力情報を送信したいとき
地上高	ポジションの地上高と同じ内容です	アイテムの地上高を送信したいとき
ゲイン	ポジションのゲインと同じ内容です	アイテムのアンテナゲインを送信したいとき
指向性	ポジションの指向性と同じ内容です	アイテムの指向性情報を送信したいとき
SSID	ポジションのSSIDと同じ内容です	自局のSSIDを設定したいとき
気象		
シンボル	ウェザーステーション	気象のアイコンを設定したいとき
SSID	ポジションのSSIDと同じ内容です	自局のSSIDを設定したいとき
コメント		気象のコメントを設定したいとき
タイムスタンプ	OFF、日時分、時分秒	気象の時刻を送信したいとき
NMEA		
GPSセンテンス	RMC/GGA/GLL/VTG/GSA/GSV	送信する測位情報を選択したいとき
GPSメッセージ		GPSメッセージを送信したいとき
GPS情報		受信中のGPS衛星を確認したいとき
GPSポジション		自局/相手局/メモリー/アラーム対象の位置情報を確認したいとき
GPSメモリー	(グループなし)、A~Z	保存した位置情報を確認する/整理する
GPSアラーム		
アラーム選択	OFF、受信、グループ、メモリー	GPSアラームを鳴らす対象を選択する
アラームエリア(グループ)	0'05"/0.08'~ 0'15"/0.25' ~59'59"/59.99'	自局の現在地を中心に東西南北に設定されたアラームを鳴らす範囲(正方形)を変更したいとき
アラームエリア(受信/メモリー)	狭い、広い、 両方	自局の現在地を中心に設定されたアラームを鳴らす範囲(円形)を変更したいとき
GPSロガー★		
GPSロガー	OFF、ON	GPSを使用して移動経路を記録したいとき
記録間隔	1秒、 5秒 、10秒、30秒、60秒	記録する時間の間隔を変更したいとき
GPS自動送信	OFF、5秒、10秒、30秒、1分、3分、5分、10分、30分	位置情報を自動送信する時間の間隔を設定したいとき
コールサイン		
UR: CQCQCQ、R1: -----、R2: ----、MY:	DVモードで運用時の設定状態を確認したり、設定したりできます	VFO/MR/CALL-CHモードでDVモードを運用したいとき DR機能使用時、コールサインを確認したいとき
受信履歴		
なし	DVモードで受信履歴を確認できます	受信履歴を確認したいとき
DVメモリー		
相手局コールサイン	DVモードで運用する相手局やレピータの情報を保存します	
レピータリスト	1:ICOM ARC、2:ならやまARC自動 01~30	個人局を登録したいとき プリセットされたレピータ情報を確認する/レピータを追加する
自局設定		
自局コールサイン	DVモードで運用するために自局のコールサインを登録します	
送信メッセージ	1:~6:、OFF、1:~5:	自局コールサインの登録、選択をしたいとき メッセージを送信したいとき
DV設定		
DVモードで運用するときに設定します		
トーンコントロール		
受信音質(低音)	カット、 標準 、強調	受信時の音質(低音)を変更(カット/標準/強調)したいとき
受信音質(高音)	カット、 標準 、強調	受信時の音質(高音)を変更(カット/標準/強調)したいとき
受信バースプースト	OFF、ON	受信時の音質(低音)をさらに強調したいとき
送信音質(低音)	カット、 標準 、強調	送信時の音質(低音)を変更(カット/標準/強調)したいとき
送信音質(高音)	カット、 標準 、強調	送信時の音質(高音)を変更(カット/標準/強調)したいとき
自動応答	OFF、ON、音声、位置(メインのみ)、位置(メイン/サブ)	自局宛の信号を受信すると、自動で応答させたいとき
DVデータ送信	PTT、 オート	パソコンでDVデータを入力し、マイクロホンの[PTT]を押すと送信する設定に変更したいとき
デジタルモニター	オート 、デジタル、アナログ	DVモードでモニターしたときのモード設定
デジタルレピータセット	OFF、ON	レピータコールサインの設定がアクセスしたレピータと一致しない場合、正しいレピータコールサインを自動で設定したいとき

★ あらかじめ本製品にSDカードを取り付けておいてください。

12 MENU 画面について

■ 各設定項目と初期値について(つづき)

※太字は、工場出荷時の状態に表示される各項目の初期値です。

DV自動検出	OFF, ON	DVの同期信号を検出できなかった場合に、FMモードで受信したいとき
受信履歴記録(RPT) BK	全て、最新のみ OFF, ON	レピータからの履歴を受信履歴に残したいとき デジタルコールサインスケルチで通信している2局に対して同時に呼びかけたいとき ※電源を入れなおすと、解除(OFF)します
EMR	OFF, ON	全局に対して、至急、呼び出しをしたいとき ※電源を入れなおすと、解除(OFF)します
EMR AFLレベル	0～19～32	EMR信号を受信したときの音量を設定したいとき
スピーチ	音声アナウンスについて設定します	
受信コールサインスピーチ	OFF, ON(カーチャック), ON(全て)	受信時に読み上げる相手局コールサイン設定を変更したいとき
RX>CSスピーチ	OFF, ON	[RX>CS]で応答設定時に相手局コールサインを読み上げ上げてほしいとき
ダイヤルスピーチ	OFF, ON	選択した周波数を読み上げてほしいとき
モードスピーチ	OFF, ON	選択した受信モード(電波型式)を読み上げてほしいとき
スピーチ言語	英語、日本語	音声アナウンスの発音言語
アルファベット	標準、フォネティックコード	「アルファ、ブラボー、チャーリー…」の読み上げに変更したいとき
スピーチ速度	遅い、速い	読み上げる速度を変更したいとき
スピーチレベル	0～7～9	読み上げる音量を変更したいとき
DTMF	DTMFメモリー機能について設定します	
DTMFメモリー	d0:～d9:, dA:～dD:, d*:, d#:	DTMFコードを保存したいとき
DTMFスピード	100ms, 200ms, 300ms, 500ms	DTMFコードを送出する時間を変更するとき
交信/受信履歴ログ	交信や受信履歴のログをとりたいたいに設定します	
交信ログ★	OFF, ON	交信ログを開始したいとき
受信履歴ログ★	OFF, ON	受信履歴ログを開始したいとき
CSVフォーマット	区切り/小数点	
区切り/小数点	区切り「,」 小数点「.」、区切り「;」 小数点「,」、区切り「:」 小数点「,」	CSVフォーマットの区切りと小数点表示を変更したいとき
日付	yyyy/mm/dd, mm/dd/yyyy, dd/mm/yyyy	CSVフォーマットの日付表示を変更したいとき
機能設定	各種機能を設定します	
スケルチ/アッテネーター選択	OFF, Sメータースケルチ、アッテネーター	ノイズスケルチ以外にSメータースケルチやアッテネーターを使用したいとき
スケルチ遅延時間	ショート、ロング	信号強度の変化に応じて、スケルチが閉じる時間を自動的に長くしたいとき
ファン設定	低速、中速、高速、オート	電源を入れたときからファンを動作させたいとき
ダイヤル加速	OFF, ON	[DIAL]の可変速度を変更したいとき
オートレピータ	OFF, ON	周波数がレピータの周波数帯に設定されたとき、DUP/TONEを自動で設定したいとき
リモコンマイクキー	付属のHM-207を設定します	
受信/待機中	[F-1]:BAND/BANK [F-2]:モニター	受信中に操作できる機能を変更するとき
送信中	[F-1]:T-CALL [F-2]:---	送信中に操作できる機能を変更するとき
UP/DOWNマイクキー	別売品のHM-154を設定します	
受信/待機中	[UP]:UP [DN]:DOWN	受信中に操作できる機能を変更するとき
送信中	[UP]:--- [DN]:---	送信中に操作できる機能を変更するとき
ワンタッチPTT(リモコンマイク)	OFF, ON	付属のリモコンマイクを1回押すだけで送信/受信を切り替えたいとき
PTTロック	OFF, ON	[PTT]操作による送信を禁止したいとき
ビジーロックアウト	OFF, ON	受信中だけ、[PTT]による送信を禁止したいとき
タイムアウトタイマー	OFF, 1分、3分、5分、10分、15分、30分	連続送信できる時間を制限したいとき
運用バンド	シングル、オール	使用する周波数帯を固定させたいとき
マイクゲイン	1～4	マイクロホンの感度を調整したいとき(数字の小さいほど感度が低く声が小さい)

ご注意 説明に使用しているレピータリストは、お客様の無線機にプリセットされた内容と異なる場合がありますのでご了承ください。

12 MENU 画面について

■ 各設定項目と初期値について(つづき)

※太字は、工場出荷時の状態に表示される各項目の初期値です。

タッチ操作(サブバンド)	MAIN選択、機能操作	SUBバンドの操作可能範囲をひろげたいとき
キーボード入力方式(英数)	テンキー、フルキーボード	英数入力時にフルキーボード表示にしたいとき
データスピード	4800bps、 9600bps	[DATA]ジャックに接続された外部機器間との伝送速度を設定したいとき
CI-V		
CI-Vアドレス	01h~ 8Ch ~DFh	CI-Vシステムを利用して、本製品を外部コントロールするときのアドレスを変更するとき
CI-Vボーレート	4800bps、9600bps、19200bps、 オート	CI-Vシステムを利用して、本製品を外部コントロールするときのデータ通信速度を指定するとき
CI-Vトランシーブ	OFF 、ON	CI-Vシステムを利用して、トランシーブ機能をONにするとき
CI-V Bluetooth→REMOTE トランシーブアドレス	00h ~DFh	Bluetooth®接続時で、[SP2]端子が弊社製無線機とCI-Vシステムでつながっているとき、データ端末からBluetooth®経由で本製品に送った信号が弊社製無線機にまで反映してしまうのを防ぎたいとき
ヘテロダイン		
ヘテロダイン(Aバンド VHF)	ノーマル 、リバース	左バンドのVHF帯で受信スプリアスを受信してSメーターが振れるとき
ヘテロダイン(Aバンド UHF)	ノーマル 、リバース	左バンドのUHF帯で受信スプリアスを受信してSメーターが振れるとき
ヘテロダイン(Bバンド UHF)	ノーマル 、リバース	右バンドのUHF帯で受信スプリアスを受信してSメーターが振れるとき
パワーオフ(コントローラー切断)	OFF、 ON	電源ON時、無線機本体からコントローラーがはずれたときに、本体の電源を切るための設定
ディスプレイ設定		
バックライト	表示関係を変更するときに設定します 1~ 8	バックライトの明るさを変更したいとき
オートディマー	OFF 、オート-OFF、オート-1~7	一定時間操作しないとき、バックライトの明るさを変更します
オートディマータイマー	5秒 、10秒	明るさを変える時間を変更したいとき
タッチ操作(ディマー時)	解除のみ、 解除&実行	ディマー設定時、タッチ操作で解除と同時に操作を実行させたいとき
LCDコントラスト	1~ 8 ~16	ディスプレイのコントラストを調整するとき
受信コールサイン表示	OFF、 ノーマル 、受信ホールド、ホールド	呼び出してきた相手局コールサインとメッセージの表示方法を変更するとき
受信位置インジケータ	OFF、 ON	受信した相手局に位置情報が含まれていることを示すインジケータをON/OFFしたいとき
受信位置表示	OFF、 ON(メイン/サブ) 、ON(メインのみ)	受信した相手局の位置情報表示(ポップアップ画面)の表示対象を変更したいとき
受信位置表示時間	5秒、 10秒 、15秒、30秒、ホールド	位置情報表示(ポップアップ画面)の表示時間を変更したいとき
自動応答位置表示	OFF、 ON	受信した位置情報(自動応答による)をダイアログで表示させる設定
送信コールサイン表示	OFF、 相手局 、自局	送信時に表示させるコールサインを変更したいとき
スクロール速度	遅い、 速い	セットモードの表示内容、受信メッセージ、コールサイン、メモリーチャンネルネームなどの表示をスクロールしたときの表示速度を遅くしたいとき
オープニングメッセージ	OFF、 ON	オープニングメッセージ(電源を入れた直後に表示されるアイコムロゴと商品名、自局のコールサイン)表示をスキップさせたいとき
電圧表示(パワーオン)	OFF、 ON	電源を入れた時に表示される、電圧表示をスキップさせたいとき
表示単位		
緯度/経度	ddd° mm.mm'、ddd° mm'ss"	緯度/経度表示形式を変更したいとき
高度/距離	m 、ft/ml	高度/距離表示形式を変更したいとき
速度	km/h 、mph、knots	速度表示形式を変更したいとき
気温	° C 、°F	気温表示形式を変更したいとき
気圧	hPa 、mb、mmHg、inHg	気圧表示形式を変更したいとき
雨量	mm 、inch	雨量表示形式を変更したいとき
風速	m/s 、mph、knots	風速表示形式を変更したいとき
表示言語	英語、 日本語	DR画面、およびMENU画面などの表示内容を英語にしたいとき

12 MENU 画面について

■ 各設定項目と初期値について(つづき)

※太字は、工場出荷時の状態に表示される各項目の初期値です。

システム言語	英語、日本語	ディスプレイに表示できる文字を、英語だけにしたいとき
サウンド設定	操作音などを変更するときに設定します	
ビープレベル	0～9	タッチ操作時やポケットビープ機能動作時のビープ音量を変更したいとき
操作音	OFF、ON	操作音や各種機能動作時のビープ音を出すときの設定
ホームCHビープ	OFF、ON	特定のCHを選択したことを音で確認したいとき
バンドエッジビープ	OFF、ON	バンドが切り替わったことを音で確認したいとき
スキャンストップビープ	OFF、ON	スキャン一時停止時にビープ音を鳴らしたいとき
スタンバイビープ	OFF、ON、ON(自局宛て:高音)	DVモード時に、相手局が話し終わったあとに鳴る「ピッ」という音を消したいとき
サブバンドミュート	OFF、ミュート、ビープ、ミュート&ビープ	サブバンドの受信音をミュートしたり受信時にビープを鳴らしたいとき
スコープAF出力	OFF、ON	バンドスコープ機能使用時、スイープ先の受信音を出す設定
時間設定	カレンダーや時計などを変更するときに設定します	
日時設定		
日付	2000/01/01～2099/12/31	日付を変更したいとき
時間	0:00～23:59	時刻を変更したいとき
GPS時刻補正	OFF、オート	GPSに含まれる時間情報を使って時刻を補正したくないとき
UTCオフセット	-14:00～+9:00～+14:00	UTC(協定世界時)との時差を設定するとき
オートパワーオフ	OFF、30分、60分、90分、120分	タッチやダイヤル操作が一定時間なかったときに、自動で電源をOFFにしたいとき
SDカード★	SDカードについて設定します	
設定ロード		
ファイル選択	全て、自局設定以外、レピータリストのみ	SDカードのデータを読み込むとき
設定セーブ		
〈〈新規ファイル〉〉		新規ファイルを保存するとき
ファイル選択		既存のファイルに上書き保存するとき
インポート/エクスポート	CSVデータの読み込みと書き出しを設定します	
インポート	レピータリスト、相手局コールサイン、GPSメモリー	本製品にインポートしたいとき
エクスポート	レピータリスト、相手局コールサイン、GPSメモリー	本製品からエクスポートしたいとき
CSVフォーマット		
区切り/小数点	区切り「,」 小数点「.」、区切り「;」 小数点「.」、区切り「;」 小数点「,」	CSVフォーマットの区切りと小数点表示を変更したいとき
日付	yyyy/mm/dd、mm/dd/yyyy、dd/mm/yyyy	CSVフォーマットの日付表示を変更したいとき
SDカード情報	SDカードの空き容量、録音できる時間を確認したいとき	
フォーマット	SDカードを初期化したいとき	
アンマウント	SDカードを取りはずしたいとき	
Bluetooth設定	Bluetooth®対応機器を使用するときに設定します	
Bluetooth®	OFF、ON	Bluetooth®ユニットを搭載した本製品とBluetooth®対応機器を接続したいとき
自動接続	OFF、ON	ペアリング済みのBluetooth®対応機器と自動で接続する相手機器と接続したいとき
ペアリング/接続		
機器検索		
ヘッドセット検索		ヘッドセットを検索したいとき
データ端末検索		データ端末を検索したいとき
ペアリングリスト		ペアリング済みの相手機器一覧が見たいとき
〈相手機器からペアリング〉		相手機器から本製品にペアリングしたいとき
ヘッドセット設定		
AF出力切替	ヘッドセットのみ、ヘッドセット & スピーカー	ヘッドセット使用時、ヘッドセット以外からも音声を出したいとき

★ あらかじめ本製品にSDカードを取り付けておいてください。

12 MENU 画面について

■ 各設定項目と初期値について(つづき)

※太字は、工場出荷時の状態で表示される各項目の初期値です。

VOX		
VOX	OFF、ON	ヘッドセット使用時に、マイクロホンに向かって呼びかけるだけで、送信されるようにしたいとき
VOXゲイン	OFF、1~ 5 ~10	ヘッドセットのマイク感度の設定を変更したいとき ※マイク音声レベルが設定値以上になると送信、設定値以下になると送信を停止します
VOXディレイ	0.5秒 、1.0秒、1.5秒、2.0秒、2.5秒、3.0秒	VOX機能使用時、音声入力がなくなっても送信状態を保持する時間
VOXタイムアウトタイマー	OFF、1分、2分、 3分 、4分、5分、10分、15分	VOX機能使用時、連続で送信する時間を制限したいとき
アイコムヘッドセット		
パワーセーブ	OFF、ON	別売品のVS-3を使用するときの設定です。 パワーセーブ機能を使用したいとき
ワンタッチPTT	OFF、ON	PTTを押すだけで送信/受信を切り替えたいとき
PTTビーブ	OFF、ON	送信時のビーブ音を出したいとき
カスタマイズキービーブ	OFF、ON	カスタマイズキーを使用したときにビーブ音を鳴らしたいとき
カスタマイズキー	[PLAY] : ---、[FWD] : UP、 [RWD] : DOWN	ヘッドセットの各キーに割り当てられた機能を変更したいとき
データ端末設定		
シリアルポート機能	CI-V (エコーバック OFF)、CI-V (エコーバック ON)、DVデータ	データ端末を使用するときの設定です。 データ端末を使ってCI-Vシステムを運用、またはDVデータを送出したいとき
自機器情報		
Bluetoothユニット初期化		Bluetooth®ユニット(UT-133)の情報を確認したいとき Bluetooth®ユニット(UT-133)を初期化したいとき
その他		
	本体情報表示、クローン、タッチパネル補正、リセット操作についてまとめています	
本体情報		
電圧表示		電圧を確認するとき
バージョン情報		本体ファームウェアのバージョンを確認するとき
クローン		
クローンモード		クローニングするとき
タッチスクリーン補正		タッチスクリーンを補正するとき
リセット		
パーシャルリセット		パーシャルリセットするとき
オールリセット		オールリセットするとき

★ あらかじめ本製品にSDカードを取り付けておいてください。

12 MENU 画面について

■ DUP/トーン設定について

オフセット周波数 (初期設定：0.000.00)

DUP/トーン設定 > オフセット周波数

レピータ運用やデュプレックス運用時に使用するシフト幅を設定します。

- 0.000.00～59.995.00 (MHz)の範囲で設定する
※430MHz帯の初期設定値は、5.000.00です。
※シフト方向(DUP+/DUP-)は、「F-3」画面で[DUP]をタッチして表示される画面で設定します。(※P11-4)
※DR機能を運用中は、値の変更ができません。確認だけになります。

レピータトーン周波数 (初期設定：88.5)

DUP/トーン設定 > レピータトーン周波数

レピータ運用などで使用するレピータトーン(トーンエンコーダー)の周波数(Hz)を設定します。

- 67.0～254.1 (50波)の中から選択する(下表参照)

トーン周波数(Hz)

67.0	88.5	114.8	151.4	177.3	203.5	250.3
69.3	91.5	118.8	156.7	179.9	206.5	254.1
71.9	94.8	123.0	159.8	183.5	210.7	
74.4	97.4	127.3	162.2	186.2	218.1	
77.0	100.0	131.8	165.5	189.9	225.7	
79.7	103.5	136.5	167.9	192.8	229.1	
82.5	107.2	141.3	171.3	196.6	233.6	
85.4	110.9	146.2	173.8	199.5	241.8	

TSQL周波数 (初期設定：88.5)

DUP/トーン設定 > TSQL周波数

トーンスケルチ運用で使用するトーンエンコーダー/デコーダーの周波数(Hz)を設定します。

- 67.0～254.1 (50波)の中から選択する(下表参照)

トーン周波数(Hz)

67.0	88.5	114.8	151.4	177.3	203.5	250.3
69.3	91.5	118.8	156.7	179.9	206.5	254.1
71.9	94.8	123.0	159.8	183.5	210.7	
74.4	97.4	127.3	162.2	186.2	218.1	
77.0	100.0	131.8	165.5	189.9	225.7	
79.7	103.5	136.5	167.9	192.8	229.1	
82.5	107.2	141.3	171.3	196.6	233.6	
85.4	110.9	146.2	173.8	199.5	241.8	

トーンバースト (初期設定：OFF)

DUP/トーン設定 > トーンバースト

トーンスケルチ運用時、送信から受信に切り替えたときに通話相手のスピーカーから一瞬出る「ザツ」という不快なノイズ(雑音)を抑える機能です。

- OFF : トーンバースト機能を無効にする
- ON : トーンバースト機能を有効にする

DTCSコード (初期設定：023)

DUP/トーン設定 > DTCSコード

DTCSスケルチ運用で使用するDTCSエンコーダー/デコーダーのコードを設定します。

- 023～754(104コード)の中から選択する(下表参照)

DTCSコード

023	054	125	165	245	274	356	445	506	627	732
025	065	131	172	246	306	364	446	516	631	734
026	071	132	174	251	311	365	452	523	632	743
031	072	134	205	252	315	371	454	526	654	754
032	073	143	212	255	325	411	455	532	662	
036	074	145	223	261	331	412	462	546	664	
043	114	152	225	263	332	413	464	565	703	
047	115	155	226	265	343	423	465	606	712	
051	116	156	243	266	346	431	466	612	723	
053	122	162	244	271	351	432	503	624	731	

DTCS極性 (初期設定：Both N)

DUP/トーン設定 > DTCS極性

送信側、受信側それぞれの組み合わせで、コードの送出、または検出の位相を設定します。

- Both N : 送信/受信とも反転しない
- TN-RR : 送信側は反転しないで、受信側を反転する
- TR-RN : 送信側を反転し、受信側は反転しない
- Both R : 送信/受信とも反転する

デジタルコード (初期設定：00)

DUP/トーン設定 > デジタルコード

デジタルコードスケルチ運用に使用するコードを設定します。

- 00～99の範囲で設定する

12 MENU 画面について

■ メモリー管理について

メモリーチャンネル

メモリー管理 > メモリーチャンネル

メモリーチャンネルを削除、コピー、編集することができます。

最大1000件の運用情報を登録できます。

A～Zの26バンクあり、1バンクあたり最大100件のメモリーチャンネルを登録できます。

- 全チャンネル
:すべてのチャンネルを一覧表示する
- A～Z :バンクごとに登録されたチャンネルを一覧表示する

■ スキャン設定について

停止時間 (初期設定：10秒)

スキャン設定 > 停止時間

スキャン中に信号を受信すると、スキャンは一時停止します。ここでは、一時停止する時間を設定します。

設定時間だけ受信をつづけ、設定時間を過ぎると再スタートします。

- 2秒～20秒(2秒ステップ)
:停止中に信号がなくなると、「再スタート時間」の条件で再スタートする
- ホールド :信号を受信中は一時停止をつづけ、信号がなくなると、「再スタート時間」の条件で再スタートする

再スタート時間 (初期設定：2秒)

スキャン設定 > 再スタート時間

スキャンが一時停止後、信号がなくなってからの再スタートの条件(時間)を設定する項目です。

- 0秒 :信号がなくなると同時に再スタートする
- 1秒～5秒 :信号がなくなると1秒～5秒の各設定時間後に、再スタートする
- ホールド :信号がなくなっても一時停止状態を保持する
※再スタートするときは、[DIAL]を操作します。
※「停止時間」が2秒～20秒の場合、停止時間を優先して再スタートします。

一時スキップ時間 (初期設定：5分)

スキャン設定 > 一時スキップ時間

スキャン中に停止した周波数を、そのスキャン中だけスキャンの対象からはずす時間を設定します。

VFOスキャン、メモリースキャン、DRスキャンで動作します。

- 5分/10分/15分から選択する

コールチャンネル

メモリー管理 > コールチャンネル

コールチャンネルを削除、コピー、編集することができます。コールチャンネルをバンド別(144MHz帯と430MHz帯)に2ch(C0とC1)ずつ登録できます。

なお、バンドごとの初期設定は、次のとおりです。

- C0(144) :145.000 FM
- C1(144) :145.300 DV
- C0(430) :433.000 FM
- C1(430) :433.300 DV

プログラムスキップ (初期設定：ON)

スキャン設定 > プログラムスキップ

VFOスキャン時に、「PSKIP」を指定したM-CHの登録周波数を飛び越す(スキップする)、プログラムスキップ機能を設定します。

- OFF :プログラムスキップスキャンを運用しない
- ON :VFOモードのスキャン時に、「PSKIP」を指定しているM-CHの登録周波数をスキップする

バンクリンク (初期設定：A:☑～Z:☑)

スキャン設定 > バンクリンク

バンクリンクスキャンで、リンクするバンクを選択します。

- A～Zの中から選択し、タッチすることによってリンク機能をON/OFFする

プログラムスキャンエッジ

スキャン設定 > プログラムスキャンエッジ

プログラムスキャンの上限周波数、および下限周波数を削除、コピー、編集することができます。

25組(00～24)の上限周波数および下限周波数を登録できます。

プログラムスキャンエッジごとに、スキャンネーム、チューニングステップ、受信モードを設定できます。

なお、初期設定は、次のとおりです。

- 00 :118.000 - 550.000
- 01 :144.000 - 146.000
- 02 :430.000 - 440.000

※プログラムスキャンエッジの登録のしかた(☞P4-11)

12 MENU 画面について

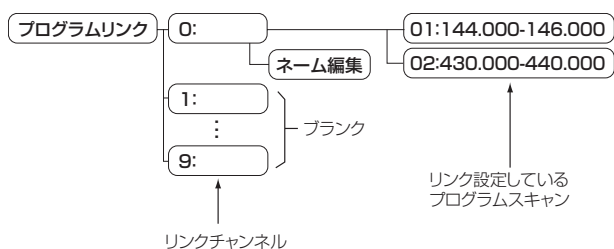
■ スキャン設定について(つづき)

プログラムリンク (初期設定：下図参照)

スキャン設定 > プログラムリンク

プログラムリンクスキャンで、複数のプログラムスキャン(00~24)をリンクチャンネル(0~9)に設定します。

工場出荷時のプログラムリンク階層



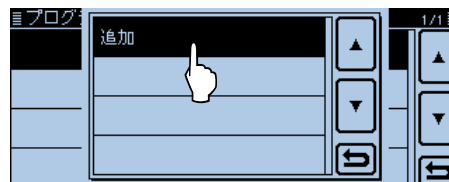
工場出荷時、「プログラムリンク No.0」に、「01:144.000-146.000」と、「02:430.000-440.000」をリンク設定しています。

※プログラムスキャンエッジを複数登録している場合、リンクチャンネルを選択した状態で [QUICK] をタッチするとリンクを追加できます。

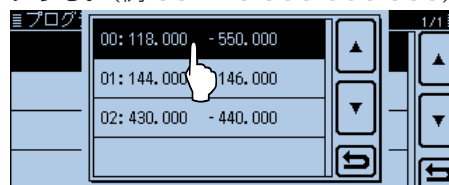
※2組以上のプログラムスキャンエッジ(※P12-11)が書き込まれていないとき、または選択したリンクチャンネルに追加できるプログラムスキャン(00~24)がないときは、「追加」が表示されません。

〈リンク設定のしかた〉

- ①リンクチャンネル(0~9)をタッチする。
- ②[QUICK]をタッチする。
- ③「追加」をタッチする。



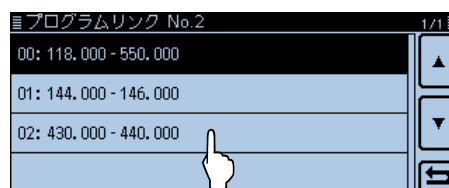
- ④登録されているプログラムスキャン(00~24)をタッチする。(例 00:118.000-550.000)



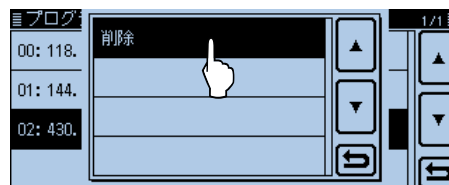
- ⑤ [MENU] をタッチする。
●MENU画面を解除します。

〈リンク解除のしかた〉

- ①リンクチャンネル(0~9)をタッチする。
- ②リンクを解除したいプログラムスキャン(00~24)をタッチする。(例 02:430.000-440.000)



- ③ [QUICK] をタッチする。
- ④ 「削除」をタッチする。



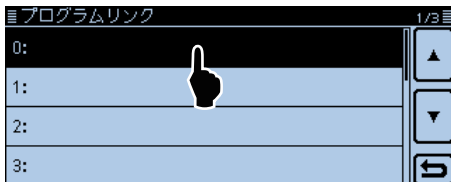
- ⑤ [MENU] をタッチする。
●MENU画面を解除します。

12 MENU 画面について

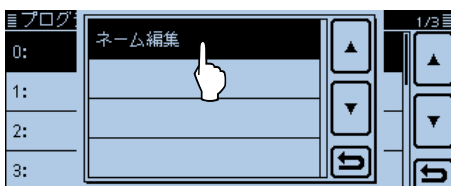
■ スキャン設定について(つづき)

〈リンクネームの編集〉

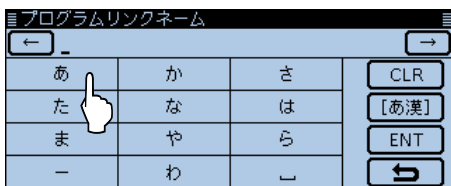
- ① ネーム編集したいリンクチャンネル(0～9)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。



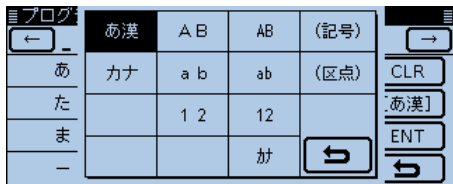
- ② 「ネーム編集」をタッチする。
● 編集画面が表示されます。



- ③ 入力したい文字がある枠を数回タッチして、1文字目の文字を選択する。(例 お)



- 入力できる文字は、英数字とカタカナ、ひらがな、漢字、および記号です。
- 入力モードの切り替えは、現在の入力モード(「あ漢」, 「カナ」, 「AB」, 「ab」, 「12」)などをタッチします。



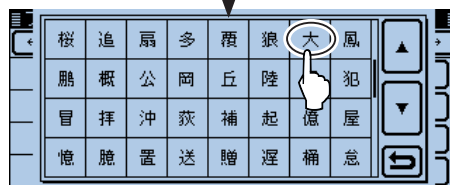
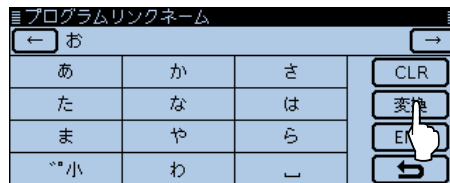
※「AB」, 「ab」, 「12」選択時は、「AB⇄12」, または「ab⇄12」が表示されます。タッチするとアルファベット入力と数字入力が切り替わります。

※アルファベット入力時は、「A/a」が表示されます。タッチすることにより、大文字/小文字が切り替わります。

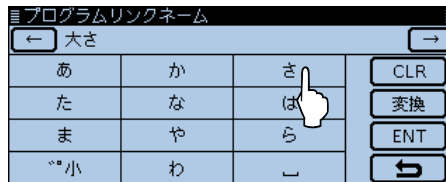
※アルファベット入力時、「QUICK」をタッチすると、フルキーボード入力を選択できます。

※ひらがな、カタカナ入力時は、「° 小」が表示されます。タッチすることにより、(例「は」, 「ば」と「ぱ」), または(例「っ」と「つ」)が切り替わります。濁音(ば)、半濁音(ぱ)、促音(っ)と拗音(あいうえおやゆよ)が入力できます。

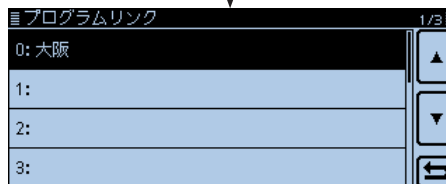
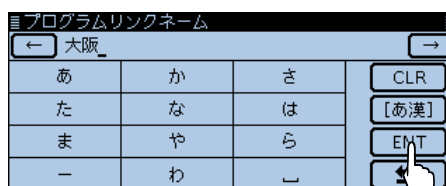
- 漢字を選択したいときは、ひらがなを選択し、「変換」をタッチすると、文字一覧が表示されます。



- 「CLR」をタッチすると、選択した文字が削除されます。
 - 「_」をタッチすると、スペースが挿入されます。
- ④ 「←」「→」をタッチしてカーソルを移動させる。
● 文字を入力する桁を選択します。
- ⑤ 手順③、④を繰り返し、全角8文字(半角16文字)以内(スペースを含む)でネームを入力します。
(例 2桁: 阪)



- ⑥ ネームを入力したら、「ENT」をタッチする。



- ⑦ 「MENU」をタッチする。
● MENU画面を解除します。

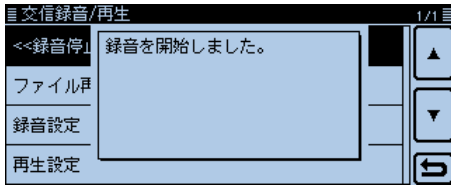
12 MENU 画面について

■ 音声メモ(録音/再生機能)について

《録音開始》

音声メモ > 交信録音/再生 > 《録音開始》

[《録音開始》]をタッチすると、「録音を開始しました。」を表示して、交信内容(音声)の録音を開始します。



- 録音中は、「《録音停止》」が表示されます。
※あらかじめ、本製品にSDカードを取り付けてください。
※[《録音停止》]をタッチすると、録音を停止します。
※一度録音を開始すると、録音停止操作をするまでは電源を入れなおしても録音状態は保持されます。

ファイル再生

音声メモ > 交信録音/再生 > ファイル再生

SDカードに保存された交信内容(音声)を再生するときに操作します。

「ファイル再生」をタッチすると、SDカードに保存されたファイルが格納されているフォルダーを表示します。

※あらかじめ、本製品にSDカードを取り付けてください。

《再生のしかた》

- ① 再生したいファイルが格納されているフォルダーをタッチする。
- ② 再生したいファイルをタッチする。
 - 「ボイスプレーヤー」画面を表示して、選択したファイルを再生します。
 - 早送りや巻き戻しのしかたなどは、「再生中の操作について」(10章)をご覧ください。
- ③ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面を解除します。

ご参考に

◎SDカードに作成されるフォルダー名は、下記のようになります。

例)2014年1月1日の録音:20140101

◎フォルダーの中に作成されるファイル名は、下記のようになります。

例) 2014年1月1日15時30分00秒の録音:
20140101_153000

- 録音した音声は、Wav形式のファイルで保存されます。
※本製品の画面上では、拡張子は表示されません。
- SDカードに保存された音声は、パソコンでも再生できます。

録音モード

(初期設定値:送受信)

音声メモ > 交信録音/再生 > 録音設定 > 録音モード

工場出荷時、相手局からの受信信号、自局の送信信号の両方を録音できるように設定されています。

- 送受信 :送信と受信の音声をSDカードに録音する
- 受信のみ :受信した音声だけをSDカードに録音する

【録音中に送信したとき】

「ファイル分割」項目の設定が「OFF」のときは、録音を一時停止する

「ファイル分割」項目の設定が「ON」のときは、新しいファイルを作成する

受信録音条件

(初期設定値:スケルチ連動)

音声メモ > 交信録音/再生 > 録音設定 > 受信録音条件

受信時にスケルチの状態に連動して録音するかどうか設定します。

- 常時 :受信信号の有無に関わらず録音する
- スケルチ連動 :信号を受信しているあいだ(スケルチが開いているあいだ)だけ録音する
※スケルチが閉じた直後は、2秒間録音を継続します。

ファイル分割

(初期設定値:ON)

音声メモ > 交信録音/再生 > 録音設定 > ファイル分割

録音を開始したときに作成されるファイルについて設定します。

- OFF :録音を開始すると、作成されたファイルに録音をつづける
※ファイル容量が2GBを超えると、新しく作成されたファイルで録音をつづけます。
- ON :送信→受信、受信→送信に切り替わったとき、およびスケルチがいったん閉じたとき(受信録音条件がスケルチ連動のときのみ)、新しいファイルが作成されて録音する

12 MENU 画面について

■ 音声メモ(録音/再生機能)について(つづき)

PTT自動録音 (初期設定値: OFF)

音声メモ > 交信録音/再生 > 録音設定 > PTT自動録音

送信すると、交信内容(音声)の録音を開始する機能です。

※Bluetooth®接続でのVOX機能、CI-Vからの送信でも自動録音を開始できます。

※「録音モード」の設定で「受信のみ」を設定した場合は、送信信号は録音しません。

- OFF : 送信しても、録音をしない
- ON : 送信すると録音を開始し、以下の条件で録音状態を停止する

【停止条件】

◎送信終了後、10秒以上送信しないとき

◎送信終了後、10秒以上受信信号がないとき

※送信終了後、10秒以内に信号を受信すると、受信した信号も録音します。

受信終了後、さらに10秒以内に信号を受信すると、その受信した信号も録音します。

※AMで、スケルチを開いて運用している場合は、約10分後に録音を停止します。

◎送信中に、周波数、運用モード、受信モード(電波型式)を変更したとき

スキップ時間 (初期設定値: 10秒)

音声メモ > 交信録音/再生 > 再生設定 > スキップ時間

録音した交信内容(音声)の巻き戻し、または早送りされる時間についての設定です。

- 3秒/5秒/10秒/30秒から選択する

※早送りや巻き戻しのしかたなどは、10-3ページをご覧ください。

DV自動応答

音声メモ > DV自動応答

自動応答機能で送出する応答用音声を、最大10秒録音できます。

※あらかじめ、本製品にSDカードを取り付けてください。

※「DV自動応答」画面の詳しい操作は、「自動応答機能の使いかた」(P7-12)をご覧ください。

■ ボイス送信について

録音

ボイス送信 > 録音

ボイス送信(P13-2)で送出する送信用音声を最大1分録音できます。

T1～T4まで合計4件の送信用音声を録音できます。

※あらかじめ本製品にSDカードを取り付けておいてください。

※交信録音中は、ボイス送信の録音ができません。

リピート時間 (初期設定値: 5秒)

ボイス送信 > 送信設定 > リピート時間

ボイス送信で繰り返し送信するときの送信間隔についての設定です。

録音した音声を送信したあと、設定した時間(1秒～15秒)を経過することにより、自動で送信します。

※リピート送信は、最大10分間で、その時間を超えると送信を停止します。10分を超えても送信中の場合は、設定した音声が最後まで送信されます。

- 1秒～15秒(1秒ステップ)

送信モニター (初期設定値: ON)

ボイス送信をしたとき、送信時の音声を本製品のスピーカーから出力する機能です。

- OFF : 送信モニター機能を使用しない
- ON : 送信モニター機能を使用する

《送信》

あらかじめ録音しておいたボイス送信用の録音内容を送出します。

リピート欄にチェックマークを入れると、録音した音声をリピート時間の設定(P13-3)にしたがって最大10分間、繰り返し送信します。

※10分を越えても送信中の場合は、設定した音声が最後まで送信されます。

※リピート送信中に下記の操作をすると、リピート送信を解除します。

- [PTT]で送信したとき
- 電源を入れなおしたとき
- [VOL]、[⏻]以外のキーを操作したとき

12 MENU 画面について

■ GPSについて

GPS選択 (初期設定：内蔵GPS)

GPS > GPS設定 > GPS選択

自局の位置情報を取得する方法を設定します。

- OFF :GPSレシーバーからの位置情報を使用しない
- 内蔵GPS :本製品に内蔵のGPSレシーバーからの位置情報を自動で取得する
- マニュアル:自局の位置情報(緯度/経度/高度)を手動で入力する

マニュアル位置

(初期設定：緯度：0°00'00" N 経度：0°00'00" E
高度：-----m)

GPS > GPS設定 > マニュアル位置

自局の位置情報として、緯度経度、高度を手動で入力します。

※測位した自局の位置情報や、GPSメモリーの登録情報をコピーできます。(☞P8-20)

GPS出力(DATA端子) (初期設定：OFF)

GPS > GPS設定 > GPS出力

本製品に内蔵のGPSレシーバーからの位置情報を[DATA]ジャックから出力するための設定です。

- OFF :[DATA]ジャックからGPSデータを出力しない
- ON :[DATA]ジャックからGPSデータを出力する

【ご参考】

[GPS選択]項目で「OFF」や「マニュアル」を設定すると、[DATA]ジャックからGPSデータを出力しません。

また、[DATA]ジャックから簡易データ(☞P7-15)を出力したい場合は、この設定をOFFにします。

GPS送信モード (初期設定：OFF)

GPS > GPS送信モード

DVモード運用時、GPSを利用して位置情報を送出するGPS送信モードを設定します。

- OFF :GPSの位置情報を送出しない
- D-PRS :D-PRSに対応する形式で、GPSの位置情報を送出する
- NMEA :NMEA方式で、GPSの位置情報を送出する

アンプロトアドレス (初期設定：API51,DSTAR*)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > アンプロトアドレス

D-PRSで使用するアンプロトアドレスを56文字(半角カタカナ、英数字、記号)まで入力できます。

送信フォーマット (初期設定：ポジション)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット

D-PRSで位置情報を送出するときのフォーマットを選択します。

- ポジション :送信局が移動局、または固定局であることを示すフォーマット
- オブジェクト :イベント開催情報や地震発生地域などの情報を送るためのフォーマット
- アイテム :時間情報を不要とするレピータの情報や設置アンテナの情報などを送るためのフォーマット
- 気象 :位置情報とともに、気象装置などから得た気象情報を送るためのフォーマット

シンボル (初期設定：車)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > ポジション > シンボル

シンボルは、自局の運用形態を伝えるためのアイコンです。選択したシンボルチャンネル(「1」～「4」)に設定されたシンボルが、D-PRSで位置情報とともに送出されます。

〈任意のシンボル(2文字)を選択する場合〉

- ① 変更したいシンボルチャンネル(「1」～「4」)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。
- ② 「シンボルの編集」をタッチする。
- ③ [QUICK]をタッチする。
- ④ 「直接入力」をタッチする。
- ⑤ [+]/[-]をタッチして、1文字目の文字を選択します。
 - 1文字目に入力できる文字は、「/」と「¥」、英数字だけです。
- ⑥ [+]/[-]をタッチして、2桁目の文字を選択します。
 - 2文字目に入力できる文字は、英数字と記号です。
- ⑦ [SET]をタッチする。
 - 手順①で選択したチャンネルのシンボルを確定します。

〈登録済みのシンボルを選択する場合〉

- ① 変更したいシンボルチャンネル(「1」～「4」)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。
- ② 「シンボルの編集」をタッチする。
- ③ 変更したいシンボルをタッチする。
 - 手順①で選択したチャンネルのシンボルを確定します。

12 MENU 画面について

■ GPSについて(つづき)

【ご参考】

下記は本製品で使用できるシンボルと名称です。

シンボル No.1		1/19
	[P] 警察署	▲
	[#] デジビータ	▼
	[G] ゲートウェイ	↺
	[A] 小型飛行機	↺

シンボル No.1		8/19
	[F] DFステーション	▲
	[A] 大型航空機	▼
	[W] ウェザーステーション	↺
	[A] パラボラアンテナ	↺

シンボル No.1		15/19
	[W] ウェザーサービス(オーバーレイ)	▲
	[W] 無線機	▼
	[I] アイコム無線機	↺
	[A] 飛行機	↺

シンボル No.1		2/19
	[+] 赤十字	▲
	[H] 自宅	▼
	[X] X	↺
	[.] 赤いドット	↺

シンボル No.1		9/19
	[A] 救急車	▲
	[B] 自転車	▼
	[F] 消防車	↺
	[G] グライダー	↺

シンボル No.1		16/19
	[W] ウェザーステーション(オーバーレイ)	▲
	[D] ダイヤモンド(オーバーレイ)	▼
	[R] RACES	↺
	[T] 強風警告の旗	↺

シンボル No.1		3/19
	[F] 火災	▲
	[C] キャンプ場	▼
	[B] バイク	↺
	[T] 鉄道	↺

シンボル No.1		10/19
	[H] 病院	▲
	[S] ショップ	▼
	[T] トラック	↺
	[N] ノード	↺

シンボル No.1		17/19
	[H] ハムショップ	▲
	[C] 工事現場	▼
	[S] 速度表示	↺
	[T] 三角形	↺

シンボル No.1		4/19
	[C] 車	▲
	[C] カヌー	▼
	[E] アイボール	↺
	[S] 学校	↺

シンボル No.1		11/19
	[D] 犬	▲
	[R] レピータ	▼
	[B] ボート	↺
	[L] 大型トレーラー	↺

シンボル No.1		18/19
	[C] スモールサークル	▲
	[S] 船(オーバーレイ)	▼
	[C] 電巻	↺
	[T] トラック(オーバーレイ)	↺

シンボル No.1		5/19
	[U] PCユーザー	▲
	[B] 気球	▼
	[P] 警察	↺
	[R] RV	↺

シンボル No.1		12/19
	[V] バン	▲
	[A] ハムANT@QTH	▼
	[#] デジビータ(オーバーレイ)	↺
	[G] ゲートウェイ(オーバーレイ)	↺

シンボル No.1		19/19
	[V] バン(オーバーレイ)	▲
	[A] 事故/交通障害	▼
	[O] その他	↺

シンボル No.1		6/19
	[S] スペースシャトル	▲
	[S] SSTV	▼
	[B] バス	↺
	[A] ATV	↺

シンボル No.1		13/19
	[H] 自宅(HF)	▲
	[?] ?印	▼
	[C] サークル	↺
	[P] 公園	↺

シンボル No.1		7/19
	[W] ウェザーサービス	▲
	[H] ヘリコプター	▼
	[Y] ヨット	↺
	[H] 徒歩	↺

シンボル No.1		14/19
	[C] 車(オーバーレイ)	▲
	[L] 灯台	▼
	[S] 衛星	↺
	[S] 晴れ	↺

12 MENU 画面について

■ GPSについて(つづき)

SSID (初期設定：---)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > ポジション > SSID

自局の運用形態を他局に伝えるために、コールサインのあとに付加するAPRS®に準拠したSSIDを選択します。

※コールサインの文字列にスペースを含むかどうかによって、SSIDの付加方法は異なります。

- --- : コールサインの文字列に含まれるスペースを「-」に置換する
※スペース以降に文字がない場合は、「-」に置換せず、スペースを削除する
例： JA3YUA → JA3YUA
JA3YUA A → JA3YUA-A
- (-0) : SSIDを付加しない
※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除する
例： JA3YUA → JA3YUA
JA3YUA A → JA3YUA
- -1~-15 : 「-1」から「-15」のSSIDを付加する
※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除して、選択したSSID(例：-9)を付加する
例： JA3YUA → JA3YUA-9
JA3YUA A → JA3YUA-9
- -A~-Z : 「-A」から「-Z」のSSIDを付加する
※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除して、選択したSSID(例：-Z)を付加する
例： JA3YUA → JA3YUA-Z
JA3YUA A → JA3YUA-Z

SSIDについて

SSIDはD-PRS(APRS®)において、運用形態をあらわすために使用されており、一般的にはガイドラインに沿って運用されています。

ガイドラインは、機器やネットワークなどインフラ環境の変化にともない、運用方法が変わる場合があります。

D-PRSやAPRS®の関連のウェブサイトで最新のガイドラインを確認し、適切に設定してください。

コメント

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > ポジション > コメント

D-PRSで位置情報とともに送出するコメント(半角カタカナ、英数字、記号)を設定します。

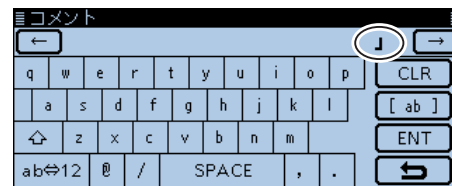
合計4件のコメントを登録できます。

データ拡張(☞P12-19)と高度(☞P12-18)の設定により、コメントに入力できる文字数は異なります。

データ拡張	高度	入力できる文字数
OFF	OFF	43文字以内*
OFF	ON	35文字以内
進路/速度	OFF	36文字以内
進路/速度	ON	28文字以内
出力/地上高/ゲイン/指向性	OFF	36文字以内
出力/地上高/ゲイン/指向性	ON	28文字以内

*初期設定

※下図のように、「J」(有効範囲表示)が画面に表示された場合は、「J」以降の文字列を送出しませんので、ご注意ください。



有効範囲表示(28文字以内の場合)

タイムスタンプ (初期設定：OFF)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > ポジション > タイムスタンプ

D-PRSで位置情報とともに、GPSより取得した時間情報(UTC表示)を送出するタイムスタンプ機能を設定します。

- OFF : 時間情報を送出しない
- 日時分 : 日、時間、分の情報を送出する
- 時分秒 : 時間、分、秒の情報を送出する

※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときは、送出されません。

高度 (初期設定：OFF)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > ポジション > 高度

D-PRSで位置情報とともに、GPSより取得した高度情報の送出を設定します。

- OFF : 高度情報を送出しない
- ON : 高度情報を送出する

※設定により、[コメント]に入力できる文字数が異なります。

12 MENU 画面について

■ GPSについて(つづき)

データ拡張 (初期設定: OFF)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > ポジション > データ拡張

D-PRSで無線機本体の位置情報とともに、進路/速度情報や出力/地上高/ゲイン/指向性情報を送出するデータ拡張機能を設定します。

- OFF :送ししない
- 進路/速度 :内蔵GPSで取得した進路/速度情報を送出する
 - ※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときは、進路/速度情報が取得できないため送出不されます。
 - ※この設定で送信した場合、移動局として扱われます。
- 出力/地上高/ゲイン/指向性 :位置情報とともに、設定している出力/地上高/ゲイン/指向性情報を送出する
 - ※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときも送しします。
 - ※この設定で送信した場合、固定局として扱われます。
 - ※この設定で送信した場合、従来機(IC-7100、ID-51、ID-31、IC-9100/M、ID-80、ID-880/D、ID-92、IC-2820G、ID-800、ID-91、IC-U1、IC-V1)で受信すると、「出力/地上高/ゲイン/指向性」情報は、GPS情報として受信できません。

※設定により、「コメント」に入力できる文字数が異なります。

出力 (初期設定: OW)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > ポジション > 出力

※「データ拡張」画面で「出力/地上高/ゲイン/指向性」を設定しているとき、この項目を表示します。

位置情報とともに送化する固定局の送信出力を、「OW」、「1W」、「4W」、「9W」、「16W」、「25W」、「36W」、「49W」、「64W」、「81W」から選択します。

地上高 (初期設定: 3m)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > ポジション > 地上高

※「データ拡張」画面で「出力/地上高/ゲイン/指向性」を設定しているとき、この項目を表示します。

位置情報とともに送化する固定局のアンテナの地上高情報を、「3m」、「6m」、「12m」、「24m」、「49m」、「98m」、「195m」、「390m」、「780m」、「1561m」から選択します。

※[高度/距離表示単位]の設定が「ft」(フィート)のときは、「10ft」、「20ft」、「40ft」、「80ft」、「160ft」、「320ft」、「640ft」、「1280ft」、「2560ft」、「5120ft」から選択します。

ゲイン (初期設定: 0dB)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > ポジション > ゲイン

※「データ拡張」画面で「出力/地上高/ゲイン/指向性」を設定しているとき、この項目を表示します。

位置情報とともに送化する固定局のアンテナのゲインを、「0dB」、「1dB」、「2dB」、「3dB」、「4dB」、「5dB」、「6dB」、「7dB」、「8dB」、「9dB」から選択します。

指向性 (初期設定: 無指向性)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > ポジション > 指向性

※「データ拡張」画面で「出力/地上高/ゲイン/指向性」を設定しているとき、この項目を表示します。

位置情報とともに送化するアンテナの指向性情報を、「無指向性」、「45°NE」、「90°E」、「135°SE」、「180°S」、「225°SW」、「270°W」、「315°NW」、「360°N」から選択します。

オブジェクト名

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > オブジェクト > オブジェクト名

オブジェクト局の名称を、9文字以内で設定します。

データタイプ (初期設定: Live Object)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > オブジェクト > データタイプ

オブジェクト局の状態を設定します。

- Live Object :オブジェクト局が有効
- Killed Object :オブジェクト局が無効

シンボル (初期設定: 無線機)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > オブジェクト > シンボル

シンボルは、オブジェクト局の運用形態を伝えるためのアイコンです。

設定されたシンボルが、D-PRSで位置情報とともに送化されます。

※シンボルの一覧表(☞P12-17)

〈シンボルを直接入力する場合〉

- ① [QUICK]をタッチする。
- ② 「直接入力」をタッチする。
- ③ [+]/[-]をタッチして、1文字目の文字を選択します。
 - 1文字目に入力できる文字は、「/」と「¥」、英数字だけです。
- ④ [+]/[-]をタッチして、2桁目の文字を選択します。
 - 2文字目に入力できる文字は、英数字と記号です。
- ⑤ [SET]をタッチする。

12 MENU 画面について

■ GPSについて(つづき)

コメント

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > オブジェクト > コメント

オブジェクト局のコメント(半角カタカナ、英数字、記号)を設定します。

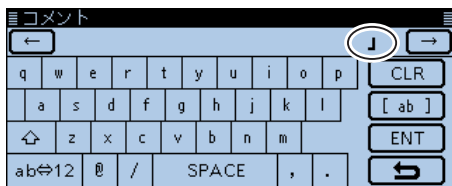
登録できるコメント数は、1件です。

オブジェクト設定の中にある「データ拡張」と、「位置情報」(高度)の有無により、コメントに入力できる文字数は異なります。

データ拡張	高度	入力できる文字数
OFF	なし	43文字以内*
OFF	あり	35文字以内
進路/速度	なし	36文字以内
進路/速度	あり	28文字以内
出力/地上高/ゲイン/指向性	なし	36文字以内
出力/地上高/ゲイン/指向性	あり	28文字以内

*初期設定

※下図のように、「J」(有効範囲表示)が画面に表示された場合は、「J」以降の文字列を送出しませんので、ご注意ください。



有効範囲表示(28文字以内の場合)

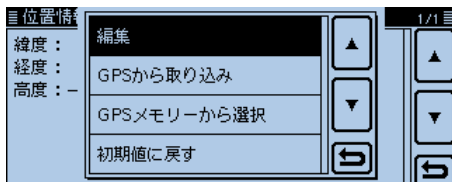
位置情報

(初期設定：緯度：0°00'00" N 経度：0°00'00" E
高度：-----m)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > オブジェクト > 位置情報

自局が知らせたい場所の緯度経度、高度情報を表示します。

[QUICK]をタッチすると、入力方法の選択項目が表示されます。

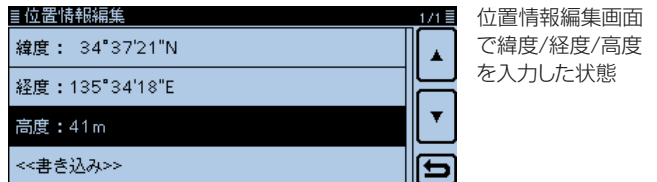


※知らせたい場所をGPSメモリーに登録しているときは、QUICK MENU画面の「GPSメモリーから選択」を選択すると、GPSメモリーの位置情報をコピーできます。(P8-20)

※「GPS選択」画面で「内蔵GPS」を設定し、GPSレシーバーからの位置情報を取得できているときは、QUICK MENU画面の「GPSから取り込み」を選択すると、測位した自局の位置情報をコピーできます。(P8-20)

<手でオブジェクトの位置情報を入力する場合>

- ① QUICK MENU画面で「編集」をタッチする。
 - 位置情報編集画面が表示されます。
- ② 「緯度」をタッチする。
 - 緯度編集画面が表示されます。
- ③ 緯度を入力する。
 - 「N/S」をタッチすると、北緯と南緯が切り替わります。
- ④ [ENT]をタッチする。
- ⑤ 「経度」をタッチする。
 - 経度編集画面が表示されます。
- ⑥ 経度を入力する。
 - 「E/W」をタッチすると、東経と西経が切り替わります。
- ⑦ [ENT]をタッチする。
- ⑧ 「高度」をタッチする。
 - 高度編集画面が表示されます。
- ⑨ 高度を入力する。
 - 数字を入力後、「+/-」をタッチすると、「+」と「-」が切り替わります。
- ⑩ [ENT]をタッチする。
- ⑪ 「<<書き込み>>」をタッチする。
 - 「書き込みますか?」画面が表示されます。
- ⑫ [はい]をタッチする。
 - 位置情報が入力されます。



位置情報編集画面で緯度/経度/高度を入力した状態

データ拡張

(初期設定：OFF)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > オブジェクト > データ拡張

オブジェクト局の進路方向と速度情報を送出するデータ拡張機能を設定します。

- OFF :送出しない
- 進路/速度 :内蔵GPSで取得した進路/速度情報を送出する
※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときは、進路/速度情報が取得できないため送出されません。
- 出力/地上高/ゲイン/指向性 :位置情報とともに、設定している出力/地上高/ゲイン/指向性情報を送出する
※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときも送出します。
※この設定で送信した場合、本製品より以前に販売された弊社製品で受信すると、「出力/地上高/ゲイン/指向性」情報は、GPS情報として受信できません。

※設定により、「コメント」に入力できる文字数が異なります。

12 MENU 画面について

■ GPSについて(つづき)

進路 (初期設定: 0°)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > オブジェクト > 進路

※「データ拡張」画面で「進路/速度」を設定しているとき、この項目を表示します。

オブジェクト局の進路情報を、「0°」～「360°」のあいだで設定します。

速度 (初期設定: 0km/h)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > オブジェクト > 速度

※「データ拡張」画面で「進路/速度」を設定しているとき、この項目を表示します。

オブジェクト局の速度情報を設定します。

出力 (初期設定: 0W)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > オブジェクト > 出力

※「データ拡張」画面で「出力/地上高/ゲイン/指向性」を設定しているとき、この項目を表示します。

オブジェクト局の送信出力を、「0W」、「1W」、「4W」、「9W」、「16W」、「25W」、「36W」、「49W」、「64W」、「81W」から選択します。

地上高 (初期設定: 3m)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > オブジェクト > 地上高

※「データ拡張」画面で「出力/地上高/ゲイン/指向性」を設定しているとき、この項目を表示します。

オブジェクト局のアンテナの地上高情報を、「3m」、「6m」、「12m」、「24m」、「49m」、「98m」、「195m」、「390m」、「780m」、「1561m」から選択します。

※「高度/距離表示単位」の設定が「ft」(フィート)のときは、「10ft」、「20ft」、「40ft」、「80ft」、「160ft」、「320ft」、「640ft」、「1280ft」、「2560ft」、「5120ft」から選択します。

ゲイン (初期設定: 0dB)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > オブジェクト > ゲイン

※「データ拡張」画面で「出力/地上高/ゲイン/指向性」を設定しているとき、この項目を表示します。

オブジェクト局のアンテナのゲインを、「0dB」、「1dB」、「2dB」、「3dB」、「4dB」、「5dB」、「6dB」、「7dB」、「8dB」、「9dB」から選択します。

指向性 (初期設定: 無指向性)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > オブジェクト > 指向性

※「データ拡張」画面で「出力/地上高/ゲイン/指向性」を設定しているとき、この項目を表示します。

位置情報とともに送出するアンテナの指向性情報を、「無指向性」、「45°NE」、「90°E」、「135°SE」、「180°S」、「225°SW」、「270°W」、「315°NW」、「360°N」から選択します。

SSID (初期設定: ---)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > オブジェクト > SSID

オブジェクト局の運用形態を他局に伝えるために、コールサインのあとに付加するAPRS®に準拠したSSIDを選択します。

※コールサインの文字列にスペースを含むかどうかによって、SSIDの付加方法は異なります。

- --- : コールサインの文字列に含まれるスペースを「-」に置換する
※スペース以降に文字がない場合は、「-」に置換せず、スペースを削除する
例: JA3YUA → JA3YUA
JA3YUA_A → JA3YUA_A
- (-0) : SSIDを付加しない
※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除する
例: JA3YUA → JA3YUA
JA3YUA_A → JA3YUA
- -1~-15 : 「-1」から「-15」のSSIDを付加する
※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除して、選択したSSID (例: -9)を付加する
例: JA3YUA → JA3YUA_9
JA3YUA_A → JA3YUA_9
- -A~-Z : 「-A」から「-Z」のSSIDを付加する
※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除して、選択したSSID (例: -Z)を付加する
例: JA3YUA → JA3YUA_Z
JA3YUA_A → JA3YUA_Z

SSIDについて

SSIDはD-PRS (APRS®)において、運用形態をあらわすために使用されており、一般的にはガイドラインに沿って運用されています。

ガイドラインは、機器やネットワークなどインフラ環境の変化にともない、運用方法が変わる場合があります。

D-PRSやAPRS®の関連のウェブサイトで最新のガイドラインを確認し、適切に設定してください。

12 MENU画面について

■ GPSについて(つづき)

タイムスタンプ (初期設定：日時分)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > オブジェクト > タイムスタンプ

データ送出時の時間情報(UTC時間)を送出するタイムスタンプ機能を設定します。

- 日時分：日、時間、分の情報を送出する
- 時分秒：時間、分、秒の情報を送出する

アイテム名

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > アイテム > アイテム名

アイテム局の名称を、9文字以内で設定します。

データタイプ (初期設定：Live Item)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > アイテム > データタイプ

アイテム局の状態を設定します。

- Live Item :アイテム局が有効
- Killed Item :アイテム局が無効

シンボル (初期設定：無線機)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > アイテム > シンボル

シンボルは、アイテム局の運用形態を伝えるためのアイコンです。設定されたシンボルが、D-PRSで位置情報とともに送出されます。

※シンボルの入力方法(☞P12-19)

※シンボルの一覧表(☞P12-17)

コメント

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > アイテム > コメント

アイテム局のコメント(半角カタカナ、英数字、記号)を設定します。登録できるコメント数は、1件です。

アイテム設定の中にある「データ拡張」と、「位置情報」(高度)の有無により、コメントに入力できる文字数は異なります。

データ拡張	高度	入力できる文字数
OFF	なし	43文字以内*
OFF	あり	35文字以内
進路/速度	なし	36文字以内
進路/速度	あり	28文字以内
出力/地上高/ゲイン/指向性	なし	36文字以内
出力/地上高/ゲイン/指向性	あり	27文字以内

*初期設定

※下図のように、「J」(有効範囲表示)が画面に表示された場合は、「J」以降の文字列を送出しませんので、ご注意ください。



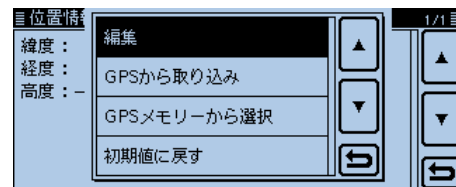
有効範囲表示(28文字以内の場合)

位置情報

(初期設定：緯度：0°00'00" N 経度：0°00'00" E
高度：-----m)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > アイテム > 位置情報

自局が知らせたい場所の緯度経度、高度情報を表示します。**[QUICK]**をタッチすると、入力方法の選択項目が表示されます。

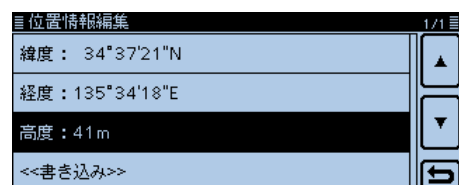


※知らせたい場所をGPSメモリーに登録しているときは、QUICK MENU画面の「GPSメモリーから選択」を選択すると、GPSメモリーの位置情報をコピーできます。(☞P8-20)

※「GPS選択」画面で「内蔵GPS」を設定し、GPSレシーバーからの位置情報を取得できているときは、QUICK MENU画面の「GPSから取り込み」を選択すると、測位した自局の位置情報をコピーできます。(☞P8-20)

〈手動でオブジェクトの位置情報を入力する場合〉

- ① QUICK MENU画面で「編集」をタッチする。
 - 位置情報編集画面が表示されます。
- ② 「緯度」をタッチする。
 - 緯度編集画面が表示されます。
- ③ 緯度を入力する。
 - 「N/S」をタッチすると、北緯と南緯が切り替わります。
- ④ **[ENT]**をタッチする。
- ⑤ 「経度」をタッチする。
 - 経度編集画面が表示されます。
- ⑥ 経度を入力する。
 - 「E/W」をタッチすると、東経と西経が切り替わります。
- ⑦ **[ENT]**をタッチする。
- ⑧ 「高度」をタッチする。
 - 高度編集画面が表示されます。
- ⑨ 高度を入力する。
 - 数字を入力後、「+/-」をタッチすると、「+」と「-」が切り替わります。
- ⑩ **[ENT]**をタッチする。
- ⑪ 「<<書き込み>>」をタッチする。
 - 「書き込みますか?」画面が表示されます。
- ⑫ **[はい]**をタッチする。
 - 位置情報が入力されます。



位置情報編集画面で緯度/経度/高度を入力した状態

12 MENU 画面について

■ GPSについて(つづき)

データ拡張 (初期設定：OFF)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > アイテム > データ拡張

D-PRSで無線機本体の位置情報とともに、進路方向と速度情報を送出するデータ拡張機能を設定します。

- OFF :送ししない
- 進路/速度 :内蔵GPSで取得した進路/速度情報を送出する
※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときは、進路/速度情報が取得できないため送出されません。
- 出力/地上高/ゲイン/指向性 :位置情報とともに、設定している出力/地上高/ゲイン/指向性情報を送出する
※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときも送出します。
※この設定で送信した場合、従来機(IC-7100、ID-51、ID-31、IC-9100/M、ID-80、ID-880/D、ID-92、IC-2820G、ID-800、ID-91、IC-U1、IC-V1)で受信すると、「出力/地上高/ゲイン/指向性」情報は、GPS情報として受信できません。

※「進路/速度」、または「出力/地上高/ゲイン/指向性」を選択したときは、[コメント]に入力できる文字数が異なります。

進路 (初期設定：0°)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > アイテム > 進路

※「データ拡張」画面で「進路/速度」を設定しているとき、この項目を表示します。
アイテム局の進路情報を、「0°」～「360°」のあいだで設定します。

速度 (初期設定：0km/h)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > アイテム > 速度

※「データ拡張」画面で「進路/速度」を設定しているとき、この項目を表示します。
アイテム局の速度情報を設定します。

出力 (初期設定：0W)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > アイテム > 出力

※「データ拡張」画面で「出力/地上高/ゲイン/指向性」を設定しているとき、この項目を表示します。
アイテム局の送信出力を、「0W」、「1W」、「4W」、「9W」、「16W」、「25W」、「36W」、「49W」、「64W」、「81W」から選択します。

地上高 (初期設定：3m)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > アイテム > 地上高

※「データ拡張」画面で「出力/地上高/ゲイン/指向性」を設定しているとき、この項目を表示します。
アイテム局のアンテナの地上高情報を、「3m」、「6m」、「12m」、「24m」、「49m」、「98m」、「195m」、「390m」、「780m」、「1561m」から選択します。
※「高度/距離表示単位」の設定が「ft」(フィート)のときは、「10ft」、「20ft」、「40ft」、「80ft」、「160ft」、「320ft」、「640ft」、「1280ft」、「2560ft」、「5120ft」から選択します。

ゲイン (初期設定：0dB)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > アイテム > ゲイン

※「データ拡張」画面で「出力/地上高/ゲイン/指向性」を設定しているとき、この項目を表示します。
アイテム局のアンテナのゲインを、「0dB」、「1dB」、「2dB」、「3dB」、「4dB」、「5dB」、「6dB」、「7dB」、「8dB」、「9dB」から選択します。

指向性 (初期設定：無指向性)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > アイテム > 指向性

※「データ拡張」画面で「出力/地上高/ゲイン/指向性」を設定しているとき、この項目を表示します。
送出するアンテナの指向性情報を、「無指向性」、「45° NE」、「90° E」、「135° SE」、「180° S」、「225° SW」、「270° W」、「315° NW」、「360° N」から選択します。

12 MENU 画面について

■ GPSについて(つづき)

SSID (初期設定：---)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > アイテム > SSID

アイテム局の運用形態を他局に伝えるために、コールサインのあとに付加するAPRS[®]に準拠したSSIDを選択します。

※コールサインの文字列にスペースを含むかどうかによって、SSIDの付加方法は異なります。

- --- : コールサインの文字列に含まれるスペースを「-」に置換する
※スペース以降に文字がない場合は、「-」に置換せず、スペースを削除する
例： JA3YUA → JA3YUA
JA3YUA A → JA3YUA-A
- (-0) : SSIDを付加しない
※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除する
例： JA3YUA → JA3YUA
JA3YUA A → JA3YUA
- -1~-15 : 「-1」から「-15」のSSIDを付加する
※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除して、選択したSSID (例：-9)を付加する
例： JA3YUA → JA3YUA-9
JA3YUA A → JA3YUA-9
- -A~-Z : 「-A」から「-Z」のSSIDを付加する
※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除して、選択したSSID (例：-Z)を付加する
例： JA3YUA → JA3YUA-Z
JA3YUA A → JA3YUA-Z

SSIDについて

SSIDはD-PRS (APRS[®])において、運用形態をあらわすために使用されており、一般的にはガイドラインに沿って運用されています。

ガイドラインは、機器やネットワークなどインフラ環境の変化にともない、運用方法が変わる場合があります。

D-PRSやAPRS[®]の関連のウェブサイトで最新のガイドラインを確認し、適切に設定してください。

SSID (初期設定：---)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > 気象 > SSID

気象局の運用形態を他局に伝えるために、コールサインのあとに付加するAPRS[®]に準拠したSSIDを選択します。

※コールサインの文字列にスペースを含むかどうかによって、SSIDの付加方法は異なります。

- --- : コールサインの文字列に含まれるスペースを「-」に置換する
※スペース以降に文字がない場合は、「-」に置換せず、スペースを削除する
例： JA3YUA → JA3YUA
JA3YUA A → JA3YUA-A
- (-0) : SSIDを付加しない
※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除する
例： JA3YUA → JA3YUA
JA3YUA A → JA3YUA
- -1~-15 : 「-1」から「-15」のSSIDを付加する
※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除して、選択したSSID (例：-9)を付加する
例： JA3YUA → JA3YUA-9
JA3YUA A → JA3YUA-9
- -A~-Z : 「-A」から「-Z」のSSIDを付加する
※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除して、選択したSSID (例：-Z)を付加する
例： JA3YUA → JA3YUA-Z
JA3YUA A → JA3YUA-Z

SSIDについて

SSIDはD-PRS (APRS[®])において、運用形態をあらわすために使用されており、一般的にはガイドラインに沿って運用されています。

ガイドラインは、機器やネットワークなどインフラ環境の変化にともない、運用方法が変わる場合があります。

D-PRSやAPRS[®]の関連のウェブサイトで最新のガイドラインを確認し、適切に設定してください。

シンボル (初期設定：ウェザーステーション)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > 気象 > シンボル

シンボルは、気象局の運用形態を伝えるためのアイコンです。

設定されたシンボルが、D-PRSで位置情報とともに送出されます。

※シンボルの入力方法(☞P12-19)

※シンボルの一覧表(☞P12-17)

12 MENU 画面について

■ GPSについて(つづき)

コメント

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > 気象 > コメント

D-PRSで位置情報とともに送出するコメント(半角カタカナ、英数字、記号)を43文字以内で設定します。

登録できるコメント数は、1件です。

タイムスタンプ (初期設定：日時分)

GPS > GPS送信モード > D-PRS > 送信フォーマット > 気象 > タイムスタンプ

データ送出時の時間情報(UTC時間)を送出するタイムスタンプ機能を設定します。

- OFF : 時間情報を送出しない
- 日時分 : 日、時間、分の情報を送出する
- 時分秒 : 時間、分、秒の情報を送出する

GPSセンテンス (初期設定：GGA)

GPS > GPS送信モード > NMEA > GPSセンテンス

NMEAで位置情報を送出するセンテンスを選択します。本製品で使用できるGPSセンテンスは、「RMC」、「GGA」、「GLL」、「VTG」、「GSA」、「GSV」の6種類ですが、同時に設定できるのは4種類までです。

※「GPS自動送信」画面で「5秒」に設定したあと、4種類のGPSセンテンスを選択すると、「10秒」に自動補正されます。(P12-29)

※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときは、「VTG」、「GSA」、「GSV」のセンテンスは送出されません。

ご注意

本製品でGSVセンテンスをONにしてGPSメッセージを送信すると、GSVセンテンス非対応の機種(IC-2820G/DG、ID-800/D、ID-91、IC-U1、IC-V1)ではGPSメッセージを正しく表示できません。

この場合は、GSVセンテンスをOFFにしてください。

【ご参考】

各センテンスで送出される情報について

※測位時間は、協定世界時(UTC)で表示します。

センテンス	緯度/経度	高度	測位時間(UTC)	年月日	測位状態	2D/3D	進路(真北)	速度(ノット)
RMC	○		○	○	○		○	○
GGA	○	○	○		○			
GLL	○		○		○			
VTG							○	○
GSA					○	○		
GSV								

センテンス	上記以外の情報
RMC	磁気偏差、測位モード
GGA	使用衛星数、HDOP、ジオイド高、DGPS補正情報エイジ、DGPS基準局ID
GLL	測位モード
VTG	進路(磁北)、速度(km/h)、測位モード
GSA	受信衛星PRN番号、PDOP、HDOP、VDOP
GSV	メッセージ総数、メッセージ番号、可視衛星数、衛星情報(衛星番号、仰角、方位角、S/N比)

GPSメッセージ

GPS > GPS送信モード > NMEA > GPSメッセージ

NMEAで送信するメッセージを20文字(半角カタカナ、英数字、記号)まで入力できます。(P8-28)

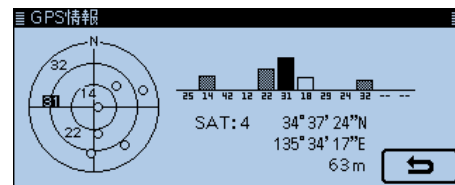
【ご参考】

NMEAでメッセージを送信しないときは、QUICK MENU画面で入力したメッセージを削除してください。

GPS情報

GPS > GPS情報

GPS衛星の存在する方位/仰角、衛星番号や受信状態を表示します。(P8-12)



例：追尾衛星5個

○(白丸)	未追尾衛星
通常文字(例：01)	追尾衛星(信号弱)
反転文字(例：01)	追尾衛星(信号強)
SAT	追尾衛星数
高度	-----m(未測位/2D(追尾衛星3個)/測位結果(追尾衛星4個以上))
緯度	--°--'---"- (未測位)/測位結果
経度	---°--'---"- (未測位)/測位結果

12 MENU 画面について

■ GPSについて(つづき)

GPSポジション

GPS > GPSポジション

自局、相手局、GPSアラーム設定の位置情報を表示します。
(☞P8-3)

[▲]/[▼]をタッチすると、「MY」画面、「RX」画面、「MEM」画面、「ALM」画面が切り替わります。

下表の★印は、QUICK MENU画面で表示を切り替えられる項目です。

「MY」画面(自局の位置情報)

コンパス★	自局の進行方向
緯度	自局の緯度
経度	自局の経度
GL	自局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
高度	自局の高度
速度	自局の移動速度
時刻	GPSで受信している現在の時刻
進路	自局の進行方向(角度)

※マニュアルで自局の位置情報を設定(☞P12-16)しているときは、緯度、経度、高度、GL(グリッド・ロケータ)、時刻(内部時計)を表示します。

「RX」画面(相手局の位置情報)

相手局の送信モード、または送信フォーマットによって表示される項目とその項目の意味が異なります。

ここでは受信状態別に一覧表示します。

※相手局に位置情報がない場合は表示しません。

<1 NMEAを受信した場合>

コンパス★	自局から見た相手局の方向
緯度	相手局の緯度
経度	相手局の経度
GL	相手局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
高度	相手局の高度
距離	相手局との距離
進路	相手局の進行方向(角度)
速度	相手局の移動速度
測位時間	相手局が位置情報を測位した時間
コールサイン	相手局のコールサイン

<2 D-PRSのポジション(移動局)を受信した場合>

コンパス★	自局から見た相手局の方向
緯度	相手局の緯度
経度	相手局の経度
GL	相手局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
高度	相手局の高度
距離	相手局との距離
進路	相手局の進行方向(角度)
速度	相手局の移動速度
シンボル	相手局のシンボル
SSID	相手局のSSID
測位時間	相手局が位置情報を測位した時間
コールサイン	相手局のコールサイン(SSID付き)

<3 D-PRSのポジション(固定局)を受信した場合>

コンパス★	自局から見た相手局の方向
緯度	相手局の緯度
経度	相手局の経度
GL	相手局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
高度	相手局の高度
距離	相手局との距離
出力	相手局の送信出力情報
地上高	相手局のアンテナの地上高情報
ゲイン	相手局のアンテナのゲイン情報
指向性	相手局のアンテナの指向性情報
シンボル	相手局のシンボル
SSID	相手局のSSID
測位時間	相手局が位置情報を測位した時間
コールサイン	相手局のコールサイン(SSID付き)

12 MENU 画面について

■ GPSについて(つづき)

<4 D-PRSのオブジェクト局/アイテム局を受信した場合>

コンパス*	自局から見たオブジェクト局/アイテム局の方向
緯度	オブジェクト局/アイテム局の緯度
経度	オブジェクト局/アイテム局の経度
GL	オブジェクト局/アイテム局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
高度	オブジェクト局/アイテム局の高度
距離	オブジェクト局/アイテム局との距離
進路	オブジェクト局/アイテム局の進行方向(角度)
速度	オブジェクト局/アイテム局の移動速度
出力	オブジェクト局/アイテム局の送信出力情報
地上高	オブジェクト局/アイテム局のアンテナの地上高情報
ゲイン	オブジェクト局/アイテム局のアンテナのゲイン情報
指向性	オブジェクト局/アイテム局のアンテナの指向性情報
シンボル	オブジェクト局/アイテム局のシンボル
SSID	相手局のSSID
タイムスタンプ	相手局がオブジェクト局の情報を送信した時間
コールサイン	相手局のコールサイン(SSID付き)

※オブジェクト局、またはアイテム局が無効であれば、「KILLED」を表示します。

<5 D-PRSの気象局を受信した場合>

コンパス*	自局から見た相手局の方向
緯度	相手局の緯度
経度	相手局の経度
GL	相手局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
気温	相手局から受けた気温情報
雨量	相手局から受けた直近1時間の降雨量
風向	相手局から受けた風向情報
風速	相手局から受けた風速情報
気圧	相手局から受けた気圧情報
湿度	相手局から受けた湿度情報
シンボル	相手局のシンボル
SSID	相手局のSSID
タイムスタンプ	相手局が気象情報を取得した時間
コールサイン	相手局のコールサイン(SSID付き)

「MEM」画面(GPS個別メモリー設定の位置情報)

コンパス*	自局から見たGPSメモリーの方向
緯度	GPSメモリーに設定した緯度
経度	GPSメモリーに設定した経度
GL	GPSメモリーに設定した緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
距離	自局との距離
GPSメモリー*	GPSメモリーに設定しているネーム

「ALM」画面(GPSアラーム設定の位置情報)

コンパス*	自局から見たGPSアラーム設定地の方向
緯度	GPSアラームに設定した緯度
経度	GPSアラームに設定した経度
GL	GPSアラームに設定した緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
距離	自局との距離
GPSアラーム*	受信/グループ名/個別のメモリーネームを表示

12 MENU 画面について

■ GPSについて(つづき)

GPSメモリー

GPS > GPSメモリー

GPSポジション(☞P12-26)や受信履歴(☞P12-31)に含まれる位置情報、よく利用する場所の位置情報の追加など、最大200CHまで登録できます。

GPSメモリーは、「(グループなし)」というグループと、A～Zの合計27グループに分けて登録できます。

GPSメモリーの表示内容

(グループなし)	A～Zのグループに属さないGPSメモリーグループ
A～Z:グループネーム	各グループに登録されているGPSメモリーグループ

GPSメモリーのグループ(A～Z)

グループネーム	グループの名称(全角8文字/半角16文字以内)
---------	-------------------------

※グループネームを編集できます。(☞P8-33)

GPSメモリーチャンネル

ネーム	GPSメモリーチャンネルの名称(全角8文字/半角16文字以内)
日付	登録した日付
時間	登録した時間
緯度	登録位置(緯度)
経度	登録位置(経度)
高度	登録した高度
グループ	所属しているグループとグループの名称

※「GPSポジション」画面から相手局の位置情報を登録したときは、相手局のコールサインがGPSメモリーネームになります。

GPSメモリーネームなど、GPSメモリーの内容はQUICK MENU画面で編集できます。(☞P8-29～P8-32)

アラーム選択

(初期設定: OFF)

GPS > GPSアラーム > アラーム選択

GPSアラームを鳴らす対象を選択します。

- OFF :GPSアラーム機能をOFFにする
- 受信 :受信した相手局と自局の距離が近づいたときに、アラームを鳴らす
- グループ :指定したグループにあるいずれかの位置に近づいたときに、アラームを鳴らす
※すべてのメモリーにアラームを設定したい場合もこの項目を選択する
- メモリー :指定したメモリーの位置に近づいたときアラームを鳴らす

アラームエリア(グループ)

(初期設定: 0'15")

GPS > GPSアラーム > アラームエリア(グループ)

GPSアラームを鳴らす範囲を設定します。

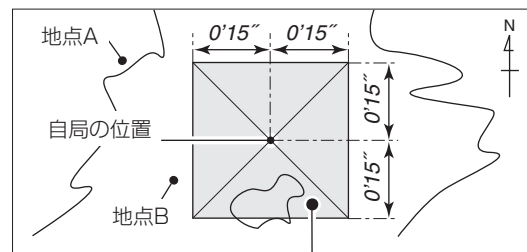
自局の現在地を中心に、東西南北にそれぞれ設定した値(距離)の範囲(正方形)を監視し、GPSアラームを設定した局がその範囲に入るとアラームが鳴ります。

※アラーム選択の「グループ」で、「全て」、「(グループなし)」、または「A～Z」に設定しているときに有効な機能です。(☞P8-36)

位置情報の表示形式は「ポジションフォーマット」画面の設定によります。

- ddd° mm.mm' 表示形式の場合
0.08' ~ 59.99' の範囲(0.01' ステップ)で設定する
- ddd° mm:ss" 表示形式の場合
0'05" ~ 59'59" の範囲(0'01" ステップ)で設定する

【例】 自局の位置: 35°00'00N/135°00'00E
アラームエリア1 :0'15" (初期設定値)



地点C ビープ音が
3回鳴る

上図のエリア(網かけ部)に対象となる局が入ると、GPSアラームが鳴り、GPSアラーム表示が点滅します。

12 MENU画面について

■ GPSについて(つづき)

アラームエリア(受信/メモリー) (初期設定:両方)

GPS > GPSアラーム > アラームエリア(受信/メモリー)

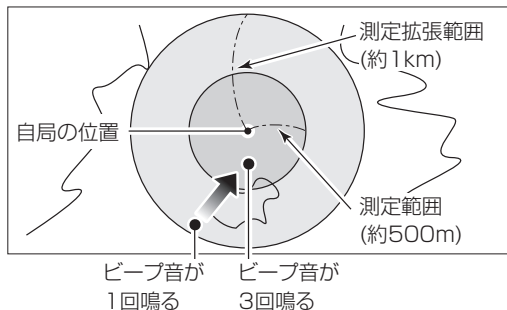
GPSアラームを鳴らす範囲を設定します。

自局の現在地を中心に、設定された値(距離)の範囲(円形)を監視し、GPSアラームを設定した局がその範囲に入ると、GPSアラームが鳴り、GPSアラーム表示が点滅します。

※アラーム選択を「受信」、または「メモリー」で特定のGPSメモリーチャンネルに設定しているときに有効な機能です。
(※P8-36)

- 狭い :GPSアラームを設定した局が半径約500m圏内に入ると、ビープ音が3回鳴ると同時に、GPSアラーム表示が点滅する
- 広い :GPSアラームを設定した局が半径約1km圏内に入ると、ビープ音が3回鳴ると同時に、GPSアラーム表示が点滅する
- 両方 :GPSアラームを設定した局が半径約1km圏内に入ると、ビープ音が1回鳴ると同時に、GPSアラーム表示が点滅する
半径約500m圏内に入るとビープ音を3回鳴ると同時に、GPSアラーム表示が点滅する
なお、500m圏内から出て約1km以内にいる場合は、GPSアラーム表示だけが点滅する

【例】



上図のエリア(網かけ部)に対象となる局が入ると、GPSアラームが鳴り、GPSアラーム表示が点滅します。

GPSロガー (初期設定:OFF)

GPS > GPSロガー > GPSロガー

本製品に内蔵のGPSレシーバーからの位置情報を記録するための設定です。

- OFF :GPSレシーバーからの位置情報を記録しない
 - ON :GPSレシーバーからの位置情報を記録する
- ※あらかじめ本製品にSDカードを取り付けておいてください。
※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときは、記録されません。

【ご参考】

ONに設定すると、「記録間隔」で設定した時間ごとに、4種類のセンテンス(GGA/RMC/GSA/VTG)をNMEAセンテンス形式で、SDカードにログデータを保存します。保存されるログデータのファイル名は、下記ようになります。

例)2014年1月1日15時30分00秒から記録を開始した場合:

20140101_153000

記録間隔 (初期設定:5秒)

GPS > GPSロガー > 記録間隔

GPSロガー機能をONに設定したとき、記録する間隔を設定します。

- 1秒/5秒/10秒/30秒/60秒から選択する

GPS自動送信 (初期設定:OFF)

GPS > GPS自動送信

GPSからの位置情報を一定間隔で自動的に送出するGPS自動送信タイマーを設定します。

- OFF :自局の位置情報を自動送出不しい
- 5秒~30分:自局のコールサインを設定し、「GPS送信モード」画面で「D-PRS」、または「NMEA」にすると、設定した時間(5秒/10秒/30秒/1分/3分/5分/10分/30分)ごとに位置情報を送出する

※GPSセンテンス(※P12-25)を4種類選択した場合は、「5秒」を設定できません。

※「OFF」に設定したときは、[PTT]を押すと自局の位置情報を送出できます。

※GPS送信モードを「NMEA」に設定して送信する場合は、必ず「GPS選択」(※P12-16)を「内蔵GPS」に設定してください。「OFF」または「マニュアル」に設定すると、GPS自動送信は無効になります。

12 MENU 画面について

■ コールサインについて

コールサイン

コールサイン

デジタル通信時に必要なコールサインの確認、または設定する画面です。

※これまでのD-STAR®対応機をお使いのかたや、海外にてレピータを運用する場合など、手動でもコールサインが設定できます。

※DR機能以外では、この画面でデジタル通信時に必要なコールサインを設定します。

シンプレックス運用時(DVモード)

「UR」、「MY」のコールサインだけ設定できます。

レピータ運用時(DVモード/DR機能)

DR機能時は「MY」のコールサインだけ設定できます。

〈レピータ運用を設定するときは〉

DVモードで、自分がいる場所から平野430(JP3YHH)*にアクセスし、浜町430(JP1YIU)からエリアCQを出す場合を例に説明します。

★コールサインの設定をはじめめる前に、アクセスするレピータの周波数やデュプレックスを設定しておいてください。(7章)

【ご参考】

デジタルレピータセット機能(※P12-36)を使用すると、レピータのコールサインを自動的に設定できます。

1. コールサイン(R1)を設定する

- ①DVモード時、「R1」を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチする。
- ②「編集」をタッチする。
- ③1桁目の文字を選択します。
 - 入力できる文字は、英数字(A~Z、0~9)と「/」です。
- ④[←]、または[→]をタッチしてカーソルを移動し、文字を入れる桁を選択します。
- ⑤手順③、④を繰り返し、8文字以内(スペース含む)でレピータのコールサインを入力します。(例 JP3YHH)
- ⑥[ENT]をタッチする。
 - 入力したレピータのコールサインを確認します。

2. ゲートウェイ局(R2)を設定する

- ①「R2」をタッチする。
- ②「GW」をタッチする。

※コールサインを直接編集するときは、手順①で「R2」を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチします。

「レピータ2選択」画面について

NOT USED*	R2を未使用にする場合(山かけ通信)
GW	レピータリストより、R1のGWコールサインを設定する場合(ゲートウェイ通信)
レピータネーム	R1と同じゾーンからレピータを選択する場合

3. 相手局のコールサイン(UR)を設定する

- ①「UR」をタッチする。
- ②「エリアCQ」をタッチする。
- ③「01:関東」をタッチする。
- ④「浜町430」をタッチする。

※コールサインを直接編集するときは、手順①で「UR」を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)タッチします。

「相手局選択」画面について

CQCQCQ	不特定呼び出し(CQCQCQ)を設定する
エリアCQ*	レピータリストからエリアCQを設定する
個人局	相手局コールサインメモリーの個人局から選択する
受信履歴	受信履歴から選択する
送信履歴	送信したレピータ/個人局から選択する

★ シンプレックス運用時は表示されません。

12 MENU 画面について

■ 受信履歴について

受信履歴

受信履歴

DVモードの信号を受信した場合、その信号を送信した局や使用されたレピータのコールサインなど、最大50件の受信履歴を記憶できます。

※電源をOFFしても履歴は消去されません。

[▲]/[▼]をタッチすると、記憶された受信履歴(RX01～RX50)を確認できます。

トップ画面の表示内容

RX01～RX50	受信履歴番号
CALLER★ ¹	相手局のコールサインとメモ
CALLED★ ¹	相手局に呼び出された局のコールサイン
受信メッセージ	相手局から受信したメッセージ
受信レピータ★ ¹	受信したレピータのコールサイン
周波数	受信周波数(シンプレックスの場合だけ表示)
受信日時	受信した日時
[GW]	ゲートウェイ通信や、アシストして通信した場合に表示
[GPS]★ ²	NMEA、移動局、固定局
[QJB]★ ²	オブジェクト局
[ITEM]★ ²	アイテム局
[WX]★ ²	気象局
(UP)	相手局のアップリンク情報を受信した場合に表示
RX>CS	応答相手選択キー
詳細	受信履歴詳細画面移行キー
コンパス★ ²	自局から見た相手局の方向
距離★ ²	相手局との距離
シンボル★ ²	D-PRSのシンボル

★¹：QUICK MENU画面で、ネーム表示に切り替えられる項目です。

★²：受信履歴に位置情報が含まれている場合に表示します。

詳細画面の表示内容

受信履歴は、位置情報の有無によって詳細内容の表示が異なります。

また、受信履歴に含まれる位置情報は、大きく分けて5種類あります。

相手局の送信モード、または送信フォーマットによって表示される項目とその項目の意味が異なります。

ここでは、位置情報が含まれていない受信履歴とGPS受信状態別に一覧表示します。

※相手局に位置情報がない場合は表示しません。

<共通詳細表示項目>

※位置情報が含まれていない受信履歴は下記のみ表示

CALLER★ ¹	相手局のコールサインとメモ
CALLED★ ¹	相手局に呼び出された局のコールサイン
RXRPT1★ ¹ ★ ²	相手局から見たアクセスレピータのコールサイン (ゲートウェイ通信で呼び出された場合はGW局)
RXRPT2★ ¹ ★ ²	自局が直接受信したレピータのコールサイン
受信メッセージ	相手局から受信したメッセージ
受信日時	受信した日時

★¹：ネームを登録している場合は、コールサインの下段にネームが表示されます。

★²：シンプレックスの場合はRXRPT1/RXRPT2の代わりに周波数が表示されます。

<1 NMEAを受信した場合>

コンパス★ ³	自局から見た相手局の方向
緯度	相手局の緯度
経度	相手局の経度
GL	相手局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
高度	相手局の高度
距離★ ³	相手局との距離
進路	相手局の進行方向(角度)
速度	相手局の移動速度
測位時間	相手局の測位時間
コールサイン	相手局のコールサイン
GPSメッセージ	受信したGPSメッセージ

★³：自局の位置情報がない場合は表示しません。

12 MENU 画面について

■ 受信履歴について(つづき)

<2 D-PRSのポジション(移動局)を受信した場合>

コンパス★3	自局から見た相手局の方向
緯度	相手局の緯度
経度	相手局の経度
GL	相手局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
高度	相手局の高度
距離★3	相手局との距離
進路	相手局の進行方向(角度)
速度	相手局の移動速度
測位時間	相手局が位置情報を測位した時間
コールサイン	相手局のコールサイン(SSID付き)
GPSメッセージ	受信したコメント
シンボル	相手局のD-PRSシンボル

★3：自局の位置情報がない場合は表示しません。

<3 D-PRSのポジション(固定局)を受信した場合>

コンパス★3	自局から見た相手局の方向
緯度	相手局の緯度
経度	相手局の経度
GL	相手局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
高度	相手局の高度
距離★3	相手局との距離
出力	相手局の送信出力情報
地上高	相手局のアンテナの地上高情報
ゲイン	相手局のアンテナのゲイン情報
指向性	相手局のアンテナの指向性情報
測位時間	相手局の測位時間
コールサイン	相手局のコールサイン(SSID付き)
GPSメッセージ	受信したコメント
シンボル	相手局のD-PRSシンボル

★3：自局の位置情報がない場合は表示しません。

<4 D-PRSのオブジェクト局/アイテム局を受信した場合>

コンパス★3	自局から見たオブジェクト局/アイテム局の方向
緯度	オブジェクト局/アイテム局の緯度
経度	オブジェクト局/アイテム局の経度
GL	オブジェクト局/アイテム局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
高度	オブジェクト局/アイテム局の高度
距離★3	オブジェクト局/アイテム局との距離
進路	オブジェクト局/アイテム局の進行方向(角度)
速度	オブジェクト局/アイテム局の移動速度
出力	オブジェクト局/アイテム局の送信出力情報
地上高	オブジェクト局/アイテム局のアンテナの地上高情報
ゲイン	オブジェクト局/アイテム局のアンテナのゲイン情報
指向性	オブジェクト局/アイテム局のアンテナの指向性情報
タイムスタンプ	相手局がオブジェクト局の情報を送信した時間
コールサイン	相手局のコールサイン(SSID付き)
GPSメッセージ	受信したコメント
シンボル	オブジェクト局/アイテム局のシンボル

★3：自局の位置情報がない場合は表示しません。

※オブジェクト局、またはアイテム局が無効であれば、「KILLED」を表示します。

<5 D-PRSの気象局を受信した場合>

コンパス★3	自局から見た相手局の方向
緯度	相手局の緯度
経度	相手局の経度
GL	相手局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
距離	相手局との距離
気温	相手局から受けた気温情報
雨量	相手局から受けた直近1時間の降雨量
風向	相手局から受けた風向情報
風速	相手局から受けた風速情報
気圧	相手局から受けた気圧情報
湿度	相手局から受けた湿度情報
シンボル	相手局から受けたシンボル
タイムスタンプ	相手局が気象情報を取得した時間
コールサイン	相手局のコールサイン(SSID付き)

★3：自局の位置情報がない場合は表示しません。

12 MENU 画面について

■ DVメモリーについて

相手局コールサイン

DVメモリー > 相手局コールサイン

D-STAR[®]システムを使用して、呼び出したい相手局(個人局)のコールサインを最大200件登録できます。登録した相手局のコールサインやネームは、個人局一覧や受信履歴に表示されます。

※受信履歴からも、相手局(個人局)のコールサインを登録できます。(P6-24)

※相手局(個人局)のコールサイン新規追加、登録した内容の編集や移動(並び替え)方法については、7-31ページ~7-33ページをご覧ください。

レピータリスト

DVメモリー > レピータリスト(レピータグループ)

レピータの情報をレピータリストに登録しておくことで、発信するときの設定が簡単になります。

最大1200件のレピータ情報を30グループに分けて登録できます。

レピータリストでは、DVレピータ、DVシンプレックス、FMレピータ、FMシンプレックスの4種類が登録できます。

ご注意

本製品には、お客様が快適に運用していただくために、レピータリストをプリセットして出荷していますが、オールリセットすると、プリセットの内容をすべて消去しますのでご注意ください。

ご参考

- レピータのコールサインや周波数などの情報については、一般社団法人日本アマチュア無線連盟(JARL)ホームページで閲覧できます。

JARLホームページ
<http://www.jarl.or.jp/>

- レピータリストや各種コールサイン、メモリーなどが簡単に入力できるクローニングソフトウェア(CS-5100:付属のCDに同梱)もご利用ください。
- 出荷時にプリセットしているレピータリストは、プリセットファイル(付属のCDに同梱)から確認できます。(P7-34)
- プリセットの内容、および最新のレピータリストについては弊社ホームページからダウンロードできます。
アイコムホームページ
<http://www.icom.co.jp/d-starsite/>

レピータグループ(01~30)

グループネーム	グループの名称(全角8文字/半角16文字以内)
---------	-------------------------

※SKIP設定を「ON/OFF」できます。(P7-28)

レピータリスト

タイプごとに登録できる項目を表示します。

<DVレピータ>

タイプ	DVレピータ
ネーム	DVレピータの名称(全角8文字/半角16文字以内)
サブネーム*1	DVレピータのサブネーム(全角4文字/半角8文字以内)
コールサイン	DVレピータのコールサイン
GWコールサイン	ゲートウェイコールサイン
グループ	所属しているグループ番号と名称
USE(FROM)	アクセスレピータの使用(DR機能使用時の[FROM])を設定
周波数*2	アクセスレピータの周波数
DUP*2	デュプレックス(シフト方向)の設定
オフセット周波数*2	DVレピータのオフセット周波数
位置情報	DVレピータ位置情報の有無と精度(無し/だいたい/正確)
緯度*3	DVレピータ設置位置の緯度
経度*3	DVレピータ設置位置の経度
UTCオフセット	DVレピータがある地域のUTCオフセット時間(協定世界時差)

★1：プリセット時は、都道府県名が入力されています。

<DVシンプレックス>

タイプ	DVシンプレックス
ネーム	DVシンプレックスの名称(全角8文字/半角16文字以内)
サブネーム*1	DVシンプレックスのサブネーム(全角4文字/半角8文字以内)
グループ	所属しているグループ番号と名称
USE(FROM)	アクセスレピータの使用(DR機能時の[FROM])を設定
周波数*2	アクセスレピータの周波数
位置情報	位置情報の有無と精度(無し/だいたい/正確)
緯度*3	DVアクセスポイント設置位置の緯度
経度*3	DVアクセスポイント設置位置の経度
UTCオフセット	レピータがある地域のUTCオフセット時間(協定世界時差)

★2：USE(FROM)が、「YES」の場合だけ使用します。

12 MENU 画面について

■ DVメモリーについて(つづき)

<FMLレピータ>

タイプ	FMLレピータ
ネーム	FMLレピータの名称(全角8文字/半角16文字以内)
サブネーム* ¹	FMLレピータのサブネーム(全角4文字/半角8文字以内)
コールサイン	FMLレピータのコールサイン
グループ	所属しているグループ番号と名称
USE(FROM)	アクセスするFMLレピータの使用(DR機能時の[FROM])を設定
周波数* ²	FMLレピータの周波数
DUP* ²	デュプレックス(シフト方向)の設定
オフセット周波数* ²	FMLレピータのオフセット周波数
モード	FMLレピータの受信モード
Tone選択	FMLレピータのトーン
レピータトーン	FMLレピータのトーン周波数
位置情報	FMLレピータ位置情報の有無と精度(無し/だいたい/正確)
緯度* ³	FMLレピータ設置位置の緯度
経度* ³	FMLレピータ設置位置の経度
UTCオフセット	FMLレピータがある地域のUTCオフセット時間(協定世界時差)

- ★1：プリセット時は、都道府県名が入力されています。
- ★2：USE(FROM)が、「YES」の場合だけ使用します。
- ★3：レピータの位置情報がある場合だけ使用します。

<FMシンプレックス>

タイプ	FMシンプレックス
ネーム	FMシンプレックスの名称(全角8文字/半角16文字以内)
サブネーム* ¹	FMシンプレックスのサブネーム(全角4文字/半角8文字以内)
グループ	所属しているグループ番号と名称
USE(FROM)	アクセスレピータの使用(DR機能使用時の[FROM])を設定
周波数* ²	アクセスレピータの周波数
モード	FMシンプレックスの受信モード
Tone選択	FMシンプレックスのトーン
レピータトーン	FMシンプレックスのトーン周波数
位置情報	レピータ位置情報の有無と精度(無し/だいたい/正確)
緯度* ³	ノード局などの設置位置の緯度
経度* ³	ノード局などの設置位置の経度
UTCオフセット	ノード局などがある地域のUTCオフセット時間(協定世界時差)

※SKIP設定を「ON/OFF」できます。(P7-28)

- ★1：プリセット時は、都道府県名が入力されています。
- ★2：USE(FROM)が、「YES」の場合だけ使用します。
- ★3：レピータの位置情報がある場合だけ使用します。

■ 自局設定について

自局コールサイン

自局設定 > 自局コールサイン

D-STAR®システムで使用する、自局のコールサインを最大6件(MY1~MY6)登録できます。

コールサイン(8文字以内)のあとに、入力できるメモ(4文字以内)には、名前やリグ名、移動運用先などを登録します。

※自局コールサインの登録方法(P6-4)

※自局コールサインを切り替えるときは、切り替えたい自局コールサインをタッチします。

送信メッセージ

自局設定 > 送信メッセージ

DVモードで音声通信しながら、同時に最大20文字(半角カタカナ、英数字、記号)のメッセージを送信できます。

送信するメッセージは、5個登録できます。

※送信メッセージの登録方法については、7-2ページをご覧ください。

※送信メッセージを切り替えるときは、切り替えたい送信メッセージをタッチします。

【ご参考】

登録したメッセージを送信しないときは、「OFF」を選択してください。

12 MENU 画面について

■ DV設定について

受信音質(低音) (初期設定：標準)

DV設定 > トーンコントロール > 受信音質(低音)

受信音質の低音レベルを設定します。

- カット：低音を減衰させる
- 標準：低音を補正しない
- 強調：低音を強調させる

受信音質(高音) (初期設定：標準)

DV設定 > トーンコントロール > 受信音質(高音)

受信音質の高音レベルを設定します。

- カット：高音を減衰させる
- 標準：高音を補正しない
- 強調：高音を強調させる

受信バスブースト (初期設定：OFF)

DV設定 > トーンコントロール > 受信バスブースト

疑似的に低音を強調する、バスブースト機能を設定します。

※小さなスピーカーでも低音が強調されます。

- OFF：低音を強調させない
- ON：低音を強調させる

送信音質(低音) (初期設定：標準)

DV設定 > トーンコントロール > 送信音質(低音)

送信音質の低音レベルを設定します。

- カット：低音を減衰させる
- 標準：低音を補正しない
- 強調：低音を強調させる

送信音質(高音) (初期設定：標準)

DV設定 > トーンコントロール > 送信音質(高音)

送信音質の高音レベルを設定します。

- カット：高音を減衰させる
- 標準：高音を補正しない
- 強調：高音を強調させる

自動応答 (初期設定：OFF)

DV設定 > 自動応答

DVモード運用時、自局宛の呼び出しがあったとき、呼び出してきた相手局のコールサインを一時的に設定して自動応答するか、しないかを設定します。

- OFF：自動応答しない
- ON：自局のコールサインを送出して、自動応答する
- 音声：自局のコールサインと、SDカードに録音された自動応答用の音声(最大10秒)を自動で送信する
※送信される内容は、モニターできます。
※SDカードを本製品に取り付けていないときや、自動応答用のファイルがないときは、自局のコールサインだけを送出して自動応答します。

● 位置(メインのみ)

：自局宛での信号を受信すると、内蔵GPSを使用して、自局のコールサインと自局の位置情報を送信します。デュアルワッチ中は、MAINバンドで信号を受信したときだけ、自動で応答します。
※「GPS選択」の設定が「OFF」、または「マニュアル」に設定されている場合は一時的に内蔵GPSをONにします。

● 位置(メイン/サブ)

：自局宛での信号を受信すると、内蔵GPSを使用して、自局のコールサインと自局の位置情報を送信します。デュアルワッチ中は、MAINバンドとSUBバンドのどちらで信号を受信しても、自動で応答します。
※「GPS選択」の設定が「OFF」、または「マニュアル」に設定されている場合は一時的に内蔵GPSをONにします。

※「ON」、または「音声」を設定しているときは[PTT]を押すと、自動応答の設定が自動で「OFF」に変更されます。ただし、「位置(メインのみ)」、または「位置(メイン/サブ)」を設定しているときは[PTT]を押しても「OFF」に変更されません。

DVデータ送信 (初期設定：オート)

DV設定 > DVデータ送信

DVモード運用時、簡易データを送信する方法を設定します。

- PTT：[PTT]を押したときに送出する
- オート：データが[DATA]ジャックから入力されると、自動で送信する

12 MENU 画面について

■ DV設定について(つづき)

デジタルモニター (初期設定：オート)

DV設定 > デジタルモニター

DVモード運用時、ファンクションメニューの[MONI]をタッチしてモニター機能を動作させたときの受信モード(電波型式)を選択します。

- オート : DVモードの信号を検出するまではFMモードで受信し、DVモードの信号を検出すると、DVモードで受信する
- デジタル : DVモードで受信する
- アナログ : FMモードで受信する

デジタルレピータセット (初期設定：ON)

DV設定 > デジタルレピータセット

DR機能以外でアクセスしたレピータのコールサインが自局で設定しているものと異なる場合、レピータのダウンリンク信号に含まれるレピータコールサインを自動的に設定する機能です。

- OFF : 自動設定しない
- ON : アクセスしたレピータのコールサインを自動で設定する

DV自動検出 (初期設定：OFF)

DV設定 > DV自動検出

DVモードで信号を受信中、または待ち受け中にDVモード以外の信号を受けた場合、自動的にFMモードに切り替える機能です。

- OFF : FMモードに切り替えない
- ON : 自動的にFMモードに切り替える

受信履歴記録(RPT) (初期設定：全て)

DV設定 > 受信履歴記録(RPT)

応答がなかったとき(UR?)や、中継されなかったとき(RPT?)のレピータからの信号を、すべて受信履歴に残すか、最新の1件だけを残すか設定します。

- 全て : 最大50件の応答(UR?/RPT?)を履歴に残す
- 最新のみ : 最新の応答(UR?/RPT?)履歴1件だけを履歴に残す

BK (初期設定：OFF)

DV設定 > BK

デジタルコールサインスケルチ(DSQL)で通信している2局に対して、同時に呼びかけるための機能です。

- OFF : BK機能を使用しない
- ON : BK機能を使用する
※電源を入れなおすと、設定がOFFになります。

EMR (初期設定：OFF)

DV設定 > EMR

デジタルスケルチの状態に関わらず、一定レベルまで音量を自動的に上げて通信できるようにする機能です。

- OFF : EMR機能を使用しない
- ON : EMR機能を使用する
※電源を入れなおすと、設定がOFFになります。

EMR AFLレベル (初期設定：19)

DV設定 > EMR AFLレベル

EMR(Enhanced Monitor Request)信号を受信したときの通話音量レベルを設定します。

- 0~32 : 0(鳴らさない)~1(最小)~32(最大)から選択
- ※[VOL]で設定している音量のほうが大きい場合は、その音量で通話が聞こえます。

ご注意

EMR受信後、通常の運用状態に戻っても、受信音量はEMR AFLレベルのままなので、[VOL]で音量を調整してください。

12 MENU 画面について

■ スピーチについて

受信コールサインスピーチ (初期設定：ON(カーチャック))

スピーチ > 受信コールサインスピーチ

受信した相手局のコールサインを読み上げるスピーチ機能を設定します。

- OFF : 受信したコールサインを読み上げない
- ON(カーチャック)
: 短いDV信号(カーチャック)を受信したときだけ、コールサインをスピーチする
- ON(全て) : 受信時間に関係なくコールサインをスピーチする

※デジタルコールサインスケルチ、またはデジタルコードスケルチを使用時、不一致の信号を受信したときは読み上げません。

※レピータからの応答(UR?, RPT?)は、あて先に関係なく読み上げません。

※スキャン時は、読み上げ中でもスキャンを再開します。

※コールサインのあと(/スラッシュ)に設定された任意の文字(名前やリグ名、移動運用先など)は、受信しても読み上げません。

※読み上げ中に受信すると、読み上げをやめて受信音が聞こえます。

RX>CSスピーチ (初期設定：ON)

スピーチ > RX>CSスピーチ

ファンクションメニューの[RX>CS]をタッチして応答設定したとき、設定した相手局のコールサインを読み上げる機能です。

- OFF : 相手局のコールサインを読み上げない
- ON : 相手局のコールサインを読み上げる

※読み上げ中は、受信音は聞こえず、SDカードにも録音されません。

録音中に読み上げされると、そのあいだは無音で録音されます。

ダイヤルスピーチ (初期設定：OFF)

スピーチ > ダイヤルスピーチ

[DIAL]を回して設定した周波数、またはコールサインを読み上げる機能です。

- OFF : [DIAL]を回しても、周波数、またはコールサインを読み上げない
- ON : [DIAL]を回し終わって1秒経過したときに、設定した周波数、またはコールサインが読み上げられる VFOモード/メモリーモード/コールチャンネルモード時では、周波数を読み上げ、DR機能使用時は、コールサインを読み上げる

※DR機能使用時、シンプレックスを選択している場合は、周波数を読み上げます。

※DR機能使用時、FM レピータでコールサインの設定が無い場合は周波数を読み上げます。

※読み上げ中に信号を受信すると、読み上げをキャンセルします。

モードスピーチ (初期設定：OFF)

スピーチ > モードスピーチ

受信モードを切り替えると、設定した受信モード(電波型式)を読み上げる機能です。

- OFF : 設定した運用モード(電波型式)を読み上げない
 - ON : 設定した運用モード(電波型式)を読み上げる
- ※VFO スキャン中でも、運用モード(電波型式)を切り替えると読み上げます。

スピーチ言語 (初期設定：日本語)

スピーチ > スピーチ言語

読み上げるとき、英語で読み上げるか日本語で読み上げるかを選択します。

- 英語 : 英語で読み上げる
- 日本語 : 日本語で読み上げる

アルファベット (初期設定：標準)

スピーチ > アルファベット

コールサインに含まれるアルファベット(A～Z)の発音方法についての設定です。

- 標準 : 通常の発音で読み上げる
(例: エー、ビー、シー)
- フォネティックコード
: フォネティックコードによる発音
(例: アルファ、ブラボー、チャーリー)

スピーチ速度 (初期設定：速い)

スピーチ > スピーチ速度

読み上げる速度を選択します。

- 遅い : ゆっくり読み上げる
- 速い : 速く読み上げる

スピーチレベル (初期設定：7)

スピーチ > スピーチレベル

読み上げる音量を設定します。

- 0～9: 0(読み上げない)～1(最小)～9(最大)のあいだで設定

※[VOL]による音量設定にあわせてスピーチ音量も変化します。

12 MENU 画面について

■ DTMFについて

トーン運用時に使用するDTMFコードの登録や設定をします。
詳細については、13-7ページ、13-8ページを参照ください。

DTMFメモリー (初期設定：d0)

DTMF > DTMFメモリー

DTMFメモリーチャンネルの一覧です。

- d0～d#：DTMFメモリーチャンネルの一覧

DTMFスピード (初期設定：100ms)

DTMF > DTMFスピード

DTMFコードの1桁あたりの送出スピードを選択します。

- 100ms～500ms：100/200/300/500ミリ秒から選択

■ 交信/受信履歴ログについて

交信ログ (初期設定：OFF)

交信/受信履歴ログ > 交信ログ

交信した履歴をログとしてSDカードに残す交信ログ機能を設定します。

ログは、CSV形式でSDカードに保存され、パソコンに接続して、ログ情報を確認できます。

※ON設定後、送信した内容からログを開始します。

※あらかじめ本製品にSDカードを取り付けておいてください。

- OFF：交信履歴をログとして残さない
- ON：交信履歴をログとして残す

【ご参考】

◎SDカードに作成されるフォルダー名と、その中に作成されるファイル名は、パソコン上で下記のように表示します。

例：2014年1月1日15時30分00秒に開始したデータの場合

フォルダー名：ID-5100\QsoLog

ファイル名：20140101_153000.csv

- 交信ログは、CSV形式のファイルで保存されます。
※本製品では、交信ログファイルの確認はできません。
- SDカードに保存された交信ログは、パソコンで確認します。

受信履歴ログ (初期設定：OFF)

交信/受信履歴ログ > 受信履歴ログ

DVモードで受信した履歴をログとしてSDカードに残す受信履歴ログ機能を設定します。

ログは、CSV形式でSDカードに保存され、パソコンに接続して、ログ情報を確認できます。

※ON設定後、DVモードで話終えた時点の内容からログを開始します。

※あらかじめ本製品にSDカードを取り付けておいてください。

- OFF：受信履歴をログとして残さない
- ON：受信履歴をログとして残す

【ご参考】

◎SDカードに作成されるフォルダー名と、その中に作成されるファイル名は、パソコン上で下記のように表示します。

例：2014年1月1日15時30分00秒に開始したデータの場合

フォルダー名：ID-5100\RxLog

ファイル名：20140101_153000.csv

- 受信履歴ログは、CSV形式のファイルで保存されます。
※本製品では、受信ログファイルの確認はできません。
- SDカードに保存された受信履歴ログは、パソコンで確認します。

12 MENU 画面について

■ 交信/受信履歴ログについて(つづき)

区切り/小数点 (初期設定：区切り「,」 小数点「.」)

交信/受信履歴ログ > CSVフォーマット > 区切り/小数点

交信/受信履歴ログをCSV形式で出力するときの、項目の区切り文字と小数点の文字を設定できます。

- 区切り「,」 小数点「.」：区切り文字を「,」、小数点文字を「.」にする
- 区切り「;」 小数点「.」：区切り文字を「;」、小数点文字を「.」にする
- 区切り「:」 小数点「.」：区切り文字を「:」、小数点文字を「.」にする

日付 (初期設定：yyyy/mm/dd)

交信/受信履歴ログ > CSVフォーマット > 日付

交信/受信履歴ログをCSV形式で出力するときの日付表示を設定します。

※y(year)：年、m(month)：月、d(day)：日

- yyyy/mm/dd：日付を「年/月/日」で表示する
- mm/dd/yyyy：日付を「月/日/年」で表示する
- dd/mm/yyyy：日付を「日/月/年」で表示する

【ご参考】

交信ログ内容

項目名	項目例		説明
TX/RX	TX	RX	送信/受信
Date	2014/1/1 13:51:48	2014/1/1 13:51:48	送受開始時の日時
Frequency	438.010000	438.010000	送受信した周波数 (DUP 設定時は受信側の周波数)
Mode	DV	DV	モードはAM, AM-N, FM, FM-N, DV
My Latitude	34.764667	34.764667	自局の緯度(度形式) +：北緯 -：南緯
My Longitude	135.375333	135.375333	自局の経度(度形式) +：東経 -：西経
My Altitude	50.5	50.5	自局の高度(単位:m) 小数点第1位まで記録
RF Power	LOW	(ブランク)	送信出力 送信時のみ
S-meter	(ブランク)	S0	受信時最大のS メーターレベル(12段階)
RPT Call Sign	JP3YHJ	JP3YHJ A	レピータコールサイン(DV時だけ)
TX Call Sign	CQCQCQ	(ブランク)	送信コールサイン(DV時だけ)
RX Call Sign	(ブランク)	JA3YUA A/ID5100	受信コールサイン(DV時だけ)
RX Latitude	(ブランク)	34.764667	相手局の緯度(度形式) +：北緯 -：南緯 DV 受信時で相手局が位置情報送信している時だけ記録
RX Longitude	(ブランク)	135.375333	相手局の経度(度形式) +：東経 -：西経 DV 受信時で相手局が位置情報送信している時だけ記録
RX Altitude	(ブランク)	30.5	相手局の高度(単位:m) 小数点第1位まで記録 DV 受信時で相手局が位置情報送信している時だけ記録

12 MENU 画面について

■ 交信/受信履歴ログについて(つづき)

【ご参考】

受信履歴ログ内容

項目名	項目例	説明
Frequency	438.010000	受信した周波数
Mode	DV	モード(DV固定)
Caller	JA3YUA A	Callerのコールサイン(8文字)
/	ID51	メモ(4文字)
Called	CQCQCQ	Calledのコールサイン(8文字)
Rx RPT1	JP3YHH G	Rx RPT1のコールサイン(8文字)
Rx RPT2	JP3YHJ A	Rx RPT2のコールサイン(8文字)
Message	Hello CQ D-STAR!	メッセージ(20文字)
Status	(ブランク)	通常：ブランク、UPリンク：「RPT UP」、レピータからの応答：「UR?」「RPT?」
Received date	2014/1/1 13:51:48	受信日時 設定にしたがい、日付の書式が変化する
BK	*	BK 機能なら「*」、無しならブランク
EMR	*	EMR 機能なら「*」、無しならブランク
Latitude	34.764667	緯度(度形式) +：北緯 -：南緯
Longitude	135.375333	経度(度形式) +：東経 -：西経
Altitude	30.5	高度(単位：m) 小数点第1位まで記録
SSID	-A	(-0)、-1~-15、-A~-Zの中から記録
D-PRS Symbol	Car	アイコンがある場合：文字列に変換 アイコンがない場合：基本的にコードのまま
Course	123	進行方向 (度形式 小数点以下はなし)
Speed	23.5	進行速度 (単位：km/h) 小数点第1位まで記録
Power	49	出力(単位：W)
Height	24	地上高(単位：m)
Gain	6	アンテナゲイン(単位：dB)
Directivity	Omni	指向性 (Omni、または度形式)
Object/Item Name	HAM FES	オブジェクトネーム、またはアイテムネーム(9文字)
Data Type	Live Object	オブジェクト/アイテムのデータタイプ (Live、またはKill)
Temperature	20.5	温度 (単位：℃) 小数点第2位まで記録
Rainfall	253.75	直前の1時間当たりの雨量 (単位：mm/h) 小数点第2位まで記録
Rainfall (24 Hours)	253.75	24時間の平均雨量 (単位：mm/h) 小数点第2位まで記録
Rainfall (Midnight)	253.75	夜間の雨量 (単位：mm/h) 小数点第2位まで記録
Wind Direction	315	風向 (度形式 小数点以下はなし)
Wind Speed	10.0	風速 (単位：m/s) 小数点第1位まで記録
Gust Speed	10.0	瞬間風速 (単位：m/s) 小数点第1位まで記録 受信履歴ログのみ
Barometric	1013.0	気圧 (単位：hPa) 小数点第1位まで記録
Humidity	85	湿度 (単位：%)
GPS Time Stamp	12:00:00	測位時間
GPS Message	Osaka City/ID-5100	相手局がNMEAのとき：GPSメッセージを記録 相手局がD-PRSのとき：コメントを記録

12 MENU 画面について

■ 機能設定について

スケルチ/アッテネーター選択

(初期設定：OFF)

機能設定 > スケルチ/アッテネーター選択

[SQL]が示す位置に連動して変化する機能を設定します。

- OFF：Sメータースケルチ、アッテネーターともに動作しない
- Sメータースケルチ
：[SQL]を12時から最大まで回したとき、12時の位置からSメータースケルチが効きはじめ、指示位置に応じてレベルが変化する
- アッテネーター
：[SQL]を12時から最大まで回したとき、12時の位置からアッテネーターが効きはじめ、指示位置に応じてレベルが変化する。

スケルチ遅延時間

(初期設定：ショート)

機能設定 > スケルチ遅延時間

受信時のスケルチディレイ(遅延)の制御時間を設定します。

- ショート：スケルチが閉じるまでの時間を短くする
- ロング：スケルチが閉じるまでの時間を長くする

ファン設定

(初期設定：オート)

機能設定 > ファン設定

冷却ファンの動作を設定します。

- 低速：低速でファンが動作する
- 中速：中速でファンが動作する
- 高速：高速でファンが動作する
- オート：本体の内部温度が一定以上になると、ファンが動作する

ダイヤル加速

(初期設定：ON)

機能設定 > ダイヤル加速

[DIAL]を速く回したとき、周波数の可変速度を一気に速くするときの設定です。

- OFF：回す速さにあわせて、可変する
- ON：速く回すと、一気に可変速度が速くなる

オートレピータ

(初期設定：ON)

機能設定 > オートレピータ

レピータ運用のための、トーンエンコーダーとデュプレックスを自動的に設定する、オートレピータ機能を設定します。

- OFF：オートレピータ機能を動作させない
- ON：オートレピータ機能を動作させる

リモコンマイクキー

機能設定 > リモコンマイクキー

付属のHM-207(多機能マイクロホン)使用時に、リモコン機能を設定します。

受信/待機中と送信に使う機能を[F-1]、[F-2]に割り当てできます。

※各選択肢から設定できる機能については、12-42、12-43ページを参照ください。

- 受信/待機中：受信や待ち受け時に有効な設定
- 送信中：送信時に有効な設定

UP/DOWNマイクキー

機能設定 > UP/DOWNマイクキー

別売品のHM-154(ハンドマイクロホン)使用時に、リモコン機能を設定します。

受信/待機中と送信に使う機能を[UP]、[DN]に割り当てできます。

※各選択肢から設定できる機能については、12-42、12-43ページを参照ください。

- 受信/待機中：受信や待ち受け時に有効な設定
- 送信中：送信時に有効な設定

12 MENU 画面について

■ 機能設定について(つづき)

【ご参考】

リモコンマイクキーとUP/DOWNマイクキーに割り当てできる機能一覧です。

● 受信/待機中

(●:初期値 ○:設定可能 ー:設定無)

機能	動作内容	リモコンマイクキー (HM-207)		UP/DOWNマイク キー(HM-154)	
		[F-1]	[F-2]	[UP]	[DN]
---	割り当てなし	○	○	○	○
UP	VFOモード時の周波数、メモリーモード/コールサインリスト選択時のM-CHアップ	ー	ー	●	○
DOWN	VFOモード時の周波数、メモリーモード/コールサインリスト選択時のM-CHダウン	ー	ー	○	●
VOL UP	音量アップ	ー	ー	○	○
VOL DOWN	音量ダウン	ー	ー	○	○
SQL UP	スケルチアップ	ー	ー	○	○
SQL DOWN	スケルチダウン	ー	ー	○	○
モニター	押すごとに、スケルチが開いたり閉じたりする	○	●	○	○
CALL	CALL-CH表示に切り替え	ー	ー	○	○
MR(000 CH)	M-CH000番に移動する	○	○	○	○
MR(001 CH)	M-CH001番に移動する	○	○	○	○
VFO/MR	VFOモードとメモリーモードの切り替え	ー	ー	○	○
DR	DR画面に切り替え	○	○	○	○
FROM/TO(DR)	DR画面のとき、押すごとに[FROM]と[TO]の項目選択状態に切り替える	○	○	○	○
ホームCH	表示している運用モード(VFO/MR)、またはDR画面に登録したホームCHに移動する ※ホームCHが登録されていない場合や、CALL-CHモードの状態では、エラービープが鳴ります。	ー	ー	○	○
BAND/BANK	VFOモードでは運用バンドを切り替え、メモリーバンクモードではバンクOFF、(A～Z)を選択する。※登録しているバンクだけが表示されます。	●	○	○	○
SCAN	短く押すと、スキャンを開始する スキャン中に短く押すと、スキャンを停止する	○	○	○	○
一時スキップ	スキャン中、スキャンの対象から一時的にはずす(スキップ)ようにメモリーに登録する	○	○	○	○
RX>CS	DVモード時、長く(ピッ、ピビと鳴るまで)押すとワンタッチ応答キーとして、聞こえている局を宛先に設定する	○	○	○	○
SPEECH	VFO/メモリー/CALL-CHモードでは周波数とモードをスピーチし、DR画面ではコールサインをスピーチする ※DR画面でシンプルックスを選択している場合は、周波数をスピーチします ※DR画面でFMレピータを選択している場合は、コールサイン+モード、または周波数+モードをスピーチします。	○	○	○	○
MAIN/DUAL	シングル表示では、キーを押すごとに、AバンドとBバンドを切り替える デュアル表示では、キーを押すごとに、SUBバンドをMAINバンドに切り替える 長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すごとに、シングル表示とデュアル表示を切り替える	ー	ー	○	○
MODE	受信モード(電波型式)を切り替える	○	○	○	○
LOW	送信出力を切り替える	○	○	○	○
DUP	デュプレックスモードのON/OFFと、シフト方向(DUP+/DUP-)を切り替える	○	○	○	○
PRIO	プライオリティースキャンのON/OFFを切り替える	○	○	○	○
TONE/DSQL	各種トーン機能を切り替える 《モード》 FM/FM-N 「TONE」(レピータトーン機能) 「TSQL((・))」(トーンスケルチによるポケットビープ機能) 「TSQL」(トーンスケルチ機能) 「DTCS((・))」(DTCSコードスケルチによるポケットビープ機能) 「DTCS」(DTCSコードスケルチ機能) 「TSQL-R」(逆トーンスケルチ機能) 「DTCS-R」(逆DTCSコードスケルチ機能) 《モード》 DV ※DR画面でも操作可能です。 「DSQL((・))」(デジタルコールサインスケルチによるポケットビープ機能) 「DSQL」(デジタルコールサインスケルチ機能) 「CSQL((・))」(デジタルコードスケルチによるポケットビープ機能) 「CSQL」(デジタルコードスケルチ機能)	○	○	○	○

12 MENU 画面について

■ 機能設定について(つづき)

(●:初期値 ○:設定可能 ー:設定無)

機能	動作内容	リモコンマイクキー (HM-207)		UP/DOWNマイク キー(HM-154)	
		[F-1]	[F-2]	[UP]	[DN]
MW	VFO モード、またはDR 画面で長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、MAINバンドで表示している周波数をメモリーチャンネルに書き込みます。 ※自動的に空きチャンネルを選択して書き込みます。	○	○	○	○
MUTE	ミュート(消音)機能機能のON/OFFを切り替える	○	○	○	○
ボイス送信(T1)	※DR画面でも操作可能です。 短く押すと、SDカードに録音された自局の音声を1回だけ送信します。 長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、SDカードに録音された自局の音声を繰り返し送信します。 ご注意: VOICE送信録音画面にある「T1(送信用ボイスメモリー番号)」に録音されていない場合は、機能しません。 ※SDカードを本製品のSDカードスロットに取り付けている必要があります。	○	○	○	○
DTMFダイレクト送信	DTMFコードダイレクト入力画面を表示する	○	○	ー	ー
T-CALL	T-CALL*を送出する	○	○	○	○

● 送信中

(●:初期値 ○:設定可能 ー:設定無)

機能	動作内容	リモコンマイクキー (HM-207)		UP/DOWNマイク キー(HM-154)	
		[F-1]	[F-2]	[UP]	[DN]
---	割り当てなし	○	●	●	●
LOW	送信出力を切り替える	○	○	○	○
ボイス送信(T1)	短押しで単発送信、長押しでリピート送信する ※リピート送信する場合は、ボイス送信開始後に[PTT]を離しておく必要があります。	○	○	○	○
T-CALL	T-CALL*を送出します *1750Hzトーン信号	●	○	○	○

12 MENU画面について

■ 機能設定について(つづき)

ワンタッチPTT(リモコンマイク) (初期設定：OFF)

機能設定 > ワンタッチPTT(リモコンマイク)

HM-207(多機能マイクロホン)のワンタッチPTT機能を設定します。

ワンタッチPTT機能を設定すると、[PTT]を押すごとに送信と受信が切り替わります。

- OFF：[PTT]を押しているあいだ送信状態になり、はなすと受信状態に戻る
- ON：[PTT]を押すごとに送信と受信を切り替える

PTTロック (初期設定：OFF)

機能設定 > PTTロック

[PTT]による送信禁止をON/OFFします。

- OFF：[PTT]を押すと送信する
- ON：[PTT]を押しても送信しない

ビジーロックアウト (初期設定：OFF)

機能設定 > ビジーロックアウト

信号を受信している、またはスケルチが開いているとき、[PTT]による送信を禁止するか、しないかを設定します。

※他局の通信を妨害しないようにするための設定です。

- OFF：信号を受信していても送信できる
- ON：信号を受信していると送信できない

タイムアウトタイマー (初期設定：OFF)

機能設定 > タイムアウトタイマー

設定された送信時間を越えると、強制的に連続送信を停止する機能の設定です。

- OFF：制限時間なし
- 1分～30分：1/3/5/10/15/30分の中から選択
※設定時間の10秒前になると、1秒ごとにビーブ音が鳴り、10回ビーブ音が鳴ったあと、送信を停止する

運用バンド (初期設定：オール)

機能設定 > 運用バンド

[DIAL]を回して選択する周波数範囲を、運用バンド内に固定するときの設定です。

- シングル：バンドエッジで[DIAL]を回したとき、表示しているバンド内の上端、または下端周波数に移動する
[DIAL]で選択できる周波数を、同一バンド内に固定する
- オール：バンドエッジで[DIAL]を回したとき、表示しているバンドの次のバンドに移動する
[DIAL]で選択できる周波数を、すべてのバンドに拡張し、連続して運用できる。

※シングルに設定した状態で、ほかのバンドを運用するときは、QUICK MENU画面から「バンド切替」を選択します。

※[DIAL]を回したときの設定ですので、スキャンには影響しません。

マイクゲイン (初期設定：4)

機能設定 > マイクゲイン

マイクのゲイン(感度)を設定します。

※マイクゲインを上げすぎると過大入力となり、音声がひずんで、めいりょう度が悪くなります。

- 1～4：1(最低)/2/3/4(最高)の中から内部マイクの感度を選択

タッチ操作(サブバンド) (初期設定：MAIN選択)

機能設定 > タッチ操作(サブバンド)

デュアルワッチモード時に、SUBバンドをタッチしたときの動作を設定します。

- MAIN選択：MAINバンドに切り替わる
- 機能操作：SUBバンドの状態の下記の機能操作を有効にする
「受信モード」、「運用バンドの切り替え」、「TS」、「MH z 選択」、「周波数入力」、「運用モードの切り替え」、「モニター機能」

キーボード入力方式(英数) (初期設定：テンキー)

機能設定 > キーボード入力方式(英数)

キーボード入力方式を「テンキー」と「フルキーボード」から選択します。

フルキーボードは英数入力には使えますが、日本語入力には使えません。

※入力画面表示中に、QUICKメニュー画面から切り替えることもできます。

12 MENU 画面について

■ 機能設定について(つづき)

データスピード (初期設定：9600bps)

機能設定 > データスピード

本製品の[DATA]ジャックの通信速度を設定します。
下記の通信速度を設定したいときに変更します。

- ・簡易データ通信の通信速度(☞P7-15)
- ・GPS出力機能の出力データの通信速度(☞P12-16)
- 4800bps：[DATA]ジャックに接続した機器と、4800bpsで通信する
- 9600bps：[DATA]ジャックに接続した機器と、9600bpsで通信する

CI-Vアドレス (初期設定：8Ch)

機能設定 > CI-V > CI-Vアドレス

CI-Vシステムを利用して、本製品を外部コントロールするときのアドレスを設定します。

- 01h～DFh：01h～DFh(16進数)の中から選択

CI-Vボーレート (初期設定：オート)

機能設定 > CI-V > CI-Vボーレート

CI-Vシステムを利用して、本製品を外部制御するときのボーレートを設定します。

- 4800bps～19200bps
：4800/9600/19200bpsの中から選択
- オート：接続機器からのデータのボーレートに自動設定

CI-Vトランシーブ (初期設定：OFF)

機能設定 > CI-V > CI-Vトランシーブ

別売品のCT-17を利用してパソコンから外部制御するとき、ほかの無線機などに連動して本製品の周波数や電波型式などを変更するときに設定します。

- OFF：ほかの無線機と連動させない
- ON：ほかの無線機と設定の変更を連動させる
※接続しているほかのCI-V搭載無線機の設定内容が変更されたときは、自動的に本製品の設定内容も変更されます。

CI-V Bluetooth→REMOTE トランシーブアドレス (初期設定：00h)

機能設定 > CI-V > CI-V Bluetooth→REMOTE トランシーブアドレス

[CI-Vトランシーブ]が[ON]のとき、Bluetooth®を使ってリモート運用すると、本製品の[SP2](REMOTE)端子を経由して同じシステム内にある機器を外部制御します。弊社製無線機の外部制御を禁止するときは、アドレスを「00h」以外に設定します。

コントロール信号は本製品の[SP2](REMOTE)端子から出力されます。

- 00h～DFh：00h～DFh(16進数)の中から選択

ヘテロダイン(Aバンド VHF) (初期設定：ノーマル)

機能設定 > ヘテロダイン > ヘテロダイン(Aバンド VHF)

AバンドでVHF帯が表示されているときの、ヘテロダイン機能を設定します。

デュアルワッチ中、2つの受信周波数の組み合わせによっては、内部の周波数関係により、信号を受信していなくてもSメーターが振れるといった受信スプリアスを発生することがあります。

このようなスプリアス障害を受けたときは、ヘテロダイン機能を使用すると、1st Lo(局部発振器)の周波数を反対側にシフトさせて内部の周波数関係を変えるので、スプリアス障害を改善できる場合があります。

- ノーマル：AバンドでVHF帯が表示されているとき、ヘテロダインを反転しない
- リバース：AバンドでVHF帯が表示されているとき、ヘテロダインを反転する

ヘテロダイン(Aバンド UHF) (初期設定：ノーマル)

機能設定 > ヘテロダイン > ヘテロダイン(Aバンド UHF)

AバンドでUHF帯が表示されているときの、ヘテロダイン機能を設定します。

- ノーマル：AバンドでUHF帯が表示されているとき、ヘテロダインを反転しない
- リバース：AバンドでUHF帯が表示されているとき、ヘテロダインを反転する

ヘテロダイン(Bバンド UHF) (初期設定：ノーマル)

機能設定 > ヘテロダイン > ヘテロダイン(Bバンド UHF)

BバンドでUHF帯が表示されているときの、ヘテロダイン機能を設定します。

- ノーマル：BバンドでUHF帯が表示されているとき、ヘテロダインを反転しない
- リバース：BバンドでUHF帯が表示されているとき、ヘテロダインを反転する

パワーオフ(コントローラー切断) (初期設定：ON)

機能設定 > パワーオフ(コントローラー切断)

無線機本体からコントローラーがはずれたとき、本体の電源を自動的にOFFにするか、しないかを設定します。

- OFF：コントローラーがはずれても、本体の電源をOFFにしない
※本体の電源を切るには、DC電源をOFFにするか電源ケーブルをはずします。
※コントローラーがはずれたあと、再度接続すると、誤動作することがありますが故障ではありません。
- ON：コントローラーがはずれると、本体の電源を自動的にOFFする

12 MENU 画面について

■ ディスプレイ設定について

バックライト (初期設定：8)

ディスプレイ設定 > バックライト

バックライトの明るさを設定します。

- 1～8: 1(暗い)～8(明るい)で選択

オートディマー (初期設定：OFF)

ディスプレイ設定 > オートディマー

バックライトの点灯状態を設定します。

- OFF : 無線機の電源が入っているとき、バックライトを常に点灯する
- オート-OFF : 「オートディマータイマー」で設定した時間、操作しない状態がつづくとき、消灯します。
タッチパネルや[DIAL]を操作したとき、「バックライト」で設定した明るさで点灯します。
- オート-1(暗い)～オート-7(明るい) : 「オートディマータイマー」で設定した時間、操作しない状態がつづくとき、設定した明るさで点灯します。
タッチパネルや[DIAL]を操作したとき、「バックライト」で設定した明るさで点灯します。

オートディマータイマー (初期設定：5秒)

ディスプレイ設定 > オートディマータイマー

オートディマーの設定が「オート-OFF」、または「オート-1」～「オート-7」のとき、オートディマーが動作するまでの時間を設定します。

- 5秒 : 点灯後、5秒以上操作しないときは、自動で動作する
- 10秒 : 点灯後、10秒以上操作しないときは、自動で動作する

タッチ操作(ディマー時) (初期設定：解除&実行)

ディスプレイ設定 > オートディマータイマー

オートディマー動作時にタッチパネルを操作したときの、無線機の動作を設定します。

- 解除のみ : オートディマー動作時、タッチパネルを操作すると、オートディマーを解除します。
- 解除&実行 : オートディマー動作時、タッチパネルを操作すると、オートディマーの解除と同時に、タッチ操作を実行します

LCDコントラスト (初期設定：8)

ディスプレイ設定 > LCDコントラスト

表示のコントラスト(濃淡)を16段階で設定します。

- 1～16 : 1(淡い)～16(濃い)で選択

受信コールサイン表示 (初期設定：ノーマル)

ディスプレイ設定 > 受信コールサイン表示

DVモード運用時に、呼び出してきた相手局のコールサインとメッセージをディスプレイに表示する機能です。

- OFF : 受信してもコールサインとメッセージを表示しない
- ノーマル : 受信したとき、相手局のコールサインとメッセージをスクロール表示する
※コールサインをスクロール表示したあとに、メッセージを表示します。
※スクロール後、表示は消えます。
- 受信ホールド : 受信したとき、相手局のコールサインとメッセージをスクロール表示する
※コールサインをスクロール表示したあとに、メッセージを表示します。
※スクロール後、信号が消えるまで、コールサインを表示します。(スクロールはしません。)
※受信信号にコールサインが含まれていないときは、メッセージをスクロール表示したあとに、表示は消えます。
- ホールド : 受信したとき、相手局のコールサインとメッセージをスクロール表示する
※コールサインをスクロール表示したあとに、メッセージを表示します。
※スクロール後、信号が消えるまで、コールサインを表示します。(スクロールはしません。)
※信号が消えると、コールサインとメッセージを2秒おきに表示します。(スクロールはしません。)
※受信信号にコールサインが含まれていないときは、メッセージをスクロール表示したあとに、メッセージを表示します。

※「ノーマル」、「受信ホールド」、または「ホールド」に設定時、受信した相手局のコールサインとネームが登録されているときは、コールサインのあとに「()」付きでネームを表示します。

受信位置インジケータ (初期設定：ON)

ディスプレイ設定 > 受信位置インジケータ

DVモードで受信した信号に位置情報が含まれているとき、インジケータ(📍)をディスプレイに表示するか、しないかを設定します。

※受信コールサイン表示機能を「OFF」に設定しているときは、受信信号に位置情報が含まれていても、インジケータをディスプレイに表示しません。

- OFF : 受信信号に位置情報が含まれていても、インジケータをディスプレイに表示しない
- ON : 受信信号に位置情報が含まれているとき、インジケータをディスプレイに表示する

12 MENU 画面について

■ ディスプレイ設定について(つづき)

受信位置表示 (初期設定：ON(メイン/サブ))

ディスプレイ設定 > 受信位置表示

DVモードで受信した信号に送信局の位置情報が含まれているとき、その位置情報をダイアログで表示するか、しないかを設定します。

- OFF : 受信信号に送信局の位置情報が含まれていても、その位置情報をダイアログで表示しない
- ON(メイン/サブ)
: 受信信号に送信局の位置情報が含まれているとき、その位置情報をダイアログで表示する
- ON(メインのみ)
: メインバンドで受信した信号に送信局の位置情報が含まれているとき、その位置情報をダイアログで表示する

※表示時間は、「受信位置表示時間」の設定にしたがいます。

受信位置表示時間 (初期設定：10秒)

ディスプレイ設定 > 受信位置表示時間

送信局の位置情報をダイアログで表示する時間を設定します。

- 5秒～30秒 : 5/10/15/30秒の中から選択
- ホールド : 本製品を操作するまで、送信局の位置情報をダイアログで表示する

自動応答位置表示 (初期設定：ON)

ディスプレイ設定 > 自動応答位置表示

自動応答で位置情報を受信したとき、相手局の位置情報をダイアログで表示する自動応答位置表示機能を設定します。

- OFF : 自動応答による位置情報を受信しても相手局の位置情報を表示しない
- ON : 自動応答による位置情報を受信したとき、相手局の位置情報を表示する

送信コールサイン表示 (初期設定：相手局)

ディスプレイ設定 > 送信コールサイン表示

DVモードで送信するとき、コールサインをスクロール表示する機能です。

- OFF : 送信してもコールサインを表示しない
- 相手局 : 送信したとき、相手局のコールサインを一度だけスクロール表示する
※DR機能使用時を除き、相手局のコールサインと名前が登録されている場合は、コールサインにつづいて名前を「()」付きで表示します。
- 自局 : 送信したとき、自局のコールサインを一度だけスクロール表示する

スクロール速度 (初期設定：速い)

ディスプレイ設定 > スクロール速度

ポップアップの受信メッセージ、コールサイン、メモリーチャンネル名前やMENU画面の設定項目などの表示をスクロールしたときの表示速度を設定します。

- 遅い : ゆっくりスクロールする
- 速い : 速くスクロールする(「遅い」の約2倍の速さです)

オープニングメッセージ (初期設定：ON)

ディスプレイ設定 > オープニングメッセージ

電源投入時に弊社ロゴと製品名、自局のコールサインなどを表示する、オープニング画面を表示するかしないかを選択します。

- OFF : 電源投入時、オープニング画面を表示しない
 - ON : 電源投入時、約2秒オープニング画面を表示する
- ※自局のコールサインが登録されていない場合、コールサインは表示されません。

電圧表示(パワーオン) (初期設定：ON)

ディスプレイ設定 > 電圧表示(パワーオン)

電源投入時に電源電圧を表示するかしないかを選択します。

- OFF : 電源電圧を表示しない
 - ON : 電源電圧を表示する
- ※「Over Voltage」を表示するときは、過電圧(17.0V以上)が接続されていますので、ただちに電源をはずしてください。

緯度/経度 (初期設定：ddd° mm' ss")

ディスプレイ設定 > 表示単位 > 緯度/経度

画面に表示する位置情報の表示形式を設定します。

- ddd° mm.mm' : 位置情報を「度/分(小数点)」で表示する
- ddd° mm'ss" : 位置情報を「度/分/秒」で表示する

高度/距離 (初期設定：m)

ディスプレイ設定 > 表示単位 > 高度/距離

高度や相手局との距離を示す長さの表示単位を設定します。

- m : メートル法で表示する
- ft/ml : ヤード・ポンド法で表示する

速度 (初期設定：km/h)

ディスプレイ設定 > 表示単位 > 速度

移動速度の表示単位を設定します。

- km/h : メートル法で表示する
- mph : ヤード・ポンド法で表示する
- knots : 船や航空などの速度の単位(ノット)で表示する

12 MENU 画面について

■ ディスプレイ設定について(つづき)

気温 (初期設定：℃)

ディスプレイ設定 > 表示単位 > 気温

気温の表示単位を設定します。

- ℃：気温の表示単位を「摂氏」に設定する
- °F：気温の表示単位を「華氏」に設定する

気圧 (初期設定：hPa)

ディスプレイ設定 > 表示単位 > 気圧

気圧の表示単位を設定します。

- hPa：気圧の表示単位を「ヘクトパスカル」に設定する
- mb：気圧の表示単位を「ミリバール」に設定する
- mmHg：気圧の表示単位を「水銀柱ミリ」に設定する
- inHg：気圧の表示単位を「水銀柱インチ」に設定する

雨量 (初期設定：mm)

ディスプレイ設定 > 表示単位 > 雨量

雨量の表示単位を設定します。

- mm：雨量の表示単位を「ミリメートル」に設定する
- inch：雨量の表示単位を「インチ」に設定する

風速 (初期設定：m/s)

ディスプレイ設定 > 表示単位 > 風速

風速の表示単位を設定します。

- m/s：メートル法で表示する
- mph：ヤード・ポンド法で表示する
- knots：船や航空などの速度の単位(ノット)で表示する

表示言語 (初期設定：日本語)

ディスプレイ設定 > 表示言語

DR機能の選択画面やMENU画面の項目名の言語を選択します。

- 英語：英語表示
- 日本語：日本語表示

システム言語 (初期設定：日本語)

ディスプレイ設定 > システム言語

使用できる文字の種類を選択します。

ご注意

「システム言語」を「日本語」から「英語」に変えた場合、日本語を使って入力されたネームの表示や編集ができなくなります。入力に使われた、ひらがな、カタカナ、漢字、和文記号は、「=」と「_」で表示されます。

「システム言語」を「日本語」に戻すと、ふたたび表示や編集ができるようになります。

- 英語：ネームなどの文字列編集に、半角英数、英文記号だけが使用できる

入力モード	入力文字一覧
AB	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
ab	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
12	1234567890
記号	!"#\$%&'()*+,-./:;<=?@[^_`{ }~。「」、・、°

- 日本語：ネームなどの文字列編集に、半角英数と英文記号に加え、全角文字(ひらがな、カタカナ、漢字)、和文記号が使用できる

入力モード	入力文字一覧
AB(全角/半角)	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
ab(全角/半角)	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
12(全角/半角)	1234567890
カナ(全角/半角)	アイウエオカキクケコサシスセソタチツテト ナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨラリ ルレロワヲン
あ漢	あいうえおかきくけこさしすせそたちつてとな にぬねのはひふへほまみむめもやゆよらりる れるわをん (ひらがな1文字選択後、[変換]で漢字変換)
記号	パソコンのキーボードから入力できる記号は、すべて入力できます。
区点	JIS区点コードを利用して、文字や記号を入力できます。

※ ■ はスペースです

12 MENU 画面について

■ サウンド設定について

ビープレベル (初期設定：9)

サウンド設定 > ビープレベル

キー操作音とポケットビープ機能のビープ音大きさを設定します。

※ビープレベルが「0」のときは、バンドエッジビープ、スキャンストップビープやスタンバイビープ音は鳴りません。

※スピーチ機能の読み上げ音量レベルは、「スピーチ」項目にある「スピーチレベル」で設定できます。

※ビープレベルは、音量ツマミの操作と連動します。

- 0～9: 0(鳴らさない)～1(最小)～9(最大)の中から選択

操作音 (初期設定：ON)

サウンド設定 > 操作音

画面操作時にビープ音を鳴らす機能です。

- OFF : 画面操作時にビープ音を鳴らさない
- ON : 画面操作時にビープ音を鳴らす

ホームCHビープ (初期設定：ON)

サウンド設定 > ホームCHビープ

[DIAL]を回してホームCHを表示したときに、ビープ音を鳴らす機能です。

VFOモード、メモリーモードでは、ホームCHとして登録した周波数、またはM-CHが選択されるとビープ音が鳴ります。(ホームCHビープ機能について P13-4)

DR画面では、FROM設定時にホームCHとして登録したアクセスレピータが選択されるとビープ音が鳴ります。

- OFF : ホームCHビープ音を鳴らさない
- ON : ホームCHビープ音を鳴らす

バンドエッジビープ (初期設定：OFF)

サウンド設定 > バンドエッジビープ

バンドが切り替わったことを知らせるためにビープ音を鳴らす機能です。

[DIAL]でAIR帯、VHF帯、UHF帯に切り替わると、ビープ音が1回鳴ります。

- OFF : バンドエッジビープ音を鳴らさない
- ON : バンドエッジビープ音を鳴らす

スキャンストップビープ (初期設定：OFF)

サウンド設定 > スキャンストップビープ

スキャン動作中に信号を受信してスキャンが一時停止したとき、ビープ音を鳴らす機能です。

- OFF : ビープ音を鳴らさない
- ON : ビープ音を鳴らす

スタンバイビープ (初期設定：ON(自局宛て:高音))

サウンド設定 > スタンバイビープ

DVモード運用時、終話ビープ(スタンバイビープ)を鳴らして終話ができるようにする機能です。

- OFF : スタンバイビープを鳴らさない

- ON : スタンバイビープを鳴らす

- ON(自局宛て:高音)

: スタンバイビープを鳴らす

さらに、ほかの交信の終話と区別できるように、自

局宛の呼び出しの終話には高いビープ音が鳴る

※「操作音」の設定が「OFF」であっても、スタンバイビープは鳴ります。

※スタンバイビープの音量は、「ビープレベル」の設定に準じます。

サブバンドミュート (初期設定：OFF)

サウンド設定 > サブバンドミュート

デュアルワッチモードで運用しているときに、サブバンドの受信音を自動的にミュートする機能です。

- OFF : サブバンドの受信音をミュートしない

- ミュート : メインバンドで受信したとき、サブバンドの受信音をミュートする

- ビープ : サブバンドが受信していたとき、サブバンドの受信が終了するとビープ音(ピッ)を鳴らす

- ミュート&ビープ

: メインバンドが受信しているとき、サブバンドの受信音をミュートする

また、サブバンドが受信していたときに、サブバンドの受信が終了するとビープ音を鳴らす

※ビープ音は、メインバンドの受信の有無に関わらず鳴ります。

スコープAF出力 (初期設定：ON)

サウンド設定 > スコープAF出力

スコープAF出力機能は、スイープ先の受信音声を出力する機能です。

- OFF : スイープ中の周波数の受信音声を出力しない

- ON : スイープ中の周波数の受信音声を出力する

※スコープAF出力機能は、デュアルバンド表示のときだけ使用できます。

12 MENU 画面について

■ 時間設定について

日付

時間設定 > 日時設定 > 日付

日付を設定します。

- 2000/01/01～2099/12/31の範囲で設定する

時間

時間設定 > 日時設定 > 時間

時刻を設定します。

- 0:00～23:59の範囲で設定する

※GPS時刻補正が「オート」、UTCオフセットが「+9:00」に設定(初期値のまま)されていれば、内蔵GPSを使うことで自動的に設定されます。(P8-2)

GPS時刻補正 (初期設定 : オート)

時間設定 > GPS時刻補正

GPSセンテンスに含まれる時刻情報を使用して時刻を補正する機能です。

GPSから受けたUTC時間と、設定された「UTCオフセット」から時刻を算出します。

- OFF : 時刻を自動補正しない
- オート : 時刻を自動補正する

※GPSの電波を受信すると、表示時刻を補正します。

UTCオフセット (初期設定 : +9:00)

時間設定 > UTCオフセット

現地時間とUTC時間(協定世界時)の差(オフセット時間)を5分間隔で設定します。

- -14:00～+14:00 : オフセット時間を、-14:00時間～+14:00時間のあいだで設定する

※日本時間を表示するには、初期値(+9:00)のままでお使いください。

オートパワーオフ (初期設定 : OFF)

時間設定 > オートパワーオフ

何も操作しない状態が一定時間つづくとき自動的に電源を切る、オートパワーオフ機能を設定します。

- OFF : オートパワーオフ機能が動作しない
- 30分～120分

: 自動的に電源が切れる時間を、30分/60分/90分/120分から選択する

※電源が切れる約5秒前になると、「オートパワーオフ」が表示されると同時にピープ音になります。

このあいだに操作をしたときは、タイマーを再スタートします。

■ SDカードについて

設定ロード

SDカード > 設定ロード

設定ファイルを読み込むときに、一覧から選択します。

設定セーブ

SDカード > 設定セーブ

設定ファイルを保存します。

インポート

SDカード > インポート/エクスポート > インポート

CSVフォーマットで保存されたレピータリスト、相手局コールサイン、GPSメモリーを本製品に取り込みます。

エクスポート

SDカード > インポート/エクスポート > エクスポート

本製品で使用しているレピータリスト、相手局コールサイン、GPSメモリーをCSVフォーマットに書き出します。

区切り/小数点 (初期設定 : 区切り「,」 小数点「.」)

SDカード > インポート/エクスポート > CSVフォーマット > 区切り/小数点

レピータリスト、相手局コールサイン、GPSフォーマットをCSV形式で出力するときの、項目の区切り文字と小数点の文字を設定できます。

- 区切り「,」 小数点「.」 : 区切り文字を「,」、小数点文字を「.」にする
- 区切り「;」 小数点「.」 : 区切り文字を「;」、小数点文字を「.」にする
- 区切り「;」 小数点「,」 : 区切り文字を「;」、小数点文字を「,」にする

12 MENU 画面について

■ SDカードについて

日付 (初期設定：yyyy/mm/dd)

SDカード > インポート/エクスポート > CSVフォーマット > 日付

レピータリスト、相手局コールサイン、GPSフォーマットをCSV形式で出力するときの日付表示を設定します。

※y(year)：年、m(month)：月、d(day)：日

- yyyy/mm/dd：日付を「年/月/日」で表示する
- mm/dd/yyyy：日付を「月/日/年」で表示する
- dd/mm/yyyy：日付を「日/月/年」で表示する

SDカード情報

SDカード > SDカード情報

SDカードの空き容量、録音できる時間を確認します。

フォーマット

SDカード > フォーマット
SDカードを初期化します。

アンマウント

SDカード > アンマウント
本製品の電源を入れた状態でSDカードを取りはずすときの、アンマウント処理をします。

■ Bluetooth設定について

別売品のUT-133(Bluetooth®ユニット)を本製品に取り付けると、設定できます。

Bluetooth (初期設定：OFF)

Bluetooth設定 > Bluetooth

Bluetooth®機能をON/OFFします。

Bluetooth®機能を使用するには、別売品のUT-133(Bluetooth®ユニット)が必要です。

- OFF：Bluetooth®機能を使用しない
- ON：Bluetooth®機能を使用する

自動接続 (初期設定：ON)

Bluetooth設定 > 自動接続

ペアリング済みのBluetooth®機器に対して、自動で接続をするかどうかを設定します。

- OFF：ペアリング済みの機器に自動で接続しない
- ON：ペアリング済みの機器に自動で接続する
※最後に接続していた機器に自動接続します。

ペアリング/接続

Bluetooth設定 > ペアリング/接続

接続したいBluetooth®機器を検索、またはペアリング済みのBluetooth®機器を一覧表示します。

※ペアリングについて(☞P15-6)

《相手機器からペアリング》

Bluetooth設定 > 《相手機器からペアリング》

Android®端末などのBluetooth®機器からペアリングするときの設定です。

※相手機器からのペアリングについて(☞P15-12)

AF出力切替 (初期設定：ヘッドセットのみ)

Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > AF出力切替

Bluetooth®対応のヘッドセットを接続している場合、無線機本体からのAF出力を設定します。

- ヘッドセットのみ：無線機本体のスピーカーをOFFにし、ヘッドセットからだけAFを出力します。
- ヘッドセット&スピーカー：無線機本体のスピーカーをONにし、ヘッドセットと無線機からAFを出力します。

VOX (初期設定：OFF)

Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > VOX > VOX

[PTT]を押さなくても、マイクロホンからの音声によって送受信を自動的に切り替える、VOX機能を設定します。

- OFF：VOX機能を使用しない
- ON：VOX機能を使用する

ご注意

VOX機能を使用するには、別売品のBluetooth®ヘッドセットが必要です。

12 MENU画面について

■ Bluetooth設定について(つづき)

VOXゲイン (初期設定：5)

Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > VOX > VOXゲイン
入力音声により送信に切り替わる感度を設定します。

- OFF : VOX機能を「OFF」にする
(声を出しても送信状態に切り替わりません。)
- 1～10 : 「1(送信しにくい)」～「10(送信しやすい)」から感度を選択する

ご参考

VOXゲインは、マイク感度の影響を受けます。
本設定の前に、MENU画面の「機能設定」にある「マイクゲイン」項目、またはBluetooth®ヘッドセット本体のマイクゲインを調整することをおすすめします。

VOXディレイ (初期設定：0.5秒)

Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > VOX > VOXディレイ
VOX機能により送信状態に切り替わったあと、音声入力が無くなって送信状態を保持する時間を設定します。

- 0.5秒～3.0秒 : 0.5秒/1.0秒/1.5秒/2.0秒/2.5秒/3.0秒から選択

ご参考

話をしている途中で、送信が途切れやすい場合は、設定時間を長くします。ただし、長くしすぎると、受信に切り替わる際の待ち時間も長くなります。

VOXタイムアウトタイマー (初期設定：3分)

Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > VOX > VOXタイムアウトタイマー

VOX機能使用時に、連続して送信できる時間を設定しします。

- OFF : 送信時間を制限しない
- 1分～15分 : 1分/2分/3分/4分/5分/10分/15分の中から選択

パワーセーブ (初期設定：OFF)

Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > アイコムヘッドセット > パワーセーブ

別売品のVS-3(Bluetooth®ヘッドセット)接続時、ヘッドセットのバッテリーを長持ちさせるパワーセーブモードで運用するかどうかを設定します。

※市販のヘッドセット、またはデータ端末接続時は、この設定に関係なくパワーセーブモードがオフとなります。

- OFF : パワーセーブモードに移行しない
- ON : 120秒間音声のやり取りがなく、操作しない状態がづくくと、パワーセーブモードに移行する

ワンタッチPTT (初期設定：OFF)

Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > アイコムヘッドセット > ワンタッチPTT

別売品のVS-3(Bluetooth®ヘッドセット)接続時、ワンタッチPTT機能を設定します。

ワンタッチPTT機能を設定すると、VS-3の[PTT]を押したまま送信できなくなります。

※市販のヘッドセット接続時は、この設定に関係なくワンタッチPTT動作となります。

- OFF : [PTT]を押しているあいだ送信状態になり、はなすと受信状態に戻る
- ON : [PTT]を押すごとに送信と受信を切り替える

PTTビーブ (初期設定：OFF)

Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > アイコムヘッドセット > PTTビーブ

別売品のVS-3(Bluetooth®ヘッドセット)の[PTT]を押したときにビーブ音を鳴らす機能を設定します。

- OFF : ビーブ音を鳴らさない
- ON : ビーブ音を鳴らす

カスタマイズキービーブ (初期設定：OFF)

Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > アイコムヘッドセット > カスタマイズキービーブ

別売品のVS-3(Bluetooth®ヘッドセット)のカスタマイズキー([PLAY]/[FWD]/[RWD])を操作したときにビーブ音を鳴らす機能を設定します。

- OFF : ビーブ音を鳴らさない
- ON : ビーブ音を鳴らす

カスタマイズキー

(初期設定：[PLAY]：--- [FWD]：UP [RWD]：DOWN)

Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > アイコムヘッドセット > カスタマイズキー

別売品のVS-3(Bluetooth®ヘッドセット)のカスタマイズキー([PLAY]/[FWD]/[RWD])に機能を割り当てることができます。

※送信中での機能を割り当てることはできません。

12 MENU 画面について

■ Bluetooth設定について(つづき)

【ご参考】

カスタマイズキーに割り当てできる機能一覧です。

機能	動作内容
---	割り当てなし
UP	VFOモード時の周波数、メモリーモード/DR画面選択時のM-CHアップ
DOWN	VFOモード時の周波数、メモリーモード/DR画面選択時のM-CHダウン
VOL UP	音量アップ
VOL DOWN	音量ダウン
SQL UP	スケルチアップ
SQL DOWN	スケルチダウン
モニター	押すごとに、スケルチが開いたり閉じたりする
CALL	CALL-CH表示に切り替え
MR(000 CH)	M-CH000番に移動する
MR(001 CH)	M-CH001番に移動する
VFO/MR	VFOモードとメモリーモードの切り替え
DR	DR画面に切り替え
FROM/TO(DR)	DR画面のとき、押すごとに[FROM]と[TO]の項目選択状態に切り替える
ホームCH	表示している運用モード(VFO/MR)、またはDR画面に登録したホームCHに移動する ※ホームCHが登録されていない場合や、CALL-CHモードの状態では、エラービープが鳴ります。
BAND/BANK	VFOモードでは運用バンドを切り替え、メモリーバンクモードではバンク(OFF、A～Z)を選択する。 ※登録しているバンクだけが表示されます。
SCAN	短く押すと、スキャンを開始する スキャン中に短く押すと、スキャンを停止する
一時スキップ	スキャン中、スキャンの対象から一時的にははずす(スキップ)ようにメモリーに登録する
RX>CS	DVモード時、長く(ビップ、ピーと鳴るまで)押すとワンタッチ応答キーとして、聞こえている局を宛先に設定する
SPEECH	VFO/メモリー/CALL-CHモードでは周波数とモードをスピーチし、DR画面ではコールサインをスピーチする ※DR画面でシンプレックスを選択している場合は、周波数をスピーチします ※DR画面でFMレピータを選択している場合は、コールサイン+モード、または周波数+モードをスピーチします。
MAIN/DUAL	シングル表示では、キーを押すごとに、AバンドとBバンドを切り替える デュアル表示では、キーを押すごとに、SUBバンドをMAINバンドに切り替える 長く(ビップ、ピーと鳴るまで)押すごとに、シングル表示とデュアル表示を切り替える
MODE	受信モード(電波型式)を切り替える
LOW	送信出力を切り替える
DUP	デュプレックスモードのON/OFFと、シフト方向(DUP+/DUP-)を切り替える

機能	動作内容
PRIO	プライオリティスキャンのON/OFFを切り替える
TONE/DSQL	各種トーン機能を切り替える 《モード》FM/FM-N 「TONE」(レピータトーン機能) 「TSQL((・))」(トーンスケルチによるポケットビープ機能) 「TSQL」(トーンスケルチ機能) 「DTCS((・))」(DTCSコードスケルチによるポケットビープ機能) 「DTCS」(DTCSコードスケルチ機能) 「TSQL-R」(逆トーンスケルチ機能) 「DTCS-R」(逆DTCSコードスケルチ機能) 《モード》DV ※DR画面でも操作可能です。 「DSQL((・))」(デジタルコールサインスケルチによるポケットビープ機能) 「DSQL」(デジタルコールサインスケルチ機能) 「CSQL((・))」(デジタルコードスケルチによるポケットビープ機能) 「CSQL」(デジタルコードスケルチ機能)
MW	VFOモード、またはDR画面で長く(ビップ、ピーと鳴るまで)押すと、MAINバンドで表示している周波数をメモリーチャンネルに書き込みます。 ※自動的に空きチャンネルを選択して書き込みます。
MUTE	ミュート(消音)機能のON/OFFを切り替える
ボイス送信(T1)	※DR画面でも操作可能です。 短く押すと、SDカードに録音された自局の音声を1回だけ送信します。 長く(ビップ、ピーと鳴るまで)押すと、SDカードに録音された自局の音声を繰り返し送信します。 ご注意: VOICE送信録音画面にある「T1(送信用ボイスメモリー番号)」に録音されていない場合は、機能しません。 ※SDカードを本製品に取り付けている必要があります。
T-CALL	T-CALL*を送出する *1750Hzトーン信号

12 MENU 画面について

■ Bluetooth設定について(つづき)

シリアルポート機能

(初期設定：CI-V(エコーバック OFF))

Bluetooth設定 > データ端末設定 > シリアルポート機能

Bluetooth®のSPP(Serial Port Profile)接続でデータ端末やパソコンなどと接続するときのシリアルポートの機能を設定します。

- CI-V(エコーバックOFF)
 - : CI-Vコマンドの送受信をおこなう。
 - ※Bluetooth®のSPP接続で受信したシリアルデータをエコーバックとして送り返しません。
- CI-V(エコーバックON)
 - : CI-Vコマンドの送受信をおこなう。
 - ※Bluetooth®のSPP接続で受信したシリアルデータをエコーバックとして送り返します。
- DVデータ : DV簡易データ通信の送受信をおこなう。
 - ※クローンや気象データの入力や、GPSデータは出力しません。

■ その他について

電圧表示

その他 > 本体情報 > 電圧表示

本製品の電圧を確認できます。

バージョン情報

その他 > 本体情報 > バージョン情報

本製品のファームウェアのバージョンを確認できます。
※別売品のUT-133(Bluetooth®ユニット)を取り付けている場合は、Bluetooth®ユニットのバージョンも確認できます。

クローンモード

その他 > クローン > クローンモード

クローン書き込み、読み込みをするための画面を表示します。

※クローニングについて(☞P13-11)

自機器情報

Bluetooth設定 > 自機器情報

使用しているBluetooth®ユニットの情報を表示します。

Bluetoothユニット初期化

Bluetooth設定 > Bluetoothユニット初期化

Bluetooth®ユニットを初期化します。

タッチスクリーン補正

その他 > タッチスクリーン補正

タッチスクリーンを補正するときに選択します。

※タッチスクリーン補正の詳しい操作は、「タッチ位置の補正について」(☞P13-22)をご覧ください。

パーシャルリセット

本体情報 > リセット

パーシャルリセットするときに選択します。

※パーシャルリセットの詳しい操作は、「パーシャルリセットのしかた」(☞P18-1)をご覧ください。

オールリセット

本体情報 > リセット

オールリセットするときに選択します。

※オールリセットの詳しい操作は、「オールリセットのしかた」(☞P18-1)をご覧ください。

■ ボイス送信の使いかた	13-2
◇ ボイス送信用の音声を録音する	13-2
◇ ボイス送信のしかた	13-3
◇ ボイス送信の設定を変更する	13-3
■ ホームCHビープ機能について	13-4
◇ ホームCHを設定する	13-4
◇ ホームCHビープ機能を使う	13-4
■ スピーチ機能について	13-5
◇ スピーチ機能を使用する	13-5
◇ スピーチ機能の設定を変更する	13-5
■ DTMFメモリー機能の使いかた	13-6
◇ DTMFメモリーの書き込みかた	13-6
■ DTMFコードの送定のしかた	13-7
◇ DTMFメモリーに登録したコードを送出する	13-7
◇ 送定するコードを直接入力する	13-7
◇ DTMFスピードの設定	13-8
■ トーンスケルチ機能	13-9
◇ トーン周波数を設定して交信するには	13-9
■ DTCSコードスケルチ機能	13-10
◇ DTCSコードを設定して交信するには	13-10
■ クローニングについて	13-11
◇ 市販のSDカードを使った本体間クローン	13-11
◇ 市販のSDカードを使ったPC間クローン	13-14
◇ 別売品のケーブルを使ったPC間クローン	13-14
■ CI-Vについて	13-15
◇ CI-Vのデータ設定について	13-15
◇ パソコンとの接続	13-15
■ タッチ位置の補正について	13-22

13 各種機能の使いかた

■ ボイス送信の使いかた

ボイス送信とは、あらかじめ録音しておいた定型音声を送信する機能です。CQコールやコンテストなどで便利です。1回だけの単発送信や、繰り返し送信するリピート送信があります。4種類の送信音声は録音できます。

「T1」に録音したボイス送信音声は、マイクロホンのキーに割り当てることができます。(P12-42)

ご注意

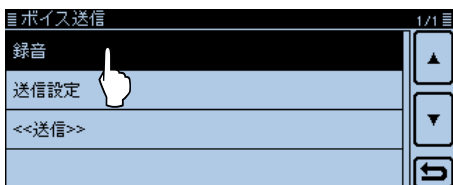
この機能を使用するには、SDカードを取り付けておく必要があります。

◇ ボイス送信用の音声を録音する

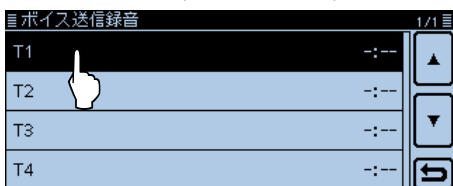
- ① [MENU]をタッチする。
●MENU画面が表示されます。
- ② 「ボイス送信」をタッチする。



- ③ 「録音」をタッチする。
●送信ボイス一覧画面が表示されます。

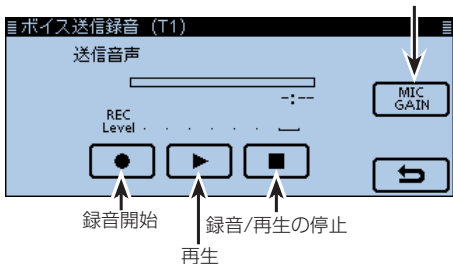


- ④ 送信ボイス番号(「T1」～「T4」)をタッチする。

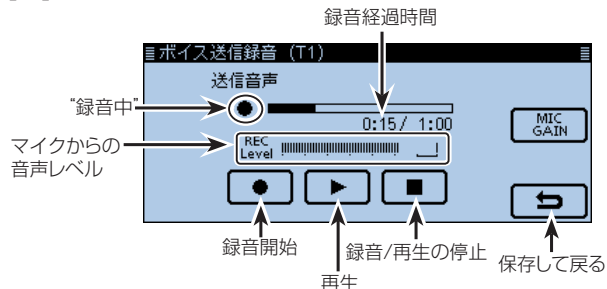


- 「ボイス送信録音」画面が表示されます。

マイクゲイン調整



- ⑤ [●]をタッチしてからマイクに向かって話す。



- マイクと口元を約5cmはなし、普通のおおきさの声で録音してください。
- 録音時間は最大1分間です。

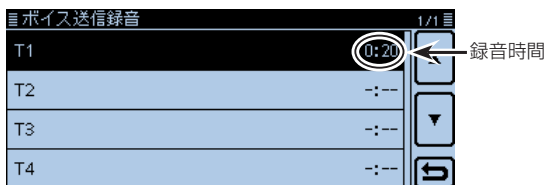
- ⑥ [■]をタッチして録音を停止させる。
- ⑦ [▶]をタッチして録音した音声を確認する。



- 録音し直したい場合は、[●]をタッチして、もう一度話します。
※先に録音した内容は上書きされます。

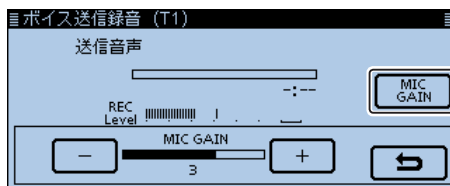
- ⑧ [↶]をタッチする。

- 送信ボイス一覧画面に戻ります。



ご参考

マイクゲインを調整するときは、[MIC GAIN]をタッチしてください。マイクゲイン調整画面が表示されるので、録音レベルインジケータを見ながら[+]/[-]をタッチして、マイクゲインを調整します。



13 各種機能の使いかた

■ ボイス送信の使いかた(つづき)

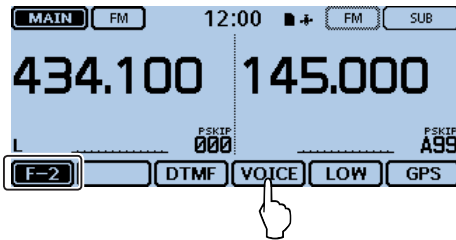
◇ ボイス送信のしかた

ご注意

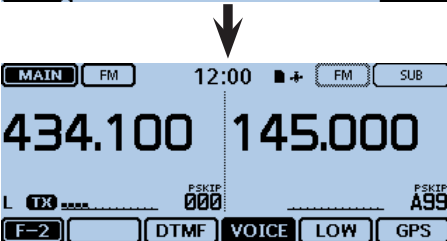
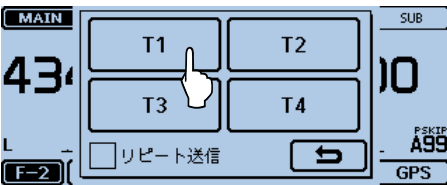
この機能を使用するには、送信ボイス音声を保存したSDカードを取り付けておく必要があります。

- ① ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「F-2」画面を表示させます。

- ② [VOICE]をタッチする。
 - 「ボイス送信」画面が表示されます。



- ③ 送信したいボイス番号([T1]~[T4])をタッチする。
 - ボイスが送出されます。



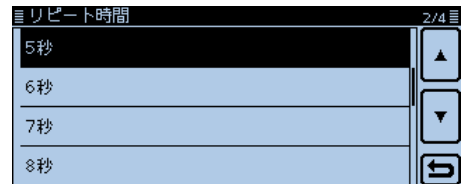
- もう一度[VOICE]をタッチすると、送信を停止します。
- ※リピート送信中に、[PTT]を押すと、送信を停止します。

◇ ボイス送信の設定を変更する

MENU画面の「送信設定」項目では、ボイス送信機能に関する下記の設定を変更できます。

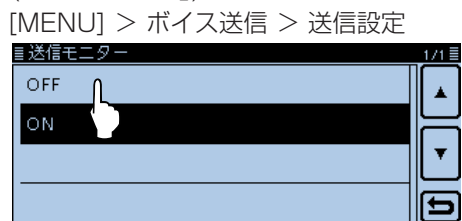
詳しくは、本書「MENU画面について」の「ボイス送信について」(P12-15)をご覧ください。

- ◎ 「リピート送信」の送信間隔を変更する(「リピート時間」)
[MENU] > ボイス送信 > 送信設定



※初期設定では、5秒間隔で送信されます。

- ◎ 送信ボイス音声をスピーカーから出さない(「送信モニター」)
[MENU] > ボイス送信 > 送信設定



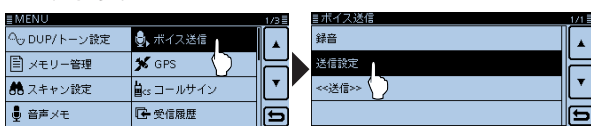
※初期設定では、「ON」(ボイス送信時の音声をスピーカーから出力する)に設定されています。

ご参考

- 手順③で「リピート送信」をタッチしてチェックマークを入れる(リピート送信)と、最大10分間、繰り返し送出されます。

※リピート送信の2回目以降は、ビジーロックアウトの設定に関わらず信号がなくなるまで送信を保留します。ただし、FMモードで強制的にスケルチをオープンしている場合はリピート送信を継続します。

- MENU画面の「ボイス送信」からもボイス送信ができます。「《送信》」をタッチすると、「ボイス送信」画面が表示されます。



13 各種機能の使いかた

■ ホームCHビープ機能について

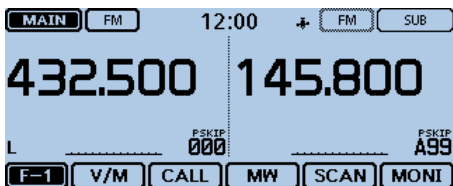
[DIAL]を回して、特定の周波数(ホームCH)に切り替わったときに、ビープ音を鳴らす機能です。
画面を見ずに特定の周波数やアクセスレピータを選択することができます。

◇ ホームCHを設定する

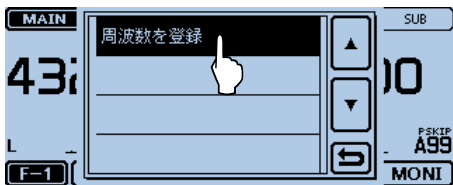
VFOモード、メモリーモード、DR機能画面、それぞれにホームCHを設定できます。

VFOモード/メモリーモードの場合

① ホームCHに設定したい周波数、またはM-CHに合わせる。



- ② [HOME]を長く(ピッピと鳴るまで)タッチする。
- ③ 「周波数を登録」/「チャンネルを登録」をタッチする



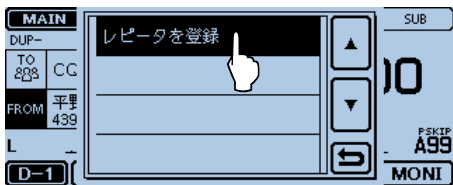
●「ピッピ」と鳴ってホームCHが設定されます。

DR機能でレピータを設定する場合

① ホームCHに設定したいレピータを[FROM]に選ぶ。



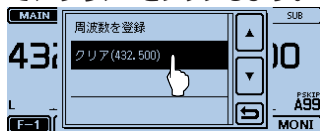
- ② [HOME]を長く(ピッピと鳴るまで)タッチする。
- ③ 「チャンネルを登録」をタッチする



●「ピッピ」と鳴ってホームCHが設定されます。

登録したホームCHを削除する

登録したホームCHを削除したいときは、上記の手順③で、「クリア」をタッチします。



◇ ホームCHビープ機能を使う

ホームCHを登録したら、[DIAL]を回します。
設定した周波数や特定のアクセスレピータに切り替わったときに、「プッ」というビープ音が鳴ります。

また、[HOME]をタッチしてもホームCHに切り替わりません。

ホームCHビープ機能は、MENU画面の「ホームCHビープ」項目で鳴らないように設定できます。

(サウンド設定 > ホームCHビープ) (P12-49)

13 各種機能の使いかた

■ スピーチ機能について

スピーチ機能とは、周波数とモード(電波型式)、またはコールサインを読み上げる機能です。

VFO/MR/CALL-CHモードの場合は、周波数とモードを、DR機能でレピータや個人局を選択した場合は、コールサインを読み上げます。

◇ スピーチ機能を使用する

◎[SPEECH] (🗨️)を押すと、MAINバンド側の周波数と電波型式、またはコールサインを読み上げます。

◎DVモードで信号を受信したとき、相手のコールサインを読み上げます。

◎[RX>CS]を長く(ピッピーと鳴るまで)タッチしたとき、[TO]に設定されたコールサインを読み上げます。

※読み上げ中に信号を受信すると、読み上げをやめて受信音が聞こえます。

※ボイスメモ録音時、スピーチ中にDVモードで信号を受信した場合は、DVモードの受信音声は録音されず無音になります。(DVモード以外はスピーチ中でも録音されます)

◇ スピーチ機能の設定を変更する

MENU画面の「スピーチ」項目では、スピーチ機能に関する下記の設定を変更できます。

詳しくは、本書「MENU画面について」の「スピーチ」をご覧ください。

◎ DVモードで信号を受信しても、相手のコールサインを読み上げない。(受信コールサインスピーチ)
スピーチ > 受信コールサインスピーチ (🔍P12-37)

※初期設定では、「ON(カーチャック)」に設定されています。

◎ [RX>CS]を長く(ピッピーと鳴るまで)タッチしたとき、[TO]に設定されたコールサインを読み上げない。(RX>CSスピーチ)
スピーチ > RX>CSスピーチ (🔍P12-37)

※初期設定では、「ON」に設定されています。

◎ [DIAL]を回して周波数やコールサインを切り替えたときにも読み上げる。(ダイヤルスピーチ)
スピーチ > ダイヤルスピーチ (🔍P12-37)

※初期設定では、「OFF」に設定されています。

◎ モードを切り替えたときに読み上げる。(モードスピーチ)
スピーチ > モードスピーチ (🔍P12-37)

※初期設定では、「OFF」に設定されています。

◎ 読み上げ言語を切り替える。(スピーチ言語)
スピーチ > スピーチ言語 (🔍P12-37)

※初期設定では、日本語で読み上げます。

◎ コールサインの読み上げかたを切り替える。(アルファベット)
スピーチ > アルファベット (🔍P12-37)

※初期設定では、数字やアルファベットで読み上げます。

◎ 読み上げ速度を切り替えます。(スピーチ速度)
スピーチ > スピーチ速度 (🔍P12-37)

※初期設定では、速く読み上げます。

◎ 読み上げる声の大きさを変更する。(スピーチレベル)

スピーチ > スピーチレベル (🔍P12-37)

※初期設定では、「7」に設定されています。

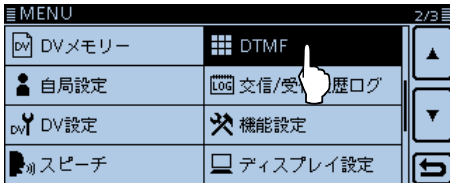
13 各種機能の使いかた

■ DTMFメモリー機能の使いかた

最大24桁のDTMFコードを、16チャンネルのDTMFメモリーに記憶できます。

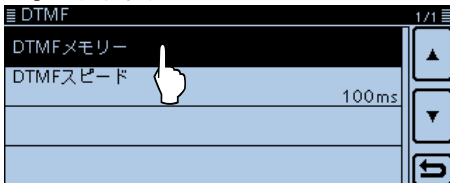
◇ DTMFメモリーの書き込みかた

- ① [MENU]をタッチする。
- ② [DTMF]をタッチする。

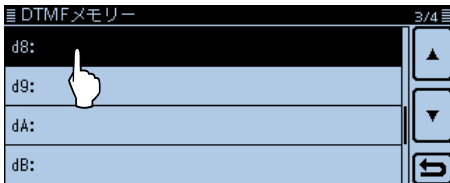


- ③ [DTMFメモリー]をタッチする。

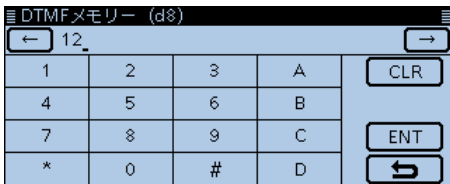
●DTMFメモリーチャンネルの一覧(「d0」～「d#」)が表示されます。



- ④ DTMFコードを登録するチャンネルをタッチする。



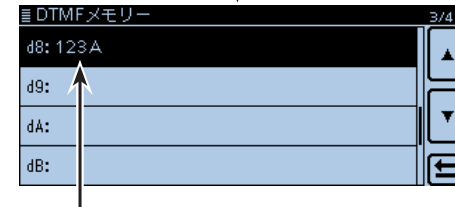
- ⑤ DTMFコードを入力する。(例 1 2 3 A)



- [←]/[→]をタッチして入力する桁を選択します。
- [CLR]をタッチすると、選択した文字を削除できます。

- ⑥ すべての桁を入力したら、[ENT]をタッチする。

●入力したチャンネルにDTMFコードが登録され、「DTMFメモリー」画面に戻ります。



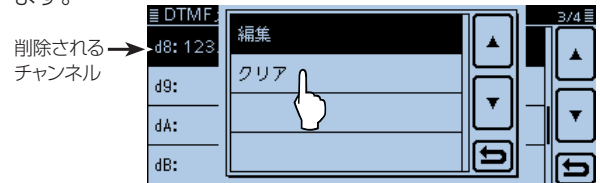
DTMFメモリー画面に登録された状態

- ⑦ [MENU]をタッチする。

●MENU画面が解除されます。

登録したDTMFコードを削除する

手順④で、削除したいDTMFメモリーチャンネルを長く(ピッピと鳴るまで)タッチして、「クリア」をタッチします。



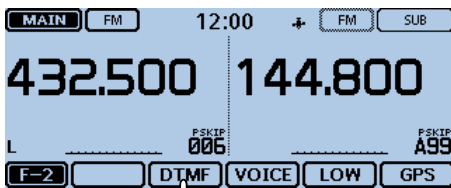
13 各種機能の使いかた

■ DTMFコードの送出手かた

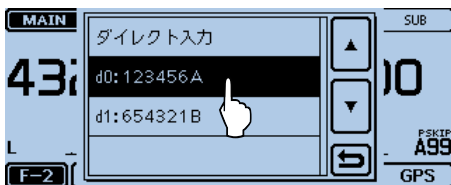
DTMFコードの送出手かたは、DTMFメモリーに登録したコードを送出する方法と、直接入力したコードを送出する方法の2とおりあります。

◇ DTMFメモリーに登録したコードを送出する

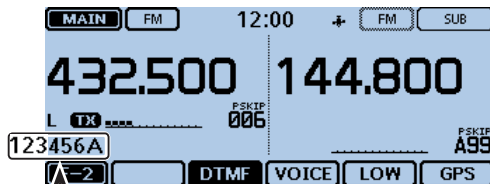
- ① ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「F-2」画面を表示させます。
- ② [DTMF]をタッチする。
 - 登録されているDTMFメモリーチャンネルの一覧が表示されます。



- ③ 送りたいDTMFメモリーチャンネルをタッチする。



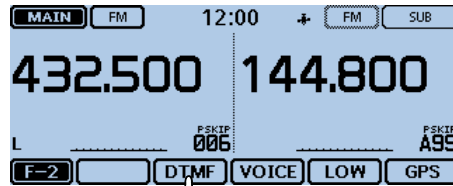
- DTMFコードが送られます。



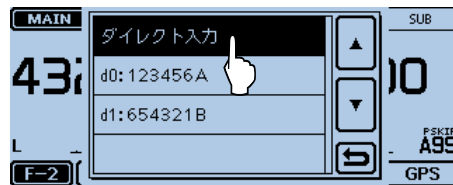
送出手中のDTMFコードがスクロール

◇ 送出手中のコードを直接入力する

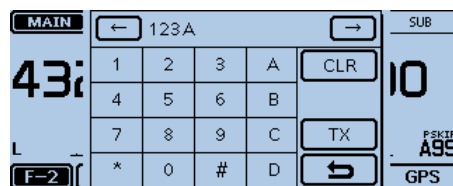
- ① ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - 「F-2」画面を表示させます。
- ② [DTMF]をタッチする。



- ③ 「ダイレクト入力」をタッチする。

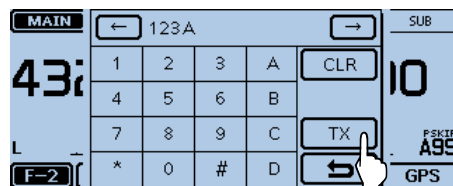


- ④ DTMFコードを入力する。(例 1 2 3 A)

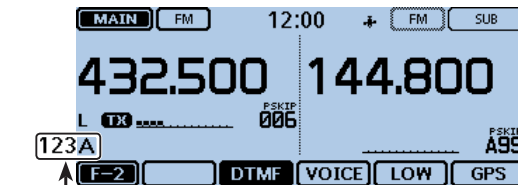


- [←]/[→]をタッチして入力する桁を選択します。
- [CLR]をタッチすると、選択した文字を削除できます。

- ⑤ すべての桁を入力したら、[TX]をタッチするか[PTT]を押す。



- DTMFコードが送られます。



送出手中のDTMFコードがスクロール

ご参考: 送出手中のDTMFを停止させるには、下記のいずれかの操作で送出手が停止します。

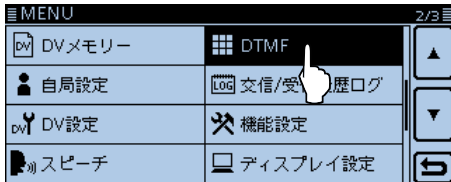
- 送出手中に[DTMF]をタッチする
- スクロールしているDTMFコードをタッチする

13 各種機能の使いかた

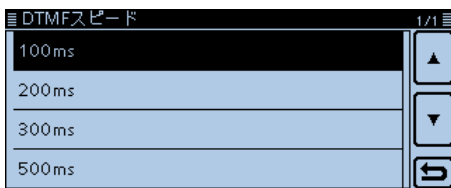
◇ DTMFスピードの設定

DTMFコードの1桁あたりの送出スピードを変更できます。
初期設定は約100ミリ秒です。

- ① [MENU]をタッチする。
- ② [DTMF]をタッチする。

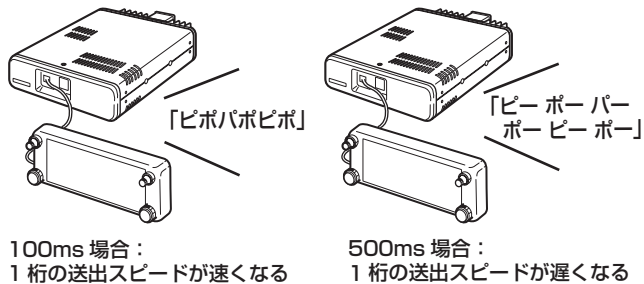


- ③ [DTMFスピード]をタッチする。
 - DTMFスピードの一覧が表示されます。



- ④ 設定したい送出スピードをタッチする。
 - 100ms : 1桁あたり約100ミリ秒で送出(初期値)
 - 200ms : 1桁あたり約200ミリ秒で送出
 - 300ms : 1桁あたり約300ミリ秒で送出
 - 500ms : 1桁あたり約500ミリ秒で送出
- ⑤ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面が解除されます。

● 送出スピードのイメージ(DTMFコード6桁の場合)



13 各種機能の使いかた

■ トーンスケルチ機能

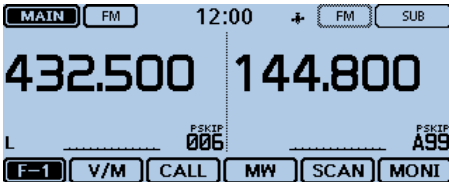
自局が設定したトーン周波数(初期値:88.5Hz)と同じ周波数を受信したときだけ、スケルチが開いて音声聞こえる機能です。

FMモード、またはFMナローモードで、特定の相手局と交信するとき、この機能を設定することで、快適な待ち受けができます。また、自局が設定したトーン周波数を受信したときだけ、スケルチを閉じる「逆トーンスケルチ(TSQL-R:受信時だけ)」も用途にあわせてご利用ください。

◇ トーン周波数を設定して交信するには

1. トーン周波数を設定する

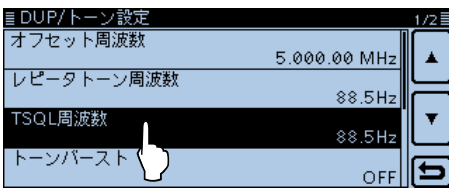
- ① VFOモードを選択する。
- ② FMモード、またはFM-Nモードを選択する。
- ③ 運用周波数を設定する。



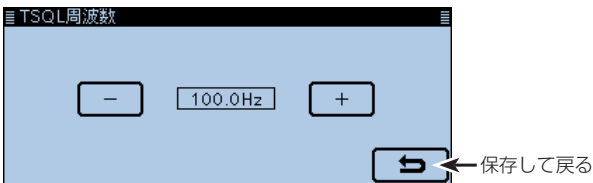
- ④ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面が表示されます。
- ⑤ 「**DUP/トーン設定**」をタッチする。



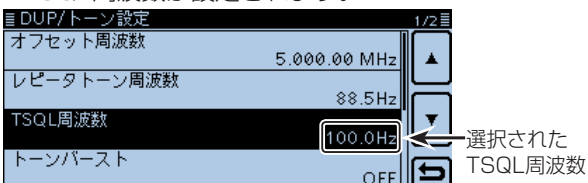
- ⑥ 「**TSQL周波数**」をタッチする。
 - TSQL周波数設定画面が表示されます。



- ⑦ [+],または[-]をタッチしてトーンスケルチ周波数を選択し、[↵]をタッチする。



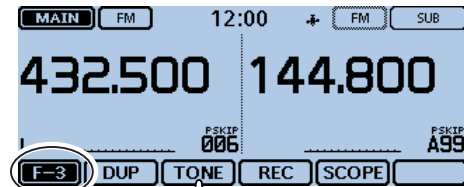
- TSQL周波数が設定されます。



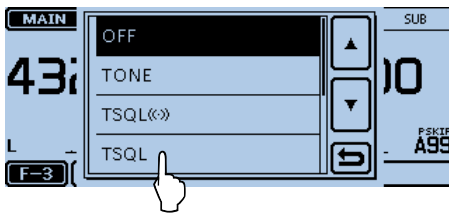
- ⑧ [MENU]をタッチする
 - VFOモードの画面に戻ります。

2. トーンスケルチを使って交信する

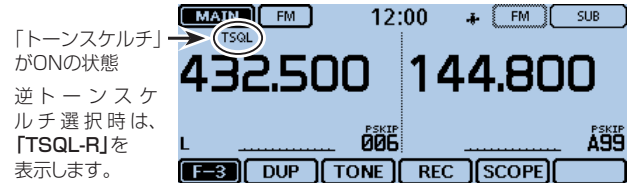
- ① ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - [F-3]画面を表示させます。
- ② [TONE]をタッチする。
 - トーン画面が表示されます。



- ③ 設定したいトーンスケルチタイプをタッチする。
 - TSQL (⊙) : トーンスケルチ機能のポケットビープをONにします。
 - TSQL : トーンスケルチ機能をONにします。
 - TSQL-R : 逆トーンスケルチをONにします。



- トーンスケルチを設定して、VFOモードの画面に戻ります。



- ④ [PTT]を押しながら相手局を呼び出して、トーンスケルチ機能を使用していないときと同様に交信します。

呼び出しをビープ音で知らせる「ポケットビープ」
手順③で「TSQL (⊙)」を選択したときは、待ち受け中に呼び出しを受けると、ビープ音が約30秒鳴りつづけるとともに、「(⊙)」が点滅します。
※呼び出しを受け、30秒以内に[PTT]を押して応答すると、ポケットビープ機能は解除(“(⊙)”が消灯する)され、トーンスケルチ機能が動作します。
また、30秒経過しても何も操作をしなかった場合、ポケットビープは自動停止して、「(⊙)」の点滅だけになります。

13 各種機能の使いかた

■ DTCSコードスケルチ機能

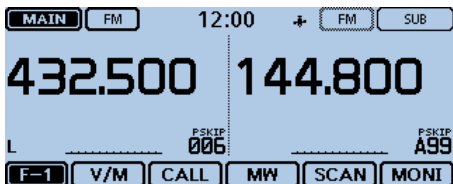
自局が設定したDTCSコード(初期値:023)と同じコードを受信したときだけ、スケルチが開いて音声聞こえる機能です。

FMモード、またはFMナローモードで、特定の相手局と交信するとき、この機能を設定することで、快適な待ち受けができます。また、自局が設定したDTCSコードを受信したときだけ、スケルチを閉じる「逆DTCSスケルチ(DTCS-R:受信時だけ)」も用途にあわせてご利用ください。

◇ DTCSコードを設定して交信するには

1.DTCSコードを設定する

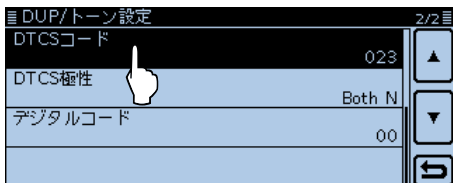
- ① VFOモードを選択する。
- ② FMモード、またはFM-Nモードを選択する。
- ③ 運用周波数を設定する。



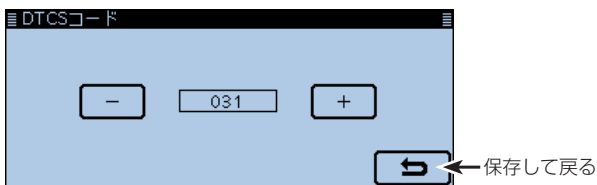
- ④ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面が表示されます。
- ⑤ [DUP/トーン設定]をタッチする。



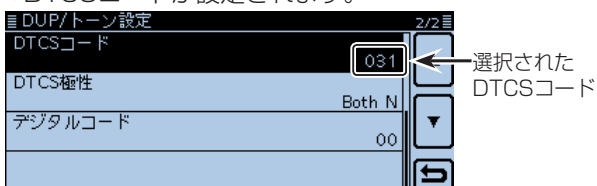
- ⑥ [DTCSコード]をタッチする。
 - DTCSコード設定画面が表示されます。



- ⑦ [+],または[-]をタッチしてDTCSコードを選択し、[↵]をタッチする。



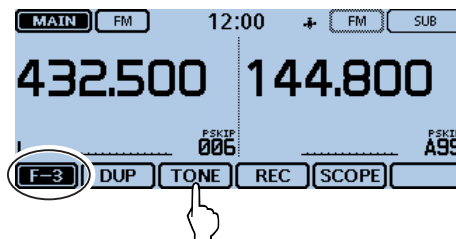
- DTCSコードが設定されます。



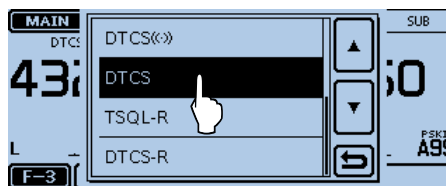
- ⑧ [MENU]をタッチする
 - VFOモードの画面に戻ります。

2.DTCSスケルチを使って交信する

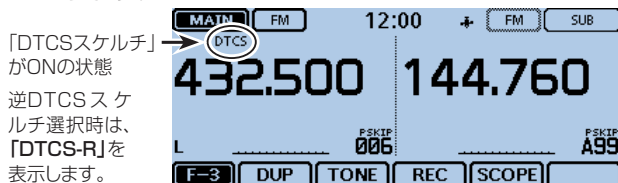
- ① ファンクショングループ表示部を数回タッチする。
 - [F-3]画面を表示させます。
- ② [TONE]をタッチする。
 - トーン画面が表示されます。



- ③ 設定したいDTCSコードタイプをタッチする。
 - DTCS((●)) : DTCSコードスケルチ機能のポケットビープをONにします。
 - DTCS : DTCSコードスケルチ機能をONにします。
 - DTCS-R : 逆DTCSスケルチをONにします。



- トーンスケルチを設定して、VFOモードの画面に戻ります。



- ④ [PTT]を押しながら相手局を呼び出して、DTCSコードスケルチ機能を使用していないときと同様に交信します。

呼び出しをビープ音で知らせる「ポケットビープ」

上記の手順③で「DTCS((●))」を選択したときは、待ち受け中に呼び出しを受けると、ビープ音が約30秒鳴りつづけるとともに、「((●))」が点滅します。

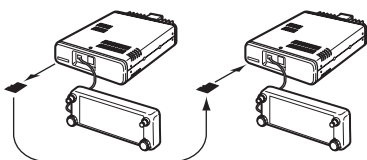
※呼び出しを受け、30秒以内に[PTT]を押して応答すると、ポケットビープ機能は解除(「((●))」が消灯する)され、DTCSコードスケルチ機能が動作します。また、30秒経過しても何も操作をしなかった場合、ポケットビープは自動停止して、「((●))」の点滅だけになります。

13 各種機能の使いかた

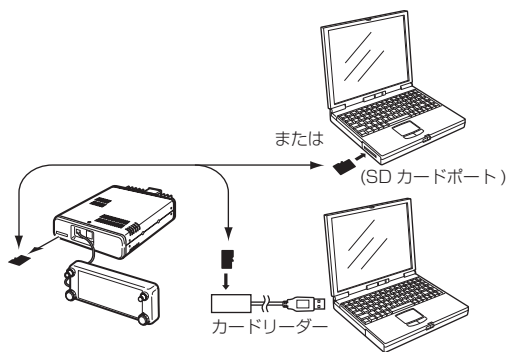
■ クローニングについて

クローニングとは、1台のID-5100のメモリーチャンネルや設定内容を、ほかのID-5100にコピーする機能です。本体間クローニングのほかにパソコンを使ってクローニングする方法があります。

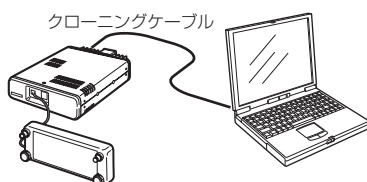
- 市販のSDカードを使った本体間クローン(右記参照)



- 市販のSDカードを使ったPC間クローン(☞P13-14)



- 別売品のケーブルを使ったPC間クローン(☞P13-14)



◇ 市販のSDカードを使った本体間クローン

市販のSDカードを使って本製品(親機)から本製品(子機)にクローニングする方法を説明します。

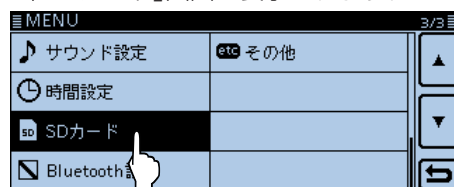
本製品に設定したメモリーチャンネル、MENU画面内の各設定項目、レピータリストをSDカードに保存できます。SDカードに録音した録音データは、クローニングするデータに含まれません。

親機のSDカードをそのまま子機に取り付けるか、パソコンを使って録音データを子機のSDカードにコピーすると、子機側でも再生できます。

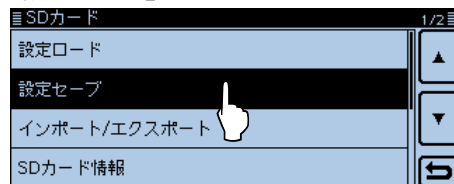
※SDカードは、あらかじめ取り付けられているものとして説明します。

1. 親機の設定データをSDカードに保存する

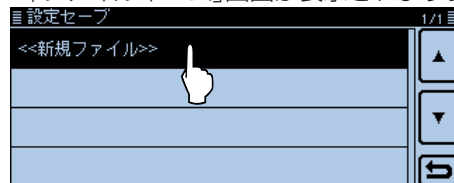
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「SDカード」をタッチする。
 - 「SDカード」画面が表示されます。



- ③ 「設定セーブ」をタッチする。



- ④ 「《新規ファイル》」をタッチする。
 - 「ファイルネーム」画面が表示されます。



- ファイル名は、「Set」につづいて、作成する年(y)、月(m)、日(d)、作成番号の順に自動的に入力され、「Setyyyyymmdd_作成番号」となります。
- ファイル名を変更する場合は、「設定ファイル名を変更して保存する」をご覧ください。(☞P9-6)

- ⑤ [ENT]をタッチする。



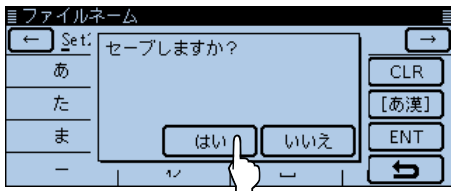
(次のページへ)

13 各種機能の使いかた

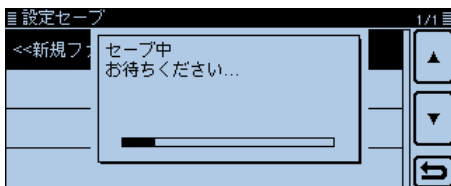
■ クローニングについて(つづき)

◇ 市販のSDカードを使った本体間クローン

6 [はい]をタッチする。



- 保存中、進行状況が表示されます。



- 保存が完了すると、「SDカード」画面に戻ります

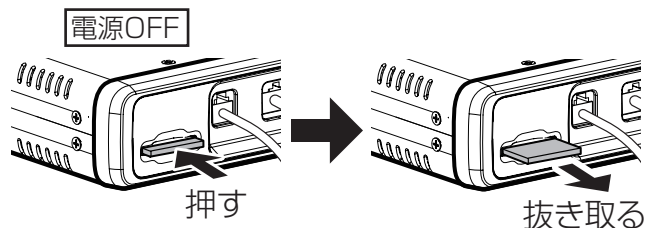
7 [MENU]をタッチする

- MENU画面が解除されます。

2. 親機のSDカードを取りはずし、子機に取り付ける

8 親機の[⏻]を長く押して、電源を切る。

9 下の図のように、親機からSDカードを取りはずす。



「カチッ」とロックが解除されるまで、SDカードを押し込む

SDカードを引き抜く

10 親機から取りはずしたSDカードを、子機に挿入し、[⏻]を長く押して電源を入れる。

3. 子機に設定データを読み込ませる

1 [MENU]をタッチする。

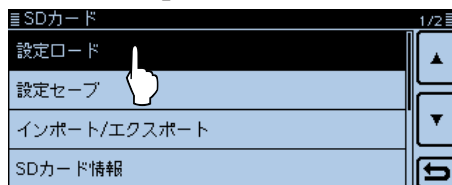
2 「SDカード」をタッチする。

- 「SDカード」画面が表示されます。

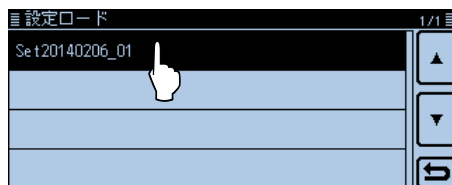


3 「設定ロード」をタッチする。

- 「設定ロード」画面が表示されます。

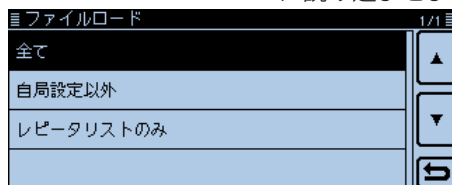


4 ロードしたい設定ファイルをタッチする。



5 読み込む内容をタッチする。

- 「全て」 :メモリーチャンネル、MENU画面内の各設定項目、レピータリストを本製品に読み込ませます。
- 「自局設定以外」 :メモリーチャンネル、MENU画面内の「自局設定」以外の設定項目、レピータリストを本製品に読み込ませます。
- 「レピータリストのみ」 :レピータリストだけを本製品に読み込ませます。



- 「レピータのSKIP設定を残しますか？」画面が表示されます。

(次のページへ)

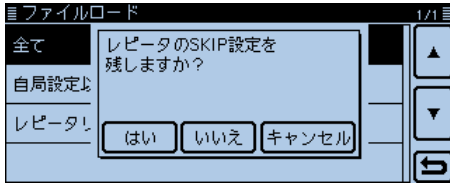
ご注意

SDカードを逆向きに挿入したり、無理やり挿入したりしないでください。SDカードやスロットが破損する原因になります。

13 各種機能の使いかた

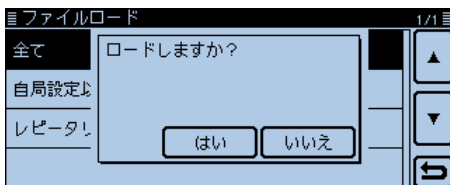
■ クローニングについて(つづき)

- ⑥ [はい]、または[いいえ]をタッチする。

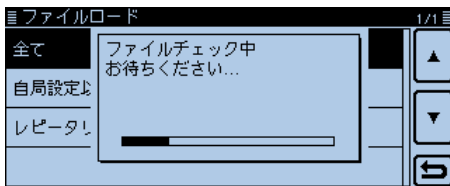


- [はい]を選択すると、レピータリストのスキップ設定(※P7-28)を保持します。
- 「ロードしますか?」画面が表示されます。

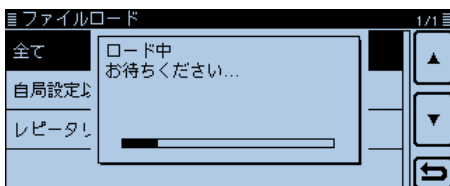
- ⑦ [はい]をタッチする。



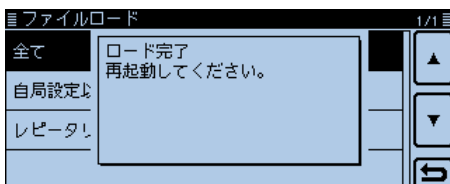
- ファイルチェック中、「ファイルチェック中」画面を表示し、進行状況を表示します。



- ファイルチェック後、設定データの読み込みを開始します。
- 読み込み中、「ロード中」画面を表示し、進行状況を表示します。



- 読み込みが完了すると、「ロード完了」画面が表示されます。



- ⑧ 子機の[ON]を長く押して、電源を切ります

13 各種機能の使いかた

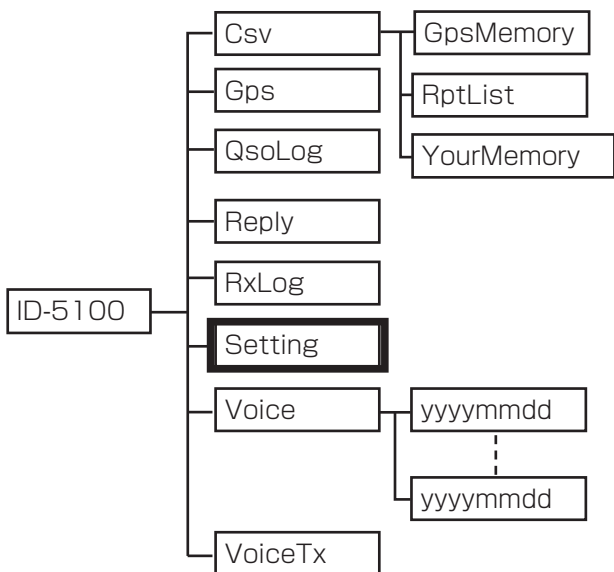
■ クローニングについて(つづき)

◇ 市販のSDカードを使ったPC間クローン

市販のSDカードを使って、パソコンでクローニングできます。

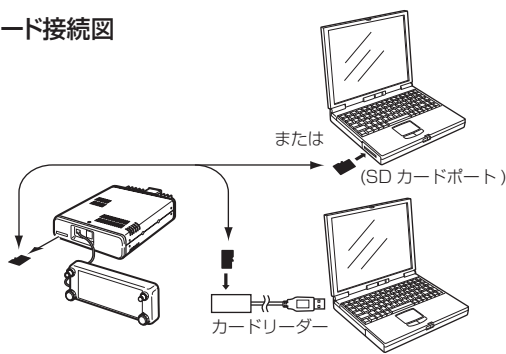
CS-5100(同梱CDに収録)で設定したメモリーチャンネル、MENU画面内の各設定項目、レピータリストをICFファイルで保存し、SDカードの「ID-5100」フォルダーの中にある、「Setting」フォルダーにそのICFファイルを入れます。

● SDカードのフォルダ階層



ICFファイルの入ったカードを本体に取り付けてロードするとクローニングが完了です。

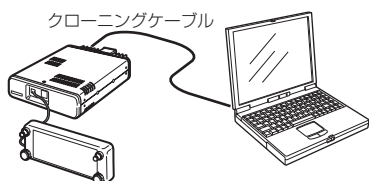
● SDカード接続図



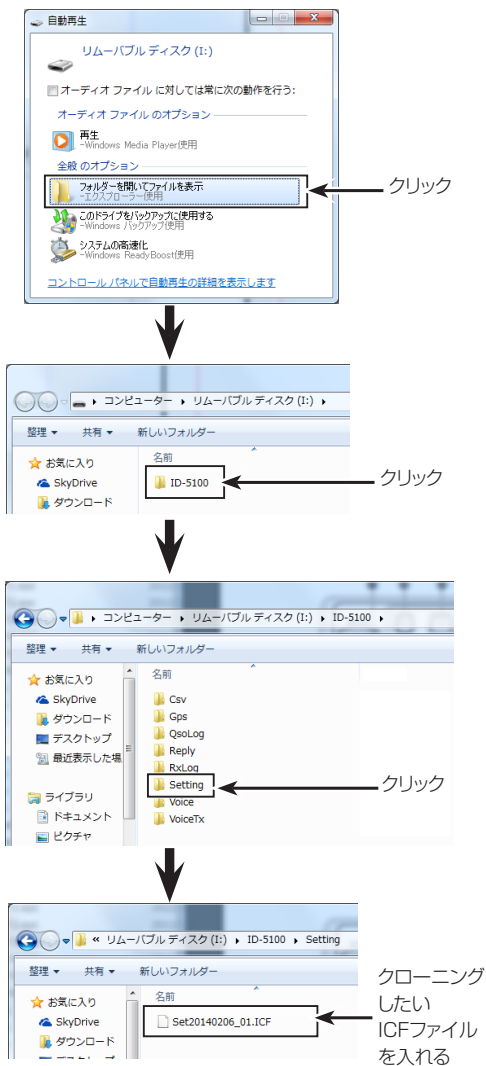
◇ 別売品のケーブルを使ったPC間クローン

CS-5100(同梱CDに収録)とOPC-2218LU(別売品)/OPC-1529(別売品)/OPC-478UC(別売品)を使って、パソコンでクローニングできます。

詳しくは、同梱CDに収録されている「CS-5100 取扱説明書」、アイコムホームページにある「OPC-2218LU 取扱説明書」や「OPC-478UC 取扱説明書」をご覧ください。



● パソコン上でのクローニングファイル(.icf)操作



ご注意

別売品のOPC-2218LU、またはOPC-1529をお使いになる場合、MENU画面内の「DVデータ送信」画面の設定(P12-35)を[PTT]にしてからクローニングを開始してください。「オート」にすると、意図せず自動で送信することがあります。
DV設定 > DVデータ送信

13 各種機能の使いかた

■ CI-Vについて

◇ CI-Vのデータ設定について

CI-Vシステムを利用して外部コントロールするとき、本製品のアドレス、ボーレート、トランシーブ“ON/OFF”のデータが必要になります。

これらの項目は、MENU画面で設定します。(※12-45)

機能設定 > CI-V

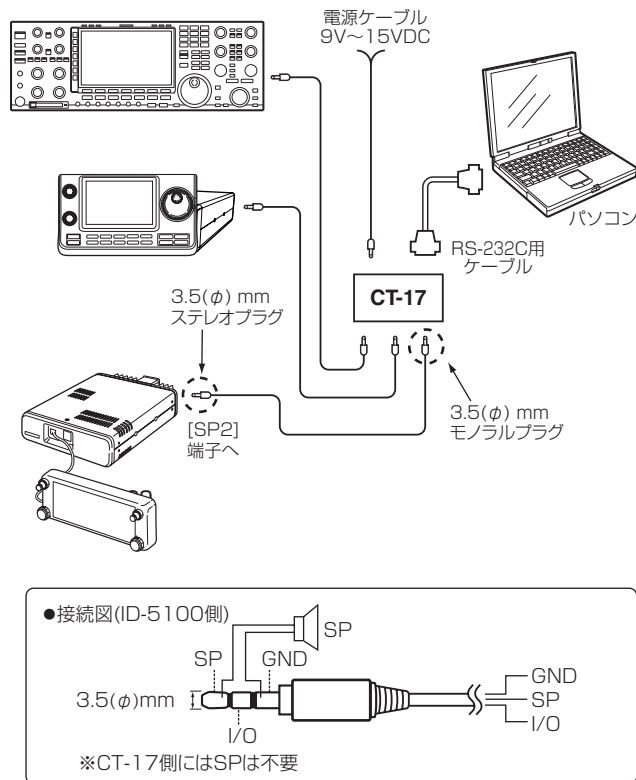
◇ パソコンとの接続

ID-5100にパソコンを接続することにより、運用周波数やモードを外部制御できます。

コントロールは、ICOM Communication Interface V(CI-V:シーアイファイブ)によるシリアル方式です。

別売品のCT-17(CI-Vレベルコンバーター)を使用することにより、RS-232Cタイプのシリアルポートを持つパソコンが接続でき、外部コントロールができます。

パソコンでアイコム無線機や受信機を制御する方法は、CT-17に添付の取扱説明書をご覧ください。



● CI-Vの基本フォーマットについて

(1) コントローラー(パソコン) → 無線機(ID-5100/D)

① プリアンブル				② 受信アドレス		③ 送信アドレス		④ コマンド		⑤ サブコマンド		⑥ データエリア						⑦ ポストアンブル			
F	E	F	E	8	C	E	O	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	F	D

(2) 無線機 → コントローラー

① プリアンブル				② 受信アドレス		③ 送信アドレス		④ コマンド		⑤ サブコマンド		⑥ データエリア						⑦ ポストアンブル			
F	E	F	E	E	O	8	C	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	F	D

①プリアンブル : データのはじめに挿入する同期用のコードで、16進の“FE”を2回送出します。

②受信アドレス/③送信アドレス

: ID-5100の初期アドレスは“8C(16進)”とし、コントローラーを“E0”としたときの例を示しています。

④コマンド

: コントロールできる機能を16進2桁でコマンドとしています。(※P13-16)

無線機からコントローラーへの応答確認メッセージは、OKの場合は16進の“FB”を送出し、NGの場合は“FA”を送出します。

⑤サブコマンド

: コマンド補足命令として16進2桁を用います。(※13-16)

⑥データエリア

: 周波数データなどをセットするエリアで、データにより可変長としています。

⑦ポストアンブル

: コントロールの終わりを示すコードで、16進の“FD”とします。

13 各種機能の使いかた

■ CI-Vについて(つづき)

● コマンド一覧

コマンド	サブ	データ	動作
00		P13-17 参照	周波数データの設定(トランシーブ)
01		P13-17 参照	運用モードの設定(トランシーブ)
03		P13-17 参照	表示周波数の読み込み
04		P13-17 参照	表示モードの読み込み
05		P13-17 参照	周波数データの設定
06		02	AMモードの設定
		05	FMモードの設定
		17	DVモードの設定
07	D0		Aバンドに設定 デュアルのときはMAINをAバンドにする シングルのときはAバンドに切替える
	D1		Bバンドに設定 デュアルのときはMAINをBバンドにする シングルの場合はBバンドに切替える
0C		P13-17 参照	オフセット周波数の読み込み(注1)
0D		P13-17 参照	オフセット周波数を設定
0F			現在のデュプレックスの読み込み ※00=シンプレックス、11=DUP-、2=DUP+ シンプレックスに設定
	10		デュプレックス“-”モードに設定
	11		デュプレックス“-”モードに設定
	12		デュプレックス“+”モードに設定
14*	01	0000~ 0255	音量の設定 ※0000(最小)~0128(センター)~0255 (最大)
	03	0000~ 0255	SQLレベルの設定 ※0000(最小)~0128(センター)~0255 (最大)
	0A	P13-17 参照	RF POWERの設定
	0B	P13-17 参照	外部MICゲインの設定
	16	P13-17 参照	VOXゲインの設定
15	01	00	ノイズスケルチ、Sメータースケルチの状態 (Close)の読み込み
		01	ノイズスケルチ、Sメータースケルチの状態 (Open)の読み込み
	02	0000~ 0255	Sメーターレベルの読み込み ※0000=S0、0170=S9
	05	00	各種スケルチ機能を含めたスケルチの状態 (Close)の読み込み
		01	各種スケルチ機能を含めたスケルチの状態 (Open)の読み込み
11	0000~ 0255	POメーターレベルの読み込み ※50W機:LOW=26、MID=77、 HIGH=255 ※20W機:LOW=26、MID=128、 HIGH=255	
16*	42	00	TONE OFFの設定
		01	TONE ONの設定
	43	00	トーンスケルチOFFの設定
		01	トーンスケルチTSQLの設定
		02	トーンスケルチTSQL-Rの設定
	46	00	VOX OFFの設定
		01	VOX ONの設定
	4B	00	DTCS OFFの設定
01		DTCS ONの設定	
02		DTCS-R ONの設定	

コマンド	サブ	データ	動作	
16*	59	00	シングルワッチモードに設定	
		01	デュアルワッチモードに設定	
	5B	00	DV DSQL/CSQL OFFの設定	
		01	DV DSQL ONの設定	
	02	DV CSQL ONの設定		
5C	00~02	GPS送信モード 00=OFF、01=D-PRS、02=NMEA		
18	00		電源をOFFにする	
	01		電源をONにする(注2)	
19	00		本体のIDコードを読み込む	
1B*	00	P13-17 参照	レピータ用トーン周波数の設定	
	01	P13-17 参照	トーンスケルチ用トーン周波数の設定	
	02	P13-17 参照	DTCSコードの設定	
	07	P13-17 参照	DV CSQLコードの設定	
1C*	00	00	送受信の切り替え 受信	
		01	送受信の切り替え 送信	
1F*	00	P13-18 参照	DV MYコールサインの読み出し/設定	
	01	P13-18 参照	DV TXコールサインの読み出し/設定	
	02	P13-18 参照	DV TXメッセージの読み出し/設定	
20	00	00*	00/01 (注3)	DV RXコールサインデータの出力設定 ※00=OFF、01=ON
		01	P13-18 参照	DV RXコールサインのトランシーブ
	02	02	P13-18 参照	DV RXコールサインの読み出し
		01	00*	00/01 (注3)
	01	01	P13-18 参照	DV RXメッセージのトランシーブ
		02	P13-18 参照	DV RXメッセージの読み出し
	02	00*	00/01 (注3)	DV RX ステータスの出力設定 ※00=OFF、01=ON
		01	P13-19 参照	DV RXステータスのトランシーブ
	02	02	P13-19 参照	DV RXステータスの読み出し
		03	00*	00/01
	01	01	P13-19 参照	DV RX GPS/D-PRSデータのトランシーブ
		02	P13-19 参照	DV RX GPS/D-PRSデータの読み出し
04	00*	00/01	DV RX GPS/D-PRSメッセージの出力設定 ※00=OFF、01=ON	
	01	P13-21 参照	DV RX D-PRSメッセージのトランシーブ	
	02	P13-21 参照	DV RX D-PRSメッセージの読み出し	
22	00*	P13-21 参照	DV送信データ 最大30Byteのデータ	
	01	00*	00/01	DV受信データの出力設定 ※00=OFF、01=ON
		01	P13-21 参照	DV受信データのトランシーブ 最大30Byteのデータ
	02*	00/01	DVデータ送信設定 ※00=PTT、01=オート	
23	00	P13-21 参照	自局位置データの読み出し	
	01	0、1、3	使用GPS選択 ※0=OFF、1=内蔵GPS、3=マニュアル入力	
	02	P13-21 参照	GPSマニュアル位置	

13 各種機能の使いかた

■ CI-Vについて(つづき)

コマンド	サブ	データ	動作
24	00	00*	TXの出力設定 ※00=OFF、01=ON
		01	TXのトランシーブ ※00=OFF、01=ON

※「*」マークの項目は読み込み/設定ができます。

注1: 100Hz未満は切り捨てます。

注2: 電源ONコマンド(18 01)を送る場合、基本フォーマットの前に「FE」を連続して送る必要があります。

下記は、基本フォーマットの前に必要な「FE」の個数の目安です。

- 19200bps : 25個
- 9600bps : 13個
- 4800bps : 7個

注3: データの出力設定は、いったん電源を切るとOFFに戻ります。

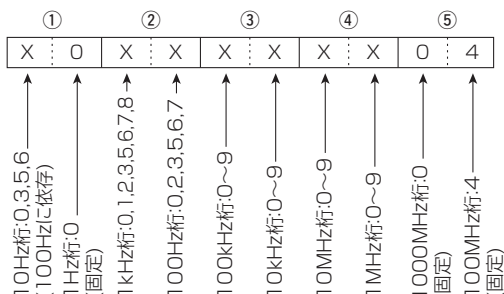
例: 4800bpsで通信している場合

① プリアンプル		② 受信アドレス		③ 送信アドレス		④ コマンド		⑤ サブコマンド		⑦ ポストアンプル					
F	E	F	E	F	E	8	C	E	O	1	8	0	1	F	D
x	x	x	x	x	x	x	x	0	4						

x7

●受信周波数のデータ設定

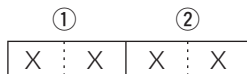
コマンド: 00、03、05



※10Hz桁は、100Hz桁が2、または7であれば5固定となり、3であれば3、6であれば6となります。そのほかは0固定になります。

●運用モードのデータ設定

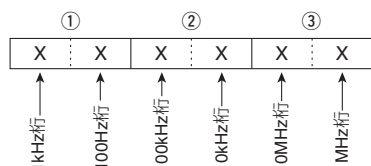
コマンド: 01、04、06



運用モード	① モード	② フィルター設定
AM	02	01
AM-N	02	02
FM	05	01
FM-N	05	02
DV	17	01

●オフセット周波数のデータ設定

コマンド: 0C、0D



●RF POWERのデータ設定

コマンド: 14 0A

	LOW	MID	HIGH
ID-5100D	0000~0026	0027~0127	0128~0255
ID-5100	0000~0026	0027~0229	0230~0255

●外部MICゲインのデータ設定

コマンド: 14 0B

1	2	3	4
0000~0063	0064~0127	0128~0191	0192~0255

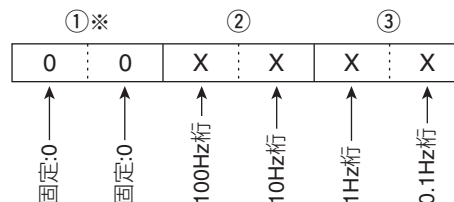
●VOX ゲインのデータ設定

コマンド: 14 16

OFF	1	2	3	4
0000~0022	0023~0046	0047~0069	0070~0092	0093~0115
5	6	7	8	9
0116~0139	0140~0162	0163~0185	0186~0208	0209~0232
10				
0233~0255				

●レピータートーン/トーンスケルチ周波数データ

コマンド: 1B 00、1B 01

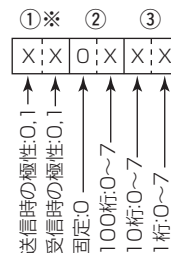


※周波数を設定するときは、入力不要

トーン周波数一覧については12-10ページをご参照ください。

●DTCSコード/極性のデータ設定

コマンド: 1B 02

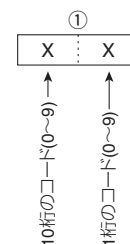


※ 極性を反転しないときは0、反転するときは1を設定してください。

※ DTCSコード一覧については12-10ページをご参照ください。

●DV CSQコードの設定

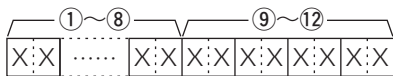
コマンド: 1B 07



13 各種機能の使いかた

● DV MYコールサインデータ

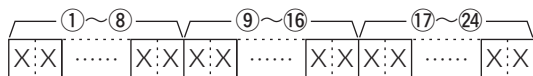
コマンド：1F 00
全12文字



- ①～⑧：自局のコールサイン(8文字以内)
- ⑨～⑫：メモ(4文字以内)

● DV TXコールサインデータ

コマンド：1F 01
全24文字



- ①～⑧：URコールサイン
 - ⑨～⑯：アクセスレピータ(R1)のコールサイン
 - ⑰～⑳：ゲートウェイ局(R2)のコールサイン
- 各8文字

コールサインの入力文字コード

キャラクター	ASCIIコード	説明
0～9	30～39	数字
A～Z	41～5A	英字(大文字)
(スペース)	20	語間(文末以降はデータなしと同じ)
/	2F	記号

● DV TX メッセージデータ

コマンド：1F 02
全20文字
FF：TXメッセージOFF

各種入力文字一覧データ

キャラクター	ASCIIコード	種類	キャラクター	ASCIIコード	種類
0～9	30～39	数字	'	27	記号
A～Z	41～5A	英字	`	60	記号
a～z	61～7A	英字	^	5E	記号
ア～ン	B1～DD	放加	+	2B	記号
ヲ	A6	放加	-	2D	記号
ア～ツ	A7～AF	放加	*	2A	記号
スペース	20	スペース	/	2F	記号
ゝ	DE	記号	.	2E	記号
。	DF	記号	,	2C	記号
—	B0	記号	:	3A	記号
、	A4	記号	;	3B	記号
。	A1	記号	=	3D	記号
・	A5	記号	<	3C	記号
「	A2	記号	>	3E	記号
」	A3	記号	(28	記号
!	21	記号)	29	記号
#	23	記号	[5B	記号
\$	24	記号]	5D	記号
%	25	記号	{	7B	記号
&	26	記号	}	7D	記号
¥	5C	記号		7C	記号
?	3F	記号	=	5F	記号
”	22	記号	_	7E	記号
			@	40	記号

● DV RX コールサインデータ

コマンド：20 0001、20 0002

①ヘッダーフラグデータ(1バイト目)

データ	説明
bit7 (0固定)	—
bit6 (0固定)	—
bit5 (0固定)	—
bit4	0/1 0=音声、1=データ
bit3	0/1 0=直接、1=中継
bit2	0/1 0=割り込みなし、1=割り込みあり
bit1	0/1 0=データ、1=制御
bit0	0/1 0=通常通信、1=緊急通信

②ヘッダーフラグデータ(2バイト目)

データ	機能	説明
bit2 bit1 bit0	レピータ局制御	レピータ局の制御モード
1 1 1	自動応答	自動応答時に使用
1 1 0	(未使用)	(未使用)
1 0 1	再送	再送要求フラグ
1 0 0	ACK	ACKフラグ
0 1 1	応答なし	応答なしフラグ
0 1 0	中継不可	中継不可フラグ
0 0 1	NULL	NULL
0 0 0	NULL	NULL

- ③～⑩：CALLERのコールサイン(全8文字)
 - ⑪～⑭：CALLERのコールサイン以降のメモ(全4文字)
 - ⑮～⑲：CALLEDのコールサイン(全8文字)
 - ⑳～㉓：RXRPT1のコールサイン(全8文字)
 - ㉔～㉗：RXRPT2のコールサイン(全8文字)
- ※ FF：電源ON後、一度もコールサインを受信していないとき

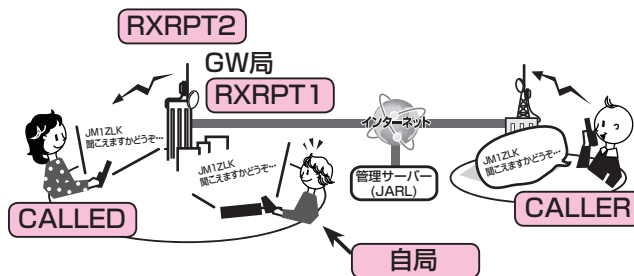
● DV RXメッセージデータ

コマンド：20 0101、20 0102

- ①～⑳：メッセージ(全20文字)
- ㉑～㉔：CALLERのコールサイン(全8文字)
- ㉕～㉗：CALLERのコールサイン以降の文字(全4文字)

※ FF：電源ON後、一度もコールサインを受信していないとき

(例：ゲートウェイ通信で受信した場合)



- CALLER：送信局のコールサイン
- CALLED：送信局に呼び出された局のコールサイン
- RXRPT1：送信局からみたアクセスレピータのコールサイン
※ゲートウェイ通信で呼び出された場合は、自局が直接受信したレピータのゲートウェイ局
- RXRPT2：自局が直接受信したレピータのコールサイン

13 各種機能の使いかた

● DV RXステータスデータ

コマンド: 20 0201、20 0202

データ	機能	説明
bit7	0 (0固定)	—
bit6	0/1 通話状態	DV変調受信中のとき1 (DSQL/CSQL設定とは関係なし)
bit5	0/1 終話理由	ユーザー操作で終話したとき1
bit4	0/1 着信状態	受信音が聞こえるとき1
bit3	0/1 BK受信状態	BK点減中のとき1
bit2	0/1 EMR受信状態	EMR点減中のとき1
bit1	0/1 DV以外受信	DV FM点減中のとき1
bit0	0/1 パケットロス状態	パケットロス表示中のとき1

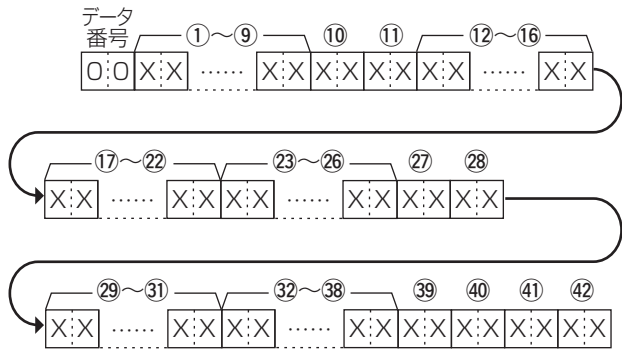
●GPS/D-PRSデータ

コマンド: 20 03 01、20 03 02

データ番号とデータ内容

データ番号	データ内容
00	D-PRSのPosition
01	D-PRSのObject
02	D-PRSのItem
03	D-PRSのWeather

●ポジションデータ



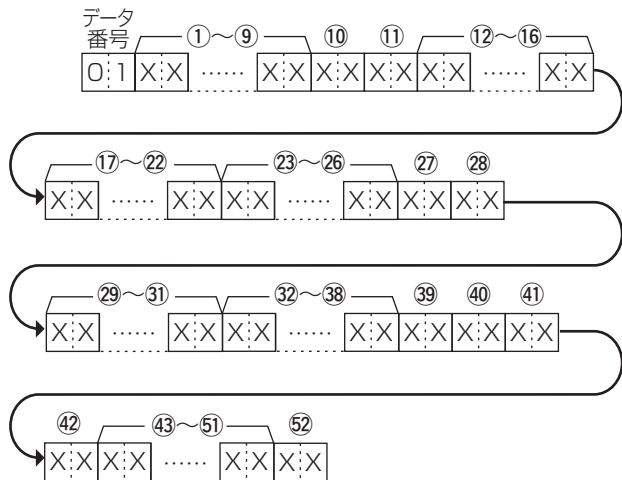
- ①～⑨: コールサイン/SSID
(9桁のアスキーコード(A～Z, 0～9, /, -, (スペース)))
- ⑩、⑪: シンボル(2桁のアスキーコード(00h～EFh))
- ⑫～⑯: 緯度(dd° mm.mmm 形式)
- ⑰～⑳: 経度(ddd° mm.mmm 形式)
- ㉓～㉖: 高度(0.1m単位)
- ㉗、㉘: 進路(1度単位)
- ㉙～㉛: 速度(0.1km/h単位)
- ㉜～㉞: 日時(UTC)
(yyyy年mm月dd日HH時MM分DD秒の形式)
- ㉟: 出力(下表参照)
- ㊱: 地上高(下表参照)
- ㊲: ゲイン(下表参照)
- ㊳: 指向性(下表参照)

項目 値	出力	地上高	ゲイン	指向性
0	0	3/10	0	無指向性
1	1	6/20	1	45° NE
2	4	12/40	2	90° E
3	9	24/80	3	135° SE
4	16	49/160	4	180° S
5	25	98/320	5	225° SW
6	36	195/640	6	270° W
7	49	390/1280	7	315° NW
8	64	780/2560	8	360° N
9	81	1561/5120	9	-
単位	W	m/ft	dB	deg

GPS(NMEA) 受信時に、データが未測定だった場合、コールサイン以外は全て 0xFF で埋まる。

13 各種機能の使いかた

•オブジェクトデータ

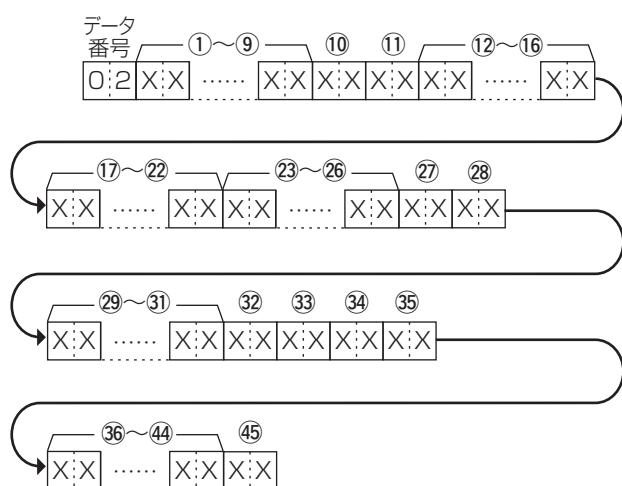


- ①～⑨：コールサイン/SSID
(9桁のアスキーコード(A～Z, 0～9, /, -, (スペース)))
- ⑩、⑪：シンボル(2桁のアスキーコード(00h～EFh))
- ⑫～⑯：緯度(dd° mm.mmm 形式)
- ⑰～⑳：経度(ddd° mm.mmm 形式)
- ㉓～㉖：高度(0.1m単位)
- ㉗、㉘：進路(1度単位)
- ㉙～㉛：速度(0.1km/h単位)
- ㉜～㉞：日時(UTC)
(yyyy年mm月dd日HH時MM分DD秒の形式)
- ㉟：出力(下表参照)
- ㊱：地上高(下表参照)
- ㊲：ゲイン(下表参照)
- ㊳：指向性(下表参照)

項目 値	出力	地上高	ゲイン	指向性
0	0	3/10	0	無指向性
1	1	6/20	1	45° NE
2	4	12/40	2	90° E
3	9	24/80	3	135° SE
4	16	49/160	4	180° S
5	25	98/320	5	225° SW
6	36	195/640	6	270° W
7	49	390/1280	7	315° NW
8	64	780/2560	8	360° N
9	81	1561/5120	9	-
単位	W	m/ft	dB	deg

- ㉜～㉞：ネーム(9桁のアスキーコード(00h～EFh))
- ㉟：タイプ(1=Live, 0=Killed)

•アイテムデータ



- ①～⑨：コールサイン/SSID
(9桁のアスキーコード(A～Z, 0～9, /, -, (スペース)))
- ⑩、⑪：シンボル(2桁のアスキーコード(00h～EFh))
- ⑫～⑯：緯度(dd° mm.mmm 形式)
- ⑰～⑳：経度(ddd° mm.mmm 形式)
- ㉓～㉖：高度(0.1m単位)
- ㉗、㉘：進路(1度単位)
- ㉙～㉛：速度(0.1km/h単位)
- ㉜：出力(下表参照)
- ㉝：地上高(下表参照)
- ㉞：ゲイン(下表参照)
- ㉟：指向性(下表参照)

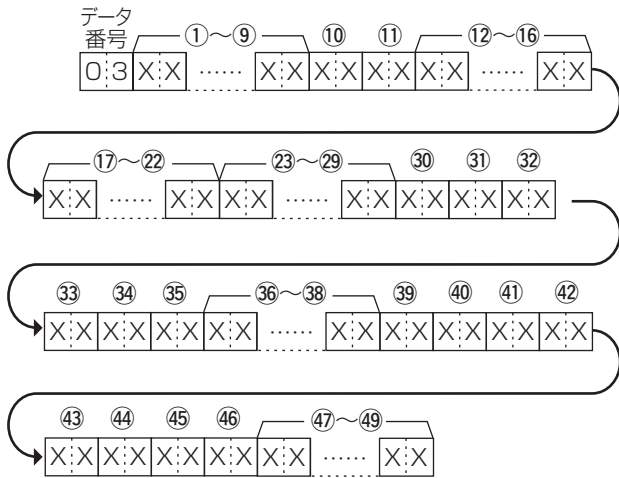
項目 値	出力	地上高	ゲイン	指向性
0	0	3/10	0	無指向性
1	1	6/20	1	45° NE
2	4	12/40	2	90° E
3	9	24/80	3	135° SE
4	16	49/160	4	180° S
5	25	98/320	5	225° SW
6	36	195/640	6	270° W
7	49	390/1280	7	315° NW
8	64	780/2560	8	360° N
9	81	1561/5120	9	-
単位	W	m/ft	dB	deg

- ㉜～㉞：ネーム(9桁のアスキーコード(00h～EFh))
- ㉟：タイプ(1=Live, 0=Killed)

13 各種機能の使いかた

■ CI-Vについて(つづき)

●ウェザーデータ

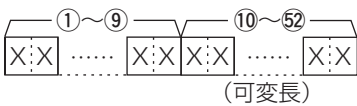


- ①～⑨：コールサイン/SSID
(9桁のアスキーコード(A～Z, 0～9, /, -, (スペース)))
- ⑩, ⑪：シンボル(2桁のアスキーコード(00h～EFh))
- ⑫～⑯：緯度(dd° mm.mmm 形式)
- ⑰～⑳：経度(ddd° mm.mmm 形式)
- ㉓～㉔：日時(UTC)
(yyyy年mm月dd日HH時MM分DD秒の形式)
- ㉕, ㉖：風向き(1度単位)
- ㉗, ㉘：風速(0.1m/s単位)
- ㉙, ㉚：瞬間風速(0.1m/s単位)
- ㉛～㉝：温度(摂氏0.1℃単位)
- ㉞, ㉟：1時間雨量(0.1mm単位)
- ㊱, ㊲：24時間雨量(0.1mm単位)
- ㊳, ㊴：夜間からの雨量(0.1mm単位)
- ㊵, ㊶：湿度(1%単位)
- ㊷～㊹：気圧(0.1hPa単位)

●GPS/D-PRSメッセージ

コマンド：20 04 01、20 04 02

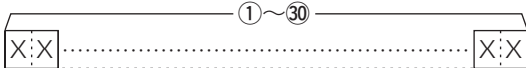
GPS/D-PRSメッセージ



- ①～⑨：コールサイン/SSID
- ⑩～⑵⑲：メッセージ
(最大43桁のアスキーコード(00h～EFh))

●DV TXデータ

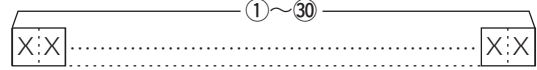
コマンド：22 00



- ①～⑳：TXデータ(最大30Byte)
- ※「FA～FF」は「FF 0A ～ FF 0F」に変換して入力します。この場合は最大60Byteになります。

●DV RXデータ(トランシーブ)

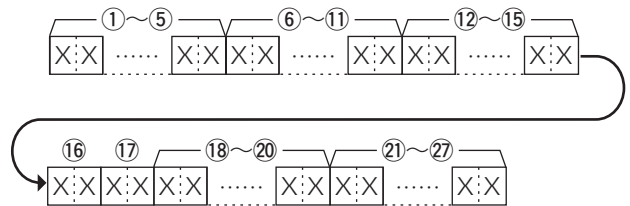
コマンド：22 01 01



- ①～⑳：RXデータ(最大30Byte)
- ※「FA～FF」は「FF 0A ～ FF 0F」に変換して出力されます。この場合は最大60Byteになります。

●自局位置データ

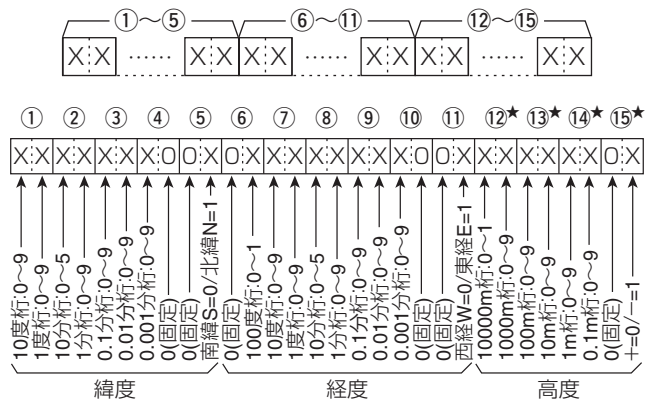
コマンド：23 00



- ①～⑵：緯度(dd° mm.mmm 形式)
- ⑶～⑹：経度(ddd° mm.mmm 形式)
- ⑺～⑻：高度(0.1m単位)
- ⑼, ⑽：進路(1度単位)
- ⑾～⑿：速度(0.1km/h単位)
- ⑿～⑿：日時(UTC)

●GPSマニュアル入力位置データ

コマンド：23 02



- ①～⑵：緯度(dd° mm.mmm 形式)
- ⑶～⑹：経度(ddd° mm.mmm 形式)
- ⑺～⑻：高度(0.1m単位)

★読み出し時、高度無効時は、4バイトすべてにFFを返します。
書き込み時、高度無効を設定するには、4バイトすべてにFFを設定します。

13 各種機能の使いかた

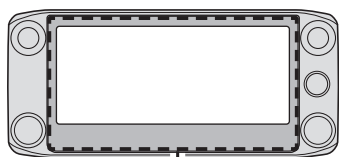
■タッチ位置の補正について

タッチ操作をしても反応する位置がズレている、または隣接した機能が動作するときなど、タッチするポイントと表示している機能の感知範囲にズレがある場合は、以下の手順でタッチスクリーンを補正できます。

傷がつきにくい先の細いペンを用意してください。

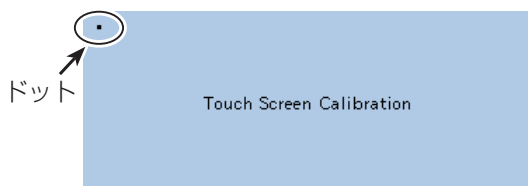
ご注意

下の破線枠内(タッチパネル)を触らずに操作してください。
感知範囲のズレを生じさせるおそれがあります。



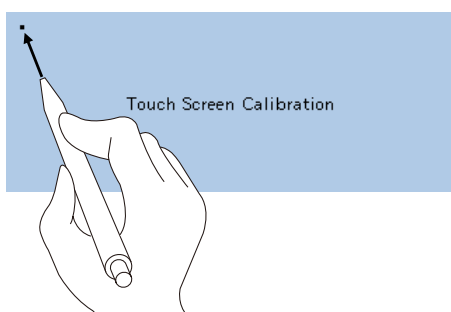
タッチパネル

- ① MENU画面の「タッチスクリーン補正」項目をタッチすると、下の画面を表示します。
(その他 > タッチスクリーン補正)



- ② 画面上に表示されるドットを傷がつきにくい先の細いペンなどでタッチします。
 - タッチすると、別の場所にドットが表示されます。

※ 必ず、ドットの上をタッチしてください。



- ③ 手順②を繰り返し操作します。
補正が完了すると、補正をはじめる前の画面に戻ります。
タッチスクリーン補正をしてもタッチ操作が正常に動作しない場合は、弊社サポートセンターまで、お問い合わせください。

■ 別売品についてのご注意	14-2
■ 別売品一覧	14-2

14 別売品について

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ 別売品一覧



- **SP-35L** 外部スピーカ—(6m)
- **OPC-589** 変換ケーブル
(モジュラー 8ピンマイクコネクター)
- **OPC-837** コントロールケーブル
(3.5mタイプ：補修用)
- **OPC-440** マイク延長ケーブル(5m)
- **OPC-647** マイク延長ケーブル(2.5m)
- **CS-5100** クローニングソフトウェア
(フリーウェア：CDに収録)

- **RS-MS1A** Android®専用アプリ
(フリーウェア)
- **OPC-478UC*** クローニングケーブル
- **OPC-1529** データ通信ケーブル
(RS-232Cタイプ)
- **OPC-2218LU*** データ通信ケーブル(USBタイプ)
- **OPC-1156** コントローラー延長ケーブル(3.5m)
(中継コネクター付き)
- **CT-17** CI-V レベルコンバータ
- **MBF-4** モービルブラケット

*OPC-478UCとOPC-2218LUは、Windows8.1非対応です。
(2014年4月現在)

■ Bluetooth®でできること	15-2
■ 免許申請について	15-2
■ 安全上のご注意(必ずお読みください)	15-3
■ 2.4GHz現品表示記号の意味について	15-4
■ 電波干渉についてのご注意	15-4
■ 電波法についてのご注意	15-4
■ UT-133の取り付けかた	15-5
■ ヘッドセットをBluetooth®で接続する	15-6
■ VOX機能の使いかた	15-8
◇ VOX機能の設定のしかた	15-8
◇ VOX感度の設定のしかた	15-8
◇ VOX機能の詳細設定について	15-9
■ その他のヘッドセット設定	15-10
◇ AF出力切替について	15-10
◇ アイコムヘッドセットについて	15-10
■ RS-MS1AをGoogleのPlayストアからダウンロードする	15-11
◇ ご用意いただくものについて	15-11
◇ ダウンロードのしかた	15-11
■ データ端末をBluetooth®で接続する	15-12
◇ ペ어링のしかた	15-12
◇ 接続のしかた	15-14
■ 切断のしかた	15-15
■ 削除のしかた	15-15
■ 初期化のしかた	15-16
■ 最大ペアリング数について	15-16

15 Bluetooth®の使いかた

■ Bluetooth®でできること

本製品に別売品のUT-133(Bluetooth®ユニット)を取り付けると、Bluetooth®対応機器とのワイヤレス接続ができます。

本章では、別売品のUT-133(Bluetooth®ユニット)を取り付けたあとのID-5100/Dは、本製品と記載します。

接続できる機器は、下記のとおりです。

● 弊社製のヘッドセット

本製品と別売品のVS-3(Bluetooth®ヘッドセット)をBluetooth®で接続することで、マイクロホンの音声をワイヤレスで送信できます。

VS-3には、[PTT]ボタンが付いているため、無線機のマイクロホンと同じ感覚で送信できます。

また、[PTT]ボタンを押さなくても、ヘッドセットからの音声によって送受信を自動的に切り替えるVOX機能も使用できます。

VS-3の側面にある3つのキーは、本製品でお好みの機能に変更して、リモコン操作することもできます。

● 市販のヘッドセット：

本製品と市販のヘッドセットをBluetooth®で接続することで、マイクロホンの音声をワイヤレスで送信できます。

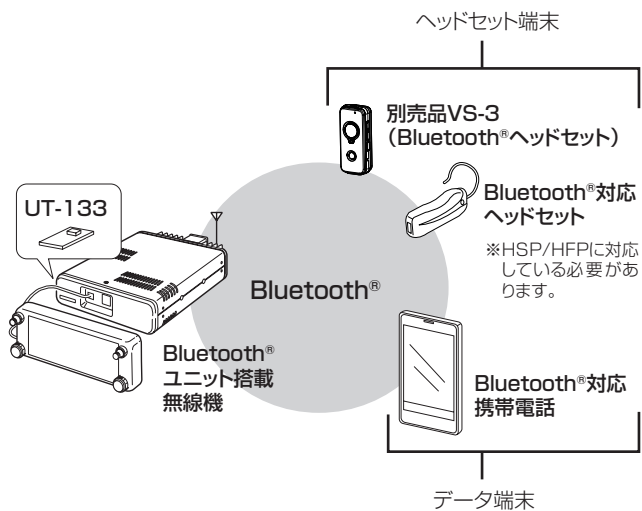
※HSP/HFPIに対応した市販のヘッドセットによっては、VOX機能やワンタッチPTT機能に対応しています。

● Android®端末：

本製品と市販のAndroid端末®をBluetooth®で接続し、フリーウェアのRS-MS1A(Android®端末用無償アプリ)を使用することで、データ送信やD-PRS局の情報確認などD-STAR®の拡張機能が使用できます。

● Bluetooth®の通信範囲は、約10m(目安)です。

● Bluetooth®接続のイメージ図



■ 免許申請について

本製品に別売品のUT-133(Bluetooth®ユニット)を取り付けて使用する場合、Bluetooth®対応機器から遠隔操作でDVデータや画像、メッセージを送信できるため、リモートコントロールに関する免許が必要です。

免許申請の方法は、17章の「免許申請について」をご覧ください。

15 Bluetooth®の使いかた

■ 安全上のご注意(必ずお読みください)

安全にご使用いただくために、必ずお読みください。

- ◎ 使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくご使用いただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。
- ◎ 次の『△危険』『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- ◎ お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

免責事項について

- ◎ お客様または第三者が、取扱説明書記載の使用方法とは異なる使用方法で本製品を使用したことにより生じた故障、ならびに本製品の違法な使用により生じた故障につきましては、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- ◎ 本製品の使用により本製品以外に生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- ◎ 民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。
交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。
運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。
- ◎ 電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。
- ◎ 分解や改造は、絶対にしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
けが、故障の原因になることがあります。
- ◎ めれた手で絶対に触れないでください。
感電の原因になることがあります。
- ◎ 製品の中に線材のような金属物や水を入れないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ コネクターの差し込みがゆるいときは使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になりますので、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。
- ◎ 使用や保管するときは、赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所を選択してください。
けが、感電の原因になります。
また、誤って飲み込むと、窒息の原因になります。
- ◎ 万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。



注意

この記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- ◎ 本製品の上に乗ったり、重いものを載せたり、挟んだりしないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎ 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所では使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になることがあります。
- ◎ 強い磁界や静電気の発生する場所では使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎ 本製品を投げたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
故障、破損の原因になることがあります。
- ◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

Bluetooth®の通信においては、周辺機器の影響で通信距離が著しく変化します。

- 電子レンジなどによる妨害
- 無線LANによる妨害

このような場合は、ほかのワイヤレス通信を停止させたり、電子レンジなどの使用を中止したり、周辺機器との距離を離すなどしてください。また、Bluetooth®機器と本製品の距離をできるだけ近づけると、通信状況が改善することがあります。

15 Bluetooth®の使いかた

■ 2.4GHz現品表示記号の意味について

- 「2.4」 : 2.4GHz帯を使用する無線設備
「FH」 : FHSS方式
「1」 : 想定干渉距離が10m以下
「----」 : 全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局の帯域を回避可能

A rectangular certification mark with a double border. Inside, the text '2.4FH1' is displayed in a bold, sans-serif font. The '2.4' is on the top line, 'FH' is on the second line, and '1' is on the third line.

■ 電波干渉についてのご注意

2.4GHz帯のBluetooth®で通信をするときは、次のことさらに注意してください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を必要とする無線局)が運用されています。

- ◎この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことをご確認ください。
- ◎万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記のサポートセンターにご連絡いただき、混信回避のための処置等についてご相談ください。
- ◎その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、下記へお問い合わせください。

お問い合わせ先

アイコム株式会社 サポートセンター
0120-156-313 (フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、
06-6792-4949 (通話料がかかります)
受付 (平日 9:00~17:00)

■ 電波法についてのご注意

- ◎本製品に使用している無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けています。
- ◎本製品を使用できるのは、日本国内に限られています。本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造しています。したがって、日本国外で使用された場合、本製品およびその他の機器を壊すおそれがあります。また、その国の法令に抵触する場合がありますので、使用できません。
- ◎心臓ペースメーカーを使用している人の近くで、本製品を使用しないでください。心臓ペースメーカーに電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。
- ◎医療機器の近くで本製品を使用しないでください。医療機器に電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。
- ◎電子レンジの近くで本製品を使用しないでください。電子レンジによって本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。
- ◎本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。ご自分で分解や改造をしないでください。

15 Bluetooth®の使いかた

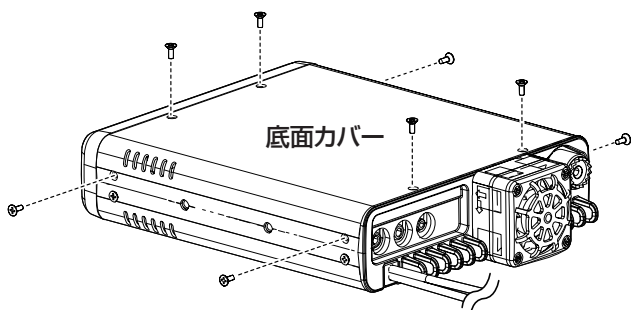
■ UT-133の取り付けかた

別売品のUT-133 (Bluetooth®ユニット)を本製品に取り付けることで、Bluetooth®を使用できます。

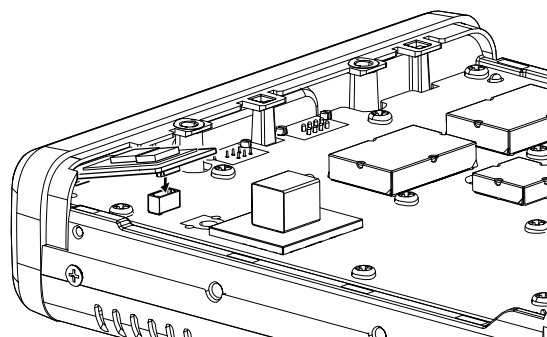
ご注意

静電気による破損を防ぐため、ID-5100/DやUT-133に触れる前に、身近な金属(ドアノブやアルミサッシなど)に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。
人体からの静電気は、ID-5100/DやUT-133を破損、またはデータを消失させるおそれがあります。

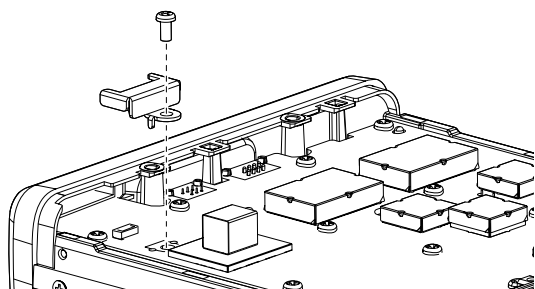
- ① ID-5100/Dの本体を裏返し、底面カバーから4本、両側面から4本、計8本のネジをはずします。
- ② 底面カバーを取りはずします。



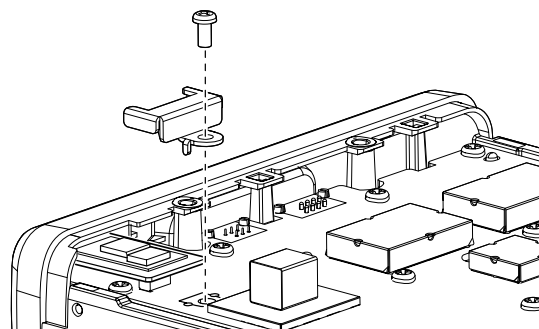
- ⑤ UT-133のコネクタをID-5100/Dのコネクタにはめ込みます。



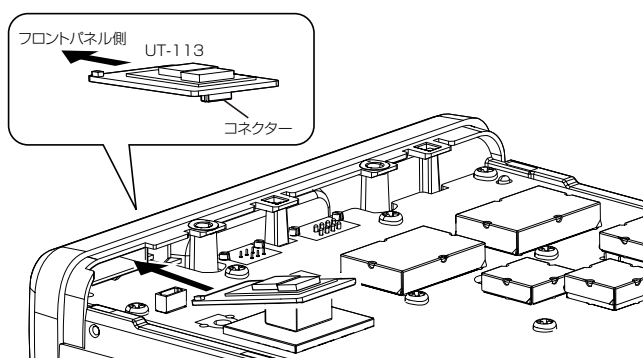
- ③ ID-5100/Dに取り付けられているUT-133固定用のネジと固定金具を取りはずします。
※底面カバーを固定するネジとUT-133固定用のネジは、十字穴の大きさが異なります。
大きさに合った適切なドライバーをご使用ください。



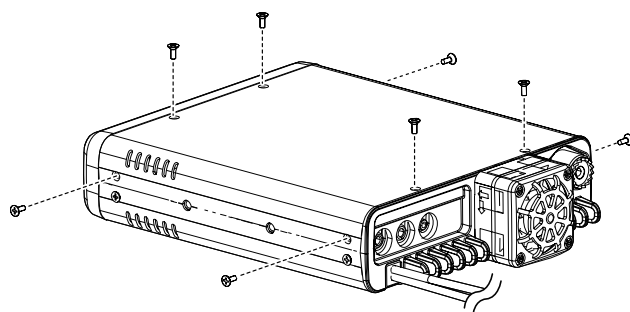
- ⑥ 手順③で取りはずしたネジと固定金具を使って、図のようにUT-133を固定します。



- ④ UT-133のコネクタを下にして、ID-5100/Dのフロント部にあるくぼみに挿入します。



- ⑦ 底部カバーを元に戻し、計8本のネジを締めます。



15 Bluetooth®の使いかた

■ ヘッドセットをBluetooth®で接続する

市販のヘッドセット、または別売品のヘッドセットをBluetooth®で接続できます。

1. ヘッドセットをペアリングモードにする

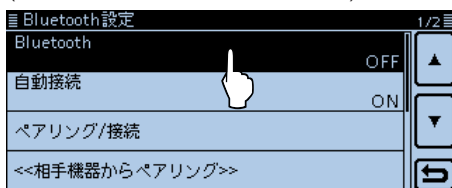
ペアリングモードの操作のしかたは、お使いのヘッドセットの取扱説明書でご確認ください。

2. 本製品からヘッドセットを検索する

① [ON]を長く押し、本製品の電源を入れる。

② [MENU]をタッチする。

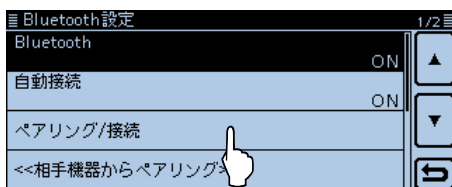
③ 「Bluetooth」をタッチする。
(Bluetooth設定 > Bluetooth)



④ 「ON」をタッチする。



⑤ 「ペアリング/接続」をタッチする。



⑥ 「機器検索」をタッチする。



⑦ 「ヘッドセット検索」をタッチする。

● ヘッドセットの名称 (ICOM BT-002) が本製品に表示されます。



Bluetooth®の通信においては、周辺機器の影響で通信距離が著しく変化します。

- 電子レンジなどによる妨害
- 無線LANによる妨害

このような場合は、ほかのワイヤレス通信を停止させたり、電子レンジなどの使用を中止したり、周辺機器との距離を離すなどしてください。

また、Bluetooth®機器と本製品の距離をできるだけ近づけると、通信状況が改善することがあります。

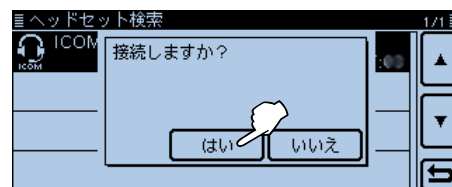
3. 本製品からヘッドセットを接続する

⑧ 「ICOM BT-002」をタッチする。



⑨ 「はい」をタッチする。

- 接続を開始します。

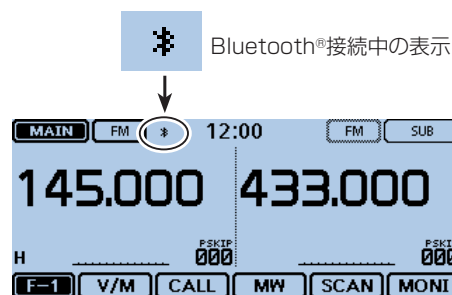


- ペアリング後、接続が成功すると、「(接続中)」が表示されます。



機器名称 Bluetooth®アドレス
接続中の表示
ヘッドセット表示('ICOM')は、アイコムヘッドセットを指す)

- 接続中は、下図のようにBluetooth®のマークが表示します。



ご注意

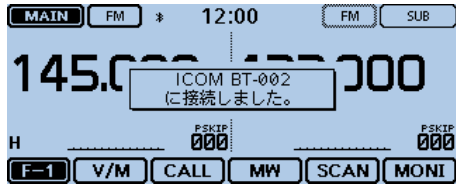
市販のヘッドセットでペアリング接続する場合は、PINコードやパスキーなどの入力を要求される場合があります。その場合は、市販のヘッドセットの取扱説明書で入力方法をご確認ください。

15 Bluetooth®の使いかた

■ ヘッドセットをBluetooth®で接続する(つづき)

ご参考：自動接続するには

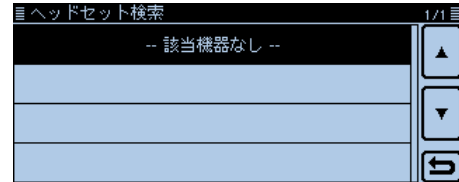
本製品の「自動接続」機能をONに設定しておいた状態で、本製品の電源を入ると、ヘッドセットの電源を入れただけで自動で接続します。(初期設定値：ON)
(Bluetooth設定 > 自動接続)(P12-51)



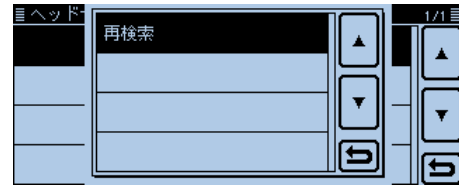
接続すると、上記のダイアログが表示します。

ご参考：再検索するには

ヘッドセットが見つからず、下記の画面が表示されたら、[QUICK]をタッチし、「再検索」をタッチして、再度検索してみてください。



[QUICK]をタッチすると、下記のダイアログが表示します。



15 Bluetooth®の使いかた

■ VOX機能の使いかた

送信ボタンを押さなくても、ヘッドセットからの音声によって送受信を自動的に切り替えるVOX機能を搭載しています。

VOX機能は、別売品のVS-3、または市販のヘッドセットで使用できます。

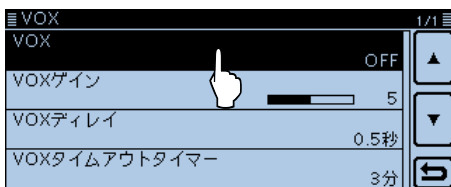
※ご使用のヘッドセットによっては、MIC感度が異なるため、VOX機能自体動作しないものもあります。

ご注意

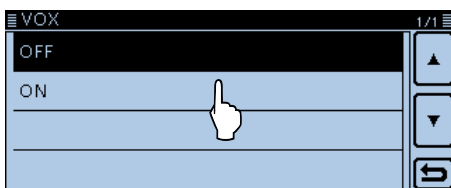
VOX機能は、Bluetooth®接続が前提の機能です。したがって、Bluetooth®を接続していない状態でVOX機能をONに設定した場合、動作しません。Bluetooth®の接続が完了しているかご確認ください。

◇ VOX機能の設定のしかた

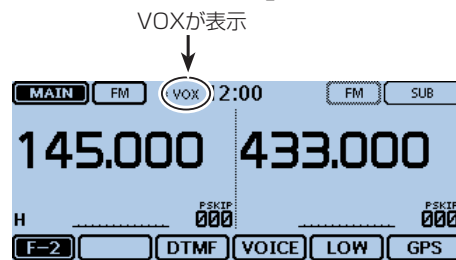
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「VOX」項目をタッチする。
(Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > VOX > VOX)



- ③ 「ON」をタッチする。



- ④ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面を解除します。
 - ディスプレイに「VOX」が表示されます。

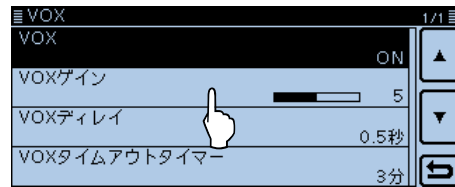


ご注意

Bluetooth®ユニット搭載無線機側で、受信時、またはビーブ音が鳴っているときはVOX送信を禁止します。

◇ VOX感度の設定のしかた

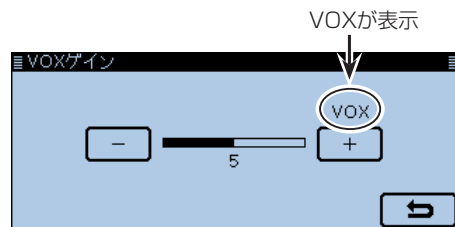
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「VOXゲイン」項目をタッチする。
(Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > VOX > VOXゲイン)



- ③ ヘッドセットに向かって、通話するときと同じ大きさの声を出しながら[+]/[-]をタッチする。

●送信になるレベルの音声入力があると、[+]の上に「VOX」が表示されます。

※VOX感度を上げる(数値を大きくすると、比較的小さな声でも送信できますが、回りの雑音でも送信しやすくなりますので、ご注意ください。



- ④ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面を解除します。
- ※メーターが継続して振らない場合は、MENU画面内の「VOXディレイ」画面で、遅延時間を十分な長さに設定してください。

(Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > VOX > VOXディレイ)

※VOX機能使用時、送信中にVS-3の[+]/[-]ボタンを押しても、VOXゲインを設定できます。

※VOX機能使用時、本製品の[DIAL]を回すとVOX感度が切り替わります。

ご注意

VOXゲインは、マイク感度の影響を受けます。VOX機能を使用するときは、MENU画面内の「VOXゲイン」画面でVOX感度を設定する前に、「マイクゲイン」、またはBluetooth®ヘッドセット本体のマイクゲインを調整することをおすすめします。(機能設定 > マイクゲイン)

15 Bluetooth®の使いかた

■ VOX機能の使いかた(つづき)

◇ VOX機能の詳細設定について

VOX機能の詳細は、MENU画面内の「VOXディレイ」画面、「VOXタイムアウトタイマー」画面で設定できます。

使用環境やヘッドセットにあわせて変更してください。

(Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > VOX > VOXディレイ)

(Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > VOX >

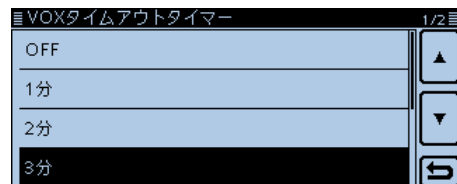
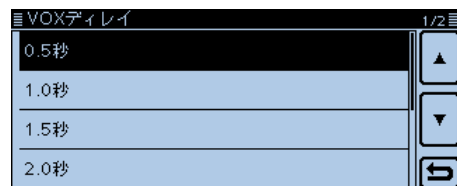
VOXタイムアウトタイマー)

● 「VOXディレイ」画面

送信停止までの遅延時間を設定します。(P12-52)

● 「VOXタイムアウトタイマー」画面

連続して送信できる時間を制限します。(P12-52)



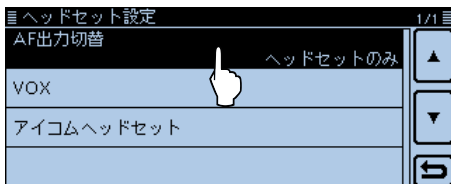
15 Bluetooth®の使いかた

■ その他のヘッドセット設定

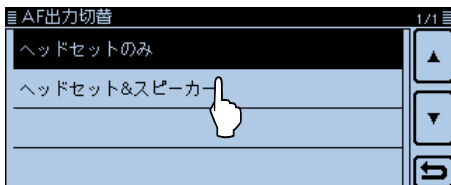
◇ AF出力切替について

Bluetooth®ヘッドセット接続時、ヘッドセットのイヤホン以外に無線機のスピーカーから受信音を聴きたいときは、「AF出力切替」設定を「ヘッドセット&スピーカー」に設定することで、受信音を同時に聴くことができます。

- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「AF出力切替」項目をタッチする。
(Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > AF出力切替)



- ③ 「ヘッドセット&スピーカー」をタッチする。



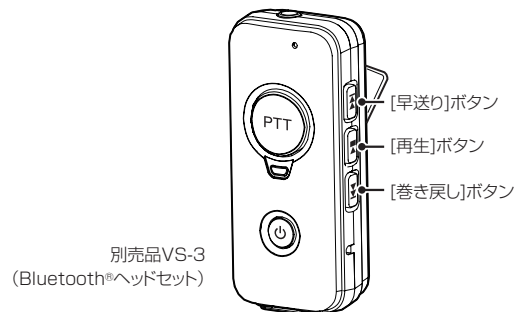
- ④ [MENU]をタッチする。
 - MENU画面を解除します。
 - 受信時は、ヘッドセットと本製品から音声が出力されます。

◇ アイコムヘッドセットについて

別売品のVS-3(Bluetooth®ヘッドセット)の詳細な設定ができます。

また、VS-3の[再生]ボタン、[早送り]ボタン、[巻き戻し]ボタンは、アイコムヘッドセット設定の中の「カスタマイズキー」項目で機能を割り当てることができます。

- 「パワーセーブ」画面
受信音がないとき、VS-3への接続を一時的に切りVS-3の電池を長持ちさせる機能です。
※VOX運用時は動作しません。(P12-51)
- 「ワンタッチPTT」画面
VS-3の[PTT]ボタンを押すごとに、送信/受信を切り替える機能です。(P12-52)
- 「PTTビープ」画面
[PTT]ボタンを押したときにヘッドセット側でビープ音をならす/鳴らさないの設定をする機能です。
無線機本体のビープ設定とは独立しており、両方ONに設定している場合、どちらも鳴ります。(P12-52)
- 「カスタマイズキービープ」画面
[再生]ボタン、[早送り]ボタン、[巻き戻し]ボタンを押したときに、ヘッドセット側でビープ音を鳴らすか、鳴らさないかを設定する機能です。
無線機本体側のビープ設定とは独立しており、両方ONに設定している場合、どちらも鳴ります。(P12-52)
- 「カスタマイズキー」画面
[再生]ボタン、[早送り]ボタン、[巻き戻し]ボタンに機能を割り当てることができます。(P12-52)
※送信中での機能を割り当てることはできません。



15 Bluetooth®の使いかた

■ RS-MS1AをGoogleのPlayストアからダウンロードする

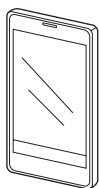
フリーウェアのRS-MS1Aは、本製品のDV機能拡張を目的としたAndroid®搭載スマートフォン専用のアプリケーションです。

画像やテキストメッセージの交換をしたり、受信したD-PRS局の情報を地図アプリと連携して表示したりすることができます。

Android®端末内の「Playストア」からアプリケーションをダウンロードしてください。

◇ ご用意いただくものについて

- Android®端末 (2014年2月現在)



RS-MS1AはAndroid®4.0以降のOSバージョンで、Bluetooth®を搭載している端末でお使いいただけます。(一部機種を除く)

RS-MS1Aの動作確認済みスマートフォン、およびタブレットは下記の通りです。


- GALAXY S4 SC-04E (NTT docomo)
- Nexus 7 (2012)
- Nexus 7 (2013)

※動作確認済みの機種でも一部の機種では、インストールされているソフトウェアやメモリの容量によって正しく表示されない場合や、一部機能が使用できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

Android®端末の操作やアカウントの設定については、ご使用になる端末に付属の取扱説明書をご覧ください。

※本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使用になる端末と多少異なる場合があります。

◇ ダウンロードのしかた

- ① Android®端末を起動する。
- ② 「Playストア」をタッチする。
- ③ 「」(検索)をタッチする。
- ④ 「RS-MS1A」を入力する。
 - 候補のアプリの中から「RS-MS1A」が表示されます。
- ⑤ 「RS-MS1A」をタッチする。
 - RS-MS1Aの紹介画面が表示されます。
- ⑥ 「インストール」をタッチする。
- ⑦ 「同意してダウンロード」をタッチする。
 - アプリのインストールが開始されます。
 - インストールが完了すると、ホーム画面にRS-MS1Aのアイコンが表示されます。



← RS-MS1Aのアイコン

15 Bluetooth®の使いかた

■ データ端末をBluetooth®で接続する

データ端末をBluetooth®で接続するには、はじめにデータ端末とのペアリングが必要です。

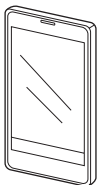
ペアリングが完了すると、接続できます。

- ペアリングのしかた → 下記参照
- 接続のしかた → 15-14ページ

◇ ペアリングのしかた

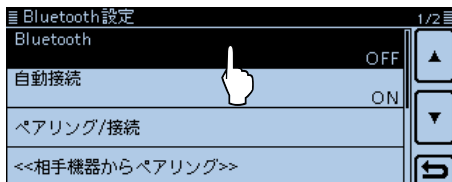
Android®端末からBluetooth®にペアリングするまでの操作のしかたを説明します。

1. Android®端末を用意する



2. 本製品のBluetooth設定をONにする

- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「Bluetooth」をタッチする。
(Bluetooth設定 > Bluetooth)



- ③ 「ON」をタッチする。



ご注意

一部のAndroid®端末によってはペアリングできない場合があります。あらかじめご了承ください。

Bluetooth®の通信においては、周辺機器の影響で通信距離が著しく変化します。

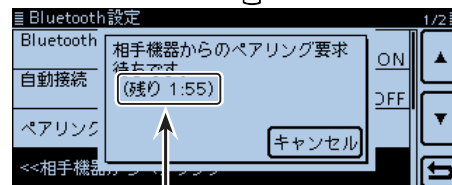
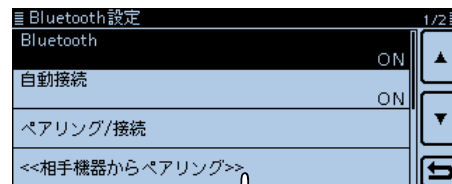
- 電子レンジなどによる妨害
- 無線LANによる妨害

このような場合は、ほかのワイヤレス通信を停止させたり、電子レンジなどの使用を中止したり、周辺機器との距離を離すなどしてください。

また、Bluetooth®機器と本製品の距離をできるだけ近づけると、通信状況が改善することがあります。

3. Android®端末からペアリングするための準備をする

- ④ 「<<相手機器からペアリング>>」をタッチする。
 - 「相手機器からのペアリング要求待ちです。」画面が表示されます。



ここに表示される残り時間までにAndroid®端末でBluetooth®の設定をしてください。
時間切れの場合は、本製品側の設定が無効になります。

4. Android®端末でBluetooth®の設定をする

- ⑤ Bluetooth®をONにする。
 - 操作のしかたは、お使いのAndroid®端末の取扱説明書をご確認ください。
 - 本製品に取り付けたUT-133(Bluetooth®ユニット)の名称がAndroid®端末に表示されます。
※名称は、本製品の「自機器情報」画面で確認できます。
(初期設定値：ICOM BT-001) (P12-54)

5. Android®端末でペアリング操作をする

- ⑥ Android®端末に表示されたUT-133(Bluetooth®ユニット)をタッチする。
 - ペアリングを開始します。
 - 「次のデバイスをペアに接続する場合：ICOM BT-001 次のパスキーが表示されていることを確認してください：XXXXXX」画面が表示します。

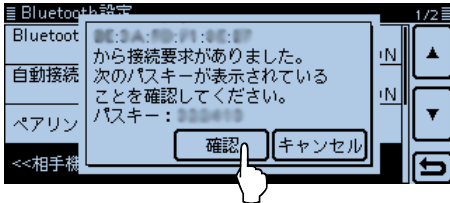
15 Bluetooth®の使いかた

■ データ端末をBluetooth®で接続する(つづき)

6. 本製品でペアリング操作をする

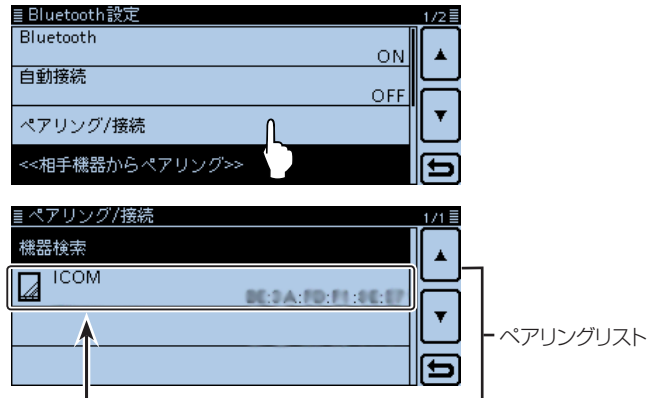
⑦Android®端末からペアリングの要求をされるので、本製品で表示されるパスキーがAndroid®端末側と同じであることを確認して、**[確認]**をタッチする。

- ペアリングを開始します。



⑧「ペアリング/接続」をタッチする。

- ペアリングが完了すると、ペアリングリストに表示されます。



ペアリングリストにAndroid®端末の名称が表示されたらペアリング完了です

ご注意：Bluetooth対応機器によってはPINコード、またはパスキーが必要です

市販のAndroid®端末などのデータ端末でペアリング接続する場合は、PINコードやパスキーなどの入力を要求される場合があります。

その場合は、市販のデータ端末の取扱説明書で入力方法を確認してください。

15 Bluetooth®の使いかた

■ データ端末をBluetooth®で接続する(つづき)

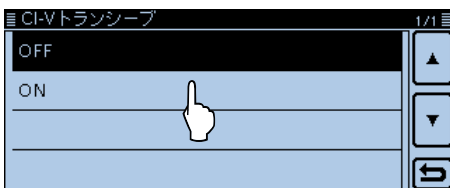
◇ 接続のしかた

ペアリング後、本製品とAndroid®端末を接続するまでの操作のしかたを説明します。

1. 本製品で接続の準備をする

無線機とRS-MS1AはCI-Vのコマンドで動作するため、MENU画面の中にある「CI-Vトランシーブ」の設定を「ON」してください。

(機能設定 > CI-V > CI-Vトランシーブ)



2. Android®端末でRS-MS1Aを起動する

「RS-MS1A」を起動させます。

※ダウンロードのしかた(☞P15-11)

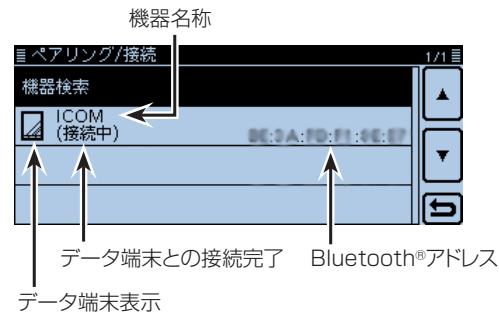


← RS-MS1Aのアイコン

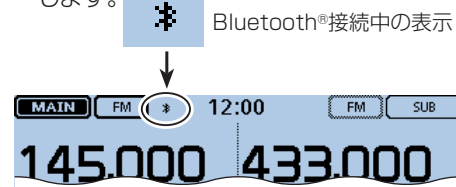
3. Android®端末から接続する

「RS-MS1A」で「ペアリング済みデバイス」として表示された本製品の機器名称をタッチする。

- 接続を開始します。
- 本製品に自局のコールサインが登録されていない場合は、入力を要求されます。
- 接続が成功すると、本製品に「***に接続しました」画面が表示し、ペアリングリストには、接続したAndroid®端末の機器名称の下に「(接続中)」が表示されます。
(***はAndroid®端末のBluetooth®の名称です)



- 接続中は、下図のようにBluetooth®のマークが表示します。



本製品から接続するには

RS-MS1Aが起動しているときは、下記の手順で本製品からの接続もできます。

- ①[MENU]をタッチする。
- ②「ペアリング/接続」をタッチする。
(Bluetooth > ペアリング/接続)
- ③ペアリングリストに表示されているAndroid®端末側をタッチする。
 - 「***に接続中」画面が表示します。
(***はAndroid®端末のBluetooth®の名称です)
 - 接続が成功すると、「(接続中)」が表示されます。



ご注意

接続できない場合は、CI-Vアドレスが本製品とRS-MS1Aで一致しているか確認してください。

確認のしかた

本製品側

MENU画面内の「CI-Vアドレス」の設定
(機能設定 > CI-V > CI-Vアドレス) (初期設定値: 8C)

RS-MS1A側

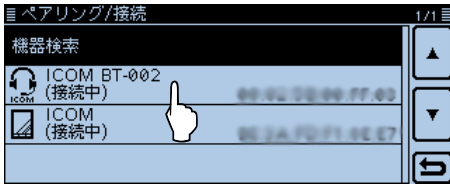
アプリケーション設定 → 「CI-V設定」の設定
(初期設定値: 無線機[8C])

15 Bluetooth®の使いかた

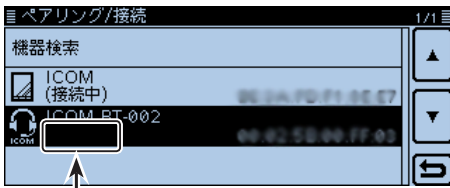
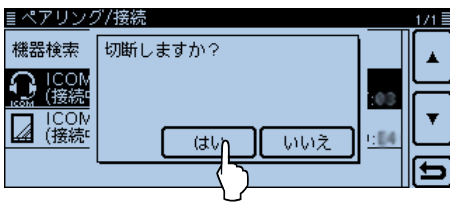
■ 切断のしかた

ペアリングさせたままで、接続を切断できます。

- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「ペアリング/接続」をタッチする。
(Bluetooth設定 > ペアリング/接続)
- ③ 接続しているBluetooth®対応機器をタッチする。



- ④ [はい]をタッチする。



「(接続中)」が消えます

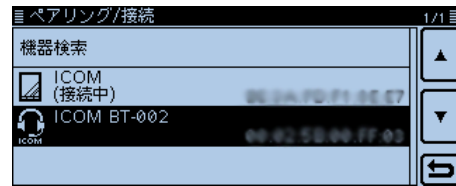
- 切断されて、ペアリンクリストの機器名称部の下にあった「(接続中)」が削除され、ペアリング継続状態になります。
- ペアリンクリストで、未接続のBluetooth®対応機器をタッチすると「接続しますか?」画面が表示され、[はい]をタッチすると、再度接続できます。

■ 削除のしかた

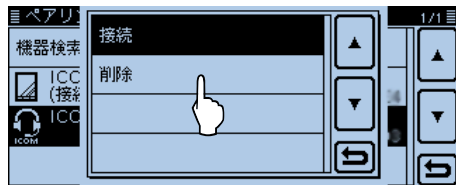
接続やペアリングしたBluetooth®対応機器を本製品から削除できます。

接続中のBluetooth®対応機器を削除したい場合は、左の「■切断のしかた」で先に切断してください。

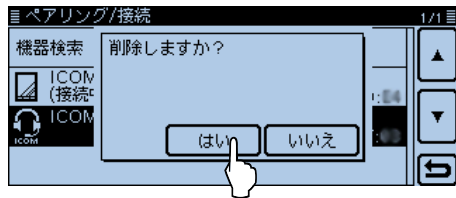
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「ペアリング/接続」をタッチする。
(Bluetooth設定 > ペアリング/接続)
- ③ [DIAL]を回して、削除したい未接続のBluetooth®対応機器を選択する。



- ④ [QUICK]をタッチする。
- ⑤ 「削除」をタッチする。



- ⑥ [はい]をタッチする。



- ペアリンクリストから削除されます。

再度接続したい場合は、ペアリング接続を下記のページから始めてください。

- ヘッドセットのペアリング接続：15-6ページ
- データ端末のペアリング接続：15-12ページ

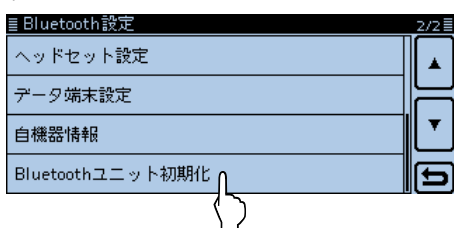
15 Bluetooth®の使いかた

■ 初期化のしかた

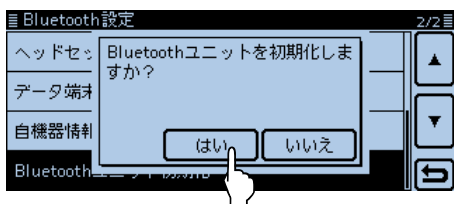
本製品に取り付けた別売品のUT-133(Bluetooth®ユニット)の初期化のしかたを説明します。
不具合が起きたときなど、初期化操作をしてください。

また、パーシャルリセット、オールリセットをした場合は、Bluetooth設定の各機能設定は初期化されますが、機器名称とペアリング/接続情報は初期化されません。

- ① [MENU] をタッチする。
- ② 「Bluetoothユニット初期化」項目をタッチする。
(Bluetooth設定 > Bluetoothユニット初期化)



- ③ [[はい] をタッチする。



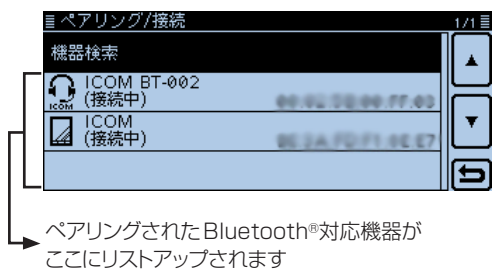
- MENU画面を解除します。
- 初期化されて、運用画面を表示します。

■ 最大ペアリング数について

本製品に取り付けた別売品のUT-133(Bluetooth®ユニット)とペアリングできるBluetooth機器は、ヘッドセットとデータ端末の2種類になります。

本製品に取り付けた別売品のUT-133(Bluetooth®ユニット)とBluetooth対応機器で接続する場合、最大で8台のペアリングができます。

ただし、ヘッドセット7台とデータ端末1台の合計8台、またはヘッドセット1台とデータ端末7台の合計8台の組み合わせに限ります。



ペアリングされたBluetooth®対応機器がここにリストアップされます

■ 一般仕様	16-2
■ 送信部	16-2
■ 受信部	16-3

16 定格

■ 一般仕様

- 送信周波数範囲：
144.000~146.000MHz
430.000~440.000MHz
- 受信周波数範囲：
(FM/FM-N/DV) 137.000~174.000MHz
375.000~379.895MHz
382.100~411.895MHz
415.100~550.000MHz
(AM) 118.000~136.99166MHz
※組み合わせによっては、サブバンドがミュートされます。
- 使用温度範囲：-10~+60℃
- 周波数安定度：±2.5ppm以内*(-10~+60℃)
★25℃を基準とする
- デジタル伝送速度：4.8kbps
- 音声符号化速度：2.4kbps
- 周波数分解能：5、6.25、8.33、10、12.5、
15、20、25、30、50kHz
※運用バンドや、運用モードによっては、選択できない場合があります。

- メモリーチャンネル数：1000チャンネル
- プログラムチャンネル数：50チャンネル
- コールチャンネル数：4チャンネル
- レピータ登録件数：1200件
- GPSメモリー登録件数：200件

- 電源電圧：DC 13.8V
(外部電源端子)
- 消費電流：
待ち受け時 1.2A
受信最大出力時 1.8A
送信最大出力時 7.5A(ID-5100)
13.0A(ID-5100D)
- 接地方式：マイナス接地
- アンテナインピーダンス：50Ω 不平衡(M型)
- 外形寸法：
コントローラー 182.2(W)×24.7(H)×81.5(D)mm
本体 150.0(W)×40.0(H)×172.6(D)mm
(突起物を除く)
- 重量：
コントローラー 約260g
本体 約1.3kg

■ 送信部

- 電波型式：F2D、F3E、F7W
- 変調方式：FMリアクタンス変調(FM、FM-N)
GMSKリアクタンス変調(DV)
- 最大周波数偏移：±5.0kHz以下(FM)
±2.5kHz以下(FM-N)
- マイクロホンインピーダンス：600Ω
- スプリアス発射強度：-60dBc以下
(スプリアス領域/帯域外領域)
- 送信出力：20W、10W、2W(ID-5100)
50W、15W、5W(ID-5100D)

16 定格

■ 受信部

●受信方式：ダブルスーパーヘテロダイン

●中間周波数：

(Aバンド) 38.85MHz (1st IF)

450kHz (2nd IF)

(Bバンド) 46.35MHz (1st IF)

450kHz (2nd IF)

●受信感度：(スプリアスポイントは除く)

(FM/FM-N) $-15\text{dB}\mu$ 以下(12dB SINAD)

(DV) $-11\text{dB}\mu$ 以下(BER1%)

FM/FM-N 12dB SINAD

(アマチュア帯を除く)

137.000~159.995MHz $-10\text{dB}\mu$ 以下

160.000~174.000MHz $-5\text{dB}\mu$ 以下

375.000~399.995MHz $-5\text{dB}\mu$ 以下

400.000~499.995MHz $-10\text{dB}\mu$ 以下

500.000~550.000MHz $-5\text{dB}\mu$ 以下

AM(10dB S/N)

118.000~136.99166MHz $0\text{dB}\mu$ 以下

●スケルチ感度： $-18\text{dB}\mu$ 以下(Threshold)

●選 択 度：

(FM) 60dB以上

(FM-N) 55dB以上

(DV) 50dB以上

●スプリアス妨害比：60dB以上

(Aバンド UHF：55dB以上)

●低周波出力：2.0W以上(8 Ω 負荷、10%歪時)

●低周波負荷インピーダンス：8 Ω

■ 無線局事項書の書きかた	17-3
■ 工事設計書の書きかた	17-3
◇ 保証認定の申請について	17-3
◇ 「無線局事項書及び工事設計書」への記載例	17-4
■ 無線局免許の電子申請方法	17-5
◇ CDに収録している適合説明資料について	17-6
■ バンドの使用区別(バンドプラン)について	17-6

17 免許申請について

本製品は技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた「技術基準適合送受信機」です。

免許の申請書類のうち「無線局事項書及び工事設計書」は、下記の要領で記入してください。

なお、総務省のホームページ「電波利用 電子申請・届出システム」<http://www.denpa.soumu.go.jp/public/index.html>でも免許申請できます。

弊社別売品のハード・ソフトウェア製品を利用してアマチュア局を遠隔操作するには、「無線局事項書及び工事設計書」の備考欄に必要事項を記載するとともに、同梱の適合説明資料を添付して免許申請手続きをしてください。なお、変更手続(届出)については、免許申請に準じて手続きをしてください。

「無線局事項書及び工事設計書」の「15 備考」欄には、「第〇〇送信機は、Bluetooth(ブルートゥース)により遠隔操作を行うものです。」と記載してください。(☞P17-4、P17-5)

※遠隔操作を含まず、本製品の免許申請をする場合は、工事設計書15 備考欄への記入は不要です。(☞P17-4、P17-5)
また、適合説明資料も添付不要です。

※電子申請については、同梱のCDに収録している適合説明資料(適合説明資料_ID-5100用.pdf、または適合説明資料_ID-5100D用.pdf)を添付してください。(☞P17-6)

【重要】

免許人は、遠隔操作時の障害に対して、ただちに無線機本体での動作状態を確認し、必要に応じて電源を切るなどの措置を講じてください。

電波法関係審査基準の要件(第15 アマチュア局 26 アマチュアの遠隔操作)

- (1) 電波の発射の停止が確認できるものであること。
- (2) 免許人以外の者が無線設備をみだりに取り扱うことのないよう措置してあること。
- (3) 連絡線は、専用線であること。ただし、次に掲げる場合を除く。
 - ア リモコン局によりレピーター局又はアシスト局の遠隔操作を行う場合
 - イ インターネットの利用により遠隔操作を行う場合であって、次の(ア)及び(イ)の要件に適合するものであること。
 - (ア) 免許人以外の者がインターネットの利用により無線設備を操作できないよう措置しているものであること。
 - (イ) 運用中は免許人が常に無線設備を監視及び制御をしているものであり、その具体的措置が確認できるものであること。
- (4) 電波が連続的に発射し、停波しなくなる等の障害が発生したときから3時間以内において速やかに電波の発射を停止できることが確保されているものであって、その具体的方法が確認できるものであること。
- (5) 無線局事項書の参考事項の欄に、遠隔操作が行われること及びその方法(専用線、リモコン局又はインターネットの利用のいずれかをいう。)を記載するとともに、工事設計として(1)及び(3)イに掲げる要件に適合することを説明した書類を添付するものであること((3)イについてはインターネット利用の場合に限る)。
- (6) インターネットの利用により遠隔操作を行う場合においては、無線設備の操作を行う場所を通信所としないこと。

17 免許申請について

■ 無線局事項書の書きかた

●第3級アマチュア無線技士以上のかたがID-5100Dを申請する場合

13 電波の型式並びに希望する周波数及び空中線電力	希望する周波数帯	電波の型式	空中線電力	希望する周波数
	<input type="checkbox"/> 1.9M <input type="checkbox"/> 3.5M <input type="checkbox"/> 50M	A1A <input type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> 4HA <input type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF	W <input type="checkbox"/> 120W <input type="checkbox"/> 240W	<input type="checkbox"/> 1200 <input type="checkbox"/> 2400
	<input checked="" type="checkbox"/> 144M <input checked="" type="checkbox"/> 430M	<input type="checkbox"/> 3VA <input checked="" type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF	W <input type="checkbox"/> 50W <input checked="" type="checkbox"/> 50W	<input type="checkbox"/> 1200 <input checked="" type="checkbox"/> 14630kHz

●第4級アマチュア無線技士のかたがID-5100を申請する場合

13 電波の型式並びに希望する周波数及び空中線電力	希望する周波数帯	電波の型式	空中線電力	希望する周波数
	<input type="checkbox"/> 1.9M <input type="checkbox"/> 3.5M <input type="checkbox"/> 50M	A1A <input type="checkbox"/> 3HA <input type="checkbox"/> 4HA <input type="checkbox"/> 3VA <input type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF	W <input type="checkbox"/> 120W <input type="checkbox"/> 240W	<input type="checkbox"/> 1200 <input type="checkbox"/> 2400
	<input checked="" type="checkbox"/> 144M <input checked="" type="checkbox"/> 430M	<input type="checkbox"/> 3VA <input checked="" type="checkbox"/> 4VA <input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF	W <input type="checkbox"/> 20W <input checked="" type="checkbox"/> 20W	<input type="checkbox"/> 1200 <input checked="" type="checkbox"/> 14630kHz

■ 工事設計書の書きかた

終段管の名称と個数、電圧については、送信機系統図(※P17-7)に記載された、PWR AMPの名称と個数、電圧を記入してください。

装置の区別	変更の種別	技術基準適合証明番号	発射可能な電波の型式及び周波数の範囲	※ 整理番号	変調方式	終段管 ● 名称個数 ● 電圧	定格出力 (W)
第1送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更	工事設計認証番号(認証番号)を記入	144MHz帯 } 430MHz帯 } F2D,F3E,F7W	F2D,F3E: FMJアクトゥス変調 F7W: GMSKJアクトゥス変調			ID-5100Dの場合 144MHz帯: 430MHz帯: 50W ID-5100の場合 144MHz帯: 430MHz帯: 20W
送信空中線の型式							
添付図面		<input checked="" type="checkbox"/> 送信機系統図	その他の工事設計				
						<input type="checkbox"/> 有(誤差0.025%以内) <input checked="" type="checkbox"/> 無	
							<input checked="" type="checkbox"/> 法第3章に規定する条件に合致する。

本体に、技適マークと認証番号が記載されたシリアルナンバーシールを貼っています。その認証番号を記入してください。
必ず申請に使用するトランスミッター本体でご確認ください。

移動する局(空中線電力が50W以下の局)は記入の必要はありません。

認証番号を記入しているときは、記入する必要はありません。
付属装置(TNCなど)、または付加装置(トランスバーターやパワーブースターなど)を付ける場合は、非技術基準適合送受信機となりますので、TSS株式会社の保証認定を受ける必要があります。
したがって、網かけ部分に発射可能な電波型式などを追記し、お使いになる装置を含めた送信機系統図を添付して申請してください。
※工事設計書には、一括記載コードではなく、個別の電波型式を記入してください。

◇ 保証認定の申請について

必要事項を記入した「アマチュア無線局の無線設備の保証願書」を「無線局申請書」に添えて、TSS株式会社に申請してください。

〒112-0011 東京都文京区千石4-22-6 TSS株式会社 保証事業部
TEL : 03-5976-6411

17 免許申請について

■ 工事設計書の書きかた(つづき)

◇ 「無線局事項書及び工事設計書」への記載例

無線局事項書及び工事設計書										※整理番号	
1 申請(届出)の区分	<input type="checkbox"/> 開設 <input type="checkbox"/> 変更 <input type="checkbox"/> 再免許			2 免許の番号	A第	号	3 呼出符号	4 欠格事由		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
□ 個人	□ 法人			□ 個人			□ 法人				
	<input type="checkbox"/> 28M	<input type="checkbox"/> 3FA	<input type="checkbox"/> 4A				W	<input type="checkbox"/> 1300			
	<input type="checkbox"/> 50M	<input type="checkbox"/> 3VA	<input type="checkbox"/> 4VA	<input type="checkbox"/> 3VF	<input type="checkbox"/> 4VF		W	<input type="checkbox"/>		W	
	<input type="checkbox"/> 144M	<input type="checkbox"/> 3VA	<input type="checkbox"/> 4VA	<input type="checkbox"/> 3VF	<input type="checkbox"/> 4VF		W	<input type="checkbox"/>		W	
	<input type="checkbox"/> 430M	<input type="checkbox"/> 3VA	<input type="checkbox"/> 4VA	<input type="checkbox"/> 3VF	<input type="checkbox"/> 4VF		W	<input type="checkbox"/> 4630kHz	A1A	W	
14 変更する機の番号	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 8	<input type="checkbox"/> 11	<input type="checkbox"/> 12	<input type="checkbox"/> 13	<input type="checkbox"/> 16				
15 備考	<p>① 移動する局の場合は、「工事設計書」の欄に記載している送信機の台数 _____ 台</p> <p>② 現にアマチュア局を開設しているときは、その免許の番号及び呼出符号 _____ 免許の番号 _____ 呼出符号 _____</p> <p>③ 過去にアマチュア局を開設していた場合であって、そのアマチュア局の廃止又は免許の有効期間満了の日から6ヶ月を経過していないときは、そのアマチュア局に指定されていた呼出符号 _____</p>										

ここに、「第〇〇送信機*は、Bluetooth(ブルートゥース)により遠隔操作を行うものです。」と記載してください。
 *初めて開局されるお客様は、第1送信機と記載してください。

17 免許申請について

■ 無線局免許の電子申請方法

電子申請にて無線局の免許申請をお考えのお客様は、総務省ホームページにある電子申請のご利用の手引き(<http://www.denpa.soumu.go.jp/public2/tebiki/index.html>)を見ながら無線局の免許申請をお願いします。

ID-5100/Dの遠隔操作機能に関する申請部分につきましては、以下のように入力して申請をお願いします。

電子申請中に不明なことがございましたら、総務省の電子申請ヘルプデスクをご活用することをおすすめします。

総務省の電子申請ヘルプデスク：0120-850-221

※一部のIP電話からおかけの場合、接続することができません。混雑時にはつながりにくい場合があります。

● ご利用の手引き21ページ

「開局申請入力画面⑥(事項書及び工事設計書入力画面その3)」

● ご利用の手引き22ページ

「開局申請入力画面⑦(事項書及び工事設計書入力画面その4)」

● ご利用の手引き22ページ

「技術設備の入力方法(工事設計書の編集画面)」

※掲載ページ番号などについては、変更することがあります。

17 免許申請について

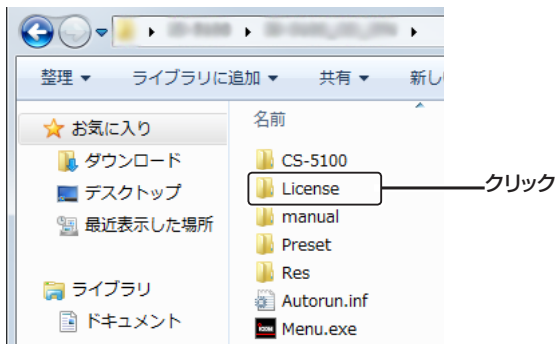
■ 無線局免許の電子申請方法(つづき)

◇ CDに収録している適合説明資料について

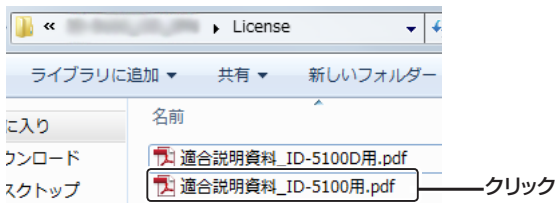
適合説明資料は、付属CDの「License」フォルダに収録しています。

また、申請の内容に応じて、記載内容を編集してください。編集のしかたは、下記をご覧ください。

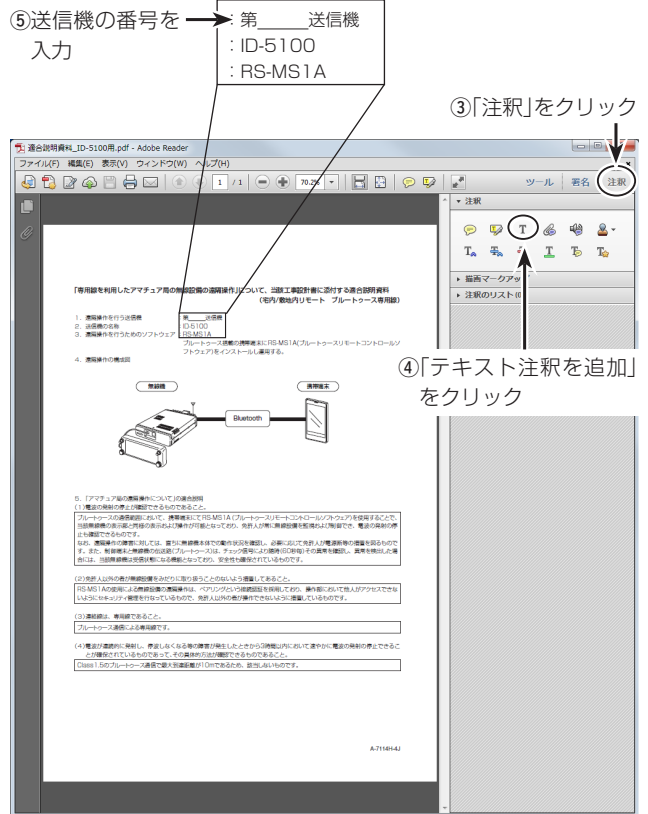
① 付属CDの「License」フォルダをダブルクリックする。



② 申請する無線機名の適合説明資料をダブルクリックする。



- ③ 「注釈」をクリックする。
- ④ 「T」(テキスト注釈を追加)をクリックする。
- ⑤ 送信機の番号を入力する。



⑥ データを別の名前に保存する。
(例：適合説明資料_ID-5100用_JA3YUA.pdf)

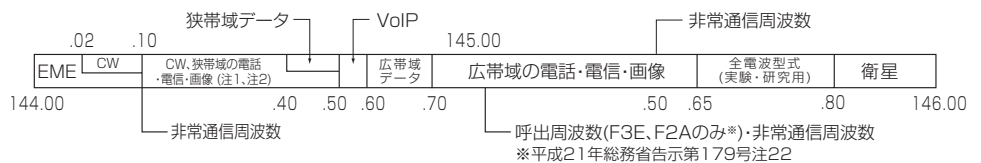
■ バンドの使用区別(バンドプラン)について

電波を発射するときは、下記の使用区別図にしたがって運用してください。

なお、バンドプランは、改訂される場合があります。

最新の情報は、JARLニュースやJARLホームページなどでご確認ください。

144MHz帯 周波数:MHz



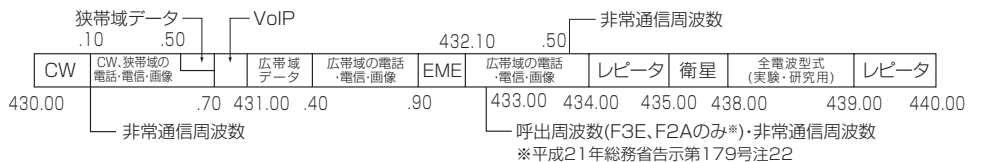
【注1】144.10MHzから144.20MHzまでの周波数は、外国のアマチュア局と月面反射通信にも使用できる。

この場合の電波の占有周波数帯幅の許容値は3kHz以下のものに限る。

【注2】144.30MHzから144.50MHzまでの周波数は、国際宇宙ステーションとの交信に限って広帯域の電話、電信および画像通信にも使用することができる。

狭帯域:占有周波数帯幅3kHz以下(A3Eを除く)、広帯域:3kHzを超える

430MHz帯 周波数:MHz



狭帯域:占有周波数帯幅3kHz以下(A3Eを除く)、広帯域:3kHzを超える

困ったときは

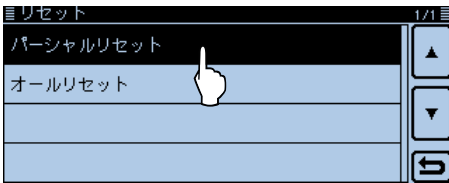
■リセットについて

静電気などによる外部要因で、本製品の動作や表示内容に異常があると思われた場合は、いったん電源を切り、数秒後にもう一度電源を入れてください。

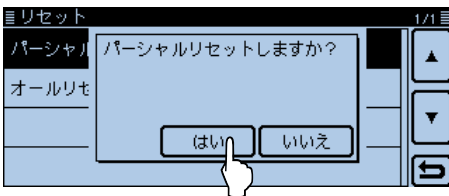
それでも改善しない場合は、次のようにパーシャルリセット、またはオールリセット操作をしてください。

◇ パーシャルリセットのしかた

- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「パーシャルリセット」をタッチする。
(その他 > リセット > パーシャルリセット)



- ③ [はい]をタッチする。
 - パーシャルリセットしたあと、初期画面を表示します。



パーシャルリセット操作をしたときは

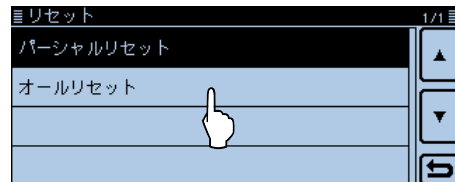
次の設定内容以外が、出荷時の設定に戻ります。

- メモリーチャンネル
- レピータリスト
- コールサインメモリー
- 送信メッセージ
- GPSメモリー
- GPSメッセージ
- プログラムスキャンエッジ
- DTMFメモリー

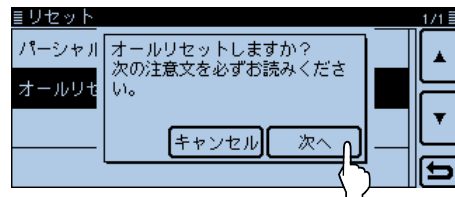
◇ オールリセットのしかた

ご注意: オールリセットする前に必ずお読みください
オールリセットすると、本製品のレピータリストも消去されるため、DR機能が運用できなくなります。
そのため、オールリセットする前に、SDカードに本製品のレピータリストを保存するか、付属のCDに同梱しているクローニングソフトウェア(CS-5100)で本製品のレピータリストをパソコンに保存することをおすすめします。
オールリセット後、SDカードに保存したレピータリストを読み込ませる、またはパソコンに保存したレピータリストを付属のCDに同梱しているクローニングソフトウェア(CS-5100)で本製品に書き込んでください。

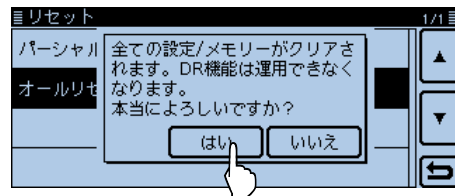
- ① [MENU]をタッチする。
- ② 「オールリセット」をタッチする。
(その他 > リセット > オールリセット)



- ③ [次へ]をタッチする。



- ④ [はい]をタッチする。
 - オールリセットしたあと、初期画面を表示します。



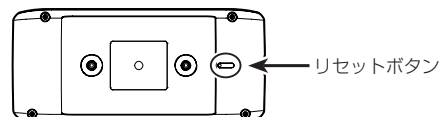
オールリセット操作をしたときは

記憶されているデータはすべて消去され、変更した設定はすべて初期設定に戻ります。

レピータリスト、メモリーチャンネルの内容やGPSの情報などもすべて消去されるので、もう一度運用に必要な周波数や運用モードなどを書き込んでください。

タッチパネルを操作できないときは

タッチパネルが操作できない、操作しても意図しない動作になるなど、MENU画面からオールリセット操作できない場合は、ペン先などでコントロールパネル裏面にあるリセットボタンを押しながら[**⏏**]を長く押ししてください。



困ったときは

■トラブルシューティング

下記の現象は故障ではありませんので、修理に出す前にもう一度点検してください。

それでも異常があるときは、弊社サポートセンターまで、お問い合わせください。

お問い合わせ先

アイコム株式会社 サポートセンター

0120-156-313(フリーダイヤル)

◆携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、

06-6792-4949(通話料がかかります)

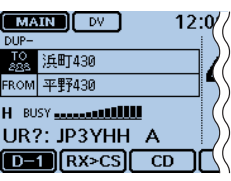
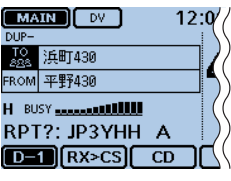
受付(平日 9:00~17:00)

電子メール: support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ: <http://www.icom.co.jp/>


- 弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> をご覧ください。

◇ D-STAR[®]運用時

現象	原因	処置	参照
●送信後、レピータから何もメッセージが返ってこない(Sメーターも振らない)	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分が使うレピータ(アクセスレピータ)の選択が間違っている ◎手動で入力したレピータの周波数が間違っている(またはデュプレックスの設定が間違っている) ◎レピータのエリアからはずれている(または電波がレピータに届いていない) 	<ul style="list-style-type: none"> ●正しいアクセスレピータを「FROM」に設定する ●レピータの周波数(またはデュプレックス設定)を正しく設定する ●レピータに電波が届く場所まで移動するか、電波の届く別のレピータにアクセスする 	P6-16 — —
●送信後、「UR?」とアクセスレピータのコールサインを表示する 	◎正常に電波がレピータに届いています。ただし、3秒以内に相手局から応答がなかったで「UR ?」を表示しています。	●聞いていた相手局が応答のタイミングを逃している場合もありますので、少し時間を空けてから再度呼び出してみてください。	—
●送信後、「RX」または「RPT?」とアクセスレピータのコールサインを表示する 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自局のコールサインが未設定 ◎自局のコールサインがD-STAR管理サーバーに未登録、または登録内容が異なる ◎相手局のコールサインがD-STAR管理サーバーに未登録または登録内容が異なる 	<ul style="list-style-type: none"> ●自局のコールサインを設定する ●自局のコールサインをD-STAR管理サーバーに登録する、または登録内容を確認する ●相手局のコールサインの登録状況をD-STAR管理サーバーで確認する(相手局が公開している場合に限り) 	P6-4 P6-6 —
●送信後、「RPT?」とアクセスレピータのコールサインを表示する	◎呼び出し先のレピータコールサインの設定が間違っている	●呼び出し先のレピータコールサインを正しく設定する	—
●送信後、「RPT?」と呼び出し先レピータコールサインを表示する	◎呼び出し先のレピータにつながらない、または使用中	●少し時間を空けてから再度呼び出す	—
●[DR]をタッチしても、DR画面に切り替わらない	◎レピータの情報がなくなっている	<ul style="list-style-type: none"> ●SDカードでレピータの情報を入れる ●無線機に直接レピータの情報を登録する 	P6-32 P7-20~ P7-24

困ったときは

◇ D-STAR®運用時(つづき)

現象	原因	処置	参照
●受信中の相手の音声が「ケロケロ」「キュロキュロ」音になったり、途切れたりする	◎電波の伝搬状態が悪くなっている	●電波の伝搬状態のよい場所に移動する ※それでも改善されない場合は、相手局と相手局のアクセスレピータとのあいだで伝搬状態が悪い可能性があります。 相手局にその趣旨を伝えて出力を調整してもらるか、伝搬状態のよい場所に移動してもらってください。	—
●[RX>CS]をタッチして、応答しようとしたら、「-----」が表示され、「プツ」とエラー音が鳴り、応答できない	◎受信電波が弱い、DRスキャン中に受信などの条件で、コールサインが受信できないことがあります。	●再度相手が送信するのを待つ	—
●山かけでQSOはできるが、ゲート越えや特定局とのQSOができない	◎自局のコールサインがD-STAR管理サーバーに登録されていない	●コールサインをD-STAR管理サーバーに登録する	P6-6
●画面の上側に「L」表示が点灯、または点滅する 	◎インターネット回線網を経由した通信時、データの一部を失ったことを知らせる、パケットロスを受信している	●少し時間を空けてから再度呼び出す ※データが化けてパケットロスを受信したと誤認する場合があります。その場合は山かけ通信であっても、ディスプレイに「L」表示が点灯します。	—
●「DV」と「FM」が交互に点滅する	◎DVモードで運用中、FMモードの信号を受信している	●少し時間を空けてから再度呼び出す	P7-11

◇ GPSロガー運用時

現象	原因	処置	参照
●GPS受信ができない	◎「マニュアル」を選択している ◎GPSからの信号を受信できていない	●「内蔵GPS」を選択する ●GPSからの信号を受信できる場所に移動する	P12-16 —

困ったときは

◇ 通常運用時

現象	原因	処置	参照
●電源が入らない	◎電源ケーブルの接触不良 ◎ヒューズの断線 ◎電源電圧が適切でない	●接続をやりなおす ●原因を取り除き、ヒューズを取り替える ●電源電圧を13.8Vに調整する	— — —
●音が出ない	◎[VOL]ツマミを反時計方向に回し切っている ◎外部スピーカーの接続ケーブルが切れている ◎ミュート機能が動作している	●[VOL]を回して、音量を設定しなおす ●接続ケーブルを点検して、正常にする ●ミュート機能を解除する	P2-2 — P2-2
●感度が悪く、強い局しか聞こえない	◎アンテナの不良、または同軸ケーブルのショート・断線 ◎アッテネーター機能がONに設定されている ◎[SQL]ツマミを時計方向に回し切っている	●アンテナと同軸ケーブルを点検し、正常にする ●アッテネーター機能をOFFにする ●[SQL]ツマミを反時計方向に回して、スケルチを調整する	— P2-12 P2-2
●電波が出ないか、電波が弱い	◎LOW/MID出力のいずれかの設定になっている ◎PTTロック機能が動作している ◎ビジーロックアウト機能が動作している ◎送信時、アマチュアバンド以外に設定されている	●HIGH出力にする ●PTTロック機能を解除する ●ビジーロックアウト機能を解除する ●アマチュアバンド以外は送信できないので、周波数をアマチュアバンドに設定する	P2-11 P12-44 P12-44
●送信しても応答がない	◎デュプレックス運用になっていて、送受信の周波数が違っている	●デュプレックス運用を解除し、送受信の周波数を同じにする	P11-4
●周波数の設定ができない	◎ロック機能が動作している ◎メモリーモードまたはコールチャンネルモードになっている ◎DR画面になっている	●ロック機能を解除する ●[V/M]をタッチして、VFOモードにする ●[DR]をタッチして、DR機能を解除する	P2-12 P2-9
●周波数が異常な表示になっている	◎CPUが誤動作している ◎静電気などによる外部要因	●リセットする ●電源を接続しなおす	P18-1 —
●プログラムスキャンが動作しない	◎VFOモードになっていない ◎プログラムスキャンエッジの上限周波数と下限周波数に同じ周波数が書き込まれている	●[V/M]をタッチして、VFOモードにする ●上限周波数と下限周波数に違う周波数を書き込む	P2-9 P4-11
●メモリースキャンが動作しない	◎メモリーモードになっていない ◎M-CHに2CH以上書き込まれていない	●[V/M]をタッチして、メモリーモードにする ●2CH以上をM-CHに書き込む	P2-9 P3-5
●受信信号が途切れる	◎マイクロホンからの音声レベルが大きすぎる	●普通の大きさの声で送信する	P2-11
●サブバンドが受信できない	◎サブバンドミュート機能が動作している	●サブバンドミュート機能をOFFにする	P12-49
●送信しても、途中で受信状態になる	◎タイムアウトタイマー機能が動作している	●タイムアウトタイマー機能をOFFにする	P12-44

さくいん

番号	
1つのM-CHが記憶できる内容	3-2
2.4GHz現品表示記号の意味について	15-4
A	
Adobe® Reader®の機能について	iv
AF出力切替について	15-10
Aバンド/Bバンドの選びかた	2-3
B	
BK通信の使いかた	7-8
BK(割り込み)通信の運用	7-8
Bluetooth®でできること	15-2
Bluetooth設定について	12-51
C	
CDに収録している適合説明資料について	17-6
CDに収録の取扱説明書について	v
CI-Vについて	13-15
CI-Vの基本フォーマットについて	13-15
CI-Vのデータ設定について	13-15
CSVファイルをインポート/エクスポートするには	9-10
D	
D-PRS一オブジェクト局/アイテム局の設定	8-19
D-PRS一気象局の設定	8-23
D-PRSとは	8-14
D-PRSの使用手順	8-14
D-PRSの送信	8-14
D-PRS一ポジション局(移動局/固定局)の設定	8-16
DR機能でできること	6-3
DR機能とは	6-3
DR機能とプライオリティーチャンネル	5-13
DR機能にするには	2-9
DR機能のアクセスレピータ(FROM)と プライオリティーチャンネル	5-3
DRスキャン時のスキップ設定	7-28
DRスキャンでレピータを探す	6-18
DRスキャンとプライオリティーチャンネル	5-3, 5-17
D-STAR®運用時	18-2
D-STAR管理サーバー	6-6
D-STAR管理サーバーで識別登録をする	7-35
D-STAR®とは	6-3
D-STAR®の楽しみかた	6-2
DTCS極性	12-10
DTCSコード	12-10
DTCSコード/極性のデータ設定	13-17
DTCSコードスケルチ機能とは	13-10
DTCSコードを設定して、交信するには	13-10
DTMFコードの送出のしかた	13-7
DTMFスピードの設定	13-8
DTMFについて	12-38
DTMFメモリー機能の使いかた	13-6
DTMFメモリーの書き込みかた	13-6
DUP/トーン設定について	12-10
DV CSQLコードの設定	13-17
DV MYコールサインデータ	13-18
DV RX コールサインデータ	13-18
DV RXステータスデータ	13-19, 13-21
DV RXメッセージデータ	13-18
DV TXコールサインデータ	13-18
DV TXメッセージデータ	13-18
DV自動検出機能について	7-11
DV設定について	12-35
DV同時待ち受けについて	7-18
DVメモリーについて	12-33
E	
EMR機能の運用	7-9
EMR信号受信時の音量を調整する	7-9
F	
「FROM」の各種設定方法	6-16
G	
GPSアラームを設定する	8-36
GPSが受信できているか確認する	8-2
GPS自動送信	8-41, 12-29
GPS自動送信の設定	8-41
GPS情報(天空図)を確認する	8-12
GPSセンテンス	12-25
GPSセンテンスの設定	8-27
GPS送信モードに切り替えるには	8-13
GPSデータをGPSメモリーに新規登録する	8-29
GPSの運用について	8-2
GPSの機能を活用する	8-29
GPSの送信(D-PRSとNMEA)	8-13
GPSメッセージの設定	8-28
GPSメモリー	12-28
GPSメモリーについて	8-29
GPSメモリーやGPSアラームを変更する	8-9
GPSメモリーを移動する	8-35

さくいん

GPSメモリーを削除する	8-34
GPSロガー	12-29
GPSロガー運用時	18-3
GPSロガー機能の使いかた	8-38
GPSロガーの使用手順	8-38
GPSロガーをONに設定する	8-38

H

HM-207(リモコンマイク)について	1-7
---------------------	-----

M

MAINバンド/SUBバンドの選びかた	2-3
MAINバンドとSUBバンドの表示切替	8-9
MAINバンドを切り替えるには	2-3
M-CHに記憶できる内容	3-2
M-CHを指定して書き込む	3-5
M-CHを指定せずに書き込む	3-5

N

NMEAデータの送信	8-27
NMEAの場合	8-8

R

RPT?	6-15, 18-2
RS-MS1AをGoogleのPlayストアからダウンロードする	15-11
RX>CSスピーチ	12-37

S

SDカードについて	9-2, 12-50
SDカードに保存した設定データを本製品に読み込ませるには	9-7
SDカードに保存できるデータについて	9-2
SDカードの空き容量、録音時間を確認する	10-8
SDカードの階層について	9-8
SDカードのデータをパソコンにバックアップする	9-8
SDカードの取り付けについて	9-3
SDカードの取りはずしについて	9-4
SDカードを取り付けるとき	9-3
SDカードを取りはずすとき	9-4
SSID	12-18

T

「TO」の各種設定方法	6-21
TSQL周波数	12-10

U

UR?	6-15, 18-2
UT-133の取り付けかた	15-5

V

VFO周波数とプライオリティーチャンネル	5-2, 5-4
VFO周波数とメモリー/バンクスキャン	5-2, 5-6
VFOスキャン	4-2
VFOスキャンとプライオリティーチャンネル	5-2, 5-8, 5-9
VFOスキャンとメモリー/バンクスキャン	5-2, 5-11
VFOスキャンの操作	4-5
VFOモードのスキャン	4-5
VFOモード/メモリーモード/コールチャンネルモードにするには	2-9
VOX感度の設定のしかた	15-8
VOX機能の詳細設定について	15-9
VOX機能の使いかた	15-8
VOX機能の設定のしかた	15-8

あ

アイコムヘッドセットについて	15-10
相手局が表示される順番を並べ替える	7-33
相手局コールサインの新規登録	7-31
相手局コールサインを削除する	7-33
相手局情報の種類	8-4
アイテム局の場合	8-7
新しいSDカードを取り付けるとき	9-3
アッテネーター機能の使いかた	2-12
アッテネーター機能を使用する	2-12
アッテネーター機能を設定する	2-12
アマチュアバンドの運用	2-11
アラームエリア(グループ)	12-28
アラーム選択	12-28
安全上のご注意(必ずお読みください)	15-3

い

一時スキップ機能について	4-3
一時スキップ時間	12-11
一時スキップの指定のしかた	4-10
位置情報付きの信号を受信したときは	8-2
位置情報の自動応答について	7-14
位置情報の種類	8-13
位置情報の対応表	8-5
位置情報の表示	8-3
位置情報を確認する	8-3
一般仕様	16-2
いますぐ応答したい	6-11

さくいん

インポートのしかた…………… 9-10

う

運用バンドの切り替え…………… 2-4

運用バンドを設定する…………… 2-4

運用モード[VFO/メモリー/コールチャンネル]、
DR機能の切り替えかた…………… 2-9

え

エクスポートのしかた…………… 9-11

お

応答がないとき…………… 6-15

オートレピータ機能での交信…………… 11-2

オブジェクト局の場合…………… 8-7

オフセット周波数…………… 12-10

オフセット周波数の設定…………… 11-4

オフセット周波数のデータ設定…………… 13-17

音声ファイルを消去する…………… 10-6

音声フォルダ/ファイルを消去する…………… 10-5

音声フォルダを消去する…………… 10-5

音声メモ(録音/再生機能)について…………… 12-14

音量とスケルチを調整する…………… 2-2

か

各設定項目と初期値について…………… 12-3

各モードのスキャンについて…………… 4-2

簡易データ通信について…………… 7-15

簡易データ通信の操作…………… 7-15

き

気象局の送信について…………… 8-25

気象局の場合…………… 8-8

気象データが正しく入力されているか確認するには
…………… 8-25

気象データについて…………… 8-25

軌跡情報をパソコンで確認する…………… 8-39

機能設定について…………… 12-41

記録間隔…………… 12-29

記録間隔を設定する…………… 8-38

く

グリッド・ロケーター…………… 8-10

グループネームを登録するには…………… 8-33

クローニングについて…………… 13-11

け

ゲートウェイ通信…………… 6-3

ゲート越えCQとは?…………… 6-13

ゲート越えCQを出したいとき…………… 6-21, 6-22

ゲート越えCQを出そう…………… 6-13

こ

工事設計書の書きかた…………… 17-3

交信/受信履歴ログについて…………… 12-38

交信内容を再生する…………… 10-3

交信内容を録音する…………… 10-2

コールサインについて…………… 12-30

コールサインの設定を確認する…………… 7-18

コールサイン/メッセージのスクロール表示について
…………… 7-4

コールチャンネル(CALL-CH)の呼び出しかた…………… 3-4

「個人局」から設定する…………… 6-23

個別にレピータをスキップ設定する…………… 7-28

コマンド一覧…………… 13-16

コメント…………… 12-20

ご用意いただくものについて…………… 15-11

コンパス方向を変更する…………… 8-10

さ

再スタート時間…………… 12-11

再生用ソフトウェア…………… 10-9

最大ペアリング数について…………… 15-16

削除のしかた…………… 15-15

し

時間設定について…………… 12-50

自局設定について…………… 12-34

自局のコールサインをD-STAR管理サーバーに登録する…………… 6-6

自局のコールサインを無線機に登録する…………… 6-4

自局または受信した局の位置情報を保存する…………… 8-11

自動応答機能の使いかた…………… 7-12, 13-2

自動応答用の音声を録音する…………… 7-13

市販のSDカードを使ったPC間クローン…………… 13-14

市販のSDカードを使った本体間クローン…………… 13-11

周波数、送信出力を設定し送信する…………… 2-11

周波数とM-CH設定のしかた…………… 1-8

周波数を大きく動かすときは…………… 2-7

受信したコールサインを確認する…………… 7-6

受信周波数のデータ設定…………… 13-17, 13-19, 13-21

受信の基本操作…………… 2-10

受信部…………… 16-3

受信モード(電波型式)を設定する…………… 2-8

さくいん

受信モードについて	4-3
「受信履歴」から設定する	6-24
受信履歴からレピータ情報を登録する	7-27
受信履歴について	12-31
受信履歴の使いかた	6-10
受信履歴を削除するには	7-7
受信履歴を呼び出して確認する	7-6
出荷時のレピータリストについて	7-34
初期化のしかた	15-16
信号を受信すると	4-4
シンプレックス	6-8
シンプレックス通信	6-3
進路	12-23

す

スweepするとき	2-13
スキップ機能について	4-3
スキップ周波数の解除	4-7
スキップ周波数の登録	4-7
スキップ周波数の登録と解除について	4-7
スキップチャンネルの指定と解除のしかた	4-10
スキャンストップ時のビーブ音設定	4-4
スキャン設定について	12-11
スキャン中の[DIAL]操作について	4-3
スキャン中のスケルチ調整	4-3
スキャンについて	4-2
スキャンネームについて(VFOスキャン)	4-4
スケルチ遅延時間の設定	2-7
スピーチ機能について	2-16, 13-5
スピーチについて	12-37

せ

接続のしかた	15-14
切断のしかた	15-15
設定項目の選択方法	12-2
設定データをSDカードに保存するには	9-5
設定内容を変更する	12-2
設定ファイル名を変更して保存するには	9-6
設定をメモリーに書き込むには	6-34
選択されているM-CHIに上書きする	3-6
前面パネル(コントローラー)	1-2

そ

送信設定項目一覧	8-15
送信時のオフバンド表示について	11-5
送信出力とRFインジケータ表示について	2-11
送信するメッセージを登録する	7-2

送信のしかた	2-11
送信部	16-2
送信メッセージを選択する	7-4
「送信履歴」から設定する	6-25
送信履歴から設定する	6-20
その他について	12-54
その他のヘッドセット設定	15-10

た

ダイヤルスピーチ機能を設定する	13-5
「ダイレクト入力(RPT)」から設定する	6-27
「ダイレクト入力(UR)」から設定する	6-26
ダイレクト入力したコードを送出する	13-7
ダウンロードのしかた	15-11
タッチ位置の補正について	13-22
タッチパネルについて	iii

ち

地図ソフトウェアで自局の位置を確認する	8-26
チューニングステップ(TS)	2-6
チューニングステップについて(VFOスキャン)	4-3
チューニングステップを変更する	2-6
直接周波数を入力する	2-5

つ

通常運用時	18-4
通信ソフトウェアの設定について	7-15, 8-25

て

ディスプレイ設定について	12-46
ディスプレイ(タッチパネル)	1-3
データ拡張	12-19
データ端末をBluetooth [®] で接続する	15-12
デジタルコード	12-10
デジタルコードスケルチ機能	7-16
デジタルコードスケルチを設定する	7-17
デジタルコードスケルチをポケットビーブで 待ち受け受信しているとき	7-17
デジタルコールサインスケルチ/デジタルコードスケルチ 機能	7-16
デジタルコールサインスケルチを設定する	7-16
デジタルコールサインスケルチをポケットビーブで 待ち受け受信しているとき	7-16
デュアルでMAINバンドを入れ替える	2-14
デュアルワッチモードでのスキャンについて	4-4
デュプレックス(DUP)スキャン	4-2

さくいん

デュプレックス運用について	11-4
デュプレックスモードで交信する	11-4
デュプレックスモードの設定	11-4
電源のON/OFFと音量調整のしかた	2-2
電源を入れた状態でSDカードを取りはずすとき	9-4
電源を入れる	2-2
電波干渉についてのご注意	15-4
電波法についてのご注意	15-4

と

同時受信(デュアルワッチ)機能	2-14
登録したメッセージを削除する	7-5
登録商標/著作権について	i
トーンスキャン	4-2
トーンスケルチ機能	13-9
トーンバースト	12-10
特定局を呼び出そう	6-14
トラブルシューティング	18-2
取り扱い上のご注意	i
取扱説明書の構成について	ii

は

パソコンとの接続	13-15
パソコンにデータをバックアップする	9-9
パソコンの接続について	7-15
早送りするとき	10-3
バンクネームを入力する	3-13
バンクの割り当てかた	3-9
バンドスコープの使いかた	2-13
バンドの使用区別(バンドプラン)について	17-6

ひ

表示タイプについて	7-10
表示タイプの変更	3-14

ふ

ファイル情報を確認する	10-7
ファンクションメニューについて	1-5
複数のD-STAR [®] 機を同時に運用するとき	7-35
付属品について	i
プライオリティースキャンについて	5-2
プログラムスキップ	12-11
プログラムスキャンエッジ	12-11
プログラムスキャンの登録	4-11, 4-12
プログラムリンク	12-12

へ

ペアリングのしかた	15-12
ヘッドセットをBluetooth [®] で接続する	15-6
別売品一覧	14-2
別売品についてのご注意	14-2
別売品のケーブルを使ったPC間クローン	13-14

ほ

ボイス送信について	12-15
ボイス送信のしかた	13-3
ボイス送信用の音声を録音する	13-2
ホームCH機能について	2-15
ホームCH機能の使いかた	2-15
ホームCHビープ機能について	13-4
ホームCHビープ機能を使う	13-4
ホームCHを設定する	2-15, 13-4
ポジション局(移動局)の場合	8-6
ポジション局(固定局)の場合	8-6
本製品が搭載しているM-CH	3-2
本製品に同梱のCDについて	ii
本体部	1-6

ま

マイクゲインの設定	2-14
巻き戻しするとき	10-3
マニュアル位置	12-16

む

「無線局事項書及び工事設計書」への記載例	17-3, 17-4
無線局事項書の書きかた	17-3
無線局免許の電子申請方法	17-5

め

迷惑な設定していませんか?	7-36
メッセージ機能の使いかた	7-2
メモリー(M-CH/CALL-CH)への書き込みかた	3-5, 3-6
「メモリー管理」画面について	3-3
「メモリー管理」画面の階層	3-3
「メモリー管理」画面へのアクセス方法	3-3
メモリー管理について	12-11
メモリークリア(消去)のしかた	3-14
メモリースキャン	4-2
メモリースキャンの操作	4-8
メモリーチャンネル(M-CH)にバンクを割り当てる	3-9
メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた	3-4
メモリーチャンネルについて	3-2

さくいん

メモリーチャンネルの詳細	3-2
メモリー内容をVFOに転送して使う	3-7
メモリー内容を消去する	3-14
メモリー内容をほかのチャンネルへコピーする	3-7, 3-8
メモリーネームの表示について	3-14
メモリーネームを入力する	3-12
メモリーバンクスキャン	4-2
メモリーバンクスキャンの操作	4-9
メモリーバンクにM-CHを直接書き込む	3-10
メモリー/バンクネームの入力	3-12
メモリーバンクモードへの表示切り替え	3-11
メモリーモードのスキャン	4-8
免許申請について	15-2

も

モードスピーチ	12-37
目的別(新規登録に最低限必要な項目)	7-20
モニターのしかた	2-8
最寄レピータから設定する	6-19

や

山かけCQとは?	6-12
山かけCQを出したいとき	6-21, 6-22
山かけCQを出そう	6-12
山かけ通信	6-3

よ

読み上げ	iv
------	----

り

リセットについて	18-1
リンク設定のしかた	12-12
リンクネームの編集	12-13

れ

レピータが表示される順番を並べ替える	7-26
レピータ局の中継が必要かどうかを確認する	11-3
レピータ局を経由して交信する	11-3
レピータ周波数の設定	11-2
レピータ詳細表示について	7-30
レピータトーン周波数	12-10
レピータトーン/トーンスケルチ周波数データ	13-17
レピータに電波が届くか確認してみよう	6-9
レピータのグループネームを登録するには	7-29
レピータリスト	12-33

レピータリストから選択する	6-17
レピータリストに新規情報を登録する	7-21
レピータリストについて	7-19
レピータリストに登録できる設定項目一覧	7-19
レピータリストにレピータ情報を登録する	7-20
レピータリストのレピータ情報を削除する	7-25
レピータリストのレピータ情報を編集する	7-25
レピータリストを更新するには	6-32
レピータを使わずに通信しよう	6-8

ろ

録音	12-15
録音/再生設定を変更する	10-4
録音した内容をパソコンで再生する	10-9
録音内容を削除したい場合は	7-13
ロック機能の使いかた	2-12

わ

ワッチモードの選びかた	2-3
ワンタッチ応答キー	6-11

高品質がテーマです。